Vol.IV. JANUARY 15TH, 1900. No.1.

（一月十五日發行）

（每月一回定時刊行）

THE INSECT WORLD:

A MONTHLY MAGAZINE.

EDITED BY Y. NAWA.

GIFU, JAPAN.

昆蟲世界

（第四卷第壹册）　第貳拾九號

目次　（禁轉載）

PUBLISHED BY THE NAWA'S ENTOMOLOGICAL LABORATORY IN GIFU, JAPAN.

寄附物品受領廣告

一金壹圓也　東京市京橋區木挽町二丁目十四番地河岸通　ドクトル　川瀬元九郎君

一 comparative studies on the ecology of some chenopodiaceous plants collected in north africa and china. 一冊　東京市本郷區弓町一丁目八番地　理學士　伊藤篤太郎君

一おわぢ新聞（昆蟲記事記載）（二葉）　兵庫縣淡路國津名郡鮎原村　第二回全國害蟲驅除修業生　廣田孫爹君

半身肖像寫眞壹葉宛

山口縣　第一回全國害蟲驅除修業生　小田勢助君
愛媛縣　仝上　小林傳四郎君
島根縣　仝上　長瀬菊太郎君
岐阜縣　仝上　村雲孝一郎君
京都府　第二回全國害蟲驅除修業生　谷口鶴藏君
京都府　仝上　松本周馬君
大分縣　仝上　小原一策君
京都府　仝上　鎌田伊一君
福井縣　仝上　上田安太郎君
京都府　仝上　森久吉君

一木屑子　二種　橫濱市太田町一丁目　小林友三君

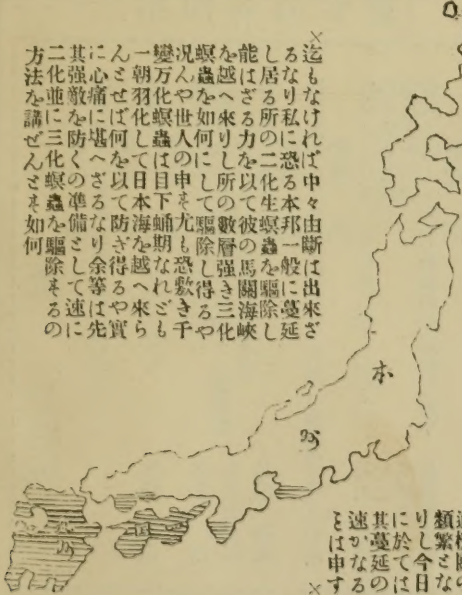
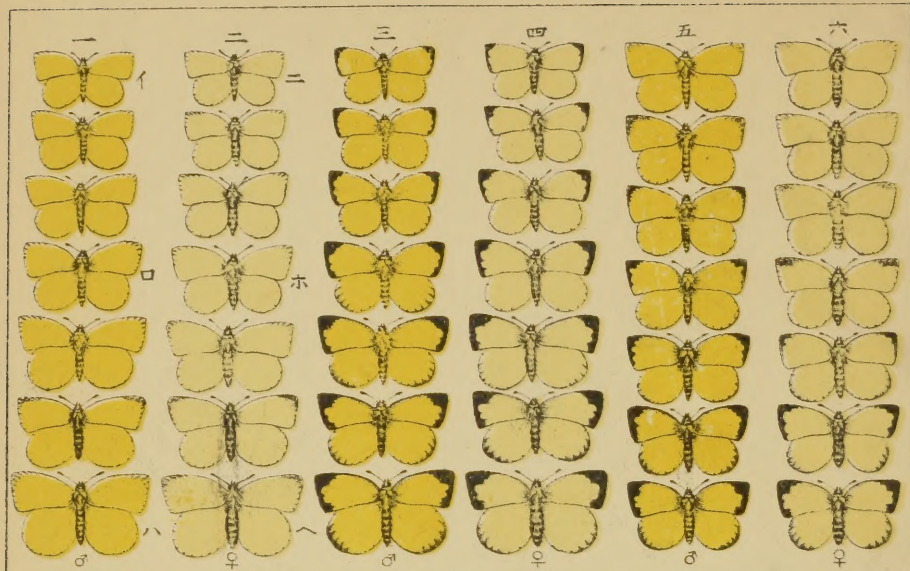
右當研究所へ寄附相成候に付芳名を掲げ其御厚意を謝す

明治卅三年一月　岐阜市京町　名和昆蟲研究所

恭賀新年

岐阜縣岐阜市京町
名和昆蟲研究所
所長　名和靖
助手　名和梅吉

明治三十三年一月一日

三化螟蟲は九州四國を始め山口、廣嶋、和歌山縣下に於て害を與ふることは誰も能く知る所にして其先發隊は已に愛知縣三河國に現はれたることは事實にして容易ならざることなり今若し詳細に調査せば先發隊の尚深く進みて廣く蔓延し居るやも斗り難し假令目下は他に蔓延し居らざるも交通機關の頻繁となりし今日に於ては其蔓延の速かなるをは申す×迄もなければ中々由斷は出來ざるなり私に恐る本邦一般に蔓延し居る所の二化生螟蟲を驅除し能はざる力を以て彼の馬關海峽を越へ來りし所の數層強き三化螟蟲を如何にして驅除し得るや況んや世人の申す尤も恐歎き千變万化螟蟲は目下蛹期なれども一朝羽化して日本海を越へ來らんとせば何を以て防ぎ得るや實に心痛に堪へざるなり余等は先其強敵を防くの準備をして速に二化並に三化螟蟲を驅除するの方法を講ぜんこそ如何

Terias multiformis, H. P.　キテフ

祝辭

◎新年を迎へて昆蟲世界に望む

東都客舍　佐藤順造

昆蟲世界足下、鳳紀こゝに新たに天地の風物其の面目を一新す、昆蟲の世界豈に獨り舊態に依然たる可けむや、想ふに昆蟲の世界は今や一大革新の機に迫れるなり、明治三十三年は昆蟲世界第二の維新を成就す可く、即はち足下は想ひを此所にやり精勵激奮以て責を全身に背負ひ倍々斯學界の燈明となりて湮波渺漠たる洋海の裡に浮泛せる幾多の農民を援護するの義務あることは今更に言はすもあれ、乾燥無味なる萬有理學の上に於て所謂日本應用昆蟲學てふは足下の專賣物にして、而かも十九世紀の學術應理界に於て一層出色の速度を以て發達せる者は即ち足下の特許物たる害蟲驅除並に豫防の法なり、蓋し足下は第二の維新を成就するに當り其の序幕を開く可き使命を帶べるなり、希くは足下、泰西の學理を摸倣し取捨して吾か國の事情に適合せしむる近者の陋弊に傚はす、足下の初一念に則り專ら日本の新材料によりて未明の實理を發揚し、徒らに机上の學理に流れす、實驗を經となし學理を緯となし甚靈甚妙の間に於て、最も實着に最も眞摯に讀者と共に昆蟲學の理想を研究し以て日本應用昆蟲學の規矩を創り、而かも足下の一擧手一投足は之れ國家經濟の一大原動力

たるを想へ、多忙多劇なる國家は足下と倶に生死を一にせん、今や萬象相甦ぎ福祉相輻まり竹翠松蒼長へに千門の萬年を表はす、吾輩こゝに元朝の祝辭を呈し迎新の賀儀に代へ、以て聊か足下の爲めに望む處あらんとす、請ふ足下幸に自愛自重せよ、（明治三十三年一月二日誌）

論説

◎害蟲驅除は恰も戰爭の如し

名和昆蟲研究所長　名和靖

昨明治三十二年一月の新刊誌上に於て害蟲驅除の前途如何と題して少しく述ぶる所ありしに果して三十二年に於ては豫期したるよりも昆蟲學の基礎を强固にせり今其二三の實例を示せば松村農學士の昆蟲學研究の爲三年間獨逸國へ留學せらるゝと外山農學士の大學院に於て昆蟲學を專攻せらるゝとは實に本邦昆蟲學基礎の强固となれる實證なり此他幾多人士の昆蟲學に意を注げるものを生じたるやを知れり其證として新聞雜誌に掲載せられたる昆蟲記事の多くして然も見るべきものあればなり又政府は農事試驗本場に於て害蟲研究の一科を新設し然も斯學に熟達の士を聘して其任に當らしめ尚又各府縣の農事試驗場にても害蟲調査に從事する所多きに到れり其他全國各所に於て害蟲驅除講習會を開設して養成したる人物は實に其數少なからず現に當研究所のみにても都合十四回にて實

に六百數十名に達せり尙各所に昆蟲研究會を設けて互に智識を交換する等昆蟲學思想は慥に著しく發達進步したるを見るに足れり

以上は三十二年中に於ての出來事の重なるものにして是より推測する時は本年に於ける昆蟲學發達進步の程度如何を想像するに足るべし

抑々害蟲驅除は昆蟲學の基礎を定め幾多の人物を養成して然る後漸次に普及するものなれば到底一朝一夕に良効を奏すること能はざるなり是迄の害蟲驅除法は恰も軍法を知らざる指揮官が烏合の兵を以て熟練したる強敵と戰爭するが如し連戰連敗は素より其所なり甚しきに到りては敵と身方との區別なければ敵を斃す爲に誤りて身方を斃し大不利を來すこと往々是れあり是即ち害蟲と益蟲との區別を知らざれば益蟲を殺したる爲驅除するに從ひ益々害蟲の增殖したる實例も多々あればなり要するに本邦にては目下害蟲に對しては驅除即ち實戰の時期にあらずして專ら軍隊組織に注意して先づ指揮官となるべき將校を養成し其將校は幾多の部下兵士を常に養ひ置き策戰計劃を爲し然る後始て實戰に臨み勝敗を爭ふを以て順序なりと信ず農家諸君よ速に軍隊組織を完全にして強敵たる害蟲軍を全滅せしむるの策戰計劃を爲せ余は熱心なる諸君と共に一日も早く其組織計劃に尽力するの決心なればなり依て茲に新年の初刊に於て希望を述ぶること斯の如し

◎農界諸士及當業者に警告す（德島縣下に於ける三化螟蟲の大發生）

農商務省技師農學士　小貫信太郎

三化螟蟲の被害の恐る可きと及驅除豫防の困難なるは已に諸君の熟知する所ろなり然れとも幸に九州地方の特產として限られたるか如き狀況なりしか近年に至り山口縣下に該蟲發生し本地に漸々

蔓延の兆候あり決して油斷すべきに非ざると思考せしに彼れは遂ゝ早くも徳嶋縣ゝ大發生をなし五百余町歩に被害を逞ふし九州地方に演出せると同樣の慘狀を呈するに至れり且本縣は舟路四方に發達し而して其發生地は海岸なるを以て傳播の恐なきにあらず殊に大坂、和歌山附近は大に警戒するの必要あるをみる若しこの際浮塵子の大被害に懲りたるの後本州全地に於て三化螟蟲の蔓延をみる時は其豫防驅除の困難なる到底浮塵子の比に非ざるを以て我輩農家は費用と奔命に疲れ復た起つ能はざるに至らん依て爰に同地に起りし狀況及發生の概要且同地に於て施行したる驅除豫防を逃して諸君の記憶を喚起し將來不虞の變に備へんとす乞ふ諸君此意を了し左記諸項を讀まれんとを

一被害地地勢及反別　同被害地は徳島縣廳を距る南方凡四里許東方海に面し三方は山を以て開たる平原にして本郡の主なる米產地なりとす其被害は山に沿ひたる方面に甚だしく海岸に近つくに從ひ漸々稀薄となれり又其面積は三ヶ村に跨かり立江村を中心として坂野、羽ノ浦の一部に及ぶ今其被害反別及水田陸田ゝ於ける反別を擧ぐれは

立江村大字立江櫛淵　四百〇六町二反四畝七歩
　內　陸田　二百六十町　水田　百四十六町二反四畝七歩

坂野村大字大林　六十一町歩
　內　陸田　十八町　水田　四十三町

羽ノ浦村大字宮倉　七十町二反七畝二十九歩
　內　陸田　十九町五反二十五歩　水田　五十町七反七畝四歩

總計　五百三十七町五反二畝六歩

備考　陸田とは二毛作地水田とは一毛作にして冬期間水を溜め置き深さ膝を沒するの泥濘地なり又「アゲハル」田と稱して水田と陸田の中間地ありこれは陸田の部に入れて算出せり

二被害狀況及被害の輕重ュ依り區別せる反別

右地方被害の原因の三化螟蟲を主とし內に多少の二化螟蟲を交ゆ加ふるュ廿年同地は再三再四水害を蒙りたるを以て無害の地と雖とも禾實十分に豊熟せす從て籾摺歩合減少せりと云ふ螟蟲の害たるや直ちに稻心を蝕害するを以て稻は綠葉を帶ひて抽穗するも穗は白色に變して萎凋直立被害の甚たしき地に於ては一禾の結實なく風に戰くの狀實に慘然たるものなり又被害輕き地にては方言「クルマザシ」と稱し所々に一團となり枯穗の林立するを見るこれ蟲の數少く其產卵の孵化したるもの殆んと團体となりて田面の所々ュ害をなしたるものとす今又其被害の程度を撿するに水田に最も甚たしく陸田之れに次けり其原因を察するに水田耕種の狀況及水害に依り然るか如し何となれは水田は土地冬季と雖も儲水するを以て卑濕にして空氣の流通惡く且多く石灰を濫用するの弊あるを以て稻の生育不完全にして莖葉柔軟なるに加ふるに數々水害を蒙り全く水に浸さるゝと四五日ュ及べるとありしを以て適々陸田に於て水のために浮ひ出たる蟲は流れて水田に入り両々相合して水田に於て最も慘狀を呈したるならん今其被害程度ュ於ける反別を調査して左の表を得たり

被害劇甚にして收穫殆と皆無と稱す可き反別

立江村　七十八町一反四畝歩余　坂野村　十八町五反歩　羽ノ浦村　一町歩

被害五歩以上に及べるもの

立江村　二百〇五町五畝歩余　坂野村　三十町歩　羽ノ浦村　四十八町九反九畝余

被害五歩以下の地

立江村　百二十三町四畝余　坂野村　十一町九反　羽ノ浦村　二十町二反八畝歩余

計
- 皆無反別　九十七町六反四畝余
- 五歩以上反別　二百八拾四町四畝余
- 五歩以下反別　百五拾五町二反三畝余

三被害地に於ける稻の種類及耕種の梗概（驅除に關係あるを以て揭出す）

現今栽培する稻種は兵庫神力と稱する晩稻最多く殆んど全部を占むると云ふ可し其他晩稻にて縣令コケ十松島等は多少作れるものあれとも頗少數なりき且これらは神力に比して猶一層蟲害に罹る甚たしきか如し中稻は多賀祇園關取權十等と稱するものにして其作付反別甚少なく當時已に收穫し終れり被害は晩稻に比して少しく輕しと云早稻は權八と稱するものにして其作付又多からず蟲害又最も少なしと云當地播種は頗る早くして四月五日頃に行ひ移植するは五月二十日頃なり肥料は水田に於て平均堆積十荷〆粕又は鯡粕六七貫人屎（濃厚なるもの）二荷及石灰少きは二十貫多きは六十貫を二回或は三回に使用す（從來石灰濫用甚たしく石灰底をなすの田往々あり）陸田にありては猶少しく多量の鯡粕を用ゐ石灰を用ゐざるもの多く用ゆるものは二十貫內外なり收獲は早稻は九月上旬中稻は九月下旬十月上旬晩稻は十月下旬なりとす然して螟蟲の害あるは九月中下旬より十月に至り漸々顯著となるものなり

四三化螟蟲の性質及發生經過の梗概　この事は既に諸書に揭載し且農事試驗成蹟第十三報（九州支場の部）にも揭載しあれとも今爰に參考のため其梗概を記載す三化螟蟲と稱するも昆蟲類螟蛾科に屬する小蛾にして黃白若くは帶褐色を帶ひ羽を屋根形に疊み其長凡五分余なり右小蛾は春期五六月の候第一回の發生をなし卵子を稻葉に產付し（多くは葉の表面に產付し百余個橢圓狀に一塊をなし黃白色の毛を以て密に覆はる苗床にありては葉端を下ると凡一寸許の處に多し）凡そ一週日を經て孵化し黑色の蚼となり直ちに稻莖に蝕入し（蛻皮後は淡黃色にして背面綠色を帶ふ）七月中旬に至り老熟し長七八分に達し淡綠色の蚼となり稻の根部の中心に蝕入し繭を作り其中に熟し白色の蛹と

なる右の蛹は七月下旬乃至八月上旬化して再び蛾となり產卵し五六日を經て孵化し直ちに稻莖に蝕入すこれを第二回の發生とす今回出てたる蚄は八月下旬及九月上旬に至り老熟して蛹となり數月を經て化蛾し產卵す其卵子は復直ちに稻莖に蝕入して害を逞ふすこれを第三回の發生となす現今の被害は即ち第三回の發生のため生したる者なりとす且この螟蟲の性質たるや一莖必す一頭を藏め穗の劔葉の際より蝕入し直ちに抽穗せる莖の下部即第一節を蝕す故に九月上中旬に反て抽穗せるも漸次白色となり一粒の結實なきに至るこの蚄は日を經に從ひ二節より三節と漸々下部に降り收穫の期節に際して多く莖の最下部即ち根の中樞に降りこの部を蝕害し爰に繭を營み越冬の用意をなす被害當時の田面を撿するに十中の八は已に根部に下降し其餘發生の後れたるもの間々莖中に潜伏するをみる斯の如き狀態なるを以てこの蟲は多く稻の苅株中にありて越年しよく霜雪を凌ぎ又水濕に堪ゑ翌年春期に至り化蛹し五六月頃出て第一回の發生を營むものとす今便宜其發生の期及蕃殖の度を表示すれは左の如し

第一回發生(蛾)五月 上旬より六月中旬に至り其最盛の期を五月下旬より六月上旬とす

第二回發生(蛾)七月上旬より七月下旬に至り最盛の期を七月中旬とす

第三回發生(蛾)八月下旬より九月中旬に至り最盛の期を九月上旬とす

蕃殖表

第一回一塊の卵子を仮りに百個と仮定する時は右卵子は百個の仔虫を生す可し又便宜のため其五十を雄とし五十を雌とす

第二回第一回に發生せる五十雌蛾は各百個の卵を生むを以て五千個の仔蟲を生す又便宜のため其

半を雄其半を雌とす

第三回二千五百の雌は各百個の卵を生むを以て二十五萬個の仔蟲を母生し一莖一頭を藏むるを以て二十五萬本の穗を枯し終る可し

この蟲は二化螟蟲に比するに發生の度數は單に一回の增加なるも個体發生の增加の度は實ゟ非常なりこれ實に三化螟蟲の二化螟蟲に比して恐る可き点なりとす

右九州支場の成蹟ゟ依るものにして德島地方ゟ發生せしものに比すれは其時期に於て多少の相違なきを保せすと雖とも右地方は今回初期の發生なれば調查するに由なきを以て右に依れり

五、該地方に於ける三化螟蟲の發生歷史　同地方に於て今回始めて三化螟蟲なりしを知りし如き狀態なるを以て其歷史の如きは茫として知る可からず然れとも本年不意に發生せしにあらざるは疑なき事實にして已に兩三年或は其以前より當時の被害の輕き地俗稱「クルマザシ」の如き被害は已に認め居りしも敢て意に關せざりしと云ふ當時若し注意し豫防驅除に從事せは今日の如き大慘害を呈するに至らざりしならん遺憾なりと云ふ可し又この害蟲は九州地方より輸入し來りしか當地の特主なりしか未た考へ得す

附、當村を去る北方二里半許隣郡勝浦郡勝戸村に於て明治十七年大に螟蟲の害を蒙り其原因を詳にせざりしか當地の老農(故人)田村甚四郎其蟲害なるを撿定し株を燒却し種類を早稻に變更せしに依り其害を絕てたりと云ふ右口碑は當時同村撿視の際聞く所なり然れとも果して三化螟蟲なるや或は在來存在する二化螟蟲の發生甚しきの致す處なる哉詳ならす遺憾なりとす但當時撿視する所に依ればこの地三化の害を認めたりき　（未完）

◎昆蟲の越冬に就て

岩手縣氣仙郡小友村　特別通信委員　鳥羽源藏

千山蒼翠として、空を摩し、萬水汪洋として、沃田に灌ぎ、涼風萬斛、際涯なき青田に、綠波を漲らし、果園、菜圃花滿ち、葉茂り、將に來るべき穰々たる禾穀、累々たる黃果も、一朝害蟲の繁殖に、好適せる氣象に遇はんか。浮塵子の巨萬、群集塵芥の如く。飛蝗の群飛、翅音殷々、日光を蔽翳して、暗憺たらしめ。夜盜蟲の群隊、菜圃に暴威を恣にし。蛄蟖の徒黨、樹葉を蝕盡して、地上に糞粒を積み、螟蟲の慘害の如き、葉蟲の貪食なる、蚜蟲、介殼蟲の增殖力旺なる、爲めに、山に翠樹なく、田圃、忽ち茫々として、寸草を止めざるに至らん。好し、縱令、斯る慘事の年々現出するなしと雖も、每歲禾田、綠圃に就き、害蟲の如何に生息跋扈するかを窺はゞ、蓋し思ひ半に過ぎん。されど、時候、變轉、世は日に、冷氣を加へ、秋風、寂莫、滿野、荒涼たるに至れば、喞々たる蟲聲も過ぎ行く短日と俱に、衰へ、幾億の蟲族忽然として、跡を絕ち、前日の觀を止めざるに至る。嗚呼何ぞ盛衰地を換ふるの早き、之れ翅あるもの天に飛び、脚あるもの地中に遁逃せしによるか、果た、强風暴雨に堪へずして、死滅せしものか、之れ世人の疑ふ所ならん。况や、天寒く氷雪地を埋め、北風凜冽として、衣を重ね、火を擁するも、皮膚粟を生じ、爐邊、尙、筆頭氷りて、利錐の如き嚴寒をや。如何に、頑强の昆蟲と雖も此際野外に在りて安全に越冬するものあるべしと、思はれざらん。故に、或者は、一旦、昆蟲は滅息して後、春陽來復と供に、氣候の温熱に因り、忽然湧出するものと、思ふもの多きも理りなり。害蟲果して、嚴冬に絕滅して、殘黨なかるべきか。換言すれば、彼等の相續者絕え果つべきか。これ吾人の世人に向て、精緻の注意を以て、昆蟲越冬

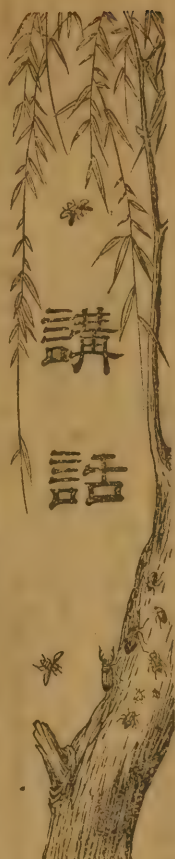
の狀態、如何を觀察せられんことを、希望するものなり。
夫れ昆蟲は、種屬多く、員數無算至る所の地に、發生せざるなく、又其徒黨の氣候の激變、及び生物等のため、生活を沮遏せられ、生命を奪却せらるゝなり。然れとも、中には、風吹かば吹け、雪ふらば降れ、食を絶ち、雨に打たるゝも、尙よく、其辛酸を忍び、越冬して、次年に至り子孫を繁殖せしむるもの意外に多く、又其越年の方法も種々ゝして吾人は、調査發見毎に、驚嘆の外なきなり。且、昆蟲の越冬するに當りては、卵子及び蛹の態にてするは、怪むに足らざれども蠢爾たる幼蟲或は成蟲にして、絶食蟄居するものあるに至りては、奇とせざるを得ざるなり。今左に、幼蟲の儘、越冬するものを記さん。

エゾシロテフ、（苹樹、梨）　カレパテフ、（梨、桃、苹樹）　マツケムシ、（松）　ゴマダラテフ、（桑）
キンケムシ、（桑、苹樹）　ツノケムシ、（梨、苹樹）　チドリコテフ、（桑、薊）　カキノイラムシ、（柿）
クロロ、（苹樹）　ナシノホシケムシ、（梨、苹樹）　コスカシバ、（櫻桃）　ブダウスカシバ、（葡萄）
チヤミノムシ、（茶、柿）　ピストルミノムシ、（苹樹）　ツツミノムシ、（苹樹）　ドロツトムシ、（稻）
エダシヤクトリ、（桑）　シンキリアチムシ、（苹樹）　ゴマダラアチムシ、（大、小豆）　ホシアチムシ、（十字科植物）
ズ井ムシ類、（稻、粟、藍）　マメシンクヒ、（大豆）　アズキノサヤムシ、（小豆）　リンゴハマキ、（苹樹、梨）
バクガ、（米、麥、粟）　コクガ、（穀類）　モクトガ、（葡萄、桐）　コメノクロムシ、（粉類）
ツヽハマキムシ、（苹樹）　リンゴメムシ、（苹樹）　ナシノハマキムシ、（梨）　クハノスキムシ、（桑）
ハナセセリ、（稻）　ハチノジ子キリ、（甘藍、亞麻、豌豆）　タマナ子キリ、（甘藍）　リンゴノヒメシンクヒ、（苹樹）
モヽシンクヒ、（桃）　ナタ子ツヾリムシ、（菜種子）　オホアチムシ、（稻）　モヽノヒメシンクヒ、（桃）

▲括孤内に重なる被害植物を示す

以上は、鱗翅目に於ける一部の調査のみ、他の昆蟲類の幼蟲ゝして、越冬のもの又、夥し、而して越冬の幼蟲には、カキノイラムシ、マメシンクヒの如く翌年に至り繭内にありて、餌食を求めず暖氣に遇ふて、蛹化するものあれども、多くは然らずして、成長を遂るため植物を咀嚼するを以て、

被害僅少ならざるのみならず、其子孫の繁殖を續くるものなり。試みに、寒天郊外に出て、果樹の粗皮に於ける罅隙、或は小芽を被ふ鱗片、若くは小枝との間、或は枯葉の合綴せるもの、或は枯葉の小片等の附着せる個所に就き、調査すれば、種々の幼蟲の潜伏せるを認めん、能く撿査せんには、柄付針にて枝條各凹所の附着物を起し、善良なる廓大鏡を以て、熟視すれば、實に細微の芽蟲、若くは葉捲蟲の幼蟲は、繭様被覆物内に蟄伏せるを認知せん。斯く害蟲は、冬季に其適所を求め、潜蔵するもの故、果樹の棚とせる竹木、若くは結ひ上けたる繩等には、種々害蟲の潜伏して、嚴寒の威を避くるなり。されば春光融々として、風和かに、樹草新緑を發するに當りては、既に蟄所を出て、嫩芽に蠹入し居るものなり。之れ農民の早春澎大せる梨若くは、苹樹の花芽を点撿するに當り、逸早く芽蟲の肥太せるを認め、自然に芽中より生ぜしものと、思惟するもの多き所以なり。此季節には、母蛾の飛揚を見るなり、又卵子の孵化し得る暖氣と思はれざるに、既に長育せる幼蟲を芽毎に見ては、湧出せしかと思ふものあること、道理なれ。躶体柔軟なる幼蟲にして、尚、安全に嚴寒を凌ぎ得るものある前述の如し。卵子蛹の有様にて、越年するもの實に普通とす。モンキテフ、ヒメアカタテハ、クジャクテフ、ヒオドシテフ、ルリタテハ、シーモンタテハ、ハナセヽリ、カラムシテフ、ゴマダラアヲムシ、アヅキノサヤムシ、アハヨトウムシ等の如き、多くは佳麗の羽翅、見るかげもなく汚損するも、絶食よく翌年に及ふは、又驚くべし。以上は又鱗翅目の例のみ、他の害蟲及ひ益蟲の幼蟲併に成蟲にして、越冬するもの又多し。害蟲の冬季蟄伏するや、朽木瓦石の間に潜み、竹木の空洞罅裂に蟄し、小孔に隱れ、醸温物に集り、或は落葉下、若くは砂礫の間隙に蟄伏するあり。或は土中、塵埃若くは蘚苔中に在るものにして、又水棲昆蟲の越冬も少なからす。故に害

蟲驅除を講ずるの士は、能く昆蟲の習性を究め、其越年性を利用して、驅除せざるべからず。かの釀温物に誘集し、或は潜伏の便を與へ、或は秋季若くは冬期に耕土を曝露し、潜所を拓き、鳥類に啄食せしめ、或は凍殺を計り、果樹の枯枝贅枝を剪除する、又蟲害の豫防となる事多し、盛夏炎々たるのとき、驅蟲のため田圃に狂奔し、東西に良劑を探すの煩勞をなして、而かも、被害を恢復する能はざるよりは、害蟲の弱點に乘じ、其繁殖瀰蔓せざる以前に於て、相當の處置を施すに如かず。約言すれば、一日の豫防は、十日の驅除に優るなり。諸士よ豫防を世人に鼓吹して、農民の星を戴き、月を踏みて、幾多の勞力、幾多の施肥をなせし、田圃果園をして、害蟲飼育場の觀を呈せしむべからず。

◎昆蟲標本は多數の比較を貴ぶ（第一版圖參看）

名和昆蟲研究所長　名和靖

昆蟲標本を所々の學校等にて見ますると往々一種一頭のことがござります、是は誠に不完全にて到底標本の價値はありませぬ、なぜなれば其一頭は雄蟲やら雌蟲やら別らぬ、假令別り居りても雄蟲と雌蟲とは大抵相異の點がござりますゆへ兎も角一頭の標本は不完全であります、然らば雌雄二頭の標本なれば完全なるかと申すと是又完全とは申されませぬ、何分昆蟲を澤山採集致しますと形狀

（明治三十年九月十日內務省許可
明治三十年九月十四日遞信省認可）

昆蟲世界第參卷 自第拾七號至第貳拾八號 総目錄

◉口繪

◉祝辭

◉論說

◉講話

◉問答

◉雜報

（明治三十三年一月十七日印刷並發行）

岐阜縣岐阜市今泉九百三番戶ノ二

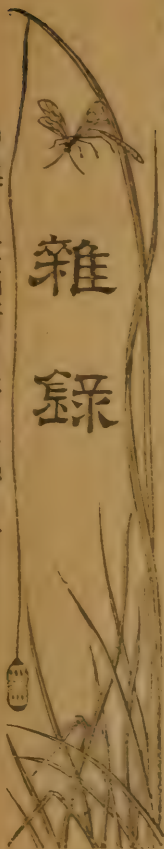
編輯者　岐阜縣山縣郡岩野田村百廿二番戶　桑原貫之助

大小色澤等に種々異なるものあるを見出します、若し詳細に調べますれば恐く百頭が百頭千頭が千頭同一のものはないのであります、又場所を替へ時期を替へて採集致しませば其差異も自然大なるのです、故に昆蟲標本は成るべく丈澤山採集の上詳細比較して少しにても異点あるものを多く集め置くを尤も完全なる標本と申します、普通にては完全なる標本を集むることは種々なる点よりして六かしければ成るべく平均したる雌雄二頭の標本を以て滿足せねばならぬ、今茲に一例を示して說明致します、第一版圖に現しましたは荳科植物に生じまする所の尤も普通のテフにて春より秋に至る迄何れにても得らるゝ所のキテフ(黃蝶)と申す種であります、上欄の(一)の行は春季發生致しまする雄蟲にて(二)の行は同じく雌蟲であります、今雄雌蟲とも數百頭採集致しましたる內より尤も小形のものを上部に大形のものを下部に其中間大のものを漸次中間に配置したるものでござります、故に上部より下部に到るに從ひ漸次大形となり(イ)と(ハ)と(ニ)と(ヘ)とは其形狀に大差を生じ(ロ)又は(ホ)を以て平均と致します、箇樣に差異のある種なれば今若し極端を論ずれば餘程面白きことがござります、茲に(甲)(乙)(丙)(丁)の四人の昆蟲採集家あり各雌雄二頭の標本を所有して(甲)は雄小雌大と申せば(乙)は正反對にて雄大雌小を稱へ(丙)は雄雌とも同大と申せば(丁)は直に賛成致します、依て爭ひの結極下欄に示す通りの標本を互に集め合すれば案外にも(丙)と(丁)とは大小に差を生じまして(甲)(乙)(丙)(丁)四人とも同樣にあらざることを實際に於て知ります、然しながら是は何れも間違ひにはあらざるも遇ま〳〵極端なる標本を以て論じたる結果であります、故に頭數少き標本にては注意の上勉めて平均大のものを撰むが宜しいのでござります、又上欄の(三)の行は夏季發生致しまする雄蟲にて(四)の行は同じく雌蟲であります、夏季發生の分も春季發生の分

と殆んど同樣でありますけれども只著しく異なる所は春季の分には翅の端に殆んど黑色を見ませぬ然しながら夏季の分には著しく黑色を見るのであります、故にキテフの春生夏生を區別致しまするには翅端の黑色如何に依て判斷するのであります、此黑色で全く春夏生の區別が出來得るかと申せば澤山の內より中間物が現はれまして中々區別が出來ませぬ今茲に春夏生の平均大のものを撰みて(五)及び(六)を現します、上部の三頭は何れも春生の雄雌にして第一は翅端より黑色の尤も少きもの第三は尤も黑色多きものにて第二は其中間のものを撰みました、然るに下部の四頭は何れも夏生の雄雌にして第一は翅端に黑色の尤も少きものより漸次黑色の多きものを配置しました、斯く配置しますれば何時の間にやら春夏生の區別なく漸次翅端に黑色を增すのであります、大体に於ては翅端の黑色の多少に依て區別は出來得るも詳細に到りましては中々六かしきことであります、前申す通り少數比較の標本は往々非常なる誤りを世間に傳ふることがござりますれば成る丈け廣く研究せねばなりませぬ、又廣く研究致せば隨分面倒のことが現はれまする代りに愉快のこともありまして知らず識らずの中より天然の微妙なることをも了解するに到ります、尙種々述ぶることはござりますが他の例を擧げて他日詳細述ぶることに致します、

雜錄

◎桑の金蛄蟖の寄生蟲に付て

靜岡縣濱名郡蠶業學校內　特別通信委員　岡田忠男

桑樹の一大害蟲なる金蛄蟖は其狀醜惡にして身体に長毛を密生し若し過て人身に觸るゝ時は疼痛を感ずるを以て農家が是れを驅除することも自然等閑に附するが故に早春より秋末に至る迄での被害幾何ぞや計るべからざれども茲に一つの天然驅除のありて彼れ金蛄蟖の幼蟲に寄生して之れを斃し桑樹の被害を暗々裡に防禦するは之れ生物の生存競爭にして体醜惡なるものにても之れを害し之を害ふて以て權衡を得んとするもの一つは即ち寄生蠅にして一つは即ち寄生蜂なり是れ余が金蛄蟖研究中の賜にして今秋の如きは此兩種の効力彼れ害蟲の繁殖を防害したる傾預りて大なりと云ふべし依て左に兩種の形狀を述べんとす

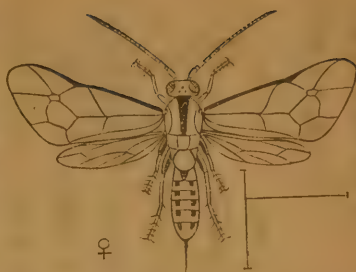
寄生蠅　此蠅は普通の家蠅より少しく大に雌にありては体長三分翅の開張五分二厘にして其色淡灰色を呈し觸角は三關節にして一、二の關節は圓く短く三節は長大にして其三節の根部より三節と同長の太さ毛一本を生ず兩複眼の間に赤色の單眼三箇を有す然れども其前よある一箇は粗毛の間にあるを以て捜索に困難なり胸背には淡黑色の縱線五線を有し後胸部には粗毛を生ず腹部は四關節より成りて一節は後胸部の下部に隱れ他の三節は外に顯れ各關節には太き粗毛を生ず翅は上圖の如く透明なり跗節は四節にして第一は長く第二、三、は次第に短く第四節は少しく長く其先に二本の爪と肉樣のものとを供ふ足部にも亦毛を生ず雄蟲にありては身体の各部少しく小にして腹部は細長なるのみ

寄生蠅の圖

右の寄生蠅は春期より桑園内を飛翔せり而して如何にして寄生するかは判然せざれども兎に角金蛄蟖の幼蟲に寄生して早きは幼蟲の内に之れを斃し晩きは結繭の後主家を斃して蛹化す其蛹は幼蟲一

頭に付二三頭乃至四五頭を寄生し居れり而して今秋は金蛄螄の幼蟲非常よ數多なるにも拘はらず其羽化の割合至つて少なきは如何なる原因なるやを調査したるに全く此蠅の寄生に依るものにして桑園に於ける結繭及び幼蟲を桑園より採集して飼育したるものとを驗し其内に多くの蛹化したるものありたるを以て明かなる事實なり故に秋末少しく暖所に至れば此蠅非常に多く棲息するを見受たり

第一 寄生蜂の圖

♀

第二 寄生蜂の圖

♂

寄生蜂一、此種は赤褐色にして身長四分二厘翅の開張八分七厘にして觸角は三十五節基節は膨大よ次は短小に三節は長く四節より三十五節迄は殆んど同大にして鞭狀をなす複眼の外三ヶの單眼を有す胸背及腹背には黑点を所々に存し腹部は六關節にして雌よありては腹端に一本の產卵器を具有し前脚は短くして二分四厘中脚は三分後脚は四分の異りたる脚を有す跗節は六節にして一節は長く細く二、三節は同大に四節は短小よ五節は長大に六節は短小にして其尖端に爪を有す余か研究中唯二頭の雌を得たるのみ雄にありては未だ不明なり

寄生蜂二、此種は体黑色よして体長五分翅の開張七分五厘にして觸角は三十二節より成り其形狀は前種に略ぼ似たり單眼は黑色にして三箇突起し腹部は七節にして脚は前脚よ於ては腿節は黑く脛節より先きは黃色に中後脚は黑色なり跗節は五節より成り第一は長く二、三節は同長に四節は短小に五節は第一節と同大にして先きに爪を有す此種は唯一頭の雌を得たるのみなりき

右の寄生蜂は同種なるや否やは判然せざれども余は今茲に是れを別種として報する所以なり是れ同時に得たるものにあらざるを以て二種となしたれども今後尚一層研究を積み詳細を報導せんと欲すと云爾（明治三十二年十一月廿三日の夜稿を草す）

◎播磨昆蟲雜記

播磨國揖保郡香嶋村　大上宇一

（一）アケビテフ Ophideres tyrannus, Guens.　其幼蟲は二寸余長の大蠋なれば普く人の知る所なり物に驚く時は頭方を曲卷し尾部を揭く其狀奇態なり且つ二對の眼紋を有すれば如何にも怒りし如くに見ゆ六月五日に蛹となり十七日目即ち六月廿一日に蛾と成り出たり

（二）狗杞テフ　此蟲は本草綱目に出たれば和漢共に古くより知れたるものなり幼蟲は五月下旬に結繭し蛹と成れり之を採り置しに六月廿三日成蟲と成れり純白色にして異点なし繭も純白色にして甚だ軟質なり繭はキンケムシの繭に大同小異にして色を異にして軟質なるの差あり

（三）柿の葉卷蟲 Pandemis sp?.　五月中旬に至り幼蟲は六七分長と成り葉を卷て蛹と成る六月十七日蛾と成り出たりキマダラハマキテフに似て黑斑なし

（四）天狗蝶 Lybithea lepita, moore.　余り多く見ず昨年三月廿三日越年せしものゝ交尾したるを採集せり雄は黑褐色にして雌は黃褐色なりし換言せは雌は雄より淡色なり此蝶には芸香科植物樣の臭氣ありたり

（五）ヤマジヨウラフ Papilio Alcinous, Klug.　此蝶は甚だ播磨產には大小不同あり六月十六日採集したるものは前翅長四十「ミメ」巾二十「ミメ」なりし（是は雌なり）四月廿七日採集（雄）四十七ミメ

長二十二ミメ巾あり動物學雜誌百廿三號に圖する處は長五十六七ミメ巾二十七八ミメあり又此幼蟲は我村内にてはウマノスヾグサを普通に食するなり

（十六）トゲアリ　方言クマアリと云アベマキ栗柿等の腐木に多し日本昆蟲學の記事の如く六ケ刺あるものにあらず動物學雜誌百廿八號に村上氏が圖説せられし如く八ケの刺あり一對は前に向ひ三對は後に向ふ最後一對は甚だ長くして灣曲す

（十七）クロ竹の葉蟲　昨年九月紫竹の葉に白斑を成すものあるを以て如何なる原因やらんと葉を見るに小形の蟲葉綠素を食ひ其外皮のみを殘したるなり此故に白斑に見ゆるに至れり一葉中數疋數ケ所に居りて略ぼ長方形の白斑を數ケ所になせり古人翁竹とて白葉或は白斑葉の竹を珍重せしが恐く葉に蟲害のありしものか或は別に天然の白葉ありしやを疑ふ

（十八）テグス Caligula japonica, moor.　明治廿九年及三十年の二ケ年は甚だ多生し栗の青葉なさに至り葉及新芽を食ひたる故に栗は結實するものなかりし若し是が二化のものなりせば木も枯るゝに至るべし

（十九）エゴノハナブシモドキ Astegopteryx sp?.　エゴノキ一名チシヤノキ一名ロクロギと云ふものには二種の蟲巢を生ず一つは方言フシダマシと云即エゴノチコアシ A. styracophila, Kar. 之なり其二は今此に云ふものにしてエゴノチコアシの如く數ケ掌狀に出るものにあらずして之れより甚だ大なり恰も大なるハナブシの如き形狀を成し色は異り赤色を帶ばず五月中旬より成蟲は飛去するなりエゴノチコアシの如く多からず稀に見る所なり

（廿）ニレノアブラムシ Tetraneura ulmi, Deg.　是は蕁麻科のニレ属及ケヤキ属エノキ属を侵すも

の〻如しアキニレ及ケヤキには播磨にては未採なれどもケヤキの一種のカナギに多く寄生し又エノキの葉に寄生したるものを採集せり李の葉にも此に似たるもの生すれども別種なるか

(十一)タマバイ Cecidomyia rosaria, Löw.　播磨地方の川柳にも甚だ多く寄生したる所ありたり

(十二)イヌツゲノタマバイ　其蟲巣の形狀はタマバイの巣に酷似す冬青科のイヌツゲ及冬青等に尤も多く寄生す

(十三)カシノキノタマバイ　其蟲巣の狀前種に似てやゝ小なり總て殼斗科植物の枝を侵す即ちアカヾシ、シラカシ、シイノキ、アベマキ、クスギ、ホウリ等に此を見る

(十四)ヨモギノワタバイ　ヨモギの莖及葉に白色の綿球の巣あり往々に見る

(十五)ツヽジノモチバイ　ツヽジ(石南科)のモチ病は寄生菌に依りて生すると雖も其中に又蟲あるを見る恐くコブバイ科のものならんか

(十六)ハギノモチムシ　ハギ(豆科)の葉をモチ病球に成す蟲巣あり恐くコブバイ科のものならん

(十七)ヤブレガサノタマバイ　ヤブレガサ(菊科)此草五月花莖を抽んとするや梢に大なる蟲瘤を生す畧々無花果の大さあり此者寄生せば花莖縮少して花を咲くこと甚だ稀なり之もコブバイ科の一蟲か

(十八)イヌノチンポ(方言)　スヽキ(禾本科)の根芽より寄生す此巣や恰もメウガノコの如く或は淡竹の小筍の如し秋季之を破れば蛹あり成蟲あり成蟲も大小不同の形狀を認む之れ雌雄の大差か此物はネマガリダケに生する篠魚に近きものなるべし

◎昆蟲實驗談（六八）

益蟲買上と盜賊

靜岡縣濱名郡平貴村　生熊與一郎

三十二年度の西遠に於けるハマクリムシの寄生蜂の夥多なることは本誌第二十六號雜錄内に報ぜしが其後該寄生蜂の保護に付て日々苦心せり而して去る十二月二日余稻扱をなす所を見居たるにハマクリムシの蛹の扱き落さるゝを目撃せり因て熟視すれば十中九以上は皆寄生蜂の幼蟲（蛆）充蠢せり（寄生蜂の羽化して出でたる者少々あり）余は茲に思へらく此儘ハマクリムシの蛹を捨て置かば籾と共に碎殺せられ幾萬の寄生蜂も一片の落花と消へ失するや必せり此の凶事を見、手を拱して對岸の火災視するに忍びず直ちに之れが記を作り郡役所へ益蟲買上法を申進せんかとも思ひしが此事たるや至急問題なるが故縱令之を願出るも到底本年の間に逢はず然らば各村役場へ願出でんかとも思ひしが之れ亦然り然らば如何にせんかと彼を考へ此れを思ひ時間を經過する事二時間遂に自費にて買上げ以て世人に益蟲愛護の必要なるを知らしめんと思立ち翌朝日出遲しと疾起き出で近家を始め該蜂を買集する事を通知し又三四ヶ所に廣告を出したるに其夕方に至るや四方より持ち來るもの非常にして其れより毎日十一日迄買上たり即ち左表の如し

	買上たる苞蛹の數	買上費	買上たる寄蜂の數
四日	二七二、頭	一三六、〇厘	七三、四四〇、頭
六日	五二八、	二六四、〇	一四二、五六〇、
八日	四五八、	二二九、〇	一二三、六六〇、
十日	五四三、	二七一、五	一四六、六一〇、
五日	四一〇、頭	二〇五、〇厘	一一〇、七〇〇、頭
七日	四五五、	二二七、五	一二二、八五〇、
九日	五八七、	二九三、五	一五八、四九〇、
十一日	四二、	二一、〇	一一、三四〇、
合計	三、二九五、	一、六四七、五	八八九、六五〇、

右の如く買上（益蟲保護器製作の暇なきを以て）小桶に入れ一列毎に稲葉を以て堺し三千二百五十三頭を買上しは十日迄にして此夜其保護桶を軒下に置き（毎夜置く處）翌朝起き出で見るにハマクリムシは桶と共に何物か來り持行きたり茲に於て余は悟る所あり即ち余がハマクリムシを買上るを以て買上たる桶を盜み行き復た賣りに掛け無慮の利益を得んとするものゝ行爲ならん嗚呼世間には太き細き心を持ちし者もある哉故に今夕多數の蛹を持ち來るものあるならん能く注意して其顔見んものと思居りしに豈圖らんや十一日には右表の如き少數なりし（微雨ありし爲か）
彼此する内日は早や十二を數ふるに至り風の便りか木の葉の使か耳に飛び込みたる一言あり曰く（矛屋に新家あり藥種問屋をなす）世評に生熊氏は村の爲め有益蟲保護をなすなど云ひ苞蟲を買集すれ共彼れを買集するには多少の金錢を要す然るに喜で彼を買集するを以て見れば村の爲めなどに非らずして後一疋何圓と云へる程の藥劑の原料となすならんと
嗚呼頑なる哉愚なる哉農民に余の心を知らざるか余は茲に於て一般農民に昆蟲學の大体を知らしむることの最大急務なるを深く感じ該蟲買上は十二日より斷り以後一般農民に昆蟲の大体を知らしめんと心組のみ（遺憾の余り南窓の下に錄す）

◎賊に遇ふて益害蟲豫防の必要を感す

兵庫縣川邊郡農事試驗場　第一回全國害蟲驅除修業生　眞野儀太郎

時は是れ十一月二日の午後七時偶々歸省の爲め大阪川口より新淡路丸に乘船した出帆までまだ一時間もある怠屈さましに昆蟲世界を讀み始めた薄暗き船燈の事とて名殘惜しくも三十分許にして止めたいざ一と息みせんとカバンを足元に置きしばし長くなつた乘合の中にいまだ起きてる人もある今

や出帆とボーイの聲に起き見ればアラカパン！、折惡しくも常よ身を離さぬ時計小使錢迄やれしまッた、やられたわいと唯暫時茫然として居る其の間に滊船は運轉を始めた賊は出帆前混雜の際入り來りて寸隙を伺ひしならん身は是着のみきのまゝ一文なしだ、かくてあるに非れは覺悟した好手本豫防が肝要以て益害蟲の豫防法を講すべしと

金はうちがいに入れて胴卷、知らぬ人は皆盜人と思へ。千も萬も合天しながらかくの如した螟蟲は採卵法ウンカは仔蟲の間よと農談會の演說中々感銘せるも實地害蟲の侵入を豫防せる者幾人又彼れ害蟲の乘するや賊と雖三舍を避くるの保護色、剩さへ害容易に著れさるに於てをや、自然陶汰の法則から見れは警察の發達は盜賊の進步、昆蟲學者の輩出は害蟲驅除豫防法の困難た此れは將來の豫防は益々六ケしい嗚呼油斷大敵！寸時も分刻も急矣

一寸と慰につくりて見れは

皆さんお耳をアゲハノテフ、私しのはなしをヲキクムシ、一つたい害蟲はふへぬまに、ウンカと心を一致して、鐵砲蟲玉打ち出せは、枯木を的のシャクトリや、臭味て防ぐの椿象蟲麥蛾の穀蛾の穀象の、生きて介殼梨子象蟲、如何にコガタノゲンゴローか、苞の金龜子を夜盜蟲、テントダマシにだまされて、一ツも殘らずベタ〱と（蚜蟲の方言）アー皆螟蟲（命中）ヨー

ほんにかわいや吾が主じや、これから念佛ヒラタアブ、皆々あとからコヌカバチ、をまいはどん〱タイコムシ、チョイトあなたは点燈蟲龍車に逆ふ螳螂さん、秋津島根のヤンマさん、サゾ〱たよりの吾がぬしも、草葉のカゲロで手を合し、ドウカ極樂ヤドリバチ、蓮の臺の其の上で眺めてー見たやノーホヽアーウドンゲヨー

通信

◎三河小山の昆蟲風

三河國額田郡相見尋常小學校訓導
第一回全國害蟲驅除修業生　山本秋三郎

我國瑞穂の國の稱あるを見ても農作物を以て國家經濟の骨髓となすことを知るされば此の國本を鞏固ならしめんには第二の國民の養成即ち小學教育を完全にし以て農事思想を養成するに如くはなし余が地方は專ら農業者多し依て此道に常に意を注ぎ止む所なかりしに先々月名和昆蟲研究所に於て第一回全國害蟲驅除講習會開設の報を得るや直ちに是に趣き研究せり時に三河國より三人山本の姓者出で閉會の懇親會の時又偶然にも抽籤にて身体最大なる山本熊平君中央に席を占め其の右に中の山本溪松君左に余乃ち小山本席を占むることゝなれり是に於て余は自稱して三河の小山なり此の小山も亦大に斯學發達を計らんとす昆蟲の大風を吹せんとすと一場の演説をなし同講員に袂別し歸りて農民を諭すには僧にありとて直ちに僧に向ひて害蟲驅除益蟲保護の奬勵を依頼せり是農民等は大に僧侶に信用を置き生あるものを殺せば地獄へ落つる等と云ひ再三驅除を勸むれども其効なき結果僧侶に托し又一方に於ては吾々學理的に勸めつゝあるなり

又余は日々登校し食後休憩時間生徒を卒いて野外に共に採集を試みしに大に生徒は愉快を感じ昆蟲の何物たるを悟り害蟲の惡むべきと同時に益蟲の愛すべきを知れり又日曜日には親友或は近隣の生

昆蟲の類説明は口代の部にありしも之を略そ

徒と共に遠山近園に採集し以て無上の快樂となせり
茲に天長の佳辰近づくに及び本校に於て俄に光石高等小學生徒並に同卒業生同窓會と連合し大運動會を催し校長より其計畫を委任せられ大ひに繁忙を來せり其繁忙の身にありながら日頃採集の昆蟲にて左の標本を製作し同日式場に陳列せり
他に挿花には昆蟲の有樣を見せ運動會も害蟲驅除の歌（余の講習中敎場に於て通讀せしもの）を生徒に歌はしめ又右標本の説明は尋常高等科等には勿論參觀人及び運動會閉會後卒業生同窓會に於ても亦當夜村民余の觀迎會を盛大に開かれしに付きても昆蟲談の希望に應じ是等の説明及び驅除の方針等を談じ大ひに稱賛を得益々昆蟲の念は烈しくなりぬ
尙右繁忙の内に幻燈器械を取りよせ種板五十枚餘り買ひ入れ薔薇の一株昆蟲世界の繪並に稻桑の害蟲其他雜を畫し敎育的の繪は他の敎員に托し一の幻燈會を本校内に翌四日に開會し　陛下の御影出づれば淸々たるウオルガンの音と共に生徒に君か代を歌はしめ昆蟲の説明終はれば害蟲驅除の歌を歌はしめたり當夜の參觀人は意外に多く會場狹からずと雖も忽ち立錐の地なきに到り辨士技師の通行も不自由を來したるも尙續々來り遂に戶外にて窓より瞰くもの其數を知らず實に其盛會筆紙に盡し難し今三河小山の昆蟲風と題し聊か弊村昆蟲思想の有樣を揭げ以て諸尊所の參考の一部に供し度き餘り貴重の紙面を汚がすことゝせり

益蟲と害蟲と綱引の圖

昆虫大運動会

◎害蟲驅除と小學兒童

岐阜縣揖斐郡鶯村　揖斐郡昆蟲研究會員　小森省作

害蟲とは何者なるか曰く螟蟲曰く浮塵子曰く何曰く何と斯る害蟲は如何なる者なるか苟も昆蟲を口にする者は其名稱を呼ふ瞬間に於て其形狀や發生經過及特性が吾人の腦裏に相映して以て害蟲の恐る可き觀念を惹起し驅除の一日も輕忽にす可らざるを知る然れども之を當業者即ち愚昧なる農民に問はんか平然として顧慮するなく驅除の何たるを知らず却て之を說くも氣候により天然に生ずる如く考へ頑として信せず社頭に祈りて以て驅除の良法となす愚も亦甚しからずや偶々是れあるも半信半疑形式に流して其効を奏せず故に益々彼等に信を措かざるに至る嗚呼害蟲は益々害を逞くし農民は虛心平氣なり昆蟲否實業を以て國家に對するもの其れ此等愚民に對し害蟲の如何に恐る可き觀念を與へ之れを開發して完全に驅除を實行するを得るや否や余は又筆を執て言はんと欲する所を知らざるなり希くは其良方法を案出して國利民福の緖を擧くるに孜々たるの士多からんことを祈る余の不才敢て其に擬するものに非すと雖も聊か左に其所感を記し以て大方諸士の敎を俟つのみ余は常に小學兒童に昆蟲學の大意を授けて策を永遠に執るの必要あるを感するや茲に日あり然り而して本年我揖斐郡に於て實行せし驅除の方法及結果に就て豫想外の好成績なりしを述へんに茲に勸業に熱心なる高橋郡長亦見る所あり名和昆蟲研究所長に托し小學校敎員昆蟲講習會を開き敎員をして昆蟲思想を養成せしめ兒童に授くるに普通害蟲益蟲に就き實物或は繪畫を以て極簡單に其發生經過や特性を說明し如何に害蟲の恐る可き如何に益蟲の愛すべきかの觀念を與へ且兒童をして自ら害蟲を驅除せしめたり其獲る所螟蟲卵塊十八万四千余塊蝗蟲卵塊三貫余匁浮塵子及青蟲等二十余貫匁なり此十

八万余塊に二十余貫匁の害蟲多しと雖とも一郡に通ずれば何程のものか之れあらん然れども尚茲に是より層一層大なる利益のあるを認めたり、夫れ人として誰れか其子を愛せざるものあらんや其愛すべき兒童の口に害の及ぼす所を稱へ手よ害蟲を捕ふ是れを以て父兄たるもの如何に頑迷と雖ども不知不識の間に害蟲の恐るべきを知り却て又自ら進て學齡兒童なきものに對し害蟲の驅除を勸め益蟲の保護を說くに至り驅除をして開發的に實行して完全ならしむるを得るの好結果を得たり、又茲に面白きことあり即ち友達の惡戯をなすを見て害蟲と稱へ從順にして勤勉なるものを益蟲と稱ふるに至りしことと是れなり昆蟲學教授の兒童品性陶治よ迄及はし益々害蟲の忌むべきを覺れるもの丶如し則ち知る小學兒童に昆蟲學の大意を授くるは永遠を謀るのみに非ずして現在の好果を得且品性陶治の一手段として策の得たるものなることを誰か小學兒童に昆蟲學を授くるの不必要なるを說くものあらんや論者或は小學を以て單に他年人士養成の基礎なりとし必要なる普通學科を授くる汲々たる時に際し何ぞ高尚なる專門の學を授くるの余猶あらんやと是れ一理ありと雖とも之れ其の一を知りて二を知らさるの輩にして害蟲の恐るべき觀念を與へ之れを驅除せしむるよ何ぞ高尚なるを要せんや雨中体操時間等を利用し只其實物を以て名稱と害の及はす所を敎ふれば可なり殊よ小學兒童に理科の學を授くるあるに昆蟲學の端緒を授く何の弊か之れあらんや今や時運一轉實業勃興の秋よ會し小學教員の如きも農業の忽諸に附す可らざるを知らさる可らず土地の狀況によりて小學校に農業科を許して自由科目とせし小學校令豈所以ある哉

爰に於て望むらくは小學校教員の昆蟲講習會を全國各郡に開き充分昆蟲思想を養成して兒童に及ぼし頑固なる農民に害蟲の恐る可き觀念を得さしめ驅除豫防を完全に行ひ以て國利民福を謀らんこと

を聊か鍬鋤に代ふるに禿筆を以て大に同志諸士に訴へんとすること爾り

◎旅行中の昆蟲觀

熊本縣天草郡本渡町　第一回全國害蟲驅除修業生　中野・末喜

前略其後靜岡縣下ょ一週日を費やし尋て東京に出で西ヶ原大學等も參觀致候御承知の如く西ヶ原ょ於ける害益蟲飼育は漸く本年より始まり候事とて未だ試驗の結果の確定せる者甚だ少なく候へどもヒラタアブ並に黒椿象の經過丈けは既に中川氏の手によりて精密の調査せられ居候此等は他日を待て發表相成候趣に御座候今左ょ之を略記すればヒラタアブは

産卵、九月廿八日　孵化、九月三十日　化蛹、十月十日　羽化、十月廿二日

にして尚他の一頭は幼蟲期蛹共に十三日を費やせりと云ふ黒椿象は野生の卵子を採集して飼育せるものにて

生月日	第一脱皮	第二脱皮	第三脱皮	第四脱皮	化成
八月二日	八月十五日	八月廿二日	八月廿八日	九月五日	九月廿七日
同	同	同	同	同	九月三十日
同	同	八月廿四日	同	同	十月一日
同	同	同	同	九月七日	十月四日
同	同	八月廿二日	同	同	同

等に有之候尚同所に於ては色々有益なる御話拜聽仕候別に封入致置候椿象は靜岡縣安部郡大谷村神社境内の椎樹葉裏に捿息せるもの目ょ觸れ候儘樹に攀ぢて相捕へ候處珍種にはあらずやと被存候に付差送り申候名稱等御報被下候はゞ大慶の至りに御座候（既に回答（キンカメムシ）し置けり）

尚靜岡縣内にて稻抽穗せる際其穗梗より汁液を吸收し穗の一部分を枯らすもの有之甚しきは二三割

の損害を蒙り居候農家は之をウマオヒムシの害と稱し居候

講習中御懇示相成候蚜蟲と瓢蟲との關係等に就ては始終注目致居候處大蛾とナナホシテントウムシと相容れず蛾より攻撃を初め遂に橘樹の葉上よりナナホシテントウムシを蹴落し候事有之益々彼等が生存競爭の激甚なるに驚入候

東京なる農商務省商品陳列舘に於て支那漆試驗の爲め製作せられたる數十の漆器を見候其繪摸樣如何にも可笑しく先生の陶器織物應用云云の言も思ひ合わされ候儘其二三を寫取り候上圖は僞りなき蝶の轉寫圖に有之候

尚色々申述度候得共漸く一昨日歸村致候而已にて筆紙多忙他日を期し申候

(卅二年十一月十六日付)

漆器に畫かれたる蝶の圖

◎稻ハマキムシに就きて

渥美郡昆蟲學修業生　鈴木澄藏

稻ハマキムシは有名なる害蟲にして稻葉を喰害し九月上旬出穗の頃稻葉を綴お合せてツトの如くし(故に當地方にてはツトムシを云ふ)其中に入りて蛹となり後羽化して成蟲卽ち一文字セヽリとなる(此成蟲を方言ミソスリと云ふ)此蟲は啻に稻葉を喰害するのみならず出穗の頃稻葉を綴るを以て穗の出走りをさまたげ殆んど蕨の出かゝりの如くし爲めに白粃を生せしむること多し或る地方に於ては田面悉く稻葉を連綴せられ田の一隅にて稻株を動搖すれば隨て波動を起すが如きことありと聞く其慘害實に驚くべし然るに幸にも當地方にては其害未

だ比較的多からず之れが爲め農家一般螟蟲浮塵子等の如く驅除豫防に盡力せざるも播殖慘狀を極めさるものは所謂天然驅除の力によれるならん予は本年秋穫の際稻葉に該蟲の蛹多數附着せしものを採り一々之れを驗するに悉く有益蟲即ち寄生蜂に斃され其体內は悉皆寄生蜂の幼蟲にて充滿せるを見る此に至りて一層益蟲の愛護すべきを知れり若し此の寄生蜂の益蟲をしてなかりせば如何に人工驅除を行ふも一朝播殖して其慘害を逞ふするや必せり然るに之れが驅除を行ふに當り動もすれば此大切なる寄生蜂をもハマキムシの幼蟲と認め捕殺するものなきを保せず實に慨歎の至りなり此れ先生の講筵中害蟲の驅除を行ふて却て害蟲をして播殖せしむることありとは抑も此の如きの謂ひか

◎コメツキムシの幼蟲に付質問

岐阜縣可兒郡帷子村　岐阜縣第一回害蟲驅除修業生　三好庫之助

別封の昆蟲は頃日生薪を採らんとて楢の木を割りたる處其基部にホシカミキリの食入し居たる處にて四、五頭を得候之が名稱分類及びホシカミキリとの如何なる關係のあるものにや恐縮の至りに候得共昆蟲世界誌上にて垂教を煩し度現品相添へ此段奉願候也

答　名和昆蟲研究所助手　名和梅吉

現蟲は暗褐色にして短かき六脚を有し能く匍行するを常とす元來此蟲は甲翅類中五節類のコメツキ

ムシ類の幼蟲なり此類には生植物の根を食害するものあれども此種は朽木の樹幹、根際等にありて該部を食害するものなるを以て斯の如く他蟲の棲息し居りて腐朽せしめし場所に發生したるものにて別よホシカミリとは關係なきも以上の理に依りて該所に棲息し居たるものと知るべし

◎バッタの卵塊に付質問

渥美郡昆蟲學修業生　鈴木澄藏

農圃既に麥蒔を終へ麥芽將さに萠ゐんとする頃田間を散步しつゝ畑の畦畔に植ゐ付けし豌豆の枯凋せるを見其根邊を搜索せしに果て根キリムシを得ると同時に偶然にも一の卵塊を發見せり然れども何蟲の卵なるか詳かにせず右該卵粒は其色黄褐色にして長さ二分位の長楕圓形をなし之れを押し潰せば雞卵の黄みの如き液汁を出す其卵粒凡六七十粒土塊の中に褐色の海綿樣の物質に包まれ序列整然として產付せり其狀を記載し伏して高敎を仰ぐ

答　　　　寄蟲生

御質問の卵塊は現品を見るにあらざれば確答なし難しと雖も記載されたる形狀大さ等に依て察する時は直翅類中のバッタ（トノサマバッタ或はクルマバッタ）の卵塊なるが如し

◎諸氏の來所　十二月十二日岐阜縣山縣郡長後藤信明氏、十三日三重縣農事試驗場技手坂井兵太郎氏岐阜縣會議員說田武之助同山田貞策兩氏、十四日東京高等學校生徒佐藤順造氏二十日大

垣中學校森宇多司氏大分縣下毛郡鶴居村木村三郎氏大坂市堂島小橋石井菊次氏、廿三日東京農科大學農業教員養成所木村良雄氏、廿五日大垣中學校教諭小川三策氏同日京都府蠶業講習所荒木武雄氏、岡山縣岡山市第三高等學校醫學得業士佐藤春一氏岐阜縣郡上郡河合村筒井九郎右衛門氏二十八日岐阜測候所員青木成一氏、卅三年一月一日岐阜縣林業巡回教師吉田守一氏縣屬關谷直行氏同河野廣次郎氏技手中村十一郎氏縣屬堀定吉氏、二日東京工科大學工學士武田五一氏、三日山形縣小野寺順太佐藤直中同縣飽海郡本楯村松本謙吉の三氏、五日三河國額田郡岡崎町增田正景氏同日靜岡縣磐田郡岩田村神村直三郎氏其他縣下の有志者百余名何れも昆蟲標本を縱覽し或は熱心に取調へられたり

◎和田農務局長一行の來所　客年十二月三十日和田農務局長澤野農事試驗場長同堀技師並隨行員其他町田東海支場長武田愛知縣農事試驗場長の數氏は當昆蟲研究所視察の爲め同日午前十一時三十五分の列車にて來所せられしに依り豫て保存せし昆蟲標本七千余種數百箱を特に縣農會樓上に陳列し其他養蟲室昆蟲陳列室、圖畫室、書籍室及び諸種の器具に就き名和所長案内にて一々說明し視察の便を謀りしが本縣よりは野村知事を始め河村書記官柿元第四課長林技手鈴木農事巡回教師桑原縣農會理事の諸氏亦出席和田局長以下調査を終り三時三十九分の上り列車にて名古屋へ向け出發せらる

◎第十三回岐阜昆蟲學會　同會第十三回月次會は一月六日午后第一時（第一土曜日）例の如く岐阜市京町岐阜縣農會樓上に於て開會したるが第一席名和昆蟲研究所長名和靖氏は開會の挨拶を爲し次に農科大學農業教員養成所木村良雄氏は農科大學の事より昆蟲學に就て所感を述へ終るや名和昆蟲研究所より一同へ酒肴の饗應あり爰に於て席上に宴會を張り各自胸襟をひらいて快談の最中第一回岐阜縣害蟲驅除修業生小竹浩氏發明に係る害蟲驅除器に就て同氏欠席せしも石井菊次郎氏代りて說明し之を實驗に供す尚は中島吉三郎氏は造化の秘密と題し昆蟲學上に就て演說せられ又靜

岡縣磐田郡神村直三郎氏は同縣中遠地方の害蟲驅除一斑に就て所感を述續て本縣師範學校敎諭安東伊三次郎氏は實物を示しアブラ蟲の產卵に就ての演說ありたり當日は新年殊に同會の一週年に當り來會者の重なるは濱口稻葉郡長眞野節氏第四課員其他縣農會理事並に害蟲驅除修業生各地有志者等三十有余名にして閉會せしは同四時何れも歡をつくし和氣洋々のうちに退散せり

因に昆蟲研究所にては工藝品に昆蟲の細工又は摸樣ある物を汎く蒐集し從來の不完全を漸次改良せんとの事なるが目下蒐集せし者を陳列して特に縱覽に供したりと云ふ

◎相川村農會の昆蟲談　去十二月十日三河國渥美郡相川村農會開設に付會長より照會により同日正午より出席昆蟲に關する講話會を開く幸同日は同修業生河邊嘉一氏も出席講話せられしは本會の爲め感謝に堪へざるなり第一席河邊氏は一々例證を擧けて一般農家の迷信を說破し害蟲驅除豫防の忽せにすべからざる理由より實業と昆蟲との關係に說き及し第二席不肖も昆蟲學の大意につき種類習性發生經過の順序より害益蟲の區別及益蟲の保護害蟲驅除の必要等一々標本に據りて說明し終りに螟蟲浮塵子金龜子等其他重なる害蟲の發生經過より豫防驅除の方法につき談話せり(鈴木)

◎第二回全國害蟲驅除修業生姓名

同修業生住所姓名畧歷等は左の如し

組別	府縣名	郡市名	町村名	族籍	舍長又ハ組長	氏名	生年月	履歷摘要
第一組	三重縣	多氣郡	明星村	平民	組長	潮田龜藏	明治七年八月	高等小學校卒業、蠶種檢査員、
	靜岡縣	濱名郡	飯田村	同		青木政吉	同十年十一月	高等小學校卒業、蠶業學校別科卒業生
	京都府	何鹿郡	吉美村	同		四方直利	同九年二月	養蠶術習得、簡易農學校一期習得、農業從事
	三重縣	員辨郡	治田村	同	舍長	岡田松之助	安政六年四月	村會議員、學務委員、稻作試驗田監督員

第二組	静岡縣	小笠郡	西鄕村	平民		松井仙次郎	明治十四年三月	高等小學校卒業、村農會幹事、
	長野縣	下伊那郡	上久堅村	同		小倉　惣作	同　九年五月	小學校卒業、農事試驗場卒業、村役場書記
	三重縣	三重郡	大矢知村	同	組長	後藤信一郎	同　十二年四月	高等小學校卒業、農事講習所卒業、
	福島縣	河沼郡	野澤村	同		齋藤　佐吉	同　七年十月	郡農會員、稻作肥料試驗方擔當、農事從事
第三組	三重縣	志摩郡	鵜方村	平民		大矢圓三郎	明治六年一月	大日本實業學會農業科修業、村役場書記
	岐阜縣	稻葉郡	日置江村	同		青木元三郎	同　十三年三月	尋常小學校卒業並ニ補習科修業
	京都府	與謝郡	栗田村	同	組長	谷口　鶴藏	同　七年一月	高等養蠶傳習所習得、養蠶巡回敎師
	兵庫縣	津名郡	鮎原村	同		廣田　孫爹	同　元年九月	中學校全科卒業、日本種苗園營業主任勤務
第四組	京都府	中郡	三重村	平民		糸井德三郎	明治十六年十一月	農學校農事講習所全科卒業、農蠶業從事
	三重縣	多氣郡	相可村	同		竹内　律三	同　九年三月	高等小學校卒業、農業從事
	島根縣	能義郡	母里村	同		原　庄次郎	同　十年九月	尋常小學校全科卒業、農事試驗場入場
	愛知縣	東春日井郡	新居村	同	組長	三浦　幸一	同　九年三月	高等小學校卒業、農事講習會修業
第五組	愛知縣	東加茂郡	大沼村	平民		小嶋　學	明治十四年八月	高等小學校卒業、農業從事
	長野縣	埴科郡	西條村	士族		淸水　藏	同　九年六月	高等小學校卒業、農業ニ從事
	京都府	何鹿郡	山家村	平民	組長	松本　周馬	同　四年九月	京都府尋常小學本科准敎員免狀受領
	兵庫縣	有馬郡	三田町	同		植良安三郎	同　十二年十月	高等小學校卒業、農事試驗場習業
第六組	大分縣	下毛郡	西谷村	平民		小原　一策	明治十四年八月	高等小學校卒業、農事講習會修業
	京都府	中郡	周枳村	同		養父爲次郎	同　十二年一月	尋常小學校卒業、農事講習所修業
	同	乙訓郡	久我村	同		辻　節治	同　九年七月	尋常師範學校卒業、高等小學校訓導
	同	同	向日村	同	組長	鎌田　伊一	同　三年四月	尋常師範學校卒業、尋常小學校長

組	府縣	郡市	町村	族籍	役	氏名	生年月	履歴
第七組	群馬縣	前橋市	岩神村	平民		村山戊次郎	明治十一年九月	東京農學校卒業、農事試驗場技手
	三重縣	阿山郡	新居村	同		川村貞一郎	同　十三年十一月	高等小學校卒業、農事講習所入所
	同	同	壬生野村	同		界外伊三郎	同　十四年三月	尋常小學校卒業、農事講習會書記
	奈良縣	高市郡	高市村	同	組長	勝川喜兵衛	同　元年八月	高市村々會議員、勸業委員
第八組	長野縣	南安曇郡	有明村	平民	組長	大嶋久吉	明治二年二月	小學校授業生、農事ニ從事
	靜岡縣	濱名郡	有玉村	同		高林皆次	同　十四年三月	高等小學校二年生修業、農事講習會入會
	福井縣	三方郡	八村	同	副舍長	小堀勝次郎	同　四年二月	高等小學校卒業、郡書記
	同	同	山東村	同		伊藤金次郎	同　八年二月	高等小學校卒業、簡易農學校卒業
第九組	愛知縣	知多郡	河和村	平民	組長	岩本熊吉	明治十三年六月	尋常中學校二年級修了、農科大學乙科卒業
	和歌山縣	那賀郡	根來村	同		增田操	安政六年二月	農業新聞記者
	廣嶋縣	廣嶋市	大平町	同		鳥羽善七	明治五年三月	小學校中等科卒業、農事講習會入會
	岐阜縣	安八郡	中川村	同		谷好之	文久元年十一月	農事講習會修業農事ニ從事
第十組	福井縣	遠敷郡	國富村	平民	組長	上田安太郎	明治六年六月	學務委員、害蟲驅除講習會修了
	京都府	竹野郡	島津村	同		森久吉	同　八年十月	埼玉縣競進社全科卒業巡回教師
	福井縣	大飯郡	内浦村	同		松本伊久藏	同　十一年四月	害蟲驅除講習會修業
	同	同	佐分利村	同		中川長平	同　十一年二月	簡易農學校全科卒業、害蟲驅除講習會修業

▲青木元三郎氏は中途より病氣に付缺席す

◎鋸蜂の種類

鋸蜂類は草食性にして悉く有害蟲に屬せり本邦産鋸蜂類ょ就ては未だ充分に調査されたるものを見ずと雖も中川久知氏は昨年六月發行の動物學雜誌第十一卷第百二十八號ょ已

知本邦産鋸蜂目錄と題し七十八種を世に照會されたり余昨冬閑を得て研究所に於て是迄に採集せし該蜂類の種類を整理したるに實に百〇四種ありたり以上の種類は重に岐阜地方に於て採集せしものなるが廣き本邦中に於て充分に採集したらんには尙多くの種類を發見するや明かなり（助手名和梅吉）

◎ヒメゾウムシ驅除の結果　岐阜縣稻葉郡島村に於ては昨年一月下旬より三月中旬に渡りて桑樹の大害蟲たるヒメゾウムシの共同驅除を實行せしに好成績を得本縣農商工報告第拾四號に其景況を詳細に掲載されたれば今左に其全文を掲載して時節柄諸君の參考に供す請ふ之を諒せよ

稻葉郡島村桑樹害蟲ヒメゾウムシ驅除の景況

稻葉郡島村に於ける桑樹害蟲ヒメゾウムシ驅除の概況左の如し

ヒメゾウムシの發生經過並に驅除法

ヒメゾウムシは甲翅類中象鼻蟲科に屬する一種にして桑樹の大害蟲也其形狀普通穀物に發生するコクゾウに能く似て少しく大なり全体は眞黑色を呈す一年一回の發生にして五六月頃恰も夏芽の發する際其芽を食害し其近傍に産卵す孵化して幼蟲となり木質部を食して生長し八九月頃蛹となり尙化して成蟲即ちヒメゾウムシとなれり此成蟲は其儘該所に潜伏して越冬す翌年春分の頃より出でゝ又前年の如く被害を逞ふするを常とす該蟲は其棲息する桑樹に近くときは擬死して墜落するの性あり故に是を驅除するには其性質を應用して捕蟲器の中に墜落せしめて捕殺すると潜伏せる枯枝を伐採して燒棄するの二方あり卽ち該蟲の驅除豫防法として本縣に於て規定せるものは左の如し

一高刈桑樹なれば廣口の捕蟲器を受け桑樹を動かし墜落せしめ低刈なれば捕蟲器を受け刷毛にて拂ひ落し捕殺すべし

二潜伏し居る枯枝を剪伐燒棄すべし

前記驅除方法の内今回は其第二項に依り驅除を行ふことゝ爲したり

驅除施行の準備

島村の桑園は年々ヒメゾウムシの爲め非常なる損害を受け桑葉減收し夏蠶飼育を充分に爲す能はざるの慘狀を來し有志之を憂慮する年久し然りと雖も一般桑園家の意此處に到らず常に其有樣の座視すべからざるを唱導しつゝありしに漸く一般の悟る處となり今春之が驅除を實行せんことを謀り一月十八日村會議員區長村農會役員等五十餘名は該村池之上區眞藏坊なる寺院に會合し協議を開く依て縣官郡吏及本縣害蟲調查囑託員等臨席して先づ害蟲調查員はヒメゾウムシの發生經過性質並に驅除法を詳細に說述し後縣官郡吏は驅除の必要を奬勵す玆に於てか滿場一致を以て驅除を施行することに決したり而して其監督は村長以下村農會役員等之が任に當ることゝなし彌々同月廿四日をトし池之上區地內に於て驅除の方法卽ち枯枝剪伐の摸範を一般桑園主に指示することを約して散會せり

驅除實施の概況

約の如く一月廿四日は桑樹の枯枝剪伐の摸範を示す日なるを以て多數の各桑園主を池之上區內の桑園に集め縣官郡吏及び本縣害蟲調查囑託員は自ら枯枝を剪伐して指示せるのみならず害蟲の枯枝に潜伏する現狀をも見せしめたれば大に感じて其の剪伐すべき方法を知得するに到れり夫より桑園主は各々自園の枯枝剪伐に從事す元來本地方の桑園は水害を免かれんが爲め多くは五六尺以上の高樹仕立なるに依り春蠶時に枝梢を伐採する事極めて困難なるを以て終には伐り方粗となり枝元二三寸を殘すの止むを得ざるに到れり然るに其伐り殘したる二三寸の桑枝は夏芽を發する頃恰もヒメゾウムシの襲ふ處となり枯死す翌年伐採の際該枯枝の障碍ありて又充分に下部より伐採する能はず益々該蟲繁殖に好適せしめたる如き有樣にて枯枝を增加し來り桑樹殆んど枯槁の狀を呈するもの非常に多かりし爲めに之を剪伐するに壯者一人にて一日に僅か二三株を行ふに過ぎざるものあり實に其剪伐の如何に困難なりしかを想像するに足れり二月一日は該地方の慣例にて年始の禮を行ふ事とて其れが準備の爲め驅除に從事するもの少かりしを以て一月廿七日より二月四日迄は一旦驅除を中止せり此間各自の伐採したる實跡を調查したるに其伐り方粗末にして枯枝を中途より伐採し害蟲の殘存如何に注意なきもの丶如し故に各區(十區)に於て再び剪伐の摸範を示す可き必要を生じ二月四日の休日を利用して縣官郡吏害蟲調查囑託員等各區に出張し桑園主多數

を集め剪伐方を指示せり二月五日より再び一般に從事する事に規定し爾來引續き施行せしも雨雪

稻葉郡島村ヒメゾウムシ共同驅除の圖

の障碍ありしと驅除其困難なりし等により二月末日に至るも剪伐濟のものは全數の半に達せず又桑園主は此剪伐の面倒なりしが爲め倦厭したる者の如くなると中には或は此施行を免がれんとする者を生じ其結了の期計る可からざるを以て茲に於て害蟲驅除豫防法を適用し期日を定め左の縣令を發するに至れり

岐阜縣令第七號

稻葉郡島村に於いて桑樹害蟲ヒメゾウムシ發生に付該村桑畑の作人は明治十九年岐阜縣告示第九十一號害蟲驅除豫防法第十第二項に依り明治卅二年三月十五日限り驅除を行ふ可し

明治三十二年三月二日

右の命令を發すと雖も時下温暖に向ひつゝあるを以て一日も早く結了するに至らざれば害蟲は潜伏所を出でゝ其効を全からしめざれば是より一層監督を嚴にし又一面は害蟲調査囑託員剪伐の適否を調査し大に督勵を加へたり然れとも其間雨天ありて尚期日内に結了するに至らず止むを得ず更に三日間を延期せり此間剪伐未了の作人は早天より擧家之に從事したるを以て三月十八日全村悉く驅除を結了したり

驅除費用

直接驅除に要する費用は桑園主の負擔よして共同に要する人夫賃等百八拾五圓六拾錢は村費より支出せり又桑園作人中貧困よして驅除用器具を購入する能はざる者の爲にに縣税を以て驅除用鋸二百五十挺を購入し之を給與したり

驅除施行地の面積及作人

稲葉郡島村は大字十個にして早田、池之上、近ノ嶋、萱場、且ノ嶋、東嶋、北嶋、菅生、江口、西中嶋の十區とす其桑園反別は五十八町歩にして此作人八百七十五人なり

驅除の成蹟

驅除の成蹟として確實なる計數を揭げ難しと雖も村長の報告に依れば概ね左の如し

驅除反別及作人　五十八町歩此作人八百七十五人
驅除施行の終始　一月二十四日着手三月十八日結了日數五十四日
平年桑收穫高　六萬二千六百二十貫目
驅除人夫及賃額　八千七百人此賃金貳千百七十五圓
剪伐したる枯枝及價格　二萬千七百五十貫目此價格四百參拾五圓
驅除に要せし村費　百八拾五圓六拾錢
驅除後夏蠶に收　被害の爲め從來夏蠶の收葉極めて少量なりしに本年は其害を免れたるを以て
葉する增加見込　三割以上の增收あり
同上來春增加の見込　同上三割以上の增收ある見込なり

以上の如く驅除を施行したるの結果本年春夏に於て該蟲の被害殆んど見るなく又夏蠶期に於て桑葉の增收ありしこと前揭の如くにして驅除其効を奏し良好の結果を見るに至れり

◎濱名郡害蟲驅除講習會　靜岡縣濱名郡にては昨年十二月廿五日より一週間同郡新所村に於て又本年一月四日より五日間同郡豊西村松島十湖氏方に於て害蟲驅除講習會を開會せられたる由なるが講師には濱名郡蠶業學校助教諭(本所特別通信委員)岡田忠男氏にして最も熱心に講述せられたりと云ふ

◎新刊雜誌の昆蟲記事　本年一月刊行の雜誌中に掲載せられたる昆蟲に關する重なる記事は左の如し

(一) 農業雜誌(第廿五卷第一)　昆蟲の害毒並に利益と題したるコーチル大學校米國理學博士河內忠二郎氏の說は尤も有益なり該稿未完

(二)中學世界(第三卷第一號)　オニユリと胡蝶と題して郁文館中學校敎諭永沼小一郎氏執筆せる該說は蟲媒植物即ちオニユリは特にアゲハノテフの媒介に依ることを面白く圖入にて說明せられたり又動物の社會と題して東京尋常師範學校敎諭高橋章臣氏蟻の社會に就き詳說せらる

◎北宇和郡害蟲驅除講習會　愛媛縣北宇和郡にては郡農會の事業として害蟲驅除講習會を開會する事となり既よ同會規則も出來第一回は昨年十一月十日より三週間同郡宇和島町の裡町明源寺に於て開會せり講習生は三十五名にして講師は同縣技師岡村猪之助氏及同郡農會副會長岡村景光氏なり而して科目は昆蟲學大意、害蟲驅除法、昆蟲採集及標本製作法等なりしと云ふ

◎松村農學士の匈牙利行　同氏が留學の爲め獨乙國伯林へ到着せられし事は本誌前々號に記載せしが本年は浮塵子類調査に好適なる匈牙利國ブーダペストに行學せんとの由名和氏の許へ來信ありたり

◎害蟲紀念堂の建設　新潟縣の有志家本間宏、小林宇宙太、三輪振次郎其他諸氏は去る三十年中同縣下の蟲害に鑑み害蟲紀念堂なるものを建設せんことを計畫し左の如き設立主意書を配り同縣知事の賛助をも乞ひしよ知事は大よ同情を表し充分便宜を與ふる樣盡力すべしとの事なりと

害蟲紀念堂設立主意書

嗚呼我縣比年災害荐りに至り水害に蟲害に我農家の經濟を紊亂したる者蓋し尠少にあらざるなり

就中明治三十年の如き害蟲浮塵子發生蔓延し縣下擧て其害を蒙らざるなく之が秋收入額糊口の半を充す能はず糧を海外に仰ぐの已むを得ざるを致し加之ならず一家離散他郷に流寓する者縣下數を以て數ふるに至る今にして之を思へば轉た悄然たらしむ是れ縣下民心一日も忘る可からざる慘事にして永く之を後世に傳へ當時を追想せしむる敢て不當の事たらざるを信ず余輩聊か爰に見るあり廣く之を縣下の有志に圖り害蟲紀念堂を設立し害蟲に關する萬般の標本印刷物は勿論傍ら水害に關する諸般の書類物品等を一堂の下に蒐集し汎く人民の縱覽に供し一は學術技藝の進歩を圖り一は後世の參考に供せんとす大方の諸子余輩の微衷を諒し奮て此擧を贊し以て助成せられんことを希望すと爾云

◎螟蟲採卵數　本年本縣に於ては害蟲驅除豫防法に據り慶命令を發布し縣下一般に驅除豫防を勵行せしめたるが就中螟蟲卵塊採取に付ては金四千五百四十圓の奬勵金下附規程を發布し一方に於ては吏員を各地に特派し指揮監督せしめたるに縣下到る處老幼男女の別なく共に之れに從事し學校生徒等も競うて採取せし結果縣下を通じて二千九百二十五萬六千三百六十三塊の多きに至れり今其卵塊數と奬勵金とを各郡市別に掲ぐれば左の如し(三十二年十月廿一日岡山市山陽新聞)

郡市	卵塊數	金額
岡山	一、二二八	一、一九二
赤坂	五四五、三一八一	八四六、〇六八
邑久	一〇七、六二八四	一六七、〇〇九
都宇	一〇、六九三九	一六、五八七
小田	八〇、五〇五六	一二四、九一七
賀陽	二五、六五〇七	三九、七九三
阿賀	四二、二二四三	六五、四七九
大庭	三五、二七九七	五四、七四七
東南條	六五、九九八五	一〇二、四一六
勝南	六〇、七〇七〇	九四、二〇四
粂北條	六七、五三〇九	一〇四、七九二
御野	八、八九五六	一三、八〇三
磐梨	四四四、三二六一	六八九、五〇四
上道	七一、〇四三七	一一〇、二三三
窪屋	一一、七七五一	一八、二七〇
後月	一二一、四七四八	一八八、五〇五
上房	四二、二四一九	六五、五五〇
哲多	二〇、〇八〇四	三一、一五八
西々條	七八〇、二五三	一二一、〇七七
東北條	三五、一〇一八	五四、四六九
吉野	七四、七一三三	一一五、九三五
粂南條	一四一、九六三三	二二〇、二九八
津高	八四、〇六二一	一三〇、三四八
和氣	一七一、七一二三	二六六、四五九
兒島	八六、二八三九	一三三、八七四
淺口	四七、七〇三八	七四、〇一一
下道	九〇、七九八七	一四〇、九〇一
川上	五三、六九四四	八三、三三三
眞島	五五、七九九八	八六、五八八
西北條	五六、〇八八九	八七、〇三八
勝北	一四九、九〇〇一	二三二、六一五
英田	三八、四〇二四	五九、五九一

（明治三十年九月十日内務省許可）

○昆蟲世界第貳拾八號目次

●本誌定價並廣告料

壹部郵稅共金拾錢
十部郵稅共金九拾錢（見本は五厘郵券貳拾枚にて呈す）

（注意）本誌は總て前金に非れば發送せず●郵劵代用は五厘切手にて壹割增とす●爲替拂渡局は岐阜郵便電信局

廣告料五號活字廿一字詰一行に付き金八錢とす一行以上一行に付き金十錢三十

明治三十三年一月十七日印刷並發行

岐阜縣岐阜市今泉九百三番戶ノ二
（岐阜縣岐阜市京町）

發行所　名和昆蟲研究所

岐阜縣岐阜市今泉九百三番戶ノ二
發行者　名和靖

同縣山縣郡岩野田村大字粟野百廿二番戶
編輯者　桑原貫之助

岐阜市笹土居町四十四番戶
印刷者　安田豊八

（岐阜市安田印刷工場印行）

PRINTED BY YASUDA TYPE PRINTING WORKSHOP, 19, Higashi-tsukasa-machi Gifu, Japan

Vol.IV. FEBRUARY 15TH, 1900. No.2.

THE INSECT WORLD:

A MONTHLY MAGAZINE.

EDITED BY Y. NAWA.

GIFU, JAPAN.

（毎月一回定時刊行）

（二月十五日發行）

昆蟲世界

（第四卷第貳冊）第三拾號

目次

（禁轉載）

PUBLISHED BY THE NAWA'S ENTOMOLOGICAL LABORATORY IN GIFU, JAPAN.

◎寄附物品受領公告

一金參圓也　全國蠶業中央團躰本部顧問　練木喜三君

一金壹圓五拾錢也　三重縣飯南郡茅廣江村大字茅廣　第一回全國害蟲驅除修業生　鈴木龍郎君

一金五拾錢也　岐阜縣武儀郡倉知村　第一回全國害蟲驅除修業生　森嘉六君

一金參拾五錢也　靜岡縣濱名郡吉津村中之郷　袴田孫兵衛君

1 Berliner Entomolog. Zeitschrift Bd. XXXIX. 1894. Heft II. und XLI. Jahrg. 1896. Heft IV. 二冊

1 Neue und wenig Bekannte Java-Rhopaloceren. 一冊

在伯林　昆蟲學者　ハー、フルストフワー君

一一貫張筆筒（蝶の蒔繪附）一個、莨入れ（蝶の金物附）一個、かんざし（蝶の青貝細工）四本、一貫張菓子器（蝶の摸樣附）一個、刻莨（表包蝶摸樣）玩弄品（鉄力製蝶、鳥運轉趣向）一、毛糸製花摸樣胸當一筋　大坂市西區川北字西野新農報社　石井重任君　由井昌太郎君　由井昌太郎君

一象牙パイプ（蟲盡の彫刻）　在米國スタンホルド大學　理學士　桑名伊之吉君

一肖像寫眞一葉　京都府　第一回全國害蟲驅除修業生　岩見勇藏君

一半身肖像寫眞一葉宛　岐阜縣　同上　森嘉六君　岐阜縣　同上　鈴村峯一郎君　三重縣　第二回全國害蟲驅除修業生　大矢圓三郎君

一養蜂協會養蜂講義錄第二回第一號一冊　東京市小石川區上富坂町七番地　養蜂協會

一蝶の釘隱シ二個　岐阜縣岐阜市四ツ谷裏　醫師　林正一君

右當研究所へ寄附相成候に付芳名を掲げ其御厚意を謝す

明治卅三年二月

名和昆蟲研究所

●廣　告

第三回全國害蟲驅除講習員募集

開期　未定

但定員ヨ滿つれば三月下旬開設す

右詳細なる規則は郵劵貳錢送附あれば直に送呈す

明治三十三年二月

岐阜市京町　名和昆蟲研究所

◯葉書通信募集

今回葉書通信を募集せんとす其趣意は愛讀者諸君地方の出來事を始め其他昆蟲に關する一切の件を簡にして明瞭に廣く通信を請はんとす縱令匿名にて本誌に掲載を請はるゝも當所へは必ず本名記入ありたし

名和昆蟲研究所

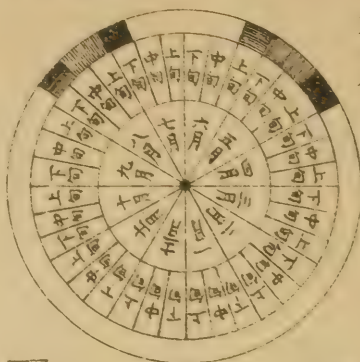
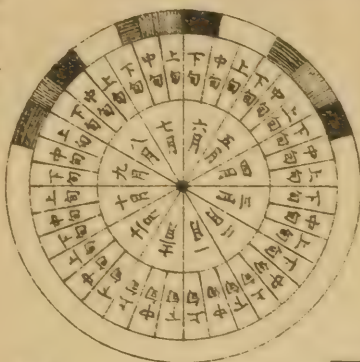
◯購讀者募集

本誌は發行以來漸次改良せしが尚一層改良を加へて愛讀諸君の厚意に酬ひんとす願くば斯學普及の爲め此際廣く購讀者を募集せられんことを希望す尤も紹介者の芳名を本誌に掲ぐるのみならず聊かながら當所調製の紀念品を贈與せんとすら請ふ購讀者募集の勞を取られんことを

名和昆蟲研究所

螟蟲発生經過一覽
恭賀新年
明治卅三年一月一日
卵
二化性
蛹
三化性
(一)
恭賀新年
驅除之千斤者不如豫防之二斤
勿忘螟虫之害縣下年々廿五万石
嶺昆蟲研究所
(二)
恭賀新年
東ノ方
西ノ方
行司 天然気候
前頭
勸進元 百姓家
(三)
恭賀新年
共同苗代の短冊
石油乳の撒布
誘蛾燈の晩景
(四)

年賀狀の類集

論説

○桑樹害蟲枝尺蠖驅除法に就て

名和昆蟲研究所長　名　和　　靖

編者曰く本編は當所長名和氏が嘗て執筆せられたるものなれども大に參考となるべき節あるを以て特に茲に掲載す最も當所發行の害蟲圖解第一（エダシャクトリ）を參照せらるれば自から明瞭となれり

エダシャクトリは早春桑芽を始め漸次桑葉に及ぼし秋季に到るの間食害の多少はあれども殆んど損害を受けざるの時なく且つ廣く夥多發生するを以て其害の大ひなることは誰も能く知る所の一大害蟲なれば勉めて茲に詳記せんことを欲す

分類並に名稱　此の蟲は鱗翅類(Lepidoptera)亞目尺蠖蛾類(Geometrina)エダシャクトリ科(Boarmiidae)　エダシャクトリ屬の一種にして學名を Hemirolpila atrilineata と云ひ和名エダシャクトリ(新稱)なれども岐阜地邊にてはツボワリ江州長濱にてはドビンワリ濃州東部にてはメンバアラシ又北部にてはコマノマラ其他ボウムシ、エダムシ、クワヌスビト及びソマシラズ等の名稱尚は多し

（一）ツボワリと云ふ名稱の起りはエダシャクトリの桑枝に能く似たるを以て誤りて壺を掛けしに

エダシヤクトリは其重さに堪へ兼て体を屈みたれば壺は地上に落ちて破れたるに依り始めてツボワリの稱ありと云へり又メンパアラシの名も同じ事實より起れり（辨當箱をメンパと云ふ）ボウムシ、エダムシ、ツマシラズ等の名稱も共に桑枝に似たる所より起りたるならん

形狀大小並に色澤　此の蟲の形狀、大小並に色澤を記すには次の如く卵子、幼蟲、蛹及び成蟲の四期に別ちて記載す

卵子の圖

（卵子）　卵子の形狀は楕圓形にして長徑貳厘五毛短徑壹厘五毛ある稍々平扁狀なり其色は產卵後一両日間は綠色なれども漸次變色して淡紫褐色となる

（幼蟲）　幼蟲即ちエダシヤクトリは恰も數芽を保ちたる桑枝に類似せり而して其芽に類似するの點は頭部並に胸足の三對にて小枝の末端に集りたる二三の芽狀を爲し又腹部の第一並に第五關節の背部にある突起は各一の芽狀を爲せり特に頭部を後方に屈曲する際の如きは尤も能く桑枝に類似せり、元來此の蟲を蠶兒に比して大ひに異なる點は腹部の前方にある三對の足は退化して只後方の二對を存するのみなれば恰も棒の如く枝の如きの看あるなり而して胸部にある足との距離長きを以て進行の際一種特別に步することは誰も能く知る所なり其躰色は灰色を帶びたる褐色にして實に桑枝の色に相同じ而して老成に到れば大さ二寸許に達す

幼蟲の圖

蛹の圖

雌蛾の圖

（蛹）　蛹は長き圓錐形にして大さ七分二三厘なり其色は稍々光りある暗褐色にして褐色の薄き繭の内にあり

（二）蛹の形ちよ大小あるを以て十個を取りて測りたるよ大ひなるは七分八厘小なるは六分八厘なり

頭數	分	厘
一	七	八
二	七	五
一	七	四
二	七	二
三	七	〇
一	六	八
平均	七	二

（成蟲）　雄は雌より全体並に腹部常に小形なり然れども雄の觸角は是に反して稍々大なり其色は全体淡褐色にして上翅に二下翅に一の深黒色なる波線あり尚は上翅の中央と下翅の下端よは褐色の雲紋を顯し其他尚ほ下翅には斬髮狀の短き褐色線横に散布せり而して複眼は黒色なり

（三）雌雄に大小の別あるは勿論なれども其各に於ても自から大小あるを以て今茲に雄蛾十五頭雌蛾十頭を測りて平均數を得たり即ち雄の体長は六分六厘にして雌は六分五厘なれば雄の方少しく長し又翅端の長さは雄に於て一寸六分なれども雌は一寸六分九厘ありて雄より短し

（雄）体の長さ

頭數	分	厘
一	七	五
二	七	二
四	七	〇
二	六	五
二	六	二
三	六	〇
一	五	八
平均	六	六

（雌）体の長さ

頭數	分	厘
二	七	〇
二	六	八
四	六	五
一	六	〇
一	五	八
平均	六	五

（雄）翅端の長さ

頭數	寸	分	厘
一	一	七	五
一	一	七	〇
三	一	六	五
一	一	六	二
一	一	六	一
五	一	六	〇
一	一	五	五
一	一	五	二
一	一	四	〇
平均	一	六	〇

（雌）翅端の長さ

頭數	寸	分	厘
一	一	九	五
一	一	八	五
四	一	七	五
二	一	六	〇
一	一	五	五
一	一	四	〇
平均	一	六	九

發生の區域　此の蟲は本邦に於て發生の區域極めて廣く到る所に群發して意外の大害を來せり現に岐阜縣下に於ては到る所に發生するも美濃國惠那郡並に飛驒國益田郡の如きは特に繁殖多しとす

經過　元來エダシヤクトリは一年二回の發生ありて第一回は六月末よりて七月始は卵時にして夫

より八月末迄は幼蟲時なり而して暫くの間蛹時よして九月中旬に到る迄成蟲時なり是れにて第一回を終れり第二回は第一回の成蟲の産附したる卵子の九月下旬に到りて孵化し幼蟲と成りて冬季を經過し翌年五月下旬蛹よ變じ六月初旬成蟲に化して第二回の發生を全く終る

以上の如く記したるも必ず毎年發生の期日の定まれるにはあらず實に同一の地よてすら氣候の寒暖に因りて毎年多少の遲速あり況んや其地を異にする所に於ては尙は其差異の大ひなるを知るべし

（四）明治廿二年四月廿四日岐阜市京町の桑樹に於て廿四頭のエダシャクトリを捕へ一々其大さを測りたるに平均一頭九分一厘強なり本年は前年より幾分か發生少なけれども亦少しと云ふべからず、當時桑葉は僅かに發芽したり

頭數	寸	分	厘
一	一	五	五
一	一	一	五
一	一	一	〇
一	一	〇	五
五	一	〇	〇
五		九	五
四		九	〇
三		八	五
二		七	五
一		七	〇
平均		九	一

（五）明治廿四年四月十七日前同所よ於て廿頭を捕へて測りたるに廿頭の總重量一匁六分六厘にして一頭の平均重量八厘三毛なり而して最大のもの一頭の重量は二分七厘なれども其最小なるものは實に僅々三厘なり、其大さよ到りては平均一頭一寸二分強なり、當時の桑葉は未だ發芽の時期に到らざるも桑樹の被害は中々盛んにして大ひなるものは一頭にて能く十五六芽以上を有する一枝を食ひ盡したるを見たり

頭數	寸	分
一	一	八
一	一	七
一	一	六
四	一	三
五	一	二
四	一	一
四	一	〇
平均	一	二

（六）明治廿五年一月三十日岐阜市西野町の桑園に於て大さ四分四厘のもの二頭と五分とを捕へたり、當時は桑樹の中央以下に降り斜に出でたる枝の裏面に潜伏して冬季を經過せり是等は霜雪等の害を免るには尤も適當なり

（七）明治廿三年春自然生のエダシャクトリを捕へ來り箱中にて飼養したるに箱の隅に於て繭を造り蛹と成りて後羽化したり今玆に其羽化の景況を示す尤も幾分か自然生のものと發生の期に差異あるやも知れず

羽化月日	雄頭數	雌頭數	羽化月日	雄頭數	雌頭數	羽化月日	雄頭數	雌頭數
五月十八日	一	—	六月三日	—	六	六月八日	五	四
五月三十日	三	一	六月四日	三	三	六月九日	二	一

五月卅一日	二	一	六月五日	一	四	六月十日	二	四
六月一日	七	六	六月六日	四	—	六月十四日	三	一
六月二日	三	一	六月七日	—	四			

計七十二頭　内雄三十六頭　雌三十六頭

(八)明治十七年以來岐阜地に於て成蟲即ち羽化蟲を捕へたること左の如し

十七年六月始め燈火に集るもの一頭を捕へたり同年六月十日頃に到りて飼養したるもの羽化したり尚同年九月始め燈火に集りたるもの一頭を捕へたり

十八年六月十一日夜燈火に集るもの一頭を捕へたり

十九年六月廿一日雌一頭を捕へたり

廿二年六月十四日始めて羽化したるを見たり

廿四年五月廿六日始めて飼養したるものより雄一頭翌廿七日雄一頭雌二頭羽化したり又同年七月廿九日自然生のもの一頭を見たるも恰も第一回と第二回との中間なれば何れに屬するや少しく疑ひあれども恐らくは第二回の遲れたるものならん

廿二年四月廿四日(四)實驗の結果と廿四年四月十七日(五)との兩者を比較するに廿四年は一周間早きにも係らず廿二年は九分一厘なれども廿四年は實に一寸二分にして全く二分九厘の差を見出したり是れ實に同一の地に於ても發生時期に差異あるの確證なり、尚又(五)の實驗中にある如く大ひなるものは已に一寸八分にして二分七厘の重量あるも小なるは僅か一寸にして重量は實に三厘なり其差の大ひなる容易に察するに足れり、是等の差異あるを以て從ひて繭を造り羽化するにも多少の遲速あるや疑ひなし、(六)の實驗に於ては頭數少けれども當時の大さを稍々察するに足れり、(七)の實驗に於て五月十八日の羽化は未だ曾て經驗せざる所にして平年に比して實に早きを知る而して漸次羽化して六月十四日に到りて終れり是れ殆んど一ヶ月間連續して羽化したるは恰も(五)の事實と能く符合するを以て益々確實なることを知るに足れり

○○○○○○○○○性質並に被害の景況

エダシヤクトリの特性は實に桑枝に類似するを以て吾々農業家の眼に觸れざるは勿論常に最も恐るべき鳥類の爲に見出されざるは該蟲に執りて繁殖上大利益あらん是れ恰も暗夜に乘じ盜賊の黑衣を着して惡事を爲すも容易に人の目に觸るゝこと能はざるに等し而して盜賊は故意に是等の衣を着するもエダシヤクトリに到りては全く其趣きを異にせり是れ適者生存の道理に基きて久しき年の間に於て少しにても枝に似たるものは鳥類等の強敵を免れ子孫を繁殖するを

以て遺傳の力にて增々能く枝に類似するものを生ずるに到りしや明かなり依て考ふるに故意を以て桑枝に類似したるにあらざりしを知るに足れり是等の事を動物學者は自然淘汰と云へり
以上の道理に基きて變化し來りたるものなれば能く其道理を明かにして性質を知り得る時は實に意外なる利益あれば常に注意し置くべきことなり
エダシャクトリの枝に附着するや殊よ發芽前に於ては小枝と誤りて深く注意するも容易に區別することと能はざるは實ょ普通なり今是を區別せんと欲して種々の實驗を施したるも好結果を得しこと少なし然れども時として異樣に附着する時は僅かに知ることを得るなり尙ほ附着の角度を調べたるに桑枝は平均四十八度なれどもエダシャクトリは廿七度半にして廿度半の差異あれども是れにても直に見出すこと能はず、何れの方法にても容易に見出すことは出來ざるなり、然しながら發芽前に於て桑芽を食する時に其芽の異狀を現すを以て其近傍に注意せば大概は直に見出し得べし又常に桑を食するには夜間なれども往々晝間にても食することあり此の際は体を屈曲するを以て容易ょ知り得べし而して發芽後桑葉の成長したる時は桑葉の食害されたると往々葉上に黑色の糞を脫すると已に成長したるとに依りて稍々見出し易し
エダシャクトリの桑葉を食せせざる時特に晝間に於ては腹部にある二對の足ょて固く附着するは勿論なれども必ず口部より一糸を出して桑枝に纏ひて連接せり是れ被害の時假令枝より離るゝも糸の爲に地上に墜落するの患ひなし
（九）明治廿四年三月三十一日岐阜市に於てエダシャクトリの体を指にて打ちたるに常に糸を引きて墜下するを見たり又此の蟲の体を伸して桑枝ょ附着する時は恰も二等邊三角形を爲せり即ち蟲の体と枝とは二等邊にして口と枝との間に張る所の糸は底邊に相當すればなり

エダシャクトリの澤山發生したる時は桑樹の被害は無論大なるものなれども假令少數と雖も發芽前の被害は實に甚しきものなり即ち三月末より四月中旬頃迄漸次溫暖となりて桑芽の肥大となる時期に於ては已にエダシャクトリも亦充分なる活力を得て頻りに桑芽を食せり是れ一頭にて一日中僅か一或は二芽を食するも二、三十日間に於て能く數枝を食盡するに到れり尙實驗ょ依るに斯の如く食盡されたるものは全く發芽することなく空しく枯枝となるものを多く見たることあるも農家は多く是等に注目するもの誠に少しと云ふべし

(十)明治廿四年三月卅一日午後二時より三時まで岐阜市京町の桑園に於て十頭のエダシャクトリに就て蟲体の大さ、食芽數(若干時間中に食せしや明かならずと雖も兎も角蟲の居たる近傍の芽數を調査したり)並に附着の角度をも測りて平均數を得たり即ち体の大さ一寸ょして食芽數は三芽四分に當り其角度は二十七度半なり

一	一寸三分	七芽	二十度
二	一寸三分	三芽	廿五度
三	一寸二分	四芽	三十度
四	一寸一分五厘	四芽	廿五度
五	一寸	三芽	三十度
六	九分	二芽	二十度
七	九分	八芽	二十度
八	八分	｜	四十度
九	八分	二芽	二十度
十	七分	一芽	四十五度

此の際注意したるはエダシャクトリの桑芽を食するは必ず中心に少しく保つ所の綠色嫩葉を食害するのみなれば外良の狀ち大ひに異なることなきも已に被害されたるを以て再び發芽することなし

卵子は一雌の產する所の數は明かならざるも凡そ一千粒許なり明治廿四年五月中二雌を箱中に飼養したる一雌は一周間ょ於て一千〇廿二粒を十八ヶ所に產附して死せり然れども尙ほ腹中ょ二百〇四粒を得たれば都合一千二百廿六粒を保てり他の一雌は百廿粒を產みて死せり然れども尙ほ腹中に八百三十五粒あれば併せて九百五十五粒なり卵子は一ヶ所に產附するものにあらずして各所に一塊宛產附するものならん又卵子は小形なるを以て容易に見出すこと能はず、繭は葉或は枝の間に造る事あるも亦往々桑樹の朽所に巧みに造るを以て容易

に見出し難し
成蟲は常に夜間飛揚して晝間は靜止す其靜止する時は四翅共に擴張す若し桑葉上に靜止せば稍々見出し易けれども幹枝等に止る時は容易に見出すこと能はず是れ皮色と翅色との類似し居ればなり
以上記す所の性質形狀等を有するを以て從ひて驅除豫防に困難なる實に知るべきなり故に該蟲の性質を充分に研究するにあらざれば豈能く良法を見出すべけんや（未完）

◎農界諸士及當業者に警告す（承前）

〔徳島縣下に於ける三化螟蟲の大發生〕

農商務省技師農學士　小貫信太郎

六　該地に於ける驅除豫防に關する處置　右の如き狀況なるを以て立江、坂野、羽之浦三村に於て村會を招集し臨時驅除豫防委員を設置し各村各事務所を設け村內の有力者篤志者を村會より推撰し村長より委員の任務を囑托三村長自ら委員長となり實地驅除豫防に從事せしめ又監督せしめたり今其人員數人員對反別等を列擧すれは左の如し

立江村　委員長（村長）一人、附書記二人、勸業委員二人、驅除豫防委員七人、同補助委員三十八人、驅除豫防一人の受持反別平均五十町歩なれども補助委員三人乃至四人之れに伴ふを以て一人の擔當の反別十余町內外に當る委員手當一人に付一日五拾錢

坂野村　委員長（村長）一人、附書記一人、勸業委員二人、驅除豫防委員五人、驅除豫防委員一人の受持反別平均十二町二反

羽之浦村　委員長（村長）一人書記一人、勸業委員一人、驅除豫防委員十五人、驅除豫防委員一人平均反別四町六反なれども三人を一組とし一人つゝ交代するを以て結局一人の受持反別十三町八反歩に當る報酬一人一ケ月三圓

其他常時は縣廳より屬一人、郡役所より書記一人、被害地に出張監督す

七　本期に於ける一反歩に對する驅除費用及地主小作の分擔歩合當地に於ける一反歩の驅除費用算出高左の如し

陸田一反歩　　一壹圓五拾錢

内壹圓貳拾錢　人夫四人一人一日金參拾錢稻株掘り返し集め燒却するまでの人數

參拾錢　　株燒燃料

株のみにては十分燒けざるに依り他の燃料を現して燒くものとす

水田一反歩　　七拾五錢

株返人夫二人半一人一日金參拾錢

外に藁を燒却するものとせば一反歩藁代金壹圓貳拾錢を要す但本年藁は蟲害に罹れるものなるが故平年相場の半額に見積る猶驅除施行費として一反歩に付立江村にては四拾錢坂野村にては壹圓羽之浦村にては三拾錢を要すこれは委員の手當其他の費用なり

右費用地主小作分擔の割合は五歩宛とす

右の如き情況なるを以て豫防驅除勵行のため公費を以て補助の議ありき

八　驅除豫防施行方法　以上陳述したる諸項を參照し其實行を誓はしめたる方法左の如し

三十二年度中に施行を要するもの

一稻株の處理法左の如し

一被害三歩以上の地に在ては陸田は本年中に犂ぎ返し苅株を集め悉皆燒却し水田は本年中に叮嚀に犂ぎ返し置き來春早々(四月二十日を限りとす)一尺以上の深さに踏み込むこと

但水田に於て稻株腐敗のため石灰を使用するものは一反歩に付其量三十貫以内を程度とし可成速に購入使用するものとす尤も石灰を施せし地は翌年稻作中は石灰を施さゞるものとす

二被害三歩以上の地に在ては陸田は被害稻株を高苅となし其株は墾ぎ返し漏なく燒却することゝし水田は前項水田稻株處理法に準ずるものとす（第四項參照）

備考　被害後の處理は害蟲の十中八九は苅株に潛匿するを以て苅株燒却は最も有効なる驅除なり然れども水田所謂深田にありては泥濘膝を沒するを以て到底稻株を拔取るを得ず又拔取るも根部に多量の泥土を付著し乾燥すること能はず又從て燒却すること能はず故に水田に於ては株を掘り腐敗せしめ翌春深く埋むるの法に依りしなり又石灰云々は從來石灰を肥料として用ゆる多きを以てこれを利用し株の腐敗に用ゐ併せて其濫用の弊を撓むるの意に出づ

被害三歩以下の地は前述「クルマザシ」と稱するものにして驅除委員詳細に之れを撿定し右の處理を行はしむるものとす但し水田にありてはこれを行ふこと寧ろ困難なるを以て被害甚しき地と同樣の處理を執らしめたり又水田陸田の中間にあるもの俗に「アゲハルダ」と稱するものは株の掘返し甚だ困難なるを以て當地に於て工夫したる株拔器を普く用ゐしめて掘取燒却せしめたり右器械は凡三尺余の柄の先に徑凡三寸位の缺田筒狀の鐵具を付著したるものにして其概圖左の如し（標本は農事試驗場にあり）

株拔器の圖

（苅株の處分に付て株截斷法あれども株の燒却の如き完全なる驅除法にあらず本地は初回の發生に係り農家其慘害に懲り非常の奮發なるを以て燒却法を勵行することに決定したり）

一被害藁の處理法左の如し

被害地の藁は燒却す可し、若し堆積肥料となす塲合に於ては螟蟲を生存せしめざる樣能く腐敗せしめざることに注意し其堆積の周圍に藁を一尺位の高さに散亂せしめざる樣積續らし置き毎月一回この藁を燒棄す可しもし又工業用に供せんとするものは藁を熱湯に浸したる後之を使用するを得(第四項參照)

備考　被害藁は悉く燒棄するは最も望ましき所なれども藁に三化螟蟲の存在するは比較的少數なるとこの地は藁製作品の產地なるにも係らす本年の凶作に加ふるに藁まで燒却せしめたる時は彌細農の困苦甚しきに依り右樣の規定を設けたり又藁を堆積肥料となす塲合に於て醱酵蒸熱する時は藁中に潜匿せる螟蟲は外部に逃れ出るの慮あるを以て周圍に積み置ける藁に集め之れを捕へ殺す可き目的なりとす

一稻株は成可低く苅ること

一晩稻は神力より被害の多き種類を成る可く栽培せざること(第三項參照)

一害蟲驅除後は從來使用せし石灰は漸次減少し一反步二十貫以上は決して施行せざること（第三項參照)

備考　本地は從來石灰濫用の弊を承けをるを以てこの際斷然使用を禁するは最も望ましき所なれとも斷然嚴禁することは實際決して行ふ可らざるの狀態なるを以て右の制限を付し漸次用ひざらしめんとするの意なり

三十三年度春期以後に於て施行を要するもの

一苗代は蒔巾四尺とし短冊形に仕立つること(第四項參照)

備考　春期の採卵は最も有效なる驅除法なりとす然れども從來の苗代にて之れを行ふ能はざるを以てこの際全く改造せしめたり

一水田に棄苗代を設くること

但一町歩に付二ヶ所を設け一ヶ所の面積は五歩とし其苗は移植の時期に拔取り一尺以上の土中に埋沒し又は燒却すること

備考　該地方は水田の面積甚多く且苗は悉く陸田に作るを以て水田に發生したる蛾の殘留する慮あり依てこの法を行はしめ且この地にて多く誘殺せしむるの目的なりとす

一移植は六月上旬以后行ふこと（第三第四項參照）

當地の移植は五月中下旬に行ふ然るに三化螟蟲の發生の最盛期は五月下六月上旬なるを以てこの期に十分の驅除をなさんとせば本田に於て採卵及点火誘殺を行はざるべからず其勞費の多大なると且水田に於て前述の事情なるを以て到底行ふ可らず依て右の規定を設けたり且斯く移植期を後らすとも四國支塲の成蹟其他に依り收獲には敢て影響を及ぼさゞるの見込なり）

一苗床に於て点火大誘殺及採卵法を行ふこと（第四項參照）

苗床一畝歩に誘蛾燈一個とし一畝歩未滿のものも一個とす

但燈の位置は稻葉より凡七八寸前後の高さとす

五月上旬頃より各大字三個宛豫察燈を設け螟蛾の發生を認むる時は一部に点火を擧行し同時採卵に著手するものとす尚本田に於ける採卵も厚く注意し施行するものとす

一苗床に於て捕蟲網を用ゐて蛾を捕へ殺すこと

一本田に於て枯れかけたる莖若くは抽穗後穗の結實なきものを認むる時は根元より深く拔きとり燒却するものとす

（抽穗後穗の結實せずして生氣なく萎凋せるものをみて直に拔取る時は三化螟蟲は第二節三節に止るもの多し且この法は二化螟蟲にも效あり

以上は該地に於て本年及明年度に於て施行する所の大綱目なり猶其外直接に驅除に關係なしと雖とも間接に多少關係あるを以て左の注意をなせり

一立毛品評會の開設（但害蟲の有無を主とす）

一苗代に油を注入し其害蟲を驅除すること

一本田採卵の便宜のため植付を正ふすること

一春螟蛾の發生甚しき時は本田に於て點大誘殺を行ふことある可し但誘蛾燈の割合は三反歩に付一個とす

付記　立江村に於ては蛾一匹一毛卵塊一個に付五毛の割合に買上るの議ありし（完）

◎第二回全國害蟲驅除講習員の五分間演説

編者曰く昨年十一月廿五日より十二月八日迄二週間當昆蟲研究所に於て第二回全國害蟲驅除講習

會開會の際十二月四日午後一時より講習員の五分間演説會を開かれたるに實に有益なる説多々ありしが今茲に數氏の大要を掲載せんとす讀者諸君請ふ之を諒せよ

（一）螟蟲卵の寄生蜂に就て

群馬縣　村山才次郎

我地方に於ては稲の害蟲として最も恐るべきは螟蟲にして此ものゝ爲めには年々非常なる害を被れり其結果として苗代を早く仕立つる時は一層其害を受くること甚しき爲め成るべく人より晩く仕立んとすること行はる此故に一方に於て螟蟲の爲めに損害を受くること同時に苗代を晩く仕立つるに依り尚一層の不利益を來せり今螟蟲害の甚しき一例を擧ぐれば本年群馬縣農事試驗場にては僅か二百坪計りの苗代より螟蛾一萬頭螟卵一萬塊も捕殺せしが尚幾部分の害を免れざりしを見ても明かなり然して我地方にては一般に養蠶業盛んにして恰も苗代時期は最も繁忙を極むる時機なれば捕蛾、採卵等の方法を勸むるも中々充分に驅除することは困難なり隨て第二回發生の者も中々多きこと明かなり此時は苗代よりは面積も廣くなり驅除法も又一層困難なり然る時は我地方にては如何にせば此の驅除を完成するを得べきか私は一方に於て捕蛾、採卵法を行はしむると同時に螟卵寄生蜂の保護繁殖を計らば或は効果を得るに至らんか不幸にして我地方にては螟卵寄生蜂は甚だ少くして自然に放任せば急速の結果は望むべからず一例を擧ぐれば小生が本年一千餘塊の螟卵に就て試驗せしとき及び農商務省に於て當地方卵塊五十個に就て研究せし結果も共に一頭の卵蜂を見ざりきこれ元より一回の試驗なれば確信することは能はずと爲すも又卵蜂の少なき一の證となすを得べしされば或る特別の方法を設けて速に卵蜂の繁殖を計らざるべからず余は是等の事に關しては誠に無經驗なれば御經驗ある方は御説明あらんことを希望致します聊か我地方の狀況を御話して諸君の御高説を拜聽

致したき次第であります

（二）　天蠶の寄生蠅に就て

長野縣　大島久吉

私は信州の極く山中に生れまして明け暮れ土堀り斗り致し居り實に無智無才にて何の經驗もなく諸君に御話申す如き事條がないのであります然るに先生の御指命に預り不得止次第にて聊か我地方にて困難致し居る所の御話を申上げ此責を塞き併せて之が良き驅除方法もあれば御敎示を御願申度き次第でありまず先づ我地方にては農家の副産として養蠶は勿論村の特有物産とも致す天蠶及び作蠶を盛んに飼育致して居ります此天蠶に付き申ますが元來此天蠶は明治初年の頃迄は實に不作勝でありまして俗に天蠶と味噌汁の當つたことが無いと申ました如き次第であります然に其後年を經て天蠶種の改良及び飼育林（是れは東南に斜面にしたる原野にて椚樹を以て充つ）の手入等に注意し益々上結果を得る樣になりました然るに此三四年前より該幼蟲に彼の養蠶界にて恐るべき蛆と同樣の害蟲寄生致し四眠起後最早上簇の頃になりますと余程此蛆が大きくなり顯然と皮の上より見ることが出來ます夫れ故天蠶兒も充分の發育を爲さず從て不完全なる繭即ち皮の薄き繭を造ります（最も甚しきは成繭に至らずして斃死す）夫より一二日を經過すると其繭より蛆が簇出します其數實に非常にして一個よりも少きは五六頭多きは二十乃至二十五六頭も居りますが此天蠶と申すは天然育でありますから家蠶の樣に一度に上簇することがありませぬ故に繭を搔く（即ち繭をクヌギより取り放つを方言カクと云ふ）にも林中にて初めて繭を見出せしより十一二日間も經過せざれば出來ざる故其內に蛆が繭より這ひ出で芝の上に落ち土中に三分の二も這ひ入り蔭るゝ故如何とも致し方なく實に驅除の方法に困難致し居りますから何卒良き御考案も有りましたならば是非共御敎示に預り

度實に地方一般の意志にてあります誠に御參考になる御話も申上ず自分勝手の事を申上げ相濟まざる次第偏に御容赦あらんことを乞ふ

（三）　害蟲の習性及經過に就て

島根縣　原庄次郎

私も五分間以內の演說を爲すことになりました然るに別段諸君の御參考に供すべき御話も御座りませぬが此度講習を仰ぐに當り第一感ぜんければならないことゝ考へましたは總て蟲の經過及び習性如何と云ふ事實を以て先登と考へまして今其一例を申述べ樣と存じます、

萊菔を害する所のサルハムシを驅除するに除蟲液を用ひて効驗あることは諸君も旣に御承知であらうと思ひますが或る私の友人が此サルハムシを驅除するに除蟲液を用ひ其液を撒布するに最も叮嚀に箒を以て振り掛けたのであります又或人は此液を用ひたに極めて粗にして手早く振り掛けたのであるが此分は非常に好結果を得ました前の叮嚀に撒布した方は少しも効を奏せないのであるから販賣人に向て大に攻擊を試みた販賣人は不思議に思ふた同じ液を同じサルハムシに用ひて一方で効を奏し一方では少しも効を奏さないと云ふ筈はないと云ふので實地に就き委しく之を調査して見た處が果して原因明らかになりました古人の言ひ傳へに大根の蟲を採る時は必らず話をするなと言つて居りましたが其れ迄私は古人の迷信であると別に耳にも留めませなんだ元來此蟲の特性として最も機敏にして敵若し其植物に觸れんとせば直ちに落ちて土中に隱れ再び認め能はざるが如き性質を持つて居るから叮嚀に散布した方は旣に土中に蟄伏の後で例ひ液を散布すると雖も遂に蟲をして逃れしめたのであります又粗に撒布したる方の人は例ひ機敏なる蟲と雖も其去の暇なく液をして蟲に附着し遂に驅除し得たるのであります故に古人の迷信と云ふことは能く其原因を調べたならば必ず現

然たる實事があらうと思ひ容易に聞き捨てにはならないと考へました又よ之より昆蟲學を研究するにも經過習性と云ふことは最も必要のことであると思ひます甚だ前後錯雜して大に諸君の御了解に苦まるゝ次第でムります聊か御參考迄に一寸申述べました

（四）害蟲驅除の失敗談

奈良縣　勝川喜兵衞

諸君私は奈良縣高市郡の山奥で產しました斯る僻地で生た者でありますから隨て敎育もなく加ふるよ吶辨でありますから諸君に向て御話することは出來ませぬが害蟲驅除に就て自分の失敗談を申上且つ諸君に向て本問題即ち驅除の良法を伺ひたいと思ひます

私は本年初めて本業に從事した者でありますから先輩の指導を受けて驅除に從事しました其方法に至つては昨日先生から御講話なりました方法と同一でありますが只一つ相違して居りますのは灌油驅除をやりましたのが一つの大失策でありました之は只一部分でありまして大抵は捕蟲器を以苗代田に於て驅除をしました元捕蟲器驅除を實行するよ付ても殆んど困難の地位に遭遇しました或時は鎗先きに掛らんとした事もあります或る時は終日炎天よ晒され流汗目を塞ぐばかりの事も有り又或時は終夜農民に向て驅除の必要欠くべからざるの話をなせしこともありました處が其農民であります如何に之を解きましても聞き入れませぬのには恐縮致しました今日の小學校生徒の御方は敎師其人が大に之に向て害蟲思想を養成せられますから將來は我々は申す迄もなく反て我々が是等の人より種々敎示を受くることゝ今より樂んで待て居ります乍併差詰め今日の塲合其舊慣を扑守せる農家諸君が頑固なる夢を破り一日も捨て置く可からざる此害蟲驅除を進で執行せられます樣の方法を講じたいと思ひます處が前申上げたる通り私の如き無學短才な者では其良法を得るに苦んで居りま

す次第ですから諸君に於て之が良法あらば速に御教示あらんことを切望致します

（五） 文學と昆蟲との關係

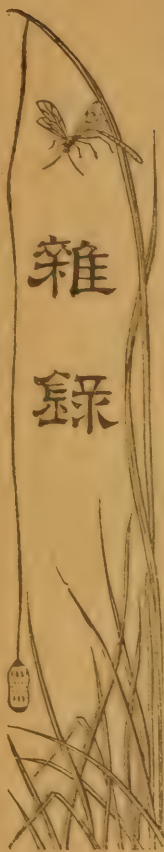
京都府　松本周馬

諸君より有益なる御講談を聞きました其報酬は此五分間にせねばなりませぬけれども元來昆蟲に就ては智識も經驗もないのでいくら苦んで腹を絞つても何も出ませぬ故に昆蟲先生を妙な處へ引連れて行かうと思ひます其れは外でない文科大學と美術工藝學校へ入學させやうと思ひますが美術工藝學校の方は昨日先生から展覽會の事に就て御談がありました故別に述べませぬ偖文科大學と云ふ程のことでもないが文學科の一部分即ち詩歌俳人等に昆蟲思想を起して些か研究をして貰ひたい現に或歌學雜誌にマツムシ、スズムシ、コホロギの形狀鳴聲等に就て論じてあるを見ましたが議論種々にして決定せぬ又俳句の書籍抔にも腐草化して螢となるなど云ふとあり之が誤りを說聞かすも頑固にして一向應せぬ又ケラの鳴くをミヽズが鳴くと云つて昔から誰も之を信じて居る歌人抔は物知り連中とも云はるゝ人なれば斯樣な人には色々の事を尋ぬるものもあるに誤を敎ふれば尋ねし人も亦誤るに至る而して高等動物や植物類は比較的研究せられ居れば誤も少いが昆蟲の事は右の次第故少し昆蟲の事を知つた人が見たならば其吟詠を笑ふであらう依て之が研究をして我笑を招かざるやうにし一方にては無智無學のものを開導啓發せば其効大ならん倘一方にて學校敎員抔が生徒其他をして斯學の要を知らしめば兩々相俟つて我國民に昆蟲思想を起さしむることを得ん依て諸君と共に協力同心以て文學者にも此思想を起さしめんことを希望します一寸席上即吟」

文學ぶ人も踏むべしこの道は鍬取る賤がまなびのみかは

（六） 昆蟲志想養成に就て

三重縣　岡田松之助

我三重縣に於ては米作が農の最も重もなる產物にて害蟲驅除豫防も稻作に最も重きを置き縣農會にて昨年苗代を短冊形に改良し又紫雲英は苗代地には作付せざること每年冬期畦畔の枯草を燒くこと此三項を取極め縣廳及び郡市役所より各郡市農町村農會へ謀り本年之を實行せしめ其結果を取調ぶる爲め縣農會評議員を派出巡回せしめたるに阿山郡は殆んど全郡之を實行し其餘は或一二部の實行にて未だ全縣下に普及することを得ず依て各郡市規約を設けて明年は大抵實行せしめんことを協議奬勵せり而して阿山郡の斯く實行の出來たるは去卅年全郡は浮塵子の大害を蒙りたる爲め農家皆實行の必要を感じたるが故なり又紫雲英を苗代に播種すると及び畦畔に蠶豆を作るとは恰も害蟲を保護する如きものなれども從來の習慣中々之を止めさすると困難なり又余は之迄農作物害蟲に付種々驅除を試みたれども藥品驅除は容易に行はれず効用も見難きものなり是等は其性質經過を知らざるの致す所なり兎に角農家が害蟲の恐べきことを知て一の仕事に加へしむる樣にすると肝要なり農家に之を知しむるには小學校生徒及び敎員昆蟲講習會を開きて農家の子弟に昆蟲思想を養成する等其他あらゆる手段を以て之を誘導啓發せんとを望む尙煙草害蟲驅除に付良法あらば御敎示せられんとを

◎ウドンゲの夢

滋賀縣農事試驗場助手　西澤大吉

時は八月初めつ方其の日の業事も終り黃昏の頃吾が家に歸り机上にありし洋燈を引寄せ點火せんと

し洋燈の笠ょ注目すれば不思議にも四分許りの一種の白毛叢生せるを認めたり其の先端に一毛毎に一粒つゝの黄色粒子附着し其の本數凡そ四十あり何物ならんと頻りに思を凝しつゝある内幸ひ一友訪問し來れるを以て忽ち質問を起せば聲の響きに應ずるが如く得意に速答をなして曰く汝知らずや此はウドンゲの花と稱する物にして此花は其の家の吉凶とすべきものにして吉あるか若くば必ず凶慌に陷るの悲あるべし注意せざるべからずと余は大に恐れこの花は吉の徵なるや將に凶徵なりやと答へば彼れは此の点に於て知らずと答へたり余は全く此の人の說を信じたるにはあらざるも多少懸念する處なきにあらず若し凶徵なりとせば不取敢ず燒捨てんと決心し同夜は其儘として兎も角寢に就きたり、不思議なるかな一の蜻蛉は扁々余の前ょ飛び來り語をなして曰く妾はクサカゲロウと申す蜻蛉なるが親ら貴殿に御願ありて來れるなり夫れ他にあらず今夕貴殿洋燈を默せらるゝの際認められたるウドンゲの花は世ょ言へる如く人の吉凶をトすべき奇怪なるものにあらず實は妾の卵子なり徒に流說を信じ罪なきものを爐殺せられんとするは誠に慘酷なりと言はさるを得ず親として兒を愛せざるものなく又健全に繁殖の多からん事を希はざるものなし深く御推察被下候燒捨てらるゝことは御停止仰きたし斯く申す妾は昆蟲學者に有益蟲と稱せらるゝものにして彼の農作物に大害を及ぼせる蚜蟲の如きは妾等の子孫が最も嗜好物ょして非常に暴食を逞しふするが爲め農家の間接に利益する處少なからざるものなり然るに世は妾等の卵子を一種異樣なるより遂に誤りて花類となし多少道理を附して曰く黃色あり、褐色、黑色等の種類あり等口々ょ噺立つるも全く誤說に過きず然れども初め產付けたる當時は黃色にして蕾狀をなし漸く日を經るょ從ひ色は濃厚となり孵化せんとする時は殆んど黑色となるも孵化し終れば白色に變じて開花の狀をなすに依る可し故ょ若し妾し

の説が御疑ひあれば試みに兎も角も御同道を願ひたしと頻りに促を以て誘はれる儘ゝ大根畑に至りて見れば容貌醜くきスリバチムシに似たる一個の蟲は蜉蟲の群居したる處に有て大小老若を問はず盛に捕食を爲しつゝあり蜉蟲は驚きて落ちるあり避けるあり右往左往と動搖せるをもことゝもせず暫時にして數疋の蜉蟲を斃せり蜻蛉傲然として曰く此れは妾の姉の兒よして御覽の通りの有樣なり此兒にして彌々食し彌々生長すれば遂に口より糸を吐き繭を營み其の內よ蟄み蛹に化し羽の生ずるに至れば繭を破り出で來り交尾の後は可及的已の兒の食物たる蜉蟲の多き處に產卵するを常とせり私が洋燈笠に產卵せしは幾重にも御詫せざる可からざる實は昨日路途に迷ひ彼地此地に變幻する內誤れるかな美麗なる花となし子孫の繁殖所と思ひしは貴賤の洋燈笠なりしが暫く差支へなき限りは其儘に御見捨て置き被下度と言ひ終り蜻蛉は朦朧と消へ滅たり、時にチンチンと時計の響に驚かされ眼を醒むれば日光は窓障より射來して皎々晝の如く身は依ほ寢所にありたり嗚呼今のは夢で有りしか扨て奇怪なることなりしと獨り語りつゝ起き出でゝ其の日の行務よ着手せんとせしも夢が氣に罹れるを以て不取敢夜前の夢中クサカゲロウに誘はれし處に至れば而も同形態なる幼蟲の蜉蟲を食するを目擊したり余りの不思議なれば夢の儘記して世に公にし識者の高教を仰ぐのみ

◎昆蟲屑話　（其五）

岡山縣邑久郡邑久村　赤枝小太郎

（十二）　瓜守稻穗を害す

瓜守は好みて胡蘆科植物を蝕害し殊に其稚苗を害すること一層甚しく往々其苗を枯死せしむるに至ることあり而して唯葫蘆科植物を蝕害するのみならず八月下旬頃早稻の抽穗し開花終りて稍白液を

生したる頃之を咀嚼して其液を食餌となして被害することあり

（十三）　優曇華咲きて全郷大に騒く

數年前のことなりけん、某村の神社社殿に優曇華咲けることあり村民奇異の思ひをなし居たりしに奇々怪々なる説は忽ち迷信家によりて傳へられ或は村内に一大凶事の起るべき前兆ならんと云ひ或は村中に火難あるべしとの神意ならんと云ふもあり全村民の大恐慌を起せることあり、余會々其村の知人に出會ひ其草蜻蛉の卵なることを説く知人稍解する所あるが如し其後彼村内事なし、一昨年自邸の橙樹の若葉に優曇華の附着したるを發見しそれより幼蟲の發生する狀態及び草蜻蛉の標本を示し詳しく説明したるに彼の疑團は全く氷解せるに至れり

（十四）　螟蟲被害の多少は割烹店の盛衰と相伴ふ

某地の人家と懸隔りたる水田多き所に一割烹店開かれ片田舍の事とて一時繁昌を極め絃聲歌唱湧くが如く蘭燈の光輝炫燿　曉に徹す是に於て螟蛾は燈光を慕ひ其隣田に集ること夥しく被害甚しく收穫半量に過ぎず地主の迷惑一方なりしが榮枯盛衰は浮世の習ひとて其後彼割烹店の繁榮は亦以前の比にあらずなりて螟蟲の被害も亦輕減するに至りしと云ふ

◎昆蟲實驗談　（七）

靜岡縣濱名郡平貴村　生熊與一郎

（其十三）　蠅類の觸肢に就て

蠅類の觸肢は皆一關節乃至數關節の肉質突起にして之に一本乃至數本の毛の生じあるを常とす余茲に一つの疑を生じたり如何他なし肉質突起に生じある毛は果して毛なるや否や今之れを蠻蛆の蠅

の觸鬚に就て述べんに該觸鬚は關節よりなり長六厘六毛巾一厘四毛ありて其末節は長四厘九毛あり其基部より十分の一許り上りたる所より外方に向ひ長五厘四毛許りある一本の毛を生じあるは普く諸君の知る所ならん而して其毛を(五十倍以上)顯微鏡にて見る時は毛と稱する部より亦數の毛の密生し其狀杉葉に異ならず之れを石炭酸フクシンにて染色する時は容易に染色し得らる此の二例を以て見るも普通毛と稱するものは毛に非らずして筋肉纖維の細長く伸びたるを知る若し毛による時は其毛の作用は如何察するに或物體其毛に觸るゝや其振動を其部の神經細胞に傳へ神經細胞は神經系により神經球に傳ふるものならん然るに毛の基部には斯かる特別なる細胞はなき樣に思はる乞ふ讀者諸君よ此れ果して毛なりや否やを充分御研究の上御報告あらんことを余は毛に非らずして筋肉纖維の細長く伸たるものと思惟せりされど今後益々之れが研究をなし他日を期し報告をなすべし

(十四)　害蟲の蔓延

余八月一日昆蟲採集の途我隣家の二畝歩許ある桑園に寄る偶々一隅の茶樹を窺ふに可憐なる哉此の茶樹は苞蟲の爲大概枯れ殘れる葉も樹身一面に蟲苞を吊懸して其青葉を見る事能はざる程なりき余は採集より皈りて直ちに隣家に行き茶樹に苞蟲の大害しつゝあるを語り併て其驅除法も述べたり然るに親父は安然として「彼の茶樹は不用物なる故枯死するを待つ程なり」と愛想もなく云われて「嗟乎左樣ですか」と云ひながら他談に移り居る事卅分間許りにして家に皈り其後(八月十五日)先きの桑園に至り如何と茶樹を見たるに豈圖らんや茶樹には一頭の苞蟲だに見る事能わず茲に於て余思へらく親父は先きに氣强事を云ひたりしが現況を見恐れて忽ち驅除したるならんと獨り笑を顏に貯園中に入らんとせしに近邊桑樹は二三割とも思はるゝ程苞蟲の爲め喰害され苞は枝葉を問はず一面に

附着せり因て余は再び隣家に行き其由を告ぐ親父も此度は少しく頭に通りしと見へ夫れでは除りましやうと云ひしかば余も喜びて家に皈りぬ其後九月二十三日秋季皇靈祭にて旭日の曉を告ぐるや前日の約に違はず六人の朋輩は或は捕蟲器を荷ぎ或は殺蟲壜を手にし或は採蟲箱を肩に掛てぞ出で來る余も亦仕度をなして出で直樣三方原に向う其途前の桑園は如何と立寄り見るに先きに驅除するとは云へど行わざると見へ實に苞蟲の蔓延や甚だしく園中過半は害蟲の爲め喰害され見るさへ憐なる慘狀なりし此の日尻切襦袢一枚にて汗の流れ落るも拭う暇なく其桑園に苞蟲を驅除し居るは何某ぞや聞はずして知る彼の親父なるを親父は余等を見て誠に面目なき顏をなし此樣仕事は遊日に回して置きましたなど丶云譯をなし横目も許さず熱心に驅除せり朋輩は互に顏を見合せ舌を捲き大笑をなしつ丶桑園を出でたる事あり余は茲に大に感ずる所あり

我國の農業は日は月と進歩し月は年と發達し殊に年々人口の増加するを以て見れば歳々慌憮地は其肥沃なる所より開墾して耕地を増さゞるべからず之れ今日實際行ひつ丶ある業なり然り斯くの如く幾多害蟲の捿息しつゝありし慌憮山林を伐切し開墾するの日は此の所に捿所を攆へ居たりし害蟲は如何之れを吾人に例へんか恰かも米麥は盜まれ家屋器物は燒き拂われたるに等しく何所に於てか其日を送らん之に同しく其捿所を奪れ何處に在つてか其繁殖をなすや蠶の如く桑葉の他食せずと云ふが如き單性ならんか實に桑と云わざるべからず然るに他害蟲にあつては蠶等と異なり前にも述べたる如く其食物に乏しき時は亦他の植物を喰害するの性あり故に捿所を奪れ食物に欠を告くるや必らず出で丶農作物を喰害するならん豈昆蟲學を修め其性狀を知つて豫防驅除の法方を覺ゆるは急務中の急務ならずや

◎昆蟲の藥用的効能

長野縣　第二回全國害蟲驅除修業生　清水　藏

當地方にて藥用的の効用ありと稱せらるゝ昆蟲名と其用法左の如し

蟷螂は指の腫物に特効あり用法は其腹部を割きて患部に貼り置き時々貼り替ゆるなり

螢も同しく指の腫物に効あり用法は蟲躰を粉末となし飯粒と練り合せ紙に展べて患部に貼るなり

衣魚は痲病、切り傷、指腫れ物等に効あり用法は飯粒と練り混せて紙に塗り患部に貼るなり

蟬は小兒の疳に効あり用法は燒きて食せしむ

蠶蝶はチヤウと稱する腫物に効あり用法は粉末となし飯粒と練り混せて紙に塗り患部に貼用す就中夏蠶蛾最も効ありと云ふ

◎朝鮮國に於ける昆蟲の方言

●靜岡縣濱名郡蠶業學校內　特別通信委員　岡田忠男

余一夜無聊に苦む時に朝鮮人朴重華（韓國慶尙道の人にして當時本校に留學中）なるもの訪ひ來りて談偶々昆蟲の事に及ぶ余即ち昆蟲標本を示して之れを問ひ彼を尋ねたるに左の數十種の方言を得たり思ふに我國各地に於てすら方言の千差萬別あるは自然の然らしむる所なり而して彼國の方言に付て全く相異なるは國語の然らしむる所とは言へ之れを知るも亦昆蟲界の一興ならんと茲に紹介して諸彥の參考に供せんとす

昆蟲の卵はアル、幼蟲はユチエグ、蛹はヨグ、繭はコンチ、成蟲はヒサーグチエグ、蠶はヌイー名ヌビ、蟻はケーミ、すゞむし、はメグチミウグ、をつけむしはソルポリキ、蜚蠊はヒヤクナン

ガクシ、とのさまばつたはペムメッテキ、しやみてふはヒナブ、みすじてふはホケヤッグ、ひようもんてふは、ポグチヤ〳〵ツブ、ひかげてふはチヤナブ、こくぞうはサルポルキ、こほろぎはチリン、てんとうむしはペチユポリキ、てんとうむしだましはタンポリキ、天蠶はチヨンチヤム、螟蟲はナツラブ、浮塵子はサルメッテキ、豆芫菁はコンポリキ、土ばつたはタグメッテッテ、螢はケットンポリキ、桑尺蠖はサグチヨウグ、蛅蟖はモッチユウグ、天蛾の類はチヤンラブ、蟬はメイミイ（最も多し）、あげはてふはポムナブ（最も多し）、かまきりはヨムルカシ、姬金龜子はタグナグ、てふはナブ、しをやあぶはクンボリ、いなごはメッテキ（非常に多し）、やんまはワグチヨリ、とんぼはチヨリ、蜂はブヨリ（最も多し）、蠅はバリ、蚊はモク、蚤はペロク、しらみはイくさかげらうはナツチヨリ、きりぎりすはエンチ、をば蜻蛉はコチチヨリ、樹蜂はテンピーみずかまきりはソクンチエニー、みづすましはチロムチエンニー、げんごろうむしはハヌルハグソウ

◎三重郡地方の昆蟲方言

三重縣三重郡大矢知村第二回全國害蟲驅除修業生　後藤信一郎

我三重郡地方に於て專ら稱ふる所の昆蟲の方言を記載せば左の如し

アブラムシをコドメ、エンマコホロギをチンチロリン、アゲハノテフ類をカミナリテフ、テントウムシ及イラムシ等の幼蟲をオコゼ、キリギリスをギリス、クマバチをダンゴバチ、トンボの幼蟲をメンカブリ、大なるヤマバチをクマノバチ、カナブンブンをオシブンブ、金龜蟲類をクソタレ、天牛の幼蟲をシンド、アリジゴクをオトンド、キクスヒダマシをホタルノオバ、クワガタムシをオニキクスヒをオニノコ、キリウジカガンボをカガンボノオバ、コクゾウをゴマ、ゲンゴロウ、ガムシ

類をミズクグリ、又縞なるをシマノミズクグリ、ペブリムシをヘフリブンブ、エボショコバイをハツト、オナガウジをセンチノコロコロムシ、又尾のなきものシカと云ふ、蠶蛆をハチ、ウマオヒをスヒテフン、クビキリバッタをシンバ、イナゴをガタギ、フウセンケムシをシリタキ、

通信

◎粟の夜盗蟲に就て

廣島縣廣島市害蟲調査所　第一回全國害蟲驅除講習生　鳥羽善七

近年到る處水田に浮塵子螟蟲等の發生せる報を聞くこと多きと共に畑作物に夜盗蟲の發生貪食するの慘報又切りに傳らる我縣下に於ても年々此夜盗蟲の爲めに特有作物、麻、藍、を初め其他荳菽類を害すること少なからず其損害の額に至りては未だ完全なる統計を得ざるが故に記することは能はざれども蓋し其額鮮少ならざるべし而るに此夜盗蟲と稱する一名稱の下には其種類極めて多く殊に其性貪食飽くことを知らざるものなれば一種の作物を特食することなく大抵發生後甲の嗜作物を慘食し盡す時は乙丙何れの作物と雖も悉く其餌料となすが故に其種類を研究すること容易ならざれども偶昨三十二年粟を害する夜盗蟲發生せしを以て調査に着手したり而るに此粟夜盗蟲は已に第二回全國害蟲驅除講習會に於て愛知縣三河國渥美郡に發生したる狀況を聞きしが如く本縣下の發生地に於ても一時無數に現出して其勢猖獗なりしも一朝忽然として其形を失ひ其被害高の如きも豫想の如く

ならざりしと聞けり之れ所謂有益蟲の爲めに斃したるにはあらざる平素より其經過に至りては茫として明かならず而して余が昨年前記發生地に於て採集し飼育せしものも五齢に至りて悉く寄生蜂の爲めに斃されたるを以て十分に其目的を極むる能はざりしは遺憾とする所なり只僅かに得たる事實を記して識者の敎を請はんとす

栗夜盗蟲ノ圖

栗夜盗の形態　成蟲　六月下旬――七月上旬と八月上旬――中旬の二期に發蛾す体軀は灰褐色を呈し複眼は圓く黒褐にして觸鬚は數十の關節よりなりて細長く根部は少しく太し前翅は殆んど長方形にして灰黄濃厚にして其中央部に大小二個の不正楕圓紋ありて其周圍は少しく黒味を帶び前翅の外縁には八個の小黒点を正列し翅端より後縁に向ひて淡黒の線斜に走り外縁に沿ふて濃灰の縁毛を生ず後翅は三角形にして灰黄色を呈すれども外縁に向ひ次第に濃厚となる縁毛は畧は同色にして長け六分五厘翅の開張一寸五分内外なり

幼蟲　老熟せるものは長け一寸四分内外圓筒形にして頭部は割合小中央部肥太尾端尠しく細かなる頭部は黄色にして粗毛を生ず胸腹部の背面は赤褐にして亞背線に小白紋を点列して細線をなし各關節此の亞背線の中央には淡黒斑を添ひ付し且つ二三の粗毛を生ず其腹面は灰黄色なり尙胸脚は黄褐腹脚は腹面の着色とは少しく濃なり此蟲の脱皮する前は一層濃厚にして脱皮後は淡薄なり老熟すれば土中に輪狀をなし漸々土層を設けて蛹となる

蛹は圓筒形にして赤褐色にして光澤あり長け六分五厘以上なり

被害の狀況　其蝕害の狀は卵より孵化するや一二齡の頃迄は多く晝間穗中に潜み居り夜間に出でゝ葉の裏面より葉綠組織を喰ひ表皮を白く透して殘す而して漸々成長するに從ひ晝は根際の土中に潜み夜間出でゝ葉端より蠶食するに至る如斯して一圃を蝕ひ盡せば隣圃に移りて再び貪食すること他の夜盜蟲類に異ならず故よ其蔓延極めて甚し、總て被害の區域も亦大なり而して此の夜盜蟲の蝕害の甚しき時は七月中旬――下旬と九月下旬――十月上旬の頃兩度にして前にありては粟を害すれども其二期のものは多く蕎麥を害す

有益蟲卽寄生蜂の形態　成蟲　頭胸部は光澤ある黑色にして觸鬚は黑褐を呈し三十三の關節よりなりて細長く糸狀をなし根部の二節は他節と異なりて短く且太し翅は透明にして前後共翅脈少なく前翅には中央脈の一條走り先端に至り龜甲狀に枝裂し後翅は二脈あるのみにて腹部の背面は黑褐なれども中央は薄く前後は濃厚なり脚は三對にして附節は各五節あり其第一節は長くして他の四節と殆んど同じく其端に二個の爪あり各腿脛節は粗毛を生ず体長一分二厘位にして翅の開張一分七八厘あり

幼蟲　卽ち蛆の老熟したる体軀は一分二厘位にして体の兩端細まり一方は特に細く十四の關節よりなり背面は淡黃色にして腹面は乳白色なり

蛹　白色にして木棉の桃より吹き出でたる如き粗造の繭（土上或は亂れたる葉上に）を營み此の内に夜盜蟲一頭　寄生したる蛆（百―百二三十）一塊に集りて白糸を吐き前の如き巢を造りて蛹となり化して成蟲小蜂となる凡そ此の寄巢を營みてより小蜂に羽化する時日は五、六日位なりとす

◎小學兒童の害蟲驅除賞品授與式景況

岐阜縣揖斐郡鶯村揖斐郡昆蟲研究會員　小森省作

去一月二十日揖斐郡鶯村尋常小學校内に於て同村の短期農事講習會修業證書授與式並に昨年夏期害蟲を驅除せし同校生徒二十一名に對し賞品授與式を擧行したり小學兒童の害蟲驅除に賞品を授與したるは縣下に於ては鶯村を以て嚆矢とすべき乎同日午後第一時より式を擧ぐ先づ高橋同郡長の挨拶あり而して後卅七名の講習員に順次修業證書を授與し次に小森同校訓導は兒童に賞品を授與せり（茲に尙ほ名和靖氏來校の紀念として寄附せられし昆蟲世界を驅除最多額の生徒九名に特別賞として授與す）次に山田安太郎氏、名和靖氏、宗宮信行氏、坪井伊助氏等の演説あり終て講習生總代野村乙三郎氏の答辭村長島本順八氏の挨拶にて式を畢り休憩後農事研究會を開きたり當日來賓の重なる人々は昆蟲學者名和靖氏、滋賀縣視學宗宮信行氏、揖斐郡長高橋俊益氏、同郡書記小林得次郎氏、長屋四郎兵衛氏、同郡農事巡回敎師山田安太郎氏、竹林家坪井伊助氏等にして參會者の總數二百余名に達し頗る盛會なりき因に同日賞品を受領したる兒童二十一名の少數なりしは同校の意見として兒童に直接驅除せしめんよりは害蟲の恐るべき觀念及び驅除の方法を授けて父兄及一般農民に普及せしめんが爲め浮塵子及螟蟲の成蟲或は卵塊の標本等を各兒童に配付して父兄に示さしむる等凡て父兄を以て先とし兒童驅除を第二とせしが故なり果せる哉其効果は現はれ昨年氣候不順の爲め各地凶作の聲高かりしにも拘はらず同村の如きは蟲害少なく收穫一昨年に譲らざるの豐作を呈せり故に本年の如きは農民一般自ら進んで苗代田の改良害蟲の驅除をなさんと意氣込み兒童は害蟲の發生期を俟つに至れり、當日賞與を受けし兒童の姓名及び其賞品は左の如し

一等賞　讀書敎本卷七一册、習字帖七一册、日本地圖一册、　小森省次郎

二等賞　文具箱一個、日本地圖一册、　小川茂

同	同上	佐々木源太郎
同	讀書教本巻五一冊、習字帖五一冊、手帖一冊、	鳥本與市
三等賞	習字用筆八本、	佐々木惣平
同	裁縫箱上等一個、	白木ちゑ
同	日本地圖一冊、上等筆記帳一冊、	野村永助
同	裁縫箱上等一個、	佐々木きぬゑ
四等賞	筆五本、筆筒一個、	河村益太
同	同上	佐々木榮作
同	同上	三間源三
同	同上	鳥本伊作
同	裁縫箱中等一個、筆筒一個、	佐々木こと
同	筆五本、筆筒一個、	佐々木きくよ
同	同上	飯沼政司
同	裁縫箱中等一個、筆筒一個、	河村ちよの
同	同上	宇佐美春子
五等賞	日本地圖一冊、	堀口長作
同	上等筆記帳一冊、	佐々木市松
同	同上	宇佐美兵作
同	同上	宇佐美煥

右賞品は年級等其兒童の境遇ゟより成るべく必要なるものを見立たるものゟて代金は一等廿五錢、二等貳拾錢、三等拾五錢、四等拾錢、五等八錢づゝとせり尙此內金貳圓參拾貳錢五厘丈は郡費より補助せられたり

◎浮塵子に關する講話の畧記

岡山縣赤坂郡西高月村害蟲驅除修業生　故　引　夏　次

明治三十二年五月中岡山縣農事巡回敎師岸歌治氏の赤坂磐梨郡農事講習會の生徒に對し浮塵子ゟ關する講話の畧記なり

稻の浮塵子

種類

電光横這、褄黒横這、鬚丸横這、大横這、縞横這、二星横這、白色横這、茶色横這、

褄黒這　經過

産卵五月廿日
孵化五月卅一日

第一化期		第二化期		第三化期		第四化期	
一回脱皮	六月五日	一回脱皮	七月十三日	一回脱皮	八月十五日	一回脱皮	九月十四日
二回同	六月十二日	二回同	七月十六日	二回同	八月十九日	二回同	九月廿五日
三回同	六月十八日	三回同	七月廿一日	三回同	八月廿三日	三回同	十月十六日
四回同	六月廿五日	四回同	七月廿七日	四回同	八月廿八日	四齢にて越年す	
産卵	七月七日	産卵	八月四日	産卵	九月三日		
孵化	七月十日	孵化	八月十一日	孵化	九月十日		

◎ヨコバイに就き質問

福井縣三方郡八村同郡害蟲驅除修業生　山口六郎左衛門

明治三十二年六月中小生所有の田に接する桑畑に極大なるヨコバイ多く飛ぶあり然るに其後ち七月上旬其田の稻を叩き見るゝ縱て縞にして長形の羽なきものと共に飛びたり之を見るに此幼蟲なることを確めり之れは桑樹を害すか又稻を害するか未だ被害を見受けず願はくは此蟲の性質を教授あらんことを希望す

答　　名和昆蟲研究所助手　名和梅吉

質問箇にして何種なるや判然せずと雖も單にヨコバイと稱するものとして答へん該蟲は常に菘菜類、大小豆及各種の雜草中に多くして成蟲幼蟲共に液汁を吸收す稻田には稀に見るのみにて被害少なし而して桑樹には只上圖に示すが如き樹皮内に產卵して被害を與ふるものにして別に液汁を吸收することなきものゝ如し

ヨコバイ產卵の痕跡

◎雪上の昆蟲に就き質問

福井縣三方郡八村同郡害蟲驅除修業生　山口六郎左衛門

明治三十二年二月十四日降雪し翌十五日天晴れるや午前九時頃區内に緣談あり近道を望み田道を通り其邊を眺めしに雪積上面に色黑き幼蟲の這ふこと數多なり雪中にも不拘蟲の這出るは實に不審に思ひ夫より足を田面へ踏み替へ視察するに二毛田には悉く這へ出てたり故に當區の驅除員へ之を報し採集法を托す惟ふに先年十一月麥の葉色赤くなり枯るゝもあり實に奇怪のことゝ思ひ區老人等心苦しつゝあり之れ果して此蟲にして斯かる寒中に這出でたる原因は降雪前より一端極く晴天にして暖ずして只日光の方を目的とし這出たるならんと思考せり此蟲は前述の如く黑色にして恰も切蛆に類似したるものなり依て早速四五十疋を採り皈り直に當郡役所へ寄送せしも何等の回答も無く日を過ごせり如斯き蟲と考へしも未だ其成蟲を見ず希くは該蟲の事實を御教授わらんことを乞ふ

答　　名和昆蟲研究所助手　名和梅吉

現蟲の添附なきを以て何蟲たるや確答し難しと雖も雪上に顯はるゝ昆蟲に就ては是迄新聞紙上にても散見せしことありしが現蟲を見るを得ざりし然るに不圖も余は本年雪上に小形なる黒色蟲の飛躍するものに出遇へり依て之を驗するに全く彈尾類に屬するトビムシ（Achorutes communis, Folsom.）にてありき此蟲は別に生植物を食せず有機質物を食するものなれば麥等には被害なし問者の發見せれらし種も定めて同種ならんと信ず

◎第二版圖の説明　新年の賀狀に單に恭賀新年とか新正とか記したるのみにては如何にも殺風景の感あり然るに近來種々目新しく然も有益にして且つ面白き意匠を凝したるもの漸次多くなるは喜ばしきの到りなり今茲に昆蟲に關するもの三四を集めて第二版圖を作る（一）は愛媛縣の小林傳四郎氏（第一回全國害蟲驅除修業生）（二）は福岡縣の嶺要一郎氏（特別通信委員）（三）は山口縣の小田勢助氏（第一回全國害蟲驅除修業生）及び（四）は長野縣の小山海太郎氏にして此外澤山ありたるも一切茲に省畧す願くは明年の賀狀は一層進歩せんことを希望す

◎諸氏の來所　一月七日岐阜縣不破郡靜里村馬淵秋四郎氏十九日大坂市西區土佐堀通二丁目石井重任氏及び同市同區新農報記者由比昌太郎氏同日德島縣屬石立半三郎氏、廿四日滋賀縣農事試驗場助手西澤大吉氏、廿七日岐阜縣不破郡岩手村兒玉氏信氏、同日農商務省技師練木喜三氏、及岐阜縣農事巡回敎師山田與十郎氏並に同縣蠶絲撿查員日比野新氏同縣揖斐郡書記長屋四郎兵衛氏、卅一日岐阜縣稻葉郡島村、害蟲驅除修業生木村儀三郎氏、二月一日同縣羽島郡書記坂口藤一郎氏六日同加茂郡八百津町永田確郎氏七日香川縣蠶業巡回敎師上技憲雄氏、八日埼玉縣技手脇田重太郎氏其他

縣下の有志者數十名何れも昆蟲標本を縱覽し或は夫れ〲取調られたり

◎第十四回岐阜昆蟲學會　同會月次會は二月三日（第一土曜日）午後第一時例の如く岐阜市京町岐阜縣農會樓上に於て開會せり今其摸樣を記せば第一席名和昆蟲研究所長名和靖氏は開會の挨拶を述べ次に岐阜縣第一回害蟲驅除修業生小竹浩氏は農業と昆蟲に就て第三席揖斐郡昆蟲研究會代表者坪井春吉氏は小學生徒の害蟲驅除の結果に付て第四席岐阜縣第二回害蟲驅除修業生森島勘次郎氏は加納米と害蟲驅除に就て同地は縣下肥沃の土地にも不拘屈指の下等米に列するは全く蟲害の致す所にして農家は蟲害を怖れて晩植に流れ爲に米作改良の不振を慨し同氏は奮て早植を行ひ大に好成蹟を得たることを述へ、第五席名和靖氏は今度柑橘類害蟲取調への爲め京都奈良地方巡回中奈良縣山邊郡に於て去る一日より開設の柑橘共進會へ出席せしに出品總數六百六十八点の多きも一として害蟲たる介殼蟲の附着せざるは無く是れ全く害蟲驅除に冷談なるを證するなりと其他同氏は工藝品の昆蟲書の不完全なるを歎し京都美術工藝學校にて調査せられし事に就て（此時一先休憩す）第六席岐阜縣第一回害蟲驅除修業生松野春一氏は害蟲驅除と農家の關係に就て、第七席農事講習生後藤三作氏は所感に就て、第八席岐阜縣第一回害蟲驅除修業生棚橋善二氏は螟蟲驅除とジバチに就て、第九席同じく梅田倉藏氏は桑の害蟲枝尺蠖驅除に就て、第十席岐阜縣農事巡回教師鈴木茂市氏は昆蟲の和名を學名の如く一定す可きを望み既に各地の篤志者希望する所なるも未だ實行なきは遺憾なりとて昆蟲學の大家佐々木博士、松村學士、名和専門家其外二三氏の命名せしを對照表と成し之を示して演說し終りに名和氏は明年開設すべき昆蟲展覽會の規則及び各地出品準備の摸樣を講話せられたり時に午後五時なりき當日は雨天なれ共出席者六十有余名にして盛會なりしと云ふ

◎小學校敎員昆蟲講習會　當昆蟲研究所に於て是迄小學校敎員に對する昆蟲講習會を開設すること三回にして何れも都合能く結了し其効果も追々と現るゝに至れり今其姓名を左に表列す但し姓の上にある■は舍長▲は副舍長●は組長なれども揖斐郡に限り舍長副舍長は監督者に於て兼務

從六月五日至同九日五日間		
岐阜縣揖斐郡		
姓名	生年月	職名

從七月十八日至同月廿二日五日間		
岐阜縣羽島郡		
姓名	生年月	職名

從八月三日至同月廿三日三週間		
愛知縣渥美郡		
姓名	生年月	職名

組	氏名	生年月	職
第一組	野口治三郎	明治十年二月	訓導
第一組	竹中政一	安政四年九月	訓導
第一組	●林治郎右衛門	嘉永元年九月	訓導
第一組	高橋芳太郎	明治二年七月	訓導
第一組	土岐鐵二郎	万延元年四月	校長
第一組	岩塚鴻之輔	嘉永四年四月	訓導
第一組	●津屋基	安政五年五月	校長
第一組	永田碩彥	明治三年二月	校長
第一組	●田村政五郎	明治八年八月	訓導兼校長
第一組	中神清太郎	文久元年三月	雇
第一組	小柳津廣三郎	明治八年七月	訓導兼校長
第一組	柴田綾太郎	明治七年四月	訓導
第二組	●宇野常松	慶應元年九月	訓導兼校長
第二組	井深房太郎	明治十年十月	訓導
第二組	長屋郁郎	慶應二年五月	訓導
第二組	平野武次	明治十二年九月	准訓導
第二組	岩田繁治郎	文久三年二月	訓導
第二組	●大熊正直	慶應元年三月	校長
第二組	岩田源作	明治十六年十月	雇
第二組	横山政右衛門	明治十三年七月	准訓導
第二組	●古溝喜代太郎	明治三年十月	准訓導
第二組	藤井治郎作	明治八年二月	訓導
第二組	谷山藤平	慶應三年一月	訓導
第二組	大矢重治郎	明治五年十二月	訓導
第三組	福田敏省	明治元年九月	訓導兼校長
第三組	坪井春吉	明治二年正月	訓導
第三組	●若原達造	明治八年一月	訓導
第三組	上田護一	安政六年六月	訓導
第三組	小島實	安政六年八月	訓導
第三組	安藤幸之助	嘉永六年七月	校長
第三組	●堀愛次郎	文久二年八月	訓導
第三組	津田健次郎	安政二年十一月	訓導
第三組	●彥坂幸太郎	明治六年二月	訓導兼校長
第三組	杉浦吉平	明治十四年一月	雇
第三組	兵藤京藏	明治六年二月	准訓導
第三組	河合浦治	文久元年九月	訓導
第四組	野原三津三	慶應三年一月	訓導
第四組	●原篤三	明治六年三月	訓導
第四組	窪田壽一	明治九年八月	訓導
第四組	國枝秀治	明治二年八月	訓導兼校長
第四組	●廣瀬謙吉	嘉永三年三月	校長
第四組	河合壽太郎	明治二年二月	雇
第四組	太田豐三郎	文久二年七月	訓導
第四組	速水良太郎	明治十三年十一月	准訓導
第四組	●間瀬半助	明治九年八月	訓導兼訓導
第四組	鈴木保一	明治十五年三月	雇
第四組	彥坂久藏	明治六年九月	訓導
第四組	彥坂利作	明治三年九月	訓導兼校長
第五組	弓削良彌	万延元年三月	訓導
第五組	●樋口貞雄	明治元年八月	訓導
第五組	窪田悟三	明治元年十一月	訓導
第五組	窪田光治郎	明治四年五月	訓導
第五組	岩田逸次郎	明治九年十月	訓導
第五組	●伏屋房吉	明治六年十二月	校長
第五組	花村倭三郎	明治元年九月	准訓導
第五組	山田廣助	明治十一年六月	訓導
第五組	●飯野市藏	文久二年五月	訓導兼校長
第五組	野口惣吉	慶應元年七月	訓導
第五組	佐原啓次郎	慶應二年六月	村農會長
第五組	長濱丈助	明治三年九月	准訓導

組	氏名	生年月	職
第六組	岸達之丞	明治八年一月	訓導
	國枝六郎	[illegible]年八月	訓導
	河村濱助	嘉永四年四月	訓導
	●高橋長雄	明治九年六月	雇
	平子喜一郎	安政三年八月	訓導
	▲舍利井金一郎	文久元年十二月	校長
	加藤彦重郎	慶應元年十月	訓導
	●後藤吉衛	文久二年三月	校長
	武藤寅次郎	慶應二年九月	校長
	●田中周平	文久二年十二月	訓導
	河邊嘉一	明治七年一月	訓導
	鈴木澄藏	文久三年十二月	訓導
	大久保一彌	明治五年[illegible]月	雇
第七組	●河合鑑吉	嘉永三年十一月	訓導
	渡邊齊知郎	明治十一年五月	雇
	森鑑太郎	明治二年十月	訓導
	東松源市	明治十一年八月	訓導
	●仲井式次郎	明治[illegible]年三月	訓導
	山本孝太郎	明治八年十二月	訓導
	鈴木額之	明治八年二月	准訓導
	長神慶	明治九年一月	訓導
第八組	赤尾禮次郎	萬延元年一月	准訓導
	野田繁三郎	明治十五年[illegible]月	雇
	●森川玉三郎	明治六年八月	訓導
	熊澤重太郎	明治六年十一月	訓導
	●鈴木里吉	明治九年八月	訓導兼校長
	▲高橋譽四郎	明治五年七月	訓導兼校長
	伊藤要藏	明治六年四月	訓導
	河合重吉	明治六年十月	訓導
第九組	●山口七九郎	嘉永六年十一月	訓導
	渡會米三郎	明治二年八月	訓導
	齋藤專吉	明治七年五月	雇
	丸井近藏	明治十年一月	[illegible]

◎佐々木博士の害蟲篇評　在米國スタンホルド大學に居らるゝ理學士桑名伊之吉氏より佐々木博士著の日本農作物害蟲篇の評を寄せられたれば左に掲載することゝなしぬ

頃日友人名和梅吉君佐々木博士著の日本農作物害蟲篇を余に寄贈す讀再讀其實業家に有益なる一小冊子なることを學び得たり、書中悉く博士が多年の間調査研究せし結果を以て滿たされたれば

從來世ょ流行せる洋書の直譯抜書き等の類こ趣味を殊にせり、歐米諸國夙に斯學に注目し孜々其研究に從事するの時ょ當り本邦にては未だ重要農作物有害蟲及び有益蟲の調査充分ならざるの際博士の此著わる亦賀す可きなり、博士が總論ょ於て昆蟲の地位、解剖、飼育法、標本製造、分類法及び其他要点を陳述し各論に至りて農作物害蟲に就き一々其經過常習驅除豫防法を細密に記し被害植物の形狀を明示するに挿圖と參照す序次其宜敷を得たりと云ふ可し實業家は何時にても農作物被害の形狀に依り害蟲の何種なるやを容易に發見することを得るのみならず又之を驅除することを得べし、博士が現今諸昆蟲家の分類法ょつき意見を異にするの時に當り二三大家の分類法を掲げ彼此を參照せしは後學者の誤迷を除くに足れり晋博士が目下最も天然に近かしと信ずる分類法に依らずして比較的古昔に偏するクラウス氏分類法ょ依りたるを惜む然りと雖も博士又自から考ふるところわる可ければ黄口喙を容るゝ所にあらず博士は實業に有益なる菌類寄生動物鳥類及び其他の名彙を掲げ保護す可きを說き主要殺蟲劑等の名稱及び調合法を明記す蓋し前者は天然的驅除法を教へ後者は人爲的驅除法を論ずる所以なり豈に賞賛せざる可けんや余は期して俟つ博士が緒言に豫報せる菓樹害蟲、森林害蟲、家屋害蟲及び益蟲等の諸篇の早く世に公ょせられんことを而して後ち始めて余等は本邦害蟲驅除の階梯を得たりと云ふべし、

◎新刊雜誌の昆蟲記事

新刊雜誌中に掲載せられたる昆蟲に關する重なる記事は左の如し

（一）愛媛縣農會報（第九號）　北宇和郡農會害蟲驅除講習會續報と題して講習會の實況を詳記す

（二）高知縣農會報（第八號）　三化生螟蟲の發生に就てと題して西山愛農生は高知縣下にも發生せしことを詳記せらる

（三）農業雜誌（第廿五卷第三二）　昆蟲の害毒並に利益は米國理學博士河內忠二郎氏の前號の續きにして本號にて完了す

（四）動物學雜誌（百三十五號）　日本產蝶類圖說（着色石版圖入）宮島幹之助氏、日本產脈翅類に就て松村松年氏、食蟲鱗翅類シモフリシジミに就て小山海太郎氏、其他鱗翅類ょ關する試驗的研究、岡山縣よりの蝶報等を載す

（五）農事雜報（第十九號）　天蠶及作蠶の利益育蠶子、螟蟲及浮塵子圖入りにて農學士矢崎亥八氏前號の續にして本號にて完了す、三化螟蟲農學士小橋健吉氏等なり

（六）通俗農談會（第三十五號）　昆蟲雜記（其廿三）名和梅吉氏の說を載す

（七）果物雜誌（第五十一號）　介殼蟲に就て圖入にて理學博士佐々木忠二郎氏の說を載す

（八）博物學雜誌（第十九號）　蟲癭の話は林學士新嶋善直氏の說にして本號にて完了

茶樹害蟲尺蠖被害の慘狀の圖

◎茶樹の害蟲尺蠖　過る年京都府宇治郡木幡近傍の茶園五十余町歩に尺蠖の一種大發生して非常なる慘狀を蒙りたることは其當時當所雜誌上にて諸君の御承知なる所なるが本所員は特は該被害地に出張して取調ぶるのみならず其前後に於て數回となく出張調査し當業者に注意を促したり然るに過日新聞紙上にて復又發生せる由記載ありしが該蟲に就ては京都府廳よりの奬勵に依り諸色庫の壁を悉く白壁となしたれば自然減少するに至れり是全く該蟲の性質を取調べたる結果なり即ち該蟲の此諸色庫（玉露茶園に要する器具を入るべきもの）の粗造なる壁の龜裂間に產卵するものを防禦したるが故なり而して上圖に示すものは大發生の際山林中に發生せしものが茶園に傳播して非常なる慘狀を來さしめたる有様を本所助手が被害地に出張中紀念の爲め撮影せしものなり

◎昆蟲展覽會出品費補助　明治三十四年四月十六日より一ヶ月間當研究所主催となりて開設する第一回全國昆蟲展覽會へ出品の爲夫々準備し居らるゝことは往々聞く所なるが茲ゝ岐阜縣揖斐郡にては已に昨年十二月郡會開設の際郡費より金拾五圓を同郡昆蟲研究會へ補助して出品を奬勵せらるゝ由何れも斯くありたし

◎揖斐郡の驅蟲費補助　岐阜縣揖斐郡は明治三十二年度に於て同郡小學校兒童害蟲驅除賞として郡費より金五拾圓を補助し夫々奬勵せられたる所何れも好結果を奏せりと云ふ（本號通信欄の小學兒童害蟲驅除賞品授與式景況の一項參照）今左ゝ分配せし金額並ゝ校名を記す

一金參圓四拾八錢八厘宛　六校計金貳拾圓九拾參錢八厘
揖斐町（揖斐學校）、谷汲村（谷汲學校）、富秋村（富秋學校）、川合村（川合學校）、西郡村（西郡學校）、宮地村（宮地學校）、

一金貳圓參拾貳錢六厘宛　十一校計金貳拾五圓五拾八錢六厘
大和村（南方學校、房嶋學校）、北方村（北方學校）、長瀬村（長瀬學校）、豊木村（豊木學校）、大野村（大野學校）、鶯村（鶯學校）、清水村（清水學校）、本郷村（温知學校）養基村（養基學校）、小島村（小島學校）

一金壹圓拾六錢貳厘宛　三校計金參圓四拾八錢六厘
八幡村（八幡學校）、久瀬村（三倉學校）、横倉村（横倉學校）、

◎下飯坂氏の濠州行　第一回全國害蟲驅除修業生下飯坂武次郎氏（岩手縣）は農商工高等會議員井上甚太郎氏と同行一月廿三日横濱出帆清國を經て濠州へ渡航し産業視察の傍ら昆蟲の調査をもさるゝ筈なれば何れ其内面白き報告の達するならんと信ず

◎サンノゼー鱗蟲に就て　該蟲の本邦に産するとは曾て報せし處なるが該蟲の原産地は未だ判然せざりし然るに昆蟲學者ハワード氏は應用昆蟲學會報告に掲載して曰く該蟲は日本より米國に輸入せしものか或は米國より日本に輸入せしかの内なるが恐らくば日本より米國に輸入せし者ならんと結論せられたり右に付在米國の桑名伊之吉氏は今夏該蟲取調の爲め飯朝せん筈なり

貴地方へ漫遊中は到る所御歎待を蒙り萬謝の外無之候早速御挨拶可申上筈の處帰縣後極めて多忙に御座候間乍略儀以誌上御禮申上候

明治三十三年二月

名和靖

京都府大阪府奈良縣
辱交諸君

○動物學雜誌 第百三十五號 一月十五日發行

目次

發賣所 東京神田裏神保町 合名會社敬業社
同 東京日本橋區通三丁目 丸善書店

○博物學雜誌 第十九號 一月二十日發行

定價一册金拾錢郵稅壹錢十二册郵稅共壹圓廿錢

發行所 東京市神田區五軒町壹番地 動物標本社

農學士松村松年氏著
○害蟲驅除全書 定價郵稅共金九拾五錢

鳥羽源藏氏著
○昆蟲標本製作法 定價金貳拾五錢郵稅四錢

取次所 岐阜市京町 名和昆蟲研究所

興農雜誌

見本一册郵劵五錢○第四十四號○一月發行

●每月一回發行●半ヶ年分郵稅共金卅錢●一ヶ年分同金五拾錢●文章示易記事最嶄新

東京市赤坂區溜池町五番地 東京興農園

（明治三十年九月十日内務省許可
明治三十年九月十四日遞信省認可）

○昆蟲世界第貳拾九號目次

●岐阜昆蟲學會月次會廣告

岐阜昆蟲學會の月次會は毎月第一土曜日午後正一時より岐阜市京町岐阜縣農會樓上に於て開會する筈なれば萬障御繰合の上毎回御出席御演說に預り度候尤も第一土曜日は名和昆蟲研究所員一同午前より研究を中止し居れば精々早く御出席に相成候得ば斯學研究上出來得る限り御便利御與可申上候以上

但し該會へは縣の內外を問はず有志者諸君は廣く御出席を請ふ

名和昆蟲研究所內

岐阜昆蟲學會

明治三十三年一月

岐阜昆蟲學會月次會本年中の日並は左の如し

第十五回月次會（三月三日）
第十六回月次會（四月七日）
第十七回月次會（五月五日）
第十八回月次會（六月二日）
第十九回月次會（七月七日）
第二十回月次會（八月四日）
第廿一回月次會（九月一日）
第廿二回月次會（十月六日）
第廿三回月次會（十一月三日）
第廿四回月次會（十二月一日）

一金五拾錢也　　岐阜縣稻葉郡南長森村　足立佐吉君

右本會へ寄附相成候に付芳名を掲げ其厚意を謝す

明治三十三年二月

岐阜昆蟲學會

●名和昆蟲研究所案内

市街界
案內道
町道
研究所
縣廳
病院
中學校
監獄
郵便局
西別院
公園
長良川
金華山
停車場

當研究所の位置は上圖の如くにして停車場よりは僅十餘町なり當所には常設の昆蟲標本陳列室あり新設の養蟲室もあれば有志の諸君續々來訪あれ

岐阜縣岐阜市京町
名和昆蟲研究所

●本誌定價並廣告料

壹部郵稅共金拾錢（見本は五厘郵券
十部郵稅共金九拾錢　貳拾枚にて呈す）
（注意）本誌は總て前金に非れば發送せず
●爲替拂渡局は岐阜郵便電信局●郵券代用は五厘切手にて壹割增とす
●廣告料五號活字廿一字詰一行に付き金八錢とす
一行以上一行に付き金十錢三十

明治三十三年二月十五日印刷並發行

發行所　岐阜縣岐阜市今泉九百三番戶ノ二（岐阜縣岐阜市京町）
名和昆蟲研究所

發行者　岐阜縣岐阜市今泉九百三番戶ノ二
名和靖

編輯者　同縣山縣郡岩野田村大字粟野百廿三番戶
桑原貫之助

印刷者　岐阜市笹土居町四十四番戶
安田豊八

（岐阜市安田印刷工場印行）

PRINTED BY YASUDA TYPE PRINTING WORKSHOP, 19, Higashi-tsukasa-machi, Gifu, Japan.

Vol.IV. MARCH 15TH, 1900. No. 3.

THE INSECT WORLD:

A MONTHLY MAGAZINE.
EDITED BY Y. NAWA.
GIFU, JAPAN.

（三月十五日發行）

（毎月一回定時刊行）

昆蟲世界

第四卷第參册（第參拾壹號）

目次

（禁轉載）

PUBLISHED BY THE NAWA'S ENTOMOLOGICAL LABORATORY IN GIFU, JAPAN.

◎寄附物品受領公告

一金貳圓也　岐阜縣屬兼縣視學　稻垣知剛君

一金貳拾錢也　福島縣河沼郡若宮村　新國豊七君

一舶來器具　六種　寫眞壹葉　東京市本郷區西片町拾番地ロ四號　武田五一君

一Cornel University Agri. Exper. Station, Ent. Division. Bulletin 78. 一冊　在米國スタンホルド大學　理學士　桑名伊之吉君

一蟬の幼蟲（一頭）チヤバネヒカゲ（一頭）　岡山縣邑久郡農會幹事　林甚八君

一ヤマカマス繭　拾四個　千葉縣印旛郡佐倉町　堀田家農事試驗場

一養蜂協會養蜂講義録第二回第二號　一冊　東京市小石川區上富坂町七番地　養蜂協會

一國民新聞（壹葉）（昆蟲記事掲載）特別通信委員　山口縣玖珂郡新庄村　小田勢助君

一國民新聞（壹葉）（昆蟲記事掲載）　千葉縣長生郡鶴枝村　林壽祐君

一螟蟲採卵三千萬塊の寫眞（壹葉）　岡山縣農事巡回教師　岸歡次君

一奈良縣農事試驗場内養蟲室寫眞（二葉）　大阪市西區川北西野新農報社内　由比昌太郎君

一昆蟲飼入陶器　數種　岡山縣邑久郡農會頭　朝倉力治君

一昆蟲飼入陶器　一個　岐阜縣農事巡回教師　鈴木茂市君

一浮塵子產卵の稻藁　數拾本　滋賀縣滋賀郡膳所町　西澤大吉君

右當研究所へ寄附相成候に付芳名を掲げ其御厚意を謝す

明治卅三年三月

岐阜市京町　名和昆蟲研究所

◎廣告

第三回全國害蟲驅除講習員募集

開期　自三月廿一日　至四月三日　二週間

定員四十名

第三回は已に滿員と相成第四回分も最早滿員に近き有樣なれば此際希望者は速に申込みあれ

但し詳細なる規則は郵劵貳錢送附あれば直に送呈す

明治三十三年三月

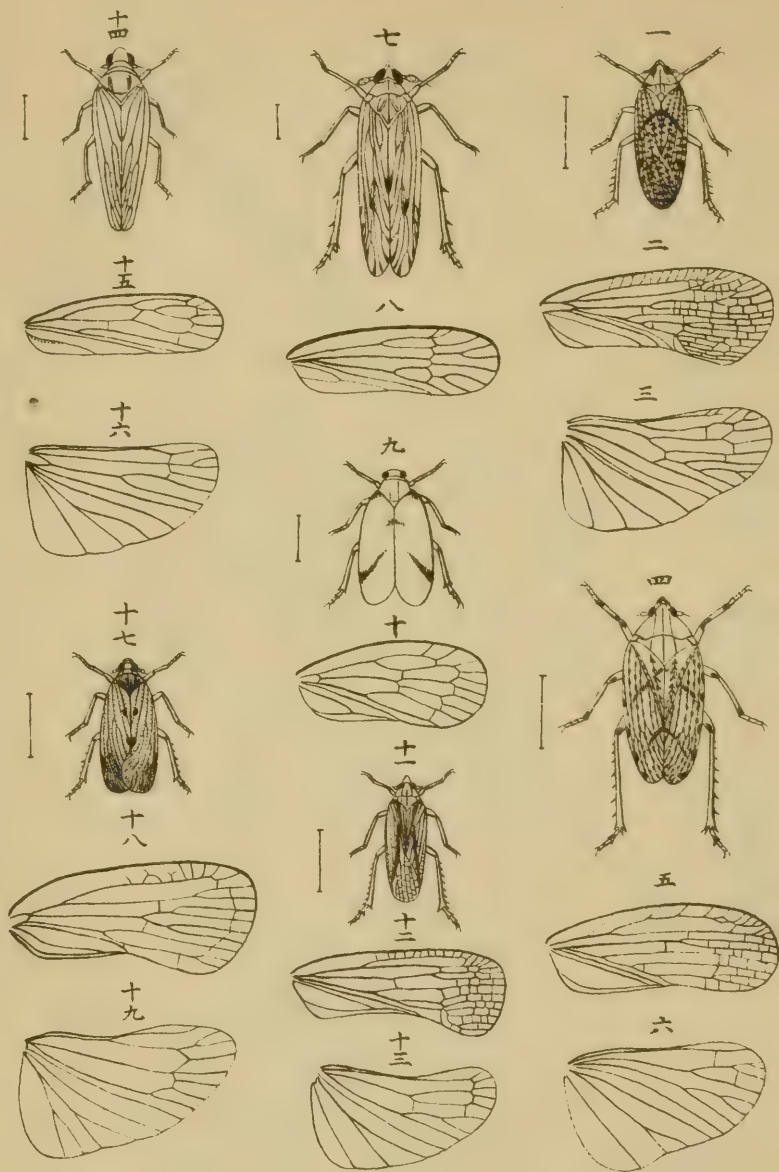
岐阜市京町　名和昆蟲研究所

全回害蟲驅除講習生同窓者に告ぐ

本月廿一日より四月三日迄二週間第二回全國害蟲驅除講習會を開設し四月三日午前中に修業証書授與式を擧行する筈なれば萬障御繰合せ御臨席に預り度尤も遠路御臨席相成がたき諸君は祝辭なり紀念品なり何なりとも御送附に預り候得ば極めて好都合に有之候何れ右の實況は昆蟲世界誌上に於て詳細御報告可申上候

全國害蟲驅除講習生同窓會

明治卅三年三月　名譽會長　名和靖

全國害蟲驅除講習生同窓者諸君御中

(一)クロヒラタヨコバイ (七)オホトビイロヨコバイ (十四)オホセスジヨコバイ
(四)オホヒラタヨコバイ (九)ハチノジヨコバイ (十七)ウスイロヒラタヨコバイ
(十一)スジヒラタヨコバイ

（明治三十三年三月）

論説

◎桑樹害蟲枝尺蠖驅除法に就て（承前）

名和昆蟲研究所長　名和靖

寄生蟲　エダシヤクトリに一種の寄生蟲ありて大ひに繁殖を妨害して往々吾人に幸福を與ふることあるも農家は殆んど是を知らざるものゝ如し其寄生蟲とは小蜂の一種にしてカモドキバチ（新稱）と名く該蜂の來りてエダシヤクトリの体内に産卵する時は卵子孵化して幼蟲即ち白色の蛆となり体肉を食害するを以てエダシヤクトリは漸次衰弱して遂に黒色に變じ頭部下垂して全く斃るゝに至る此の際蛆は充分よ成長して体内に於て蛹に化し後變じてカモドキバチと成り体皮に小孔を穿ちて飛散するものなり此の蜂や明治二十三年五月廿九日の朝一頭のエダシヤクトリより八十一頭出でたるを見たり

斃れたるエダシヤクトリの圖

（十一）或人カモドキバチのエダシヤクトリの体内より出るを見て予に語て曰く彼の農家のも最も恐るゝエダシヤクトリの一頭の内より蚊の如きもの數十頭出づ若し此等の四方に散亂するに於ては後日桑葉の容易ならざる

害蟲となるや明なり故に黑色となりて斃れたる者を集め燒き盡すときはエダシャクトリを驅除する最良法ならんと熱心に語たりき予聞て痛く驚き是れぞ寄生蜂の一種にして蚊に似て非なるものなり正しく彼は害蟲にあらずして却て害蟲を斃す有益蟲なり宜しく愛護すべき大切の種類なりと話し出でしに其人愕きて歸り去れり此の如き誤りは常に多く見聞する所にして蚜蟲を惡むの餘り有益蟲なるテントウムシは却て害蟲の親蟲なりと思ひ悉く殺し盡したる人も夥多あり注意すべき事なり

カモドキバチのエダシャクトリに寄生するや年と場所とに關して大ひに差異あることあり現に岐阜地に於て明治廿三年は夥多發生したれども翌廿四年には一頭をも寄生蟲に罹りたるものを見ざれども廿五年には多く生じたるを見たり

カモドキハチの圖　♀

カモドキバチの大さ雄は雌よりも常に小形なり而して雄蟲は頭部、前胸部並に足部は黃褐色、中後の胸部並に腹部黑色なり而して腹部の背上に於て第二關節と第一關節の末端少しく黃褐色を呈するも多くは雌蟲の如く著しからず觸角は黑色にして三十七關節を有せり

（十二）カモドキバチの雌雄各々十頭を測りて平均數を得たるに雄は軀の長さ一分四厘強にして翅端の長さ二分六厘強なり雌は軀の長さ一分五厘にして翅端の長さ三分弱なり

（雄）体の長さ

頭數	分	厘
四	一	五
六	一	四
平均	一	四

（雌）体の長さ

頭數	分	厘
一	一	七
二	一	六
五	一	五
二	一	四
平均	一	五

（雄）翅端の長さ

頭數	分	厘
一	二	九
三	二	八
一	二	七
一	二	六
四	二	五
平均	二	六

（雌）翅端の長さ

頭數	分	厘
一	三	二
七	三	〇
一	二	九
一	二	八
平均	三	〇

○○○○○○○驅除並に豫防法

エダシャクトリの驅除法たるや種々あれども一人一已の力にては到底好結果を得ること能はざるも勉めて共同驅除法を行ふ時は始めて効を奏するものなれば大ひに注意すべきなり

今茲に飛騨國益田郡に於て實行せし驅除法の一例を記さん

益田郡に於てはエダシヤクトリの發生する從來の習慣として各自家族を擧て桑園に入り是が驅除に從事し毫も怠らず殊に川西、下呂、三郷、諸村の如きは其發生夥しくして是を桑主に任せ置く時は容易に驅除し盡すべきにあらざれば協議の上各區に豫防委員なる者を置き役塲吏員是を監督し時々桑園を巡視せしめ若し驅除充分ならざるものを見れば直に園主へ通知し再三驅除せしむる等勸誘奬勵怠らざるなり然して其驅除の法たる各人の意向に出て一定せずと雖も其施行せし二三の法を擧ぐれば蛾は重に夜間焚火をなし之を誘殺し幼蟲は手にて捕殺するあり或は細き竹竿の先に鳥黐を附し是を以て捕ふるあり又冬期は積雪嚴寒の日に當り早朝桑園に出て竹箒を以て枝條を掃ひ其落ちたるを拾ひ集めて焚殺するあり又或は落葉の期節樹幹に藁を纒ひ置き此の蟲の暖を求めて充分潜伏せしを俟ち是を集めて焚殺する等の方法なりとす而して其成蹟たる素より滅盡するが如きは到底望むべからざるも著しく減少せしむることを得たり

(一)竹の筒又は手桶に水と少許の石炭油とを注ぎたるものを左の手に持ち右の手にて捕へたるエダシヤクトリを直に投げ入れ多く集りたる後肥料に用ゆべし

(二)枝の如くに附着したるものを剪刀にて鋏み切り又は火繩にて燒き又は鳥黐或は眞綿を竹竿の先に附着して捕獲するが如き法をも適宜行ふべし

(三)成蟲卽ち蛾は捕蟲網にて捕獲すべし

(四)繭は葉或は枝又は朽所土中等に造るものなれば勉めて取り去るべし

(五)秋季桑樹の所々に藁を以て纒ひ置く時は多くは潜伏するに依り冬期悉く集めて堆積肥料を製すべし

(六)枯枝並に孔隙多き桑樹には自然潜伏の塲所も多ければ隨ひて害蟲の多きものなれば勉めて是等に注意すべし

(七)寄生蟲を愛養する爲に斃れて黑色に變じたるエダシヤクトリを取り去るべからず　(完)

◎本邦産浮塵子の種類に就て（承前）

名和昆蟲研究所助手　名　和　梅　吉

第二十二　クロヒラタヨコバイ　Gn? sp?　（第三版第一圖）

該蟲は全躰暗褐色にして靜止する時は翅を殆んど水平に收むるが爲め扁平に見ゆるを以てクロヒラタヨコバイの新稱を附せり腹端まで二分六七厘許翅を躰上に收むる時は腹端より出づること三、四厘内外あり其狀第三版第一圖に示すが如し頭部は鈍き三角形をなして頭頂は大ひに凹めり複眼は茶褐色を呈し單眼は二個ありて複眼下にあり觸角は三節より成り基節は短小にして毛を生ず第二節は楕圓形なり第三節は最小圓形を成し之より一本の粗毛を生ぜり額面は稍や長方形を成し中央に一條と曲緣條を有し此線唇基板に達す口吻は長くして後脚の附元に達せり前胸部は是迄記載したる種類と違ひ「ヘ」の字形を爲さずして前方は三角形を成し突出して恰度頭頂の凹部を覆へり而して三條の隆起線を有せり中胸部は大形前胸部と同じく淡黃褐色にして背上は三條の隆起縱線あり後胸部は方形をなす上翅は淡黃褐色半透明にして翅脈は隆起し且つ翅脈上及脈間には茶褐色斑を有せり下翅は灰白色にして半透明なり脚部は六脚共に淡褐色を呈し前、中兩脚は同長に後脚は少しく長し而して後脚の脛節外側には五刺或は六刺を有し且其脛節端と第一、二跗節端とには短かき刺を有するを常とす腹部は七節より成り褐色腹端に至るに從ひ細まれり

此種は明治廿七年九月十七日岐阜縣揖斐郡霞ケ谷に於て捕獲したる只一頭の雄蟲あるのみ被害植物不詳

第二十三　オホヒラタヨコバイ　Gn? sp?　（第三版第四圖）

該蟲は前種に似て大形なるを以てオホヒラタヨコバイの新稱を附せり頭部より腹端まで三分二厘許翅を躰上に收むる時は殆んど腹端と同長にして第三版第四圖に示すが如く扁圓形を成す頭胸部の形狀色澤等略ぼ前種に似たり而して單眼の位置、觸角の形狀、額面に有する隆起線等も又同じ前翅の縱走翅脈は前種より少なくして翅端圓く細まれり脚部は淡褐色にして後脚の脛節外側にある刺は七個あり而して脛節端及第一、二跗節端に刺を有することは前種と異ならず腹部は方圓形にして暗褐色を呈し第一節より第六節迄は後節に接する所黃褐色を爲せり

此種は明治廿九年八月五日滋賀縣近江國伊吹山中に於て採集し得たる二頭の標本より記載す該蟲は前種と雌雄にはあらざるかとの疑あれども茲には別種として記載し置けり

第二十四　スジヒラタヨコバイ　Gn? sp?　（第三版第十一圖）

該蟲は形狀クロヒラタヨコバイに似て色澤少しく薄し而して第三版第十一圖に示すが如く上翅上に茶褐色の縱帶を有するを以てスジヒラタヨコバイの新稱を附せり頭部より腹端まで二分五厘內外翅を躰上に收むる時は腹端より長きこと三厘許あり頭胸部の形狀前二種に似て朽葉色を呈す單眼は二個ありて複眼と共に茶褐色なり觸角は三節より成り形狀前二種に同じ上翅の形狀はクロヒラタヨコバイに似て翅底より翅端廣く橫脈割合に多し下翅脈も前二種とは余程差異あり脚部は淡褐色にして後脚の脛節外側には五刺あり腹部は褐色中央は濃色を呈せり

此種は明治廿五年十月中前種と同樣の場所にて一頭の雄蟲を採集せり被害植物不詳

第二十五　オホトビイロヨコバイ　Delphax sp?　（第三版第七圖）

該蟲は常に稻田に發生して大害を與ふる所のトビイロヨコバイに似て大形なるに依りオホトビイロ

ヨコバイの新稱を附したるなり頭部より腹端まで一分二厘許翅を躰上に收むる時は腹端より長さことと五、六厘内外あり頭部は三角形にして頭頂凹み淡黃色を呈す複眼は淡褐色にして鈍き淡綠を帶び異樣を呈せり單眼は二個ありて複眼下にあり觸角は三節より成り基節は楕圓形第二節は長楕圓第三節は最小圓形を成し一本の粗毛を生じたり額面は菱形茶褐色を呈し中央に鈍白色をなしたる一條の隆起縱線と曲線條あり口吻は後脚の附元に至る前胸部は「へ」の字形を爲し淡黃褐色にして三條の隆起縱線を有す中胸の背上にも又三條の隆起縱線ありて中央は鈍黃色を爲せり後胸部は赤褐色と黑色部とより成る上翅は長方形をなし透明にして翅脈は判然す脚部は三對共に淡黃褐色を呈し後脚の脛節外側には二刺を有す而して脛節端と第一、二の跗節端とには各々短刺あり腹部は第一、二節の背上は桃色を着色し余は黑色なり然れども腹面は多少黃白色を呈せり
該蟲は餘り多からざるも常に禾本科植物に生じ往々稻田に於て捕獲することあり故に場合に依りては稻を害するものならん

第二十六　ハチノジヒシヨコバイ　（Gn? sp?）（第三版第九圖）

該蟲は形狀ヒシヨコバイに似て產卵管も突出し居れり上翅の前緣中央より後緣に向ひ斜に茶褐色紋を有するを以て翅を躰上に收むる時は恰も「八」の字形の觀あるに依りハチノジヒシヨコバイの新稱を附せり頭部より腹端まで一分二厘内外翅を躰上に收る時は躰より長さと六厘許なり頭部は幅廣く淡黃褐色にして頭頂少しく凹めり單眼は二個ありて複眼下にあり觸角は三節より成り基節は短小にして普通見ることを得ず第二節は圓球狀暗黑色を呈す第三節は以上の種と異ならず額面は方形黃褐色にして唇基板は黑色なり口吻は後脚の附元に達せり前胸は「へ」の字形をなし淡黃白色中、後胸

部は黒色にして中胸部の背上ょは三條の隆起縦線あり上翅は透明翅脈は判然し茶褐色紋を有することと第三版九圖に示すが如し下翅は無紋にして透明なり脚部は淡黄褐色を呈し後脚の脛節外側には二刺を有す腹部は黒色腹端に至るょ從ひ細まり産卵管は突出し腹端には白色綿様物を被覆せり

此種は明治廿五年七月中岐阜縣不破郡垂井町近傍及び同廿八年六月中岐阜市近傍に於て採集せり未だ被害植物不詳なれども禾本科植物に發生するものゝ如し

第二十七　オホセスジヨコバイ　Gn? sp?　（第三版第十四圖）

該蟲は翅の後縁部茶褐色を呈し靜止の際は恰もハゴロモ類の如き觀をなし背上一の茶褐色線をなすに依りオホセスジヨコバイの新稱を附せり頭部より腹端まで一分二厘内外翅を躰上に收むる時は躰より出づること八厘許あり頭胸部は共に淡黄褐色にして頭頂凹めり複眼は黒色或は暗褐色を爲す單眼は二個ありて複眼下にあり其周圍と同色なるが故に容易に見難し額面は長方形にして中央に縦線なく大ひに凹みたり而して兩縁は隆起し居れり唇基板は三角形中央隆起す口吻は後脚の附元に達す前胸部は「へ」の字形を爲し中央は淡黄褐色なれども兩側には茶褐色帶あり中胸部の背上は三條の隆起縦線ありて其兩側には茶褐色の縦帶あり後胸部は茶褐色腹部も又同色にして腹端細まれり上翅は方形をなし灰白色翅縁は茶褐色を呈す下翅は灰白色にして翅脈は褐色なり脚部は三對共に淡黄白色を呈し後脚の脛節外側にある刺は二個僅かに痕跡に止まり普通見ることを得ず然れども脛節端と第一、二の跗節端とには刺を有すること以上の種と同じ

此種は明治廿五年十月中滋賀縣近江國伊吹山中に於て捕獲せしことあり被害植物不詳

第二十八　ウスイロヒラタヨコバイ　Catonidia sobrina, Uhler.　（第三版第十七圖）

該蟲はクロヒラタヨコバイ、オホヒラタヨコバイ等よりも全躰の色澤遙かに薄きを以てウスイロヒラタヨコバイの新稱を附せり頭部より腹端まで二分二厘許翅を躰上に收むる時は躰より出ずること八厘内外にあり頭部は幅廣く淡黄褐色頭頂は凹めり複眼は暗褐色を呈し單眼は二個ありて褐色なり觸角は三節より成り基節は盤狀附着部に密接す第二節は不正圓形を爲し第三節は最小圓形にして壹本の粗毛を生せり額面は長方形黄褐色を呈し三條の隆起線を有す唇基板は三角形口吻は後脚の附元に達す前胸部は「ヘ」の字形をなし中胸部の背上は淡赤褐色にして三條の隆起縱線を有す前翅は長方形にして外縁少しく廣し縱走翅脈多くして茶褐色斑を散在す下翅は灰白色を呈し半透明なり脚部は三對共に淡黄褐色後脚の脛節外側には只一刺あり而して其脛節端と第一、二の跗節端とには各短刺を生せり腹部は淡褐色にして白色綿樣物を覆へり

此種は去る明治廿五年十月中滋賀縣近江國伊吹山中に於て捕獲せり餘り多からざる種なり　（未完）

第三版圖解　（一）はクロヒラタヨコバイ（二）は同上の上翅（三）は同上の下翅（四）はオホヒラタヨコバイ（五）は同上の上翅（六）は同上の下翅（七）はオホトビイロヨコバイ（八）は同上の上翅（九）はハチノジヒシヨコバイ（十）は同上の上翅（十一）はスジヒラタヨコバイ（十二）は同上の上翅（十三）は同上の下翅（十四）はオホセスジヨコバイ（十五）は同上の上翅（十六）は同上の下翅（十七）はウスイロヒラタヨコバイ（十八）は同上の上翅（十九）は同上の下翅

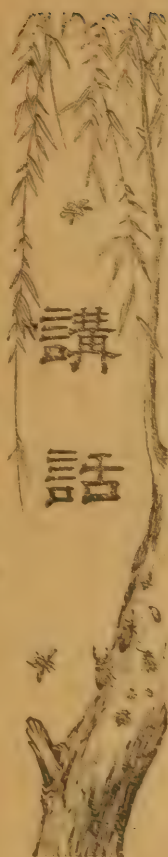
◎蠶蛆新說を讀む

和歌山縣　第二回全國害蟲驅除修業生　增田　操

維新以來我邦の蠶業界は一大長足の進歩を爲し今日の蠶糸金額は一億圓に達せりと云ふ嗚呼農家の

性質經過　蛹より羽化するも直ちに交尾産卵するを見ず數日間は尙は雜木の繁茂する所よ徘徊し後ち桑樹に飛び來り先つ其葉面よ止りて漸次葉裏に至り葉脈の所に一粒若くは二粒づゝ産卵するものよして大抵家蠶の四眠前後に於て産卵するを最も盛なりとす而して蠶が其桑葉を食するに當り卵と共に嚥下し胃中に入り一時間若くは二時間を經過すれば卵殼を破りて小さき蛆となるは少しく此道に意あるものゝ肉眼上見得べしと雖とも尙は坊間に販賣せる學校生徒用五六拾倍なる顯微鏡下に照せば充分見認る事を得べし夫より腹部の脂肪を食して發育し遂に蠶体を死に致すよ至る之れ蠶蛆が寄生する狀態なり

夫れ斯の如き諸説は常に先輩に聞く所にして屢々其經過如何を試み且つ實驗に徴して自から疑はさりき然るよ頃日三重縣よ於ける有名なる養蠶家に小野耕平なる人あり一の奇説否々新説を唱導して大に世人の耳朶を動かし斯學研究の材を得せしむるものあるは密かに欣喜に堪へさる所なり聞説仝氏は先つ從來の諸説に反し蠶蛆は全く蠶体の外部より侵害するものなりと説を陳べられたり其略に曰く蠶の三眠前後より蛆蠅が蠶室に入り來り逐日其數を增し常に蠶架の下部なる小暗き所に入り多くは蠶に止り蠶が其体を動搖すれば其近傍よ去り而して又蠶体に止るを見るは是れ食事の爲めに來るにあらずして産卵の爲めに來る者なり故に蠶籠に入れば直に蠶に止り或は桑葉の下に入り又は臀部を蠶が食ひ殘したる桑葉の間に入れ或は蠶の下部なる蠶糞の上よ産卵するものにして其卵は白色細長曲尺二三厘或は四五厘而して該卵は三層の皮を被ふり背筋の如き所ありて両方に開き其中より發生するものにして一層の皮は白色二層の皮は恰も小蛇の脱絹の如く三層目の中には青白色の細長形なる小蟲ありて發生するや進退極めて活潑なり此の小蟲が蠶体に入りて生育するものなりとは

三十一年度の實驗なるも蠶体何れの處より侵入するものなるかは詳らかならざるも蛆蠅が産卵する爲に蠶体に來れる事實は室內飼育よりも室外飼育に於て蛆害多く又蠶糞取の爲に蠶を他籠に移し蠶のあらざる籠の中へは假令蠶糞又は食ひ殘りの桑葉充滿するも一も蛆蠅の來らざるを以て明瞭なりと云へり以上は之れ小野氏の說なり而して氏は實に蠶業に身を投して茲に三十餘年或は除害に改良に鋭意熱心以て斯業の卒先者たるを自から任し又世に信せらるゝ士にして此言あり且つ太陽なる雜誌に寄稿し大に世に公にせられたり余幸に一讀再思以て其奇に驚く氏の所謂蛆卵は白色細長とあるも余輩の實見に依れば其卵は楕圓形にして一方稍尖り外面は黑色にして六角形の斑紋あり且つ光澤を有す尚は其裏面即ち桑葉に附着する部分を見るも薄灰色を呈す夫れ斯の如く卵形及び經過を異にせり疑らくは是れ他蟲の産卵にあらざる歟抑も又寄生蛆の變種なるか余輩の不肖疑團未だ氷解する能はす然れども余は之を信す氏の實着なる奇言を吐ひて世に試み放論を唱へて自から快とするの士にあらざるべし聊か鄙見を書して江湖に質す希くは氏更らに本年實驗の結果如何を世に公にし以て吾人の疑團を解き併せて國家を利するに吝なる勿れ

◎第一回全國昆蟲展覽會に就て

名和昆蟲研究所長　名和靖

當昆蟲研究所が主催となりて明年四月十六日より三十日間岐阜市に於て第一回全國昆蟲展覽會を開

設することは已に確定致して居ります、抑今回展覧會を開設致しますは去る三十年浮塵子大發生の爲め一大損害を蒙りたるに依り世間も始めて害蟲驅除の必要を感じてより昆蟲學研究に從事せらるゝの諸士多數となりました、是等諸士の研究し得られたる種々の結果中尤も有益なるもの多々あることを確信致して居ります、故に此際有益なるものを一塲に集めて公衆に示せば世人を利すると同時に昆蟲學を發達せしむることは疑を容れぬことであります、當昆蟲研究所は微力なりと雖も尤も熱心なる諸士の翼賛を得て兎も角第一回全國昆蟲展覧會を開設する決心であります、諸士よ願くは斯學發達の爲め充分盡力あらんことを希望致します、

此頃段々所々にて聞て見ますれば已人の出品よりも團体出品を希望されます私も大賛成であります已人出品でも差支はなけれども自然規摸の小なると廣く奬勵が出來ぬのであります、團体なれば何郡昆蟲研究會とか何郡農會とか農學校とか中學校とか師範學校とか其他何々とか名稱を附して出品せらるれば尤も宜しいのであります、聞く所に依れば最早出品の準備として郡會より補助金を與たる所もあり又明年出品の準備として一郡限りの展覧會を特に開く所もあり又夫々出品物蒐集の爲各分擔して其長所に就き研究せらるゝ所もありて中々私の想像する所よりも盛んであります、而して審査は尤も信用ある人士に依囑して神聖なる審査を受け一等賞には銀盃を呈する筈であります」

參考品として展覧會開設中は當昆蟲研究所は種々陳列致しまして公衆の縱覧に供するは勿論特に帝國大學を始め其他よりも夫々參考となるべき品を懇請して陳列致します、尙歐米各國よりも出來得る限り參考となるべき出品を請ふ筈であります、尙又工藝美術品よ昆蟲の摸樣ある優等品を蒐集して陳列致すのであります、」

此展覽會に關しては種々申し上げ度き件がありますれども今は省略して追々述ることに致します、兎も角雜報中にござります該規則の熟讀を願ひます、

◎昆蟲實驗談（八）

靜岡縣濱名郡平貴村　生熊與一郎

（其十五）柏の葉捲蟲の寄生蜂

去年十月二十八日柏の葉捲蟲七頭を採り來り其羽化を試んと養蟲箱に入れ置きしに十月三十日に至り大形の蜂出で養蟲箱内を飛翔せり余は是れを見如何にして生ぜし蜂なるや知る能はず暫時首を傾けしが不圖カシワのハマキムシの寄生蜂には非らざるかと推思し嚮きに入れ置きたる七頭のハマキムシを逐一撿したるに内に一頭体皮のみとなり四關節に嚙破りたる如き一孔ありしを以て是は益面白しいざ該蜂が果してカシワのハマキムシの寄生蜂なるや否やを驗せんと殘れる葉捲蟲六頭は別なる附着物等なき樣になし試驗壜に入れ相當なる手續をなし置き尙他より四頭のハマキムシを取り來り別壜に入れ置き爾後蜂の發生をのみ待ち居たり斯て十二月六日朝に至り余は寢衣の儘試驗壜を窺ひしに時しも壹頭の寄生蜂は（前壜より）体を中半過ぎ出だし初めて大氣を呼吸し得たりと云わんばかりの樣子にて靜止し居たり茲に於て最早カシワのハマキムシの寄生蜂なる事を證ずるを得べしと喜で朝飯を食し研究に從事せんと解剖器に手を掛けし時、時計は九時を打てり而して午后一時半迄

に畧々研究を了へたり其成績は左表の如し（但し二頭の平均）一覧あらば幸甚

種名項目	長（厘）	巾	色	備考
体長	七〇、〇			
翅擴張	一〇〇、〇			
觸肢	五〇、〇	一、〇	黒	三十八關節より成る
頭部	四、〇	九、〇	全	赤黒色の複眼及單眼を存す單眼は光澤あり
胸部	二〇、〇	八、〇	全	凹凸多し
腹部	四五、〇	八、〇	全	八關節より成る
前翅	四八、〇	一四、〇	少しく褐色透明	短毛を帯び翅脈は褐色をなす
后翅	三七、〇	九、〇	全	全
前肢	五五、〇	四、六	黒	跗節は五小節より成り毛を生ず
中肢	五八、〇	五、五	全	全
后肢	六〇、〇	五、二	全	全
産卵管	五九、〇	三、六	全	光澤あり

殘れるハマキムシは十二月十七日に至るも蜂も生ぜず蛾化もせず生存せり是れ此の儘越冬するものならん此種の他に尚一種小形造繭寄生蜂あり他日報ずべし

モモブトヤドリバチの圖　♀

（其十六）桑ハマキムシの寄生蜂（第三）

桑ハマキの寄生蜂の第一及び第二は旣に報せしが復た學友杉田善一氏より三十二年十一月二日を期し「是れ余の飼育せし桑ハマキムシより出でたる寄生蜂なるが故就て充分の研究ありたし」との一文よ一種の寄生蜂を附し送られたり因て該寄生蜂を見るに只一頭にして多少損傷の箇所もあるを以て今三四頭の蜂を得たき物かなと翌日桑園よ至り多くの桑ハマキを取り來り試驗場に入れ置きしに同月十二日に至りて一種の大形蜂出で十七日には二頭の該蜂出でたり（十八日及び二十日には一頭宛出づ）故に直ちに之れを調査したるに全く上圖の如くにして体の長さは二分一厘六毛許りあり翅を擴張するときは四分七

厘許りあり而して頭部の長さは二厘五毛巾六厘五毛あり色は鈍黒にして複眼は稍薄黒色をなし單眼は頭部の中央背面に三個廣存し他と同色なれ共少く光澤あり觸肢は單眼の前方よありぬ鈍黒色をなし九關節よりなり末端は黃色をなす長六厘巾八毛あり胸部は長一分巾八厘ありて頭部と同色をなす前翅は長一分八厘巾七厘后翅は長一分三厘巾二厘八毛あり胸部の翅を生ずる所は黃色の三角突起となり居れり故に翅脈も(褐色なれ共)多少黃色を帶ぶ前肢は長一分二厘巾六毛あり基、轉、腿節は眞黒色にして他節は黃色をなし附節は五節よりなる中肢は長一分四厘巾七毛にして採色は前肢と畧々同けれ共脛節の內側に一黑線あり后肢は圖の如く腿節は非常に太く巾三厘五毛に及び全長は一分九厘よして採色は亦前肢に畧々同じけれ共只異なる所は腿節の末端に黃色部あるのみ腹部は長九厘巾六厘あり光澤ある眞黒色にして八關節よりなり雌は產卵管を有す產卵管は長一厘巾五毛余にして蠶兒の吐糸管の如き狀をなす

又余蠶業學校に學びし頃校內に昆蟲研究團体なるものを結び昆蟲學の研究に從事せし時の手帳の一偶に(前畧)「標本製作課長小泉梯藏氏の取り來れるナタ子の青蟲より全体黑色にして觸肢短かく後肢非常に太く翅は短かく透明にして体は肥へ短かく二分許りありて蠅の如き狀をなせる蜂發生したれ共研究をなさゞる內に學友之れを見んとて誤て該蜂を逃せり」(明治卅一年六月十六日)と記しあるを以て見れば該蜂はナタ子の青蟲にも寄生することを知る(是れ該蜂一昨年度に於ける見覺も多少余が胸中に存ずるを以てなり)此他に尙桑ハマキの寄生蜂は大形の種とハマキムシ蛹の体中にて造繭するものと二種あり他日を期し報告すべし

◎昆蟲の方言に就て(其二)

長野縣　第二回全國害蟲驅除修業生　清水　藏

カブトムシの雄をゾウヒヨウ(雜兵の意ニテ前報のクワガタムシを義經、賴光等と稱するに對して名つけられたるものなり)、カブトムシの雌をベンケイ(辨慶の意にして是も前と同じく武人を意味

したるものにして辨慶は入道姿なりし故なり)、アカバチをクマンバチ、ナツアカ子をアカドンボ、マヒマヒムシをマワリトウシン（是はアメンボをトウシンと稱する(前報參照ありたし)を以てマヒマヒムシも水面におりて輪形に游泳し居る故なり)、ミヤマアカ子、ノシメトンボの二種をクルマドンボ（此の二種は翅端ま褐色部ありて飛行する際輪形に見る故なり)、コシアキトンボ、サナエトンボ、シオヤトンボ等の大形なる蜻蛉を總てオニドンボと云ふ、前報中蠢象類をヘツピリムシと稱するは惡臭を發する故又カミシモと稱するは該蟲の胸部の形が裃を着せしが如き狀なるが故なり、天牛をケイキリムシと稱するは該蟲は口部まて能く毛髮等をも咬み切るが故なりケイキリムシは毛切蟲の意なり、瓢蟲の幼蟲をウジボウタルと稱するは夜間燐光を放つ者なりと誤認し居る故なり而して螢をホータル又はホターロと稱し又其雄をクマンボータル雄をコメボータルと稱す、鳳蝶類をヤンメテフと稱するは該蝶を捕ふればヤンメと稱する一種の眼病を煩ふものなりとの俗言より出てたるなり、蚜蟲をアリゴと稱するは蚜蟲の居る所には蟻の集り來る故蟻の仔蟲ならんとの誤認より起りたるものなり、蠛蠓をマヽカヽと稱するは繼母の意にて 昔話に繼母が或る事情に慚愧して土中に入り蟲と化せしと云ふ物語りより起りしなり象鼻蟲をタイコウサンと稱するはタイコウは豊臣太閤の意にて當地方の小兒等は古昔の英雄は皆魔法を用ひし者と信し居り豊公の如き英雄も魔法を用ひし者と心得へ其該蟲の虛死するは魔法を用ゆるなりと思ひて斯く命せられたるものなり

◎迷信破壞の一つ二つ

愛知縣額田郡相見尋高小學校訓導
第一回全國害蟲驅除修業生　山本秋三郎

昨年秋の頃天氣快晴なるに乘じ心も何となく愉快なれば生徒も昆蟲も愉快と見ゑ運動場を彼處此處

飛びまわれり茲に於て予は一生に命じ捕蟲器を携へ來らしめ昆蟲採集を始めたり中よりシヨウジヨウトンボを捕へしに一學年の生徒大に仰天顏をして曰く「先生私のヲツカサンハアカトンボ捕ヘルト瘧剌里亞ニナルトオ云ヒタ先生オヨシナサイ」と予曰くソレハオコリニナルカナラヌカ一ツタメシテ見樣」と又生徒曰く「先生ハ乾度明日ハ御病氣ダ」翌朝予の顏を見大に不審顏して「先生は御病氣デハアリマセンカ」と

去る日斬髮せんとて床屋へ行きたれば主人色々の話をなし其中より曰く「私岡崎町（本郡にあり）に居りしとき隣村明大寺村の或寺の佛の臺座連り花瓣にウドンゲの花咲いたとて大に不思議がり是は佛の御利益ならんとて若きも老も參詣します私も走せ參りて拜みましたが實よ妙なものでまー佛樣の御利益は大したものです私はしらず〳〵御賽錢を澤山なげました」と其れを聞きし予は直よ「はゝ……さうでしたかそれは佛の御利益も大したものでしようが其のウドンゲの咲きたは佛の仕業でありませぬクサカゲラフと云ふ蟲の卵で云々」と詳に說明したれば主人大よ悟りしと見ゑ曰く「あーそをですか先きに賽錢をなげ低頭平身して拜んだは蟲の卵でありたかエーマーばか〳〵しいことを致した」と是を聞きし細君飛んで來り「アーウドンゲの花は左樣なものですか私の在所の村では友助樣の便所の邊に蜜柑の木があるが其の葉の上にウドンゲの花が咲いたから村中大騷動で便所の邊で香へどもかまはず其れへ花線香を立て拜んだことがあるがまーほんにそんな蟲の卵でありましたか」と夫婦共に仰天顏』

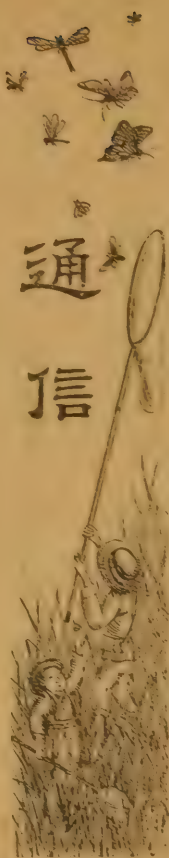
◎害蟲あほだら經　（昆蟲志想を惹起せよ）

燒野庵主人　眞野儀太郎

エー恐ながら攝は猪名の篠原燒野庵主が唱へ上ます御經の文句は何が何でも上は大臣下は御百性どふでもこうでも聞かねばならない肝心要の大事の大事の其又大事の秘密の經文聞いた御方はまだない筈だぞふぞ靜かにシッカリ聞てよサーサ御耳ジャポカ〱ポンポ

庵主元來昆蟲化身で今でも時々昆蟲の世界へ逍遙致して彼等と仲よしある日のことだよ拾有余萬の昆蟲會議へ出席せよとの通知がきたのですぐさま登場つもる昔の迷心話や近頃當世の所謂昆蟲々々學者の害蟲驅除法十分聞かしてかわい彼等よ行末要心前途の方針知してヤッタラ彼等の喜び臆萬無慮で欣喜雀躍松蟲鈴蟲チンチロリン、ヒメアカテハ、ヤコムラサキ、ジャコーアゲハや玉蟲連歌の舞ふの吟するのチョット一言諸君よと威風堂々カブト蟲テモマーニクャノ昆蟲學者自然淘汰や適者生存雌雄淘汰や共同棲息此の又秘密をぞふしてキャッラが知つたか不仕義ジャコーナリヤ吾輩ウカ〱すまいぞみがき上げたが此武器犠牲に一番學者と格鬪奮戰謹聽〱許せよ一言と著れでたのは近頃名高ひウンカの君さん辨士からこそ小いけれども雄辨滔々諸君よソンナニ心配無用だ吾輩年は明治の三十キャッラの心民見屆みたいとお米のかすなら僅かに七百有余萬石盜んでヤッタラあかざま見やかれ全くキ印るし昨年て吾輩騷ぎもしないに僕等先生に一面識ない役人連中官報にかくやら縣報に載すやら其の又言ふこと聞てよ見たれよ吾輩地方はヨコバイをらぬがウンカがドッサリヒゲナガ虻君の卵を見付て螟虫の卵ジャ尤も〱同感〱諸君よ此又三化の螟蟲字名はドウムシ云ふこと聞てよ前の辨士も述ふる通り御地のやうなる昆蟲志想の皆無の處は日本は六十余州まだ愚か支那八百余州朝鮮國中ハテノハテ迄搜してみたとてどうであらふか是れぞ天與の賜、寶の山だよ空しく歸るは馬鹿の骨頂天物暴殄罰が當ると吾輩是れら本國九州に歸りてヤカラに此事傳言一族擧つて

當地へ移住だ近頃此頃畦畔雜草の燒ナンド・シャレルテお望も肝心をいらの住家もしらずにどうしてこうして近い二十世の文明の今日燒て死ぬヨナ處よイョーカ燒くなら燒てよアタリテつかわそヲツト失言ウカ〳〵云ふまい天網恢々疎にして漏さず……ヤンレー皆様以上庵主が昆蟲會議で聞たる一條事中々聞棄ならぬ裏切りするのも不蟲者聞てしらさぬ又不忠昆蟲に心が燒野庵一念驅蟲に有馬山猪名の篠原風ダヨリかくは一席ポカ〳〵ポンポ

庵主言ふ浮塵子及螟虫の妄言實に驚かざるを得ず諸君早く此際作戰計畫以て彼れの虚を突き彼等をして軍門よ低頭平身せしめよ(于時明治三十三年一月中旬六花瞎々於丹南燒野庵記之)

◎昆蟲と畜産業

熊本縣天草郡本渡町　第一回全國害蟲驅除修業生　中野末喜

昆蟲と農林業吾人既に知る所あり而して今又吾人は昆蟲の人類衞生と尠からざるの關係を有することを知れり然らば則ち昆蟲と畜産業とも亦相離れざるの關係あること之を推知するに難からず然り蚊の血液を吸收する蚤虱の皮膚を嚙む誰れが之を知らざるものあらん、唯、今余が茲に記せんと欲する所のものは蚤の皮膚を嚙し蚊の血液を吸收するの類にあらず牛馬羊豚の体内に寄生し以て其宿

主を斃すの一大害蟲にして其害や決して彼等外來的襲害の比にあらず今試に其二三を擧げん
馬虻　夏秋の候成蟲出て馬体の毛端に產卵す一雌の產する所七百に及ぶてとあり馬は不識不知の間に之を舐食し或は馬糧と共に嚥下し遂に体內に孵化せしむ蛆は胃腹壁に吸着し血液及澄液を吸收す成熟すれば糞に混して体外に出て糞土中ょ蛹化し一ヶ月內外を經て羽化す馬之に犯さるゝときは疝痛腹膜炎等を發し遂に立つ能はざるに至る
牛虻　夏秋の候成蟲出て牛の皮膚上に產卵す孵化すれば直に皮膚を穿て蝕入し其局部は著しく腫起し蛆成長すれば膨大して孔口より濃液を泄すに至る
羊虻　も亦夏秋の候に出で羊の鼻腔內に產卵す孵化すれば漸次奧深く侵入し羊をして煩苦措く能はざらしむ
其他此類にして口腔內に寄生するあり或は十二指腸に寄生するあり種類一にして止まらず而して其被害や甚だ稀なるものにあらずと雖普通農家は殆んど這般の現象あるを解せす爲に往々貴重の牛馬を失ふに至れり余か友人某の如きは胃壁に寄生せる蛆蟲の量恐らく五合に達するものを見たりと云ふ實に恐るべしとなすなり余輩不肖今日此等の事情を詳悉するものにあらず而も尙聊か見る處と聽く處とを合せて此言をなすものは只讀者諸君の講究を希はんか爲のみ幸に之を諒せよ

◎岡山縣邑久郡昆蟲講習會景況

邑久郡農會幹事長　林　甚　八

本會の昆蟲學講習規定を議決したるは昨三十二年三月にてありき今其規定を左に記さん
昆蟲講習現定　第一條本講習は害蟲驅除豫防及益蟲保護方法の大意を講習するものとす、第二條講習所は邑久村に開設し五月中日數十日間講習し授業時間は一日六時間とす、第三條講習は左の

科目に依り教授す、一昆蟲學初步、二害蟲種類經過驅除豫防法、三益蟲種類經過保護法、四野外實習、第四條講習生は年齡二十一歲以上の男子にして品行方正なる者を各町村農會に於て二名以上四名以下撰出するものとす但特志者は掛員の許諾を得て傍聽することを得　第五條講習生の費用は各町村農會に於て便宜の方法を設くへし、第六條講習生修業後一ヶ年間は既習の事項に關し撰出町村農會の請求に應する義務あるものとす、第七條講習生にして講師及掛員等の指示を遵守せず又は不都合の行爲あるものは退塲せしむべし、第八條講習生規定の科目終了したるときは左式の修業証書を授與すへし

第何號

修業証書

氏名

年號月日生

昆蟲學初步、害蟲種類經過驅除豫防法、益蟲種類經過保護法、

右修業したることを証明す

講師　氏　名　印

前記の証明ニ依り此証書を授與す

年　月　日　　邑久郡農會頭　氏　名　印

此規定によるときは同年五月に開設す可き筈なりしも其期月ニ至り開設し得ざりしのみならず數日を經過するも猶開設し得ざりしより個人或は團体にて開設を催し止ます機を失せんことを恐れ講師の來郡を請ふこと屢なりしも承諾を得ず空しく三十二年を終り本年に至り頻りに來郡を請ひたるに遂に許を得本月十七日より開會するに至れり會員の滿足拾二分なり今開會の式場に於て朝倉會頭の朗讀されたる式辭を左に記す

農作物の害蟲及び益蟲を調査するの必要を感ずること久しかりしも未だ其機を得ざりしか適一昨三十一年八月其機を得て岐阜縣に至り名和先生を訪問し有名なる名和昆蟲研究所の參觀を請求せしに日々來客の多きにも關せず先生及び助手名和梅吉君の懇切なる敎導にて標本陳列舘及び昆蟲

貯藏室にも案内を得之を一見するに貯藏箪笥の陳列あることと三拾餘棹なり漸く數日間にして其一覧を終へ實に其部類の多き種類の夥しき誠に感歎に堪ゑざりき之に依て愈昆蟲調査の必要を感せしより客年邑久郡農會の惣會へ昆蟲學講習規定の原案を提出し尚說明するに講師として名和先生を招聘するの理由を述へしに滿場一致して可決し直に名和先生に請ひて講師たるの承諾を得しも害蟲調査の爲め各縣へ派出せらるゝにより延期の報に接し爾後之を待つこと大旱の雲霓を望むが如くなりしに既に三十二年度の期日も切迫せしより屡懇請せしに日數五日間を限り講習の承諾を得今回俄然開會するに至れり然るに多數の講習諸士を得しは各町村農會頭の盡力と諸士の熱心に因ると雖も亦名和先生の名望高きの致す所なり嗚呼諸士よ僅々五日間の講習なれば出てゝ靜粛に先生の教を受け退ては復習を怠らす晝夜勉勵して修業あらんことを希望す聊本會開設の事由を陳べ式辭となす

明治三十三年二月十七日　　邑久郡農會頭　朝倉力治

尚同郡長草加廉男氏の祝辭名和講師より一塲の演說あり本日出席の講習員七拾六人講話の始まりたるは午後一時過ぎてありき講師の熱心なると解說の簡易にして譬喩の巧みなるとにより一丁字を知らざるものもよく其理を解し一日六時間の講話も長きを感せず只時針の進むを惜むもの計りにて評判高くなり日一日より聽講者增加し末日即ち二十一日午前までには百參拾壹人の多きに達せり從來の例として農事に關する講話集會などは午前には多くても午後には半減にも至り甚しきは講話演說中に傍若無人にも睡眠を催すものあるは珍らしからぬことなり是れ他なし他動的に出席し他動的に聽講せるによるなり然るに本會の如きは午前よりは午後一日よりは二日と聽講者の增加せるは初め他動的に出席せしも名和講師の材料の豐富にして解說の巧みなるにより知らす識らす自動的に聽講するに至り理を了りては尚其理を追求せんとの心を喚起したるものなり僅々五日間の講話と雖も聽講者に利益と感動を與へたることは義務的に商賣的に出張講話をなしたるものゝ幾百倍なるを知ら

す二十一日午前ょて講話結了百有餘名の聽講者時日の經過せしを惜まざるものはなかりし午後修業証書授與式を行ふ其順序を左に記す

一着席　二起立敬禮　三幹事長報告　四証書授與　五名和講師誨告　六來賓祝辭　七會頭答辭　八講習生惣代答辭　九退散　來賓には別室にて茶菓の饗應をなしたり今來賓の重なるものを擧ぐれば草加邑久上道郡長岸岡山縣巡回敎師抽木縣農會技手岡縣會議員及各町村長等なり幹事長の報告を左に記す

本日講習の結了を告げ修業証書授與式を擧行するに方り講習中の顚末を報告すること左の如し
本日十七日より開會し爾來講習すること五日にして講習員は各町村農會より撰出したるもの七拾九人及各小學校敎員中より出席したるもの四拾壹人にして合計百貳拾人内修業証書を授與するもの七十人なり今之を町村別にするときは邑久村は八人福田美和の二ヶ村七人笠加村は六人今城太伯の二ヶ村は五人幸島大宮の二ヶ村は四人牛窓町及長濱玉津朝日の三ヶ村は三人豊原鹿忍國府本庄の四ヶ村は二人豊裳掛鶴山行幸の四ヶ村は一人づゝにして何れも講習規定の科目を修業したり其他事故の爲め缺課したるにより修業証書を授與するに至らざりしもの五十人あり尙他郡より傍聽の爲め出席せし小學敎員十三人を合すれば百三十三人なり

明治卅三年二月廿一日　邑久郡農會幹事長　林甚八

草加郡長の祝辭

本日昆蟲講習會終了し修業證書授與式の擧行あり本官此席に列するを得たるは實に榮とする所なり邑久郡農會は害蟲驅除豫防法を研究するの必要を感じ本會を開設せしは誠に美擧と云ふべし諸子幸に斯學の修業を了ふ諸子の任亦輕しとせず望むらくは將來益其修得せし智識を實地に應用し農家一般の指導者となり以て其任を完ふせんことを一言以て祝辭とす

明治三十三年二月二十一日　邑久上道郡長　草加廉男

村長惣代の祝辭

我邑久郡農會開設の昆蟲講習會結了し本日修業證書授與の式を擧行せらる思ふに此盛典あるは全く諸君勉勵の致す所なり望むらくは爾後益之を研究して實地に應じ國利民福を增進せられんことを一言を陳べて祝辭に代ふ

明治三十三年二月二十一日　　邑久郡各町村長惣代笠加村長石原三代吉

朝倉會頭の答辭

本日昆蟲講習生修業證書授與式を擧行するに當り郡長閣下其他貴賓の臨場を辱うし加ふるに懇篤なる祝辭を賜はる本會の光榮何ぞ之に過ぎん誠に感佩の至りに堪えず自今益奮勵以て本日の光榮を空ふせざらんことを期す

明治三十三年二月廿一日　　邑久郡農會頭朝倉力治

講習生惣代の答辭

凡そ事の成るは其源あるや必せり近年害蟲の被害甚し然れども能く其源を研究し是に對する策を講せば焉そ能く之を驅除するの法なからや本郡茲に鑒みる所ありて岐阜縣より名和先生を講師に招聘し昆蟲講習會を開設せらる余等講習生となり先生の周到熱心なる教授を受く今や全く講習を終へ本日修業證書を授與せられ何の光榮か之に過ぎん且賢明諸士の來臨を辱し加ふるに懇切なる訓諭を以てせらる生等謹て教を守り爾後勉勵して其任務を盡し以て鴻恩の萬一に報んことを誓ふ聊か菲言を述べ答辭となす

明治三十三年二月廿一日　　講習生惣代秋山篤太敬白

右式の終りたるは午後四時頃にてありたり因に云ふ紀念物として本日列席員及講習生一同講習所近傍に於て撮影したり

昆蟲學講習中名和講師の講話を筆記されたるは赤枝小太郎氏にして本會は講師の檢閲を受け印刷して有志者に配布するの計畫なり赤枝氏は幼より昆蟲思想に富み熱心研究せられ現今採集の標本は既に數百種に及ぶ我郡に斯人あるは今回名和講師の來郡を承諾されし導火線ならんか君や年壯前途多望なり（邑久郡農會幹事長林甚八通信）

◎害蟲驅除講習會景況

第一回全國害蟲驅除講習會修業兵庫縣川邊郡農事試驗場　眞野儀太郎

畦畔雜草燒却短册形苗代施行上十分なる注意を以てし其方法をして最も完全ならしめんか爲め二月十二日より十四日迄三日間川邊郡役所に於て害蟲驅除講習會を開設せり講習員は町村役塲勸業主任高等小學敎員警察官吏にして余の講話せし日程左の如し

第一日、午前　昆蟲學大意(薔薇之一株昆蟲世界)、午后　浮塵子論(畦畔雜草燒却)

第二日、午前　昆蟲學大意、野外實習(浮塵子潜伏之塲所搜索等)、午后　螟蟲論　(短册苗代)

第三日、午前　昆蟲學大意、標本製作法、午后　稻桑害蟲各論(質問應答)

僅々三日の短時日なりしも講習員の欠席なく最も愉快に無事閉會せり本郡に於ては未曾有の講習會にして特に學校敎員の如きは大に昆蟲志想を惹起せしを信す

◎第一、二部聯合昆蟲研究會景況

三河國渥美郡昆蟲學修業生　彦坂幸太郎

明治三十三年二月廿五日本郡昆蟲學修業生第一、二部聯合會を郡役所に於て開きたり兼て名和昆蟲研究所へ名稱習性等照會し置きたる昆蟲到達し居たるに依り先づ其れに付研究し以て前回聯合會の際困難せし疑問を氷解し次に各自持寄りし昆蟲及採收の方法等につき問答論難し暫時休憩の後本郡昆蟲修業生の大會開會の件並に第一回全國昆蟲展覽會へ出品の件等に關し協議し閉會せり當日各會員は何れもまけず劣らず珍しき種類を多數持參せしが殊に衆人の眼をひきしは宮林郡書記の採集せられたる幼蟲の標本なりき又當日の出席者は左の如し

田村政五郎、中神清太郎、藤井治郎作、大矢重次郎、古溝喜代太郎、小柳津廣三郎、彦坂久藏、河合浦治、彦坂幸太郎、鈴木保一、飯野市藏、野口惣吉、長濱丈助、田中周平、其他數名にて欠席者は僅に三名のみなりき

問答

◎稲の青蟲寄生蜂の繭に付質問

岐阜縣土岐郡肥田村肥田　小林長九郎

年々稲苗の葉先に近き所に小さき糀の如きもの六個乃至拾貳個位宛一所に集まりたるものを見ることあり右は害蟲卵か或は益蟲卵なりや御教示奉願候也

答　名和昆蟲研究所助手　名和梅吉

糀の如きもの五個乃至拾貳個とあるを以て見れば定めてイ子ノアオムシに寄生する小蜂の繭ならん

稲の青蟲寄生蜂の繭

該繭は質問者の言はるゝ通り一見恰も糀の如き觀あるのみならず又橢圓形を爲すに依り昆蟲の卵子とも見ゆるなり故に是迄螟蟲の採卵等を爲す際能く目に觸るゝを以て之を害蟲の卵子と誤認して燒殺せし農家甚だ多しとすされど此は有益蟲の繭なれば大ひに保護注意すべき事と云ふべし

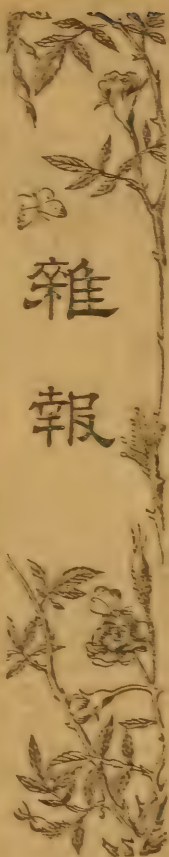
◎蠶兒の尾角並に雌雄の鑑別に付質問

第一回全國害蟲驅除修業生　山本秋三郎

小生此頃高等第二學年理科教授時間中昆蟲談を爲す偶々蠶体說明に及び候處擧手して曰く「先生蠶

の幼蟲の「オシリ」の方の角の樣なるものは何の用を爲しますか」と玆に於て先生答辨に苦み候尙或時村役場へ參り候處蠶兒の雌雄見分方質問せられ候處又同じく回答に躊躇仕候何卒右二問昆蟲世界誌上にて御敎示被下度願上候

答　　　　寄　蟲　生

蠶兒の第十一關節の背上にある突起物は尾角又は尾刺とも稱す其効用に就ては未だ記載されたるものを見ず余の考る處に依れば敵を恐怖せしむるの具なるが如し之れ彼の天蛾類の幼蟲たるイモムシ類の有するものと同一なり此者イモムシに於ては發達し居るも蠶兒の如きは漸次退化して目下の如く僅かに殘りたるものならん而して蠶兒の雌雄は第八關節部に生殖器あるを以て解剖すれば容易に知ることを得ると雖も外景に依りては見分け難し

◎昆蟲展覽會の趣意書並に規則　本所主催となりて明治三十四年四月十六日より三十日間開設する第一回全國昆蟲展覽會の趣意書並に規則は左の如し

第一回全國昆蟲展覽會趣意書

輓近昆蟲學思想の發達に伴ひ之が研究と其應用の上に於て長足の進歩を爲したるが如きも其成績區々にして深く世に知られざるもの多し洵に照代の恨事とし て斯の如きは復た昆蟲學の發達を計る所以に非ず本所玆に觀るあり今回全國昆蟲展覽會を開設し以て斯學講究の一助に供し併て其應用の普及を圖り國利の萬一を裨補せんとす幸に翼贊の榮を賜はゞ啻に本所の光榮のみに非ず

明治三十三年三月三日　　岐阜市京町　名和昆蟲研究所

第一回全國昆蟲展覽會規則

第一條　本會は昆蟲學の發達及之が應用を計らんが爲め明治三十四年四月十六日より同年五月十五日まで岐阜市京町岐阜縣農會に於て開設す

第二條　本會の出品を分ちて左の四區とす

第一區
第一類　分類標本
第二類　害蟲標本
第三類　益蟲標本
第四類　教育用標本
第五類　裝飾用標本
第六類　有効蟲標本

第二區
第一類　驅除、採集、製作、飼育、器械
第二類　驅除、採集、保存、藥品

第三區
第一類　書籍、圖解、寫眞
第二類　共同驅除、講習會、研究會、成蹟

第四區
第一類　參考品

第三條　左に掲記のものは出品するを得ず
一　內外國博覽會若くは共進會又は品評會に出品し審査を受けたるもの
一　他の出品に損害を與ふるもの、虞れあるもの
一　衛生に害あるもの及汚穢醜體のもの

第四條　出品は本會に於て相當の保護を爲すと雖も萬一盜難火風震災其他避くべからざる事故に依り破損若くは紛失するときは本會其責に任せず

第五條　出品は第四區を除き總て審査す

第六條　出品の審査は明治三十四年四月三日より始め五月五日に終るものとす

第七條　出品の再審査を請ひ又は授與の褒賞を拒み若は審査の決定に對し異議の申立を爲すことを得ず

第八條　出品の審査上優等なるものは其出品人に對し一等より四等に至る等級に從ひ褒賞を授與す

第九條　一人にして數區類に出品し其出品優等なるときは其區類に於て各褒賞を得べしと雖も一類內數種を出品するものは賞品は其內優等なるものゝ一種に限るべし但し一類內と雖も異種類のものにして優等に位するものあるときは特に相當の褒狀のみを授與することあるべし

第十條　褒賞授與式は五月十二日を以て擧行す

第十一條　本會に出品せんとするものは第一號雛形に依り出品目錄を作り明治三十三年十一月三十日第二號雛形に依り出品解說を作り明治卅四年二月廿八日迄に名和昆蟲研究所に差出すべし

第十二條　出品は明治三十四年三月二十日迄に名和昆蟲研究所へ差出すべし

第十三條　出品には番號品名出品人の住所氏名を記したる小札を每品に添付し相當の方法を以て堅固に荷造すべし

第十四條　出品陳列等は本會に於て設備すべし

第十五條　出品に關する費用は出品人の負擔とす

第十六條　開會中は每日午前第八時より午後四時迄衆庶の參觀を許す但し都合に依り本文時

間を伸縮し又は臨時入場を止むことあるべし
第十七條　參觀人は必ず入場券を携へ退出の際之を返還すべし但入場料は金壹錢とす
第十八條　[illegible]又は[illegible]其他妨害の恐ある者と認むるときは入場を拒絶し或は會場外に退去せしむることあるべし
第十九條　手荷物を携帯し又は畜類を牽きて入場することを得ず
第二十條　陳列場内に於て喫煙すべからず
第二十一條　參觀人は本會看守人の承諾を得るにあらざれば列品に手を觸るべからず
第二十二條　出品を模寫し又は會場を撮影せんと欲するものは本會事務所の許可を受くべし

附　則

第二十三條　本會に關する細目は名和昆蟲研究所に於て毎月發行する昆蟲世界に掲載すべし

(第一號)　用紙美濃紙

第一回全國昆蟲展覽會第何區第何類出品目錄

何縣何國何郡(市)何町(村)
何　某

番號	品名	名稱	數量	原價

右貴會規則を遵守し出品候也
年　月　日　右　何　某

名和昆蟲研究所宛

(第貳號)　用紙美濃紙
第一回全國昆蟲展覽會第何區第何類出品解說

何縣何國何郡(市)何町(村)
何　某

番號	品名	產地	製造地	製造人又ハ發明者ノ氏名
物質				
製法				
用法				
功能				
褒賞				
[illegible]				

右之通に候也
年　月　日
名和昆蟲研究所宛　右　何　某

備考
一番號は一類毎に記するものとす
一本目錄は一類毎に別紙に認むべし

◎諸氏の來所　二月十日岐阜縣山縣郡書記森田房治郎、海津郡書記堀内作太郎、本巢郡書記

高橋磐三郎、大野郡書記福岡仁三、不破郡書記江崎貞三郎、加茂郡書記村井正元、岐阜縣屬大野勇、土岐郡書記伊藤擧衛、惠那郡書記矢島正幹、武儀郡書記巖田郁郎、安八郡書記大澤鉄二、羽島郡書記小島浩、揖斐郡書記長屋四郎兵衛、の十三氏、十一日縣下本巣郡西根尾村三田村正經氏同しく種田靜男氏並に東京日本橋濱町一丁目樋口京同直行二子、十二日縣下郡上郡書記松下正章氏並に揖斐郡谷汲小學校長宇野常松氏、十四日滋賀縣野洲郡長汾陽光治氏同郡書記木村定吉氏及び同郡農事巡回教師鷲田新太郎氏、十八日山口縣柳井津町平津卯一郎氏廿日奈良縣農事試驗場技手山川永作氏、廿三日岐阜縣郡上郡視學榎本半重氏、並に富山縣射水郡久々港村石黒佐吉氏、同郡作道村渡邊友次郎氏、廿四日愛知縣寶飯郡睦美村學務委員山田太助氏、同芳賀清吉氏、同日三重縣飯南郡長橋本三郎氏、同郡書記梅原三郎　同服部廣三郎氏、廿五日農商務省蠶業講習所技手山本竹藏氏、廿六日福井縣技師林業巡回教師和田匡夫氏、同技手奥田與兵衛氏、三月二日長野縣西筑摩郡田立村千林龜太郎氏、四日石川縣大林區署林務官補竹内外良松氏名古屋市第三高等小學校伊藤靜彦氏、六日縣下本巣郡書記安田兵太郎氏岐阜測候所員青木成一氏、名古屋測候所員石川茂造氏、七日京都府紀伊郡農會長田中祐四郎氏同郡深草村松村小三郎氏、同郡同村山田爲次郎氏並に同郡下鳥羽村奥田豊三郎氏、同日富山縣上新川郡長國枝逸蠖氏、同郡書記渡野安太郎氏其他縣下の有志者百數十名何れも昆蟲標本を縦覽し或は夫れ〱取調べられたり

◎小學校生徒の來所　三月五日岐阜縣山縣郡北山高等小學校教員河野守一氏及び同校生徒十八名同日岐阜縣師範學校訓導清水力次郎同總山文兄同校教生北川藤吉同白木輝太郎、同山下甚吉の五氏は同校附屬小學校高等科生百三十名を引率し何れも昆蟲標本を縦覽せしめたり

◎第十五回岐阜昆蟲學會　同會第十五回月次會は三月三日午后第一時例に依り當市京町岐阜縣農會樓上に於て開會せり今其模樣を記さば第一席名和昆蟲研究所長名和靖氏は開會の挨拶を爲し、第二席羽島郡教員昆蟲講習修業生津屋基氏は講習修業以來採集せし昆蟲の研究並に今後の目的に就て、第三席揖斐郡昆蟲研究會總代若原彦造氏は小學兒童に昆蟲學を教授する方法に就て同會にて決議したる結果を報告せり、第四席名和昆蟲研究所長は此度岡山縣に於て調査したる結果並に昆蟲展覽會に就て詳述し一先休憩す（此間寫眞及び誘蛾燈を縦覽せしむ）第五席本縣第一回害蟲驅除修業生松野春一氏は寒氣と害蟲凍死の關係に就て、第六席本縣農事講習修業生河村式二氏は害蟲驅除普及上監督者の年齡に就て、第七席本縣第一回害蟲驅除修業生杉江勝三郎氏は螟蟲は水中にて越冬するも容易に凍死せざる事を述べ、次ゞ名和昆蟲研究所助手名和梅吉氏は三重縣へ出張し取調べたる結果を報告し閉會せしは五時過なり當日は元本縣農學校同窓會ありて同會へ出席されたる諸氏も參會されたるを以て一層盛會なりし

◎夜間昆蟲講習會　三河國渥美郡大崎村に於て青年同窓會員發起となりて昆蟲講習會を組織し講師には昨年八月當所に於て三週間同郡小學校敎員に昆蟲講習を爲したる修業生小柳津廣三郎河合浦治の兩氏に依賴し一月十日より十九日迄十日間每夜七時より十時迄三時間宛害蟲の驅除豫防並に益蟲の保護方法等を講習せし所講習員は六拾餘名にして非常に好結果を得たりと云ふ目下種々昆蟲に關する講習はあれども未だ夜間の講習は聞きたることなし今之を廣く行ひたれば其益する所極めて多かるべし

◎邑久郡昆蟲講習會景况　岡山縣邑久郡に於ては當所長名和氏を聘して二月十七日より五日間昆蟲講習會を開設せり日々の出席者百余名にして小學校敎員比較的多しと云ふ

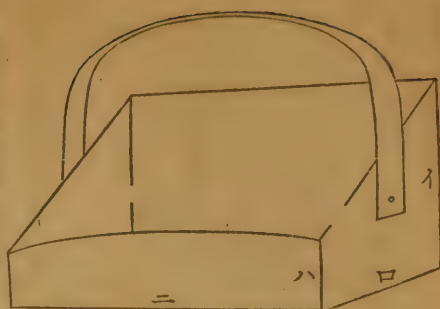
◎邑久高等小學校の昆蟲談　同縣同郡邑久高等小學校長櫻木氏は敎育熱心家の評判高く特に理科思想に富まるゝより當時同地に出張の名和氏に請ひて同校生徒に一場の昆蟲談を希望せらるゝより同氏は皈途同校に立寄り八百余名（内女生二百五十余名）の生徒に對し實物を示して談話し後種々の昆蟲書を紀念物として該生徒に分與せられしと云ふ

◎邑久郡昆蟲展覽會の計畫　同縣同郡に於ては明年四月當所に開設せる第一回昆蟲展覽會へ出品準備の爲特に本年秋期に於て邑久郡昆蟲展覽會を開設することに確定せしと云ふ同郡には昆蟲學に熱心なる朝倉郡農會頭林同會幹事長入江郡書記赤枝小學校敎員等ありて最早是迄相當の素養あるを以て定めて明年の展覽會には優等の出品あることを深く信ず

◎提煙草盆形捕蟲器　藍葉の飛蟲の驅除豫防法に對し岡山縣農事巡回敎師岸歌治氏は左の如き名法を答へられたり藍の飛蟲は予の考案したる提煙草盆形捕蟲器の内面全体に石油を塗り尚器

中に石油少許を入れ之を左手に提げ右手に藁箒を持ち朝露の未だ乾かざる時器中に掃き入れ殺するを便とす即ち圖の如く鐵葉にて捕蟲器を造るべし

堤煙草盆形捕虫器の圖
（イ）七八寸（ロ）六寸
（ハ）二寸（ニ）一尺二寸

イ
ロ
ハ
ニ

◎蟲害地租特別處分法の公布　第十四回議會へ板東勘五郎氏外十三名より蟲害地地租特別處分法案を提出せられし所衆議院を通過し後貴族院も通過したり依りて二月廿八日法律第廿四號を以て公布せらる今其處分法を左に記す

第一條　本法は明治三十二年中德島縣那賀郡立江村坂野村羽ノ浦村に於て螟蟲の害を被りたる土地に適用す

第二條　前條の土地にして收獲皆無なるものに限り明治三十二年分地租を免除す

第三條　前條に該當する土地の地租延納年賦金は明治三十二年分に限り之を免除す

第四條　本法に依り被害取調中は其の地租徵收を猶豫す

第五條　本法に依り地租を免除せらるべき土地に付既に納めたる地租金は之を還付す

第六條　本法の施行に關しては訴願又は行政訴訟を提起することを得ず

第七條　本法に依り處分を受けんとする者は明治三十三年三月三十一日迄に收獲の皆無たりし事實を證明し所轄稅務署に申請すべし此の期限內に申請せざる者は本法の處分を受くることを得ず

附則

本法に依り免除したる地租は法律上總ての納稅資格中より控除せず

◎當所に關する國庫補助の件　當昆蟲研究所の擴張を圖りて多數の有志者は昨年十月山梨縣にて開會せし東海農區農事大會の節名和昆蟲研究所に國庫の補助を請願する事中央本部に交渉することゝ云ふ問題を山梨縣農會より提出されし所滿場一致を以て可決し次で十一月東京にて開會せし全國農事大會の節に於ても同樣一致を以て可決せられたることは已は本誌第廿七號の紙上に掲

載したるが其後第十四回帝國議會に於ても貴衆兩院共通過したれば今茲に速記錄より拔萃して其顚末を左に記す但し國庫補助の有無に拘らず當所員は出來得る限り國家に盡すの考へなれば請ふ是を諒せよ

○議長（片岡健吉君）議案の朗讀を省略致します

第十　名和昆蟲研究所國庫補助に關する建議案（稻垣示提出）

名和昆蟲研究所國庫補助に關する建議案

昆蟲の農產物上巨多の慘害を與ふるは今更喋々の辯を要せす政府は曩に害蟲驅除豫防法を發布し之か實施に努むると雖蟲類其の物の形狀性質を知悉し其の經過變遷の實況を觀察するの機關なくむば有效の驅除得て望むべからず我か邦曾て這般の設備を闕き僅に農學校等に於て一部試驗の成蹟を見るに止まれは頗る遺憾なりとす聞く岐阜縣名和昆蟲研究所は多年來無數の標本材料を蒐め徒弟を敎養し廣く各地に出張して講話傳習至らざる處なく其の成蹟顯著なるものあり然るに限りある私產を以て限りなき公共事業を支ふるは到底爲し得へきにあらず從て斯る有望の國家的機關をして空しく中絕に歸せしむに至らむ依りて本院は玆に國庫補助金一千圓宛を向ふ五箇年間支給し以て益々該所の業務を擴張し國富の增進に資せしめむとす當局大臣速に豫算を編製し更に院議に付せられむことを望む

右建議す

○議長（片岡健吉君）九名の特別委員を議長が指名することに御異議ありませぬか

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（片岡健吉君）御異議なければ其通り致します

○議長（片岡健吉君）是より報告致します

特別委員左の通り指名せり

名和昆蟲研究所國庫補助に關する建議案

山内吉郎兵衛君　鹽田忠左衛門君　堀尾茂助君

小田爲綱君　田邊爲三郎君　金岡又左衛門君

河口善之助君　稻垣示君　前島丈之助君

○議長（片岡健吉君）次は議事日程第十三名和昆蟲研究所國庫補助の建議案委員長報告稻垣示君

第十三　名和昆蟲研究所國庫補助に關する建議案（稻垣示君提出）（委員長報告）

〔稻垣示君演壇に登る〕

○稻垣示君（百二番）本案に對する委員會の經過及決定を報告致します、本案に附きましては委員

長理事を選擧致しまして、それより其翌日になりまして諸君の方へも御回しになつて居りまする通、名和靖氏の昆蟲研究所へ一千圓の補助金を與へると云ふことを、三千圓と云ふことに滿場一致を以て可決致しましてございます、此金額は些々たるものではございますが、一千圓を三千圓に增したと云ふことは、少しく理由を申上げて置かなければなるまいと思ひます、最初一千圓と云ふことは、唯概略一千圓位補助したら宜からうと云ふことでありました、然る處委員會に於て山内吉郎兵衛君より三千圓にしたるが宜からう、尤も此名和靖氏の是まで數十年間昆蟲學に研究されたことは、其功勞は甚だ夥しいものでございます、此事を研究せられるのみならず、或は東海、或は北陸、或は中國等へ此害蟲の驅除に附されまして方々を巡回演說せられ、或は驅除法に盡力され、或は傭聘されて、其驅除に力を盡された譯であります、其功績と云ふものは一方ならぬ次第で、而して是まで數十年間と云ふものは、昆蟲のことのみに關係致して或は著る物も着ず、食ふ物も減ずると云ふ譯で盡力された、而して今日まで年々費す金額と云ふものは、此蟲學のみにしても四五千圓の金額を費して居る、故に三千圓位是非補助しなければならぬと云ふのであります、(「異議なし」と呼ぶ者あり)異議なしの御聲がありますから、詳しいことは述べませぬ、宜しく御贊成を願ひます

(「贊成々々」の聲起る)

○議長(片岡健吉君)委員長の報告通、御異議はありませぬか

(「讀會省略」と呼ぶ者あり)

(「異議なし異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(片岡健吉君)御異議かなければ委員の報告通決します

○前島丈之助君(十五番)直に三讀會を開かんことを希望致します

○議長(片岡健吉君)是は建議案でありますから讀會はやりませぬ

○議長(公爵近衛篤麿君)名和昆蟲研究所國庫補助に關する建議案、井狩彌左衛門君外一名發議、會議

名和昆蟲研究所國庫補助に關する建議案

右貴族院規則第六十四條に依り提出候也

明治三十三年二月十四日

發議者　井狩彌左衛門　早川周造

贊成者　公爵　二條基弘　外四十九名

貴族院議長公爵近衛篤麿殿

名和昆蟲研究所國庫補助に關する建議

昆蟲の農產物上互多の慘害を與ふるは今更喋々の辯を要せず政府は曩に害蟲驅除豫防法を發布し

之が實施に努むると雖蟲類其の物の形狀性質を知悉し其の經過變遷の實況を觀察するの機關なくんば有效の驅除得て望むべからず我が邦曾て這般の設備を闕き僅に農學校等に於て一部試驗の成蹟を見るに止まるは頗る遺憾なりとす岐阜縣名和昆蟲硏究所は多年來無數の標本材料を蒐め徒弟を教養し廣く各地に出張して講話傳習至らざる處なく其の成蹟顯著なるものあり然るに限りあるの私產を以て限りなきの公共事業を支ふるは到底爲し得べきにあらず斯る有望の國家的機關をして費用の支ふる能はざるか爲空しく中絕に歸せしむるは實に遺憾に堪へざる所なり因て政府は向ふ五箇年間を期し國庫補助金三千圓宛を支給し以て該所の業務を維持擴張し國富の增進に資せしめむか爲速に該豫算を編製して議會に提出せられむことを望む

右建議す

〔早川周造君演壇に登る〕

○早川周造君　諸君、私は名和昆蟲硏究所國庫補助に關しまする建議案を提出致しました理由を簡單に述べやうと思ひます、諸君も御承知の如く此農作物に昆蟲の大害を與へますることは今更私の多言を俟たないことであります、政府に於きましても曩に昆蟲驅除豫防法なるものを發布せられまして專ら蟲害驅除に努めつゝあるのであります、併ながら此蟲害驅除に附きましては蟲害其物の形狀性質を能く知りまして、又其變遷を知らなく致しましては大に其驅除の目的を達することは出來ないのであります、然るに岐阜縣名和昆蟲硏究所に於きましては十數年來其事に熱心致して居りまして無數の材料も蒐め、一方には徒弟を教養致しまして諸君も御承知下されるでございませうが、各縣に派出を致しまして、蟲害驅除法に對して講話を致し傳習を致しますることは實に勉めて居るのであります、併し其講話はどうであるかと申しますと非常な成績がございまして、是は又私の喋々を俟たないことであります、然るに元と限ある資產を以て此有益の事業を致しまする者の到底資產の支ふ能はざる場合でございますから、或は此國家的有用の機關も中絕がすまいかと云ふ懸念があるのであります、故に政府は一箇年參千圓宛向ふ五箇年間此國家的機關に對して補助を與へられんことを希望致しまするために速に豫算を編制せられまして一日も早く本院に提出せられんことを希望するの建議案であります、右述べまする如く國家有益の事業でございますから、何卒全會一致を以て速に通過せられんことを希望致します

○渡邊洪基君　此建議案は誠に切實なる建議案でございまして、本員等もどうぞ賛成致したいと考へますが、併ながら此國庫補助のこともありますし果して目的を達するや否やと云ふことに附いては調査を要することゝ思ひますから、委員を選んで之を附託せられんことを希望します

○田中芳男君　ちよつと賛成の意を述べたうございます

○議長（公爵近衛篤麿君）　宜しうございます

〔田中芳男君演壇に登る〕

○田中芳男君　唯今提出になりました建議案は私も贊成者の一人でございますからして少し贊成の主意を述べたうございますが、併し大概の所は唯今提出者の一人からして御辯明になりましたから重複致さぬ樣に申上げやうと思ひます、此名和と申しまする人のことを聊か申上げなければなりませぬが、是はどう云ふ蟲好き先生が知りませぬが子供の內から餘程蟲の研究をした者であります、それ故に能く幼年の頃の筆記抔を見まするとの蟲の繪圖抔が澤山に書いてあるものを見ました、して見ると此先生はもう子供の時から蟲が好いたものと見ゑます、所が學校に從事して居る間にも始終研究して居りまして學校の教員としては甚だうけが惡くて終ひにはどうも學校にも居り兼ると云ふことで、とう〱蟲專門家になつて民間に在つて仕事をすることゝなつた人であります、然るに此人は何せ民間でばかり仕事をして居るか、政府へ出てちつと手傳つたら宜からうと云ふ考がありますが、是はその政府が惡るいか、本人が惡かつたかどうも政府へ出て御加勢することも出來ないで、とう〱民間に自立して居ります、勿論地方に在りますか、併し日本で蟲の專門家と言つたら他にありませぬ、彼の人の他にはない、萬國に名が知れた人であります、で外國の博覽會へ出品する蟲抔と云ふものは何時も彼の人の手を借りなければ出來ませぬ、例へば大學から出品する物でも其他の場所から出まする物でも皆彼の人の手で成立つた物が始て會社とか何とか云ふものゝ標本と爲つて出て來る位なことであります、唯今まで內國の博覽會より屢々立派なる褒賞を貰ひ、又外國からも立派なる褒章を貰つたと云ふ位名譽ある人であります、で日本で其人の功績は如何あるかと云つて見ますると、先づ害蟲と云ふことから申上げなければなりませぬが日本で害蟲のことを喧ましく申したのは明治十年頃であつて、既に此間德島縣の害蟲抔に附きまして申上げた通害蟲と云ふものは漸く明治十年頃に人が注意するやうになつたと見ゑる、併し其事を取扱ふ人は何處に居ると申しますと大抵內務省の一偶、農商務省が立ちましてから農商務省の農務局の一偶にほんの僅な係員が出來て、其人は立派な昆蟲學者でも何でもないけども已むを得ず片偶に昆蟲の世話をして居つて、それ螟蟲が出たと云へばあちらこちらを驅回つて世話をする、是は日本の昆蟲に附いて世話をすることを始めた人であります、爾來農事試驗所が出來ましたので昆蟲のことを愈々注意せねばならぬと云ふことになりましたが、中々農事試驗所は昆蟲の學問を修めるどころでない、其他のことの研究に逐れるだけのことで中々經費もなし時間もなし今日まで來りましたが、いつも此事は今日まで十分に研究することが出來ない、唯鼻の先きにぶら下つて來ましてから、それ〱驅除の方法を授けたと云ふだけで農事試驗所では中々手が回つて居らぬ、併しながら農商務省に於きましても愈々今日の如く蟲害が盛になつたときには害蟲の驅除と云ふことに附いては今年からは其市の豫算も多少出來て居ると云ふことでありますから以後は農商務省でも昆蟲の驅除は注意も行屆くでありませうが、今日の所では日本で昆蟲のことに注意をするのは此人一人と云ふ譯で實に國家のためには瞑々裡の間に盡力した昆蟲學

者でありますから此建議案の通になりましたなれば本人も今日まで椽の下の力持をして其效も顯れると云ふさう云ふ理由でござりまするから日本國の害蟲驅除のためには大に功績のあることであらうと存じまして此案を賛成致しました所以でござります、ちよつと一と口申上げますが一昨年浮塵子が全國に生じましたゝめに日本全國で五百萬圓から損耗になつたと云ふことでござりますから此害蟲の驅除と云ふものに平日から注意して事ない日に注意を爲し、事あつたときには速に驅除すると云ふことは方今の急務であらうと存じまする故斯樣なる昆蟲學者は成るべく國家のために成立たせたいと思ひますから本建議案を賛成致しましてございますから、希はくは滿場一致御賛成あらんことを希望致します

○子爵谷干城君　此事は私も承つて居ることでございますが、何分此害蟲の驅除と云ふことはむつかしいもので、私の隣縣の如きは先達も申しましたが害蟲のために大變困難に陷りました、元來日本では農業の事を度外に置いて蟲の何たるを知らぬ唯一種の博物とか植物動物學の研究位に止つて居つたやうでありますが、斯の如きことは極急務なものと思ひますから私が聞き居る所では大きな金でもありませぬから是位のことはどうぞ願ひたいと思ひます

○子爵小笠原壽長君　ちよつと渡邊さんに伺ひますが、委員を設けて調査しやうと云ふことでございますか

○渡邊洪基君　さうです

○子爵小笠原壽長君　然らば本員も賛成致します段々此處に御演說も拜聽しましたし建議案でも見ましたけれども果して此參千圓が適當であるか是より減ずべきか又多くやつて宜いか何さま豫算に關係して居りますから是は矢張委員で十分調べました上で議場ヘ報告するが宜からうと思ゐますから渡邊君の委員付託ヘ賛成致します

○瀧兵右衛門君　渡邊君に賛成します

○議長（公爵近衛篤麿君）それでは委員付託の動議がありますす、之に同意の諸君の起立を請います

起　立　者　　少　數

少數と認めます、然らば本建議に附いて採決を致します、本建議を可とする諸君の起立を請ひます

起　立　者　　多　數

過半數と認めます

◎全國害蟲驅除講習會の實況

本月廿一日より四月三日迄二週間當所に於て開會する第三回全國害蟲驅除講習會は第一、二回より非常ヘ盛大にして已に滿員となるのみならず第四回分も

最早滿員に近き有樣なれば此分にては來る八月迄に第五回をも開設するの必要ありと云へり

◎教員昆蟲講習會　四月五日より九日迄五日間岐阜縣本巣郡小學校教員(三十四名)に昆蟲講習を當所に於て開設することに確定し居ると云ふ

◎害蟲驅除講習會　四月十日より廿九日迄廿日間第三回岐阜縣害蟲驅除講習會を開設することに是又確定し居ると云ふ

◎新刊雜誌の昆蟲記事　新刊雜誌中に掲載せられたる昆蟲に關する重なる記事は左の如し

(一)動物學雜誌(第百三十六號)　薊蚜蟲に就て(石版圖入)中川久知氏、日本產蝶類圖說宮島幹之助氏、クジャク蝶の蛹の色と光線との關係宮島氏等の有益の記事多し

(二)高知縣農會報(第九號)　植物の害蟲に就てと題して螟蟲苞蟲のことを說明す

(三)通俗農談會(第三十六號)　昆蟲雜記(其廿四)三化生螟蟲蜜柑の介殼蟲(圖入)名和梅吉氏

(四)帝國農事報(第三十四號)　昆蟲學(三)分類を能島正夫氏說明す

(五)蠶業新報(第八十一號)　蠁蛆の驅除法に就てと題して脇田重太郎氏說明す

(六)講農會會報(第四十五號)　害蟲飼育法(續)仔蟲期採集法土田都止雄氏說明

(七)大日本農會報(第二百廿一號)　稻の二化生螟蟲研究の成蹟本間宏氏、根喰葉蟲に就て佐藤辰衛氏の說あり

(八)防長勸業會報(第七十四號)　桑樹の害蟲驅除に就き當業家に警告す藤島盈文氏、蠁蛆に就て松井淺市氏の說あり尙は稻株堀取器の口繪を挿入す

◎北宇和郡害蟲驅除講習會續報　愛媛縣北宇和郡に於て害蟲講習會を開設せられしことは已に前號の本誌に記し置きたるが今詳細なる報告を得たれば左に記す

昨年十一月十日より開會せり該會は縣下嚆矢の事業たるにも不拘役員の熱心と注意により諸般の準備宜敷を得て遺憾なし其設備する所の害益蟲標本は數百を以て數ふべく捕蟲網、誘蛾燈類は各種を網羅し昆蟲採取機械、飼育機械、標本製作機械、同上藥品類、解剖機械等に至る迄之を場內に整列完備し直ちに以て教授の材料に供するを得顯微鏡の如きも七臺の多きを致し爲めに大に講

習の敏捷利便を得たり加ふるに講師の熱心にして懇篤なる生徒諸氏の着實にして勉勵なる總て本會開設の旨趣に叶ひ縣下の摸範とすべく實効を見るの日あるも亦期すべきなり其講習科目左の如し

第一　總論　岡村技師講演
第二　昆蟲　同上
第三　昆蟲の變態　同上
（一）体形變化の順序、（二）完全變態及不完全變態
第四　昆蟲分類　同上
第五　昆蟲体外部の構造　岡本副會長講演
（一）頭部、（二）胸部、（三）腹部、（四）五管、
第六　昆蟲内部の構造　同上
（一）消食管、（二）血行管、（三）神經管、（四）呼吸機管、（五）皮膚筋肉及脂肪、（六）生殖機、
第七　昆蟲の習性　同上
（一）巣、（二）保護色警彩及擬態、（三）雌雄の異形及異彩、
第八　花と昆蟲との關係　同上
第九　昆蟲の蕃殖と自然の製裁　同上
第十　益蟲害蟲及敵蟲　岡村技師講演
（一）益蟲、（二）害蟲、（三）敵蟲、
第十一　昆蟲の飼育法　同上
第十二　昆蟲採集法及實地　同上實地は岡本
第十三　標本製作法及實地　同上
第十四　害蟲驅除法及實地　同上
第十五　顯微鏡使用法及實地　岡本副會長

右は同月廿七日を以て終了し閉會と證書授與の式を擧げたり其順序と修業證を得たる人名等を記せば左の如し

一會長閉會の辭　會長玉井安藏氏全國農事大會へ本縣代表員として出席不在中に付副會長岡本景光氏代理せり其大要左の如し

本日者講習會を都台能〻終りまして郡長代理久野君縣農會より視察として御出張の白石君其他小笠原君初め多數の來賓諸君の御臨席を辱ふし爰に閉會式を擧げますのは本農會に取て光榮に存じます會長玉井君は上京中にて不在で依て私は代理として一言申述べます扨本農會も去九月に講習會開設の決議を致し直ちに開會の筈でありましたが丁度縣會議員選擧の差支や品評會で講師に差支あ

り已を得ませず十一月十日より開會致し講習生申込廿五名其内病氣事故にて出席なき二名中途より欠席せられたる三名都合廿名は今日修業證書を授與致すので御座います開會日數は十八日僅少なる日數と雖ども一日の放課もなく午前八時より午后四五時迄講師岡村技師始め講習生諸君に至る迄一日八時間以上熱心に日課を勉勵せられ昆蟲に關する學理實地の大要習習濟になりましたのは實に祝す可く岡村技師に感謝する所で御座います講習生諸君に於きましても此度の講習を受けられたるは皆其村農會の選拔により郡農會は補助の有りし次第本農會ゟ對し町村農會ゟ對して義務あり責任を有せらる此義務責任を充分に盡されんことを希望致します殊に大久保忠義君は身官衙の劇務を所理せらるゝ傍ら郡長の命ゟ依り本講習會監督旁講習を受けられ本會の爲めに熱心御盡力ありたる段其勞を謝しまする聊一言述べまして式辭に代へます

二修業證書授與式　會長代理岡本景光氏より授與せり其人名左の如し

北宇和郡　成妙村（芝重義）　岩松村（江口森雄）　好藤村（山崎滿）　高近村（山村莊太郎）　泉村（渡邊昇藏）　來村（岩城喜市）　蔣淵村（魚住房吉）　高光村（中井金五郎）　遊子村（吉見威）　三間村（大高玄龜）　畑地村（渡邊喜太郎）　愛治村（廣田儀造）　淸滿村（兵頭雅一）　明治村（杉本逸男）　八幡村（松浦晴雄）　九穗村（市村岩尾）　下波村（堀田良吉）　御槇村（吉良賴雄）　二名村（河野道名）　北宇和郡役所農商係（大久保忠義）

◎害蟲の現出

本年は例年に比し寒氣強く爲めに害蟲にも多少の影響を及ぼしたるべし然れども諸種の害蟲は各々寒氣を凌ぎ得べき適當なる場所ゟ潜伏するものなるを以て容易には死滅せざるなり今や將に暑いも寒いも彼岸までの諺に違はず幾分か暖氣を催ふし櫻、桃花も開綻せんとせし折柄各所に潜伏し居たる害蟲も漸次現出して加害せんとす例へば桃に發生する蚜蟲は旣に孚化して芽液を吸收し果樹の大敵たる梅毛蟲は將に孚化せんとし或は桑樹の枝尺蠖、金蛄蟖は桑芽を食害するものあり或は刺尺蠖は羽化して產卵するものあり或は浮塵子の如きは芸薹、麥圃に出で來り或は蔬菜類に發生する葉蟲類は菜の葉上にありて食害する等一々擧げ來れば夥多なりとす斯の如く諸種の害蟲は今後日夜閑斷なく各々欲する植物に加害をなすものなれば今より注意一番驅除豫防に盡力するは最も必要なり讀者諸君請ふ寒氣の爲めゟ死滅せしとて油斷する勿れ（寄蟲生記す）

貴郡へ客遊中は種々御欵待を蒙り萬謝の外無之候一々御挨拶可申上筈の處飯縣後極めて多忙に御座候間乍略儀以誌上御禮申上候

明治三十三年三月

名和靖

岡山縣邑久郡辱交諸君

○葉書通信募集

今回葉書通信を募集せんとす其趣意は愛讀者諸君地方の出來事を始め其他昆蟲に關する一切の件を簡にして明瞭に廣く通信を請はんとす縱令匿名にて本誌に掲載を請はるゝも當所へは必ず本名記入ありたし

名和昆蟲研究所

○購讀者募集

本誌は發刊以來漸次改良せしが尚一層改良を加へて愛讀諸君の厚意に酬ひんとす願くば斯學普及の爲め此際廣く購讀者を募集せられんことを希望す尤も紹介者の芳名を本誌に掲ぐるのみならず聊かながら當所調製の紀念品を贈與せんとす請ふ購讀者募集の勞を取られんことを

名和昆蟲研究所

昆蟲世界購讀者紹介諸君芳名

岡山縣朝倉力治君(十二名)滋賀縣西澤大吉君(三名)福井縣松本伊久藏君(一名)京都府岩見勇藏君(一名)岐阜縣村井正元君(一名)

◉害蟲圖解　逐次出版

●圖解の紙幅は　縱一尺三寸　横九寸

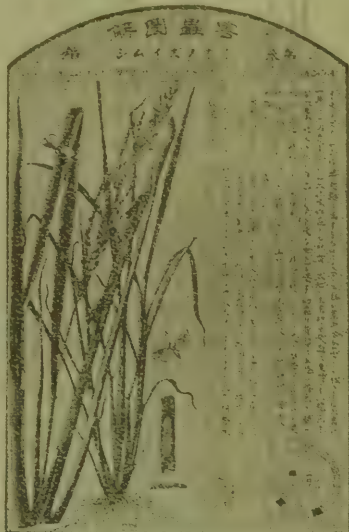
●壹枚代價拾五錢　郵稅貳錢

●百枚以上一纏代價　壹枚拾錢郵稅百枚ニ付廿錢

●豫約代價　壹枚拾錢郵稅貳錢

●圖解代金凡て前金にあらざれは回送せす

但郵劵代用は一割增の事

直徑五分一の縮圖

○第一　桑樹害蟲エダシヤクトリ(再版)

○第二　桑樹害蟲トゲシヤクトリ(品切)

○第三　稻の害蟲イネノズイムシ

○第四　煙草害蟲タバコノアオムシ

○第五　稻の害蟲イチモジセヽリ

○第六　桑樹害蟲ヒメゾウムシ(新版)

○第七　桑樹害蟲シンムシ(新版)

○第八　稻の害蟲イネノアオムシ(新版)

發行所　名和昆蟲研究所

○動物學雜誌

第十二卷百三十六號 明治卅三年三月十五日

目次石版圖(日本鳥アブラムシ)○蓟蝦蟲に就て(中川久知)○メラニデーの一種よも二樣の精蟲わり(森脇幾茂)○北海道淡水產貝類採集記行(岩川友太郎)○日本產蝶類圖說(宮島幹之助)天草郡町山口灣動物概況(村上萬太郎)◎雜錄○猥りに外國より鳥獸を輸入するは危險なり○タカチホヘビの新產地○フォルマリンの一特性○クヂャクチャウの蛹の色と光線との關係○動物採集保存法案內○動物研究法雜記○軟甲類と切甲類○海岸ハ驚くべき現象○東京動物學會記事○正誤◎質問◎會報

發賣所 東京神田裏神保町 合名會社 敬業社

同 東京日本橋區通三丁目 丸善書店

新農報

關西唯一 農事機關

定時刊行 每月一回

○新農報は不偏不黨の旨義を遵守し漸次我邦農家の改良進歩を企圖し專ら農家の福利幸運を增進せしめんことを期す論說は趣意明晰にして行文流暢恰も磐上玉を轉するが如し一讀能く其意を解し易し○寄書は內外農業家諸氏の最も嶄新にして精確なる卓說を網羅す殊に歐米最近の農況を紹介するは本欄の儃得とする所也右の他雜錄、雜報、紀行、問答、樂園等皆有益なる記事を登載す○定價一部郵稅共金五錢六冊半ヶ年分金廿五錢

發行所 大坂西區川北西野大坂硫曹會社 新農報社

岐阜縣農會雜誌號外 名和昆蟲研究所 全一冊

本書には名和所長の肖像、研究所の圖並に共同驅除の圖都合三葉の口繪を挿入し當研究所の顚末を詳細記述したるものなり少々殘部あれば希望者は郵券拾錢封入申込みあれば直に送呈す

農學士松村松年氏著 ○害蟲驅除全書 定價郵稅共金九拾五錢

鳥羽源藏氏著 ○昆蟲標本製作法 定價金貳拾五錢郵稅四錢

取次所 岐阜市京町 名和昆蟲研究所

東京牛込早稻田早稻田農園

種苗新設

農書●農用高等器械●蠶具●幻燈

種苗類●定價表は往復端書にて呈

●通俗農談會 每月一回 見本參錢

右一ヶ年分郵稅共參拾錢每號拾部

以上取纏は十二冊郵稅共廿五錢の割

◎昆蟲學用書籍、器具、寫眞廣告

名和昆蟲研究所長名和靖著

四版

薔薇の一株 昆蟲世界 全

定價 金廿錢
郵稅 貳 錢
郵劵代用一割增

理學博士佐々木忠次郎先生著

● 日本農作物害蟲篇 全 郵稅共定價金貳圓

農學士松村松年君著

● 增補 日本昆蟲學 定價金壹圓參拾錢 郵稅金拾 貳 錢

同君著

● 日本害蟲篇上下貳册 定價 金參圓 郵稅金貳拾錢

● 米國新形撿蟲鏡 定價郵稅共金壹圓貳拾八錢

● 圓形捕蟲器 定價金參拾四錢荷造五錢 送費百里迄八錢外拾六錢

● 咽喉付圓形捕蟲器 定價金參拾九錢 荷造送費前同樣

● 半圓形捕蟲器 定價金四拾五錢 荷造送費前同樣

● 方形捕蟲器 定價金五拾五錢 荷造送費前同樣

● 殺蟲注射器 定價金貳拾貳錢荷造八錢 送費八錢外拾六錢

● 益蟲保護器 定價金八拾錢荷造費拾九錢 送費百里迄貳拾錢外四拾錢

コロンボス世界博覽會出品

● 害蟲標本寫眞帖（卅三枚張） 定價金貳圓送費百里迄拾貳錢外廿四錢

皇太子殿下獻上

● 中等教育用昆蟲標本寫眞帖（十六枚張） 定價金九拾六錢 百里迄八錢外拾六錢

取次所 名和昆蟲研究所

●昆蟲標本發賣廣告

農作物害蟲標本 壹組（桐箱入解說付 金四圓五拾錢）

同 益 蟲 標 本 壹組（桐箱入解說付 金參圓五拾錢）

教育用昆蟲標本 壹組（桐箱入解說付 金四圓五拾錢）

自然淘汰標本 壹組（桐箱入解說付 金五圓五拾錢）

雌雄淘汰標本 壹組（桐箱入解說付 金五圓五拾錢）

氣候變形標本 壹組（桐箱入解說付 金四圓）

壹組の荷造費二拾錢郵稅百里迄廿錢百里外四拾錢

當昆蟲研究所は專ら昆蟲の研究標本の調製に從事せんが爲め豫て諸般の設備に汲々たりしが今や準備も畧ぼ其緒に就き廣く江湖に向て本所を紹介するの運に至りたるを以て更に規摸を擴張し前記の標本並に學術的裝飾的に屬する昆蟲標本の調製を應諾せんとす特に害蟲驅除豫防法に依り各府縣に於て定められたる害蟲類を始め各種の學校に適當なる昆蟲標本は本研究所が多年獨得の技倆に依りて之が調製を爲し多少に拘らず貴需に應ずるのみか其調製の如きも掛額柱懸等御希望に依り種々美術的に調製を爲し以て昆蟲思想の發達を圖り公益に資する所あらんとす本所長名和靖は曾て第三回內國勸業博覽會に於て其出陳の昆蟲標本に對し有功一等賞を得其第四回に於ては進步一等賞を得たり標本の精美と調製の緻密なるは世自ら定論あり今復茲に之を謂ふの要なし幸に愛顧を埀れ陸續御注文の榮を賜へ

岐阜市京町

發賣所 名和昆蟲研究所

（明治三十年九月十日內務省許可
明治三十年九月十四日遞信省認可）

●岐阜昆蟲學會月次會廣告

岐阜昆蟲學會の月次會は毎月第一土曜日午後正一時より岐阜市京町岐阜縣農會樓上に於て開會する筈なれば萬障御繰合の上毎回御出席御演說に預り度候尤も第一土曜日は名和昆蟲研究所員一同午前より研究を中止し居れば精々早く御出席に相成候得ば斯學研究上出來得る限り御便利御與可申上候以上

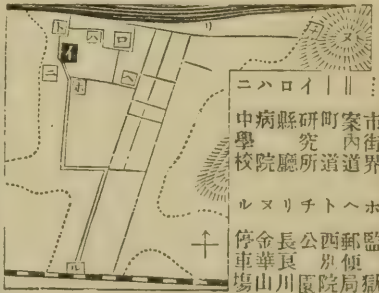
但し該會へは縣の內外を問はず有志者諸君は廣く御出席を請ふ

明治三十三年一月

名和昆蟲研究所內
岐阜昆蟲學會

岐阜昆蟲學會月次會本年中の日並は左の如し

第十七回月次會（五月五日）　第廿一回月次會（九月一日）
第十八回月次會（六月二日）　第廿二回月次會（十月六日）
第十九回月次會（七月七日）　第廿三回月次會（十一月三日）
第二十回月次會（八月四日）　第廿四回月次會（十二月一日）

第十六回月次會は四月七日に開會す精々御出席を請ふ

●名和昆蟲研究所案內

當研究所の位置は上圖の如くにして停車場よりは僅十餘町なり當所には常設の昆蟲標本陳列室あり新設の養蟲室もあれば有志の諸君續々來訪あれ

岐阜縣岐阜市京町
名和昆蟲研究所

●本誌定價並廣告料

壹部郵稅共金拾錢
十部郵稅共金九拾錢（見本は五厘郵券貳拾枚にて呈す）

（注意）本誌は總て前金に非れば發送せず●爲替拂渡局は岐阜郵便電信局●郵券代用は五厘切手にて壹割增とす

廣告料五號活字廿一字詰一行に付き金十錢三十一行以上一行に付き金八錢とす

明治三十三年三月十五日印刷並發行

岐阜縣岐阜市今泉九百三番戶ノ二
（岐阜縣岐阜市京町）
發行所　名和昆蟲研究所

岐阜縣岐阜市今泉九百三番戶ノ二
發行者　名和靖

同縣山縣郡岩野田村大字粟野百廿二番戶
編輯者　桑原貫之助

岐阜市笹土居町四十四番戶
印刷者　安田豊八

（岐阜市安田印刷工場印行）

PRINTED BY YASUDA TYPE PRINTING WORKSHOP, 19, Higashi-tsukasa-machi, Gifu, Japan.

Vol.IV. APRIL 15TH, 1900. No. 4.

（四月十五日發行）（毎月一回定時刊行）

THE INSECT WORLD:

A MONTHLY MAGAZINE.

EDITED BY Y. NAWA.
GIFU, JAPAN.

昆蟲世界

第參拾貳號　（第四卷第四册）

目次　（禁轉載）

PUBLISHED BY THE NAWA'S ENTOMOLOGICAL LABORATORY IN GIFU, JAPAN.

◎寄附物品受領公告

一金拾圓也　第三回全國害蟲驅除講習員一同
一金壹圓五拾錢　香川縣特別通信委員　岩倉六二君
一金壹圓也　三重縣　土井幹夫君
一金壹圓也　山形縣　第三回全國害蟲驅除修業生　佐藤寫太郎君　土屋龜吉君　富岡助太郎君　深瀬甚太郎君
一金六拾錢也　香川縣　濱垣寅彦君
一金五拾錢也　靜岡縣　藤村直三郎君
一全身肖像　壹葉　愛知縣　山本秋三郎君
一半身肖像（寫眞壹葉）宛　京都府　星野友洋君　宮城縣　永澤小兵衛君　岐阜縣　伊田柳松君　岐阜縣　孝森長之助君　三重縣　若林才之助君　山形縣　竹田庄助君　岡山縣　鈴木熊太郎君
一蟲の話（醫事學雜誌第百卅七號拔刷）理學博士　渡瀬庄三郎君
一治水論　一冊　東京市　井上甚太郎君
一改訂増補農業教科書上巻　一冊　京都府　湊力松君
一農業館列品目録　一冊　神苑會
一養蜂協會養蜂講義録第二回第三號　東京市　養蜂協會
一果樹栽培　一冊　東京市　裳華房
一蠶業藤家毛第貳編　一冊　長野縣　百瀬濤吉君
一莊内農業學校成績第二回　一冊　莊内農業學校
一岡崎共成會々誌第七十七號　岡山縣師範學校　岡崎共成會
一茶托　四枚　京都府興議部長　栗飯原鼎君
一さほり菓子　一箱
一黒米藤菓子　一箱　大阪市　由比昌太郎君

右當研究所へ寄附相成候に付芳名を掲げ其御厚意を謝す

明治卅三年四月

岐阜市京町

名和昆蟲研究所

●廣告

第四回全國害蟲驅除講習員募集

開期 自六月一日 至同月十四日 二週間　定員四十名

第四回は將に滿員に近き有様なれば此際希望者は至急申込みあれ　但し詳細なる規則は郵券貳錢送附あれば直に送呈す

明治卅三年四月

岐阜市京町

名和昆蟲研究所

岐阜縣害蟲驅除講習生同窓者に告ぐ

拜啓益御壯健御盡力の事と存じ欣賀之至りに不堪候就ては第三回本縣害蟲驅除講習會本月十日より開會相成來二十九日を以て終了可致就ては該講習生一同同窓會加盟の義滿場一致を以て議決致し今回申込み有之候間幸ひ二十九日証書授與の式日を卜し第一、二、三回の同窓會員一同總會を開き明年開設の昆蟲展覽會其他緊要の事件を々協定致し度候間萬般御繰合せの上授與式へ御參列旁選いも當日午前第九時迄よ御來着相成度尤も準備の都合も有之候間來る廿七日を期し必ず御返信有之様致度右得貴意度如斯に御座候早々不備　追而若一御出席難相成候へば祝辭又は紀念品にても御回送相成度希望致候

明治三十三年四月

岐阜縣害蟲驅除講習生同窓會長　名和靖

岐阜縣害蟲講習生同窓者諸君御中

美術工藝上ニ應用サレタル昆虫ノ模様

昆蟲世界第參拾貳號
(明治三十三年四月)

論説

◎美術工藝上に應用せられたる昆蟲の形狀に就て (第四版圖參看)

工科大學助教授 工學士 武田五一

美術工藝上吾人が一の美なる形を考案せんとせば其方法唯二途あるのみ一は既知の形態中美と感覺したるものゝ全部若くば一部を摸倣して新なる形式を案ずるもの他は推理上より得たる美の性質を一の形に現はすこと之なり換言すれば第一法は哲學者の所謂歸納法にして第二は演繹法なり而して吾人が最多く使用するは第一法なりとす第一の法に從て天然物より一の美なる形を創案せんとするに亦二種の順路あり寫實法及摸樣化法之なり寫實とは天然の形を直寫し其存在の有樣を形式上に再現せんとするものにして希臘羅馬及歐州十六、七世紀頃の摸樣は多く此法による摸樣化とは天然物を直寫せず其形狀を解剖して其主要なる点最も著しき点或は最も美なる点のみを表現することを本旨とす其余の形は多く眼中に置かず故に時としては全く實物と異なるが如き形を生ずる事あり殊に美術工藝品にては其加工すべき原料及び其製作の方法及工作者の巧拙に應じ其形を變ぜざるべからざるの必要あるを以て此法の使用せらるゝこと最も多し東洋の工藝品に對せる摸樣は多く此法に由るが如し

以上の二法は各其特長を存し其優劣を定むること難しと雖も學術界刻下の形勢に於ては美術工藝としては天然物は摸樣化して之を應用する方美感外の雜念を排除するに適當なりとするの說最も多きを占む西洋にある近時の工藝品は多く摸樣化の法に依り間々極端なる例を見る事あり

天然物の形を摸樣化せんとするに亦二種の手段あり省畧法、加筆法之れなり

省畧法とは所謂主要なる点若くば著しき点のみを表すに止まり他は之を省畧する方法なり如斯すれば其摸樣を以て表はさんとする精神を充分に發揮して他の不用なる概念を誘發することなく其摸樣を以て極めて明瞭なる心理的印象を生ぜしむる事を得べし附圖中(11)(12)(17)(八)(十七)(十五)其他各國各時代の裝飾中に此法を施したるもの甚だ多し

加筆法とは主要なる点若くば著しき点をして一層其意味を明確ならしむる爲め數多の線條若くば色彩を以て之れを豐富するの謂なり即ち省筆法の一層進んだる方法にして其効果極めて多し此例は未開國に少く獨逸、佛蘭西の十六世紀より十八世紀に渉る工藝品に多し

以上の二法とも工作者に甚しき巧拙ありて巧なるものは其美的概念極めて能く發揮せらるゝも拙きものに至りては徒に形態を奇異にし或は贅物を加ふるに止まり觀者の一時の好奇心は滿足に得べきも直ちに厭惡の念を生ぜしむ此巧拙の分るゝ處其主因として觀察力の精否特に其形の要点、美点を觀察する能力の多少に由る所多きが如し

加筆法の一にして奇異なる形を摸樣中に挿入結合して一層其効果を充分ならしむる事ありこれを異形挿入法と云ふ即ち獸類と唐草或は鳥翼と兒頭を結合して一の摸樣となすが如し

以上の事實を表して分類すれば

模様 Pattern.
- 理想的 Idealistic.
- 模倣的 Imitative.
  - 寫實 Realism.
  - 模様化 Conventionalism.
    - 省畧法 Simplification.
    - 加筆法—異形挿入法 Grotesque Figuring.

(第四版圖解)(一)は織文類纂巻五(二)は同書巻一金襴(三)は同書巻九緞子(四)は同書巻五(五)は同書巻一襦子地銀襴(六)同書巻四能装束厚板(七)は同書巻一能装束厚板(八)は四季のよそほひ下巻九枚(九)は四季のよそほひ表紙(十)は熊野神寳二重綺模様(十一)は政所唐衣模様(十二)南殿御帳風帯模様(十三)は光琳畫扇面の模様(十四)は中門幌裂地(十五)は精華第一編六圖(十六)は東京旅舘日本橋島屋食器にありし模様(十七)は Lewis F. Day's nature in ornament. 133 page. (十八)は同上plate 99. (十九)は同上 Plate 97. 支那縫取模様(二十)は同上Plate 97.

（未完）

◎稲の螟蟲の學名に就て

伯林大學昆蟲學實驗室に於て農學士　松村松年

本邦稲の螟蟲と稱するもの二種あり其經過習性の大半は既に諸氏の記する所となりて世に公にせられ余も亦其一部を記せる事あり然れども其學名に至ては不幸にも未だ不明に屬し吾人昆蟲を專攻するものに其不便を與へしもの幾何なるやを知らず若し通俗之れを記するに當りては素より其之れを要せすと雖も事少しく學術的に渉らば必ず之なかるべからず學名は吾人昆蟲學者の最も重ずる所よして即ち蟲界の扇要なり例令其記する所にして確實なるも若し學名なくんば則ち其大半の價値は之

れが爲めに失せられ興味少なきより止まらずして更に蟲界に利益少なきを如何せん所謂非學術的として看破せられ纔て學者の注意上らさるも亦怪しむに足らざるなり試に昆蟲に關する一誌を繙けば云々の昆蟲は云々の植物を害し云々の經過をなすと若し其幼蟲にして八双の脚を有するものなくんば先づ鱗翅類の幼蟲ならん更に其各体節の小疾狀突起より一二本の短毛を生じ其性葉を捲くものなりとせば先づ葉捲蟲科（Tortricidae）に屬するものならん。判然せる頸脚なきものは蠅類の幼蟲なるべく六脚を有するものは甲蟲の幼蟲なるべけん然れども葉捲蟲科よりは十餘の屬ありて又其葉を捲くにあらずして Carpocapsa の如く疣中より蠶入するものもあるなり蠅類には馬糞を食ふのクソバイ（Scatophaga）あるべく人体に寄生するの Calliphora あるべく又作物根を害するの Anthomyia も有るなり故に知らん若し夫れ其學名にして記されざらんか漠たる見當を附するに過ぎずして遂よ其昆蟲を知るを得ず例令其習性にして比類なきも其經過にして異樣なるも曳て以て參考となすの價値少く又之れを引照するに當りても其名なきに於ては不便云迄もなかるべけん外國文を以て互に記載せるの今日に當りて學者の注意を乞ひ又之れが評論を乞はんと欲せば少なくも屬名位はなからざるべからず過般余は當昆蟲世界を當地大學の教授に寄送せるの際氏は余に曰く日本語は素より余の能くする所にあらず又大半の之れを能くするものなきを知る故に寧て蟲名位は學名を記せられんことを若し其蟲類よして引照に必要なるものとせば幸に各國今や貴國人の在寓せざる所なき程なれども就て以て其大体を知得し得べし余は魯國に佛獨語を以て記載せる昆蟲雜誌二種あるを知る尙更に同國文を以て記せるの雜誌も亦二種あるを認む余は素より之れを讀むを得ずと雖も其內學名の有るあらば直ちに以て如何なる昆蟲の記事なるや知り得べし即ち同國には云々害蟲を存し云々の種類を生ずるやを知

り得べけん和蘭には有名のTijdschrift Voor Entomologie（昆蟲雜誌）ありて其内時々本邦の昆蟲をも記載せる事あり余は亦之れを能くせずと雖も學名ある有るが爲めに其大体を知り得べく而して若其昆蟲にして必要なるものとせば更に字引に依りて又其細事をも知り得べけん若し學名なきに於ては其主意を惹かざるや勿論なり

一科一屬類似の蟲類は即ち類似の經過をなすものにして屬名に依りて大半經過を知り得べし彼のCacaecia は葉を捲けども未だ其果實に蠹入せるものあるを聞かず彼の Carpocapsa は果中に喰ひ入るも其葉を捲けるものあるを知らず夫れ學名の必要なる既に如斯然りと雖も其之れを知らんと欲す實に容易にあらず殊に本邦の昆蟲に關する參考書は廣く世界各國に散在し其之れを蒐集せんと欲せば莫大の資力を要し又從て廣く語學に通ぜざるを得ず余は嘗て歐米の學者に日本昆蟲類を送附し其學名を確めたる際其回答の中に往々誤謬の存せんを發見す例令ば同種類なるも英國に送りたるものと米國に送りたるものとは既に其種名を異にし甚しきに至りては往々屬名を異にせる事もありたり今や當獨國に來り本邦産昆蟲を研究するに當り其學名を識別するに困難なる其時を要するの大なる當時學者の其之れを識別するに當りて誤謬を生ぜしも亦故なきを知れり乃ち自國にありて廣く其昆蟲を研究し親しく山野を跋渉し田圃に眺みて其習性を知りて後にあらずんば大に誤謬を生じ易かるべし佐々木博士は曾て米國農務局に日本桃の果蠹蟲を送附せられし際同蟲は米國に産する Carpocapsa pomonell に近きものにして同屬なりとの回答を得られ其後 Insect Life に 兩三度列載せられし際も同じく Carpocapsa の下に列せられしを覺ゆ其後余は同氏より該蟲を得たる際其學名を求めし處Carpocapsa persicana の名を下さんと欲すと云はれたるを以て余は爾來同學名を用ひ來りたり然るに當地に

來り精しく之れを研究し見るに實に Tortricina にあらずして全くTinenaに屬するものなるを知れり而して余は近來之れをCapsina Sasakii; N.sp.の新稱を下して發表せん程なり

嘗て佐々木氏は印度鱗翅の專門家たる英人 F.Moore 氏に日本産二化螟蟲を送附し其學名を質されたる際同氏は如何なる誤にや稻の苞蟲にIartheza(Iarthesiaとあるは誤)Chrysographella, koll.の學名を以て回答せられたり同氏は既に有名なる鱗翅學者にして往々本邦産の昆蟲も記載せられたる事あり殊にLepidoptera Heterocera of Ceylon.(1880-87)3Vols. 420Marks)の如きLepidoptera Indica,8Vols(1890-95)308Marks）の如きは其重なるものにして前者の中には既に I.chrysographellaの着色畫も掲載せられあるを見ればマサカ誤もなかるべきに是れ誠に余の奇怪に堪ざる所なり而して余は嘗て佐々木氏より其當時の現物を見せられたるを以て氏の誤ならざる故に余の信ずる所其學名識別の困難なる又推して知るべき已故に余は身自ら其衝に當り研究するにあらずんば到底充分なる結果を得る能はざる已ならず又不案心の限なるを知るに至れり余は目下本邦産鱗翅類に屬する重要害蟲を當國昆蟲界に公表するに先ち目下最急必要なる稻の螟蟲三種の學名を記して同愛諸氏の參考にせん

第一種稻の二化螟蟲　Chilo simplex, Butl.

Proceedings of zoological Society of London 1880, Page 690.

本種は「バットラー」氏が臺灣の鱗翅類と題して記載せられたる本文の中にあり此蟲譜は Hampson Fauna British India (Heterocera) Vol. IVp.26, Fig 17.に記載せられあるものにして廣く東洋に分布し本邦の外支那朝鮮臺灣印度等にも存すと云ふ

左の三種は異名同種なり

Syn. 1. Crambus zonellus, Swinhoe-proc. Zool. Soc. London. 1884. P. 528.

2. Crambus partellus, Swinhoe-proc. Zool. Soc. Lond,1885.P.879.

3. Chilo concorellus, chris, Roman off Memoires sur Les Lepidopteres, 1885. P.149

第二稻の二化螟蟲 Schoenobius pipunctifer, Walk.

Catalogue of Heterocera Lepidoptera in British. Museum Vol. XXVIII. P. 523.

Hampson—Fauna of Brit. 2nd. Vol. IVp. 48 Fig 32.

Moore—Lepid.Ceylon iii. Pl. 184. Fig. 13.

Syn. { Chilo gratiosellus, Walk.—Cat. XXX. p967.
Schoenobius punctellus, zell.—Monograph.
I. chilonidarum et Crambidaram genera et species 1863. P. 4.
Apuima lineata, Butl, ♂ Trans, Ent. Soc, Lond, 1879 P. 457.
Schoenobius oblongopunctatus, zell, No, 14787 in Berliner Museum.

分布日本、臺灣、支那、印度、馬列、耶馬等

第三稻の大螟蟲 Nonagria inferens,W. K, cat, iX, P. 105.

Hamp—Fauna of Brit, Ind, Vol,ii, P.284, Fig153.

Syn, Leucania proscripta, WK,cat,iXP,106,

Sesamia fraterna, Moor, Lepid Atk,P. 103.

分布日本、印度

以上三種の屬名即ち Chilo, Schoenobius, Nonagria は盡く莖幹に蠧入するの種類にして其葉部を食するに至りては未だ余の聞かざる所なり印度の甘藷を暴すものには有名の Chilo infuscatellus. あり米國

の稻幹を穿つものにはChilo oryzallusあるなり近くは本邦に於ける稻の害蟲Nonagria innocensの如き歐州に於けるSchoenobius gigantellusの如き皆然らざるはなし

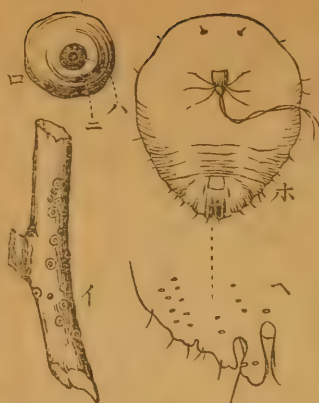
終に眺み余の同考諸氏に向て切望に堪へざる所は則ち學名を記せられん事之なり若し種名の判然せざるものは屬名のみにても可なり更に其屬名の不明なるものならば科名のみにても又其なきに勝さるや數等なり若し亦更に其科名の判然せざる者なりせば細密なる插圖を添附せられんとを望む是れ常に本邦昆蟲學の進歩に必要なるのみならず世界昆蟲學者の參考となるも亦少なきにあらざるなり

附記迂生目下當大學にありてProf. Karsch氏の下に本邦産害蟲を研究仕居候に付ては學名不明の種類あらば御送附被下度左らば可成速に御回答可仕候尤も成蟲にあらずんば學名を確むること能はざる次第に有之候普通封筒の中に三角紙に包みたる儘拾錢貼りて送り被下ても宜しく又送附方は商品見本として帶封四錢貼りて送り被下ても宜し宛名は日本獨乙伯林公使舘内小生宛

◎米國に輸入せし本邦産介殼蟲　（其二）

在米國スタンホルド大學　米國理學士　桑名伊之吉

本邦にては介殼蟲の調査未だ充分ならざるを以て其被害額を知るによしなしと雖も年々桑港を經て當國に輸入する苗木盆栽及び果實等の該蟲の被害にかゝるを以て或は燒棄され或は檢疫の際破損され或は市上の價格に下落を來す等其損毫少量にあらざるなり本邦の園藝家盆栽商者は今後害蟲驅除豫防を努め成る可く害蟲の被害のなき植物果實の輸出を圖ずんば他日之が輸出を拒絶せらるゝや必せり米國實業家は記臆す數年前佛國が米國より輸入する果實を拒絶せしことを、其當時佛國は彼の有害サンノゼー介殼蟲の侵入を恐れたり若し其れ植物果實の輸出を拒絶さるゝの不運に到らんかこ

れ單に實業家一個人の損耗にあらずして實に國家の不利と云ふ可し翻て我國の開港場を見るに政府にも未だ輸入植物果實檢閲の法令なく實業家も又異境より侵入する害蟲の如何に恐るべきやに經驗なければ有害蟲族は天仇寄生蟲を本國に殘し續々新領地に上陸しつゝあるや必せりサンノゼー介殼蟲の如き既に北海道東京近傍の果園に延蔓せり名和梅吉氏の通信に依れば該介殼蟲は目下岐阜市近地の梨、林檎、梅等に寄生せりと云ふサンノゼー介殼蟲の原產地は本邦なりとの說諜々たれども余は信ぜず該蟲は米國より本邦に輸出したる林檎の苗木に寄生せしものにして其より漸々播殖して遂に今日に至れるならんと政府は一日も早く他邦より侵入する害蟲を防遮するの關門を設け之れが豫防驅除の法を講ずるの一大急なることを信じて疑はざる矣

サンノゼー介殼蟲の圖
(イ)は小枝に雌蟲群附せる狀(ロ)は介殼(ハ)は第一脫皮(ニ)は第二脫皮(ホ)は成蟲(雌)(ヘ)は腹端の放大

頃日在桑港加州園藝局昆蟲學者兼檢閲官アレキサンダー、クロウ氏を訪問す、其日幸に兩雙の客船入港したれば同氏は余を誘ふて波止場に出頭し船客の上陸と共に盆栽苗木果實等を檢閲したり、一雙は日本丸にして支那及び本邦諸港を經て着港せしものなれば東洋の植物を多く搭載し來れり其內最も多く介殼蟲の被害を蒙りしは本邦より輸入せし盆栽の竹類なりき他雙は布哇より着港せしオウタタラリア號にして船客大約二百七十余名なるも盆栽類の輸入なく單に彼等が船中用果實の殘物を濟し來るのみなりき其理由を聞くに該船のホノルヽ港出帆の際は其地にて黑死病の流行ありしを以て盆栽植物類を船中に持ち來ることを一切許さゞりしによると

云ふ兩雙の植物果實をば直に撿疫室に入れ靑酸瓦斯を以て燻べ更に之れを撿閲せり撿閲終りて共に同氏の事務所に到り本邦介殼蟲を調査す左に同氏が去る西暦八百九十六年十一月より同九十八年十一月迄に桑港に上陸せし本邦新種の介殼蟲の名稱及び寄生せる植物の名彙を記載す

一黒色介殼蟲　Aspidiotus andoromolas, Ckll.　細少の介殼蟲にしてサンノゼー介殼蟲(SanJose Scale Insect.)に類似す雄殼は暗黒色なり本邦より輸入せし Photenias or Loquat tree 梅及び桐樹に寄生せり

一竹介殼蟲　Aspidiotus bambusarum, Ckll.　該蟲は本邦より輸入せし竹類に寄生せり雌殼は黒褐色にして稍や凸起せり第一脱皮は薄柑色第二脱皮は褐色なり殼形一見フタカイガラ蟲(A. duplex.)に似たり

一パコニイ介殼蟲　Aspidiotus paconae, Ckll.　本邦より輸入せし苗木に附着せり

一山茱萸の介殼蟲　Aspidiotus aucubae, Cooley.　雪白色の介殼蟲にして本邦より輸入せし山茱萸類(Aucuba)に寄生せり通常葉の裏面に群棲するを以て爲に葉を下面に卷き入るゝとあり雄殼は細長なれども雌殼は稍や楕圓形にして長さ三ミリメートル許巾二ミリメートル許あり第一脱皮は薄黄色なれども第二脱皮は少しく蠟質(Wax)の分泌物を以て包はれたり

一藤の介殼蟲　Chionaspis wistariae, Cooly.　本邦より輸入せし藤蔓に寄生せり雌殼は長さ二ミリメートルあり灰白色にして些微の脱皮は褐色なり第二脱皮は蠟質の分泌物を以て包れたり雄殼は雌殼より小にして細長なり通常木皮の裂目に蟄棲せり

一雪色介殼蟲　Chionaspis latissima, Ckll.　雪白色の介殼蟲にして最も美麗なり雌殼は殆ど圓形に

して半透明なり脱皮は黃白色なり本邦より輸入せし常盤樹に寄生せり

一蜜柑のカイヌナスペス　Chionaspis sitri, Comstock.　此有害蟲は本邦南洋諸島及濠州より輸入せし柑樹其他の苗木に寄生せり雌殼は灰褐色なれども其緣は灰色なり脫皮は黃褐色を呈せり

一和名不詳　Diaspis aurantiicolor Ckll.　本邦より輸入せし苗木に寄生せり

一蜜柑のホソカイガラムシ　Mytilaspis pallida var. Maskelli, Ckll.　小形の介殼蟲にして殼色甚だ褪けり蜜柑のカイガラムシ(Mytilaspis gloverii)に酷似す最も有害なり本邦より輸入せしPodocarpus に寄生せり

一松の介殼蟲　Poliaspis pini, Makel.　本邦より輸入せし松樹に寄生す殼形恰もMytilaspis.に酷似すれば顯微鏡に照し蟲を視るに非ざれば之を分ち難し

一金雀花の介殼蟲　Leucaspis gaponicum, Ckll.　本邦より輸入せし金雀花類(Bloosus)楓(Acer)等に寄生せり

一糠介殼蟲　Parlatoria proteus, Curtis.　本邦より輸入せし雲州蜜柑に附着せり先さに東洋(日本若くは支那)よりフロリダ州に輸入せし有害なる蜜柑の糠介殼蟲(Parlatoria pergandei)は雲州蜜柑の糠介殼蟲と同種なりと云ふ

一茶のパラトリア　Parlatoria Theae, Ckll.　本邦より輸入せし茶樹に寄生す介殼樹皮に酷似せるを以て通常見のがすと多し雌殼の長さ大約二ミリメートルあり楕圓形にして中央少しく凸起せり第一脫皮は黃白色なれども第二脫皮は黑色を呈す

◎岐阜縣害蟲驅除講習生に對する昆蟲講話

農科大學助教授　農學士　田中節三郎

編者曰く本編は本月十五日農學士田中節三郎氏が岐阜市京町岐阜縣農會樓上に於て第三回岐阜縣害蟲驅除講習生に對して講話されたるものを當研究所助手宮脇繼松氏の速記せしものなり

私は農科大學に居るものでありますが此度生徒を連れまして三重、岐阜、愛知、靜岡を回つて來まして此方の昆蟲研究所を拜見致しまする爲め今日出ましたが只今名和さんの御話が御座いまして何か私しに……丁度縣の害蟲驅除講習會があるから話をせいと云ふ事でございますから一寸一言申上げます私は蟲の事は余り深く存じません又突然でありますし別に御話し申上る樣な事も考へて居りません……先般來私は農作物の蟲に就きましては常に感じて居りまするし段々名和サンの御話も承はつて居るし又時に害蟲が……近頃劇しうありまして農商務省から害蟲驅除豫防の監督に出ました事がありますす聊か僅かの間何にも御參考には成りますまいけれども……申上げる積りである御承知でもございましようが昆蟲の事は外國では余程研究して居りまして近來は殊に進步して居る樣に聞いて居りまするが外國でも元とは一向に昆蟲學と云ふものは開らけなかつた樣で御座りまするが段々……此千八百年代になつてから余程進步した樣です外の博物學が進步すると同樣に進んで來た樣で

ある農事が進むに從て害蟲驅除、益蟲保護と云ふ樣な事が進んで來た樣であるが其以前は多少調べた事がありまするが日本の當時行はれて居る樣な蟲除けの御札を建てるとか蟲送りをするとか余程詰らない事をして居つたが只今では驅除の器械藥品を發明して應用的に進歩して居りまする純粹の昆蟲學は專門の學者が充分遣つて居る只今最も進んで居ると云ふは亞米利加邊が第一に進んで居ると云ひます其外ものに依り分類するのは獨乙邊で漸次研究が進んで居りまする夫れで獨乙邊からも調査員を出しまして亞米利加へ取調べに行つた位で又墺太利からも視察に參ると云ふ樣な事である日本では精しい事は……能く調べた事はございませんがチョイ〳〵研究して蟲の本が出來て居りまするが至つて杜撰なもので蟲と云ふものはどんなものであるか分らん位いであるで段々近頃になつて來て御承知のコチラの名和先生の盡力に依つて余程日本の昆蟲の名稱杯も分かつて來て夫々應用的の方も進んで來た次第である段々此の外國抔と比較して見まするると云ふと余程害蟲が劇いと云ふ事で有つて政府でも近頃試驗場邊りで調べに着手した樣な事で本年頃からヨウ〳〵遣る樣な事で中々手が屆かんのである之れはどう云ふ譯か分りませんが博物學はやるものがありまするが昆蟲學に就ては專らやる人がない樣である一体當時の有樣は學問をすると其人の衣食の爲めにやる樣な事で學問の爲めに其身を献げて研究するものが無い只衣食の傍ら研究すると云ふ樣な風で夫れが爲めに進まぬのであり日本では應用の學を認める事が尠ないのである私が考まするには詰り此蟲の事計りを研究致しましても到底生計をも維持する譯にいかんと云ふ樣な有樣があるが外國では專門として立派に行けます自から研究して充分の余裕がある……夫れは實に遺憾の次第である日本の樣な蟲害の多い國であつて夫れを研究する人が無いとは殘念である其れは巳を得ざる次第である夫れで農業

を研究する人が何もかも兼ねてやるのである蟲の事も肥料の事も土の事も作物の事も一人で研究せなければならぬ色々の事をやるから深く研究が出來ぬのである併し只今では稍時機が至つた樣である昨年の議會抔でも名和サンの研究所の爲めに建白抔が……建議書が出まして貴衆兩院殆んど同じ樣な建議が出て國家が其研究を必要と認めると云ふ樣な事であるからして之れからが漸次研究時代になると思ひます其研究が完成してから充分害蟲を除く、除く事が出來ると思ひまする外の學問の割合ではモー少し早く希望するので有るけれども已を得ざる次第である併し本縣はどうも全國と較べると余程幸福の点がある全國では夫迄には至らんのであるが、本縣は如斯講習があつて各郡から御集りに成て研究して當縣の害蟲驅除豫防を充分に施行することに成つて居るが一昨年か本縣下を巡回致しまして蟲害の有樣の視察を致しましたが其節は恰度蟲の多い年でありますし色々名和サンの話も承りまして段々見ますると本縣はどうも蟲が多いが名和サンも盛に研究されて居りまするが詰り害蟲が多い害蟲が多いからして自然の結果からして研究を感じられたので有ろうと思ふのである其節モー一ツ感じたる事は名和サンの研究して居らるゝにも不拘害蟲が劇い之れはどう云ふ譯かと云ふ事を質問致しました樣な事である夫れから本日御集りになつて居る樣な講習會が出來て害蟲の驅除をする樣な手順で既に着手して居ると云ふ事であるが其節に規則から成蹟を調べて農商務大臣に復命致しました事であるが其後引續き盛んで有つて本縣のみならず全國の講習もあつたそうであるが私は尤も之れに賛同して居るもので有る全國に之れを開いたら日本の害蟲驅除が容易に行はれると私は思ふて居るのである私は至る所其後も巡回致しましたが其度々本縣を摸範として各地方で遣つたらどうかと云ふ事を話した事であるがエー之れは外の事であるが一般の農事改良の方は

農學校があつて器械も道具も備はつて教授の人も有るから段々進んで來るのであるが其内一番結果のあるのは短期の講習である農學校は至極必要なものであるが地方の者は其父兄が子弟を農學校へ入れたならば直きに教員になるとか役人になるとか自分の經濟上の……エー生計を立つると云ふ考を以て居る只實業に就かずに云はゞ不生產的の人物に成る私も不生產的の仕事に從事して居るけれども……皆そうなつて居るのであるそうなつて來ますると實際に當つて改良をする人がないから困りまする其人が實際に當らんが一ッの憂いである……此短期の講習であれば農事の暇な時に講習を受けて實際に應用する事が出來るのであるから各府縣に行はれて居る矢張害蟲に於ても講習會と云ふものがあつて其處で充分に智識を得て夫れを實行するが一番の早道であろうと思ふ又一般に昆蟲學の智識を得るにも尤も近道であろう之れが一番で其外色々せなければならん事があるが政府に於ても害蟲に關する圖解を出版するとか又は本を拵へるとか色々の出版物を配るとかせねばならぬけれども未だ行なつて居らんが本縣ではソー云ふ樣な事が着々行はれて居るから結構な次第である先年私が感じました樣な害蟲の多いと云ふ事は段々講習會の爲めに除かれて全國第一の摸範に成る事であらうと思ふて居りまする又將來ソー云ふ事を希望致したいと思ひまする何も臆席を立てずに考へ付きを申上げますが私の考は單に只今申しましたは世界中で日本が一番害蟲が多いと云ふ事を腦に持て居る日本では外の學問の割合に昆蟲學が進まない之れは名譽と資力が供はつて居らんからであるが夫れは非常に遺憾であるけれども只今が時機であるから之れから益々進んで純粹の學問を研究せねばならん純粹のが遣つて無いと應用の土臺が立たんですな純粹の學問をやつて其れから應用に及ぼすと……夫れからは講習會抔を以てやるが最も必要であろう本縣の樣な害蟲の多い地方でも

尠なくなるだろうと思ふのである夫れと同時に各府縣の講習會の摸範になつて戴きたいと云ふ希望である夫れに就きまして私しが申す迄も無いが講習會が摸範になると云ふは諸君が御熱心に御研究よなつて本縣の各郡の害蟲驅除に從事するのみならず進んで各府縣へも出張して講師の任よ當る位ひに成る樣に希望するのである之れは外の事であるけれども事實は違ひまするけれども福岡縣の林遠里氏が米作の改良を遣つて勿論學理に於てはやかましい点がありますれども敎師が各地方に出ました結果は頑固な農家でも其敎師と競爭してやつて見樣と云ふ事からして段々農事の改良が出來ましたです詰り農家は刺擊を受けまして進んだのである本縣では余程違ひます蟲の事であるから之れを一般よ普及するのは余程六個敷けれども地本であるし標本も澤山供はつて居るし其必要が國家に認められて居る樣な事であるから本縣のみならず各府縣へ行つてやると云ふ事に致したい蟲の事は私は存じませんからして只私が考へました希望を一通り述べまして之れで御免を蒙りたいと思ひまする(終)

◎第三回全國害蟲驅除講習員の五分間演說

編者曰く本年三月廿一日より四月三日迄二週間當昆蟲研究所よ於て第三回全國害蟲驅除講習會開會の際三月廿七日午後一時より講習員四十九名の五分間演說會を開かれたるに實に有益なる說多々ありしが今茲に數氏の大要を掲載せんとす讀者諸君請ふ之を諒せよ

(一) 蟲送りに就て　山梨縣 坂本直

私は蟲送よ就て一寸と御話を致します此蟲送りは全國昔流を守て居る地方では行はれて居ると思ひます我郷里などの蟲送りの有樣は七月廿日頃になると區長樣から何日は蟲送りをすると御ふれが出

て其蟲送りと云ふ日は皆休業し晩方になると鎮守の境内ニ集り人が皆集まれば松明に火を附け鐘を打ち鳴らし大鼓をたゝいて田を廻り終れば松明は一所ニ集めて燃して仕舞ますそれで此蟲送りと云ふ事は元より無益のことで有て此講習會へ來て段々御話を聞て見ますれば尙々無益で有と云ふことが明りましたそして識者の其無益なる事を云へば舊弊の農家は中々聞ない反てやれ生意氣の何のかのと云ふて居る位の有樣で有る我々も此の如き無益の事は出來得る丈け止めにさせ樣と思ひますから是等のツマラン事を止めにする樣のウマイ工風があるなら敎へてもらいたいもので有ます

（二）　小學敎員の昆蟲學研究の狀態に就て　　三重縣　小西嘉三郎

諸君私は只今名和先生から御紹介下されました三重縣の小西嘉三郎と申す者で御座ります當今小學校敎員の昆蟲學研究の必要なるは今更ら喋々を要せざる次第で御座ります然るにもかゝはらず小學校敎員が昆蟲學を研究する者は殆んどまれ實ニ皆無と云ふも差支はありますまいされども岐阜、愛知、靜岡縣の如きは數多の小學校敎員諸氏が此席に於て御研究せらるゝを見るが又此の前に於て幾多の小學校敎員が昆蟲學の講習を受けられたる事も有りましたそふですか畢竟之は小學校敎員諸氏が熱心の致す所か又は監督官廳が奬勵せられて斯くなりしものか何れにしよ感服の外御座りません夫に我三重縣の如きは未だ一名の小學校敎員が害蟲驅除講習會へ出席したる者なし否な我三重縣のみならず其他各府縣に於ても未だ小學校敎員が害蟲驅除講習會へ出席したものゝ稀なるは敎員其者の不熱心の致す所か又は監督廳の盡さゞる所か何れニせよ普通敎育を施す所の敎育者が此の有樣にては實ニ國家の爲め概歎の至りニ堪へません願くば諸君御歸縣の上は今私が御話し致しました事柄を御吹聽下されて小學校敎員をして一日も早く斯道に心を傾け斯道の研究に從事する樣國家の爲め

御奬勵あらんことを希望致します

（三）山形縣下に於ける害蟲に對する觀念

山形縣　佐藤嘉太郎

私は只今先生より御紹介に預りました山形縣の佐藤嘉太郎と申す者で御座ります元來淺學菲才の私にありますれば諸君の御參考になる話は到底出來ないでムります就きましては聊か本縣下の害蟲に對する觀念の一班を述べて責を塞がふと存じます

諸君山形縣など云ひますれば僻遠の地にありまして定めし農業の狀況は如何なる者である乎必定觀るに堪ん幼稚の者であると御考へ遊ばさるゝに相違ないが全く諸君の御想像の如くしかく幼稚なる者ではないと信ずる即ち田區の改良こそ未だ出來ざるにしよ氣候の許さゞる故に二毛作は出來ないにしても濕田に代ふるに乾田を以てし人耕に代ふるに馬耕を用ゆる等其他積極的に於ける諸般の改良は着々行はれて居ります然に一歩退て一方消極的の有害蟲に對する一般の觀念は如何と云ひますれば諸君に對して申上られん樣な實に幼稚の境遇でムります就きまして縣の識者及當局者は大に之を憂て今後農業の改良せらるゝと共に益害蟲の蝕害は增すであろーと言ひまして種々の驅除策を講せらるゝに拘らず肝腎要めの農業者は一向平氣で害蟲は天候不順の爲めに發生するもので天氣さへ順復致しますれば忽ち絶滅すると云ふ樣な頑迷なる考を持して居りますを併し浮塵子の如きは明治三十年の大慘害を被りましてより大に縣下農民の注意を惹き起しまして昨年の如きは共同驅除を行ひまして餘程好成蹟を得てありまするが然に浮塵子の害を未發に防ぐ苗代驅除などは頓と行はないでありますヌ先日來より先生の御講話によりて承りました稻の害蟲中尤も恐るべき螟蟲即ち慢性病害蟲たる螟蟲の驅除の如きは一向行はれないでムります只監督官廳の御申譯け的に苗代時期に於

て誘蛾燈を點ずる位で先生より此頃來承りました採卵法は頓と行はれませんのでありますが否な行はれませんのでなくて行ないので有りますが之れを言ひ換へますれば一に螟蟲の食害に一任する景況にて如何にも歎息の次第でムいます若しも自然的驅除即ち寒暖の激變（本縣は三四月頃天氣晴朗なるも一朝荒天となれば氷結するは珍しからず）氷結の作用なかりせば如何なる慘害を被りましやうやら之を思へば實に寒心の至りに堪へざる次第でムります吾人の微力なる諺に所謂大厦の將に傾かんとする到底一木の能く支ふる所にあらずと言ふ如く頑迷なる農民を警醒致すなどは實に出來得べからざる事と信じますれば幸ひ今回當講習會へ入會しました以上は上は昆蟲學よ御精通遊ばさるゝ先生の御指南を仰ぎまして下は賢明なる諸君の御助力を頂きまして頑迷なる農民の頭腦に昆蟲の如何なる者なるやを注入致しまして害蟲驅除上に於ける面目を一新したいと考へます希くば諸君も私を御見捨なふ御愛顧あらん事を聊か一言致しました

（四）害蟲驅除豫防法の一班

岡山縣　鈴木彌太郎

私は只今名和先生の御紹介でありました岡山縣の東北偶に住する一農夫の鈴木と申す者で御座りますが我縣に於て先年來より行ひつゝある所の害蟲驅除豫防法の一班につき御話致し以て諸君の御參考の一端に供したいと思ひます

苗代田及び本田の害蟲驅除豫防方法に付其筋に於ては夙に奬勵せられたれ共頑固なる農夫は充分なる驅除豫防を行はざる已ならず却て種々なる口實を以て防害をなすもの多かりしに去る三十二年には縣會も之れが奬勵を必要と認め四千五百餘圓の螟蟲卵塊採取奬勵金を決議し知事は命令を發し縣郡町村よ一系統的の害蟲驅除豫防委員を置き充分なる監督をなし苗代田の如きは籾蒔の巾廣くして

採卵に不便なるものは巾四尺の短形ニ八寸乃至九寸巾の踏切(通ひ路)を作り採卵注油に便ならしめ委員は實地に就き監督し採卵不完全のものは幾度も之れを行はしめ全く終了せりと認めたるものには驅除豫防濟の目標を立て自由に挿秧に着手せしめたり又或村に於ては用水の灌漑を中止し山間平地の別なく一般に强制的方法を以て施行せしめ全村悉皆終了の上挿秧に着手せし所もあります其採收したる卵塊は町村委員ニ於て之れが統計を作り町村役場へ差出し村長は之れを纏めて郡役所へ送付郡長は一郡を一纏めとして縣廳へ送付せり其纏りたるもの全縣下にては殆んど三千万塊ニ及びました依て著しく其効を奏し隣縣の廣島等に比すれば螟蟲二期發生の頃一目して稻莖に蝕入りたるもの少なきを認めたり今其收穫に至りては確實なる統計無之も慥かに驅除豫防の爲め一割四、五歩の增收を得たり此の如き利益ある驅除豫防も頑固なる農民に普く行はしむるには當路者は非常なる覺悟を以て當らざれば容易に其目的を達する事能はず諸君も今回の講習會に於て先生の懇篤なる御教示を受られ他日必らず實地ニ應用せらるゝの日は其結果を御報導あらんことを希望致します尚申上度事は澤山あれども時間に限りがありますから是ニて失敬致します

(五)　有益蟲の小數に就て

青森縣　白井毅一

諸君私は只今名和先生より御述の通り青森縣三戸郡の白井毅一と申者であります私の郷里は北海道に向合たる所でありまして農事等も皆樣の御郷里に比べまするも未開と云ふて宜しひ程の所で御地(岐阜)なぞとは氣候も大に違ひ當地は既に桃の花が開くと云ふ時節なるに我縣は今に雪が有まして一年則ち十二月の中六ケ月は雪の中に埋なりて居る次第でありまする私は農を業と致し農と申まして苹果樹や梨樹を少しく植付け春より秋までは毎日木の下にありて栽培致して居りますもので御座り

ます過日皆樣と野外實習として僅か二時間計り長良川の畔に行きまして大に驚きました事が有ます其譯けは害蟲の居りました事は別に我郷里に大差ない樣で有ましたが益蟲則ち蟷螂の產卵の多き又其種類の數多なると七星テントウムシの多きとクサカゲロウの多きとで有ます私は元來農家として昆蟲の種類を研究せざれば農事の發達を圖る事が六ヶ敷と云ふ考にて一昨年より昆蟲採集に取掛り昨年の秋などは村内有志者や學校教員や生徒等と三十餘名にて採集に出掛け二ヶ年分にて四五百種採集致し置きましたが七星テントウムシや蟷螂が甚だ少ないので有ました殊に私の園内には象鼻蟲の如き害蟲が居ますが益蟲なる七星テントウムシは一向見當りません昨年夏一疋を見付け珍らしき者として居ました前申上ぐる如く教員生徒等と採集に出掛けし節山の薔薇の木にて七星テントウムシを二、三疋一ヶ所にて採り不思議にも多き事と思ふ程で有ました又蟷螂の如きは村より數里外の原野に行かざれば採る事が出來ません極不足で有ます御地（岐阜）とは大差あるので有ます因て考ふるに皆樣に分與を願上げ產卵を土產として持歸り此益蟲を我地方へ蕃殖せしめたなれば害蟲驅除の良法であらふと云ふ考を起しました聊か感ずる所を述べて諸君の清聽を煩はした次第で有ます

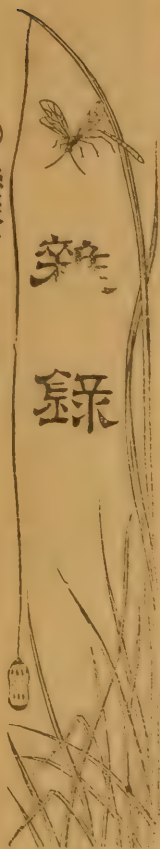
（十八）　我地方農家の害蟲に於ける觀念を述べ驅除の劃策に及ぶ

大阪府　橋本　亮

私は我郷里地方の農家が蟲と云ふ事に就て如何なる觀念を惹起して居るかと云ふ事並に害蟲驅除劃策の概畧を述べたうございます

偖大阪は商業上に就ては全國の中樞を占め物貨の集散は實に頻繁を極め其進歩著しき事で御座いますが翻て農業上に於ては御恥かしい事ですが商業と併行する事が出來ませぬ從て農家は害蟲に於け

る處置は實に冷淡にて彼れの發生は古來よりの習慣により氣候の變化等によりて自然に顯はるゝ者の樣に思ふて居りますヌ彼れの形体變化の間に於ては最早害蟲は珍滅した者の樣に思ひ變形全く成りて出現いたし被害の現狀を目擊致しますれば是れ氣候の然らしむる所である人力を以て如何とも致方ない此勦絕は天運に任すより仕樣がないと斷念し周章狼狽して神佛に祈り蟲送りなどゝ唱へて鐘太鼓を鳴して田圃の間に號叫奔走して居つた處も以前には往々御座いましたが要するに道理に當りて居りませぬから實効が御座いません所で去三十年に於て浮塵子の發生夥しく御座いまして府縣におきましては之れが驅除の事に付て心配せられまして熱心勸告せられましたが前申ました樣な考を以て居りますから多數の人が中々感じない大切なる我が田ヨ繁茂し他日美穗を抽出せやうとする稻を食しつゝある害蟲を驅除する事は親切に云ふて下さる人に向て義理立てする樣に思ふて沿道ヌは目の付き易き土地のみをざつと手入れをなし其れが爲めに與へられたる石油などは自家の燃料に使用した樣な者も御座いました所で一方では熱心に驅除した人が有ましたが偖收穫の時になりましたら非常な差が出來まして少々物のわかる樣な人は是れは驅除の精粗に於ける結果だらうと考へ附た方も有ましたが一般に左樣にはいかない是れば運だと云ふて居る人もある所で三十一年三十二年共に各町村農會に於ては苗代改良委員と云ふものを置き苗代田は曲尺五尺巾の短冊形にする事を一般ヨ勵行しやうと云ふ事をきめましたが中には頑固なる者が有まして守舊說を唱へて聞入れず從前の儘ヨしたのもありました稻もだんだんと大きくなるに從て害蟲被害の狀況も著しく見へて來ましたが其驅除の事は相變らず役所農會等の役員が熱心勸告せられましたがまた之れをうるさく思ふ者が有まして中々云ふ通りヨせない者もあつた然るに收穫の時になりますれば熱心に行た者と行はな

い者と大變の差がある收穫多きを得たものは皆能く云ひ付けを守て正直に行ふたものばかりであつて是で驅除を怠たつた者の中には氣が付て之れは今迄信じなかつた蟲が害したので有るこんな事ならばあの時早く行ふたならばよかつた役所や農會の役員が親切に云ふて下さつたのを頓着せなかつたのは大に間違で有ると考へ付たものが多數になりまして驅除豫防は是非共行はねばならぬと云ふ說が盛に行はれて來ましてかゝる事は共同に行はなければいけない中に若し行はない者があつたならば其人はかくの損害でなく害蟲は他に蔓延するから一般に害を被るのだと申して皆相談して害蟲豫防驅除申合規約と云ふ者をこしらへ私が當地へ參りまする前に調印が整ひまして永らく信じなかつた豫防驅除法も自ら進んで之れを行ふと云ふ端緒を開きました其れは苗代田は必ず短冊形にすること、播種量を一定する事、豫防驅除法の事、違約金を徵收する事等で御座います總て物事は精神の一度結合先づ成りて後外形に顯はるゝにあらざれば到底駄目であらうと思ひます今私の方では害蟲軍に對する作戰計劃は旣に立ちましたが將に來らん彼れの發生期に於ては如何なる實戰を爲し如何なる實蹟を顯はすか此等仔細の事は他日御報致す事があるだらふと存じます

雜錄

◎蟲談片々（第七）

岩手縣氣仙郡小友村　特別通信委員　鳥羽源藏

（十六）　ウメケムシと寄生蠅との鬪爭

昆蟲採集に出るや回は一回より珍奇の出來事に遇ひ美麗の逸品を獲、異樣の昆蟲を見、快を增し智を進むるは採集に經驗あるものゝ等しく首肯する所なるべし余輩常に異樣のものを得、珍しき習性の昆蟲を見る每に世人にも觀せまく思ふ事、實に多し今其一を報ぜん、頃は明治三十一年の春なりき余は獨り昆蟲採集のため本村なる箱根山麓に赴き右顧左眄昆蟲の搜索を勉めたりしが、ふと、路傍の石上にウメケムシ（テンマクケムシ又ハスケムシ）を認めぬ彼は物に驚ける樣子にて步行極めて早し何ぞ仔細やあらむと思はず佇立して彼か擧動に目を注ぎぬ果然一匹の寄生蠅（シマバイの一種）飛來して蛅蟖の背上に止り容易に去らず蛅蟖は直ちに頭を擡げて蠅を拂ひ步行を急ぐの狀甚だ可笑し、余は局外中立を守り目をはなたず彼等の擧動を見てありしに又々例の蠅は胸部に飛付きければ蛅蟖は驚き走れど甲斐なし止りて頭を左右に振り或は伸長して背部を打ちしに蠅は羽聲を高く上げて飛び去りたり余は猶蛅蟖は何處に行くかと熟視せしに背上の毛には蠅のために三個の小卵を產付せられしを發見せし蛅蟖はそを覺りたるものゝ如く傍の躑躅の小枝に攀登して枝間に胸部を入れ頻りに摩擦して卵の排除を勉むるものゝ如く思はず余をして感嘆時を移さしめぬ

（十七）　トリバテフ

葡萄の將さに熟せんとする頃其房に一害蟲の捿み果梗と粒實の接着の個處を咀み果實を損ひ間々粒實を逸落せしむるものあるを知れども仔細に飼育して其經過を試みしことなかりしが昨年其幼蟲を捕へ蛹化せしめ十月下旬羽化せるを見しにフチマメトリバテフ Aciptilus sp. なりきフチマメトリバテフに就ては昆蟲世界十五號に石版圖あり　十六號には名和氏の解說あれば參看せらるべし

◎昆蟲見聞記　（一）

長野縣　清水藏

見聞狹き予輩が錄事諸彥の參考となるべきことなかるべきも暫く見聞するところを記して識者の敎を乞はんとす諸君之を諒せよ

其一　苗代の害蟲を驅除する時刻に就て

從來苗代の害蟲を捕蟲網にて掬收するに早朝に於てするを可なりとの說ありしが早朝に於て屢々掬收するときは稻苗の露を拂ひ落すを以て大に苗の生育を害し延て本田に移植后も生育不充分なるものなり現に昨年本縣東筑摩郡の某村にては早朝に於て屢々捕蟲器にて害蟲を捕採せし稻苗を植付けしに普通害蟲を驅除せざる稻苗を植付けしものに比し大に收穫を減し爲に頑固なる農民をして害蟲は驅除せさる方可なりなとの觀念を懷かしむるに至れりと云ふ故に害蟲驅除勸誘等に當らるゝ人は此等の点に注意あらんことを望む

附記す去月我隣村にて農事試驗本場技師の講話せられし際苗代の害蟲を驅除するには夕刻を以て最も可なりとす其理由は夕刻は螟蟲、浮塵子等の諸害蟲の產卵せんが爲めに苗代に集り來り暫時にして飛び去るものなれば其集り來りし時期を見計ひ捕蟲器にて掬收すべしと述べられたりと云

其二　粟の害蟲夜盜蟲驅除の時刻に就て

此も前東筑摩郡某村にての事なるが昨年粟畑に夜盜蟲發生せしを以て夜間害蟲の莖葉に匍ひ上り食害しつゝあるものを拾ひ集めて殺除せしが愈々出穗の頃に至りしに其驅除したるものは驅除せさるものに比し出穗少なく大に收穫を減したりと云ふ茲に於て農民等は害蟲は驅除の必要なきのみならず却て驅除せざる方可なりと唱するに至れり而して此が原因に付ては當地方にては早朝雨后等に粟

畑に入りて其莖葉に觸れ葉上の露の莖心に入るときは其莖は遂に出穗せざるものなり故に葉上に露ある間は粟畑に入ることは嚴禁すべしと古來より言ひ傳へられて昨年に於ける減收の原因も夜間粟畑に入りて害蟲を驅除する際葉露の莖心に入りたるが爲め出穗せず減收せしものなるべしと云ふ暫く聞くが儘を記して識者の敎を待つ

其三　蠶兒の尾角に就て

本誌第三十一號問答欄に蠶兒の尾角の効用に就て寄蟲生君は敵を恐怖せしむるの具なることを答ひられたり然るに昨年本村に於て農蠶幻燈會を開設せし際說明者某氏は尾角の効用に就て次の如く述べられたり

蠶兒の尾角は其營繭に際し其躰の舵を取るの必要具なり故に其尾角を切り去り又は損傷するときは營繭すること能はずと予は未だ試驗したることなきも聞くが儘記しぬ

其四　當地方に於ける益害蟲の轉倒

エダシヤクトリの寄生蟲乃ちカモドキバチに寄生せられ黑色となりて斃たるものは其体內にカモドキバチの幼蟲なる白色の蛆あるを見て是れこそエダシヤクトリの幼蟲にして之より匍ひ出で再び害をなすものなりと誤認し勉めて此の益蟲を驅除し又テントウムシの蚜群中にあるものを蚜蟲の親蟲ならんと信じて驅殺し又近頃馬鈴薯茄子等の大害蟲廿八星瓢蟲の害甚しきより玉石混同し驅除するもの多し是等を害蟲繁殖益蟲驅除と言ふべきか予は此等の農家に向ひ早晩害益蟲の區別を知り眞正の害蟲驅除を實行せしめんことを期す

◎害蟲夢物語

岐阜縣害蟲驅除修業生稲葉郡三里村大字清　森島勘次郎

余或夜昆蟲世界を披き通信欄を讀みて昨年以來害蟲驅除は大に其効を奏し目下殆んど害蟲の跡をも絶ちたる如く農家は覺ゆるならん是に於て農家必ず油斷するなるべし若し然らんには大敵たる害蟲は機に乘じ彌農家をして困難の域に陷らしむるや必せり然らば本年は如何に害蟲驅除の方法を執るべきかと本年の將來を憂ひ終に其夜は机を枕に打臥したれば如何にも不思議なる夢を見たれば貴重の本誌を汚し諸君の御笑に供す

爰は人里遠き四方皆田圃なり螟蟲の稲株に潛し浮塵子の雜草中に伏するの狀を見東に西に散步し居たるに俄然日暮れ忽ち四面暗黑となりて兩側の泥田に水滿々たる細道に出て殆んど歸路を失ひぬ如何にも不審と思ひ氣味惡しくも此細道を辿りしが遙に火光の見ゆるが如く見へざるが如きを覺へたれば彼を力に進めば道愈險惡暫して火光は慥に人里あるを認むるに足る茲に初て心を得て急ぎ步を彼に進めば田舍には最と稀なる硝子燈なり硝子燈の光は門脇に掛けある標札を照らすに背たり近附て讀下せば昆蟲郡害蟲村役場と筆太に記したり門內の建物は村役場としては左も立派なり余は愈不審に耐へす役塲なれば定めて宿直員もあらば歸路を尋んと玄關に入れば正面の板戸には「トンビ」帽子等澤山に掛け併べたり夜中に斯く吏員の出勤何事なるか是れなん害蟲村會議員の三十三年度經營方針を議定する議會としられたり右側の會議室には多人數の話聲囂し又左側の卓に掛れる二十歲前後の男是れ稲子次郎とて本塲の受附員なり余は稲子氏の指圖に依て傍聽席に就くや議事は殆んど結了して左の一議題を殘して休憩中なりき

議題本年農界に向て本村蟲隊をして安全繁殖せしむる方法抑是の害蟲村は十七大字より成り各大字

吉、十三番茶毛蟲藏、十四番簑浦蟲作、十五番疏遠切之助、十六番青葉卷太郎、十七番瓢蟲非三郎（岐
郎、七番枝尺蠖雄、八番桑葉蟲吉、九番姫路葉蟲、十番姫路象次郎、十一番眞野蟲次郎、十二番糸引濱
第一番二化螟之助、二番大井螟太郎、三番葉捲苞之助、四番稻靑蟲之丞、五番横這太郎、六番天牛切三
より一人宛選出したる村會議員の氏名及席順を擧ぐれば左の如し

阜縣十七種の害蟲）の十七氏何れも皆利々敷椅子を占めたり議長は正しく大井螟太郎にてありき
暫くして議長は起ちて議事に掛る事を告ぐるや五番議員横這太郎發言昨年農業界に於ては切に吾々
蟲民を捕蟲網を以て又は石油を注ぎたり種々の方法を以て吾々繁殖の防害を成し爲に吾々非常の苦
痛を受け斯く村蟲民の不賑を來したるか本年の農界は如何にや相變らず種々の方法を以て吾々經營
の防害をなすや果して然らば何か外に永遠の策を求めざるべからず云々と述べたり
又一番議員二化螟之助發言五番議員の御說の通り吾々永遠に繁殖を求むるは實に一大問題で甚だ苦
んで居る處であり然しながら農界は昨年吾々を思ふ通りに驅除したれば本年は必ず油斷をなすなら
ん果して然らば機に乘じて吾々村民全力を擧げて各農界に進擊せんか兎に角本村各大字より數十名
の視察委員を各農界に派遣し以て農界の狀況を伺はしめ果して油斷をなし居らば全村蟲隊を擧げて
農界に進擊せん若し然らずして農界の害蟲驅除に注意周到なるときは何か又外に永遠の策を求めん
のみ兎角視察委員の報告を待て後事を議せんと述ければ直に數名の同意者あり中には反對する者あ
り一時は中々の議論なれども結局一番議員の說大多數を以て可決せり余は其時左も面白き事を聞得
たれば本年苗代田に其委員の來るは必定時を待得て其委員を悉く擒にせば害蟲の本隊は大に恐れ其
跡を絕つに至るを得るや必せり此事早く縣廳へ報告せんものと汗を握りて場外へ走り出すと思ふや

鷄鳴曉を報すると共に夢は醒めたり

◎渥美郡昆蟲研究會第四部會報告

三河國渥美郡昆蟲學修業生　間瀬半助

明治三十三年三月十一日(日曜日)渥美郡昆蟲研究會第四部會を福江町に於て開會せしが出席者は山口部長を始め部會員六名(當部落には會員總て七名なり)にして互に研究せし事項を打合せたる後本會定期總會の開期に付本會よりの諮問に答へ且つ松井渥美郡長より調査方を命せられたる害蟲の名稱方言被害植物害蟲の習性及有効と認めたる驅除豫防法等に付研究調査を爲したるが決了に至らざりしが爲め調査委員を設けて郡長に答申することゝなして散會せしは午後五時なりき

◎螟蟲採卵法奬勵の結果

岐阜縣山縣郡山縣村岐阜縣第一回害蟲驅除修業生　大野和作

昨年當山縣郡に於て懸賞を以て螟蟲採卵法を奬勵したる結果左表の通り有之候間此段及報告候也

螟蟲卵採集數	賞與金額	町村名
一七、〇一三塊	二、七九七圓	高富町
九、九三四	一、六三三	岩野田村
四九、四五〇	八、一三〇	殿美村
一五、二二一	二、五〇二	春近村
七、五〇〇塊	一、二三三圓	梅原村
一、九七〇	〇、三二四	下伊自良村
三五七	〇、〇五九	大桑村
一〇、一四〇	一、六六七	尾櫻村

二五、六三七	四、二二五	保戸島村	四六三	〇、〇七六	富波村
三、八一四	〇、六二七	千疋村	三八、七〇四	六、三六三	谷合村
一四、六五〇	二、四〇八	山縣村	一一六六	〇、〇二七	葛原村
二、六三二	〇、四三三	富岡村	計 一九七、六五一	三二、四九四	

（明治三十三年二月十九日附）

◎昆蟲に關する葉書通信（一）

（一）昆蟲の小言、岡山縣幼蟲專門生、先般某所より飯宅の砌車上にて昆蟲の小言を聞きたるまゝ左に申上候「おれの祖父は赤坂郡よりにげて來たるものにて岐阜の名和と云ふ大敵が來て說敎したる爲め赤坂郡に少し計りの子孫を繁殖するの道を立てゝかへりた爲め漸次子孫繁殖しておれらは住むことができなくなり據なく此郡へにげて來たものと祖父が云ふて居りました所が此頃聞けば山田庄の敎會所へ來て說敎して居るそふな此郡は五六年も前から赤枝や林がゞんばりて居りたけれども中々子孫の繁殖はできなんだがこんどは又名和が子孫繁殖の道を立て赤枝や林に加勢するにちがひないそふすると中々赤坂郡所ではないこはいぞ〳〵今より上道郡へにげ仕度せづばなるまい何か名和をだますふんべつはあるまいか政治家などなら金をもて運動すればどんなにでもなるけれど金の運動ではきくまいし」後は車の音にて聞くことを得ざりしは殘念に御坐候

（二）豐前國企救郡地方昆蟲方言、福岡縣胡蝶生、豐前國企救郡地方に於ける昆蟲方言の二三を左に記せん此他は後報に讓るアオバハゴロモチンベガハオリ、アゲハノテフの類オヤマテフテフ、クマバチクマンバチ、アシナガバチドウキレバチ、金龜蟲の類カチカチムシ、アリヂゴクサル、オナガウヂセンチンムシ、ミズスマシマヒマヒコンボ、カマキリカマキッテフ、ハルセミマツムシ、ミン

ミンゼミチイチゼミ、ツクツクボウシゼミツクイヒヨウ或はツクツクボウシ、蟻イヤリ、浮塵子コヌカムシ或はサチモリ、蛾の蛹ニシムケヒガシムケ、アブラムシノダレ、シヤクトリシヤクトリムシ或はスントリムシ、螟蟲ドウムシ、

(三)昆蟲研究所の信用、三重縣鈴木龍郎、余一日友人より老農の語る所とて聞きしは如何に世人が名和昆蟲研究所を信じつゝあるかにてあり其所言や他にあらず世人が研究所を信ずるものは其敎ふる所示す所一として不合理なるはなく故に其驅除法や實に有効なり若し研究所が稻田に油を散布し放火せよと云はんか世人は必ず其所言に從はんと以て世人が該所を信じつゝあるかを察するに足れり當我が郡は同所開設の講習會へ入會者は各若干圓宛農會より補助を受くる事となれり豈偶然ならんや

問答

◎蚜蟲と蟬に付質問

兵庫縣第一回全國害蟲驅除修業生　眞野儀太郎

一無性生殖の蚜蟲は春より秋末迄胎生にて悉く雌蟲のみなるに秋末雄蟲を生じ交尾す雄蟲は年中一回なるや又必ず翅を生ずるや

二蟬は常に樹木に在り產卵は地中ならん然るに蟬の地上に在るを見ず如何

答

名和昆蟲研究所助手　名和梅吉

一　蚜蟲類の雄蟲は一年に一回秋末に發生あるのみにして翅を有するものと有せざるものとの二樣あり然れども多くは翅を有するが如し

二　總て蟬類は樹枝幹中に産卵するものにして地中には産卵せず而して孚化せし幼蟲は地中に入りて樹根の液汁を吸收して生活す

◎クダマキダマシ並に蟬の卵塊に付質問

愛媛縣温泉郡奥居島村　田村晴太郎

前略然者別封相送申候桃、梨、苹樹の枝條に産卵し或は之を脱皮せしむる蟲害に付き未だ是が蟲名經過等判然不仕爲に見本の一、二號の如きは害蟲又は益蟲の卵子なるかを辨せずして其所置に迷ひ居候間御多忙中御手數には御座候へ共別封三種の被害に付き詳細之御教示相仰申度此段偏奉希候也

答　名和昆蟲研究所助手　名和梅吉

蟬の産卵せし痕跡

イ　ロ

クダマキダマシ卵塊の圖
（イ）は産卵せし痕跡
（ロ）は切開して卵粒を示す

第一號は蟬の産卵せし痕跡にして其内部を驗する時は白色細長形の卵粒を見ることを得上圖に示すは即ち産卵せし有樣なり此卵孚化すれば地中に入り樹根の液汁を吸收して被害せり

第二號は直翅類中のクダマキダマシと稱するもの丶産卵せしものなり該卵に就ては一月以來各所よりの質問非常に多く直接に回答せし向も少なからず元來此クダマキダマシは成蟲時代には害なく寧ろ有益蟲

と云ふべきも産卵の際には桑樹、果樹其他各植物の枝條に圖の如く産卵するを以て勢ひ該枝は枯死することあり故に此時には無論害と云ふべきなり然れども今該蟲に就ては害益何れが大なるかは茲に確答し難し何れ今后調査の上本誌に掲載せんとす

第三號は何蟲の被害なるや判然せず

◎諸氏の來所　三月九日滋賀縣滋賀郡堅田村長居初靜太郎、同村森藤兵衛岐阜縣巡査竹本縫助滋賀縣甲賀郡農事巡回教師大久保勝五郎同郡農會奥村權一郎の諸氏十日岐阜縣安八郡書記加藤彦市氏同縣農會監理入牛尾國太郎氏福島縣河沼郡若宮村新國豊七氏、十一日秋田縣北秋田郡河仁小又村松浦靜方氏同日岡山縣西々條西北條、東南條、東北條郡長岡田磐氏同郡書記橋本春治郎氏福井縣技師川上謙三郎氏十二日岡山縣赤坂郡西山村則武重太郎氏、埼玉縣北足立郡競進社養蠶傳習所長浪江梯三氏、十四日愛媛縣喜多郡書記岡本次郎九郎同縣温泉郡書記柳生宗茂両氏、十五日三重縣度會郡長岡耕三郎氏同郡書記田川源次郎氏同日岐阜中學校長淺井郁太郎氏案內にて石川縣大林區署長林務官楢山清利氏、新潟縣中頸城郡下ノ郷村小山久太郎氏、十七日秋田縣農事試驗場技手佐藤昌氏三重縣三重郡長酒井禮一氏、十九日廣嶋縣農事巡回教師麥生富郎氏、廿日秋田縣農會副會長高田直成氏、廿二日山梨縣農會員奈良喜代二郎氏、高知縣長崎誠夫氏岐阜縣惠那郡視學安藤健太郎氏京都府蠶業講習所技手山本竹藏氏福井縣遠敷郡書記森田柳治氏、廿三日より四月三日まで香川縣三豊郡神田村岩倉六二氏同日三重縣志摩郡長勝島政次郎氏同郡書記岡從橋氏廿四日福井縣足羽郡和田村松原朔郎氏、千葉縣千葉郡長行方幹氏同郡書記波多野喜代助氏同郡農會井出代太郎氏同縣海上郡長神田清治氏同郡書記萩野鉸次郎氏同縣君津郡長中野協藏氏同縣夷隅郡長伊藤祐威氏埼玉縣技手片岡秀之助氏廿五日千葉縣印旛郡長中山鐵次郎氏香川縣農事巡回教師大西茂一氏岡山縣赤西郡坂山村則武重太郎氏、

愛知縣渥美郡堀切村永井勇作氏廿七日東京府技師石山騰太郎氏廿八日滋賀縣滋賀郡書記若山靜雄氏廿九日三重縣桑名郡香取伊東富太郎氏、三河國渥美郡視學土井禮氏京都府相樂郡書記井上貞一氏同郡農會技手松本庄太郎氏、同縣何鹿郡綾部町四方榮治氏外七名同郡長三宅武彦氏三十日山梨縣技手小田切豊氏、卅一日富山縣技師大森惟中氏、岐阜縣屬加茂悦平氏同縣惠那郡視學安藤健太郎氏滋賀縣神崎郡農事巡回敎師中西已之助氏兵庫縣別府港多木製肥所北島幸次郎氏、卅一日農事試驗場北陸支場中川庄司氏四月二日岐阜縣會議員竹村梅吉氏大坂府農學校生松笠數太氏、三日同校生竹原伊三二氏農商務技師紫藤章氏四日農科大學敎授鈴木梅太郎氏岐阜縣技師重松達一郎両氏、同縣第六課長吉田林農士、大坂北區北野青峰宏煥氏、同日斐太中學校藤敎篤氏、大垣中學校敎諭小川三策氏、五日本巣郡長石田英壽氏、同郡書記安田兵太郎氏其外縣下の有志者等百數十名來所の上熱心に縱覽せられたり

◎學校生徒の來所　三月十四日岐阜縣師範學校御嵩傳習所敎員子安善之助氏同所講習科生三十名、十五日岐阜市高等小學校訓導志知初三郎氏同長屋重盛氏同校生徒百四十名並に同校訓導伊藤榮治氏宮脇半助氏上田安之助氏同校第四年女子五十名十七日岐阜尋常小學校正木義愛氏外第四年級生九十八名廿一日岐阜市徹明小學校訓導堀惣次郎氏同校生徒九名、廿七日愛知縣知多郡熱田實業補習學校長西山峻氏職員生駒茅雄同棚橋鉞次郎氏外同校生徒十名は何れも來所の上昆蟲標本を參觀したり

◎第十六回岐阜昆蟲學會　同會第十六回月次會は四月七日午后一時例に依り岐阜市京町岐阜縣農會樓上に於て開會せられたり今其摸樣を記せば第一席名和昆蟲研究所長開會の辞を述べ第二席揖斐郡昆蟲研究會代表者竹中政一氏は稻の螟蛉驅除の摸樣に就て地方の狀況報告あり、第三席第三回全國害蟲驅除修業生佐藤嘉太郎氏(山形縣)は林檎の一大害蟲たる綿蟲に就て山形縣地方の被害を述べ、第四席本巣郡敎員昆蟲講習員關谷國治氏は昆蟲界の所感に就て、第五席第三回全國害蟲驅除修業生橋本亮氏(大阪府)は蠶の蛆蠅に就て、第六席羽島郡長半澤忠雄氏は同郡川島村桑樹害蟲ヒメゾウムシ共同驅除の實況を述べ、(一先休憩す時に午后三時)第七席本巣郡書記安田兵太郎氏は植物界に對する警察權と題し特意の雄辨を振ひ第八席羽島郡害蟲驅除修業生福井晟治氏は稻の螟蟲に就て、第九席第三回全國害蟲驅除修業生永澤小兵衛氏(宮城縣)は所感に就て終りに名和靖氏は昆蟲

展覽會出品の方法ㇾ就て演說あり同四時半閉會せり當日は本巢郡敎員昆蟲講習會開設中なるを以て極めて盛會なりしと云ふ

◎京都府下巡回昆蟲講話　京都府蠶糸同業組合の招聘に依り名和所長には三月十一日より十七日迄同府下丹波丹後の兩國數個所に於て昆蟲に關する巡回講話をせられたるに何れも盛會にて尤も熱心に淸聽せられし由

◎第三回全國害蟲驅除講習會開會式　第三回全國害蟲驅除講習會は三月廿一日午前第十時岐阜縣農會樓上に於て開會せり其摸樣を記せば一同着席來賓には重松技師長屋縣農會書記、小野、河村兩害蟲驅除修業生、小森揖斐郡昆蟲研究會員等にして先名和講師は起て開會の辭を述べ重松技師祝辭として演說あり終りに講習員惣代として福塲氏答辭を述べ十一時閉會せり尚山形縣農事試驗塲內藤馨氏第二回全國害蟲驅除修業生京都府與謝郡谷口鶴三氏同修業生福井縣三方郡小堀勝次郎伊藤金次郎兩氏の祝電ありたり

◎害蟲驅除講習會修業証書授與式　兼て講習中なる第三回全國害蟲驅除講習會は本月三日終了したるに因り同日午前十時証書を授與したり來賓には河村岐阜縣書記官駒田同縣參事會員重松技師、渡邊縣屬、勝、濃飛日報社員仙石、岐阜日々新聞社員に等して一同着席するや名和昆蟲研究所長開會の挨拶次に一府十七縣の修業生四十九名に証書を授與し終て名和講師は訓戒的演說を爲し亞で河村書記官仙石、岐阜日々新聞社員の演舌第一、第二の全國害蟲驅除講習修業生より祝辭並に祝電の代讀續て生徒惣代角谷彌右衛門氏の答辭等あり右終て名和昆蟲研究所より一同へ茶菓の饗應及び百合にアゲハ蝶畫摺込のハンカチーフ一枚を配付したり正午十二時退散して濃陽館に於て

懇親會を催したり今修業生惣代の答辞を擧ぐれば左の如し

夫れ一利を擧ぐるは一害を除くに及かず名和先生夙よ經世濟民の大志を抱き一身の榮辱を應用昆蟲學の研鑽よ献け害蟲の驅除益蟲の保護に刻苦精勵せらるゝもの前後二十餘年その一たび時機の到るや博く會衆を全國に募り日夜學を講し業を教へ未だ半歳ならさるに其惠澤の及ぼす所實に二府三十縣に及べり功績洵に偉なりと謂ふべし

不肖彌右衛門等遠く來りて親しく先生の訓董を蒙ふり迷夢頓に消し感憤自から措く能はざるものあり今後誓てタイベル河畔の片塊たるに甘んじ以て他日羅馬の都城を農業界に大成せしむるに努むべし

今や第三回講習會修業證書授與の典を擧げらるゝに方り特よ賜ふに深厚の告諭を以てせらる中心歡喜の情に禁へず平生懷ふ所を陳べて答詞となす

明治三十三年四月三日　　第三回全國害蟲驅除講習會修業生惣代　角谷彌右衛門

◎第三回全國害蟲驅除修業生姓名

同修業生住所姓名畧歴等は左の如し

組名	府縣名	郡市名	町村名	族籍	舍長又ハ組長	氏名	生年月	履歴摘要
第一組	兵庫	武庫郡	須磨村	平民	組長	兼吉民治	明治十一年十一月	神戸市立高小學校卒業 須磨農談會理事
	群馬	勢多郡	黒保根村	平民		立花薫	明治六年二月	水沼小學校全科卒業 農商務省蠶業講習所別科卒業
	岐阜	惠那郡	大井町	平民		小板專重	明治十六年七月	小學高等科卒業 大井町尋常高等小學校雇
	三重	多氣郡	齋宮村	平民		前田安太郎	明治八年八月	多氣郡立高等小學校卒業 三重農事講習所卒業
第二組	靜岡	磐田郡	十束村	平民		大庭莊一	明治十三年二月	見付高等小學校全科卒業
	靜岡	磐田郡	岩田村	平民	舍長	神村直三郎	文久二年十一月	小學校本科正教員免許
	三重	飯南郡	花岡村	平民	組長	角谷彌右衛門	嘉永五年九月	飯南郡農會臨時委員
	富山	東礪波郡	般若村	平民		坂井憲三	明治十年六月	富山縣尋常中學學校ニテ三年級マテ修業

組	府縣	郡市	町村	族籍	役	氏名	生年月	履歴
第三組	岐阜	加茂郡	福地村	平民	組長	石垣清閑	慶應元年五月	尋常小學校本科正教員免許稿地 尋常小學校訓導
第三組	三重	飯南郡	西黑邊村	平民		西山辰藏	明治九年四月	小學高等科卒業 明野高等養蠶傳習所修業
第三組	大阪	北河内郡	九ヶ庄村	平民		橋本亮	慶應二年七月	農商務省蠶業傳習所修業 大阪府蠶種檢查員
第三組	神奈川	愛甲郡	中津村	平民		茅稻造	明治九年四月	中津村立高等小學全科卒業 愛甲郡農事講習所修業
第四組	靜岡	濱名郡	天神町村	平民		原野谷嘉	明治十年三月	濱松高等小學校卒業 濱名郡害蟲驅除講習修業
第四組	宮城	仙臺市	土樋	平民		永澤小兵衛	慶應元年七月	仙臺中學校ニテ普通學修業 宮城縣農會事務員
第四組	兵庫	有馬郡	大澤村	平民	組長	池上市松	明治六年一月	小學校中等科卒業 大澤村役場記書
第四組	三重	飯南郡	港村	平民		松本宗三郎	明治十四年二月	高等小學校卒業 飯南郡農事講習所修業
第五組	山梨	北巨摩郡	若神子村	平民		坂本直	明治十一年七月	安部郡高等小學校卒業 山梨縣農事講習會修業
第五組	滋賀	滋賀郡	堅田村	平民		木戸元吉	明治二年一月	小學全科卒業 滋賀郡農事講習會修業
第五組	宮城	加美郡	色麻村	平民	組長	淺野右衛門	明治十三年四月	清水尋常小學校卒業 加美郡農業講習會ニテ土壤學肥料學米麥大豆栽培法經濟學昆蟲學ヲ修了
第五組	岐阜	郡上郡	川合村	平民		伊田柳松	明治四年一月	岐阜縣尋常師範學校卒業 下川尋常高等小學校訓導兼校長
第六組	岐阜	郡上郡	口明方村	士族		福馬隆次郎	明治三年九月	岐阜縣尋常師範學校卒業 小學校本科正教員勤務
第六組	岐阜	郡上郡	八幡町	士族		杉原秋之助	明治六年六月	岐阜縣尋常師範學校卒業 和良尋常高等小學校訓導
第六組	岐阜	郡上郡	嵩田村	平民		孝森長之助	明治四年八月	岐阜縣尋常師範學校卒業 上保尋常高等小學校訓導
第六組	岐阜	郡上郡	八幡町	士族	組長	墉田健藏	明治六年七月	岐阜縣尋常師範學校卒業 八幡尋常高等小學校訓導
第七組	三重	飯南郡	朝見村	平民	組長	小西嘉三郎	明治七年十二月	飯高飯野高等小學校卒業 尋常小學校准訓導免許
第七組	三重	飯南郡	花岡村	平民		小林菊松	明治八年三月	飯高飯野高等小學校卒業 飯南郡短期農事講習會修業
第七組	三重	飯南郡	花岡村	平民		若林齋之助	明治十年六月	飯高飯野高等小學校卒業 三重縣高等蠶業傳習所修業
第七組	三重	飯南郡	西黑部村	平民		乾成次	明治九年十一月	飯高飯野高等小學校卒業 豫備陸軍步兵上等兵

組	府縣	郡	町村	族籍	役	氏名	生年月	學歷
第八組	山形	飽海郡	南平田村	平民	組長	佐藤嘉太郎	明治六年七月	小學高等科卒業 飽海郡農事講習會修業
	山形	飽海郡	本楯村	平民		富樫助太郎	明治八年八月	小學高等科卒業 飽海郡農事講習會修業
	山形	飽海郡	蕨岡村	平民		土屋龜吉	明治七年十二月	豐岡小學校ニテ小學中等科卒業 飽海郡農事講習會修業
	山梨	東八代郡	富士見村	平民		丸山興一	明治十二年一月	小學高等科卒業 山梨蠶業學校本科卒業
第九組	德嶋	勝浦郡	小松嶋村	平民		野田英次郎	明治七年一月	德嶋縣尋常中學校ニテ二ヶ年修業 德嶋縣農事講習所修業
	德嶋	勝浦郡	勝占村	平民		庄野知二	明治十一年一月	小學高等科全科卒業 德嶋縣農事講習所修業
	鳥取	八頭郡	國英村	平民		遠佛万吉	明治八年十一月	鳥取縣簡易農學校ニテ乙科二年修業
	秋田	北秋田郡	前田村	平民	組長	松浦靜方	慶應三年十月	小學高等科卒業
第拾組	山梨	西山梨郡	相川村	平民		林亮	明治十一年九月	小學高等科卒業 山梨縣農事講習所修業
	山梨	西山梨郡	山城村	平民		雨宮猪七	明治四年八月	小學高等科卒業 山梨縣農事講習所卒業
	青森	三戸郡	長者村	士族	組長	白井毅一	安政四年六月	八戸藩學校ニテ漢學修業
	愛媛	北伊豫郡	伊豫村	平民		本多欽	明治三年七月	伊豫郡書記勤務 豫備陸軍步兵曹長
第拾壹組	滋賀	滋賀郡	伊香立村	平民	組長	榎綾次郎	明治十一年十一月	尋常小學校卒業 滋賀縣蠶業學校本課卒業
	山梨	中巨摩郡	龍王村	平民		赤澤榮補	明治十四年六月	小學高等科卒業 山梨縣農事講習所修業
	兵庫	多氣郡	今田村	平民		大西忠太郎	明治四年六月	小學高等卒業 多氣郡農事會修業
	山形	飽海郡	松嶺町	平民		齋藤朝之助	明治十一年十一月	山形縣尋常中學校農事專修科卒業 飽海郡莊內蠶業學校助敎諭
第拾貳組	山形	東置賜郡	赤湯町	平民		竹田庄助	明治五年一月	小學高等科卒業 置賜郡農事講習會修業
	愛媛	伊豫郡	岡田村	平民		重川晉	明治八年八月	小學高等科卒業 伊豫郡農會理事
	群馬	多野郡	平井村	平民		山田皆藏	明治十一年三月	小學高等科卒業 多野郡農事講習會第一期修業
	岡山	吉野郡	吉野村	平民	組長	鈴木彌太郎	文久三年十月	岡山縣立養蠶傳習所修業 吉野英田郡書記勤務

山形	飽海郡	鵜渡河原村	士族	深瀬甚太郎	明治七年三月生	小學科高等卒業 飽海郡書記勤務

因に記す定員は四十名の所補欠員として四名を採りしに二名の欠員ありしを以て今回は四十二名を以て定員とせり然るに種々間違等にて遠路來られし方七名ありたるよ四十二名の諸氏より連印にて定員増加の希望ありしを以て今回限り特よ諸氏の希望を容れたるを以て都合四十九名となれり

◎本巣郡教員昆蟲講習會　岐阜縣本巣郡にては小學校教員昆蟲講習會を四月五日より當市京町縣農會樓上に於て開會せられ同九日修業証書授與式を擧行したり今其摸樣を記せば同日午後二時一同着席來賓には縣會議員加藤榮三氏郡參事會員高橋儀左衛門氏老農田中榮助氏郡書記松永遷之助氏同高橋磐三郎氏第三回害蟲駆除修業生宮城縣永澤小兵衛同大坂府橋本亮の兩氏其他村長有志等十數名にして石田同郡長は開會の辭を述べ、亞で修業生三十一名に証書を授與し名和講師の訓戒の辭あり次林技手、田中榮助兩氏の祝辭講習員總代土屋龜次郎氏答辭を述べ閉會し茶菓の饗應ありて講習員は水琴亭よて懇親會を催したり

◎講習中諸氏の昆蟲講話　第三回全國害蟲驅除講習中三月廿二日京都蠶業講習所技手山本竹藏氏には蠶兒上簇等に關する有益の説あり又岐阜縣本巣郡小學校教員昆蟲講習會中四月八日岡山縣農事巡回教師岸歌治氏には專ら稻の螟蟲を採卵にて驅除せし實況を講話せらる

◎新刊雜誌の昆蟲記事　新刊雜誌中に掲載せられたる昆蟲に關する重なる記事は左の如し

(一)動物學雜誌(第百三十七號)　螢の話(圖入)渡瀨庄三郎氏、日本產蝶類圖說宮島幹之助氏、山梨縣よりの蝶報嶽陰生等

(二)　大日本農會報　(第二百廿二號)　害蟲の驅除佐々木忠次郎氏、稻の二化生螟蟲研究の成蹟

（續）本間宏氏等

（三）興農雜誌（第六十六號）害蟲飼育及試驗法自強生等

（四）産業報告（第廿三號）螟蟲卵驅除の必要松村豊吉氏等

（五）廣島縣農會報（第五十六號）害蟲の防除執行に就てアール、ケー生、螟蟲驅除後日の注意腐件、害蟲調査記事、稔蟲顧に就て熊野周右衛門氏、煙草の害蟲問答（圖入）等

（六）岐阜縣農會雜誌（第八十六號）昆蟲展覽會開設の計畫を聞き縣下有志諸君に訴ふ半農生等

（七）鹿兒島縣農會報（四十九號）害蟲驅除に關し前途の希望を述ぶ江間定次郎氏

（八）愛知縣農會報告（第三十二號）蠶蛆の驅除豫防ょ就て加藤米太郎氏等

（九）京都府農會報（第九十二號）桑樹鐵砲蟲驅除器に就て（圖入）石渡繁胤氏等

（十）靜岡縣農會報（第三十一號）作物害蟲論鈴木伊平氏等

（十一）帝國農事報（第三十六）昆蟲學（其四）能島正夫氏、害蟲講義西岡直三郎氏

◎昆蟲採集旅行　當所長名和氏には同志者を募集して昆蟲學研究の爲縣の內外を問はず適當の場所へ旅行（一日の行程は五里以內ょして費金は五拾錢以內旅行日數は五乃至十日間の豫定）せんとて夫々準備の所引續き講習開設の爲め未だ實行し得ざし際茲に第一回全國害蟲驅除修業生星野友治氏には目下京都府丹後國に第一二回の講習生六名あるを幸ひ同氏等と相斗り近日より同國內を旅行して充分昆蟲採集を實行せらるゝ由なれば同氏等に此尤も面白き旅行の先鞭を付けられしは殘念なりと名和所長は申し居らるゝ由星野氏等の採集日誌は定めて有益なれば何れ本誌に掲げて讀者諸君に紹介す

◎宮城縣に於ける苗代改良の勵行　今回宮城縣に於ては害蟲驅除豫防の目的を以て一般農家の苗代を短冊形に改むべき旨縣令第廿二號を以て發布せられたるが若し之に違背したるものは拾圓以內の罰金に處せらるべしと云ふ

◎讀者に謝す　編者曰く本號發刊の遲れたるは全く印刷所の不都合より來るものなれば次號よりは必ず期日に發刊するを以て今回に限り特ょ遲刊の罪を謝す

故船津傳次平君實に明治三十一年六月十五日を以て溘焉遠逝せらる君農術に精通し誘掖説示苟も懈らす諄々悃至足跡全國に遍く畢生精を斯業に竭し効績の歴々たるは人の洽く知る所復た喋々を要せさるなり其事歴以て後世に傳ふへし乃ち余輩相謀り同志の賛成を得て君か爲に碑を東京飛鳥山公園に建て事を記して之を不朽に貽すあらむとす是啻に翁の爲めのみならず後進者を啓發誘掖するの一助たらむ乎冀はくは同感の士此學を賛襄せられむことを

一篆額は大日本農會會頭　大勳位功二級彰仁親王殿下御染筆にして既に下賜相成候

一撰文は故子爵品川彌二郎君の手に成り固より既に繕寫相畢候

一位置は飛鳥山公園内に撰定既に東京府廳の允許を得候

一金員は其上封に必ず「船津翁建碑之件」と御記載、東京赤阪溜池町大日本農會幹事小笠原金吾宛にて明治三十三年六月末日迄に御送致を乞ふ但爲替は東京西久保郵便局へ御振當相成候樣致度爲替不便の地は郵便切手にても苦しからず

明治三十三年三月

發起人（いろは順）

伊地知德之助、池田謙藏、石山騰太郎、井原百介、針谷吾作、八田達也、速水堅曹、堀正太郎、本多岩次郎、本田幸介、本間啓太郎、豊永眞里、東條忠治郎、德久恒範、富田鐵之助、小貫信太郎、岡毅、岡田鴻三郎、岡村猪之助、小笠原金吾、小野孫三郎、大林雄也、大塚由成、織田又太郎、押川則吉、恩田鐵彌、渡瀬寅次郎、加賀山辰四郎、鏡保之助、片田豊太郎、狩野長男、柿崎鋼太郎、横井時敬、吉井豊造、高橋久四郎、高田鑑三、田中節三郎、玉利喜造、武田總七、恒藤規隆、角田喜右作、練木喜三、名和靖、長岡宗好、中村和三郎、村山煒、内山定一、牛村一氏、野村豊常、菅正懿、陸原貞一郎、楠原正三、山中壽彌、山中良治、矢崎亥八、前田正名、町田咲吉、松永伍作、舟木文次郎、小西文之進、青山元足立丈次郎、安藤廣太郎、齋藤近三、齋藤粂四郎、齋藤萬吉、佐藤義長、澤野淳、阪野初次郎、酒匂常明、榊原仲、佐久間義三郎、佐々木善次郎、向坂幾三郎、吉川祐輝、紫藤章、十文字信介、新莊三郎、森要太郎、千石興太郎、

○害蟲圖解出版廣告

○第一桑樹害蟲エダシヤクトリ（再版）
○第二桑樹害蟲トゲシヤクトリ
○第三稻の害蟲イチノズイムシ（螟蟲）
○第四煙草害蟲タバゴノアヲムシ
○第五稻の害蟲イチモジセヽリ（苞蟲）
○第六桑樹害蟲ヒメゾウムシ（象鼻蟲）
○第七桑樹害蟲シンムシ（新版）
○第八稻の害蟲イチノアチムシ（螟蛉）（新版）
以上既版

○茶の害蟲ミノムシ（避積蟲）
○豌豆の害蟲エンドノキリムシ（夜盜蟲）
○稻の害蟲ツマグロヨコバイ（浮塵子）
○桑樹害蟲クワカミキリ（天牛）
○桑樹害蟲イトヒキハマキムシ
○茶の害蟲チヤケムシ（茶貼蟖）
○桑樹害蟲キンケムシ（金蚧蟖）
○稻の害蟲イナゴ（蝗螽）
以上豫約出版の分

●圖解の紙幅　縱一尺三寸橫九寸
●壹枚の代價　拾五錢郵稅貳錢
●百枚以上一纒代價　壹枚拾錢郵稅百枚に付き貳拾錢

●豫約代價

壹枚拾錢郵稅貳錢
凡て前金にあらざれば回送せす但申込の際前金添附の事
圖解代金　但郵劵代用一割增の事

右害蟲圖解第一より第八迄は既に發行を成し江湖の高評を博したりと雖も未だ當業者全般に普及せざるの憾なしとせず抑本圖解は鮮明なる着色石版圖にして被害植物の實際より害蟲の性質經過等一目瞭然に描寫し加ふるに平易なる解說を附したるを以て普通農家に於ても尤も理解し易く尤も必需のものたり故を以て岐阜縣に於ては既に之れを採用し各町村農會及小學校は勿論町村役塲警察署等へも頒布せしに一般ょ害蟲の經過習性等を解得し害蟲驅除上著大の効を奏したりと云ふ依而當所は此際憤勵一番更に重要作物の重なる害蟲を撰擇し逐次出版せんとす而して該出版物に對しては特ょ豫約と爲し前掲の如く價を低減し大に當業者に及普し實用に適應せしめんとす豫約希望者は速に御申込みあれ又既に出版濟みの分は各町村役塲又は町村農會小學校其他の團体に於て御取纒め一手購求せらるゝ時は大に便利なり乞ふ幸に愛顧を垂れ陸續御注文あらん事を

發行所　岐阜縣岐阜市京町　名和昆蟲研究所

貴地方へ客遊中は種々御欵待を蒙り萬謝の外無之一々御挨拶可申上筈の處飯縣後極めて多忙に御座候間乍畧儀以誌上御禮申上候

明治三十三年四月　　名和靖

京都府丹波國丹後國辱交諸君

○葉書通信募集

今回葉書通信を募集せんとす其趣意は愛讀者諸君地方の出來事を始め其他昆蟲に關する一切の件を簡にして明瞭に廣く通信を請はんとす縱令匿名にて本誌に掲載を請はるゝも當所へは必ず本名記入ありたし

名和昆蟲研究所

○購讀者募集

本誌は發行以來漸次改良せしが尚一層改良を加へて愛讀諸君の厚意に酬ひんとす願くば斯學普及の爲め此際廣く購讀者を募集せられんことを希望す尤も紹介者の芳名を本誌に掲ぐるのみならず聊かながら當所調製の紀念品を贈與せんとす請ふ購讀者募集の勞を取られんことを

名和昆蟲研究所

昆蟲世界購讀者紹介諸君芳名

京都府嵯峨根熊藏君（六名）長野縣山岸喜市郎君（四名）長野縣伊原長三郎君（四名）京都府湊力松君（二名）靜岡縣神村直三郎君（二名）靜岡縣岡田忠男君（一名）

●昆蟲標本發賣廣告

農作物害蟲標本　壹組（桐箱入解說付金四圓五拾錢）

同　益蟲標本　壹組（桐箱入解說付金參圓五拾錢）

教育用昆蟲標本　壹組（桐箱入解說付金四圓五拾錢）

自然淘汰標本　壹組（桐箱入解說付金五圓五拾錢）

雌雄淘汰標本　壹組（桐箱入解說付金五圓五拾錢）

氣候變形標本　壹組（金四圓）

壹組の荷造費二拾錢郵稅百里迄廿錢百里外四拾錢

當昆蟲研究所は專ら昆蟲の研究標本の調製に從事せんが爲め豫て諸般の設備に汲々たりしが今や準備も畧ぼ其緒に就き廣く江湖に向て本所を紹介するの運に至りたるを以て更に規摸を擴張し前記の標本並に學術的裝飾的に屬する昆蟲標本の調製を應諾せんとす特に害蟲驅除豫防法に依り各府縣に於て定められたる害蟲類を始め各種學校に適當なる昆蟲標本は本研究所が多年獨得の技倆に依りて之が調製をなし多少に拘らず貴需に應ずるのみか其調製の如きも掛額柱懸等御希望に依り種々美術的に調製を爲し以て昆蟲思想の發達を圖り公益に資する所あらんとす本所長名和靖は曾て第三回內國勸業博覽會に於て其出陳の昆蟲標本に對し有功一等賞を得其第四回に於は進歩一等賞を得たり標本の精美と調製の緻密なるは世自ら定論あり今復茲に之を謂ふの要なし幸に愛顧を垂れ陸續御注文の榮を賜へ

發賣所　岐阜市京町　名和昆蟲研究所

昆蟲世界第三十一號目次

●岐阜昆蟲學會月次會廣告

岐阜昆蟲學會の月次會は毎月第一土曜日午後正一時より岐阜市京町岐阜縣農會樓上に於て開會そる筈なれば萬障御繰合の上毎回御出席御演說に預り度候尤も第一土曜日は名和昆蟲研究所員一同午前より研究を中止し居れば精々早く御出席に相成候得ば斯學研究上出來得る限り御便利御與可申上候以上

但し該會へは縣の內外を問はず有志者諸君は廣く御出席を請ふ

明治三十三年一月

名和昆蟲研究所內

岐阜昆蟲學會

岐阜昆蟲學會月次會本年中の日並は左の如し

第十七回月次會（五月五日）
第十八回月次會（六月二日）
第十九回月次會（七月七日）
第二十回月次會（八月四日）
第廿一回月次會（九月一日）
第廿二回月次會（十月六日）
第廿三回月次會（十一月三日）
第廿四回月次會（十二月一日）

第十七回月次會は五月五日に開會す精々御出席を請ふ

市街界 ⋮ **案內道** ‖ **町** | **研究所** イ **縣廳** ロ **病院** ハ **中學校** ニ

監獄 ホ **郵便局** ヘ **西別院** ト **公園** チ **長良川** リ **金華山** ヌ **停車場** ル

●名和昆蟲研究所案內

當研究所の位置は上圖の如くにして停車場より僅十餘町なり當所には常設の昆蟲標本陳列室あり新設の養蟲室もあれば有志の諸君續々來訪あれ

岐阜縣岐阜市京町
名和昆蟲研究所

●本誌定價並廣告料

壹部郵稅共金拾錢（見本は五厘郵劵貳拾枚にて呈す）
十部郵稅共金九拾錢

（注意）本誌は總て前金に非れば發送せず

●爲替拂渡局は岐阜郵便電信局●郵劵代用は五厘切手にて壹割增とす

廣告料五號活字廿一字詰一行に付き金十錢三十一行以上一行に付き金八錢とす

明治三十三年四月廿八日印刷並發行

發行所 岐阜縣岐阜市今泉九百三番戶ノ二（岐阜縣岐阜市京町）名和昆蟲研究所

發行者 岐阜縣岐阜市今泉九百三番戶ノ二 名和靖

編輯者 同縣山縣郡岩野田村大字栗野百廿二番戶 桑原貫之助

印刷者 岐阜市笹土居町四十四番戶 安田豊八

（明治三十年九月十日內務省許可 明治三十年九月十四日遞信省認可）

（岐阜市安田印刷工場印行）

PRINTED BY YASUDA TYPE PRINTING WORKSHOP, 19, Higashi-tsukasa-machi, Gifu,Japan.

Vol.IV. MAY 15TH, 1900. No. 5.

(五月十五日發行)

(毎月一回定時刊行)

THE INSECT WORLD:

A MONTHLY MAGAZINE.

EDITED BY Y. NAWA.

GIFU, JAPAN.

昆蟲世界

(第四卷第五册) 第參拾參號

目次 (禁轉載)

PUBLISHED BY THE NAWA'S ENTOMOLOGICAL LABORATORY IN GIFU, JAPAN.

◎寄附物品受領公告

一金貳圓五拾錢　陸軍中央幼年學校　尾田　信忠君

一金壹圓也　第三回全國害蟲驅除修業生　靜岡縣磐田郡十束村　大庭莊一君

1 Iowa Agri College Exper Station Bulletin No. 34.1897. 1冊　在米國　米國理學士　桑名伊之吉君

1 Colorado Agri Exper Station, Bulletin No. 31. Technical Series No. 1. 1895. 1冊　在獨乙　農學士　松村　松年君

一濱名郡蠶業學校同窓會會報　一冊　靜岡縣濱名郡蠶業學校助教諭　岡田　忠男君

一苗代害蟲驅除用捕蟲器　一個　岐阜縣可兒郡久々利村　小林儀三郎君

一全身肖像（寫眞壹葉）　第三回岐阜縣害蟲驅除修業生　增田　敬司君

一半身肖像（寫眞壹葉）宛　同上　加藤　彦郎君　同上　安藤　登君　同上　天野　秋二君

一半身肖像（寫眞壹葉）　香川縣第一回全國害蟲驅除修業生　脇屋禎三郎君

一半身肖像（寫眞壹葉）宛　神奈川縣第三回全國害蟲驅除修業生　茅　稻造君　山形縣同上　土屋　龜吉君　青森縣同上　白井　毅一君

一卷煙草入（蝶摸樣附）　一個　岐阜縣加茂郡太田町　村井　正元君

一茶合（蟷螂摸樣附）　一個　岐阜縣不破郡府中村　小竹　浩君

岐阜提灯（蝶摸樣附）　二張　岐阜市西野町　林　諒君

右當研究所へ寄附相成候に付芳名を掲げ其御厚意を謝す

明治卅三年五月　岐阜市京町　名和昆蟲研究所

全國害蟲驅除講習生同窓者に告ぐ

六月一日より同月十四日迄二週間第四回全國害蟲驅除講習會を開設し六月十四日午前中に修業証書授與式を擧行する筈なれば萬障御繰合せ御臨席に預り度尤も遠路御臨席相成がたき諸君は祝辭なり紀念品なり何なりとも御送附に預り候へば極めて好都合に有之候何れ右の實況は昆蟲世界誌上に於て詳細御報告可申上候

明治三十三年五月　全國害蟲驅除講習生同窓會名譽會長　名和靖

全國害蟲驅除講習生同窓者諸君御中

美術工藝上ニ應用サレタル昆虫模様

論説

（明治三十三年五月）

◎螢の話

理科大學教授　理學博士　渡瀬庄三郎

編者曰く本編は東京動物學會の動物學雜誌第百三十七號（三十三年三月發行）に掲載せられたるものにして今回特に同會の許可を得て登載するものなれば再び他に轉載を許さず

左に掲ぐる一編は明治三十三年一月二十日予が東京動物學會に於て螢及び其他の發光動物に就て述べし者の中螢に關する部を取り少しく增補を加へたる者なり發光器の構造の如きは他日細論すべし

螢はよく人の知る如く暗夜に燦爛たる麗光を發する特性を有するものなれば世界何の國を問はず多少の開化を爲し苟も文字を有する位に發達せし國民には必ず螢に就て書きたる者を有す特に日本支那の如く詩的の風習に富み自然の萬象を驅て詩歌の材料に供せし人種には螢は早くより文學に顯れたり其螢を呼で夜光と云ひ照夜と云ひ丹良と云ひ差鳥と云ひ燐燐と云ひ景天と云ひ宵燭と云ひ據火と云ひ挾火と云ひ救火と云ひ自照と云ひ後宮遊女と云ひ夜遊女子と云ひ其他多くの異名を與へしを見れば螢が早くより文墨の士に接したるを知るべし

然れども吾人を圍繞する自然の現象を見て原因と結果の關係を推究する理學の思想は淺かりしを以て螢蟲發光の原因に就て考へし所は極めて淺薄なりき禮記の月令に「季夏之月……腐草爲レ螢」と云

て腐草が溫濕を得て螢と爲ると敎ゆれば其說が果して眞なるや否やを證するの新觀察を成さず二千五百年後の今日に至る迄眞面目に其說を信じて疑はざる者多し亦東洋の博物書としては重きを置れたる本草綱目の如きも螢が暗を照すと云ふ特質を見て目の藥になると稱し螢の陰干を眼病者に勸むる等人智開發史の一節としては面白きも理學思想の標本としては價値なきものなり

之に反して歐州人種の螢に對する感情は淡泊にして日本などにて行るゝ螢狩螢見物等の談話を試むれば聽く人は呆然として其意を解せず偶ま解する者あれば微笑して其の遊の純然東洋的なるを認む又泰西詩人の集中間々螢に就て述ぶる所あれども多くは夜景の形容に用ゆるに過ぎず

然れども東洋人が詩情を以て螢を迎ふるの厚きに比して歐州人は稍や理學心に富み「アリストートル」以來螢火の原因に就ては隨分多くの學者ありて種々の記錄を遺せり勿論螢發光の理の如き生物學と物理學と化學と併進協力して初めて完全なる解釋を與ふ可き難問題は到底理學の潮流が十九世紀の後半に達せざる前に於て滿足すべき說の出べき理なし而して泰西の學者が螢に就て著したる書は重に此の以前に屬するものなれば今日より見れば正鵠を得たるものは甚だ鮮しと雖も其原因と結果を探究するの精神に至ては純然理學的なりしかも螢光の原因に關して異說紛々たりしは兎に角研究者の多かりし證蹟に外ならざるなり

今理學上螢が如何なる問題を有する乎を論究するに先ち暫く理學の範外に涉り螢が古來人類に使用せられし來歷を述べんに先づ東洋に於て螢が善く人に知られ珍重せらるゝは國民が自然を愛する優雅の心情に基づくは疑なけれども彼の普く人口に膾炙する螢雪の故事與りて力ありしなるべし昔し晋の車胤と云ふ人が貧にして常に油を得ず夏月には練囊に數十の螢火を盛り以て書を照し夜を以て

日ょ繼ぎ後ょ官吏部尚書に至りしと云ふは青年苦學奬勵に名高き美談なるが爾來文學を尙ぶ支那や日本にては螢火と學問とは常に連想せらるゝに至れり

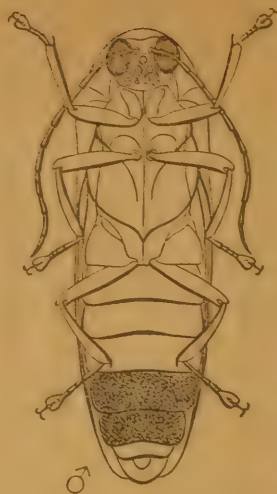
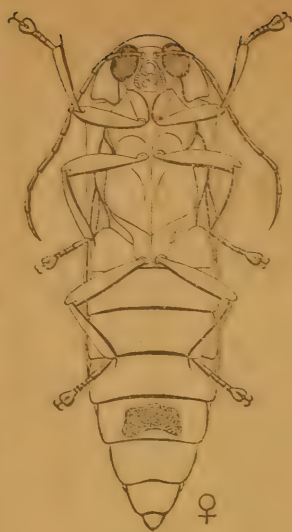
然れども螢火を燈火に代用したる事は古來各國に例の多き事なり今少しく見當りたる所を記せんに彼の有名なる「フンボルト」と云ふ學者の書きし一書ょ往昔「メキシコ」海岸には海賊多くして航海者を苦ましめ夜間舟に燈火を用ゆるときは夫が目標と成り海賊の爲に船の所在を發見さるゝの恐ありしかば船中に燈火を用ゆる事を宥さず代ゆるに彼の地に產する大なる螢を多く入たる籠を船客に與へたり船客の夜中光を要する時は其籠を動搖すれば螢は忽ち刺戟を受けて光を發し其航者の身邊を照したりと云ふ又碩學「ベーコン」の書きたる古き博物書（西曆千六百廿七年出版）に昔し英吉利の僻村ょては村童が螢を透明なる瓶に入れて河中に沈め其光に因て魚類を集め捕へしと云ふ事を記せり是螢火を漁火に代用したるものなり又現時我國の或地方に於ては養蠶期節中螢を多く集めて之を螢籠に入れ蠶室に備へ置き夜間鼠の暴害を防ぐに用ゆと云ふ又「マダム、メリヤン」女史（西曆千六百四十七年生る）は螢の光を用て其螢自身の畵をかき近時佛國の一學者は螢の光にて寫眞を取り「キユバ」島の婦人は螢を頭に着け胸に懸けて裝飾となす又「ピートル、マーター」と云人は千四百五十五年に伊國「ミラン」府に生れ彼の新世界發見者「コロンブス」と同時代の人にして大に女王「イサベラ」に用ひられたる人なるが亞米利加發見後三十年の紀事を書きたる著書「新世界」中土人が暗夜深林を旅する時大なる螢を足の親指に結び付け路を照し提灯の代りと成し螢弱れば亦新に活潑なる者を取て用ひたりと云ふ事を記す亦同書ょ若き者が戯に多くの螢を取て之を潰し其發光器の細片と躰腋と混交して妖げなる燐光を放つ者を以て面に塗り暗夜突然人の前に出で憶病者を脅せしと云事を載せ

り螢は又男女戀情の誘因とも成りたりき詩人「サウゼー」が詩曲「マドック」に妙齡の少女が螢の光を以て暗黒なる洞穴中に佳人の案内を成したる事を云へり我國にても螢を多く集め其光を以て暗夜婦人の顏を照せし事は源氏物語に見ゆ其他伊勢物語宇津保物語等平安時代の文學には同上似寄りの事を屢々載せあるを見れば當時行れし一種の實例に基きしものならん乎

去れば螢は種々の用に立ちしなり青年の苦學に燈火の代用を爲し已が肖像をかく畫工に光を與へ村童が漁火となり青年の惡戲にも材料を給して憶病者を苦ましめ暗夜よく蠻人の路を照し海賊豫防の「ランプ」と成り婦人の裝飾とも成れり又男女戀情の誘因ともなりしなり殊に日本の如き風流國にては夏の夜觀螢の遊は無限の樂を衆人に與へたりき而して自然界の現象を究むる學風の起りしより螢は又理學者研究の材料となり人智の開發に刺戟を與へ將來學術の振張に伴ふて螢の需要も亦一層の增加を見るべし

古來螢を理學的に研究する學者に二種あり一は物理學的に螢の光を探究する者一は生物學的に發光の理由及び其發光点の構造組織生理を學ぶ者是なり

先づ第一種に屬する學者の問題を述べんに都て光力の原体たるものは物理學者が研究の材料と成らざる者なし去れば古來螢及び其他の發光生物を物理學上より論究せしもの一にして足らず「ボイル」「ニユートン」「ファラデイー」「マッテユーチ」「ヤング」「ラングレー」の如き皆然り殊に「ロバート、ボイル」（西暦千六百二十七年生）の如きは發光朽木（朽木の發光は寄生植物の作用に因る）の探究に深く意を留め其試驗成績の如きに至ては二百餘年後の今日に於ても尚ほ一讀の價値あり氏が特に注意せしは腐木の發光には熱の副はぬ事なり煙の出ぬ事なり氏は此の一見破格的の現象に對して深く

疑念を抱けり又螢の如きも然り通常一般の人工發光術には必ず熱の隨伴する者なるに如何にして螢の光よは熱の無きにやとて往時泰西の學者は螢を人體中感覺の最も鋭き唇に着けて試驗し或は小さ

Photinus consanguineus. ×5

圖解第一圖は黑色を帶たる稍や小形の螢にして米國東北諸州には普通の者なり居常静謐にして飛行力も僅々小距離に止まり雌の如きは夜間重に水邊に生ずる草莖の上端に附着し之に觸るれば直ちに轉び落ちて極めて運動力に乏しきものなり

光色は綠を帶びたる黄色なり雄の發光器は圖中細かき斑點を以て表はしたる如く腹部第五と第六關節の全腹面を掩へども雌は只に第五の關節の中央に一個を有するのみ

此螢は米國「ウーヅホール」臨海實驗所近傍に於ては六月中旬に出で凡そ二週間生存す然して此の種類の絶へんとする時第二圖に示したる者出で凡そ二週間程半或は三週間程生存す第三圖に示す者は此の第二者と多少混じて出づれども重に螢季節の末期に於て出づ此の他尙ほ三種の螢ありて夏月中同地に產すれば「ウーヅホール」の如き地に於ては毎年六月中旬より八月中旬迄毎夜群螢の點々暗を照すを見れども此間には數種の螢類が新陳代謝してこの觀を呈する者なれば初夏に現はるる者と仲夏に出づる者とは全く種を異にするものなり

き寒暖計を製りて螢の尾に差込み熱の光に伴はぬに奇怪の念を抱きたり「シエークスピーヤ」と同時代の詩人「フレッチャー」(西暦千五百七十九年生)も既に詩眼を以てこの螢火の特質を見拔き其詩中彼の柔弱なる宮人が徒らよ身の裝飾のみを華美にして丈夫の氣象に乏き者を螢に假令へ罵て云く「光彩目を奪ふ螢よ汝は外に火を裝へども心中絶へて熱氣なきに非ず哉」と又古來支那人の如きも屢

々この特性を述べたりき梁の文帝が螢を詠せるの詩に

著レ人疑レ不レ熱　集レ草訝レ無レ烟

の句あり亦宋の程大昌と云人の書きし書中巧に螢光を評して「有二火之用一無二火之熱一」と云へり亦我國にても彼の堀川百首（稱二太郎集一、康和年中今より凡そ八百年以前）に載する藤原基俊の歌の如き

行螢夏の夜すからいかにして

烟もたゝずもへわたるらん

とは共に其一例として見るべきものなるべし

降て十九世期に至りては英國の「ファラデイー」の如き伊國の「マッテュユーチ」の如き佛の「デュポア」の如き米の「ヤング」及び「ラングレー」の如き皆な螢火の異常なるを光學上より認め殊に「ラングレー」氏の如きは精密なる測放器及び光線分拆術を以て巧に螢の光を試驗し螢光は熱を欠きたる冷光なる事を証明せり時の古今を論せず洋の東西を問はず詩人の直覺に因て推測したると理學者の實驗に因て發見したるとに論なく螢火が通常人衆に知らるゝ燃燒と其趣きを異にせるは人の注意する所のものなりき

又近時我國に於ても村岡博士が螢光中X光線の有無に關して研究せられたるは前述の問題とは少しく其目的を異にすれども其精神に至ては物理學上螢光の研究に外ならざるが如し（未完）

◎美術工藝上に應用せられたる昆蟲の形狀に就て（承前）（第五版圖參看）

工科大學助教授　工學士　武田五一

昆蟲は吾人が天然物を觀察する際尤も多く眼界に映ずるものにして其形狀色彩等も又美麗を極め美

術工藝上の模樣に使用せらるゝこと多し就中鱗翅類最も盛に應用せられ羅翅、甲翅、膜翅、直翅、半翅双翅之に次ぐ而して鱗翅類中にても蝶は十中の八九を占む蛾及其他の種類に至ては其例甚だ少し之れ蝶は晝間に飛翔して其光澤も又富麗なる故ならん

今蝶の形の美術工藝の模樣として應用せらるゝ方法を見るに寫實的なるは歐州に其例多く(8)(14)(16)の如し）本邦には尠し但し純粹なる繪畫には本邦にても間々寫實を主とせるものあり(九)に於けるが如し模樣化せるものに至ては各國各時代に於て其例多し就中省略法を施せるものは歐州の例にては(2)(10)(9)(11)(12)の如く本邦にては(二)(三)(四)(八)(十)(十二)(十四)(十五)(十六)(十八)の如し其他此例甚だ多し加筆法を施せるものは歐州の例にては未だ見ること能はず本邦にては(四)(六)(七)(十三)支那にては(十九)の如し以上の數例中(11)(12)(三)(七)(八)(十四)等は巧妙なるものと云ふべく(10)(十六)(十九)の如きは拙劣見るに堪へず(十)(十五)(八)(12)の如きは全く模樣化せられ而も極めて巧に其意味を發現せり(9)(二)の如きは異樣に模樣せられたるものにて恰んど最初の形の蝶たりしや否やを判別するに苦む

異形挿入法を施したる例は本邦に於ては絕へて其例を見ず歐州にては(2)の如き例往々存在す(2)は蝶と人体とを結合したるものにして巧妙なる案と稱すべし

本邦蝶模樣の翅にある紋樣を類別すれば次の數種となる　（第四版圖參看）

(イ)無紋のもの……………(十四)(十五)(八)

(ロ)前翅若くは後翅或は両翅の緣邊に圓形（時としては尖楕圓形）の斑文を並列するもの其數各翅共一乃至五……………(三)(四)(十)

(ハ)翅の胸關節部に付着せる所より三條乃至五條の放射線狀の脉紋を射出するもの………(三)(五)(六)(七)

(十)(十一)(十二)(十四)

(ニ)翅の圓形班文の代りか若くは其に添て新月形班紋を並列するもの……(三)(四)

(ホ)(ロ)の圓形班紋は(ハ)の放射線條班紋の間に位して波狀の線を挿入すること……(四)(五)(十一)(十)

翅の色彩に至ては繪畫にある寫實的のものを除くの外悉く實物の色に從はず之れ美術工藝上の模樣としては他の部分の色との調和照映の關係より止むを得ざるに至りしものならん標品、繪畫と美術工藝上の模樣との差異ある所以なり

蛾を模樣に使用せる例は其數多からず僅に(13)(3)(二十)等の例を得たるに過ぎず此例を見るも歐州のものは寫實的にして本邦のものは模樣的なり

羅翅、膜翅、甲翅等其他の種類に至ては實例を得こと甚だ尠く充分なる對照考査を經る能はず四、五の例を圖して他日研究の參考に資するのみ(完)

第五版圖解　(1)は Art et Decoration Tome V. P. 39 本表紙模樣(繪畫)(2)は Studio Vol. IX. P. 104. 本表紙模樣(繪畫)(3)は Art et Decoration Tome VI. P. 181. 陶製水瓶模樣(彫刻)(4)は同上 VI. P. 12. 胸飾の一部(金屬製)(5)同上 VI. P. 56. 皮製本表紙浮出し模樣(6)は同上 VI. P.12. 金屬製胸飾の一部(7)同上 VI. 廣告の摸樣(繪畫)(8)は同上 VI. P81 陶製果瓶の彩色繪摸樣(9)は Cabinet maker. Vol.XX. No. 231. P.58. 壁紙彩色摸樣(10) は Art et Decoratoin Tome VI. P. 77. 扇金物の透摸樣(11)は Studio Vol. VIII. P.124. 縫摸樣(12)は Art et Decoration Tome V. P. 165. モノグラム(13)は同上 V. P. 82. 箱石細工(モザイック)(14)は同上 V. P. 103. 盆摸樣(15)は同上 V. P.88. 寄木細工盆摸樣(16)は同上 V. P. 42. 本表紙

◎蚜蟲と敵蟲に就て

名和昆蟲研究所助手　宮脇繼松

蚜蟲は其種類極めて多きのみならず春夏の候に産するものは專ら雌蟲のみして幷かも單爲生殖を營むを以て其蕃殖力の旺盛なる到底吾人の想像も及ばざる程にして若し彼れに加ふるに天然の制裁なく恣に蕃殖せしむるに於ては畢竟全世界の植物は擧げて彼れに占領せらるゝ處とならんとは曾く先輩諸先生の唱道せらるゝ處にして吾人も又庭前野外等に於て彼れが或る植物に寄生して全く該植物を枯凋萎縮せしむる事あるは屢々實見する處なり然りと雖も未だ彼れが他動物を壓倒して世界に覇たるを得ざる已みならず例へ一時非常に蕃殖せしものと雖も或る塲合に於ては忽焉として煙滅し去り亦片影をも止めざるに至る事あり是れ恐くは所謂天然の制裁即ち種々なる外敵の攻擊に堪へ得ずして倏ち滅亡するものならん乎果して然らば吾人は蚜蟲の蕃殖力の旺盛なるに驚くと同時に之れを攻擊する處の敵蟲黴菌等の戰鬪力の偉大なるに驚かざるを得ず吾人は彼れ蚜蟲の蕃殖力と之れを攻擊する處の敵蟲の戰鬪力の强弱如何は切に知らん事を欲するものなり爰に於てか余寡聞菲才敢而其任に非らざるをも顧みず農事の余暇勉めて蚜蟲の蕃殖力を試驗すると同時に彼れ蚜蟲の强敵なるテントウムシ。ヒラタアブ。の幼蟲クサカゲロウの幼蟲等が一生中果して若干の蚜蟲を捕食するものなるやを調査せんと欲し昨年四月を以て之れが試驗に着手せしも偶ま宿阿の再發するに逢ひ中途にして試驗を癈絶せざる可からざるの不幸に際會し遂に之が目的を達する能はざりしは殊に遺憾とする處爾來賤恙退くを俟て再ひ該試驗を經續せん事を期したりしも全く健康体に復せし後は俗務多端にして遂に素志を貫徹する能はず空しく荏苒の間に經過し去りしは轉た慚愧の至りに堪へず依て余

は今より出來得る限り之れが試驗に鞅掌し結果の如きは随て得れば随て之れを讀者に紹介せんと欲す今不充分ながら昨年四、五月の候農閑に於て調査し得たる結果の一、二を左に錄せん

ヒラタアブの幼蟲が蚜蟲を食せし數

ヒラタアブの幼蟲が孵化せしより老熟する迄に凡そ幾何の蚜蟲を餌食するものなるやを試驗せんと欲し四月十八日卵二個を試驗器に收容せしに四月廿日に至り孵化したり爾來日々注意して蚜蟲を與へしに五月四日午前に蛹化し後ち十日を經て羽化したり今其一頭の餌食せし數を左に示す

日付	廿日	廿一日	廿二日	廿三日	廿四日	廿五日	廿六日	廿七日	廿八日	廿九日	卅日	五月一日	二日	三日	合計
餌食せし蚜蟲數	五	九	一二	一八	三一	四五	六〇	七六	九〇	一〇六	一二六	九六	八一	三九	七八四

クサカゲロウの幼蟲が蚜蟲を餌食せし數

六月四日クサカゲロウの卵二個を採取して試驗器に移し適當と信ずる保護を與へたり爾后四日を經て六月八日午前十時二個共安全に孵化したり依て日日食餌として蚜蟲を與へしに十一日目にして老熟し白繭を結びて蛹化したり幼蟲時代に於て餌食せし總數を一頭に改算すれば左の如し

日付	六月八日	九日	十日	十一日	十二日	十三日	十四日	十五日	十六日	十七日	十八日	合計
食餌に供せし蚜蟲數	九	二〇	四三	五六	六五	七三	八五	一二	一〇三	四四	八	六一六

右の如き結果を得たるも試驗器等も極めて笨粗にして加ふるに試驗方法の如きも至て不完全なりしを以て基より正確は期し難きも只之れに依て天然驅除の一端を窺ひ知るを得んかと厚顔にも之れを

記す

◎蠶蛆新說を讀むと題したる文を讀て

靜岡縣濱名郡平貴村　生熊與一郎

蠶蛆の我蠶業界に損害を與ふるの甚だしく且つ之れが防除策を採るの急務なるは前號に増田君の説述せられたるのみならず既に讀者諸氏の熟知する所ならん故に余輩は頑農に對するが如き言は止め只前號増田君の文を拜讀して聊か感じたる所を暫らく記して洽く讀者に質す請ふ幸に之を諒せよ

前號九ページ（十七行より十八行へ掛け）即ち増田君の高説中に「雌雄共に腹部の左右に各々褐色の圓紋あり」とありしが今迄余の研究する處にあつては雌蠅に褐色紋の腹部にあるを見ず、次に同君は三重縣小野耕平氏の蠶蛆説を大ひに濱斥し加之一の奇説否々新説など云へる嘲語を附し本誌に發表する所ありしが余は小野氏の説に全然贊成するに至らざれ共亦强ち濱斥はせざるなり、如何となれば見よ我帝國の現況を日は月と開け月は年と進み所謂日進月歩の狀勢よして交通機關も稍々備はり内外交は日は一日と頻繁を加ふるの時如何なる害蟲の輸入あつて如何なる害毒の蔓延やあるも計り難し、故に小野氏の實驗したる蛆も或は外國より輸入し來りたるものなりやの疑ひなき能はず讀者知らずや清國蠶の寄生蛆を、即ち先年農學士本多岩次郎氏の清國蠶糸業視察の途得て皈朝し之れを理學博士佐々木忠次郎氏が研究調査をなし大日本蠶糸會報及び蠶業新報等に發表せられたる清國蠶寄生蛆學名 Musca nigrieans Fabr と小野氏の實驗説と同一轍に出てたる所あり即ち蠶室に蛆蠅の來りて直接に蠶兒に產卵すと又卵は白色細長にして二三厘なりと然れとも[illegible]桑蠶糞等にも產卵するとは佐々木博士の說と異なる所なり、而して佐々木博士は該蠅は又我國の野蠶にも寄生するもの

ヽ如く說かれたり是に依て考ふるに小野氏が實驗上室內飼育よりも室外飼育に蛆害多しと云はれたるは全く野蠶に寄生する蛆蠅なるを以ての如く愚考す
嗚呼世の開け國の進むに從ひ害蟲の數を增加し生物界の原則に因て變種亞變種を愈々多からしむ、何ぞ此繁多なる昆蟲界に向て此れが硏究に從事し以て驅除法を明かにせんとす豈之れが任ゝ當るもの〻責重且大愉亦快と謂はざるべけんや、之れを以て之れが任に當るの士は先づ其害蟲の種類を明かにし以て其性狀を知り而して後驅除法を講ぜよ、然らずんば甲論乙駁の說も徒勞に皈するを如何せん嗚呼東都に遊ばんとして下り列車に乘ず何ぞ其目的を達するの日あらんや希くは君更に本年詳細なる實驗を遂けられよ余も亦濱名の一隅草間に之れが硏究をなさん

◎第三回岐阜縣害蟲驅除講習員の五分間演說

編者曰く本年四月十日より廿九日迄廿日間當昆蟲硏究所に於て第三回岐阜縣害蟲驅除講習會開會の際十九日午後一時より講習員の五分間演說會を開かれたるゝ有益なる說あるを以て今茲に數氏の大要を掲載せんとす讀者諸君請ふ之を諒せよ

（一）昆蟲の文學的記述

海津郡　安　藤　　登

五分間ですから直ぐやりますす私は文學的昆蟲と云ふ範圍の廣き考を持て居りますが其中の一部分な

る昆蟲の文學的記述と云ふ題で少し只今先生の御注文には應じませぬかも知れませぬが此研究所へ參りまして考へ付た事を御話致しますが夫れは此の「薔薇之一株昆蟲世界」と云ふ本でありますが此本を御覽になつて諸君は如何に感じますか此外に澤山御借りになつた參考書などを御覽になるに僅々五枚か六枚を讀みますになか〳〵骨が折れます兎も角讀み了せた所で頭の中に殘る所は一向に少ないです所が此本を讀で見ますと三十幾頁もありますけれ共スラ〳〵と僅々一時間か三十分間の中に讀み了ることが出來ます其上胸中には「ミドリアブラムシ」とか「クサカゲロウ」とか「クマアリ」とか色々昆蟲の生存經過の有樣を記臆することが出來て大に面白く不知不識の間に昆蟲學思想を養ひ得て居るのです諸君は御承知ですか知りませんが志賀重昂と云ふ先生が某の山は何千尺何々の川は何里あるなど云ふ乾燥無味なる地理學と云ふものを「地理學講義」と云ふ本に實に面白く書かれました事があります此昆蟲世界と共に文學的記述の体を得た者の尤も上乘の者と考へます昨日拜見した多くの内外參考書の中で「千蟲譜」と云ふ本がありました之れなども私は不完全ながら所謂文學的記述の体を得た者と考へます又コムストック氏の「インセクト、ライフ」と云ふ本がありましたでしやう之は余程面白く書いてあります樣で一寸例を申しますと語る蟲、鳴く蟲など丶申す題の下に「キリギリス」「コホロギ」などの事を面白く記載し蝶の事を書くに葉も莖もなき麗はしの花など丶書いてあつて恰も小說でも讀んで居る樣な愉快の中に昆蟲の事を知るを得て至極便利の事と思ひます去れば私は此「昆蟲世界」の樣に面白く乾燥無味なる昆蟲學を即ち稻の螟蟲の事やら浮塵子の事やらなどを西洋の讀本の樣に小學校の讀本の内へ記入して普及せしむる樣に願ひたいのであります尙一ツは諸君初め私共までが故鄕に歸りますれば何れ色々諸人に話をして害蟲驅除と云ふ大目的を達せねば

なりませぬが夫を同じ話すにしても文學的に即ち極面白く誰にでも了解せしむる樣又うましめぬ樣に傳へ聞かして此目的を達せん事を諸君へ御相談を致し且つ熱心に希望致しますのであります併し私の此の話が文學的記述の体を得て居りませんと云ふ事は幾重にも御見許を願ひます一寸責塞ぎまでに失禮しました

（二）　小學校敎員に昆蟲學思想養成の必要　　養老郡　安田三郎右衛門

抑も小學校敎員たるや社界の諸物に通じ以て兒童の摸範となり學術敎育、實業敎育、万端其指南車たるものである今や我國は開明の域に進みまして敎育も又其歩を進めつゝあるのである就中實業敎育は最も必要にして古來我國は農を以て本となし瑞穗の國とも稱する程である然るに水害、風害、蟲害等の爲め其收穫を減じ其米質を粗惡ならしむるは誠に殘念の事であります中にも害蟲は全國に於て其大部分を占めて居りまして目下其善後策を講じ驅除に從事しつゝありますけれども兎角天保時代の迷信老農が多くて其實効を奏する事の出來ませんのは詰り此昆蟲學の志想が乏しきからであるそう云ふ譯でありまするからして斯學研究は最も必要である夫れで私は小學敎員に其幾分を研究させて以て兒童に向て最も平易に最も懇切に話しをせしめたならば兒童は自ら其必要を感じ道理を悟り晩餐後に父兄と會談する内にも其迷信を解かしむるに至るであろうと思ひます又父兄は其最愛なる子弟が最も信任する所の敎員より授りたるものと知りなすれば必ず其實行は容易に出來得る事であろうと存じます依て兒童の指南車否小學敎員に於て害蟲驅除の講習は誠に必要であると思ふのでありまする聊か感ずる處を述べまして責を塞ぐ事であります

（三）　苗代田害蟲驅除に就て　　稻葉郡　後　藤　宇　三　郎

目今苗代田の改良をなし害蟲驅除及び豫防を爲すは吾人農業家の急務なりとす余は昨年害蟲驅除を行ひ大に失敗を招きたる事ありこは如何なる方法を以て行ひしと云ふに苗代田は改良法の短冊形となし而して晝は螟蟲の採卵又螟蛉、螟蟲蛾、浮塵子等は三角形の捕蟲器を以て掬ひとり夜は誘蛾燈を点し諸害蟲を誘殺したる卅有餘日なりしが此間驅除をなしたる害蟲の數幾万なるやを知らず如斯驅除法を行ひて幾何なる効を奏せしならんと云ふに意外に其効無かりき之れは如何なる所以なりと云ふに採卵法及び捕蟲器を以て掬ひ採る計りならば幾分の効は見ゆるならんも誘蛾燈を点じたるが爲め大失敗を招きたるなりこは如何と云ふに飛んで火に入る夏の蟲と云ふ諺の如く總ての蟲類は火を好みて飛び來るに依り如何程力を盡して驅除をなすも予の苗代田には其効尠なくして却て接近者の苗代田に効を見るに至りたるなり依て予の苗代田には螟蛉の發生夥しく勢ひ破竹の如く襲ひ來りしにより予は之れを見るに堪へ兼ねて苗代田を深水にし注油をなし而して浮きたる蟲を箒にて掃き寄せ之れを掬ひ取りて驅除をなせしが此頃中講師よりの御教訓に依れば苗代田は獨り稲の苗代田のみに止まらずして害蟲類の苗代田なりと申されしが眞に然り予は依て大に感服したる次第なり猶誘蛾燈を点じ誘殺したる經驗を一言述んに螟蟲、螟蛉の蛾は十中の七八迄は雄蛾にして雌は僅に一二蛾に止まるなり之れは予の愚考するに雌蛾は胎卵し居るに依り体重きに依るならんと思ふが諸君は如何なる御說なりや御承知なれば御教示を乞ふ兎に角誘蛾燈を使用して驅除を爲すは其効尠くして却て害を增すならんと云ふ事は此頃中講師よりの教示の如く經濟界に一變動を來すなれば誘蛾燈を以て驅除するよりも採卵法及び捕蟲器を以て驅除を爲すを之れ簡單の良驅除と云ふ聊か蕪言を以て諸君の御參考迄に

（四）苗代田改良と害蟲驅除の關係

山縣郡　篠田房次郎

私は本題に就きまして聊か實施談を演じやうと思ひます此苗代田改良の必要なるとは昨年我山縣郡に於て螟蟲、浮塵子が夥しく發生しましたに付て之れが驅除を勵行したるに私も其奬勵の任に當りました然るに茲に困難を感じたるのは此苗代田の改良であります此改良は何の必要である何の爲めであるか未だ當業者たる農民に於て辨別せざる爲め他郡はいざ知らず我郡の如きは改良の出來たのは漸く二三歩位であります然るに此驅除勵行に際し改良の出來て居ない爲め苗代田の周圍は驅除する事は出來得るも到底中央に至る驅除は行屆きません依て四尺乃至六尺位の巾に踏切を爲さしめんとしたるも當業者に於ては苗の不足を來すとか折角成育したる苗を踏込むは殘念なとか種々樣々の口實を以て此踏切も容易に行はれ難かつたのであります併し之れを農民の言に任せ打捨て置けば到底驅除は出來ませんから茲に暫く强制に出で實行して郡費補助五拾圓以上賞與として一回丈の驅除を爲さしめたので御座います其結果二十万塊以上の螟蟲採卵を得ました頃日先生の御講義を承りますれば四五回以上の驅除を行はなければ効能は無いと云ふ事であります成る程其れに相違ないであります一回丈の驅除はしましたが其後の驅除をしませなんだ爲めか後に枯穗が澤山出來ました依て本年は苗代田改良を是非實行して萬一害蟲發生の塲合に驅除の便を今より考へ置くを必要と認めますから諸君へ御參考までに一言申述ました次第であります

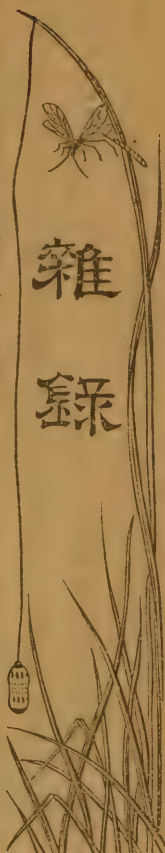
終に臨んで今後害蟲驅除勵行に際して御參考までに申ます昨年我郡に於て某人螟蟲の蝕害したる苗のみ拔取り之を本田に於ても無害の苗と比較し結果を試みたるものがあります其結果に置きまして別段差異ありませんでしたから害蟲驅除は無益である餘計な仕事である農事繁忙の時季に斯かる手

數は省くがよいなど〻唱へしものがあります結局是等は害蟲の性質經過の理を究めずして已に螟蟲は他の株に移轉したるも知らず識らず移植したるから新芽を發して成育し之れが良効を奏したるものと私は考へます如斯試驗は將來万一害蟲發生の場合に驅除豫防奬勵上に於て大なる響影を及ぼし延て一般農民に迷心を惹き起さしむる一大原因となる事を心配致す次第で御座います頃日先生より昆蟲學大意の御講話中にも兎角世の中の迷信を晴すは何の事業をなすにも必要であると云ふ事を承りまして大に是等の事も感じましたから是又後日害蟲驅除豫防奬勵上御參考迄に一寸

益田郡　熊崎兵七

（五）　蟷螂の益蟲なる事に就て

私は蟷螂に就いて一寸御話致さうと思ひます蟷螂は直翅類に屬し而して前脚には鋭き鎌を以て居つて其れで以て他の蟲類を捕り食ふ所謂肉食性であります私の地方では只益蟲と云へば此蟷螂計りの樣に思つて此卵を非常に大切にする是れは何故かと云ふと我々地方にはイモムシと云ふ蟲が多く居るので胡麻又茄子等の葉を朝夕の別なく始終食つて居る殊に一昨年の如きは殆んど青き葉を見ざる位であつたが夫れを漸く手にて殺す位で驅除の方は格別知らなんだ然るに誰れ云ふとなく蟷螂をイモムシの居る畑へ入るれば蟲を悉く捕つてしまうと云ふ話がありました故皆々蟷螂を見れば直ちに捕へ來て蟲の居る畑へ放ちてやる暫くして見ると前に入れた蟷螂は鋭き鎌を以て自分の躰よりもなんだ大なるイモムシを捕へて食つて居るそう云ふ風で度々捕へ居る所を女子供まで折々見る故に至る所蟷螂さへ居れば皆捕へ來て前の通りにすると暫くにして捕へ食ふ昨年の如きは胡麻畑を見るに殆んど一疋も居らぬ位であつた然るにイモムシを驅除するには蟷螂さへ入るれば驅除が出來るけれども殘念なるかな第一主食物たる稻の螟蟲又浮塵子の如き大害蟲の驅除をなすものを未だ知らない

のである此れを知らせて驅除するは我講習員の職務である故に此間先生より承りたる所の螟蟲に寄生する寄生蜂あり又寄生蠅等の樣なもの我々に取つて甚だ益蟲なると云ふ事を歸宅の後彼等に充分語ろうと今から期して居ります聊か蕪言を述べ諸君の參考に供す

◎昆蟲歌集（其一）

千葉縣長生郡鶴枝村　林　壽祐

自然發生
草むらに住む夏蟲はこぞの冬、朽ちし草葉の成にやあるらん　源　彙昌

昆蟲の題にて
宵霜の比過ぬればさま〲よ、出でぬる蟲の數も知られず　敦秀

爾蟲（カフコ或はクハコ）
知られじなおやのかふこのひき繭の、心にこむる思ひありとは

蟻
水無月やてる日の土のわれのみと、蟻の通ひ路行きちがふなり　信實

玉蟲
はかなさは露よりけなる玉蟲の、からを止めてかたみとやみん　知家

蟬の鳴聲

山川の岩もとどよむ蟬の聲、梢もやがてひゞきあひけん　師光
くれかゝる空どよむまで夏山の、木立をしげみ蟬さはぐなり　顯朝
せきとむる山下水は末絶へて、風に流るゝ蟬の村聲　寂蓮
夏山の椎の葉毎にとりつきて、耳のまりなくゆする蟬かな　仲正
宿に鳴く梢の蟬のむら聲は、夕日の影も所せきまで　爲實

鳴きつゞく蟬のもろ聲ひまもなし、雙岡の夏のひぐらし　爲家

山里の外面の岡の高き木に、すゞろがましき秋蟬の聲　西行

秋の景狀

人とはぬ淺茅か原の秋風に、心ながくも松蟲の鳴く

山里は蟬のもろ聲秋かけて、外面の桐の下葉落つなり　定家

わび人のとしふる里は秋の野の、蟲のやどりとなるぞわびしき　元方

蟲の音のよはるもしるし淺ぢふに、今朝は寒けくはたに霜ふる　有家

秋ふかき夜さむの霜もふりはてゝ、鳴よはりたる鈴蟲の聲

蓑蟲のすかる木葉も落はてゝ、つくかたもなき秋のくれ哉　仲正

菊かれて飛かふ蝶のみへぬかな、咲きちる花や命なりけん　定家

駒とめて麓の野邊を尋ぬれば、をくらゝすだく鈴蟲の聲　匡房

庭草に村雨ふりて蛬、鳴く聲聞けば秋つきにけり

淺茅原今はた霜の寒けきに、枯れぬもましる松蟲の聲　爲相

里遠き野中の森の下草ゝ、くるゝもまたぬ松蟲の聲　衣笠

はか無くも招く尾花に戯れて、くれゆく秋を知らぬ蝶かな　仲正

契りけん荻の心も知らずして、秋風たのむ蓑蟲の聲

戀

思ひわびせめてと蝶の夢もかな、心の花の樂みゝせん

わびぬれば猶や賴まぬ蜻蛉の、あるかなきかの人の契りを

人知れずもゆる思ひはそれとみよ、袖に包まぬ螢なりとも

はかなくも我から人を戀そめて、藻に住む蟲をあはれとぞ思ふ

あはれ又人のふるさぬ鈴蟲も、秋しうければねにぞ鳴ぬる
我ならぬ人や松蟲聲とめて、とへは鳴さす草の茂げみに

香川景樹のよみたる歌

大空にたはるゝ蝶の一つがひ、めにも止まらずなりにける哉
更ぬればかたぶく月とわれならで、聞く人もなき蟲の聲かな
鳴く蟲の聲ふりたつる秋の野を、淋しかるべく思ひけるかな
よるなれば花の千種はみえねども、色々に鳴く蟲の聲かな
蟲の音の近き夜半かな枕とて、草はむすばぬ旅ねなれども
月てれる淺ぢが上に影みたで、羽きる蟲の聲さやかなり
いは浪の音せぬ方に散る玉は、風よくだくる螢なりけり
こもり江のみづからうつる影をみて、螢も浪のよるやしるらん
ふるあめにともしは消えて箱根山、もゆるは谷の螢なりけり
柴人の踏み荒らしたる山川の、朽木のはしに螢とふなり
芦間とふ螢の影のなかりせば、よる滿つ汐を如何で知らまし
居ては立ちたちてはゐてふ草の上に、羽もやすめぬ秋の蜻蛉
波越てたか秋風を恨むらん、尾花か末の松蟲の聲

◎昆蟲見聞記（二）

長野縣第二回全國害蟲驅除修業生　清水　藏

其五　昆蟲の肥料的効用

全國害蟲驅除講習中名和先生は其驅除捕收したる害蟲は河流等に放棄することなく必ず肥料に供す

べしと敎述せられたり然るに肥料成分含有量に至りては知ることを得ざりき頃日日本肥料全書を閲し金龜子の分拆表を得たれば左に掲げん

金龜子分拆表百分中

窒素　三、五〇　燐酸　〇、六〇　ホタシ　〇、五〇

右の分拆表に依れば雞糞、蠶糞等に二倍余人糞尿、馬糞、菜種油粕、大豆粕等に比し數倍の肥効力あるものと云ふべし

第六　十一星テントウムシ

昨夏其背面に十一個の黒點ある瓢蟲二頭を捕ひしが其黒點の少き(廿八星テントウムシに比し)故或は有益なるものならんかと思ひしが又其形狀色澤の廿八星瓢蟲に酷似せるより或は害蟲ならんかと判知することを得ざりき其后本誌第廿四號を閲するに當て其害蟲なることを知るを得たり然れども被害植物に至りては判然せずと記載せられたり然るに予は二頭共南瓜の葉上にて捕ひたれば或は胡蘆科植物の害蟲ならん乎

其七　古今所志を普及せしむる方針に就て其方法の一途に出しものあり

古來より佛敎徒が其祖師開祖等の高德博識なる人の像の如きは崇尊して其像に手を觸るだに畏れ多しとせり然るに高德博識なる達摩大師に至りては其身像を小供の玩弄具に供せられつゝあり予不審に思ひ某僧に就て其故を問ひしに達摩大師が兒童の玩具に供せらるゝは大師の深慮にして小供等の玩具となり不知不識の間に兒童の心裡に佛敎を注入普及するの法便なりと答られき又予が小學校にありて讀みたりし高等讀本の内に伴蒿蹊が蓮を裁る說の内に左の一節あり

上略「凡物につきて自らを戒め之を敎ふるは賢き人の常にして器ものに銘ぜるはさらなり」下畧と記せり古來聖賢の人を敎ふるにも其道を器物ょ銘して暗々裡に導かれたるものと思ひたり然して名和先生も又織物陶器漆器其他日用の器具裝飾品に於ける美術摸樣を改良して昆蟲の眞圖を印し以て世人をして暗々裡ょ昆蟲思想を普及せんと計らる其方法の古今一途に出てしものと云ふべく又其効の顯はるゝ期して待つべきものあるを信ず

其八　大藏常永著除蝗錄を讀みて感あり

予が家に大藏常永著除蝗錄なる書あり數年前迄は其何の書なるやを知らざりしが近頃害蟲の事に志を寄てより之を閲せしに現時の學理に多少反戾せる所なきにしもあらさるも既に文政の昔ょ在て害蟲驅除の忽にすべからざるを説き勸誘奬導せられたるが如き實ょ感嘆に堪へざるなり今書中の一二節を抄記せんょ

上畧「今世に流行する復讐奇談の雜書にかわりて農書は廣益肝要の書なれども其業ょあたる人だに求めて見る人少なし故に其題號さへ知るもの稀なり農業は國家固本の業ょして就中蝗を去る事農家第一の要方なり」下畧

上畧「夫れ人の愁は親にをくれ妻子兄弟ょ死に別かるゝ程かなしきはあらじ併し是は私事也世間第一とする愁は蝗の生するなるべし然らば農家にては晝夜精力を尽し身命に替へ蝗を去るべきなり是を見過しにするは譬へば疾める子に良藥を與へずして死に至らしむるに似たり只はやく驚て蝗の成長せざる先きに除き玉へかし」

其害蟲驅除の忽諸に附すべからざるを説きたる其驅除法の詳記せられたる其他共同驅除の必要に說

き及ぼされたるは實に感嘆の外なし若し該書の方により古來より世人が害蟲の忽にすべかざらることを心得常に注意して驅除したらんには去る三十年度の如き浮塵子の慘害はなかりしならんに現時文明の世なりとて誇稱するとも昆蟲思想の如き敢て發達することなきは古人に對して慚愧すべく國家の爲めに嘆ずべきなり

其九　神苑會農業館の昆蟲標本

全國害蟲驅除講習會の歸路伊勢大廟に參拜し途次神苑會農業館を縱覽す館內には農具種苗農產製造品より種藝栽培飼畜の方法肥料及び海陸產動植物の標本ょ至る迄で洽ねく蒐集せられたるも昆蟲の標本に至ては僅に名和先生の寄送せられし害蟲標本數種と二三頭の蟬の標本ありしのみ而して名和先生の寄送せられし標本は永年月を經たるものと見ゑ或は毀損し或は黴を生じたるもの多かりき此等の場所ょは完全なる多數の昆蟲標本の陳列しありたらんには昆蟲志想を普及するに大なる効あるべきを信ず

其十　昆蟲の經過表に就て

一日本縣農事試驗場陳列室を參觀せしに明治三十一年度のツマグロヨコバイの經過表あり就て熟視するに每月上中下旬の經過を卵、幼蟲、成蟲と浮塵子の眞圖にて表示しありたり是を從來の昆蟲經過表に於ける卵、幼蟲、蛹、成蟲等を色別け若くは符號等にて記載したるものに比すれば一見素人目にも判り易く且つ感情を引くこと多かるべしと信ず

◎巖手縣產の蝶類　（第一）

巖手縣氣仙郡小友村　特別通信委員　鳥羽源藏

巖手縣產の蝶類は未だ廣く採集を企てざるを以て今其分布の如何を知悉するを得ざれども氣仙郡に於て是まで余の獲たるは左記の如くなるが中には暖地產と異なれる變形のものなきにあらず是等は追て書報すべく尚巖手縣各地に漸次採集區域を擴張し更ゝ報告する所あらん

△鳳蝶科　キアゲハ、アゲハ、ヲナガアゲハ、ヤマジヨラフ、カラスアゲハ、ウスバシロテフ、クロアゲハ

△粉蝶科　ヒメシロテフ、モンキテフ、モンシロテフ、スヂグロテフ、キテフ

△蛺蝶科　シーモンタテハ、キタテハ、ルリタテハ、アカタテハ、ヒオドシテフ、クジヤクテフ、ヒメアカタテハ、ウラギンヘウモン、クモガタヘウモシ、メスグロヘウモン、オホウラギンヘウモン、ウラギンスヂヘウモン、イチモンジ、コミスヂテフ、ミスヂテフ、

△蛇目蝶科　ヒメウラナミジヤノメテフ、コジヤノメテフ、ヒカゲテフ、キマダラテフ、ジヤノメテフ、

△小灰蝶科　ルリシヾミ、ベニシヾミ、シモフリシヾミ、コツバメ、

△挵蝶科　イチモジセヽリ、ハナセヽリ、ダイメウセヽリ、キンモンセヽリ、チヤマダラセヽリ

◎農作物蟲害警報

鹿兒島縣農學校農學士　江間定次郎

鹿兒島縣始良郡栗野村稻葉崎に於ては弘農園なるもの、を組織し左記の方法に依り農作物蟲害の警報

信號を掲ぐる事を規定し昨年より實施しつゝあるが一般農家の參考ともならんかと信ずるを以て今之れを貴紙に寄す幸に餘白に掲載あらん事を請ふ

農作物蟲害警報臺取締規定

一 農作物へ害蟲發生し又は將に發生せんとする恐ある時は直に警報球を懸け會員其他一般の人民へ警報する事

將に發生せんとする時は　半赤球
既に發生したる時は　赤　球

二 會員たるものは害蟲の發生し若しくば將に發生せんとする摸様を見出す時は直ちに會長又は幹事に其由を報告するものとす

三 會長幹事に於て會員又は會員外のものより害蟲發生の報告を受けたる時は直に警報球を掲ぐるものとす

四 會長又は幹事にして害蟲發生し若しくば發生の摸様の通知を等閑に付し其任務を盡さゞる時は會員の議決に依り處罰する事あるべし

五 害蟲撲滅したる時は警報球を降すべし

附たり此規定は明治三十二年八月より實施す

（白/赤）將に發生せんとする時　（赤）既に發生したる時

◎害蟲驅除講習會景況

愛知縣第一回全國害蟲驅除修業生　富川仙之助

我が一ツ木村農會は短期講習會の必要を認め本年四月二日講習規定を議決し村會の賛成を得て農會事業として四月十一日より七日間午后八時より毎夜二時間宛害蟲驅除講習會を開設せり最も農家繁忙の時期なれば便宜夜間開設し講習定員二十名（内四名欠席）よりして講習員には本村害蟲驅除委員、

村農會役員、小學校敎員、其他靑年農家にして開會中は講習員欠席なく皆熱心に講習せられ非常の好結果を得たり尙講習中は參考書として薔薇の一株昆蟲世界一册宛を村農會より各講習員に貸與せり右講習には不肖仙之助不充分ながら七日間講話せり

講習會規定左の如し

第一條　本會は平易なる方法に據り害蟲驅除豫防の大意を講習するものとす
第二條　本會は四月十一日より開設し同十七日迄七日間每夜二時間宛講習するものとす但都合により時間は伸縮することあるべし
第三條　本會に於て講習する科目左の如し
一昆蟲學初步　一害蟲驅除豫防法　一益蟲保護法
第四條　講習員は村農會長より推薦せられたる者を以てす
第五條　講習員は病氣其他止を得ざる事故の外猥りに欠席を許さず但し事故生じたる時は始業時間前に屆け出ずべし
第六條　本會に要する費用は一切村農會の負擔とす

◎工藝美術に應用する昆蟲雛形

在岐阜　若原眞吉

編者曰く左の一編は若原眞吉氏が嘗て當所を縱覽せられ當時見聞して感せられし一二を書して編者に寄せられしものなるが本所の眞相を穿ち得たる點不尠と信ずるを以て特に爰に揭載する事となしぬ

余一月廿一日岐阜市京町なる名和昆蟲研究所に到り各陳列室の縱覽を請ふ快く承諾を得、研究室、養蟲室、藥品室、標本陳列室、圖書室、標本製作室等一々案內して各懇ろなる說明を與へられたり其整頓せること感嘆の外なし殊に昆蟲標本陳列室には害蟲、益蟲の標本、學術用標本、敎育用標本

装飾用標本等内外各國の種類を集め其數の多きこと實に夥しく一として參考品ならざるはなし余は適がは有名なる同所の事と今更の如くに驚けり世の教育家、農業家、或は斯學に志す者往ひて一覽せば其益するところ蓋し尠少ならざるを信ず

茲に余が最初奇異なる念を起せしは圖書室の一方に意外の陳列品あり先づ陶器の類あり、櫛かんざしあり、煙管並に煙管筒あり緒〆金具の類あり、提燈、扇子等あり半手巾あり手拭あり又は縮緬其他の彩色したる友僊染あり或は室内裝飾品等其美麗なること恰も一見勸工場の如し余其の何の故なるを知らず併しながら仔細に是を視來れば其形、其摸樣の一部分必らず昆蟲の附着せざるはなし能くも斯く蒐集したるもの乎

先きに懇篤なる說明の勞を執りし同所の職員某の語る所を聞くに、是は當正月の休日を幸ひ先生一同を集めて曰はく凡そ物品の何たるを問はず其一部分たりとも昆蟲の附着したる物を購入し來れ審査の上賞を與へんと茲に面白き懸賞問題は起れり一同は喜び勇み我れ一等賞を得んものと市內を八方に馳せ廻り鵜の目鷹の目各自持ち歸りしは即ち前記の品々にして先生は審査の上應分の賞を與へ前後取捨して陳列せられし者なりと、而して先生の斯く蒐集せられし目的たるや世の工藝美術として應用せられつゝある凡ての昆蟲雛形は甚だ粗雜にして實際を描きしもの殆んど稀れなり中には實に有り得べからざるが如きものを附着して毫も顧ざるものあり殊に各種の登錄商標又は年々海外輸出の一部を占むる岐阜提燈或は陶磁器類にして往々此の誤りあるものあり如何にも我國民の昆蟲思想に乏しきを自から表白するものにして實に慨はしき次第と云ふべし

世の當業者たるもの少しく此邊に意を注ぎ着々改良する所あらんか一つは美術の本心を失はざるの

み乎將來兒童の一見するも彼れは何種に屬する蟲にして何々の益蟲なり又は害蟲なることを偶然に思ひ浮べ識らず知らずの間或は昆蟲思想普及の一助となり將來に及ぼす社會の利益は實に大なりと云ふも敢て誣言に非ざるべし故に今回蒐集せられたる總ての物品に對しては日々出入多き研究所の事故其當路者ゟ接する每に一々實物と比較して其說明を與へ以て現今の弊習を矯正し大ひに改良の實を擧げさしめんが爲めなりと云云

余は今茲に職員某の談話を聞き如何に先生が斯學の爲め苦心せらるゝか其熱情實ゟ想像の及ぶ所にあらざるなり未だ同所を一覽せざる人の爲め不文を顧りみず斯く投書することゝはなしぬ編輯員閣下餘白あれば乞ふ掲載の榮を賜へ

◎昆蟲に關する葉書通信 (二)

(四)昆蟲標本交換、山形縣堀七藏、各自研究の昆蟲標本交換なし得る事を得ば(昆蟲研究所の媒介まより)至便の事なるべしと信ず例へば九州の三化生螟蟲と東北の蟷螂と交換するの類なり

(五)昆蟲方言、島根縣六脚堂主人、我島根縣大原郡日登村地方にては椿象をハットジ又はジョウノムシ、夜盜蟲をガアデ、浮塵子をアブラムシ(油にて驅除するならん)、イラムシの幼蟲をオコジ又はオコゼ、同繭を雀のハンド、熊蜂をダンゴバチ、沙挼子をテヽッポムシ、ミヅシマシをチャワンコムシ、ヘヒリムシをヘコキムシ、蛄螻をハゲムシ、イナゴをチナンゴ、カゲロウをケイケンジョ、カマキリをカマカケ、同卵をカラスノキンタと云ふ

(六)螟蟲の進化、岡山縣故引夏次、二化生螟蟲の卵塊は稻葉表面ゟ產附せるを以て驅除するには誘蛾燈よりも採卵法を以て簡便にして有効なり余は昨年採卵中稻葉二葉を綴り產卵せる卵塊を數多採

取せり（一見蜘蛛のなせるが如く誤認し易し）即自然界に於ける淘汰の結果として螟蟲の進化せるなり驅除の進歩は害蟲の進化となる採卵者宜しく注意せらるべし

（七）迷信も効あり、長野縣清水藏、當地方にて燕鶺鴒等を捕ふれば火災に罹り鳩鷄を捕ふれば水災に罹ると稱し小兒は勿論大人も之を捕ふことを禁厭せり斯る俗言に依りて有益鳥の保護せらるゝは誠に喜ばしきことなるが是等は古昔の智者等が其有益なることを認め無智蒙昧なる人民に前述の如き方法にて暗に保護法を講せしものならん然るに近年狩獵の盛なるに從ひ教育あり狩獵規則を心得居る者にても獲物なきときは捕獲禁止鳥を銃殺し得々として持ち歸るに世人も咎めず警官も見て罰せず如斯まして有益鳥の減却し其極天然驅除の權衡を失したらんには害蟲の大發生を來し由々敷大事を惹き出さんかと杞憂に堪へず

（八）蟲送り、島根縣六脚堂主人、島根縣大原郡日登村地方にても毎度本誌上にある如く土用中に一大字一所に集り各自松明を持ち送るわ〳〵稻の蟲送るはと大聲を發し大字内をかけ廻り最後にて其大字内の最も下なる川中に至り藁人形を立つるなり其行列には神官先導をなし笛太鼓を打ちならし各所に大札とて少し念入の御札を立て各自の田には皆小札を立つるを以て例とす余等嘗て我地の農會に於て今後之れを癈するの議を提出せしが他會員の攻撃を受け大に閉却せし事あり

（九）秋山華子、岡山縣蜻蛉生、本年二月本縣邑久郡にて昆蟲講習會を開設せらるゝや邑久村秋山祐信氏の宅を以て名和先生の宿所に充てらる遇講習結了の翌曉祐信氏の婦安產あり孫女出生せられ一家の歡喜喩ふるに物なし即ち先生に命名を懇請す先生歡諾直に華子と命名せらる而して此名は其意を益蟲より執られしものなりと云ふ諸君其意を推知し給ふや否や

(十)邑久郡昆蟲研究會、岡山縣蜻蛉生、四月廿二日正午より邑久郡昆蟲研究會を邑久村黒住教會所に開く此日早朝より降雨あり且同郡教育會常集會日なりしにも係らず出席者廿余名にして昆蟲展覽會に付協議し其規則を決定し又昆蟲に付談話研究し午後五時散會せり

(十一)ギフテフ捕獲、京都府渡邊義武、五月三日春蠶一眠にて小閑を得たれば捕蟲器を荷ふて郷社(何鹿郡綾部町)の森に至りしに忽ち中形の蝶一つ生の目前を掠めて過ぐ其瞬間に右手の捕蟲器を一揮すれば蝶は網底にあり採て之を熟視すればギフテフなり玆に於て生の標本箱に一珍種を加へたると同時にギフテフの丹波地方に分布せらるゝことを確め得たり

(十二)害蟲驅除に用ゆる草木の葉、千葉縣林壽祐、榊に葉も樹も大さも能く似たる灌木あり山野の雜木中に生ず方言之をアセビと稱す葉及び皮は頗る苦味を含めり我地方にては苗代田を耕成して未だ種子を蒔かざる前に其葉をセンダンの實と混合し水を加へ釜にて煎んじ其液汁を苗代田に散布す斯くするときは稻苗を害する孑孑其他の害蟲を殺除するの功ありといふ、大根の幼莖に小蟲生ずる時其驅除最も困難なり然れども朝顏の葉若くはセンダンの實を煎んじ其液を畑上に飛散すれば蟲忽ち倒るゝといふ又胡瓜西瓜等の軟葉に蚜蟲夥しく發生する時煙草の葉を煎んじ其液を該蟲に觸れしむれば悉く之を殺し能く其害を除き得といひ我地方にては一般此法行はれり

◎アカコカモドキに付質問

宮城縣登米郡　農事講習所

別封の如き蟲苗代田に發生仕り候處之が種族名蟲名及經過習性等御敎示相成度果して害蟲に候はゞ其豫防驅除法御説明を乞ふ
發生地は宮城縣登米郡寶江村にして所謂通し苗代なり土質は粘土にして人糞、藁灰の多量を以て肥料となし頗る有機質に富む而して終年湛水するを例とす發生區域は三畝許にして一畝强を有する一枚は最も甚し五月一日苗代調整に際し發見せるものよして湛水する時は異狀を見ざるも排水する時は土壤を盛り出す

答　名和昆蟲研究所助手　名和梅吉

現蟲を見るに雙翅類中カモドキ科(Chironomidae)のカモドキ屬(Chironomus)に屬する一種の幼蟲なり俗にアカコと云ひ成蟲はアカコカモドキと稱す蚊に能く似て前脚は中、後脚よりも長きを常とす而して蚊の如く人畜の腐敗有機物質を食とし血液を吸收することなし元來此幼蟲は水底に棲息して生活せり故に生植物には害なきものなり然れども若し之を驅除せんとならば水を落して田面を乾燥せしむるを可とす

◎昆蟲の幼蟲及蛹の標本製作法に付質問

福井縣大飯郡內浦村第二回全國害蟲驅除修業生　松本伊久藏

昆蟲の幼蟲及蛹の標本製作法恐縮の至りに候得共昆蟲世界誌上にて御高示を煩し度此段奉願候也

答　寄蟲生

總て昆蟲の幼蟲及蛹の標本を製作するには酒精浸にすると乾腊法の二法あり其酒精浸に爲すには始め稀薄なるものより漸次濃厚なる酒精に浸すを最も良とす而して幼蟲の乾腊法に就ては本誌第二卷

第八號百五十頁に掲載あれば右にて御承知ありたし蛹は大形なるものは躰の一方を切開して內臓を取り出し綿を入れ置くべし又小形なるものは酒精浸或は青酸加里中に入れ然して其儘標本となすも可なり

◎諸氏の來所　四月七日沖繩縣技手大山勇吉氏、八日東京麴町農事會大澤準二氏、岡山縣農事巡回教師岸歌治氏、九日宮崎縣石卷町島田政齋氏、岐阜中學校長淺井郁太郎氏案內にて富山縣第二中學校教諭岡眞三氏、十一日大坂府泉北郡書記前田哲治氏、高等師範學校生林兼助氏、十三日三重縣一志郡高岡村小橋友吉氏、岐阜縣莊川小林區署荒木信次郎氏、山口縣大津郡黃海村高橋茂一氏、石川縣羽咋郡下甘田村三原德次郎氏、兵庫縣有馬郡大澤村山本一馬氏、十四日愛知縣小折稅務署屬丹羽道郎氏、十五日縣下揖斐郡北方村農事講習生林忠平氏外七名、東京農科大學教授田中節三郎氏並に實科生甲斐武彥氏外九名、縣下加茂郡書記大野壽市氏、同辻齊一氏、十六日岐阜中學校教諭岡野義三郎氏及び大垣中學校教諭北畠貞顯氏、本縣師範學校長大久保介壽氏の案內にて文部省書記官寺田勇吉氏、同省屬佐原茂一氏、十七日京都府與謝郡日置村小西才藏氏、十八日岐阜縣代議士前島丈之助、同縣會議長野呂駿三兩氏の案內にて憲政黨總務委員江原素六代議士栗原亮一同浦野鐘平三重縣津市民聲社長長尾景弼四氏其他同行者拾數名十九日三重縣安濃郡教育會派遣員別所清三郎氏、同山本巖氏、二十日愛知縣海西郡八輪村水谷琴策氏、福井縣今立郡鯖江町鈴木利器氏外一名、廿二日宮崎縣宮崎郡廣瀨村杉尾金次郎氏、廿三日德嶋縣農事試驗場浪平一太氏、本縣視學村岡素一郎氏案內にて富山縣視學根岸貫氏、廿四日愛知縣渥美郡神戶村福井政平富田寅一富田治作の三氏、同郡原田町岡田虎二郎氏、岐阜中學校教諭長野菊次郎氏、東濃中學校長松井敬勝氏、廿七日岐阜中學校教諭岡野義三郎、同野

崎又太郎兩氏の案内よて陸軍中央幼年學校教授昆田信忠氏、廿八日岐阜縣會議員加藤榮三、同縣第二課長田澤實入、同縣土木技手西田鐵司三氏の案内にて内務省土木局長田邊輝實氏、第四區土木監督署技師大窪正氏、內務屬喜多村吉雄氏、廿九日海軍大軍醫正七位勳六等梶原景清氏海軍大尉福地嘉太郎氏及早川筆記吉田酒井の兩看護村上一等水兵の諸氏、卅日島根縣參事官岡田宇之助氏、五月四日岐阜測候所長岡崎錫次郎氏案內にて大坂測候所長下野信之氏、三重縣度會郡宇治山田町西川康丸氏、五日東京芝區芸手町小林仲彌氏、七日岡山縣岡山市上石井長濱考吉氏其他縣下の有志者百餘拾名は何れも來所の上昆蟲標本を縱覽し或は種々の取調べをせられたり

◎學校生徒の來所　四月二十七日縣下稻葉郡芥見尋常高等小學校長清水房吉氏始め職員生徒七拾余名並に同郡日野小學校長小澤竹三郎氏生徒五拾名、廿八日縣下本巢郡船木尋常高等小學校長土屋龜次郎氏外訓導一名生徒九十二名、廿九日岐阜縣師範學校生徒大坪秀三氏外廿六名、卅日本巢郡一色尋常高等小學校職員七名生徒二百拾九名、五月一日縣下揖斐郡川合高等小學校職員生徒六拾七名、五月五日岐阜師範學校生徒神野正二氏始め外八名、六日三重縣四日市商業學校教諭千野郁二氏始め職員四名生徒八拾貳名、七日縣下武儀郡上有知尋常高等小學校訓導山田伊藏氏始め生徒八拾貳名は何れも來所の上昆蟲標本を縱覽せり

◎第十七回岐阜昆蟲學會　同會第十七回月次會は去る五日(第一土曜日)午后一時例に依り當市京町縣農會樓上に於て開會せり第一席名和昆蟲研究所助手名和梅吉氏は開會の挨拶を爲し、第二席第三回縣下害蟲驅除講習修業生後藤宇三郎氏は害蟲驅除として[illegible]尺形苗代に就て、第三席縣下本巢郡小學校教員昆蟲講習修業生土屋龜次郎氏は楓樹の天牛に就て、第四席名和昆蟲研究所助手福井克雄氏は螟蟲驅除に就て、第五席縣下本巢郡小學校教員昆蟲講習修業生林卜三郎氏は昆蟲學と小學兒童に就て(一先休憩)第六席本縣技手林茂氏は改良苗代と害蟲驅除に就て、第七席名和梅吉氏は改良苗代と昆蟲學普及の關係に就て各何れも有益なる演説あり閉會せしは同四時半なりき當日出席會員は卅余名にして盛會なりしと云ふ

◎神村氏新案の幻燈映畫

第三回全國害蟲驅除講習會開設中講習生四拾九名が手づから製造せるところの幻燈種板を以て四月二日夜該教場に於て幻燈會を催し各得意の辯を振ふて説明を試み非常の盛會なりしが今上圖に示すものは同會講習生靜岡縣神村直三郎氏が意匠を凝し製造せられしものにて其着想頗る面白く滿場の喝采を博したるものなり外部にある三環を第一回より數へて第三回となし大日本は全國にして害蟲九除は害蟲驅除なり山梨縣は甲州又は甲斐なれば講習會ヌ通ず鶴は千年なるによりこれを十倍せば万歳なり依て第三回全國害蟲驅除講習會万歳なる事を意味せり實に面白しと云ふべし

◎第壹、貳、參回全國害蟲驅除修業生府縣別

昨三十二年九月始めて第一回全國害蟲驅除講習會を開設し本年四月に至り都合三回開設したるに修業生は一百廿九名二府三十縣に及びたるを以て今左に表示す

府縣別
東京府
京都府
大阪府
神奈川縣
兵庫縣
長崎縣
新潟縣
埼玉縣
群馬縣
千葉縣
茨城縣
栃木縣
奈良縣
三重縣
愛知縣
靜岡縣
山梨縣
滋賀縣
岐阜縣
長野縣
宮城縣
福島縣
岩手縣
青森縣
山形縣
秋田縣
福井縣
石川縣
富山縣
鳥取縣
島根縣
岡山縣
廣島縣
山口縣
和歌山縣
香川縣
愛媛縣
高知縣
福岡縣
大分縣
佐賀縣
熊本縣
宮崎縣
鹿兒島縣

壹	〃八〃〃二〃〃〃〃〃〃〃〃三八二二〃五二〃〃一〃〃〃一〃〃〃一〃〃一一〃一一〃〃〃〃一〃〃
貳	〃八〃〃二〃〃〃一〃〃〃一七三三〃〃二三〃一〃〃〃〃五〃〃〃一〃一〃一〃〃〃〃〃一〃〃〃〃
參	〃〃一一三〃〃〃二二〃〃〃〃八〃三五二七〃二〃〃一六一〃〃一一〃一〃〃〃二〃二二〃〃〃〃〃〃〃
計	〃四一一七〃〃〃三〃〃〃一一六二八七二一四五二一一一一六一六〃一一一二一一一一二二二一三〃〃一〃一〃〃

第壹回全國害蟲驅除講習會修業生　自明治三十二年九月廿五日至同年十月八日　二週間　一府十六縣四十名
第貳回全國害蟲驅除講習會修業生　自明治三十二年十一月廿五日至同年十二月八日　二週間　一府十四縣四十名
第參回全國害蟲驅除講習會修業生　自明治三十三年三月廿一日至同年四月三日　二週間　一府十七縣四十九名

◎第三回全國害蟲驅除講習生の決議　去る三月廿一日より四月三日に至る二週間講習を受けたる同會講習生は講習中協議會を開き滿場一致を以て全國害蟲驅除修業生同窓會へ加盟すると同時に當所發行の昆蟲世界の義務講讀を爲すべき件を決議し全國第一、二回の修業生に向けて左の如き通知書を發送したりと云ふ

拜啓陳ば愈御清祥の段奉賀候陳者小生等今般第三回害蟲驅除講習生として當所に入會仕候處先に貴下等の御設立相成候同窓會に加盟の上各位の驥尾に附し聊か斯學の餘沢を分配することを議決致すと同時にまた其機關として雜誌「昆蟲世界」を義務講讀の件をも滿堂一致を以て協定致し會員相互間の通報より斯學研究の用に供するは勿論絶大なる名和先生の高説をも拜見致度考に有之就ては今日該雜誌は貴下に於ても是非御講讀相成候樣致度尤も我國に未だ其類なき昆蟲學專攻の好雜誌に候へは貴下は斯學御研鑽上の利益より將又た曾て講習會員たりし情誼より夙く旣に御愛讀相成居候ものとは拜察候得共小生等の希望を陳述旁右決議事項御報道致す次第に付此段御含置被下度候甚た略式の至には御座候得共右得御意候早々敬具

岐阜縣岐阜市京町名和昆蟲研究所内
第三回全國害蟲驅除講習生一同

明治三十三年四月二日

◎第三回岐阜縣害蟲驅除講習會　同會は四月十日より開會し第一、二回の如く一般昆蟲

學害蟲驅除法益蟲保護法より修學旅行其他總ての科目を滯りなく修了せしを以て同月二十九日當市京町縣農會樓上に於て証書授與式を擧行せり今其詳細を記さんに田中岐阜縣知事には河村書記官重松農學校長柿本第四課長林技手以下四課員數名を隨へ臨席せられ來賓には野呂縣會議長堀口岐阜市長縣下の拾八郡長及縣農會理事、評議員、第一、二回の縣下害蟲驅除修業生等四拾余名にして午前十時開會名和講師は無事講習終了せしを以て証書授與ありたき旨を知事に申請す茲に於て田中知事は三拾四名の修業生に一々証書を授與し終て知事の式辞名和講師の訓戒演說亞て野呂議長堀口市長大畑縣農會理事小竹第一回害蟲驅除修業生等の演說並に長沼第二回修業生の祝辞及第一第二回の修業生より贈られし祝辞祝電の代讀講習生惣代村井正元氏の答辞等あり式を畢りしは正午十二時よして夫より別項記載の同窓會へ臨み終つて一同德文樓に於て懇親會を催したり

◎岐阜縣害蟲驅除講習生同窓會　同會は去月二十九日午后一時より岐阜縣農會樓上に於て開會したり茲に其摸樣を記さんゝ生憎同日は名和會頭祖父江副會頭共ゝ差支ありて出席せざりしに依り小竹浩氏代つて會頭席に就き各地方の會員よりの祝辞祝電の報告を爲さしむる旨を告け杉江勝三郎氏は第一回修業生より長沼爲助氏は第二回修業生より贈り越せる祝文を代讀し猶を本日差支ありて出席せざる會員の氏名を報告せり夫より議事に移り長沼氏の發議に係る明三十四年四月を期し名和昆蟲研究所が主催となりて當市ゝ開設する昆蟲展覽會を一層盛大ならしめん爲め其費用の內へ應分の義捐金を爲す事を勸誘するの件、村井氏の提出に係る同窓會員は務めて昆蟲世界を購讀する樣勸誘するの件等を討議したる末滿場一致を以て可決確定し出席せざりし會員へ直に通報する事となし夫より評議員の任期滿ちたるに依り今回改撰するゝ當り其定員數に付き議論百出せしも

決極定員を五名となし會頭の指名を請ふ事となし終りに會務の報告等ありて四時三十分退散せしが本日の出席者は五拾余名にして本會組織以來甞而見ざるの盛況なりしと云ふ因に會頭が指名せし評議員は小竹浩、杉江勝三郎、土屋哲、高橋磐三郎、木方友九郎の五氏なり

◎岐阜縣害蟲驅除修業生同窓會の通知　別項掲載の岐阜縣害蟲驅除修業生同窓會の決議に基き開會當日出席せざりし會員へ送達したる通知書を得たれば左に掲ぐ

拜啓四月廿九日岐阜縣害蟲驅除修業生同窓會開會之節倍々本會の隆盛を圖らん爲左の事項滿塲一致を以て評決致候間貴兄に於ても宜敷御賛成相成度此段及通知候也

一來卅四年四月開會名和昆蟲研究所主催に係る第一回全國昆蟲展覽會開設費の內へ金員寄附の件右開設費は多額の費用を要するにも係はらず名和昆蟲研究所の悉皆負擔なるを以て我々大に感する所ありて茲に發起し本會員は應分の義捐をなし尚其他の有志者へも此際精々義捐相成樣御誘導有之度こと

一雜誌（昆蟲世界）購讀の件右は斯學普及の爲め同窓者は勿論各郡町村農會又は役塲學校等へは是非購讀相成候樣御勸誘被下度事

明治三十三年五月四日　岐阜縣害蟲驅除修業生同窓會評議員杉江勝三郎、小竹浩、土屋哲、高橋磐三郎、木方友九郎

追伸本文展覽會に係る出品方は一層御盡力多數出品相成候樣致度右申添候

◎第三回岐阜縣害蟲驅除講習生姓名　同會講習生の住所姓名及履歷等は左の如しと云ふ

組名	郡名	町村名	舍長又ハ組長	氏名	生年月	履歷
第壹組	稲葉郡	南長森村	組長	木方友九郎	明治七年八月	岐阜縣農會ニ於テ第一期講習ヲ受ク 苗養成田害蟲驅除委員
	稲葉郡	長良村		後藤宇三郎	明治八年四月	農事講習所第一、二期ノ學科修業
	羽島郡	上羽栗村		伊藤善三郎	明治三年正月	村會議員 農事講習所全科卒業
	羽島郡	小熊村		大橋陣一	元治二年四月	農事講習所卒業 收入役勤務

組	郡	村	役	氏名	生年	經歷
第貳組	海津郡	大江村	組長	安藤　登	明治七年五月	中學校奉職 農事講習會修業
	海津郡	今尾町		谷　保太郎	明治九年五月	尋常小學校雇教員
	養老郡			欠　員		
	養老郡	笠郷村		安田三郎右衛門	明治十年十月	高等小學校卒業 小學校雇教員
第參組	不破郡	靜里村		日比野金次	明治八年十二月	尋常小學校卒業其他歷史算術等修學
	不破郡	關原村		山本常三郎	明治六年二月	陸軍看護手拜命 現今役場書記
	安八郡	和合村		増田　敬司	明治十二年六月	高等小學校卒業 農事講習所修業
	安八郡	三城村	組長	加藤　彦郎	安政六年二月	郡書記
第四組	揖斐郡	小嶋村	副舍長	大岩　祐夫	明治三年十二月	害蟲豫防委員囑托 郡會議員
	揖斐郡	大和村		遠藤熊次郎	慶應二年八月	農事講習所卒業
	本巣郡	北方町		林　金吾	明治六年五月	高等小學校卒業
	本巣郡	文殊村	組長	高橋磐三郎	安政四年十二月	郡書記
第五組	山縣郡	櫻尾村		松久　秀敬	安政五年六月	醫學修業 村會議員勤務中
	山縣郡	保戸嶋村	組長	篠田房次郎	慶應元年正月	郡書記
	武儀郡	下有知村		天野　秋二	嘉永元年四月	小學師範學科卒業 農事講習所卒業
	武儀郡	下之保村		森　庄次郎	文久三年二月	農事講習所卒業
第六組	郡上郡	川合村		筒井九郎右衛門	明治十年三月	尋常小學校教員 農事講習所修業
	郡上郡	牛道村		正田太郎右衛門	文久元年三月	村會議員 蠶業組合議員
	加茂郡	蘇原村	組長	山口　三二	明治十一年四月	尋常小學補修科卒業 村役場書記
	加茂郡	太田町	舍長	村井　正元	元治元年十一月	郡書記

組	郡	村	役	氏名	生年月	履歴
第七組	可兒郡	伏見村	組長	吉田米次郎	明治九年十二月	尋常小學校卒業 農事講習所卒業
	可兒郡	廣見村		古田宮三郎	明治五年十一月	小學高等科卒業
	土岐郡	土岐村		鈴木昌治	明治十四年六月	高等小學校卒業
	土岐郡	鶴里村		可知井金盛	明治十六年五月	農事講習所卒業
第八組	惠那郡	遠山村	組長	安藤勝一	明治十年一月	高等小學校三年級半期修學
	惠那郡	遠山村		伊藤信行	明治二年八月	北海道農事視察トシテ出張 農事講習會ニ於テ農學卒業
	大野郡	上枝村		北村六三郎	明治十二年七月	農事講習所卒業 拔穗品評會審査員囑托
	大野郡			欠員		
第九組	益田郡	中原村	組長	細江元右衛門	明治七年五月	尋常小學全科卒業
	益田郡	中原村		熊崎兵七	明治十六年十一月	尋常小學校卒業 短期講習修業
	吉城郡	河合村		水口七郎	明治十三年二月	尋常小學校卒業 普通學研究
	吉城郡	坂下村		新谷金助	明治十六年二月	高等小學全科卒業

◎講習中諸氏の昆蟲講話　第三回岐阜縣害蟲驅除講習會開會中四月十五日農科大學助教授農學士田中節三郎氏は（實業教育の必要）に就て同十六日文部省書記官寺田勇吉氏は（講習生に望むと題し）同十八日江原素六氏は（農事改良の方針）に就て同日栗原亮一氏は（害蟲驅除と國家經濟に就て）同二十五日愛知縣渥美郡農事熱心家岡田虎二郎氏は（蠶蛆の共同驅除に就て）と題し各有益なる講話をせられたり

◎寺田勇吉氏の書狀　左に載する一編は四月十六日當所へ來られ普く所内を縱覽せし文部省書記官寺田勇吉氏が歸京の后ち當所長へ宛て送り越されし書翰なり

肅啓益々御淸勝奉賀候陳者過般貴所へ罷出で候節には普く所内の拜觀を遂げ大に感服致し候抑も

昆蟲の種類に依り農産物上巨多の慘害を與ふるは何人も知る所に有之候得共之れが驅除豫防は容易の事にあらず即ち蟲類其物の形狀性質を知悉し其經過變遷の實況を觀察し之れに應して相當の方法を講ずるにあらざれば其實効を擧げ難き義と存候而して本邦に於ては概して理科の思想未だ發達せず從而右昆蟲に對しても只其害あるを知るのみにして自から進て之れが研究に從事せんとするもの極めて罕なるの有樣に有之斯る狀態の內に在りて貴所は卒先此事業に從事せられ多年辛苦經營無數の標本材料を蒐集し或は徒弟を敎養し或は各地に出張して講話傳習をなす等一意專心之れが研究應用に盡瘁せらるゝは實に感賞に堪へざる次第に有之これが爲め我國農業敎育上至大の裨補を得又以て直接農業上に裨益を與ふる鮮少ならざる事と存候何卒此上共邦家の爲め一層御盡力有之年々我が農業産物上に受くる非常の損害を除却し得るの機運に達せん事を不堪切望の至りに候右は過日昇所の御禮旁聊か所感を述べ茲に得貴意を候敬具

○新刊雜誌の昆蟲記事　新刊雜誌中に揭載せられたる昆蟲に關する重なる記事は左の如し

（一）大日本農會報（第二百二十三號）　害蟲の驅除（續）佐々木忠次郎氏
（二）動物學雜誌（第百三十八號）　日本産介殼蟲（圖入）佐々木忠次郎氏
（三）愛媛縣農會報（第十二號）　螟蟲飼育試驗報告白石大藏氏
（四）何鹿實業月報（第十二號）　何鹿郡昆蟲研究會記事、吉美尋常小學校生徒害蟲捕獲に關する報告等あり

◎蠁蛆驅除法　今回農商務省にては蠁蛆驅除法を各府縣に達したるが其法は左の如し

一、蠶種製造者養蠶者生糸製造者蠶繭取扱者に左の方法により繭架の下に蠁蛆受器を設けしむること繭架の下層に布帛或は强靱なる紙等にて受幕を張り幕の中央に孔を穿ち漏斗を附し漏斗の一端を桶或は瓶の類に入れ蠁蛆の之に陷落する裝置となすべし
二、生繭を聚散或は保存する室內に間隙ある時は同張幕其他の方法を以て蠁蛆の散逸を妨ぐべき事
三、生繭を運搬する容器は緻密なる綿布麻布其他蠁蛆の逃竄せざる材料を用ふべき事
四、以上の諸方を以て捕集せる蠁蛆は悉く之を殺滅せしむべき事
五、當業者にして若し蠁蛆の散逸するものあるを認めば直に之れを殺滅せしむべき事

○害蟲圖解出版廣告

○第一桑樹害蟲エダシヤクトリ(枝尺蠖)(再版)
○第二桑樹害蟲トゲシヤクトリ(刺尺蠖)(品切)
○第三稻の害蟲イ子ノズイムシ(二化生螟蟲)
○第四煙草害蟲タバコノアヲムシ(煙草螟蛉)
○第五稻の害蟲イチモツセヽリ(苞蟲)
○第六桑樹害蟲ヒメゾウムシ(姫象鼻蟲)(新版)
○第七桑樹害蟲シンムシ(心蟲)(新版)
○第八稻の害蟲イ子ノアヲムシ(螟蛉)(新版)

以上既版

○茶の害蟲ミノムシ(避債蟲)
○豌豆害蟲エンドノキリムシ(夜盗蟲)
○稻の害蟲ツマグロヨコバイ(浮塵子)
○桑樹害蟲クワカミキリ(天牛)
○桑樹害蟲イトヒキハマキムシ
○茶の害蟲チヤケムシ(茶蛅蟖)
○桑樹害蟲キンケムシ(金蛅蟖)
○稻の害蟲イナゴ(螽蟲)
○稻の害蟲フタホシズイムシ(三化生螟蟲)
○桑樹害蟲アオハマキムシ(青葉巻蟲)
○桑樹害蟲クワハマキ(桑葉巻蟲)
○蔬菜害蟲モンシロテフ(菜の螟蛉)
○松樹害蟲マツケムシ(松蛅蟖)
○梅樹害蟲ウメケムシ(梅蛅蟖)
○梨の害蟲ナシゾウムシ(梨象鼻蟲)
○大豆害蟲ヒメコガ子(金龜子)

以上逐次出版の分

●圖解の紙幅　縦一尺三寸横九寸
●壹枚の代價　拾五錢郵稅貳錢
●百枚以上一纏代價　壹枚拾錢郵稅百枚に付き貳拾錢

●豫約代價

圖解代金　壹枚拾錢郵稅貳錢　但申込の際前金添附の事
凡て前金にあらざれば回送せず但郵券代用一割增の事

右害蟲圖解第一より第八迄は既に發行を成し江湖の高評を博したりと雖も未だ當業者全般に普及せざるの憾なしとせず抑本圖解は鮮明なる着色石版圖にして被害植物の實際より害蟲の性質經過等一目瞭然に描寫し加ふるに平易なる解説を附したるを以て普通農家に於ても尤も理解し易く尤も必需のものたり故を以て岐阜縣に於ては既に之れを採用し各村農會及小學校は勿論町村役場警察署等へも頒布せしに一般ヨ害蟲の經過習性等を解得し害蟲驅除上著大の効を奏したりと云ふ依而當所は此際憤勵一番更に重要作物の重なる害蟲を撰擇し逐次出版せんとす而して該出版物に對しては特ヨ豫約と爲し前掲の如く價を低減し大に當業者に及普し實用に適應せしめんとす豫約希望者は速に御申込みあれ又既に出版濟みの分は各町村役場又は町村農會小學校其他の團体に於て御取纏め一手購求せらるゝ時は大に便利なり乞ふ幸に愛顧を垂れ陸續御注文あらん事を

發行所　岐阜縣岐阜市京町　**名和昆蟲研究所**

○昆蟲學用器具廣告

●米國新形撿蟲鏡　定價郵税共金壹圓貳拾八錢

●ピンセット　定價郵送料共金貳拾貳錢

●圓形捕蟲器　定價金參拾四錢荷造五錢送費百里迄八錢外拾六錢

●咽喉付圓形捕蟲器　定價金參拾九錢荷造送費前同樣

●咽喉付半圓形捕蟲器　定價金四拾五錢荷造送費前同樣

●咽喉付方形捕蟲器　定價金五拾五錢荷造送費前同樣

●苗代用不正三角形捕蟲器　定價金四拾六錢荷造送料前同樣

●殺蟲注射器　定價金貳拾貳錢荷造八錢送費百里迄八錢外拾六錢

●採　集　箱　定價金七拾五錢送費百里迄拾貳錢外貳拾四錢

●益蟲保護器　定價金八拾錢荷造費拾九錢送費百里迄貳拾錢外四拾錢

簡單器械の圖解（一）不正三角形捕蟲器（二）咽喉付圓形捕蟲器（三）咽喉付方形捕蟲器（四）咽喉付半圓形捕蟲器（五）殺蟲注射器（六）船形殺蟲器（七）誘蛾燈（八）益蟲保護器

岐阜市京町

取次所　名和昆蟲研究所

第一回全國昆蟲展覽會

右は當昆蟲研究所主催となりて來る三十四年四月十六日より三十日間當所に於て第一回全國昆蟲展覽會を開設する筈なれば廣く出品あらんことを希望す但詳細なる規則書は昆蟲世界第卅一號の雜報欄内に掲載しあるを以て附て見らるべし

三十三年五月

名和昆蟲研究所

○葉書通信募集

今回葉書通信を募集せんとす其趣意は愛讀者諸君地方の出來事を始め其他昆蟲に關する一切の件を簡にして明瞭に廣く通信を請はんとす縱令匿名にて本誌に掲載を請はるゝも當所へは必ず本名記入ありたし

名和昆蟲研究所

○購讀者募集

本誌は發行以來漸次改良せしが尚一層改良を加へて愛讀諸君の厚意に酬ひんとす願くば斯學普及の爲め此際廣く購讀者を募集せられんことを希望す尤も紹介者の芳名を本誌に掲ぐるのみならず聊かながら當所調製の紀念品を贈與せんとす請ふ購讀者募集の勞を取られんことを

名和昆蟲研究所

昆蟲世界購讀者紹介諸君芳名

千葉縣中山欽一郎君(四名)長野縣伊原長三郎君(三名)大阪府橋本亮君(二名)

●昆蟲標本發賣廣告

農作物害蟲標本 壹組(桐箱入解說付)(金四圓五拾錢)

同 益 蟲 標 本 壹組(桐箱入解說付)(金參圓五拾錢)

教育用昆蟲標本 壹組(桐箱入解說付)(金四圓五拾錢)

自然淘汰標本 壹組(桐箱入解說付)(金五圓五拾錢)

雌雄淘汰標本 壹組(桐箱入解說付)(金五圓五拾錢)

氣候變形標本 壹組(桐箱入解說)(金四圓)

壹組ノ荷造費二拾錢郵税百里迄廿錢百里外四拾錢

當昆蟲研究所は專ら昆蟲の研究標本の調製に從事せんが爲め豫て諸般の設備に汲々たりしが今や準備も畧ぼ其緒に就き廣く江湖に向て本所を紹介するの運に至りたるを以て更に規模を擴張し前記の標本並に學術的裝飾的に屬する昆蟲標本の調製を應諾せんとす特に害蟲驅除豫防法に依り各府縣に於て定められたる害蟲類を始め各種學校に適當なる昆蟲標本は本研究所が多年獨得の技倆に依りて之が調製を爲し多少に拘らず貴需に應ずるのみか其調製の如きも掛額柱懸等御希望に依り種々美術的に調製を爲し以て昆蟲思想の發達を圖り公益に資する所あらんとす本所長名和靖は曾て第三回內國勸業博覽會に於て其出陳の昆蟲標本に對し有功一等賞を得其第四回に於ては進歩一等賞を得たり標本の精美と調製の緻密なるは世自ら定論あり今復茲に之を謂ふの要なし幸に愛顧を垂れ陸續御注文の榮を賜へ

岐阜市京町

發賣所 名和昆蟲研究所

◉本誌定價並廣告料

壹部郵稅共金拾錢

十部郵稅共金九拾錢

（見本は五厘郵券貳拾枚にて呈す）

（注意）本誌は総て前金に非れば發送せず

◉爲替拂渡局は岐阜郵便電信局◉郵券代用は五厘切手にて壹割增とす

廣告料五號活字廿一字詰一行に付き金十錢三十一行以上一行に付き金八錢とす

明治三十三年五月十六日印刷並發行

岐阜縣岐阜市今泉九百三番戸ノ二

（岐阜縣岐阜市京町）

發行所　名和昆蟲研究所

岐阜縣岐阜市今泉九百三番戸ノ二

發行者　名和靖

同縣山縣郡岩野田村大字粟野百廿二番戸

編輯者　桑原貫之助

岐阜市笹土居町四十四番戸

印刷者　安田豊八

（明治三十年九月十日內務省許可）

（岐阜市安田印刷工場印行）

PRINTED BY YASUDA TYPE PRINTING WORKSHOP, 19, Higashi-tsukasa-machi, Gifu,Japan.

Vol.IV. JUNE 15TH, 1900. No. 6.

昆蟲世界

(第四巻第六册) 第參拾四號

目次 (禁轉載)

PUBLISHED BY THE NAWA'S ENTOMOLOGICAL LABORATORY IN GIFU, JAPAN.

○寄附物品受領公告

一金五十錢也　富山縣礪波郡出町 第三回全國害蟲驅除修業生　坂井憲三君

一農事試驗場特別報告第六號 本邦產昆蟲卵寄生蜂圖說第一集　農商務省農事試驗場

一增訂三版日本昆蟲學　一册　在獨乙伯林 農學士　松村　松年君

一洋手帳（蝶模様附）一册　岐阜縣師範學校生　梅田　倉藏君

一半身肖像（寫眞壹葉）宛　第一回全國害蟲驅除修業生 石桁雅五郎君　第三回岐阜縣害蟲驅除修業生 福井縣技師 大橋　陣一君

一ハンカチーフ（蝶模様附）一筋　農學士　川上謙三郎君

一苗代捕蟲器　一個　愛知縣碧海郡重原村九十四番戸　尾嶋　秀松君

一織紋圖鑑中昆蟲模様寫　愛知縣八名郡多米村　中神淸太郎君

一チゴノタメ第一第二六册　愛知縣渥美郡豐南村　田中　周平君

一古靑年農會報第一號一枚　古牧靑年農會

一薄張團扇（蝶模様附）壹本　岐阜縣岐阜市柳町　伊藤　七郎君

右當研究所へ寄附相成候に付芳名を掲げ其御厚意を謝す

明治卅三年六月

岐阜市京町 名和昆蟲研究所

○昆蟲展覽會寄附金受領公告

明年四月を期し當所主催と成りて開設する第一回全國昆蟲展覽會へ寄附金額並に芳名左の如し

一金拾圓也　第一回岐阜縣害蟲驅除修業生　吉田　馨君

一金五圓也　同　上　杉江勝三郎君

一金貳圓也　第三回岐阜縣害蟲驅除修業生　安藤　登君

明治卅三年六月

名和昆蟲研究所

明治三十一年五月岡山縣赤坂磐梨郡害蟲驅除講習會員の圖

明治三十二年岡山縣下ニ於テ採取シタル螟蟲卵塊

岡山縣下螟蟲卵總高三千万塊堆積の圖

論説

(明治三十三年六月)

◎サンノゼー介殼蟲と獨乙

米國スタンホールド大學 米國理學士 桑名伊之吉

サンノゼー介殼蟲(松村松年著日本昆蟲學六十九頁には梨の介殼蟲とあり)は一千八百八十年北米合衆國加利福尼亞州サンノゼー市(San jose)近傍の果園に於てコムストック博士の發見せし有害介殼蟲なり氏は其當時米國全圓の果園に發生する介殼蟲調査中なりサンノゼー地方の果樹被害の慘狀を觀、嘆じて曰く果園の害蟲其數多しと雖も該蟲の如き有害猛惡なるものをばまだ嘗て見ざりきと其ワシングトン府に歸るや精察なる試視を遂げ其新種なるを確めし上 Pernicious Scale(有害介殼蟲)と呼び學名を Aspidiotus perniciosus. と附せり故に該蟲は初め有害介殼蟲の名を以て世に照會されしに爾來世俗之れを呼んでサンノゼー介殼蟲と云ふに至りしは蓋しサンノゼー市近傍にて發見せしに據るものとす

此有害介殼蟲の元產地は未だ審かならずと雖も布哇、濠州或は南米智利より太平洋沿岸に輸入せしものゝ如く信じて居れり、加州園藝局昆蟲學者アレキサンダー、クロウ氏嘗て云ふ該蟲はゼームス、ライク氏が一千八百七十年智利より輸入せし果樹に附着し來るものなりとライク氏は元と智利の產

よして加州に移住せし后多くの苗木を同國より輸入せし事あり然りと雖も在智利 Banos du cauquenesのイ、シ、リード氏が其當時送りし書翰によれば智利國にして該蟲の發生は單にサンテイアゴー地方の或梨樹に留まれりと而して其苗木は米國(北米合衆國)より輸入せしものなりと云ふ依之是を見れば該蟲を智利より米國に輸入せしよりは寧ろ此土より彼土に移殖せしものゝ如し、濠州にては該蟲の發生極めて少なし、故マスケル氏の説に依れば數年前日本より濠州に輸入せし苗木に附着し來るものゝ如しと然らば本邦は此の大害蟲の元産地なるか全世界果園家が蛇蝎視する大仇蟲の母國なるか??一千八百九十五年ケブレル氏本邦及び支那産介殼蟲を蒐集せしもサンノゼー介殼蟲をば發見せざりしなり、爾來桑港撿疫官は屢々本邦より輸入する苗木に該蟲の寄生するを發見せり玆に於てか二三の昆蟲學者は講談に文壇に本邦を以てサンノゼー介殼蟲の母國なりと論斷を試みたり最近の書版中米國農務省昆蟲學者ハワード博士は一文を稿して本邦を以て其元産國なるが如く論究せり然れ共本邦にては未だ該蟲に關する智識淺薄にして之れが配布の如き一二ケ所を除くの外未だ世に公ならざれば本邦を以て該蟲の母國と呼ばしむること能はず世論は基礎を開港場商人の手を經て輸出せし苗木若しくば一地方の通信を以て證せんとするが如き想像説に過ぎず要するに該蟲科博識の昆蟲學者を本邦に派出し充分の調査を爲さしめ然る後本邦果して其元産國なるや否やを確定するにあり

數年前迄該蟲の發生は(米國にては)太平洋沿岸のみなりしが去る一千八百九十三年六歸山東各州に發生せるを發見せり今は太西の滄波を越へ歐土に達せり獨乙は早くも此の大害蟲の侵入を憂ひ之れが豫防をなすと同時に精密なる研究をなせり彼の Reoh 氏の調査報告の如きは實に米國園藝家を

して完全無害の菓實輸出の要を感せしめたり左に其要領を摘記して本邦園藝家の參考に備せんとす

△果實の表面に附着せる介殼蟲

介殼蟲は普通果實表面の防禦されし部分に多く寄生す即ち有核果實の莖凹及び莖に附着し梨、苹果の如きは果實の全面を包へり

左に梨一個の介殼蟲の數を擧げん

Chionaspis furfurus (蟲名)	雄蟲	雌蟲
萼凹 (Calyx cavity)	0	1
花凹 (Flawer cavity)	1	16
花凹の近傍	0	30
果實の周圍	0	1
莖の周圍	10	13
莖	1	4
合計	12頭	65頭

左に六種介殼蟲の數を表示す

學名	和名	頭數(雄雌共)
Aspidiotus ancylus		969
A. forbesi		17
A. perniciosus.	サノンゼー介殼蟲	759
A. Camelliae.	椿の介殼蟲	115
Chionaspis furfurus.		52
Mytilaspis pomorum.	苹果の介殼蟲	59

苹果介殼蟲は他の介殼蟲の蟄棲に適する花凹に棲息することなく多く果實表面に附着せり

介殼蟲類は其種類の異なるに從ひ寄生する場所をも又異にせり左表に之れを示す

學名	和名	上部	側部	下部
Aspidiotus ancylus.		1.33%	.28%	92.28%
A. forbesi.				100%
A. perniciosus.	サンノゼー介殼蟲	34.75%	3.56%	61.19%
A· Camelliae.	椿の介殼蟲	78.76%		21.74%

Chionaspis furfurus　13.50%　81.82%　77.58%

Mytilaspis pomorum. 苹果の介殼蟲　71.18%　20.34%　8.48%

右の表に依れば介殼蟲は其氣象を感ずるの鋭鈍によりては其寄生する所をも異にせるものゝ如し即ち椿の介殼蟲及び苹果介殼蟲は氣象を感ずることなく Aspidiotus ancylus 及び A. forbesi は其感覺甚だ鋭利なりサンノゼー介殼蟲は比較的感覺少なきが如し

△果實に附着せる介殼蟲の時季及び雌雄の數

自由に歩行する時季の幼蟲を發見することなきも既に一定の塲所に附着せるもの往々これあり

Aspidiotus ancylus　二百六十二頭中二百五十頭は未熟の雌蟲にして十二頭は幼蟲なり、此の種の介殼蟲は最も普通種なるも輸入の憂なし

Aspidiotus forbesi　十七頭共に未熟の雌蟲なり時々雄蟲の幼蟲を見ることあるも是又輸入の恐なし

Aspidiotus perniciosus　サンノゼー介殼蟲雄蟲八十二頭雌蟲三百五十四頭幼蟲二百九十五頭の多きあり雄蟲は大抵未熟若しくば蛹期なり雌蟲の大部分は成熟し体内の卵子夥しく發達せり此種の輸入甚だ危險なり若し晩秋を俟つて果實を輸入せば其憂少なきも三、四、五月頃に至りて大に增加す

Aspidiotus camelliae椿の介殼蟲　三十三頭中一頭の雄蟲あり十一頭の雌蟲は既に胎子を有し十二頭は胎子を有せず九頭の雌蟲は未熟なり幼蟲は單に一頭なりき此種は暖國に發生して南部歐州の產なれば憂ふるに足らず

Chionaspis furfurus　百五十一頭中百三十三頭は幼蟲なり雌蟲の中九十四頭は卵子を有せり此種は暖地の產にして苹果介殼蟲の跋扈する所となれり

Mytilaspis pomorum.苹果介殼蟲　六十五頭の雌蟲あり十四頭を撿視せしに十一頭は卵子を有せり
此種は歐州産にして至る所多く發生すれば輸入を防ぐの必要なし
此撿閲より鑑みれば目下恐るべき介殼蟲はサンノゼー介殼蟲のみにして獨乙政府の新法令は此種に限れるものとす

△輸入せし介殼蟲中寄生物に斃死されしもの及び生存者の數

乾果實には介殼蟲の生存する恐なし左に新鮮菓實撿閲の結果を示す
Aspidiotus ancylus　二百五十頭の雌蟲中二百三十二頭は生存せり十二頭の幼蟲中生者十一頭合計五十二、七五％の生者ありて單七、二五％の死者あり、十九頭の死者中四頭は寄生蜂二頭は寄生菌に斃されたり
Aspidiotus forbesi 十七頭の雌蟲中一頭死せり
Aspidiotus perniciosus 果實にありては害蟲の寄生物に斃されし數を異にせり今其一例を擧げんに生者二百十四頭即ち総數の三十三、四九％死者四百廿五頭即ち総數の六十六、五十一％なり死者六十三頭は肉食類に食はれぬ即ち総數の九、〇六％に當り百五十六頭即ち總數の二十二、四四％は寄生菌に斃され三十％以上は寄生蜂に斃され居れり

◎螢の話（承前）

理科大學教授　理學博士　渡瀨庄三郎

爰に又螢の研究が將來人生の福利に關する所以を述べんには古來應用術藝家の渴望せし一點は無煙無熱の燈光を得るにあり吾人が日常用ゆる蠟燭電氣瓦斯石油ランプの如きものは非常に原勢力の冗

滅多くしかも其目的は吾人の視官を刺戟する光線を得るが爲なるに其原力百中の九十九は視感に關係なき熱となりて消散し僅々殘餘のものが光と成るのみ之に反して螢は百中の原力を殆んど全く光に換へ加之吾人が眼に最大の視力を與ふる綠色を帶びたる光線を出す實に螢は吾輩が理想的の發光器なり若し吾人にして螢の如き經濟的の光を造り得んには單に原料の冗滅を防ぐのみならず風に遇へば益々燃へ雨に濡れて益々輝き火傷の憂もなく失火の心配もなき純粹なる安全(ランプ)を得るに至らん吾人にして燈火術の改良を謀り無熱無煙の燈光を得んと欲せば宜しく學術的の手段を經て其秘訣を螢に問ふべきなり

亦生物學上螢に關する數種の問題を提起して其の研究の目的を述べんに先づ

(一)我國には何種の螢類を產する哉

(二)各地方に於て螢の發生期節には幾許の早遲あり哉

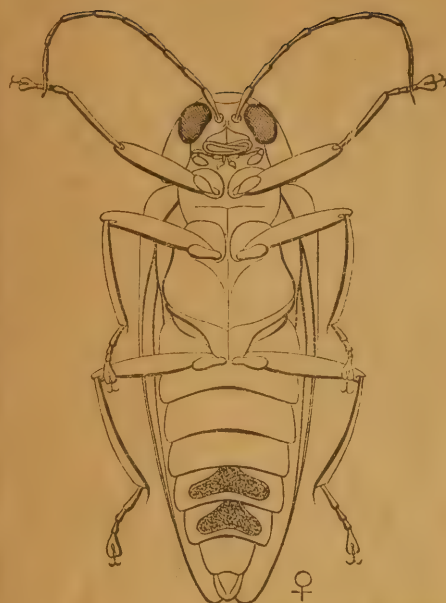
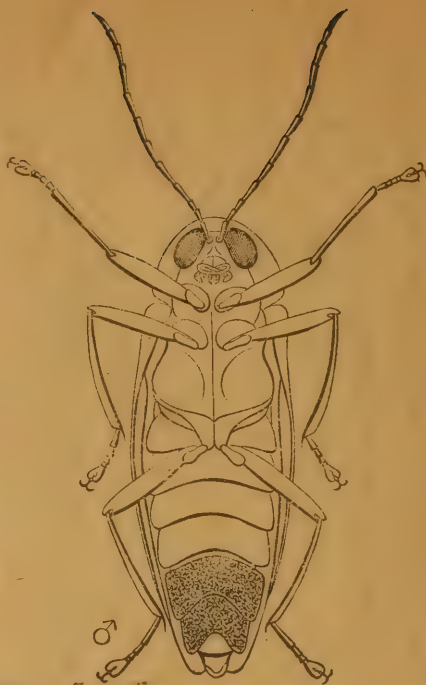
(三)日本國內螢類地理的の散布は如何なる法則に依て支配され居る哉又亞細亞大陸及び南方諸嶋に產する螢類とは生物散布上如何なる關係あり哉

(四)螢は如何なる構造器械を以て彼の驚くべき光を出し得る哉

(五)發光は螢が一代に顯はるゝ生狀習狀に如何なる關係ある哉

(六)各種螢類中雌雄と種類と發達生期の相違により發光器の構造に如何なる異同あり哉

(七)種類により亦發達生期により螢の光色に多少の相違あるは如何なる理由に基くや

(八)有らゆる生物中螢の如く發光の特質を有するもの幾許ありや亦發光生物界一般には如何なる法則によりて散布し居るや

Photuris pennsylvanica. ×5.
Pyractomena lucifera, ×9

圖解　此螢は米國に最も多きものにして形も大に且つ茶褐色を帶び一見して他の螢類と異なるを見るべし又其性質も強猛にして他の螢と一所に置けば必ず之れを嚙み殺すものなり生狀甚だ活潑にして善く飛び又善く走る他の螢に比しては捕獲も又隨て自由ならず發光器は淡黃色を帶び雌雄共に有す圖中細斑點を以て表はしたるもの即ち是れなり

この螢は重に灌木に集まり又樹林の中にも見へ餘り水邊に住む事なし

雌雄共に强大の發光力を有し光色は稍々青みを帶たる黃色なり亦發光器構造の如きも非常の發達を極めたるものにして螢類中最も完全なるものなり

（九）螢の發光器は他の動物が有する種々の發光器に比して如何なる搆造上の異同精粗ありや

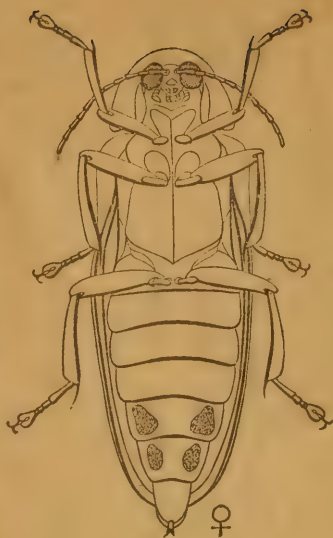
（十）又特に有光螢類が有する發光細胞は彼の晝間飛行する無光螢類が体中如何なる細胞に比較すべきや

（十一）動物の發光器と眼とは形態學上及び生理學上なる如何關係ありや

（十二）比較組織學上發光細胞は如何なる分類に屬すべきものなるや又如何なる細胞が變化して發光し得る者と考ふ可きや
（十三）通常の無光生物中即ち吾人人類の如き躰中に於て螢の發光現象に比較すべき作用ありや
（十四）吾人は人工を以て他の組織を發光組織に變ずるを得るや
（十五）生物學上の一大問題たる酸素と原形質の關係細胞の呼吸を究むるに方り發光細胞の研究が如何なる便益を與ふるや
（十六）其細胞中に生じて發光の基礎となり燃焼の原料となる物質は生理化學上如何なる物体なりや
（十七）この燃焼する物体は如何なる細胞作用に依て生ずる者なるや
此他生物一般の發光現象に關しては種々の問題ありと雖も右等は螢が目下生物學者に與る數種の好問題なるべし

若し生物學者が黽勉研究の曉是等の問題に向て滿足なる答解を呈するを得ば古來國民の詩情によつて愛賞せられし凉夜觀螢の樂も亦一層の興味を添ゆるなるべし蓋し深遠微妙の理學と眞正高雅の詩念とは元と同根より生じ決して相ひ反目すべきものに非ざればなり

附言　余は本年の初夏より普く日本に產する螢類を研究せんとす然るゝ此擧たるや到底一己人の力を以て成し能ふことに非ず故に若し各地方讀者諸君にして螢類生狀觀察の協力と標品寄送の賛助を得ば余が最も幸福とする所なり

余は未だ我國には何種の螢類を產するを知らず然れども決して其僅々數種にとゞまらざるを信ず本編揭くる三種の螢の如きは余が米國の一小漁村「ウーヅホール」に於ける臨海實驗所の近傍において

pyractomena lucifera. ×9.

解　此の螢は形小にして稍や濕氣に富める草原に產し飛行力も少なく雄は折々空中に飛出づる事あれども雌の如きは重に草の根近き所に靜居して間々微々たる光を發するものなり
發光力は少なけれども其光色の特に濃厚なる綠色に富む者なれば一見して前二者と識別するを得べし
發光器は雄蟲には第五第六關節の全面を掩へども雌蟲に於ては唯に四個の小光器を有するのみ
去れば本編載する三種の螢は同一の一小地方に於て產するものなれども其生狀皆異なれり第一は水邊に生じて水草の莖に集まり第二は稍や乾燥したる灌木に群棲し第三は空漠の草原を好む
其雌蟲が有する發光器の如きは各其趣を異にし發光器より放射する光線の如きも皆各特色を有す

集めしものなり此他同地に產する者尚は三種あり都合六種を產す尤米國は螢類に富む國なれば或は一小地方に數種を產するの觀有るやも知らざれども我國の一地方に於ても精密に探索せば或は意外に多數の螢類を發見する事も有らんか暫爰に記して採集者の參考に供す
余が各地博物學篤志の諸君に切望する所は本年の夏螢類發生の期節を前、中、後の三期に分ち一期を凡そ二週間內外と假定し（地方によりて多少の長短はあるべし）一期毎に見當らるゝ螢は形の大

小を問はず發光力の多少を論ぜず二三十疋宛を集めて通常の「アルコール」に漬し採集の地名と時日をば明記し之を小瓶に入れて余が許に送付せられんことを余は精意研究して諸君が協力賛助の好意を空しくせざらん事を力むべし

東京理科大學動物學教室に於て記す

明治三十三年二月五日

◎印度藍に於ける害蟲の調査

靜岡縣濱名郡蠶業學校内　岡田忠男

印度藍は我國在來の蓼藍に比して大に其性質を異にし將來尤も有望なる作物たるは世人の認むる所にして目下に於ける全國の消費高は實に莫大なるものなるは余の言を俟たざる所なり而して其印度藍たる皆是を外國に仰ぐが故に現今在來藍は肥料の多額を要すると害蟲の多きとによりて其栽培を減少せんとするの傾あるにあらずや熟〻此狀況を觀察せば在來藍の前途實に憂慮なきの期と云はざるべからず若し印度藍の輸入を防がんと欲せば盛に在來藍に換ふるに栽培の容易なる、收額の多量なる印度藍を栽培するに如かず然れども其栽培の容易に伴ふて害蟲の來襲すること多きの傾きなきにあらざるを以て余は昨年東海農事試驗場に乞ひ其種子を得て特に各作物の周圍及中央に試作して他の作物と侵害せし所の害蟲の移轉して被害し或は新害蟲の有無を驗せしに左の數種交互に侵害するを發見したれば聊か玆に其形狀及び被害の有樣を記して報ず（因に記す一回の調査を以て充分の結果を得たるものあらざるを以て尚は二回三回を重ねて報ぜんとす）

第一　芽蟲　鱗翅目　葉捲蛾科

此蟲の成蟲は体灰褐色にして下唇鬚長く突出し複眼は大に觸角は黑色にして細長く前翅は殆んど長

方形にして外縁には長き灰色の縁毛を生じ內縁は黒褐色を呈し翅上には不規則なる黒褐の斑紋あり後翅は三角形にして光澤ある灰褐色をなし灰白の縁毛を生ず雌にありては腹部の末端は稍や太く長け二分內外翅の開張六分雄は色少しく黒く小形なり此成蟲來りて嫩芽に産卵し置くを以て幼蟲孵化すれば直ちに芽を捲き其內に住して新芽を喰ふを以て其生長を妨ぐるに至る當地方にては荳科植物即ち大豆小豆等の嫩芽を喰害せし者即ち此害蟲なり故に余が試作に係る印度藍も此蟲移轉し來りて被害せしものなりと思考す

第二　莢蠹蟲　鱗翅目　螟蟲蛾科

此蟲の幼蟲は多く印度藍の種子を採らんとするの時に於て莢內に蝕入し後には數多の莢を集めて其內にて蛹化し數日の後羽化して成蟲となる其体色一種の光澤ある淡褐色を帶び觸角は細長くして其長さ五分余下唇鬚は長く突出し複眼は大に前翅は不正三角形にして前縁は赤褐色をなし翅尖は縁り少しく黒く外縁には濃褐色の縁毛を生せり地色は淡褐色にして中央より前縁に向ひ白色の不正なる楕圓形の斑紋と其傍に一個の小なる白き斑点を具ふ後翅は白色にして光澤を帶び形は殆んど三角形にして翅尖に淡褐色の斑紋と其內側に黒褐色の波狀一線とを有し白色なる部分には小黒点を散布せり雌は身長四分翅の開張八分雄は身長三分翅の開張七分五厘なり

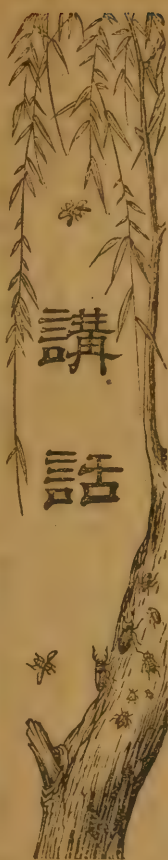
第三　大浮塵子　有吻目　浮塵子科

此浮塵子は普通桑横這と稱し多く桑園に於て見る所なり此もの印度藍の試作せし所に來りて其幹部の養液を吸收するを以て被害部は黄緑色に變じ多少生長を害す又幹部に半月形に産卵するものあり

其形状の褄黑浮塵子に似て大形なるを以て今玆に畧す

第四　オンブバッタ　直翅目　蝗蟲科

オンブバッタは綠色にして雌雄大に其大さを異し雌にありては体長一寸二分雄にありては七分頭部は尖りて其尖端に觸角を生ず觸角は十一關節にして其長さ五分五厘複眼は褐色なり前中の兩脚は短く後脚は非常に長し此害蟲は好みて印度藍の嫩芽を噛み切り害を與ふるものなり

右四種の外尚發生の當時に夜盜蟲の幼蟲根部を噛みて是れを斃したるもの三ヶ所別に綠色蚜蟲の被害せし所ありたれども其莢の熟するの時期に當りて赤褐色を帶びたる無翅の蚜蟲多く其莢の發育を害したる等は明治三十二年中余が調査したる所の印度藍の害蟲なり

◎岐阜縣害蟲驅除講習生に對する昆蟲講話

文部省書記官　寺田勇吉

編者曰く本編は四月十五日寺田文部書記官が當昆蟲研究所を參觀せられし際偶ま縣農會樓上に於て第三回岐阜縣害蟲驅除講習會開設中なりしを以て其席上へ臨まれ講習生に對て講話されたるも

のを當研究所助手宮脇繼松氏が速記せしものなり

諸君吾輩は名和君の從事せらるゝ昆蟲研究は我が帝國の爲め特に必要の事業たるを信じ成るべく之を奬勵して速ょ其目的を達せしめん事を希望したるや久し、何となれば我國現今の如く猶を農業を以て國民生業の最大要部となすに於ては穀物の豐凶ょ密接の關係を有する昆蟲の利害を研究し其利を取り其害を除く事を講するは獨り當岐阜縣の利益なるのみならず實に我が大日本帝國の利益なればなり吾輩は以前文部の視學官を專務としたる時に於ては年々歳々諸縣を巡回して學校を視察したりしが其后書記官ょ轉任し書記官を本務とし參事官視學官を兼ね日常專ら會計事務を掌理するに至つては復た屢々以前の如く各地方の學事を視察するを得ず一度名和君を訪ふて親しく標本の蒐集せられたるものを見且つ其說明をも聞かんと欲したれども何分にも當地へ來る機會を得ざりしは甚だ遺憾とせし所なり今回三重縣及九州へ出張するょ當りては是非當地へ立寄り宿望を達せんと決心したれども出張すれば甲地の教育家よりは書を寄せて吾輩を待つて教育總會を開く旨を告げ是非來車すべしと乞はれ乙地の教育家よりは遠路を厭はず態々出迎に來りて吾輩の教育意見を演說すべしと迫られ東奔西走に忙はしく本日も大坂の有志者に招かれ同地へ行きて一場の演說を爲す約束あり殆ど當地へ立寄る餘暇を有せざりしが本省より至急歸京を促されたるを以て已得ず大坂行きを謝絕し寸暇を利用して只今名和君を訪問し圖らず諸子と會見するの機會を得たり

諸君吾輩は常に名和君の發行に係る雜誌を愛讀し名和君が非常の熱心を以て斯學の研究に從事せらるゝを信じたりしが今日其實況を目擊するに及んで吾輩の想像よりも名和君が一層深き熱心を有せらるゝを發見し態々時間を利用して立寄りたる効ありしを喜ひ特に諸君が害蟲防禦の方法を講習す

る爲め各郡より集會し熱心に研究に從事せらるゝ由を傳承し一層愉快の情を增せり若し豫め此事を聞知せば諸君に對し多少利益を與ふべき演說もなし得ざるにはあらざれども前に述べたるが如く萬障を繰合せ僅かに時間を利用して今朝神戸より此處に列席せらるゝ大久保師範學校長に一寸立寄り得べき旨を電報し只今到着したる次第にて諸君が此研究所に集會し孜々害蟲の研究に從事せらるゝが如きは夢にも知らざりしを以て今日の演說は諸君を益する事少なきは己を得ざる處なり若し夫れ他日再び諸君に面會するの機會を得ば或は諸君を益するの演說をも爲す事を得ん諸君請ふ先づ之を諒せよ

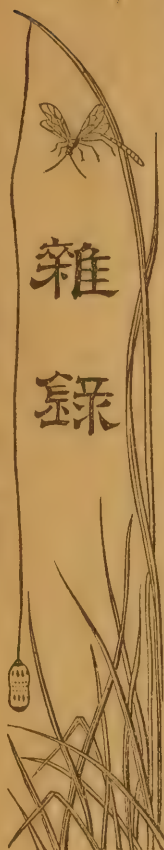
諸君吾輩は敎育上種々の希望を懷くものなり今日は其希望の一班を述べんに元來敎育なるものは總て實業的ならざれば十分の効果を收むる事能はず彼の獨逸の國運が今日の隆盛を來したる原因は何れにありやと問ふに吾輩は其大部分を實業敎育の結果に歸せんとす而して其實業敎育中最も多く力を工業上の事に盡せり是工業敎育は其敎育は其効果を收むる事尤も速に最も易ければなり之れに反し農業敎育に至りては其効を奏する事甚だ難く良結果を得るには幾多の歲月を費ざる可らず、併し農業敎育も獨逸が今日隆盛を來したる一原因たるは固より之を認めざる可らず獨逸に於ては人々の多數群集せる市街には必ず工業上の學校あり其地方に多數の大工住居すれば其大工の業を進步せしむる爲め大工工業學校あり又多數の左官住居すれば左官の仕事を改良する爲めの工業學校あり農業地方例へば桃の培養地に於ては桃の培養法を敎ふる學校あり又專ら小麥を耕作する地方に於ては小麥の學校あり要するに如何なる職業に對しても各其職業に對する學校の設け備らざるなし其目的は各地方の生產物を改良せんとするにあり獨逸の生產物若しくば製造物は其種類其性質の如何を問は

ず如何なる物品と雖も各夫れ相當の教育を受けたるものゝ手を經ざるはなし假令ば爰に紐わりとせよ我邦に於ては多くは無教育者にしていろはのいの字も知らざるものに製造せらるゝを常とすれども獨逸國に於ては然らず紐を造るものは紐の製作に關する特別の教育を受けたるものなりとす又之れを染るものは染色に關する特別の教育を受けたるものなり是れ彼の邦の實業が今日の如く益々發達する所以にして皆實業教育の結果にあらざるは無し英國の工商業は在來世界第一の勢力を有したりしが今や殆ど獨逸に壓倒せられんとするの有様を來せり支那、朝鮮、南洋、等は我國の好市場我邦の良顧客にして二三年前迄は隨分我國の貨物を珍重したりしが今や獨逸品の輸入せらるゝもの年々其數を增し日本品をも壓倒せんとするの勢あり從來日本より南洋等へ輸出したる蝙蝠傘、木綿其他の雜貨も今や大に獨逸品に壓せられ漸次其販路を狹められ獨逸品は益々其販路を擴張するに至れり其故何ぞや獨逸品は品質良好にして價格低廉なるのみならず又能く該地方人民の嗜好に投するが爲めなり獨逸實業教育の効果豈恐るべきにあらずや工業に從事するものにして工業上の教育無く商業に從事するものにして商業上の教育無き國民は到底獨逸に勝つ能はざるなり獨逸の恐る可きは陸軍の精鋭にあらず其海軍を擴張せんとするにあらず吾輩は其實業教育の完全に施行せらるゝにありと曰はんとす諸君以て如何となす

諸君は當研究所に於て名和君の指導の下に或は標本に就き或は實物に就き害蟲の種類性質より驅除の方法に至る迄害蟲の害たる所以又其利する所以をも審に研究せられたる以上は吾輩は諸君に向て歸鄉の上は其知識を小學校の生徒に分與せられん事を望まんとす諸君若し其勞を厭はず小學生徒をして昆蟲の知識を得せしめば吾輩は日本帝國の農產物の收穫を增すに與つて力あるを信ずるものな

り若し之れが爲めに米の收穫何千石を增し之が爲めよ麥何万石を增す結果を得ば此一事にても其効能甚だ大なりと云ふべし害蟲の種類は頗る多しと雖も我日本人は何れか害ありや何か益あるやを知るもの極めて稀にして小學校の敎員の如きは是非之を知るの必要あるにも拘はらず其知識を有するもの甚だ少し獨り小學校の敎員のみならず吾輩の如き普通の昆蟲を除くの外は其益蟲なるや害蟲なるやすら之を審にせず從て今日に至る迄隨分有益なる昆蟲をも之を保護することを爲さず甚だしきは之を殺したるならんと思ふなり元來我邦人は妄に樹木を折り魚鳥を捕ふる等の惡風あり例之公園へ行きて公衆の娯樂に供する樹の枝を折り花を摘むが如きは通例何人も怪まざる所よして甚だしきは之を以て却て風流と心得る輩も無きよあらず頑是無き小供の爲すは巳を得ざるものありとするも大人之を爲すは實に恕し難き惡風なり左れば何れの公園に於ても樹木折る可らず魚鳥捕る可らずとの制札の建立あり是れ邦人の惡習を禁せんが爲めに設けたるものなれども內地雜居の今日に於ては外國人に對して我が邦人の無敎育を表白する看板となり我邦人の耻を世界の人民に告ぐるものにして吾輩の甚だ遺憾とする所なり何となれば此の如き制札を立つるは我か邦人が天然の美妙を愛する事を知らず何が害になるやら何が益に成るやを識別せざる事を証明するものなればなり吾輩は先年歐米諸國を巡回し各所の公園を遊覽したる事少なからざりしが何の公園に於ても我邦の如き制札の建立せらるゝを見ず是れ大人は勿論兒童と雖も決して猥りに枝を切り魚を釣る等の惡習なければなり吾輩は外國の或る公園に於て深く彼の邦人の良風に感したる事あり、兒供二三人群集し一矮樹に小鳥の巢中に在る卵を熟覽し居れり吾輩は其兒童等が如何なることを爲すやと其樣子を窺ひ居りしに彼等は熟視したるのみにて何事をもなす事無く其場を立ち去れり若し吾邦の兒童ならば如何或は

其卵を捕ふる等のことを爲すやも知る可からず蛇は其種類に依り鼠を驅除するに必要なる動物にして農家の爲めに隨分有益なるものなれども之を見れば殺さゞれば已まず其他杖を携ふるものは路傍に美花の開くを見れば之を折り昆蟲の匍匐するを見れば之を殺さんと欲し犬の走るを進擊せんと試むるが如きは通例の事なれども畢竟教育の行屆かざる惡風と言はざるべからず故に吾輩は諸君が研究を終り歸鄕したる后は昆蟲に關する智識を小學校の生徒等に敎へて害蟲の害を爲す所以益蟲の益を爲す所以を明にし又一方に害を爲せども一方には益を爲す等の性質効用を知らしめられん事を切望す小學校生徒にして能く害蟲の害たる所以を明かにして驅除豫防の方法を實施するに至らば縱令一の害蟲の性質を知るも其利益は甚だ莫大にして我が日本帝國を益する事甚だ多からんと信ずるなり之を要するに普通敎育は實業的ならざる可らず學校を以て讀本を授け文字を習はしむるのみの處と心得之を以て學校敎育の任務を果したりと思ふが如きは誤れるの甚だしきものなれば當國の如き山國にありては昆蟲を研究するが如きは一層有益にして如何なるものが害蟲なるや如何なるものが益蟲なるやを小學校の生徒に至る迄知らしむる事最も必要なれば吾輩は諸君が當研究所に於て研究したる結果を成べく廣く普及せしむるに盡力せられん事を切望せんと欲す（完）

雜錄

◎トンボの功名と小學生徒

京都府第一回全國害蟲驅除修業生　野間貞三郎

余一日小閑を得捕蟲器を擔ぎ毒瓶提げて徒歩の折柄目先凡そ二三間の草群より一頭のトンボ殆んど其体程もあらんかと思はるゝ一動物を喰へ翅を鳴しさも重げに空中よ飛び上り候一見忽ちこれこそ標本の材料得たり御座んなれと一生懸命走りて之よ追付き捕蟲器一振難なく其儘之を捕獲し得見れば喰へられたるは余未だ曾て見しことなき程の大なるキリウジガヾンボにして而も將に産卵近きものか腹部非常に肥大せるものにて有之申候余感嘆交々惜く能はず大に考ふる所あり直に歩を轉じて之を小學校に持ち行き教師と相談の上授業時間一時間の貸與を請ひ生徒一同を一室よ集め扨て今日トンボの功名カヾンボの成行を談じて右二蟲を示し後其トンボに向ひ恰も人に言ふが如く今日の手柄を賞しやりて之を窓外に放ち去らしめ后徐ろに害蟲の惡むべきことと益蟲の愛護すべきこと以後はトンボの腹に糸を結ひて弄ぶなどは心得違ひなることと等を面白く說き聞かしめしに流石は感情移り易き兒童等始めて悟り顔快味面に溢れて頗る納得せしもの丶如くに退室せり依て余は其后生徒の觀念如何を知らまほしく竊よ之を伺ふに彼等が朝の登校午後の歸校の道すがら「トンボはゑらいガヾンボは惡き奴じやあの角の大きな黑き蟲は何と云ふ蟲なるか明日は先生に問ふて見ん」などゝ折々蟲の談を語り合へるを聞き余は大に滿足すると同時に益々小學教員に昆蟲學思想の必要を感し申候斯かる折あらば機を失せず利用するも害蟲驅除の一方便と信し申候儘早々

◎昆蟲歌集（其二）

千葉縣長生郡鶴枝村　林　壽祐

たづねくるはかなき羽にも匂ふらん、軒ばの梅の花のはつ蝶。　定家

面白や花にむつるゝから蝶の、なればや我も思ふあたりに　仲正

春雨に降りよし里を來て見れば、櫻の莖にすかる蓑蟲　家　家
駒なへて行人もなし轡蟲、をちかた野邊の草に鳴くなり　雅　世
夏深き淺茅が庭の蛬、草の下ねよ鳴き始むなり　爲　家
蟲の音はならの落葉に埋れて、きりのまかきに村雨ぞする　後京極
住馴れしもとの野原や思らん、うつす蟲やに蟲のはふなる　光　俊
籠のうちに聞しにも似ず鈴蟲の、巳が住む野の夕くれの聲　通　村
雨ふれば梅の花笠あるものを、柳につける蓑蟲やなぞ　和泉式部
楸生る沖の小島の浪の上に、浦風さそふ蜩の聲　保　季
有栖川いつきの宮の秋の花、千世をかねたる松蟲の聲　俊　成
夕立の過ぎ行くみねの梢より、名殘涼しき蟬のもろこゑ　有　雅
露はをき風は身にしむ夕くれを、巳が時とや蟲の鳴らん　冬　敎
いかなりし世々のむくひに木こり蟲、身におふはどの宿のはかなき　衣　笠
哀れなり山颪吹く夕れよ、なき數まさる軒の蜻蛉　光　俊
さゝかにの糸ひきかくる草むらよ、促織蟲の聲聞ゆなり
山かつの垣ほのおどろ夏更らで、それとも知らぬ蟲の聲々　後鳥羽院
宿かへて試みやする蛬、同じ露なる草の庵に　通　村
ふりたてゝならしがはにぞ聞ゆなり、神樂の岡の鈴蟲のこゑ　範　光
女郎花なまめきたてる姿をや、美くしよしと蟬の鳴らん　俊　頼
蛬ねざめの床をとひ顏に、わきて枕の下にしも鳴く
故郷の板間にかゝる蓑蟲の、もりくる雨を知らせがはなる　後京極
露の邊はくるゝまかきの花やかに、ふり出でゝ鳴く鈴蟲の聲

山里や秋や千年のまさるらん、ねのひせし野の松蟲の聲　　家　隆
さやまたの穗屋のすゝきの一むらに、あつめても聞く蟲の聲かな　　景　樹
蛬鳴くや霜夜のさむしろに、ころもかたしきひとりかもねん　　後京極
人心われにはひかで山繭の、いとゝみたるゝ思ひとをしれ　　雅　永

名　所

實際はいざ知らず、唯多くの歌書に載せ、古より名產地と知れたる所を擧ぐれば、蟲には武藏野、大和の眞野、越前のやた野、最も有名なり、今類を別ちぬれば、次に示すが如し

蟬＝高雄山、片岡の杜、衣手の杜、（以上山城）信太の杜（和泉）なつみ川（大和）木曾路川、風越の嶺（以上信濃）○蜩＝小倉山、たゝすの杜（以上山城）いこま山（大和）大江山（丹波）隱岐の小島○螢＝音羽川、淸瀧川（以上山城）芦間の池、須磨の浦、住の江、なるは江、三津の浦、玉江（以上攝津）袖の浦（出雲）伊勢の海、志賀の浦（近江）春日野、かけろふの小野、ゐな野（以上大和）あさかの沼（陸奧）○蛬＝立田山（大和）嵯峨野、小野の篠原、深草、夜さむの里（以上山城）水莖の岡（近江）○轡蟲＝逢坂山（近江）いこま山（大和）○松蟲＝昆陽野、住吉（以上攝津）宮城野（陸奧）嵐山、桂野、常盤山麓、深草野○鈴蟲＝小倉山、神樂岡（以上山城）鈴鹿山（伊勢）鳴海野（尾張）片野、袖振山○促織＝二村山（參河）

◎害蟲短片　（其七）

靜岡縣濱名郡　昆　蟲　生

（十二）　キリウジの害怖るべし

余が寓居の東南に昨三十二年共同苗代地を相し播種せしに大凡十四五日を經過せし時嫩芽皆斃る依

て熟視すれば是れなんキリウジカヾンボの幼蟲即ちキリウジ發生して三百有余歩の苗代の内一反五畝歩其害を被り到底見込なきに至れり而して如何なる原因にて斯く害を被りしやと考察せば其場所なる東南は開きて西北は人家を扣へたると苗代整地の際恰も東南風の吹き來りて其際苗代の水を干したるものゝ産卵して孵化したるものならんとの鑑定を下すことを得るに至れり其畦畔の如きは一指を以て壓すれば二十余頭のキウリジを出すが如き有様なるを以て被害の多きを知るに足るべし此害蟲の被害は袖手傍觀すべきにあらざるを以て直に應急の驅除をなしたるも如何にせん泥中に隱るゝが故に其効薄く種々の方法に手を盡したり然るに突然大雨に遇ひたれば皆畦畔に逃け込みしを以て辛ふじて害を避くることを得是れと同時に余の名和昆蟲研究所に問合せたる返信に

水を深くして幼蟲を追ひ出し溝を深く堀りて再度の侵入を防ぐべしと

ありけり依て其後溝を深くして幼蟲の侵入を防ぎ又一方には本郡農會副會長山本庄次郎は出張して管理者を指揮して其畦畔に棲息する所の幼蟲を鋤き取らしめしに大凡十五六荷を得て之れを燒き捨てたり思ふに此小蟲能く一反有余の稻種の發芽を皆無にせしは實に怖るべき害蟲と云はずして何ぞや然れども天與の大雨と名和昆蟲研究所の防禦法とは管理者の熱心とは能く此害蟲を絶滅せしむるに大効を與へたるものと云べきなり

（十三）　本年の麥作に於ける害蟲

本年は如何なる年なるか麥作に付て能く〳〵害蟲の有無を撿せしに豈計らんや此頃（四月五日）に至りて二三種の被害を見るに至れり曰く針金蟲（叩頭蟲の幼蟲）曰く大螟蟲、曰く螻蛄等にして當地方の或場所によりては大に麥稈を黄變せしめて著しく其害を受けしことを實見せり而して針金蟲と螻

蛄との害は一見判別し難きも大螟蟲の害は白穗を呈するを以て明瞭なり然れ共農家此被害の点には少しも注意せざるは未だ麥作に對する害蟲の被害を知らざるは其害蟲の如何を知らざるものと云はざるべからず余は是れ等の害蟲に對して麥稈を抽き取らしめ或は螻蛄の如きは醱酵物誘殺法を行ひて利あることを感せるを以て聊か玆に記す尚は方言白蟲と稱して金龜子蟲の幼蟲の被害を見るの時期到るの傾きあるは最早山邊の暖地にて實撿したる所なれば併せて記載するものなり

◎害蟲發生狀況報告

岐阜縣安八郡第三回岐阜縣害蟲驅除修業生　加藤彥郎

一蚜蟲　安八郡内二毛作田に於て紫雲英を栽培し在るものは多少害を被らさるものなく被害最も多きものは種子の收穫皆無のものあり且小麥穗及蕓薹の莖にも同蟲到處に發生したるを以て藁灰、木灰等を散布し除するものあるも五月中旬以來雨少き爲め今日に至るも尚は蔓延の景況なり

一螟蟲　螟蟲發生は五月廿五六日頃より成蟲を苗代田に於て稀に視ることあるも未た多數の發生したるものを見ず

一浮塵子、蝗、苞青蟲　此の三種も螟蟲と同樣にして稀に成蟲を見るものにして未た發生期に至らさるか發見するもの尠し

一蛄螂　郡内到る處梅、櫻、李、杏、桃、柳、榎等に發芽の際發生し驅除せざるものは枯死せるものありて例年に比し最も多く發生せしが目下多くは蛹期にあり

◎渥美郡西部蠶桑に關する害蟲驅除

三河國渥美郡堀切村　高瀬米三郎

一利在れば一害の之に伴ふは數の免れさる所なれども一利將に起らんとするに先ちて一害の來るは實に憂ふ可き事なりとす我堀切村は戶數僅四百有余の一小漁村なりしも目今養蠶の業大に隆盛に趣き各戶平均蠶卵紙一枚以上其收穫高の如きも貳萬圓以上にして將來有望なる副產業の一ならんと信ず然るに早や蠁蛆、桑葉蟲、蛄螂、介殼蟲等は遠慮なく繁殖し余輩の進路を塞げり故に本年は一村或は數町村共同して彼等と勝敗を爭はんと準備中の者も有れば已に開戰中の者もあり冀くは昆蟲世界子よ吾等の參謀となり又敎導となり後援となり以て首尾克く終局の勝を得せしめよ

蠁蛆驅除

本郡は海中に突出する半嶋にして岬頭數里の區域は地形上蠁蛆の驅除に尤も適せり北は泉村と野田村の境に一つの峠あり南は赤羽根村若戶村の如き漁業の盛にして養蠶の業は絕無の姿なれは截然其間に畛域を有せす多少侵入の憂なきにしもあらずと雖も左迄恐るゝに足らされば當地方人民の稱して坂西と云ふ野田坂以西八ヶ町村の關係者を以て蠁蛆驅除同盟會なる者を組織し左の規約を協議決定せり

蠁蛆驅除共同會規約

第一條　本會は明治三拾三年縣訓令第十二號に基き蠁蛆の共同驅除を以て目的とす
第二條　本會の會員は泉、清田、福江、中山、伊良湖、堀切、和地、若戶、八ヶ町村養蠶製糸家及び生

繭取扱者にして本會の主旨を賛成し會員名簿に記名調印する者を以てす
第三條　本會ﾆ左の役員を置く
會　長　一　名　副會長　一　名　幹　事　八　名
第四條　會長及び副會長は幹事之を撰擧し幹事は各町村より一名宛を撰出し任期は二ヶ年とす
但し一ヶ年毎ﾆ半數改撰
第五條　會長は本會を監督し副會長之を助け會長故あるときは之れに代る者とす幹事は驅除の方法及び實行に關する件を審議し自巳町村の監督をなす者とす會員は各自驅除を勵行する義務ある者とす
第六條　春蠶催青前及び収繭後に於て準備及び報告の爲め二回の幹事會を開き尙必要と認むる臨時會を開く事ある可し
但し開會の期は會長之を定む
第七條　春蠶収繭の期に至れば幹事は自巳町村會員にして生繭を所持する者に向て蠁蛆を散逸せしめざる爲め捕蟲器を装置せしむ
第八條　會員の捕蟲したる者は猥りに放置する事なく必ず自巳町村幹事に之を集む可し
第九條　驅除の完全を期する爲め幹事は他町村幹事に注意する者とす
第十條　必要と認むるときは本會の區域を擴張することある可し
第十一條　本會規約は幹事多數の意見にあらざれば變更することなし
第十二條　本會規約は明治三十三年度より實行する者とす

桑葉蟲驅除

桑葉蟲は當地桑園一般ﾆ繁殖し其區域は實ﾆ數百町歩に渉り其被害の度も甚だしければ栽桑養蠶家は熱心に驅除に從事すれども其効を見る蓋し期年ﾆ非ざる可し其詳細は他日報することある可し捕蟲器は多く半圓形にして其捕獲する害蟲の數は知る能はすと雖も宅地近傍の桑園には一反歩にして一日四五合位中ﾆは已ﾆ收穫皆無の者ゟ有之候

◎明治三十三年度揖斐郡昆蟲研究會事業設計

岐阜縣揖斐郡昆蟲研究會

一本會は明治三十四年四月岐阜市に開く第一回全國昆蟲展覽會出品準備の爲め特別委員を設置し一切の事務を分掌すること

一本會特別委員は左の區域に依り受持委員協議之上諸般の事務を取扱ふものとす

區別	昆蟲採集所位置	區域町村名	受持委員氏名
第一區	小嶋小學校内	春日、小嶋、養基	樋口貞雄　△大岩祐夫　窪田悟三　河村濱助
第二區	温知小學校内	本郷、池田、宮地、八幡	原篤三　△織田金吾　若原彦造　國枝秀治
第三區	大和小學校内	揖斐、北方、大和、久瀬、坂内	竹中政一　△遠藤熊次郎　林治郎右衛門　平子喜一郎
第四區	西郡小學校内	清水、西郡、谷汲、長瀬、横藏	上田讓一　△長屋米次郎　宇野常松　弓削良彌
第五區	鶯小學校内	川合、鶯、大野、豊木、富秋	小森省作　△長沼爲助　坪井春吉　平野武次　長屋郁郎

一前表の如くにして各區に一名宛他區と打合せ等便宜の爲め△印あるものこれに當らしむ

一昆蟲採集用具並薬品は左の如く配置す

一青酸加里一瓶　針貳百本つゝ各委員に配付す

一昆蟲貯藏箱(三個を以て一組として五組)壹組つゝ翅伸板拾枚つゝ那布答林(薬品)等は五ケ所の收集所に配置す

一出品意匠に關する件は各區委員の撰定に任す

◎昆蟲に關する葉書通信 (三)

(十三)田鼈産卵の狀、 靜岡縣神村直三郎、 六月二日午后四時頃昆蟲採集の歸途一小池畔を過ぐ該地たる至て水淺くして眞菰、蛭藻など多く生ひて水面は僅かに其葉間より透し見るを得るのみ池中には眞菰の古き苅株あり水面より上ること一尺五寸許りなり其尖端にタガメの倒になりて甲を西日ょ晒すを見たりこれは龜などの如く時々甲を日に晒すにやいざ捕獲して家土産にせんとタモを伸して捕へんとせしに彼れは逸早く水面に降り行衛不明となりぬ歸て思ふ彼れは甲を晒すにあらずして若しや産卵せんとするにはあらずやと翌三日又々同所に出かけぬ眞菰の苅株は依然昨日の如く立てりタガメは影もなし尙其先端を熟視せしに果せるかな粒の卵子産附せられてありこれ昆蟲世界第十八號の挿圖に示されたるものと同物にして俗誤てイナゴの卵なりとするものなり即持歸りて飼育す此一小觀察にしてタガメの倒懸産卵することと及俗イナゴ卵と誤られるもののタガメ卵に相違なきを確かめ得たり同卵孵化せは他日御報告申さん

(十四)天龍河畔の瓢蟲、同上、 草萠ゑ、柳 煙るの四月五日天龍の河畔瓢蟲群をなす就中最多きはカメノコ、七ツ星、九星、十一星、二星、四ツ星、十六星、十九星、等ょして白星、ヒメ赤星、ヒメカメノコ、ベニヘリ、マリガタ、赤ホシ等最も少しく交れり其發生の順序を云へば四月中旬頃まではカメノコ、七星最多かりしが同下旬に至りては十六星、十九星最多くなれり加之其翅鞘の黒点漸次小くなりて且少くなれり、これ昆蟲世界第廿六號挿圖中十七より廿四の純黄色のものまで變化する順序を數十種の階段十分て一時に見るを得たりこれを順次列を正しくし紙に貼付せしに實ょ一の美觀なり此變色變紋は「二星」にて「四星」にもありて夏期に至れは其赤色部は黄色に變ずるを普通と

すこれも亦氣候變形の一か呵々

(十五)天牛の寄生蜂、三重縣村田藤五郎、三月三十日越冬の天牛採集せんと山林に行き天牛の蝕入せし櫟の木を割りしゝ望みし天牛は一疋だに得ず却て此穴に馬尾蜂二十六頭の群を爲し居るを得たり其体長一寸余觸角は長く全身赤餅色にして翅ゝ黒紋あり尾は長さは六寸短きは四寸許にして二十六頭の內九頭は斧にて割りし際斧の爲め毀損し到底完全なる標本の見込なく殘り十七頭は標本となしたり其內雌八頭、雄九頭思ふに此寄生蜂は天牛の幼蟲に寄生し生長して馬尾蜂となりしならん

(十六)共同驅除、滋賀縣木戸元吉、苗代に於て此頃澤山螟蟲浮塵子の卵有之直に見本を持て村役場郡役所等へ報告致し我滋賀郡堅田村は今日(五月三十日)より共同的驅除採卵に着手罷在候尤も採卵の方法は婦女子に申聞せ置き候に付村內の好評を得候何れ好成蹟を得ば直に報告仕る可く候草々

いろ〳〵の蟲も見出す五月かな

(十七)害蟲の令達、靜岡縣大庭莊一、農二五一號害蟲驅除豫防は初發の時期に於て之を施行すること勞尠くして効多きは敢て多言を須ざる所なり現に昨年苗代に於て齊一驅除の實行は施行上便利多大なりしのみならず一般當業者の注意を惹起し効果頗る顯著なりしを認む今や漸く害蟲發生の時機に際す依て此際其所轄內齊一に施行せしめ彼是弛張なき樣驅除の勵行ゝ努めらるべし、明治卅三年五月廿八日磐田郡長池田忠一

(十八)螻蛄大小麥を害す、埼玉縣長野孝司　埼玉縣南埼玉郡內一部の麥は四月四、五日、頃より所々黃枯するものあり依て之を調べしに全く螻蛄の被害なるを知れり而して同月廿日頃に至り被害益々甚しく中には三割以上の害を被りたるものあり被害の多き所は多量の堆肥を施したるもの麥の繁茂

晩かりしもの等なり

（十九）共同驅除の必要、京都府辻原七五三之助、余は京都府船井郡蠶糸業組合事務所に職を奉する者なり四月末當地各所を巡回致せしに桑葉蟲發生し大に桑葉を食し殆んど皆無に歸したり依て半圓形捕蟲器を以て共同驅除をなさしめしに苦も無く退治し盡せり是れ全く共同的驅除なるを以て此好結果を見るに至れり

（二十）昆蟲風、愛知縣山本秋三郎、予は三河小山に住居する昆蟲擬風神にて名和昆蟲研究所の全國害蟲驅除講習會の第一回に於て修業し雲に乘りて大空を自由に飛び廻り一たけに余る大法螺を吹きたてるからそこら邊にひゞき渡る、晝は小學兒童に向ひ昆蟲思想を養成し夜は青年會員に向ひ講習し既に其第一回を終へた又去る五月四日には本郡南部各小學校生徒千八余り聯合大運動會を本校にて行ふたに付昆蟲を以て運動會の大額面を作りて出したら千余人の者眼をまわしたこんな事は斯道發達の所では何でもない事であらふが本郡の如き未熟の所では大に昆蟲風が吹くと云ふのだそこ〳〵害蟲驅除の必要を感じたと見ね苗代は悉く短册形となつた

◎キツヅリムシに付質問

京都府船井郡上和知村　野間貞三郎

生一日或る家の養蠶室に入りしに別封の如き蛾數多室の天井、戸、壁等に靜止或は飛翔致し申居候

生の考へは除沙用の籾糠中より出でしものならんと存候而して其際にも除沙前にて蠶座に籾糠盛り有り申候右は如何なる名稱の蟲にして習性經過の大要御手數ながら誌上に於て御敎示願上候也

答　　名和昆蟲研究所助手　名和梅吉

現蟲を見るに鱗翅類蛾類中キツヅリムシ科（Galleridae）に屬する者にして和名キツヅリムシと稱し學名は Melissoblaptes tenebrosus. と云ふ元來此蟲は倉庫内に多き種にして是米の害蟲の如く思はるれども全く然らずして倉庫内にある桶、箱柱其他板等に穴を穿ち食入して糞を綴り大害するとあり故に該蟲の害するのは木質部なりとす年々五月下旬より六月上旬に於て最も多く羽化して飛翔するを常とす而して交尾の后ち木質部の表面に產卵し孚化すれば木質内に食入して成長す該蟲は一年一回の發生なり之を驅除するには倉庫内にありては羽化の際に硫黄を燻蒸するを可とす又二硫化炭素を廣口の器中に盛り倉庫内所々に置き揮發せしむれば該蟲を殺し得べし最も兩種の分量は倉庫の粗密及び廣狹に依りて自然差異あれば一定すると能はず又他の場所に於ては捕蟲器にて捕殺するも亦可なり因に該蟲に就ては三河國渥美郡大崎村小柳津廣三郎氏其他二三ヶ所よりの質問ありたり

キツヅリ蟲蛾の圖 ♀

○大麻の象鼻蟲に付質問

廣島縣甲奴郡上下町　川上章次郎

却說別封の害蟲は大麻に發生し莖幹の柔部に彼が口吻を挿入して養液を吸收し其痕跡大麻の成長するにつれ漸次膨大となり大麻の目的とする纖維を損害する盖し尠少に非ず而して該蟲は每年五月中旬より下旬に向け發生し其性質最も活潑に且つ極めて狡猾なる者にして摘殺若くは掃捕法等は中々

容易の業に無之依て之が名稱並に生活の經過及驅除豫防の良法等詳細御敎示被下度標本相添へ此段願上候也

寄　蟲　生

〇答

現蟲を見るに甲翅類中象鼻蟲科に屬する所のアサノザウムシと稱するものなり該蟲は常に大麻に發生し莖幹に穴を穿ち其內に產卵す孚化すれば該部を食害せり而して此成蟲は擬死して能く墜落する性あれば之を驅除するには該性質を應用し下方に捕蟲器を受け其中に掃ひ落して驅殺すべし又被害莖は取去り后害を防ぐにあり

◎椿象及卵塊に付質問

若狹國大飯郡昆蟲講習修業生　松井榮治郎

余本年六月十日桑園に於てナナホシテントウムシに類似せる甲翅類に屬する昆蟲及其傍に右昆蟲の卵塊とも思ふべきもの〻(白さと黑さとあり)附着するを見當り候併ながら其害益蟲なるや不明に付現品御送附申上候間乍恐縮昆蟲世界誌上にて御敎示奉願候也

答　寄　生　蟲

添附の現品を見るにナナホシテントウムシに類似するものとは全く半翅類中椿象科に屬する一種の幼蟲にして甲翅類にはあらざるなり而して卵塊は椿象の卵子なり其白きものは孵化し出でたる卵殼黑きものは未だ孵化せざるものなりとす此種は有害蟲なり

雜報

◎害蟲驅除講習會趣意書並に改正規則

本所主催と成り開設の全國害蟲驅除講習會趣意書並に改正規則は左の如し

◎害蟲驅除講習會開設趣意書

我邦古來農を以て立國の大本とし農産の豊凶は國力の消長と相待つて其影響する所極めて深し矣年幸にして豊に五穀倉廩に充つるあれば四民壤を撃つて舞ひ天下洋々として和氣の靄々たるものあるも不幸農産にして凶作を告けんか饑孚途に横はり悲惨眼を蔽しむるあるは史上其實例に乏しからず而して農産の凶作は天候其他種々の基因ありと雖ども最も吾人の寒心すべきものは實に害蟲なりとす試に去る三十年に於ける浮塵子の被害を回想せよ其筋の調査に依れば米作に於て無慮七千五百萬圓の被害なりと謂ふに非ずや之を過去封建の時代にあらしめば必ずや饑孚の途に横はるものあらん然れども幸に文明の時代に在つて外國との交通は此驚慌を免れしめ單に算數の上に於ける損失に止まらしめたるは吾人の至幸なりとす想ふに害蟲をして其猛威を逞ふせしめ農産物の收穫を減殺せしむる所以のものは畢竟世人の昆蟲思想に乏しく害蟲を見る頗る冷淡なるに歸せずんばあらず曩に我政府は法律第十七號を以て害蟲驅除豫防法を發布し蟲害を未然に防過せんとしたりしも法律の精神は未だ當事者の間に貫通せず之か運用の道に於ては眞に隔靴の嘆なき能はず法をして死法たらしむるは固より吾人の望む所なりと雖ども其妙用を知らずして害蟲の跋扈に委するか如きは吾人の常に咄嘆する所なり

害蟲の驅除豫防に對する現況夫れ斯の如しとせば之に處する目下の方法果して如何他なし昆蟲學思想を養成して害蟲の性情經過を知らしめ延いて益蟲の保護を奬勵するに在り害蟲益蟲の性質を知らずして驅除豫防を遂行せんとするは恰も木に縁つて魚を求むるの類のみ何んぞ害蟲を絶滅し得べけんや本所長名和靖は多年身を昆蟲學の研鑽に委ね斯學の上に於て自ら發明する所尠しとせず近來害蟲の發生其多きを加ふるに隨ひ益々此方法の必要を覺ゆると同時に蟲害除去策は必らず此方途よりせざるべからざるを確信し現に數多の地方に之か實行を試み其効驗の顯著なるを認識

したり然れども未だ門戸を開いて特に其意見を披陳したることなく僅に一地方の招聘に應したるに過ぎす其効験の顯著なるにも拘らず全般ニ洽からざるは吾人の遺憾とする所にして斯の如きは復た本所の抱負に非るなり是れ今回害蟲驅除講習會を開設して廣く入會を勸誘する所以なり昆蟲學は實學にして單に書籍文字のみを以て研究し得べきものに非ず幾多の標本と幾多の實習に依り初めて其門戸を窺ふを得べし本所は夙に世人の知るか如く豐富なる標本と熟練なる助手は入會者の好侶伴として尠からざる利便を與ふるを以て短期の講習も比較的其効驗の顯著なるべきは本所の確信する所なり左れば本所は科學的愉快なる昆蟲學の大体を知らしむると倶に害蟲益蟲の性狀を説明し驅除豫防の方法を講究するか故に之を一方よりすれば個人的なりと雖ども他方よりすれば國家的事業なり涓滴も集つて洪河を爲し本所の微意も他日害蟲の撲滅に幾分の効なしとせんや唯だ一片農界を思ふの餘り鄙衷凝つて害蟲驅除講習會の開設となれり本所豈ニ奇を好むものならんや目今の現狀止を得ざればなり請ふ此趣旨を諒して奮つて入會あらんことを

明治三十二年七月

岐阜市京町　名和昆蟲研究所

◎害蟲驅除講習會規則

第一條　本會は平易なる昆蟲學思想を養成し害蟲の驅除豫防を講習するを以て目的とす

第二條　本會は岐阜縣岐阜市京町名和昆蟲研究所内に開設す

第三條　本會に於て講習する科目左の如し

一　昆蟲學大意
一　害蟲驅除法
一　益蟲保護法
一　野外實習
一　昆蟲採集並ニ標本製作法

第四條　本會開期は明治何年何月何日より同年何月何日迄とす

第五條　本會講習人員は四十八を以て定限とす

第六條　講習員應募者定數以上に及ふときは其申込みの順序ニ依り之を許否す

但許諾の有無は豫め通牒す

第七條　講習員は左の各項に該當するニあらざれは許諾せざることあるべし

一　高等小學校卒業以上又は年齢滿十五才以上にして之と同等以上の學力を有する者
一　品行方正にして學資の負擔に耐ふる者
一　身体強壯なる者

第八條　講習員たらんと欲するものは別紙雛形の申込書に履歴書を添付し所轄市町村長の證明を經て本年何月何日迄に本所へ差出すへし

第九條　講習會費は金參圓とす

第十條　講習申込者に對し許諾の通知をなしたるときは直に會費の半額を豫納し猶開會の初日殘半額を納付するものとす

第十一條 講習中退會せんとするも相當の事由と認むる証明なきときは退會することを得ず

第十二條 講習中不都合の行爲あるときは退會を命する事あるべし

第十三條 講習の科目を終りたる者には別紙書式の修業証書を授與す

第十四條 既納の會費は如何なる事情あるも之を返付せす

附則

第十五條 講習修了後と雖も本所に質問調査等を要請するときは速に應答の勞を取るへし

但返信用郵便切手を添付すへし

第十六條 講習中は四人を以て一組となし互撰を以て毎組に組長一人を定めしむるものとす

第十七條 組長は借用品を管理し其他組內一切に關する代表者たるべきものとす

第十八條 講習時間割及寄宿舍規程講習員心得等は別に定むる所に據る

第十九條 講習員は本所所定寄宿舍に入舍するを要す

但寄宿料は一日金貳拾錢以內とす

第二十條 講習員講習中は羽織、袴着用するものとす

（用紙罫半紙）

害蟲驅除講習申込書

何縣（府廳）何國何郡（市）何村（町）何番戶（地、邸、號）平民（華、士族）何の誰長（次）男

何之誰

何年何月生

右今般害蟲驅除講習會開設相成候就ては私志願に付御規則之趣堅く遵守可仕候間御許容相成度候也

年月日　右　何之誰㊞

名和昆蟲研究所長名和靖殿

前書之趣相違無きを証明す

年月日　市町村氏名㊞

（用紙同上）

履歷書

何縣（府廳）何國何郡（市）何村（町）何番戶（地、邸、號）平民（華、士族）何の誰長（次）男

何之誰

何年何月生

一何年何月何日何々學校卒業又は何學年修業

一何年何月より何年何月迄何々會又は何之誰に就き何々學科修業

一官廳又は學校役場會社等に在勤したるときは其官名年月日又は役名及辭職の年月日

一何年何月より農業に從事云々

一賞罰

右相違無之候也

年月日　右　何之誰㊞

修業証書

何縣（府廳）平民（華士族）

何之誰

何年何月生

右本所規定の第何回全國害蟲驅除講習科目を修了せしことを証す

年月日　名和昆蟲研究所長名和靖㊞

◎諸氏の來所　五月十二日伊豫國北宇和郡成妙村字大藤芝重義氏、十三日岐阜中學校敎諭長野菊次郎、千葉眞弓、高橋政太郎の三氏、十四日愛知縣西加茂郡書記松下常晃氏、同郡農事敎師青山彌曾八氏、同郡本城村福井花重氏、本巢郡穗積小學校訓導中山德松氏及同校職員二名、十五日岐阜師範學校敎諭總山文兄氏外一名、十六日武儀郡富之保小學校敎員丹羽林四郞氏、慶應義塾々長鎌田榮吉氏同塾員福澤一太郞氏同營學應氏時事新報社員北川禮弼氏、十七日福井縣今立郡鯖江高等小學校訓導上田莊之助氏、同縣敦賀郡敦賀高等小學校訓導栗原直林氏、同縣丹生郡白山尋常小學校訓導龍谿光圓氏、同郡朝日尋常高等小學校訓導細川長七氏、富山縣射水郡下村廣瀨勝次郞氏、同郡老田村多喜十吾氏、十九日岐阜市高等小學校訓導保々克巳氏、岐阜地方裁判所書記鵜飼絖氏、京都市第一高等小學校訓導川久保實馬氏、二十日大垣興文高等小學校訓導岡田瀧之助氏、同近藤乙吉氏、神戸市玉井魁助氏、大垣中學校敎諭小川三策氏、二十三日日本瓦斯消毒合資會社取締澤田善助氏、廿五日岐阜中學校長淺井郁太郞氏の案內にて韓國咸鏡道定平郡、韓錫璐氏、廿六日滋賀縣保安林調查員水谷仙松氏、岐阜縣惠那郡々參事會員梅田耕二郞氏、山梨縣蠶種合資會社員中込菊馬氏、奈良縣北葛城郡馬見村杉岡恒治郞氏、三十日千葉縣香取郡農會副會長深井康邦、同郡佐原尋常高等小學校長宮山宜廣二氏、六月三日千葉縣夷隅郡上瀑村伊島伊之助氏、四日岐阜縣加茂郡川邊尋常高等小學校佐々木龜次郞、同郡鹿塩尋常小學校大谷龜治郞、同郡蜂谷尋常小學校大脇儀三郞、武儀郡博愛尋常高等小學校村瀨吉六、本巢郡船木尋常高等小學校今西孫一、羽嶋郡上中島尋常小學校東松源市、武儀郡下牧尋常小學校兒山四郞、同校古田繁藏、同校古田宗一、東京牛込區矢來町敎育研究社高島平三郞、岐阜縣可兒郡塩河小學校可兒市太郞、同郡上之江小學校日比野常三郞、愛知縣幡豆郡西尾尋常高等小學校菅幸三郞、同郡橫須賀尋常高等小學校市川久四郞の十四氏、六日岐阜縣郡上郡八幡尋常高等小學校訓導白井胤保岐阜市高等小學校訓導小木曾恪次郞、滋賀縣愛知郡押立尋常高等小學校渡邊是意、同校勝間定吉、愛知縣第一師範學校長三浦渡世平、同校助敎諭野村勝三郞、二氏、七日より八日迄農商務省西ヶ原農事試驗場技師小貫信太郞氏其他縣下の有志者百數十名何れも來所の上昆蟲標本を縱覽し或は夫々取調へをせられたり

◎學校生徒の來所　五月十六日岐阜師範學校生徒梅田倉藏氏外二十名、岐阜中學校生徒岩井底爾氏外四名十七日岐阜中學校生徒野〇三秀氏六名、十八日縣下山縣郡高富高等小學校訓導武藤

重太郎氏同校生徒八拾五名並に安八郡登龍尋常高等小學校中野嶺律氏同校職員生徒七拾七名廿日縣下加茂郡川邊尋常高等小學校職員生徒七拾貳名同郡麻生尋常高等小學校職員生徒四十八名、卅一日岐阜縣加茂郡今泉尋常高等小學校長田口淸城外職員生徒三十六名、同縣稻葉郡岩田尋常小學校長尾藤岩次郎外職員生徒五十名は何れも來所の上昆蟲標本を縱覽せり

◎第六版圖の説明　第六版の下圖は明治三十二年岡山縣に於て奬勵金四千五百四拾圓を以て螟蟲採卵せしめし所約三千万塊を得たり今各郡役所より同縣廳へ集め紀念の爲め堆積の實況を寫眞せし所なり其高六尺一寸縱十八尺橫二尺九寸にして實に三百十八立方尺なりと云ふ昨年の成蹟良好なりしと雖も風害の爲め顯著ならざりし故本年は奬勵金七千圓に增加して一大共同驅除を勵行せらるゝと云ふ然るに岡山縣全体にて約三千万塊蒐集の所赤坂磐梨郡にて三分の一即ち一千万塊を蒐集したるは著しき差異と云ふべし今其原因を尋ぬるに第六版の上圖に示すが如く三十一年五月同郡に於て各村より一名宛有志者を集めて一週間害蟲驅除講習會を開設したる力尤も多しと云へり是を見ても昆蟲學思想を養ひて後驅除するにあらざれば効果少きを知るに足れり尤も赤坂磐梨郡は勿論同縣下一般婦女子の採卵に從事したるもの多くして且つ尤も其成蹟良好なりと云ふ
因に記す同郡にては本年左の如き害蟲驅除豫防に關する注意をなせり
一苗代地へ作人の住所氏名を揭記せしむること
一苗代地の廣きものは(巾四尺以上のもの)踏切をなし採卵並に注油方を容易ならしむること
一網羅捕獲及採卵法は每朝午前十時迄の間を最も好時刻とす尙採卵法に就ては細竹を以て漸次苗葉の上を撫て發見を容易ならしむるの手段を取り採卵すべきこと
一採取したる卵塊は便宜の所に集め益蟲を保護すること
一採取したる卵塊は他日奬勵金下付の材料なるに依り二百塊づゝ一括とし採取者は村役場へ村役塲は個人別とし郡役所へ提出すること(中略)

一大字毎に豫防委員を設置し其大字に對する害蟲驅除監督をなさしむること
一十戸内外を以て組合を設け其組合に組長を置き組合内の取締をなさしむること
一驅除監督及取締の任にある者に於て實地臨檢の際驅除不充分と認めたる時は再驅除を命すると同時に氏名を掲記したる建札に赤紙を貼付し置くものとす

◎第十八回岐阜昆蟲學會　同會第十八回月次會は六月二日(第一土曜日)午后壹時例に依り當市京町縣農會樓上に於て開會し第一席名和昆蟲研究所長名和靖氏は開會の辭、第二席縣下羽島郡昆蟲講習員加藤彥十郎氏は一場の挨拶、第三席第四回全國害蟲驅除講習生(和歌山縣)湯川熊二郎氏は三化生螟蟲に就て、第四席同講習生(佐賀縣)綾部源橘氏は二化生螟蟲と三化生螟蟲の區別に就て、第五席本縣屬日比野新氏は桑樹の害蟲シンムシ驅除に就て、(一先休憩)第六席京都府石原米次郎氏は螟蟲其他二三の害蟲に就て、第七席第四回全國害蟲驅除講習生(愛知縣)水野龍二郎氏は所感に就て、第八席縣下揖斐郡昆蟲研究會代表者窪田悟三氏は昆蟲研究の所感に就て、第九席縣下羽島郡書記小島浩氏はヒメゾウムシ共同驅除に就て、第十一席縣下本巣郡書記高橋磐三郎氏は改良苗代獎勵の結果に就て、第十二席第四回全國害蟲驅除講習生(富山縣)江尻豊太郎氏は寄生蜂に就て、第十三席名和靖氏は昆蟲學に就て各有益なる演説ありたり出席者は七拾余名閉會せしは同六時當日は第四回全國害蟲驅除講習會開設中にて盛會なりしと云ふ

◎心蟲視察の實況　岐阜縣下武儀郡上益田及び加茂の四郡に於ては桑樹に心蟲と稱する害蟲發生して年は一年と其發生區域を廣むると同時に益々被害旺盛となるの景況あるが爲め昨年模範として各郡に一部宛の共同驅除を施行せられたり然るに其結果良しきを以て本年は一般に驅除を勵行することゝなれり余は之が視察として去月廿三日より廿七日に至る五日間武儀、益田、惠那、加茂の四郡へ出張して取調べたれば今其景況を記さんに武儀郡菅田町金山町、益田郡下原村及び加茂郡東白川村等に於て昨年非常なる發生にて共同驅除施行の結果本年は發生極めて少なく各地平均三分

桑樹害蟲心蟲の圖

の一位の發生に止まれり之に反し昨年發生少なき爲め驅除をなさゞりし益田郡の下呂町、竹原村惠那郡の加子母村及び加茂郡の西白川村邊に於ては實に意想外の發生を見るに至れり右之内最も被害の甚しきは益田郡の竹原村並に惠那郡の加子母村なりとす該地に於ては殆んど皆無の塲所ありて折角掃き立てたる蠶兒を放棄するの止むを得ざる養蚕家あるに至る之に依て如何に被害の旺盛なるかをを知るに足らん夫れ斯の如く被害を蒙り驅除せんとするに當り一般農家の該蟲驅除に對する意を觀察するに誠に憐むべき考へを以て之に當り殆んど御義理的に驅除するの有樣なりき之に就ては依て來る理由多けれども第一は驅除前に當り一般農家に害蟲の經過驅除の方法等を充分に知らしめざることなりとす實に何れの害蟲を驅除するにも只命令的に取れとの指圖丈にて之が施行を爲すときは必ず斯の如き弊害を來すものなるや余の信ずる所なり尙は之等ょ就き記載せんと欲すれどもそは后日に讓ることゝなす（名和梅吉記す）

◎不破郡害蟲驅除講習會景況　岐阜縣不破郡に於ては本月一日より五日迄都合五日間同郡垂井町高等小學校を會塲となし當所長名和靖氏を招聘して害蟲驅除講習會を開設せしが講習生には小學校敎員町村役塲勸業主任農事講習生其他熱心なる有志家等にして約九十余名なりしが其内種々已を得ざる事故に依り全く修業証書を得たるものは七十七名なりしと云ふ

◎稻葉郡小學校教員昆蟲講習會景況　同會は五月七日岐阜市京町縣農會樓上に於て津田稻葉郡長岡田同郡視學高井郡書記名和昆蟲研究所員及講習生一同列席の上其開會式を擧け爾來引續き規定の會期五日間講習を爲し同月二十日午后二時修業生三十名に對し修業証書を授與したりと云ふ因に記す十日は皇太子殿下の御慶事に就き特に休課す

◎三河國渥美郡昆蟲研究會　同會は客月十三日渥美郡豐橋町に於て名和靖氏を招聘して其總會を開きたりしが當日は出席者頗る多く非常よ盛會なりし由にて宮林同郡書記開會の辭を述べ直に會議に移り先づ役員の撰擧を行ひたるに岡田郡吏員會長に宮林氏副會長よ其他支部長には同郡の小學校教員昆蟲學修業生數名撰擧せられ次に討議に移り苗代田に有益蟲保護として螟蛉を捿止せしむる爲め捧を各所に建つる事及び三十三年度豫算案等にして終りに名和氏及び岡田氏の講話ありて無事閉會せしと云ふ

◎遠敷郡害蟲驅除講習會景況　福井縣遠敷郡農會の主催にて五月廿三日より廿七日迄五日間同郡小濱町に於て名和當所長講師に招聘し郡内の有志者を集めて害蟲驅除講習を開設せしが山田郡長の熱心に依り農事繁忙の際にも係らず多數の出席者あり尙教員の小學校生徒を引き連れて代る〳〵傍聽せしめしと云ふ

◎第四回全國害蟲驅除講習會　同會の記事は一切次號の誌上に掲載する筈なれば讀者諸君請ふ是を諒せよ

◎丹後昆蟲研究會　前號雜報欄內に昆蟲採集旅行の先鞭者として掲載せし第一回全國害蟲驅除講習修業生星野友治氏は岩見勇藏(第一回修業生)谷口鶴藏糸井德三郎、森久吉(第二回修業生)の諸氏と丹後昆蟲研究會なるものを組織せんとて去る十六日與謝郡文珠に於て會合し種々協議を遂げたる由なるが愈來る六月中旬を以て採集施行を試らるる事に決定したりと云ふ今研究會組織に就て決議せし要領を聞くに左の如し

一、丹後昆蟲研究會を組織し各郡農會及蠶業會等と結托し其効果を全ふする事
一、毎年四回定期會を開くこと　但し時宜により臨時會を開くこと
一、毎年二回採集旅行をすること
一、農作物中主なる害蟲及び其驅除豫防法を印刷し各町村農會へ配布すること
一、各郡小學校兒童に昆蟲思想の養成を敎員へ依賴すること
一、農產品評會等へは標本を出品すること

一全國各實業團体と氣脈を通ずること

因に記す同會は無料にて入會を許し費用は主に講習生にて負担する筈なり

◎試驗場長會議に於ける昆蟲問題　各府縣農事試驗場長會議は四月十日より農商務省會議室に於て開會されたるが今政府の提出ゟ係る昆蟲に關する諮問案並に其答申案を聞くに左の如しと云ふ

昆蟲の名稱を一定するの方法如何

說明、害蟲驅除豫防法施行の際其名稱一定せざるが爲め往々疑議を生ずるの點少しとせざるを以て今日に於て其名稱を各地共に一定し置くの必要ありとす從て之を一定するの良法ありや否や若し良法ありとすれば如何なる方法に依るべきや其意見を開陳せられよ

右答申案

一、中央ゟ昆蟲名稱調査會を設くる事但し調査會員は農商務省農科大學、理化大學、農商務省農事試驗場、職員より任用せられたき事

二、各府縣ゟ一人宛の調査委員を設くる事

◎奥羽實業會の昆蟲問題　奥羽六縣聯合實業大會は曩に宮城縣に於て開會せしが其決議案中害蟲驅除に關する事項を左に摘載す

一　農作害蟲（果樹害蟲をも包有す）豫防驅除を充分ならしむる爲め概ね左の方法を以て取締嚴行の義を聯合縣知事に建議の件

（一）各小學校敎員に昆蟲思想を注入せしめ理科敎授の際生徒をして害蟲の恐るべき事を會解する樣講話せしむる事

（二）各小學校ゟは成可く昆蟲に關する書籍標本及驅除器械等を備付けしむる樣訓令を發する事

（三）縣郡費市町村費の補助を以て小學敎員の昆蟲講習會を開かしむる方針を取る事

（四）萬一害蟲發生の際には小學生徒に驅除せしむる樣時々實習せしむるの方針を取る事

（五）聯合各縣に於ては勸業及學務主任會議を開きこれが取締及實行に關する法規手續等を協定し成る可く六縣同一の方法を以てこれが勵行を期する事

（六）害蟲の恐る可き事を一般農家に知らしむる手段を取ると同時に有益蟲保護の必要をも普く知らしむるの方法を取る事

（七）本事業は成るべく本年より實行を期する事

理由

農作害蟲の恐るべきは農家の一般に知る處なるも未だ其方法の完全せざるが爲め年々一割乃至二割の損失を來すは統計上明白なる事實とす然れども我か東北地方は昆蟲思想の普及發達充分なら

ざるより如何に各級農會に於て苦慮するも未だ以て豫防驅除の實を擧げ得ざるは勿論甚だしきは其所要經費の半を償ふ能はざるものゝ如し依て此際學校の援助を得て根底より昆蟲思想を涵養すると共に其實効を他日に期せんとす而して之れをなさんには畢竟聯合六縣の共同的事業となさゞれば得て好結果を望むべからざるを以て本文陳述の旨意に依り本年より漸次實施あらん事を望む所以なり

一　農作有害蟲及有益蟲調査會設置の義を農商務省に請願の件

理由

農作上有害と認むべき蟲類は勿論之れが仇敵たる有益蟲類を調査し我が國の害蟲豫防驅除に對する方針を定め兼而有益蟲の保護をなさゞれば農事の改良進歩を期し難きは之れを既往の實驗に徴して昭なり而して農事上牛馬蠶業等には既に調査會を設けられたるも一年約二千万圓の損失（一昨年は全國の水田に於て千七百万圓の損失なりしと云ふ）を來すべき害蟲に對つては未だ何等の施設する所なく各農事試驗塲に於てすら研究を爲さゞるもの丶如し豈遺憾なしとせんや顧みれば先年滋賀縣には蟲害の爲めに地租を延期せられたるあり今又香川縣に地租を免除せられたるあり若し年々此く損害を受くる事あらば農家は如何にして能く其租業を維持すべき思ふて一念此に至れば瞬時も調査會の開設を促かし以て農家慶福の增進を期せざるなり

◎新刊雜誌の昆蟲記事

新刊雜誌中に掲載せられたる昆蟲に關する重なる記事は左の如し

（一）愛媛縣農會報（第拾參號）農業上に於る昆蟲と題して山內幹衛氏は昆蟲の變体等に就き尤も面白く説明せらる

（二）岡山縣農會報（第拾壹號）稻螟蟲の話と題して是永久磨雄氏は圖入にて二化生螟蟲の發生經過より驅除豫防法を詳記せらる

（三）山梨縣農會報（第拾號）中巨摩郡田之岡村及百田村害蟲視察と題して野澤豁氏は桑樹の害蟲クワハムシに就き視察の實況を詳記せらる

（四）愛知縣農會報告（第參拾參號）麥大浮塵子と題して美濃部鏘次郎氏は葉栗丹羽兩郡地方に發生したる麥大浮塵子に就き調査されたる實況を詳記せらる

（五）實力（第貳拾貳號）小學兒童に農作物害蟲驅除豫防法を實行せしめ併せて昆蟲思想を養成すべしと題して圖入にて尤も有益の說を載す

（六）青年農會報（第參拾九號）昆蟲雜記第廿五は名和梅吉氏浮塵子の名稱と實物の相異、農家苗代改良の意を知らず、ツマグロヨコバイの產卵等の記事を載す

（七）實業之日本（第參卷第九號）害蟲要說と題して昆蟲生氏は蔬菜のアブラ蟲に就き分類し且つ簡單に驅除法を述べらる

○害蟲圖解出版廣告

○第一桑樹害蟲エダシヤクトリ（枝尺蠖）（再版）
○第二桑樹害蟲トゲシヤクトリ（刺尺蠖）（品切）
○第三稻の害蟲イ子ノズイムシ（二化生螟蟲）
○第四煙草害蟲タバコノアヲムシ（煙草螟蛉）
○第五稻の害蟲イチモジセヽリ（苞蟲）
○第六桑樹害蟲ヒメゾウムシ（姫象鼻蟲）（新版）
○第七桑樹害蟲シンムシ（心蟲）（新版）
○第八稻の害蟲イ子ノアヲムシ（螟蛉）（新版）
以上既版

○茶の害蟲ミノムシ（避債蟲）
○豌豆害蟲エンドウノキリムシ（夜盜蟲）
○稻の害蟲ツマグロヨコバイ（浮塵子）
○桑樹害蟲クワカミキリ（天牛）
○桑樹害蟲イトヒキハマキムシ
○茶の害蟲チヤケムシ（茶蛅蟖）
○桑樹害蟲キンケムシ（金蛅蟖）
○稻の害蟲イナゴ（蟲螽）
○稻の害蟲フタホシズイムシ（三化生螟蟲）
○桑樹害蟲アオハマキムシ（青葉卷蟲）
○桑樹害蟲クワハマキ（桑葉卷蟲）
○蔬菜害蟲モンシロテフ（菜の螟蛉）
○松樹害蟲マツケムシ（松蛅蟖）
○梅樹害蟲ウメケムシ（梅蛅蟖）
○梨の害蟲ナシゾウムシ（梨象鼻蟲）
○大豆害蟲ヒメコガ子（金龜子）
以上逐次出版の分

●圖解の紙幅　縱一尺三寸横九寸
●壹枚の代價　拾五錢郵税貳錢
●百枚以上一纏代價　壹枚拾錢郵税百枚に付き貳拾錢

●豫約代價

壹枚拾錢郵税貳錢
但申込の際前金添附の事

圖解代金　凡て前金にあらざれば回送せす但郵券代用一割増の事

右害蟲圖解第一より第八迄は既に發行を成し江湖の高評を博したりと雖も未だ當業者全般に普及せざるの憾なしとせす抑本圖解は鮮明なる着色石版圖にして被害植物の實際より害蟲の性質經過等一目瞭然に描寫し加ふるに平易なる解説を附したるを以て普通農家に於ても尤も理解し易く尤も必需のものたり故を以て岐阜縣に於ては既に之れを採用し各町村農會及小學校は勿論町村役塲警察署等へも頒布せしに一般ゟ害蟲の經過習性等を解得し害蟲驅除上著大の効を奏したりと云ふ依而當所は此際慎勵一番更に重要作物の重なる害蟲を撰擇し逐次出版せんとす而して該出版物に對しては特ゟ豫約と爲し前掲の如く價を低減し大に當業者に及普し實用に適應せしめんとす豫約希望者は速に御申込みあれ又既に出版濟みの分は各町村役塲又は町村農會小學校其他の團体に於て御取纏め一手購求せらるゝ時は大に便利なり乞ふ幸に愛顧を垂れ陸續御注文あらん事を

岐阜縣岐阜市京町　名和昆蟲研究所
發行所

貴郡へ客遊中は種々御款待を蒙り萬謝の外無之候一々御挨拶可申上筈の處歸縣後極めて多忙に御座候間乍略儀以誌上御禮申上候

明治三十三年六月　名和靖

福井縣遠敷郡

辱交諸君

○懸賞昆蟲寫生圖募集

詳細の規定は次號の本欄に掲載す

名和昆蟲研究所

○昆蟲學用器具廣告

●米國新形撿蟲鏡　定價郵税共金壹圓貳拾八錢

●圓形捕蟲器　定價金參拾四錢荷造五錢 送費百里迄八錢外拾六錢

●咽喉付圓形捕蟲器　定價金參拾九錢 荷造送費前同樣

●咽喉付半圓形捕蟲器　定價金四拾五錢 荷造送費前同樣

●咽喉付方形捕蟲器　定價金五拾五錢 荷造送費前同樣

●苗代用不正三角形捕蟲器　定價金四拾六錢荷造送料前同樣

●殺蟲注射器　定價金貳拾貳錢荷造八錢 送費百里迄八錢外拾六錢

●採集箱　定價金七拾五錢送費百里 迄拾貳錢外貳拾四錢

●益蟲保護器　定價金八拾錢荷造費拾九錢 送費百里迄貳拾錢外四拾錢

簡單器械の圖解（一）不正三角形捕蟲器（二）咽喉付圓形捕蟲器（三）咽喉付方形捕蟲器（四）咽喉付半圓形捕蟲器（五）殺蟲注射器（六）船形殺蟲器（七）誘蛾燈（八）益蟲保護器

取次所　岐阜市京町　名和昆蟲研究所

第一回全國昆蟲展覽會

右は當昆蟲研究所主催となりて來る三十四年四月十六日より三十日間當所に於て第一回全國昆蟲展覽會を開設する筈なれば廣く出品あらんことを希望す但詳細なる規則書は昆蟲世界第卅一號の雜報欄内に掲載しあるを以て附て見らるべし

三十三年五月　名和昆蟲研究所

◯購讀者募集

本誌は發行以來漸次改良せしが尚一層改良を加へて愛讀諸君の厚意に酬ひんとす願くば斯學普及の爲め此際廣く購讀者を募集せられんことを希望す尤も紹介者の芳名を本誌に掲ぐるのみならず聊かながら當所調製の紀念品を贈與せんとす請ふ購讀者募集の勞を取られんことを

名和昆蟲研究所

◎昆蟲世界購讀者紹介諸君芳名

福井縣池田定藏君（九名）宮城縣永澤小兵衛君（二名）岐阜縣中島吉三郎君（三名）岐阜縣加藤彥郎君（三名）岡山縣和氣郡農會（一名）京都府岩見勇藏君（一名）和歌山縣石桁雅五郎君（一名）愛媛縣白石大藏君（一名）岐阜縣三輪謙吉君（一名）

岐阜縣農會雜誌號外

名和昆蟲研究所　全一冊

價十錢

名和昆蟲研究所長名和靖著

◎昆蟲學用書籍寫眞廣告

四版　薔薇の一株　**昆蟲世界**　全　定價金廿錢　郵稅貳錢　郵券代用一割增

理學博士佐々木忠次郎先生著
● 日本農作物害蟲篇　郵稅共定價金貳圓

農學士松村松年君著
● 增訂三版 日本昆蟲學　定價金壹圓五拾錢　郵稅金拾貳錢

同君著
● 日本害蟲篇上下貳冊　定價金參圓　郵稅金貳拾錢

同君著
● 害蟲驅除全書　定價郵稅共金九拾五錢

鳥羽源藏氏著
● 昆蟲標本製作法　定價金貳拾五錢郵稅四錢

農學士松村松年君著
● 日本有益蟲一覽　說明書付郵稅共金貳拾錢

農商務省農務局編纂
● 海外ニ於ケル害蟲驅除豫防ニ關スル調查　定價郵稅共金貳拾貳錢

コロンボス世界博覽會出品
● 害蟲標本寫眞帖（三十三枚張）定價金貳圓送費百里迄拾貳錢外貳拾四錢

皇太子殿下獻上
● 中等教育用昆蟲標本寫眞帖（十六枚張）定價金九十六錢送費百里迄八錢外拾六錢

取次所　岐阜市京町　名和昆蟲研究所

Vol.IV. JULY 15TH. 1900. No. 7.

昆蟲世界

第四巻第七冊　第參拾五號

目次　（禁轉載）

PUBLISHED BY THE NAWA'S ENTOMOLOGICAL LABORATORY IN GIFU, JAPAN.

●寄附物品受領公告

一金七圓也　第四回全國害蟲驅除講習員一同

一金參圓也　岐阜市西野町　林諒君

一金壹圓五十錢也　富山縣第四回全國害蟲驅除修業生　江尻豊太郎君

一金壹圓也　山形縣第四回全國害蟲驅除修業生　海和留八君

一米國産昆蟲標本　三百餘種　在米國スタンホルド大學　米國理學士　桑名伊之吉君

一昆蟲標本　七種　福井縣鯖江歩兵第三十六聯隊　森宗太郎君

一端書貳拾枚　岐阜縣惠那郡明知町大字松野　山田儀兵衛君

一渥美郡事業第二報　一冊　三河國渥美郡役所

一巖手縣農事短期講習第一報　岩手縣東磐井郡農事試驗場　小山幸右衛門君

一半身肖像（寫眞壹葉）　第三回全國害蟲驅除修業生　兼吉民治君

一蝙蝠傘柄（蜂蝶の彫刻）一本　岐阜縣大垣高等女學校教諭　迎てる子女

一蝶形香箱　壹個　第三回全國害蟲驅除修業生　橋本亮君

一蝶の簪　三本　秋田縣羽后國平鹿郡八澤木村　大友養之助君

一錫の茶托（蝶摸樣附）　岐阜市四ッ谷裏　林正一君

右當研究所へ寄附相成候に付芳名を掲げ其御厚意を謝す

明治卅三年七月　岐阜市京町　**名和昆蟲研究所**

●廣告

第五回全國害蟲驅除**講習員募集**

開期自七月廿六日至八月八日**二週間**　定員四十名

第五回は時期尤も良好なるを以て希望者特に多ければ至急申込みあれ
但し規則は本誌第卅四號雜報欄にあり

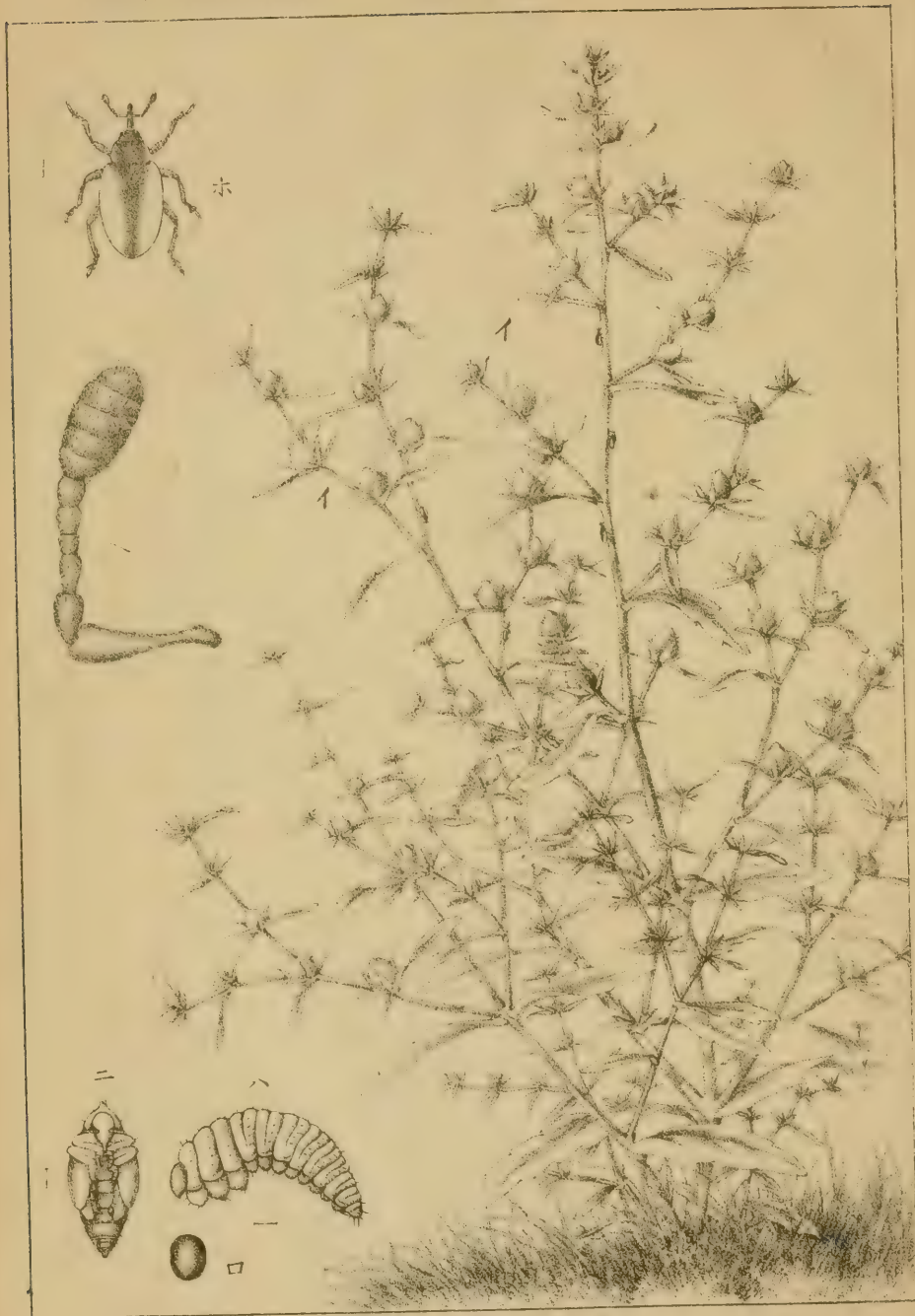
明治卅三年六月　岐阜市京町　**名和昆蟲研究所**

●廣告

本所に於ては是迄昆蟲世界、害蟲圖解其他書籍器具等御注文の節は代金の着不着に拘はらず直に御送附申來り候ひしも斯くては往々代金御送附方延引に相成爲めに數回御請求申上候等非常に繁雜を極め會計整理上不便尠からず依て以后は學校官衙等の外は一切前金に非ざれば發送致さゞる規定に改めたれば今后御要求の諸君は必ず前金にて御申越相成度候最も代金到着の上は直に御注文の物品と同時に領收証をも送附可仕候間右御承知を乞ふ

明治三十三年七月　岐阜市京町　**名和昆蟲研究所**

ムシクサの蟲癭

（明治三十三年七月）

論說

◎ムシクサの蟲癭に就て（第七版參看）

名和昆蟲研究所　助手　名和梅吉

元來「ムシクサ」（Veronica peregrina, L.）なるものは漢名蚊母草と書す其和名の起因は全く昆蟲の爲めに蟲癭を生ずるに依り斯く命名せられたるものなるべし之を以て觀れば既に古來より該草の昆蟲に關係あることを知るに足れり然りと雖も其蟲癭の起因たるべき昆蟲に就ては記錄されたるもの少なく只植物學者の植物の事を記載すると同時に僅かに蛆の棲息するの記事あるのみ飯沼氏の草木圖說には啓蒙に詳記ある如くあれども余は未だ啓蒙なる書を觀るを得ざれば如何なる記事あるや知るに由なし今此古來より知られたる所の蟲癭の起因たる昆蟲に就き聊か左に錄載して讀者諸君の參考に供せんと欲す

抑も「ムシクサ」に蟲癭を生ずる所の昆蟲は全く甲翅類中象鼻蟲科に屬する一種にして和名ムシクサゾウムシと稱す其學名は未だ詳ならざれども Anthonomus 屬のものなるが如し、躰の大さ僅かに八九厘許全躰暗褐色を呈し細短毛を生ずるに依り異色の觀あり而して頭部、前胸の背上及び翅鞘の內緣部黑色を呈するを以て普通頭部より腹端に至る黑帶を背上に存するが如く見ゆ且又翅鞘上にも細

短毛を有すること躰部に同じ、下翅は全く白色半透明なり、觸角は十一關節より成り其形狀第七版圖中に示せるが如し即ち基節は非常に長く殆んど二節より六節に至る五節と同長にして第二節に接する部、太まりたり而して第二節は短大第三節より第六節に至る四節は殆んど大同小異にして第七節より第十一節に至る五節は非常に膨大となり接着して恰も一節より成る如く見ゆ楕圓形をなし多くの毛を生じたり此種冬季は松、梨其他粗造なる皮を有する樹木幹の皮裂間に潛伏して越冬す故に冬季採集の際常に捕獲するを得るなりされば發生最も早くして四、五月頃暖氣を得て潛伏所を出で「ムシクサ」の生する場所を尋ね行き該草の開花終るや子實中に口吻にて穴を穿ち產卵す、卵子は楕圓形にして淡黃白色を呈す、孚化すれば蛆狀をなし咀嚼口を有し子實を食して成長す此時子實に刺擊を與ふるに依り該部は變形して漸次圓球形を呈するに至る始めの內は綠色にして隨分堅きも幼蟲の內部を食するを以て空虛となり恰も護謨球の如き有樣となる而して漸次着色し來りて鈍き赤色に變せり其樣一般果實の始め綠色より漸次熟して變色すると同一の觀あり幼蟲は黃色を呈し九厘乃至一分許あり頭部は小さく第一、二、三節は非常に大にして第四節より腹端に至り漸次細まること第七版圖中に示すが如し充分成熟せしものは其中にて蛹となる蛹も又黃色或は多少着色せるあり尙は變じて成蟲と成り外に出づ此時期恰も六月下旬より七月上旬頃なりとす其成蟲となりたるものは冬季を經過し前年の如く「ムシクサ」に寄生するものなりとす

該蟲の經過を略記すれば以上の如し然るに該草に此蟲癭の生するや其內の幼蟲を浮塵子の幼蟲なりと信ずる實業家あり特に先年某縣に於ては該蟲癭を稻の害蟲イチゾウムシの所爲となし訓令を發して大に驅除奬勵せられたることありと實に慨歎の至りならずや余は早く是等の誤謬なからんことを望む

第七版圖解　(イ)はムシクサの蟲癭(ロ)は卵子の放大(ハ)は充分成熟したる幼蟲の放大(ニ)は蛹の放大(ホ)成蟲即ちムシクサゾウムシの放大(ヘ)は觸角の放大

◎桑の夜盗蟲飼育の結果

静岡縣　第三回全國害蟲驅除修業生　神村直三郎

明治三十三年四月十一日朝一農飛び來りて曰く「生先此蟲がひどく桑の芽の出初めの柔かなる所を食て仕方がありません二三年同じ所を食はれまして數株丸裸にされましたから氣をつけて見たが分かりませなんだ、ところが今朝早く往て見ましたら此蟲が一疋桑の木の下の方へ向つて幹を下るのを見出しましたからこれは土の中よかくれて居て夜分出て食ふに違ひないと思ひまして先づ其やつを捕へ又土をも掘て見ましたらこんなにいくらも居りました何といふ蟲でありますか」とて七頭を手にして見せぬ見れば通常蔬菜の夜盗蟲の如く灰黑色のものでありますか大きさが隨分珍らしく大きいから何にしろ飼て見やうとて請取り置きぬ

(幼蟲飼育)　初めはブリキ製の鑵の中へ入れ中を暗くして桑を與へたりしよ惜哉餘り密封したるためか四月十三日に二頭同十四日に一頭斃死せり因てそれからは薄くらくして少しく光線を通じやりしよ大に徑過よろしく同月十九日には四頭とも繭となりぬ

(繭)　繭は至て簡單よして飼育箱の一隅に食ひ殘りの桑の葉を二三綴り合せ其隙き間をは糸を以てふさぎまゝ白紛を付して造りあぐるなり

(成蟲發生)　發生は四月廿四日一頭廿五日一頭廿七日一頭と三頭出たり皆雌蟲のみよして雄蛾なし殘り一は若し雄蛾の出ることもやとたのしみて五月卅日まで置きしも更に出る氣色なし因て其繭を

撿せしも遺憾にも蛹化だにせずして斃れ居たり故に雄蛾の如何をば知るに由なく不完全ながら雌蛾につき其体形の大略を左に記さん

（成蟲形状）　体長は七分五厘暗緑色にして翅の開張一寸八分五厘あり頭は割合に小く複眼は黒く觸角は絲状にして長三分五厘なり胸背には長毛簇生して隆起せり腹節は其端に至るに隨て細まり錐狀をなす

前翅長八分余巾四分余あり地色は暗緑にして中に黒色濃淡の紋樣ありて復雜なり其概略をいはゞ外縁には凹凸參差として三角形の縁紋七個を連列し其内方には淡黒の一帶内に向て灣形をなす中央部は概ね黒色にして殊に後縁に偏しては半ば黒色なり

后翅は概ね三角形をなし暗紫色にして豐富なる縁毛あり

裏面は前後翅とも暗紫緑にして前翅には中央に三ケ月形の小紋あり其外縁に偏しては二條の黒帶あり後翅には一條の黒帶あるのみにして中央に灣曲し前縁より後縁にまで及ぶ

肢は前中後と次第に其長を増し中肢には脛節末端に二本後肢には同末端及中央后方に各二本の鋭突起を備ふ

◎稻の害蟲ムクゲムシに就て

福岡縣特別通信委員　嶺　要一郎

本年五月下旬福岡縣下稻苗代に一種の害蟲を發生し六月上旬に於て其被害最も甚敷其葉初めは黄斑を生じ次第に全面黄色となり遂に白枯す其劇甚なるものに至りては稻苗の上半部全く枯盡し殆んと移植に適せざるに至る其發生區域は全縣下に跨り殊に筑後地方に甚しく又平坦部落よりは山間部落

に甚しきが如し

右害蟲たるや其被害本年を以て嚆矢とせるを以て當業者其何たるを知らず或は病害となし或は氣候の影響と稱し飛報各地より至り狼狽狂奔其善後策に困せるが如し

右飛報に接し被害地に就き調査するに全く稻害蟲ムクゲムシの所爲なるが如し右害蟲は總翅目薊馬科に属する昆蟲にしてイネノアザミウマ又はムクゲムシと稱へ從來本縣にも多少の發生ありしが其本年の如く大發生をなしたるを聞かずと雖も大日本農會の報する所によれば新潟岩手地方には已に數年前より猖に發生せりと云ふ

成蟲は体長五六厘巾一厘余全体光澤ある黒色にして短毛を粗生し頭は稍や四角形にして觸角暗黄八節より成り基部及び末端は暗黒複眼は黒褐、單眼は三個にして褐色なり前胸は稍四角形にして頭より少しく廣し中后胸は互に附着す腹部は十節より成り扁平なり尾節は細く其内に管狀附屬物あり翅は二双にして透明後翅は小さく何れも細長くして薙刀の狀を成す縁毛は黒色にして細長なるが故に一見羽毛の如し前肢は跗節二ケ中后兩肢は跗節三ケありて共に末端膨大し爪を具へず口部は頭部の腹面の下方にありて管狀をなし汁液を吸收するに適す全部極めて微少にして強度の顯微鏡下にあらざれば詳細に見ること能はず

幼蟲は全体赤黄色にして翅及單眼を欠き体形の小なる外成蟲と異なるなし

此害蟲の經過は未だ判然せざるも成蟲態にて越冬し年二回の發生を成すものゝ如く第一回は六月にして苗代に發生す幼蟲は苗葉を縦に捲き其内にありて液汁を吸收す一葉内に居る者多きは百頭以上に上る此際麥類殊に小麥の穗を害する事あり被害の情況は前掲せるが如し第二回は八月にして稻の

將に抽穗せんとして未だ幾分か葉鞘に包藏せられ居る時重に穗の内方に隱れ汁液を吸收し尙ほ進んで籾内に入り内部の子房を吸收し爲めに籾粒は褐色となり遂に粃に化す被害は幼蟲期に甚しく成蟲となりては輕微なるが如し

此害蟲たる性甚だ活潑能く飛散すれども稻苗又は稻穗等を動搖するも落下する事少なく劇しく動搖すれば僅に數匹の落下を見るのみ爲に其驅除法の如きも甚だ困難にして今日迄未だ完全なる方法を發見せず苗代に發生せるものは極めて多量の灌水をなし殆んど稻苗全部を沒入せしめて注油法を行ふの外他に良法なし石油乳劑等にて捕蟲網を濕し之れにて掬ひ捕ふるも宜しけれども良法とは稱すべからず第二回の發生に至りては殆んど其驅除法なしと云ふも可なり或は云ふ鯨油を曹達水に混合し被害植物に振り掛るか又は煙草の煮汁を稀薄ならしめ振り掛くるを宜しと云ふ石鹼水亦佳なりと云ふ

今や同蟲は已に羽化し被害減少稻苗漸次回復しつゝありと雖第二回に於て如何なる發生をなす哉大に注意警戒すべき物なるべし（六月十六日稿）

◎天日蠶飼育法に就て

名和昆蟲研究所助手　宮　脇　繼　松

天日蠶飼育法なるもの信濃國南佐久郡岸野村蠶業家木内宗藏氏が數年來試驗を重ねて遂に好結果を得たりと五月四日發行岐阜日々新聞第五千五百四拾七號に揭げられたりしが未だ余は發明者其人に就て親しく其說を聞たる事無きを以て直に其是非を奴々するは聊か早計ゝ似たりと雖も事蠶業の消長に關する大問題なれば漫に新紙の一記事として雲煙過眼に附し去る能はず敢て淺學不文を顧みず

聊か愚見を吐露して江湖の教を請はんと欲する處なり今該記事中天日蠶飼育概畧なるものを拔翠せば

上略蠶種を天然の氣候に放任し寒暖風雨を問はず屋外の軒端に懸け置くにあり然する時は蠶兒の發生は自然に桑葉の發芽と相伴ひて遲速なし夫より掃立て上簇に至る迄始終室外に飼育し火氣を用ひ障子を密閉するが如き從來の手數を要せず桑も從來の如く手數を費さず可成天然に放任するを以て成育ュ適したりとなし此桑の仕立方と此蠶兒の飼育法と相俟つて天日蠶飼育法は成立つものなり云々と

想ふに木内氏は此法方を以て飼育するに於ては蠶兒は勢ひ自然淘汰の大法に支配せられて其境遇に適應せざるものは自から滅亡して獨り寒暖乾濕の劇變に堪へ得る强健なるもののみ存在するに至るを以て現時養蠶家が最も憂慮する處の羸弱なる病蠶を悉く掃蕩し盡し併かも勞費を費す鮮く且つ簡易に飼育し得らるゝを以て蠶業上至大の利益あるが如く想像せらるゝならん乎蓋し如斯は學理の容れざる處にして固より識者の一顧を買ふにだも値せざる無稽の妄說として排斥せざるを得ざるなり何となれば今日吾人が飼育する處の蠶兒なるものは往古未だ人に飼育せられざる時代に在ては現時の野蠶と均しく極めて不完全なる粗繭を結ぶに過ぎざりしも一度び吾人の祖先が採て之を飼育するに至りてより以來勉めて糸量の多き糸質の善良なるもののみを撰擇して製種用に供し苟も此目的に背戾するものは棄てゝ執らず如斯もの數百年來幾百回と無く反復せられ所謂人爲淘汰の結果により て漸く吾人の目的に適する糸質善良にして糸量多く彈力に富みて光澤あり併かも形狀の均一整齊なる美繭を結ばしむるの域に達せしめたるものなり然るに今天日蠶飼育法の如く可憐の蠶兒を屋外に

放置し風雨日光に暴露し加ふるに瘠薄無味なる桑葉を給するときは漸次糸量は減じ糸質は粗惡に流れ其極遂に彼の野蠶の繭の如きものに惡變するや必せり故に余は天日蠶飼育法なるものは徒らに勞費を吝むの極遂に養蠶の目的を忘却したるものと斷言するを憚らざるなり、今や蠶兒は一齊に孵化して農家に愛護せられつゝあるの候世間若し斯る記事に誤られて貴重の蠶兒を粗漫に取扱ふが如き事あらば獨り蠶業の進歩を妨ぐるのみならず引て國家の經濟上にも影響するならん乎と杞憂に禁へす蒼忙禿筆を呵して婆心一片を述ぶ(五月十二日起稿)

◎岐阜縣害蟲驅除講習生に對する昆蟲講話

憲政黨總務委員　江原素六

編者曰く本編は四月十八日憲政黨總務委員江原素六氏が當昆蟲研究所を參觀せられし際偶ま縣農會樓上に於て第三回岐阜縣害蟲驅除講習會開設中なりしを以て其席上へ臨まれ講習生に對して講話されたるものを當研究所助手宮脇繼松氏が速記せしものなり

私は江原素六と申すものである私が此の研究所へ出ましたのは東京を立ちまする前に是非共拜見仕度と云ふ考を起したのである夫れは片岡健吉君と安中へ演説に參りまして汽車の中で話の中に自分は本月十七日に東海十一州會へ行くのであるが二十一日には京都の教育大會に出席する約束がして

ある其間二日足らずの日があるが此日をどうか出來得る限りは有益な事に使ひ度いと思ふ就ては先づ岐阜へ行つて名和昆蟲の研究所をば是非拜見仕度ゐと思ふ夫れから滋賀縣へ行つて農事の試驗場を見たゐと思ふ何ぜならば農事の試驗塲がどう云ふ事をして居るか余程世の中の爲めに効をなして居ると云ふ事は信じて疑は無いけれども或は過燐酸石灰を使ふとか其他何々を使ふとか或はどう云ふ風に肥を使ふと夫れが爲めに一反步にどれだけ獲れるとか學理を實地に應用し實驗をまじへて着々試驗をして居るに違ひなかろうけれどもそう云ふ方の事計りでは農事の進步は出來るもので無い出來得る限りは手間を省いて百姓の手に殘るものが多いのが勘定である例へ一反步で一斗や二斗の收獲が增しても爲めに費用を多く要して勘定が思ひの外儲からねばあまり喜ぶべき事で無い特に今では日本は手間賃が低ひけれども今日は世界共通であるから歐羅巴が賃錢が高いと日本も共に高くなるのである手間賃が膽かい時分に一反步に五升や六升增したからとてそう云ふ事で以て農事が進步するとか云ふ樣な事は甚だ心許無い事である次は西洋邊りでは余程大きな器機を用ひて居りまするが之れ等は日本には適するかどうか智識と財力が乏しいからして直に使へ無いとしても出來得る限りは簡單のものを用ひて費用と勞力とを省く事にしなければならぬ西洋では或る器械で以て一日に八拾俵も拵へる事が出來るそう云ふ器械は稻を扱くにも非常に早いものである其器械へ稻をあてがうとマンガがぐる〳〵と回轉して直ぐに籾に成り一方では直ぐ米になるのであるが日本では稻を持つていつて少し宛あてがつて扱ひて居るから中々に手間のかゝる事である然に西洋では如此器械を用ひて直ぐゝ扱ひて仕舞ふのであるかゝる器械も僅かに貮拾五圓位ひ出せば買へます今日日本で用ひる樣な迂遠なもので無くても獨りで回るのである西洋ではそう云ふ樣な物を用ひて総てそう云

ふ風にやつて居る日本國に於ても小作百姓に適する樣な農具をどの位ひまでに奬勵して居るか又之れを實地に使用して一般に示して居るかコー云ふ樣な經濟的の事から農事の現況を見たいのである今一つは如何なる肥料を用ひて居る乎農作物を害する處の害蟲とか黴菌とか云ふ者ゝ驅除豫防はどう云ふ風に行はれて居るか夫れ等を視察仕度いのである最前栗原君が申された通り日本と云ふ國は——或る學者は敎科書抔ニ日本は氣候が良くて地味が富んで居るから古來瑞穗の國と云ふ殊ニ生糸の如きは品質が善くて海外各國に過ぎて居るから各國が爭ふて之を買ふと云ふ樣に書いてあるけれども私が思ふには日本は誠に物産の少ない國であつて僅かニ生糸と茶位ひで後は樟腦と石炭が海外へ輸出する位ひで輸出する位ひの事で誠に輸出品は尠い併かも生糸の如きは未だ創業の際でデニールも揃はず光澤も出ず節も多いので亞米利加邊りでは更に貴ばれないのである歐羅巴や亞米利加の富の發達は非常なもので英吉利や佛蘭西邊りで出來る生糸は立派なものであるけれども其地方で出來る丈けの糸では到底亞米利加の機械場でこなす半ばをも滿たす事が出來ない夫れ故に此不足を滿たす爲めに足り無い部分を償も——易いから日本糸を買ふのである恰度日本で米作の惡い時分に支那米をどつさり買ひますが之れは味は不味いけれども價が安ふて殖へるから買ふのであるけれども相當に米が獲れると直ぐに支那米の輸入は止つて仕舞ふのである如斯もので日本の生糸も今にして改良をせぬならば若しも亞米利加邊りで良き生糸が澤山出來る樣に成ると日本糸の聲價は地に落ちて仕舞ふのである私しが若し讀本を書くならば日本では生糸は第一の物産であるけれども未だ創業の際であつて亞米利加邊りに於ても余り評判が能くないから將に他國に壓倒されようとして居るが日本人は元來器用であるからして此際改良を加へたならば早晩彼れ等の上に出するであろうとコー

と私は思ひます（未完）

も日本の學者の云ふ事は総て保守的に甘んじて居るのである誠に之れは教育社界の一大欠点である

上に出づる様にせなければならぬと云ふ決心を以て競爭場裡に勝を得ると云ふ様な事に成るけれど

云ふ風に書いて置くそうすると兒童は所謂敵愾心と競爭心とに依て自分の國の生糸は彼れ等の糸の

◎第四回全國害蟲驅除講習員の五分間演説

編者曰く本年六月一日より同十四日迄二週間當研究所ヿ於て第四回全國害蟲驅除講習會開會の際六月十日午後一時より講習員の五分間演説會を開かれたるに實に有益なる説多々ありしが今茲に數氏の大要を掲載せんとす讀者諸君請ふ之を諒せよ

（一）害蟲驅除の積極的利益に就て

兵庫縣　西田兵太郎

我農界が年々害蟲の爲に受る損害は實に夥しく去明治三十年の如きは七千五百万圓餘の巨額ヿ上つたのである想ふに平年に於ても確に貳千萬圓或は參千萬圓と云ふ大金は害蟲のために失ひつゝあるのである此莫大なる損害は各農家が精密なる注意と熱心なる驅除を實行するに依て免るを得べきは私の深く信ずる處であります併しながら此利益は畢竟消極的なるが故害蟲驅除上の利益としてはマダ〳〵僅少なるものと云はねばならぬ若し之より更に進んで害蟲驅除を充分に行つた結果害蟲は漸く其數を減じ農家は安心して耕作に從事するに至れば其得益決して僅少でない所謂積極的利益は即ち此事でございます、從來農家が害蟲の驅除を力めざる所以のものは固より昆蟲志想の薄弱なるに由ると雖も蓋し又積極的大利益を熟知せぬヿ由ると私は考へます、諸君既に御承知ならん苗代一坪に於ける籾の播種量は一合より一升迄の間ヿては一合播若しくば二合播のもの常に最良結果ある事

は農事試驗場本支場並に各地方に於ける試驗成蹟の証明する所然に農家は何が故に一合播或は二合播を取らずして四五合乃至七八合播を採るやと云ふに薄播とすれば害蟲の發生殊に夥しく損害却て大なるを以てなり若し農家をして害蟲に顧慮するなく縦に薄播となすを得せしめば一割内外の增收ある事は事實上確實であります、今仮りに八分の增收ありとするも全國米の產額は平年四千万石以上なるが故に三百二十万石は確實なる利潤なるべく之を代金に積れば一石拾圓とするも參千貳百萬圓と云ふ巨額に達するのである害蟲の憂なき爲め單に播種の改良を行ふてすら尙此の如き大益あり若し進んで種類、肥料、播種、植付、耕耘等の各種の方面に向て無遠慮に改良進歩を圖りたらんよは其利益實に莫大なるものと私は思ひます、果して然らば國費の支辨も個人の生活も何かあらん富國强兵は期して待つべきであります斯く云へば論者は必ず曰はん根本を培養せず而も枝葉の繁茂を望むは愚かなり貴論の如きは則ち之なりと併しながら凡そ目的は始めより確立する事を要しますから吾々終生の大目的として積極的利益を今より喋々する亦無益であるまい彼の標本を造り室内を装ふとか驅蟲劑を用ひて盆栽を作るとか必死となりて微々たる事に齷齪するは吾々の本意ではありますまいドウカ將來は諸君と共に此大目的を達するに就て種々研究致し度私の希望であります

（二）昆蟲と道德

岐阜縣　三宅鎌吉

私は諸君も大半は御承知の如く岐阜縣惠那郡三郷村の三宅鎌吉と申すものでござりますが、此度は先生より五分間の時間は與へるから何か一ッ蟲に就ての話を致せとの事にござりまするが昆蟲學には素養もなく且つ訥辨にありますから何卒五分間の間御用捨御聞き取りを願ひます、偖て此頃私の旅行致しましたる昆蟲界蜜蜂國と申しまするは至て感心なる國でござりまして我々高等なる人間も

一歩譲りはせぬかと云ふ有様なのでござります蜜蜂社界に於きまして長幼の序ある國家に盡す社界公德の進歩致して居りまする事は實に感心すべきものでござります日本ニ於きましては昆蟲志想の一般に幼稚なる如く社界に對する公德と申すものか一般に進んで居らざる故害蟲か發生致しましても人民自身が進んで驅除するものが尠なく法律の命令であるから先づ致し方なく申譯的迄ニ驅除を致すと云ふ有様で御座りますが是と云ふのも一つは昆蟲學の進歩致して居らざるニ原因するのでござりませうが是は社界一般ニ公德と云ふものを重せざる故か否社界公德の何物たるを解するものが少なき故であると私は信じます故に我々講習員は社界の先導者となり一般の國民に昆蟲志想を進歩せしむると同時に社界に對する公德心の養成を計らざれば其効力は少なからんと存じます故に講習員たるものは常に公德を重じ此昆蟲學の普及發達を斗り以て名和先生の昆蟲學研究の大業を翼贊すると同時に互に氣脈を通じ以て害蟲の驅除益蟲の保護を斗り國家の爲めに御盡しあらん事を希望いたします

（三） 我等の責任

佐賀縣 井手 龜一

私は我等の責任と云ふ事ニ就てお話を致します諸君堂々たる日本男子が近きは數十里遠きは數百里の海山を跋跡して此岐阜に集合し名和先生の下に就て日夜教授を受け齷齪として之れ日も足らざる程研究に心勞しつゝあるは抑も何の爲でありますか考へて見ますれば實に情ない事ではありませんか百万の大敵にも畏れざる大丈夫か然も微々たる昆蟲の種族なる害蟲軍の爲めに攻め立てられ防禦に術なく玆に再擧を謀りつゝある有様ではありませんか我が國には昔より日本魂と云ふ確固不拔の精神を備へて居ります此日本魂は如何なる方面にも應用すべき事か出來ます戰時の特有物ではあり

ません商工業にも農業にも無論此精神を以て行かなければなりません明治二十七八年には世界の大國にて四百余州の面積を有し四億の人口を有する清國を瞬時に伐ち亡したるも此精神であります彼れ豚尾とは云へ昆蟲より最上位の動物ではありませんか然るに今此害蟲軍の爲めには其當時の清國に於ける境遇ではありませんか後發なる三化螟軍は精鋭を盡して進擊しつゝあります特に彼れ等には一種不可思議なる働を有して居りますから充分軍略と戰術を講ぜなければ必勝は期し難き事であります依て我々は今先生より軍略と戰術則ち六韜三略の奥秘を授かりつゝ戰鬪準備の最中でありますれば作戰計劃整ひし上は日本魂を緻密と忍耐とに應用して彼の大軍に向ひ目覺しき働を爲し見事害蟲軍を撲滅して金鵄勲章の榮を期せん事を諸君と盟ひます此の如くにしてこそ先生の名和千載朽ちず民を靖んずべき事と信じます

（四）爲朝の負け戰

愛知縣　青山新次郎

何時も負けた事のない爲朝がどうした譯で勝てなかつたかと疑ふ人もあらんかなれども實は螟蟲驅除に於ける誘蛾燈の實用に就て斯樣な事があるです私は直接に此誘蛾燈に依りて螟蟲驅除の目的が達せらるると信んじては間違を來すが實際に於ては之れが大に害蟲軍と交戰する軍略に變化を與へた楷段たりし事と思ふ、則ち我が軍は寡を以て衆に勝つは夜戰に如くはなしとの爲朝流の策略を立てゝ九州の野に於て天晴鎭西八郎と成りすまし夜營を張り篝火を焚き敵の來るを俟ち受け居ましたのは時は明治年間で彼の熊本縣福岡縣などで連りに誘蛾燈を用ひた事であります只爲朝と違つて攻勢を取らなかつたは盖し敵は必ず我が軍を襲ふべしとの參謀官の見込であつたからツマリ敵を誘ひ出して殘らず打取ろうとしたのである然るに夫れが殆ど無効に歸したのみならず軍費の支出に堪へ兼

ぬる有様となり徒勞な事をしたのです是と申すも開戰するに先ち第一尤も緊要なる敵狀偵察が行き屆かずに方略を定めたからです何となれば敵軍の内充分戰鬪力を有する兵種（交尾せざる雄又は産卵せざる雌）は容易にオビキ出されずして悠然として武力を養ひつゝ彼の西洋歷史で見る處の百年戰爭は愚か永く我軍を苦めんと謀て居る夫れを知らずに戰ひましたればこそ流石の爲朝流を學んでも負けいくさとなつたです、處で成算なきを知り敵狀偵察（害蟲の習性經過等）を充分にし今度は敵軍勢力の根據を襲擊する事にして採卵法と云ふ第二の爲朝流戰法を以て晝間然かも日に向つて戰ふ事に成り其兵卒も屈强の壯丁で無くて弱き婦女子小兒が最も適當すると云ふ昔しの爲朝に正反對の結果を生ずる次第となり大分敵を惱ませつゝあるのですこうなれば敵軍を降伏せしめて其償金として每年澤山の貢物を献せしむる樣になるは疑ない事と信じますそこで始めて瑞穗の國の名も空しからず私は又寶飯郡のものですから一層名實叶つた事になろうと思ふに就ても吾輩は爰に非常なる責任ある事を自覺するのです

（五）　椿象蟲驅除に就て

和歌山縣　湯川熊二郎

私は淺學菲才の者でありますから諸君の御參考になる話は到底出來ないのでありますが我が和歌山縣日高郡にて黑椿象蟲驅除の一班を述べ此五分間演說の責を塞ふと存じます

我が郡に於て發生する黑椿象蟲は方言クロマナゴ、カメムシ、カタギヌムシと種々名稱を異にしますが此蟲の特質として捻殺すれば惡臭を放つを以て從來專ら執行する驅除方法は竹筒に布切を以て節なき一方を覆ひ其布切の中央に小穴を開け捕獲すれば直に竹筒に入れ筒に滿つれば燒却致しましたが近來該蟲驅除の一便法として鶩雛を飼養し之を稻田に放ち其飼料として此害蟲を啄しめ以て人

力驅除の一助と致します此事は昆蟲世界第二十六號にて農商務省技師河原丑輔氏が詳細記述せられたるにより諸君は己に御承知の事と存じます故に私は昨年飼養せし事項を簡單に御話致します私が昨年購入せし鶩雛は七月上旬にして拾疋を貳圓にて購入しました雛は孵化後二十日間斗り經過せしものにて則ち一疋貳拾錢に當ります尤も一昨年の如きは一疋拾五錢位ひなりしが漸次飼養者增加せしを以て如斯高價となりました夫より日々稻田に放ち驅除せしめましたが獨り椿象蟲のみならず種々の害蟲を啄みまして大に人力驅除の助けとなりました而して九月上旬直に一疋は死し一疋は紛失しましたが殘り八疋を貳圓四拾錢にて賣却しました則ち驅除の助けとなるのみならず尚四拾錢の利益を得ました如斯次第でありますから競ふて飼養するに依り尤も多く飼養する處は一村にて千疋に達するの姿でありますます尚申すべき事がありますが已に五分間を過ぎましたから是にて御免を蒙ります

（一六）　螟蟲驅除豫防普及方法に就て　　愛媛縣　白石大藏

之を注入的方針を以て早成を計る時は其普及早きが如きも實効の擧らざるものである事は己に今日の狀況を見ても明かである之を啓發的方針に依り實行を期する時は其普及甚だ遲々たるに相違無きも其目的を達する哉確實であろうと思ふ然れども完全を期するは第二の國民即ち小學兒童に昆蟲志想を充分吹き込むのである然らざれば到底此の復雜なる自然界の道理を會得して實を得る事は難ひのであると云ふ事は人も我も信ずる處であるが目下の農民に對しても全く絕望でもない即ち利益を示して之れを誘導すれば案外容易に驅除法の普及を斗る事が出來るである而して能く此目的を達るの法は摸範者を各町村に一二名宛出すのかよいと思ふ、所で害蟲驅除豫防は固之れ共同的事業の性

質のものであるから單獨驅除豫防を以て能く摸範を示し得べきやと否やと云ふ事は甚だ疑点である故に私は其力を計らず先づ自から之れを實地に試んと欲し其困難なるは充分覺悟の上着手しました其方法は勞力と手數を厭はず注意と熱心を欠かず耐忍を以て苗代期より此害蟲に對し目下世の中で知られて居る種々の方法を行ひました即ち採卵法、捕蟲網使用法、誘蛾燈枯苗拔取り被害稻切り取り、等總て非常の注意を以て行ふたが何れも皆其行ひ方に依りて能く蟲は取れるけれども一得一失は免れぬ所で苗代期に指頭を以て蛾を摘殺したのは一番近道であつたと思ふたなれども遂に其目的を達すべき効果は見へぬ只稻の栽培に注意か達して豊作を得た位ひであつた甚だ困つた次第である最后に白穗の拔き取りを行ふた所が即ち其効果が見へて至極良法と思ひました其行ひ方は在來の方法と違ひ最も簡便になし得る事である即ち其白穗を見たる時一反歩二時間内外にて親穗の出揃時に二番節より折り取り蟲と共に除き去り其后十日内外を經て后れ穗の出揃時又一回前同樣の事をしたのである然る后ち收穫季に至りて之を審に檢するも其田に限り決して螟蟲の藁又は稻株に蟄伏したるものを見る事が出來なかつた故に普く之を行ふたならば翌年は其効果を認め得られる次第であろうと私は信んじて居ります單獨驅除にて能く螟蟲を驅除し得べきものなるや否は未だ不明であるが其害を輕減したると增收を得たるとに依りて摸範者を出す事も全く望みなき事とは云へぬと考へて居ります依て御參考迄申陳べ諸君の御淸聽を煩しました思はず五分の時間を少し過ぎまして失禮致しました

◎蠶

千葉縣特別通信員　林　壽　祐

(一)部屬　蠶蛾は通常家蠶といひ又カウコといへり、蠶、蟓、蚕、螝、蚤、蠺、蝩、蠠、蚢、蟤等の字あり、洋名Bombyx mori. と呼ぶボンビックスモリとは桑葉を食ふ義より轉訛せしといふ。野蠶蛾、樟蠶蛾松蛄蟖蛾と共に蠶蛾類(Bombycides)と総稱せらる。四翅は巾廣く細密なる鱗を被れるを以て、鳳蝶、天蛾、粉蝶穀蛾等と共に鱗翅類(Lepidoptera)といはれ黄昏出でゝ遊飛するを以て、鱗翅類中夜飛科(Nocterna)に分類せらる。体は頭、胸、腹の三部よりなり、三雙の節足あるを以て、蜂、金龜子、蟬、螽斯等と共に六脚蟲又は昆蟲類(Insecta)と稱せらる全身は堅き皮膜を以て被包せられ、關節多きにより彼の甲殼類、蜘蛛類、蜈蚣類と共に關節動物(Arthropoda)に屬せり、而して体に骨骼なく氣管により呼吸す、故に脊椎動物(Vertebrata)に對し無脊椎動物と稱す

(二)歴史　世界に於て、最も早く蠶業の起りしは支那にして、遠く四千餘年以前に飼養せしといふ、次て日本、印度に傳はりたり、西洋はやゝおそく、第六世紀頃始て南歐に傳播せしといふ、而して希臘は歐州中最も古しとす、西洋にては未だ蠶業のなかりし頃、絹糸は如何なる物質より出でしものなるか、久しく一の疑問たり、而して多くは植物質なりとせり、彼アリストートル氏の如きも、僅に蛄蟖類より得るものとの、考を抱けり

我日本は歴史上大古より蠶業ありしものにして、中古までの衣服は絹と麻とに限れしものといふ、故に今よりは遙に絹織物行はれしものなるべし、木綿傳來後、蠶業やゝ衰へたりといへども、猶蠶業國の本色を失はず、近代歐米諸國と交通するに至り、頓に其供給を増し、蠶業年を追ふて、盛運に赴けり

（三）搆造及發育　蠶蛾は完全變態(Holometabola)をなすものにして、幼蟲(Larva)を蠶と稱す、長さ二寸餘体色濃灰色にして、三對の胸脚、四對の腹脚、一對の尾脚を有す、性貪食にして、概ね四回脱皮す、發生後四週乃至八週間にして繭(Cocoon)を造る而して普通三十五日を以て幼蟲期とす、繭は白色若くは黄色にして赤色黑色の類をみず、一個の繭より出づる絹糸は、長さ千五百尺より三千五六百尺に達すれども、通例、七八丁とす、繭は三日にして完成し、五日を過れば蛹(Pupa)に變ず、また十九日を經れば成蟲(Imago)即ち蛾に變化するものとす蛾は肥滿し細毛密生す、四翅あれども飛翔する能はず、僅に之を振動するのみなり、一蛾は孳尾后數時にして三四百個の卵子を産す

（四）飼養上の便益　蠶は數千年前より人家に飼養せられしを以て、体質習性等大に他の昆蟲に異り、能く家棲的に進化せり、今人家に飼養し　便益ある、點を擧ぐれば

(1)　蠶は蚰蜒、烏蠋、尺蠖の如く、此所彼所と遊歩せず、一定所に靜止するを以て、飼養上最も都合好し。若し野生類の如く、籠といはず棚といはず、自在に移動したらんには、到底今日の如き盛に、飼養し能はざるべし

(2)　然れども結繭前に至れば、能く枝桑の上に匍匐し、決して枝葉に壓伏せらるゝの患なし。若し枝葉に壓付けられて、起上る能はざれば一々葉を切り與へざるを得ず、其手數の煩はしき甚しとい

ふべし

(3) 蠶は桑の生葉を食するを以て、籠蓆の如きは勢濕氣あるを免れず、之を防ぐには籾殼を以て最も適當すとす、而して蠶の外皮は丈夫なれば之が爲め傷けらるゝ憂なし、叉野蠶、青虫などに觸るれば直に口より水液を噴出せども、蠶はたとひ枝葉より引剝がすも、打落すも斯る事なし

(4) 蠶の生長に要するは温氣なり、故ゆ自然の氣候に、變動起るときは、人工を以て溫度を增加し之を補ふ。若し此動物が空氣の流通强きを好むとすれば、戶、障子は常に開放せざるを得ざるを以て、人工の温度をとるには頗る困難ならん、彼流通乏しき室內に生活するは、飼養上利益あるものとす

(5) 蠶は桑の芽を出すと、同時に發生するを以て、未だ口器の弱き時は軟葉を嚙み、桑葉やゝ生熟して硬くなるときは、隨て蠶も生長して。口器大に堅牢となれば消化器の損する事なし

(6) 蠶には毒齒毒毛なく、極めて穩和なれば、婦女子といへども、恐怖の念なく、能く之を馴養すべし

(7) 蠶には寄生蜂少し、若し寄生蜂夥しく、存在したらんには、人々之を防ぐの道に困まん

(8) 蛾の翅は久しく人家に養はれしを以て、大ゆ退化し他に飛去る能はず。叉蛹より化出したる蛾は直に孳尾するを以て、一時に多數の卵子を產附せしむるを得べし。若し他の蝶蛾の如く數日或は數月間生存し花蜜を吸收するものとすれば不便不利極るべし

以上の外熟思したらんゆは飼養上の利益猶多くあるならん

(五)數量及蟲數　明治三十一年佛國にて調査せしに、世界に於て產出したる蠶絲は、實に千五百六十

八萬七千基に達せしといふ、我千葉縣は、彼の長野群馬福島諸縣に及はざること遠し、然るに昨三十二年の統計は桑園六千五百九十一町歩飼養戸數四万九千百四十三戸、掃立數六萬一千七百四十九枚、之より産出せし繭は四萬〇九百五十八石にして、其價百參拾參萬參千四圓なるを示せり

今算盤上にかけ、蟲數幾何なるかを計るに、一升の繭を三百五十個とすれば、一石にては三萬五千匹の蠶なきを得ず、故に昨年千葉縣下に生存せし蠶は、無慮十四億三千三百五十三萬匹とす、今一繭より出づる蠶絲の長さを六丁(二千百六十尺)と假定すれば、同縣下の蠶糸は正に二億三千八百九十二萬餘里に達すべし、若し此糸を以て地球と太陽とを結付け得るものとすれば、六本の絲を引繋ぎて猶餘るべし、又地球と月との間にひきはれば三百九十三本餘となる、驚くべし一千葉縣下の蠶糸にして斯の如し、況んや世界に於ける蠶絲をや

(六)利用　蠶糸は質強靱にして光澤諸纖維に冠たり、多くは織物の原料になり、世に貴重せらる、錦羽二重、綸子、繻子、緞子、縮緬、八丈紬の如きは、其主なるものなり、其他手布レース紐等優美の裝飾品に供せらる、絹絲線はまた醋に漬け、引伸はすときは、魚蠶絲となり。蛹は肥料及び捕魚の餌料となる支那人はまた之を食用に供すといふ。糞は善良の肥料として作物に施用せらる

(七)國益　蠶絲及絹は我邦産の主位なれば、皇國人の奮つて從事すべきは蠶業なり

皇太子妃殿下の御近詠

限りなき御國の富やこもるらむ賤がかふこの繭の中にも

明治三十二年中海外に輸出せる日本の生糸は五百九十四萬六千餘斤にして其價六千貳百六拾貳萬七千七百餘圓に達せり、又絹布類にては羽二重千五百七十九萬圓甲斐絹百四拾五萬圓絹製の手布參百

四拾六萬圓なり其他各種の織物裝飾品の輸出少からずといふ。

（八）產地　蠶は東洋の原產にして日本支那印度等盛に飼養す歐洲にては佛蘭西、伊太利最も多く瑞典魯西亞之に次げり。北亞米利加には桑の葉によらず他の樹の葉にて飼養するもの三種ありといふ。我邦にては上野國甘樂郡富岡に盛大なる製絲場あり而して西京、信州上田、濃州岐阜、兩野の桐生足利、東北の福嶋、南部、米澤等絹布の生產地として其名世に高し（明治三十三年六月某夜蠶繭をみて記之）

◎キンカメムシは罌子樹の大害蟲

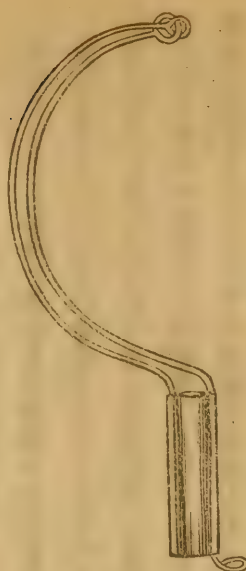
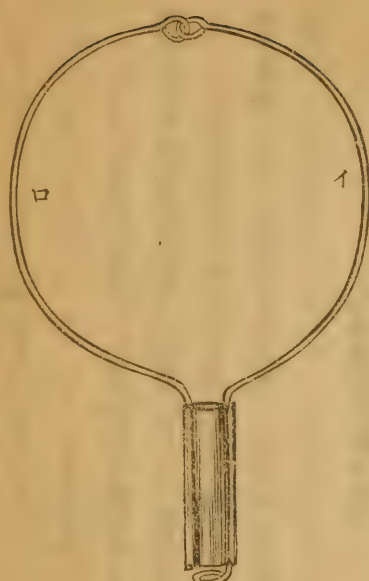
島根縣　特別通信委員　田中房太郎

キンカメムシは古來當地方に於て罌子桐樹（ドクヱ又アブラギリ方言キノミ或はゴロタと云ふ）の實を主に害するを以て方俗にキノミムシと稱して大に恐るべき害蟲なり然れども之れが一定したる和名及び經過習性等知らさりしが貴所發行の昆蟲世界第三卷第十一册第二十七號問答欄に於て佐野清彥氏の質問に對し名和昆蟲研究所助手名和梅吉氏の應答によりて詳に知るを得たり抑も此蟲は每年油桐山（罌子桐樹栽培林）に發生して多少害を與ふるものなり從來之れが大發生をなしたるは明治十二年意宇郡（今の八束郡なり）熊野村字矢谷の油桐山反別六七拾町步の場所に發生し尙同年大原郡北村にては反別二百町步の內に於て無數に發生して大害をなしたり而して此蟲の經過及被害の景况は六月上旬親蟲（キンカメムシの成蟲）發顯して油桐の葉面に產卵し其卵塊は殆んと圓形にして粟大の卵粒正しく並列す其數凡七八十粒なり數日を經て孵化して葉を蝕害し延て結實の心液を吸收し其害を受けたるものは未熟中に墜落し偶〻其保つものあるも實子旣に腐敗して唯其外殼を存するのみ而

して該蟲の成蟲は十月下旬比より落葉すると共に地上に降り落葉木石の下にて越冬するものゝ如し
予は昨年十一月三日農事講習生を引卒し昆蟲越冬の狀態調査として熊野村へ出張油桐林中に於て斯の成蟲夥多採集せり

◎蟲談片々（第八）

岩手縣氣仙郡小友村　特別通信委員・鳥　羽　源　藏

（十八）捕蟲網

捕蟲網は昆蟲採集者の要具にして特に蝶類を捕獲するには缺く可からざるものたるは云ふを要せず然れども輪と長柄とを以て組み立つるもの故懷中に推し入るべからず若し夫れ携帶に便なるものあらば吾人に利益を與ふる少々ならざるべし故に余は常に輕便捕蟲網を按出せんと欲すれども彼の疊み込みて懷中し得るものは弱くして實用に適せす又鞏固を欲すれば輕便ならざるを以て苦心中なりしが近來東京なる動物標本社にて製造販賣のものは此等の欠点なく稍、便利なるものなり袂や懷中に入るゝと出來ざるも一寸外出の際携ふるも邪魔にならず且、行李に收

イ
甲
ロ
乙

むるとを得るを以て旅行用に最も妙なり

今構造を示せば圖の如く(イ)(ロ)の電信用針金にて圓形に造り別に柄を挿入すべき鉄葉管を造りて(イ)(ロ)の線端を鉄葉にて包み両側に附着するなり但し(ロ)は固着するも可なれども(イ)の線端は細管(半圓の小管)を貫きて固着せしめず圖の如く其餘端を圓形(柄を挿むべき中央の管と同徑)に曲ぐるなり即ち(イ)(ロ)より成れる輪を疊めば(甲)の如くなるべし而して網をば先に針金を両側に附着せざる前に輪に装纏し置くものとす故に網は始終取去る事を得ざるを以て輪を折り疊みて之れに巻き付け置くなり

（十九）　幻燈映畫の書き方

近年幻燈會にて昆蟲を説明して斯學の普及を計るは誠に喜ぶべき事なり、若し自己の研究の結果或は面白き考按あらば之れを映畫に造りて説明をなさば辯者も聽者も共に愉々快々なるは彼の高價の種板に優ると萬々ならん、余は最も簡便なる種板製法を示さんに先に書畫を施さんと欲する硝子面にアラビヤゴム液若しくは精製せる膠の溶液を塗り其乾きたる後通常の墨或は繪具にて書くときは筆痕の散逸するとなく十充纎細の書畫を施すを得べし然れども精密なる映畫は寫眞機の力を籍らざるべからざるを以て素人の製すると出來ざるものなり

（二十）　天牛被害の穴

天牛は樹木に孔穴を穿掘して糞屑を漏出するは誰も知る所なるべし其羽化して孔中を退去するも其孔内を利用する害蟲多し嘗て名和氏の研究せし所に據ればハマダラカゞンボの幼蟲は天牛の殘糞を食して生活し爲めに孔中濕潤を來して木質の腐朽を促すクハハマキ、エダシャクトリ、キンケムシ

等は安全にこの孔內に越冬すと、余輩常に以上の事實を目睹す尙、他の昆蟲の住所となすものあるや必せり斯る事柄の類集研究も亦實に興味ありといふべし、余は昨年この穴を利用せる禽蟲を發見せり、其は圖示せる如くトックリバチに酷似せる蜂なり胡蜂科に屬する事明かなれども未だ學名等詳かならず

余は去歲九月庭先を逍遙せる際、不圖飛び來れる蜂を見しより綠色なるものを捕へて行く故其跡を追へり然るより此蜂は豫て伐り倒し置ける桑樹の幹（周圍二尺）に止り天牛加害の孔內に入れり何するならんと熟視すれば綠色のものは薔薇の葉を嚙み切り來れるにて其を頻りに孔穴に推し入れ周邊は巧みに嚙み碎きて孔內に適合密着せしめ少しも空隙を認めず飛び去り飛び來りて葉を運ぶ事數次遂に木の外面と殆んど同樣になれる頃、別に木屑を嚙み來りて塗附密閉し去り先きの孔穴のありしを知らざらしむるに至る其巧妙驚くべし余は熟視久うして他の孔穴に斯くせるを發見し其の內容の如何を知らんとするの情禁じ難く遂に鑿にて除々に彼の秘密庫をばあけるに、深さ二寸五分許の孔の奧に一個の卵を附し其の近傍に四匹の螟蛉（マメノハマキに似たり）を入れ其次に薔薇の葉の小片數十葉を塡充しありたり

尙、吾が家の建物中スギカミキリ被害の木材を使用せる所ありしがこゝにも前述の如く巢を作り置きたりされば此蜂は乾燥せる木材中に巢を營むと明かなれども生育せる桑樹等の蟲孔にも巢を作るや否やは明かならず

此蜂は頭胸腹共に眞黑なり特に腹部は光輝ある黑色にして緊縊せるとも圖の如し而して二條の黃色

帶あり複眼は觸角に近き處に凹所ありて殆んど瓢形に縊れたり翅は稍、暗褐色を帶び肢は何れも黑色なれども前肢の各節は割合に短小なり

（二十二）　ミノムシ寒冷紗を着る

ミノムシは草木の葉片木皮等を綴り已の体軀を容るべき袋を作るものあるとは人のよく知る處なるが中には時々綠葉を綴加して綠葉間に潛み害敵の目を避くるものあり、余は去る五月十一日親友の近年開ける數十町歩の苹樹園に就き害蟲の調査を試みしが此處は山地を開墾せる者なる故種々の害蟲襲來せるありて開墾と害蟲發生との關係を實地に目擊するを得て大に參考たるべきものありき其害蟲の內にミノムシ（當時猶飼育中にて明かならざれどもチヤノミノムシの如し）もありて嫩芽を嚙むは勿論、苹樹は皆若木故其樹皮をも害する甚しかりき依て數頭を携へ歸りて飼育し置きたるに果實をも咀嚼せり或日外出して注意を怠りしが翌朝早々彼等を視察せるにては如何に二匹のミノムシは養育箱の障子を張りし寒冷紗の所々を嚙み切りて己の身に其小片二三枚宛を纒ひつゝありたるには彼等を叱りつくることも出來ず大に閉口せり之れ白色の箱の內にある故白衣を纒へ敵の目を避けんとするにあらざるべきも「飼ひ蟲に箱を喰はる」とは初めてなり呵々

◎昆蟲雜話　（第廿一）

昆蟲翁

（二十三）　岡田螟蟲採卵法と清水鑿蛆捕集法は二大發明なり

三河國渥美郡田原町の偉人岡田虎二郎氏は曾て螟蟲驅除に注意して遂に一種の採卵法を發明せらる昆蟲翁は紀念の爲め之を岡田螟蟲採卵法と稱して永く後世に傳へんことを望む而して該法は實に効驗著しく渥美郡の本場は素より岡山縣等に於て最早爭ふべからざるの好成績あるは屢々本誌上に掲載

したる所なり然るに未だ廣く行はれざるは全く實地の方法を知らざるに起因するとは昆蟲翁の己に知る所なり今廣く該法の行はるゝに到れば年々四千萬圓以上の收入を增すと云ふ又信濃國長野市狐池の偉人清水三男熊氏は夙に昆蟲學に熱心研究して明治廿三年昆蟲翁の發したる懸賞問題に對して優等賞を得られたるとあり爾後一層斯學を研究し特に養蠶家の大敵とする蠁蛆驅除に就て深く研究し遂に長方形の金巾寒冷紗等にて受幕を張り蠁蛆を捕集する方法を發明せられたり若し該法の廣く行はるゝに到れば年々五百萬圓以上の收入を增すと云ふ該法は己に京都府下幷に三河國等に於て非常に有益なるとと認められ實施し居れり昆蟲翁は兩氏の發明實に偉大にして國家經濟上關係尤も深ければ大いに注意すべきとなりと信ず

蠁蛆捕集器

（三十四）　壹圓の昆蟲額面と壹錢の昆蟲世界賣店にあるに驚く

昆蟲翁は往年中等敎育に從事せらるゝ某敎育者に昆蟲に關する件を依賴したるとあり其謝禮には金員よりも寧ろ紀念の爲め昆蟲標本を送らんとて相當の費用を擲ち意匠を凝して一の裝飾用額面を調製し之を呈し置きたるに頃日某友人は古道具屋にて金壹圓にて昆蟲額面を需め尤も珍奇なりとて得意に昆蟲翁に示さる翁は一見して直に嘗て某敎育者に呈したるものなりと申せり某友人は餘りの不思議さに再び古道具屋に就て尋ねしに果して某敎育者の依賴なりとの返答にて事實明白となれり茲に於て昆蟲翁は初めて金員の謝禮の勝れるを了れり嗚呼辛苦して意匠考案したる昆蟲額面も今に破損に墜る所を幸に某友人の發見に依りて永く保存せらるゝは斯學の爲喜ぶ所なり又某友人より頃日古本屋にて壹錢の昆蟲世界の賣物ある

とを聞けり餘り安價なれば實地に就て調査せしめたるに果して事實なり何故斯くも安價なりやと再び調査せば全く雜誌の表紙に進呈の朱印あるを見出せり是れ昆蟲翁の某々氏等に毎號進呈する讀殻（或は開時も覺束なし）なしと信ず額面にせよ世界にせよ餘り慘酷なる所置と云ふべし若し不用となれば學校へなりとも寄附せらるべし然らば昆蟲翁の尤も滿足する所なり

通信

◎害蟲發生狀況報告

福岡縣　特別通信委員　嶺　要一郎

一螟蟲、螟蟲の發蛾は例年と早晩を見ず五月廿二、三日頃より各地其發蛾を聞く目今三化生は第一回の終期に屬し二化生は同最盛期に屬し產卵盛なり其發生は昨年に比し大に減少せるも尙之を例年に比せば決して尠少なりと云べからず驅除豫防は縣下官民一國全力を注ぎ捕蛾採卵至ざるなし

一螟蛉稻、稻螟蛉は其發生極めて夥多なりし其初發は五月廿日頃にして爾后次第に其發生を增し大被害を與へたり目今は第一回發生の仔蟲は概ね化蛾產卵しつゝあり驅除豫防は注油法掬取法より頗る勉めたりと雖も其發生の初期を等閑に附したる爲其被害は甚しかりし

一浮塵子、浮塵子亦其發生甚しく五月下旬巳に其發生を見たり目今發生の種類はテングヨコバイ最も多ツマグロヨコバイ之に次く當地よて最も恐るべき緣甲浮塵子は其數甚だ少なし

一ムクゲムシ、稻ムクゲムシの大發生をなせるは別項記するが如し

一桑害蟲　桑姑蟖は其發生極めて少なく餘り大害を被りたるを聞かず其他桑園の害蟲概して僅少なり但介殻蟲は蕃盛なり

一茶害蟲　茶姑蟖は其發生皆無なりと云ふも可なり

一蠶蛆　本年は蠶蛆の發生少なく蠶蛾は九分以上の發蛾を見たり

一樝姑蟖　本縣嶺后の一地方には樝姑蟖發生し新芽花の蕾無く蝕害し爲に大被害を受けたり

◎昆蟲に關する葉書通信　（四）

（廿一）有益蟲の大繁殖、嶋根縣田中房太郎、害蟲の發生は各地に之を聞くも益蟲の繁殖は耳に知ること少し然るに我出雲國の北部に東西四里餘南北一里半周回十一里餘の一大湖水あり所謂宍道湖と云ふ此湖中に於て馬大頭の繁殖非常にして五月廿四五日の頃より毎夜其湖邊の石垣及風避樹木に這ひ昇り就中外面の極めて粗大なる松樹を撰ぶ高さは丈餘に到りて羽化するものあり其數幾萬なるを知らず最も盛んに羽化するは六月七八日頃にして今尚ほ羽化するものあり（六月廿三日）

（廿二）苗代に於て發生する害蟲、同上、本年苗代田に於て發生せし害蟲は主に褐色横這褄黒横這葉捲（ハカジムシ）稻青蟲及螟蟲にして最初に發顯せしは褄黒横這にして目下一二齡ゝ達したるものあり葉捲蟲は五月廿六日成蟲となり（試育の分）直ちに苗代を視るに是又發生せしものを目撃せり稻の青蟲は五月廿七八日頃成蟲となり苗葉に産卵し孵化するや其害最も甚しく然れ共本年は例年になく寄生蜂侵害せると又多きか如し目下盛ゝ成蟲となり褐色横這は褄黒横這よりは遙ゝ遲く發生するを見る即ち去る十七日頃は多く孕のものあり螟蟲は（二化生）最も早きは五月廿三日にして最も盛に羽化産卵せるは六月十五六日比なり而して本年試育の結果によれば寄生蜂にかゝる最も少なきの觀あ

り果して一般の事實とせば此往き最も注意を要すべきとなるべし

(廿三)黑蕊蟲秋田に發生、同上六月十五日比能義郡能義村母里村地方に於ては稻苗に黑蕊蟲發生して苗葉の尖端黃褐色を呈して皆卷縮せり多きは一葉に五六頭少なきも二三頭に下らず其害實に夥多なりし而して之れが驅除の良法なきを以て殆んど困難せり先づ葉の尖端を摘切りて燒捨て或は移植の際束ねたる葉先きを切斷して移植せり

(廿四)スヾメ族を誘ふ花、靜岡縣神村直三郎、庭園に夕化粧あり此花は月見草に似て莖短かく四瓣純白なり黃昏に開化し十五分時の後には直ちに萎みて夕化粧の名に背かず去る六月三日晩食を終て之を見るに花瓣二三飛散せるあり如何なる故を知らず顧眄すれば家猫叢間より出づ此に於て知る蜜を求めて此花に來るの蛾を捕へんとして猫の此花を散せしことを即「タモ」を手にして待つ少時果して一の天蛾來りて頻りに長吻を花底に挿入して蜜を吸ふ家猫又これを捕へんとす即ち猫を排して「タモ」一閃スヾメ底邊に在り灯下にこれを見ればコスズメテフなり猫のものを横取りとは面白し此花の種子御望みの方も候はゞ本年秋期に至り呈すべし

(廿五)螳螂卵の寄生蜂同上、予が採集の螳螂卵より寄生蜂の出たることありしも一時は其卵塊を區別せず數種類混合せしため何種の卵より出でしか確かならざりしが其寄生蜂の雌蟲には長き産卵管ありてオホカマキリ卵の「ゴム質」部を透すに恰も適し居るよりさにはあらずやと疑ひ居たり其后後ればせながら各種を各別になせしに空だのみは効を奏してオホカマキリ卵よりは續々出ずれども他の種よりは絕へて出ずることとなしこれたゞ一回の試驗なれば斷言はなしがたけれ共オホカマキリ卵より出ること丈けは疑なし此事某氏に話したるに同氏採集の卵よりは絕て出でずと云へりこれは

昨年秋季に採集せしため寄生蜂産卵の暇なかりしものにはあらざるか予の採集は本年一月のものゝみなり此推測果して當れりとすれば益蟲保護家は秋季に於て同卵塊を採集すること肝要ならん

(廿六)雀の怜悧なること、兵庫縣鷺巷生、蜻蛉の發生するや水邊に於てするは三才の童子も既に之を知る余一日小溝の傍を通行す時に數匹の雀あり其溝上卑く遲くばた〳〵然として飛翔し行きては歸り歸りては行く其狀甚た多忙なるが如く意あるが如し然れ共余其故を知らず或日曜日昆蟲採集の爲め其邊を徘徊久ふす數匹の雀ありて溝上を飛翔すること前日に異ることなし余其狀を怪み暫く佇立して凝視するに一匹の蜻蛉ありて其水邊より上翔せんとする者あるを見る余之を得んと早々其携へたる捕蟲叉手を擧ぐるの遑あらずして雀の爲めに早くも先を制せられたり暫くして其溝中を探るに多數の蜻蛉は其所に發生して翅を開伸するの最中なり余爰に於て始めて雀の蜻蛉を捕へんとして溝上を飛翔する者なるを知り大に感心せり鳴呼雀にすら能く蜻蛉の弱点を覺り以て襲ふべき時を知る其蟲類を捕獲するの怜悧なる此の如し況や萬物の長たる人間にして巳が辛苦艱難して耕作せし作物を害蟲に蹂躪せられながら尙ほ驅除せざるは實に雀にも耻ずべきことならずや

(廿七)害蟲の數々、大分縣狂蟲生、本年苗代田に發生せし害蟲の主なるものは二化生螟蟲(五月十日頃より六月初め最も多し)三化生螟蟲(小數なるも未怒ろし)稻の小螟蛉(六月初め頃盛に發生)褄黑浮塵子、モンヨコバイ、イナゴ等にして之れが驅除法は其筋の奬勵により短冊形苗代として捕蟲網を用ひしむるも害蟲の智識なき農家の事とて只形式驅除に止まり遺憾多し、又本年苗代田に於て苗の二三寸に成長せし頃より漸次黃斑點より黃枯色に變するより其初めは苗代「イモチ」ならんと思ひしも尙能く取調べしに稻葉を縦に捲縮せるの狀單に病菌ならざるが如し依て捲縮せる葉を伸し見

るに無數の小蟲あり之れを驗するに豈計らんや當地方にては未だ余り被害なき（或はありたらんも未だ取調付かず）ムクゲ蟲ならんとは然れ共經驗なき害蟲と云ひ驅除に冷淡なる農家は格別頓着なき中に漸次生育期を過ぎ苗勢も稍々快復したれば農家は今は知らぬ顏なるは何んと困た話次に又本年一塊の二化生螟蟲卵を試驗管に入れ置き最早孵化する頃と云ひて出し見れば之れは又驚た螟卵は微細の小蟲と化し一匹の螟蟲を見ず依て發生せし小蟲を撿するに寄生蜂と思はれ翅は体の殆んど二倍位あるなりされど悲しきことには貧生未だ此の如き小蟲を見る高度の顯蟲鏡を持たずされば他日昆蟲世界先生ゟ質問の積りなれば讀者幸に其期を待たれよ

（廿八）下総國東葛飾郡昆蟲方言、千葉縣山田生カマキリをカゞコッチョ、梅毛蟲をボフブ蟲、カミキリムシを毛キリ、コガ子ムシをブンブン蟲、玉蟲をカ子ムシ、クサガメムシをヘクサムシ、ヒメヲカクシをカンマキ、シオヤアブをシオウリ、ミノムシをミノカサムシ、象鼻蟲をテングムシ、ハンメウをニワハキムシ、桑赤毛蟲をカリガリムシ、米象をホリ、柏ミノムシをサルムシ、テントウムシをアブラムシの親、キリギリスをキリンチョン、シャクトリムシをモノサシムシ

問答

◎昆蟲の名稱に付質問

宮城縣本吉郡御岳村　遠藤友治

別封第一號は六月上旬より八月下旬まで草間を飛翔する蝶、第二號は目下稻田畦畔などに現出する

蛾、第三號は大豆の葉を害する象鼻蟲、第四號も大豆發生當時加害する甲蟲に有之候右各種の分類和名、學名等昆蟲世界誌上にて御教示相成度奉願候

答　　名和昆蟲研究所助手　名和梅吉

第一號の蝶は鱗翅類蝶類中蛺蝶科に屬する所のヒヨウモンテフと稱し學名は Argynnis anadyomene, Feld. なり食草不明、第二號の蛾は鱗翅類蛾類中螟蟲蛾科に屬する一種なることは明かなれども翅粉脱落の爲め種名は不詳、第三號は甲翅類中象鼻蟲科に屬するものにて和名カシバゾウムシと稱し學名は Phyllobius japonicus, Faust. なり該蟲は大豆葉を食する如くあれども全く大豆を食するものとは相違せり大豆の害蟲たるものはコフキゾウムシと稱し此種に酷似するを以て往々誤認することあり第四號は甲翅類中ハムシ科に屬するものにて和名フタスジハムシと稱し學名は Monolepta nigrobilineata, motsch. なり

◎アカスジシロテフに付質問

愛知縣寶飯郡大塚村　小林春藏

余六月下旬宅地内の樹木に別封の蛾靜止するを採集せり然ながら其害、益蟲なるや不明に付其區別并に經過習性乍御手數昆蟲世界誌上にて御教示奉願候也

答　　名和昆蟲研究所助手　名和梅吉

現蟲を見るに鱗翅類蛾類中蠶蛾類に屬する一種にして和名アカスジシロテフと稱し學名はBizone hamata, Walk. と云ふ該蟲は別に農作物には關係なきものとす其幼蟲は石碑或は岩石樹幹等に自生する所の地衣類を食して生活す充分成熟する時は極めて粗造なる繭を造り其内にて蛹となり尙は變じ

て成蟲即ちアカスジシロテフとは成れり

雜報

◎諸氏の來所　六月十日岐阜聯隊區陸軍二等軍醫小出誠義氏、陸軍三等軍醫長尾捨次郎氏、十七日東京市京橋區南傳馬町穴山篤太郎氏、同所落合彌三氏、惠那郡下原田村下田漆原尋常小學校訓導千葉銈次郎氏、加茂郡黑川西尋常小學校訓導山下欽一郎氏、同郡白山尋常小學校訓導田口榮次郎氏、同郡蜂屋尋常小學校訓導高木右京氏、同郡潮見尋常小學校訓導村瀨梅太郎氏、大垣高等女學校教諭迎てる子、岐阜中學校教諭長野菊次郎氏、富山縣婦負郡長前田則邦氏、十八日東京帝國大學法科大學生江尻廉三氏、十九日農商務省鑛山局技師理學士水戸忠太郎氏、岐阜高等女學校長三吉艾氏岐阜徹明尋常小學校教員村田克己氏、理科大學教授理學博士渡瀨庄三郎氏、廿二日東京市本所區林町竹下德氏、二十四日愛知縣葉栗郡西部高等小學校職員不破要次郎氏及同校生徒九名、益田郡莊原町尋常高等小學校職員今井和吉氏、同郡同町宮田尋常小學校教員勝野龜吉氏、同郡下呂村東上田尋常小學校教員田口莊松氏、稻葉郡北長森尋常小學校教員遠藤平次郎氏及京都府丹後國宮津町小西才藏氏、廿七日廣島縣安作郡實業視察員平田敬之助氏、同縣同郡三入村久保敏男氏、廿九日島根縣農林學校長農學士榊原仲氏、三十日加茂郡山之上尋常小學校教員所和丸氏、同郡鹿[illegible]尋常小學校教員大谷龜次郎氏、同郡川浦尋常小學校教員速水一平氏、七月一日益田郡下呂尋常高等小學校教員小池岩吉氏、不破郡岩手尋常高等小學校訓導岩田保太郎氏、山縣郡菊原尋常小學校訓導水野鑑爾氏、二日不破郡相川小學校訓導三輪鎌吉氏、三日東京牛込區市ケ谷仲ノ町大池銀三郎氏、名古屋市園井町松崎友太郎氏、七日愛知縣渥美郡中山學校訓導峯上文助氏、同郡同村荒木田道生氏、縣下不破郡府中小學校訓導山口幾二郎氏其他各學生有志者百數拾名來所の上昆蟲標本を縱覽せられたり

◎第十九回岐阜昆蟲學會　同會第十九回月次會は七月七日(第一土曜日)午後一時例に依り

當市縣農會樓上に於て開會し第一席名和昆蟲研究所長名和靖氏開會の辭、第二席揖斐郡昆蟲研究會代表者長屋米次郎氏は同郡昆蟲研究會の計劃を述べ第三席第一回岐阜縣害蟲驅除修業生小竹浩氏不破郡の害蟲に就て第四席加茂郡小學校敎員昆蟲講習會員安田久之助氏害蟲驅除と小學兒童に就て第五席岐阜中學校敎諭長野菊次郎氏は植物と昆蟲の關係に就き精密なる寫生圖を示し懇切丁寧に講演せられ最后に名和梅吉氏はムクゲムシの種類に就ての演說等ありて午后五時二十分閉會本日は雨天にもかゝわらず出席者六十余名に達し非常に盛會なりし殊に大垣高等女學校敎諭迎てる子孃も出席せられ熱心に傾聽されしが他より婦人の出席は本會組織以來今回が嚆矢なり本所の望むは一般婦人の斯く此昆蟲學に意を注がれんとを

◎渡瀨博士の來所並に講話　螢の研究に有名なる理學博士渡瀨庄三郎氏は六月上旬螢研究の爲めに江洲石山地方へ出張種々取調を終へ同月十九日歸途當研究所を訪問し所長と快談數時其外縣下山縣郡岩崎方面に螢の採集を試みられ翌二十日岐阜中學校に於て生徒及有志者の爲螢の發生經過及發光の作用に就き熱心に講話せらる同氏は此發光の理を究め之を普通の燈光に應用せんと苦心せられつゝある由なれば定めて他日一大發明あるならんと信ず

◎第四回全國害蟲驅除講習會の景況　同會は六月一日午前九時岐阜縣農會樓上に於て其開會式を擧け爾后引續き前回の如く一般昆蟲學より害蟲驅除法、益蟲保護法及び其他總ての講習科目を敎授し居りしが同月十四日を以て全科修了せしに依り同日午前十時より修業証書授與式を擧行したり修業生は一府十四縣三十四名にして來賓には岐阜縣第四課長及農學校敎員農會理事新聞記者等の外米國スタンホールド大學米國理學士桑名伊之吉氏も歸國の際偶然出席したり名和講師は開會の辭を述べ修了証書を授與し續いて訓辭を述べ夫より岐阜日日新聞社員仙石保吉氏桑名理學士の祝辭に代る演說修業生總代の答辭等を以て式を畢り別室に於て修業生の成績品を一覽し茶菓の饗應ありて退散せしが午后二時より今小町德文樓に於て修業生一同の送別會及び懇親會を開き講師始め午前の來賓諸氏も臨席し修業生の意匠に成る昆蟲の席籤並に福引等の餘興あり酒盃の間に各自胸襟を開いて懇談し各々十二分の歡を尽して散會せしは八時頃なりしと

因に本會講習生の定員は四十名の筈にて開會前巳に定員に滿ち居たりしも時恰も養蠶挿秧等農家

の最も多忙なる季節に際會せしを以て右等の情に制せられ出席し得ざるものありしを以て欠員を生じたる次第なりと云ふ

◎講習生の修學旅行　前項記載の第四回全國害蟲驅除講習生一同は名和昆蟲研究所助手名和梅吉氏に從ひ六月八日午前十一時發縣下養老地方へ修學旅行に趣かれ同日は大垣町ニ一泊翌九日歸所したるが意外に夥多の昆蟲を採集し得たりと云ふ

◎講習生の五分間演説と幻燈會　前項の講習會開設中六月十日午后一時より先例に依り講習生一同各五分間宛昆蟲に關する演説を爲したるが皆熱心に講演せられたり其秀逸なるものは本號講話欄に掲載あり越て亦同十三日には午后七時より講習中に於て實地敎授を受けて講習生各自に製作せし幻燈種板を用ひて昆蟲幻燈會を催會せしが各得意の辯を振ひて説明を爲しなか〳〵の盛會なりしと云ふ

◎講習中諸氏の昆蟲講話　第四回全國害蟲驅除講習會中名和講師の請求に依り六月四日兒童研究者高島平三郎氏は兒童發育の有樣より害蟲驅除に尤も適當なると同月七日農商務省技師農學士小貫信太郎氏は害蟲の發生に就き同月十四日米國理學士桑名伊之吉氏は介殼蟲の分類より尤も恐るべきサンノゼー介殼蟲の原産地に就き何れも熱心に講話せらる

◎講習員採集の昆蟲數　同上講習中に於て講習員の採集せられたる昆蟲數は左表の如し

	第一組	第二組	第三組	第四組	第五組	第六組	第七組	第八組	第九組	第十組
膜翅類	一九	一五	二一	一〇	八	三	三	一二	五	一一
鱗翅類	三〇	六一	四三	三五	三二	三七	三二	三五	三一	二五
雙翅類	一六	二一	一八	一七	一六	一〇	四	一三	一三	一〇
甲翅類	二七	六七	三六	二七	二三	一〇	二〇	三五	三二	二二
半翅類	八	一八	一九	七	八	三	二	四	五	五
直翅類	七	一三	一一	一一	八	三	八	四	一一	一二
羅翅類	二三	二八	三六	一九	二二	六	九	一四	九	一四
合計	一三〇	二二三	一八四	一二六	一一七	七二	七八	一一七	一〇六	九九

◎第四回全國害蟲驅除修業生姓名

同修業生の住所姓名略歴等は左の如し

組別	府縣名	郡市名	町村名	族籍	舍長又ハ組長	氏名	生年月	略履摘要
第一組	長野縣	更級郡	塩崎村	平民	欠席	風間平一郎	明治十六年一月	小學高等科卒業 農業從事
	京都府	紀伊郡	上鳥羽村	平民		桑原彦二郎	明治十四年二月	小學高等科卒業 農業從事
	和歌山縣	伊都郡	橋本町	平民		山下源一郎	明治十二年七月	大坂府立農學校卒業 農業從事
	愛知縣	寶飯郡	御油町	平民	組長	青山新次郎	明治十年七月	愛知縣師範學校卒業 小學校本科正教員
第二組	兵庫縣	佐用郡	江川村	平民		西田兵太郎	明治九年七月	兵庫縣農事試驗場見習卒業 農事ニ從事
	愛知縣	中島郡	井長谷村	平民	組長	服部松之丞	明治四年六月	農事講習所修業 農友會幹事
	和歌山	有田郡	藤並村	平民	舍長	林文吾	安政五年九月	漢學修業 農業ニ從事
	愛知縣	丹羽郡	布袋町	士族	副舍長	味勝正義	文久三年九月	郡書記勤務
第三組	富山縣	射水郡	片口村	平民		江尻豊太郎	明治六年五月	尋常中學校二年級修業 郡農會幹事
	和歌山縣	東牟婁郡	三輪崎村	平民		池本德太郎	明治八年六月	郡書記勤務
	愛知縣	寶飯郡	大村	平民		石黒豊太郎	明治九年十月	尋常師範學校卒業 小學校本科正教員
	愛知縣	幡豆郡	東幡豆村	平民	組長	神谷兵吉	明治元年一月	尋常師範學校卒業 小學校本科正教員
第四組	三重縣	河山郡	布引村	平民		西川鉄藏	慶應三年五月	農事講習所修業 小學校本科正教員
	和歌山縣	海草郡	三田村	平民	組長	南浩平	明治三年二月	高等小學校卒業 農業ニ從事
	愛知縣	寶飯郡	國府町	平民		近藤福藏	明治二年一月	尋常師範學校卒業 小學校本科正教員
	愛知縣	寶飯郡	大村	平民		內藤鍬三郎	明治四年六月	尋常師範學校卒業 小學校本科正教員

組	府縣	郡	町村	族籍	役	氏名	生年月	履歴
第五組	山梨縣	東八代郡	黒駒村	平民		渡邊昶友	明治十一年七月	尋常中學校三年級修業 實業ニ從事
	和歌山縣	西牟婁郡	朝來村	平民	副舍長	堀藤六	安政六年十一月	漢學修業 實業ニ從事
	愛知縣	西春日井郡	上小田井村	平民	欠席	田舍片佐十郎	明治十五年一月	高等小學校卒業 農業從事
	愛知縣	寶飯郡	睦美村	平民	組長	內藤種藏	明治五年四月	寶飯郡教員講習會修業 小學校准訓導
第六組	京都府	加佐郡	志樂村	平民		山本源一	文久二年一月	農事講習所修業 村役場助役勤務
	靜岡縣	磐田郡	三川村	平民	欠席	太田順一郎	明治十二年五月	高等小學校卒業 實業從事
	和歌山縣	日高郡	矢田村	平民	組長	湯川熊二郎	明治元年九月	郡書記勤務
	愛知縣	渥美郡	六連村	平民		宮野勇太郎	明治五年二月	小學校本科正教員
第七組	京都府	綴喜郡	田邊村	平民		西村正夫	明治九年三月	大坂府立農學校卒業 郡農會技手
	愛媛縣	溫泉郡	素鵞村	平民		白石大藏	明治三年三月	農事講習所習了 縣農會技手
	和歌山縣	郡賀郡	長谷毛原村	士族	組長	北田直祐	元治元年一月	漢學修業 郡會議員勤務
	愛知縣	寶飯郡	鹿菅村	士族		水野龍治郎	元治元年七月	漢學修業 小學校本科正教員
第八組	岐阜縣	惠那郡	付知町	平民	組長	玉置源次郎	明治四年八月	尋常師範學校卒業 小學校本科正教員
	佐賀縣	佐賀郡	艸野村	平民		綾部源橘	明治三年二月	農科大學農學乙科卒業 縣立農學校教諭
	鳥取縣	八頭郡	河原村	平民	欠席	萩原惇造	明治十年四月	農事講習所修業 農業從事
	愛知縣	寶飯郡	塩津村	平民		松尾幸治郎	明治七年十一月	尋常師範學校卒業 小學校本科正教員
第九組	岐阜縣	惠那郡	三郷村	平民	組長	三宅鎌吉	明治元年十一月	小學校本科正教員
	佐賀縣	佐賀郡	金豆村	士族		井手龜一	明治元年七月	小學校農業科教員
	佐賀縣	杵島郡	北有明村	平民		遠藤治一	明治五年十一月	大坂府立農學校卒業 小學校農業科教員
	愛知縣	寶飯郡	鹿菅村	平民		片山春三郎	明治十年二月	尋常師範學校卒業 小學校本科正教員

第十組							
山形縣	東村山郡	出羽村	平民		海和留八	明治十六年十月	農事講習所修業 實業ニ従事
山形縣	東置賜郡	高畑町	平民	欠席	大野市郎	明治十年六月	講習所修業 實業ニ従事
愛知縣	寶飯郡	白鳥村	平民		伊藤壽二郎	明治八年七月	尋常師範學校卒業 小學校本科正教員
愛知縣	寶飯郡	御津村	平民	組長	白井熊三郎	明治六年二月	尋常師範學校卒業 小學校本科正教員

◎惠那郡小學校教員昆蟲講習會景況　岐阜縣惠那郡教育會の主催にて六月廿一日より廿五日迄五日間同郡中津尋常高等小學校樓上に於て名和當所長代理助手名和梅吉氏を講師に招聘し郡内各小學校教員を集めて昆蟲講習會を開設せしが講習員は傍聽生とも八拾餘名に達中々盛會にして其内修業証書を得られたるは六拾七名なり而して若林同郡長の熱心に依り廿六日講習員六拾七名を郡役所樓上に集め今后進むべき方針に就き夫々協定せりと云ふ

◎加茂郡小學校教員昆蟲講習會景況　同會は七月一日岐阜縣農會樓上に於て其開會式を擧け爾來引續き講習を爲し去る五日規定の會期滿ちたるを以て同日午后二時修業証書授與式を擧行せしが來賓には知事代理峯視學官及び佐賀本縣視學、渡邊、村井の二縣屬等にして加藤郡長修業生三十八名に証書を授與したり同日は福井加茂郡視學の開會の辭加藤郡長の式辭名和講師の訓誡、峯視學官の祝辭、生徒總代の答辭等ありて五時頃全く式を畢り夫より一同水琴亭にて懇親會を催したりと云ふ

◎昆蟲展覽會出品の準備　明年當所に於て開催する第一回全國昆蟲展覽會へ出品の準備として各府縣に於ては當夏期或は秋期に際し一郡或は數郡聯合して昆蟲展覽會を開會し右の内にて優等なるものを明年出品せんとて夫々準備中の由なるが既に時日の確定したる所は愛知縣三河國渥美、寶飯、南設樂、八名の四郡にして來る八月十日より同廿四日迄開設さるゝ東三聯合物産共進會の内に昆蟲展覽會を催さる筈又岡山縣邑久郡にては同郡昆蟲展覽會を組織し八月廿二日より同廿六日迄五日間開會さるゝ由其他若狹國三方、大飯、遠敷の三郡も又昆蟲展覽會を開設せん筈なりと云ふ

◎小學生徒の作りたる昆蟲の摸樣　左は米國紐育市高等小學校生徒の作りたる昆蟲の摸樣なりとて去六月八日發刊二六新報第五百六十五號書報欄に掲載したる者を爰に摘録せし者なり

紐育市高等小學校生徒の作たる摸様　近來は何々意匠會とか何々圖案部とか云ふ會が澤山あるが摸様などでも古代のを燒直すか又は判じ物見た様なあんばいに詩歌の意味を表して得意がつてるのが多いが西洋では直に自然物を組合せる方に重きを置いてるから縱而斬新な思付が出る玆に載せたのは北米ニウヨーク市の高等小學校へ近年美術敎育の初步を與へる様に成つてから小供に或る一定時を限つて迅速に作らせた摸様の其一ッだカリマ蝶の形を其まゝ用ひてこんな面白いものを作り出した所はなか〳〵東洋美術國の專門家にも出來そうでない

◎名和所長の巡回　當昆蟲研究所長名和靖氏は今回宮城縣廳の依囑に依り往復日數を除き滿十日間同縣下の害蟲實査の爲め本月九日同地へ向け出發せられたり

◎岩手縣に於ける昆蟲採集旅行隊　岩手縣水澤町の下飯坂武次郎氏（第一回全國害蟲驅除修業生）同縣氣仙郡小友村の鳥羽源藏氏（本所の特別通信委員）相謀り昆蟲研究のため同志者を募り八月十五日一の關町に集り昆蟲採集隊を組織し一週日間陸中國東、西磐井地方に旅行採集を試むといふ西磐井郡には有名なる中尊寺（藤原氏時代の古跡）あり且つ溫泉もある事故古代美術の精を尋ね鑛泉に炎塵を洗ふも妙なるべし右一行に加はらんと欲するものは八月五日までに鳥羽氏へ申込み集合地の宿泊所等を照會すべし

○害蟲圖解出版廣告

○第一桑樹害蟲エダシヤクトリ(枝尺蠖)(再版)
○第二桑樹害蟲トゲシヤクトリ(刺尺蠖)(再版)
○第三稻の害蟲イテノズイムシ(二化生螟蟲)
○第四煙草害蟲タバコノアチムシ(煙草螟蛉)
○第五稻の害蟲イチモンセヽリ(苞蟲)
○第六桑樹害蟲ヒメゾウムシ(姬象鼻蟲)(新版)
○第七桑樹害蟲シンムシ(心蟲)
○第八稻の害蟲イ子ノアチムシ(螟蛉)(新版)

以上既版

○茶の害蟲ミノムシ(避債蟲)
○豌豆害蟲エンドノキリムシ(夜盜蟲)
○稻の害蟲ツマグロヨコバイ(浮塵子)
○桑樹害蟲クワカミキリ(天牛)
○桑樹害蟲イトヒキふマキムシ
○茶の害蟲チヤケムシ(茶蛅蟖)
○桑樹害蟲キンケムシ(金蛅蟖)
○稻の害蟲イナゴ(蝗螽)
○稻の害蟲フタホシズイムシ(三化生螟蟲)
○桑樹害蟲アオハマキムシ(青葉卷蟲)
○桑樹害蟲クワハマキ(桑葉卷蟲)
○蔬菜害蟲モンシロテフ(菜の螟蛉)
○松樹害蟲マツケムシ(松蛅蟖)
○梅樹害蟲ウメケムシ(梅蛅蟖)
○梨の害蟲ナシゾウムシ(梨象鼻蟲)
○大豆害蟲ヒメコガ子(金龜子)

以上逐次出版の分

●(一)圖解の紙幅　縱一尺三寸橫九寸
●(二)壹枚の代價　拾五錢郵稅貳錢
●(三)百枚以上一纏代價　壹枚拾錢郵稅百枚に付き貳拾錢

●豫約代價

壹枚拾錢郵稅貳錢但申込の際前金添附の事

圖解代金　凡て前金にあらざれば回送せず但郵券代用一割增の事

右害蟲圖解第一より第八迄は既に發行を成し江湖の高評を博したりと雖も未だ當業者全般に普及せざるの憾なしとせず抑本圖解は鮮明なる着色石版圖にして被害植物の實際より害蟲の性質經過等一目瞭然に描寫し加ふるに平易なる解說を附したるを以て普通農家に於ても尤も理解し易く尤も必需のものたり故を以て岐阜縣に於ては既に之れを採用し各町村農會及小學校は勿論町村役塲警察署等へも頒布せしに一般よ害蟲の經過習性等を解得し害蟲驅除上著大の効を奏したりと云ふ依而當所は此際憤勵一番更に重要作物の重なる害蟲を撰擇し逐次出版せんとす而して該出版物に對しては特よ豫約と爲し前掲の如く價を低減し大に當業者に普及し實用に適應せしめんとす豫約希望者は速に御申込みあれ又既に出版濟みの分は各町村役塲又は町村農會小學校其他の團体に於て御取纏め一手購求せらるゝ時は大に便利なり乞ふ幸に愛顧を垂れ陸續御注文あらん事を

發行所　岐阜縣岐阜市京町　**名和昆蟲研究所**

昆蟲世界購讀者紹介諸君芳名

靜岡縣丸山方作君(一名)岐阜縣千葉逸次君(一名)山口縣小田常太郎君(一名)靜岡縣岡田忠男君(一名)和歌山縣池本德太郎君(一名)和歌山縣石桁雅五郎君(一名)岐阜縣天野秋二君(一名)

昆蟲世界第三十四號目次

岐阜昆蟲學會月次會廣告

岐阜昆蟲學會月次會は每月第一土曜日午後正一時より岐阜市京町岐阜縣農會樓上に於て開會そる筈なれば萬障御繰合の上每回御出席御演說に預り度候尤も第一土曜日は名和昆蟲研究所員一同午前より研究を中止し居れば精々早く御出席に相成候得ば斯學研究上出來得る限り御便利御與可申上候以上
　但し該會へは縣の內外を問はず有志者諸君は廣く御出席を請ふ

明治三十三年一月

名和昆蟲研究所內
岐阜昆蟲學會

岐阜昆蟲學會月次會本年中の日並は左の如し
。。。。。。。。。。。。
第二十回月次會（八月四日）　第廿二回月次會（十月六日）
第廿一回月次會（九月一日）　第廿三回月次會（十一月三日）
　　　　　　　　　　　　　　第廿四回月次會（十二月一日）

第二十回月次會は八月四日に開會す精々御出席を請ふ

名和昆蟲研究所案內

當研究所の位置は上圖の如くにして停車場よりは僅十餘町なり當所には常設の昆蟲標本陳列室あり新設の養蟲室もあれば有志の諸君續々來訪あれ

岐阜縣岐阜市京町
名和昆蟲研究所

本誌定價並廣告料

壹部郵稅共金拾錢（見本は五厘郵券貳拾枚にて呈す）
十部郵稅共金九拾錢

（注意）本誌は總て前金に非れば發送せず●爲替拂渡局は岐阜郵便電信局●郵券代用は五厘切手にて壹割增とす

廣告料五號活字廿一字詰一行に付き金十錢三十一行以上一行に付き金八錢とす

明治三十三年七月十五日印刷並發行
岐阜縣岐阜市今泉九百三番戶ノ二
（岐阜縣岐阜市京町）
發行所　名和昆蟲研究所
岐阜縣岐阜市今泉九百三番戶ノ二
發行者　名和靖
同縣山縣郡岩野田村大字栗野百廿三番戶
編輯者　桑原貫之助
岐阜市笹土居町四十四番戶
印刷者　安田豐八

（明治三十年九月十日內務省許可）
（岐阜市安田印刷工場印行）

PRINTED BY YASUDA TYPE PRINTING WORKSHOP, 19, Higashi-tsukasa-machi, Gifu, Japan.

Vol. IV. AUGUST 15TH, 1900. No. 8.

（八月十五日發行）

（毎月一回定時刊行）

THE INSECT WORLD:

A MONTHLY MAGAZINE.

EDITED BY Y. NAWA.

GIFU, JAPAN.

昆蟲世界

第參拾六號　（第四卷第八册）

目次　（禁轉載）

PUBLISHED BY THE NAWA'S ENTOMOLOGICAL LABORATORY IN GIFU, JAPAN.

◎寄附物品受領公告

一金七圓也　第五回全國害蟲驅除講習員一同
一金七圓也　福井縣　松原朔朗君
一金貳圓也　京都府　野間貞三郎君
一金貳圓也　長野縣　伊原長三郎君
一長野縣下伊那郡農會報第一、二、　長野縣　伊原長三郎君
一第四回關東區實業大會報告　一冊　栃木縣各實業團体
一私設山梨農事試驗場成蹟　一冊　私設山梨農事試驗場
一又新日報（昆蟲記事掲載）二葉　兵庫縣　三枝角太郎君
一中津新報（昆蟲記事掲載）二葉　大分縣　伊東藤平君
一二六新報（昆蟲記事掲載）一葉　岐阜縣　三好庫之助君
一全身寫眞（一葉）　岐阜縣　增田敬司君
一團扇（蝶摸樣附）一本トンボの畫　宮城縣　岩淵良太夫君
一蝶の簪　一本　愛知縣　宮林桂次郎君
一蠅取器　二個　和歌山縣　藤枝碩三君
一蟲除御札　一枚　長野縣　吉川清一郎君
一蟲除御札　一枚　岐阜縣　多和田幾治君

右當研究所へ寄附相成候に付芳名を揭げ其御厚意を謝す

明治卅三年八月　岐阜市京町　**名和昆蟲研究所**

◎懸賞昆蟲寫生圖募集

懸賞課題　蝶

募集期限　九月三十日

賞品

一等　二名　昆蟲世界一ヶ年分
二等　三名　同　半ヶ年分
三等　五名　害蟲圖解　三枚

目下初等敎育に於て圖書科を課するも多くは手本を與へて臨寫せしめ殆んど實物寫生の應用的練習なきを患ひ玆に奬勵の爲め懸賞をして廣く是等の寫生圖を募集せんとす

募集規定

鉛筆書又は毛筆書、輪廓線又は光線又は着色適宜、一枚一圖に限る、可成實物大を貴ぶと雖も小形のものは放大圖にすると植物を添ふるも宜し、蟲名を記入すると、學校名並に姓名を明記すると、實物を手本として寫生したるものに限る、圖は一切返附せざると優等圖は木版或は寫眞銅版に製して昆蟲世界の誌上に於て發表すべし

明治卅三年七月　岐阜市京町　**名和昆蟲研究所**

○昆蟲展覽會寄附金受領公告

明年四月を期し當所主催と成りて開設する第一回全國昆蟲展覽會へ寄附金額並に芳名左の如し

一金壹圓也　第二回岐阜縣害蟲驅除修業生　桑原濱次郎君

明治卅三年八月　名和昆蟲研究所

(1) 滋賀縣農事試驗場浮塵子飼育の實況

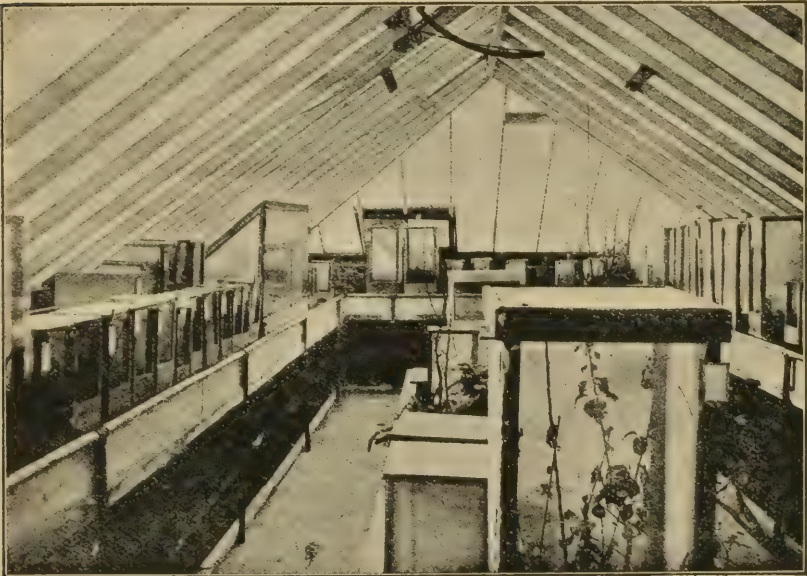
(2) 奈良縣農事試驗場養蟲室外景

由比昌太郎氏撮影

(3) 三重縣農事試驗場養蟲室外景

名和昆蟲研究所員撮影

(4) 米國オハイオ州農事試驗場養蟲室内景

論說

◎介殼蟲の發生と氣候との關係

米國スタンフォルド大學　米國理學士　桑名伊之吉

介殼蟲類は他の昆蟲類の如く生殖力の莫大なるにも關らず播殖の意外に多からざるは事實なり、之即ち天然の制裁ありて其多量を撲殺するによるものとす、制裁とは之を換言すれば天仇にして黴菌、食蟲動物及び寄生動物等を謂ふ、菌類の介殼蟲類に寄生するもの其種類少からずと雖も數年前合衆國フロリダ州に於て發見せし Sphaerostilbe coccophila, Tul. は歐米諸國にて最も恐るべき有害介殼蟲（San jose scale）に寄生し之を殺滅するを以て目下大に其試驗中なり、食蟲動物中其介殼蟲を食殺して我人に有益なるものは多く瓢蟲科屬なり、十數年前カリホルニア州南部地方の果園に發生せし介殼蟲 Icerya ptrchasi, Maskell. を撲滅せしはコエベリー氏（Albert Koebele）の手を經て濠州より輸入せし瓢蟲 Vedalia cardinalis, Muls. なり、Lecanium oleae（オリブノ介殼蟲）を食殺するには Exochomus pilatei, Makant. あり、其他食介殼蟲の瓢蟲二三を擧ぐれば Hippodamia ambegna, LeConte; Coccinella oculata, Say C. oculata var. abdominalia, Say; C. sanguinea, Linn; C. Transversoguttata. 等あり、各自相異りたる介殼蟲を殺滅す、寄生動物中には膜翅類の小蜂科（Chalcidae）最も多し其

著名なる數種の名を擧ぐれば Mytilaspis Pomorum. (苹果の介殼蟲)及び他の介殼蟲に寄生するAphelinus mytilaspidis, LeBaron, あり Diaspis rosae, (薔薇の介殼) に寄生する A. diaspidis. Howard. あり Lecanium oleae. に寄生する Tomocera californica, How. あり San jose scale を撲殺するAphelinus diaspidis, How. あり、斯の如く介殼蟲と天仇の關係に就ては夙よ知られたる所あり、獨り天候の殺蟲に力あるや否やに至りては未だ充分の研究せしものあるなし遺憾なりと云はざるべからず、近來米國にては天氣と介殼蟲發生とに就き聊か學び得たる處あり、Marlatt 氏は信ず氣候の順不順は介殼蟲被害の多少を卜するに足るなりと、介殼蟲が氣候の爲めよ殺滅さるゝ數は天仇即ち黴菌、食蟲動物及び寄生蜂に斃さるゝものよりは一層夥多なりと、歐州に於ける介殼蟲害のアメリカより比較的少なきは甲土の氣候は乙地に於けるが如く其發生に好適せざるよ因らざるべからず、歐州中部の如く夏期割合に冷く多量の水分ありて比較的少量の光線を受くるの地はさて措き酷暑燒くが如く百物爲めに旱燥なるの處無數の介殼蟲は爲めに燒死され僅に其種屬の存するあるのみなれば其被害は甚だ少なし Pargande 氏嘗て云ふ獨乙及び中央歐州の狀態は米國の如く介殼蟲の發生に好適ならざることを發見したりと、亞米利加に於ける夏期長く光線多量にして水分の適度なる地は實業家をして多額の費用を介殼蟲の爲めに仕出せしむるの原因たること疑もなき事實なり、然りと雖も米國にも又歐州と殆んど同一の氣候なる處あり縱令ばカリホルニア州沿岸を隔たるの地は夏期至つて暑く且つ旱燥なれば介殼蟲被害の狀態も又彼此相似たり加州の暑且つ永き夏日華氏百〇六度數日繼續する時は三分の二以上の Black-scale を斃死すと云ふ、一千八百九十六年の夏期は殊に暑熱甚だしかりしが River side の柑橘園に發生せる Black Scale の九十%は燒死されたりと以て柑橘栽培家が天

候によりて如何に稗益を得るやを知るべし之に反して加州北部地方の如く夏期至つて冷しく水氣多量なる地方は南部即ち River side 地方と均一の結果を見ること能はず、勿論天候は介殼蟲を殺撲するの力ありと雖も人爲的伐枝法によりて樹枝の雜茂を防ぎ空氣と光線の通過をよくせしむるも又預て力あり、異種奇形の介殼蟲は各自相違なる狀態の下に棲息するならんが要するに光線と温氣に富み水分の中庸を得たる地に多く播殖し冷味勝の地或は酷熱旱燥の氣候には多く播殖せざるなり、去る七月中旬余和歌山縣屬石桁氏と共に柑橘害蟲採集の爲め同縣有田郡地方を巡視せしとき仝郡々長野田氏及び林文吾氏の 紹 會によりて田殿村老農矢船氏の柑橘園を試視せしに介殼蟲被害の甚だ少なきを怪しめり、勿論仝氏は柑橘栽培の老練家として夙に知られたる人なれば自然是等害蟲驅除豫防をも充分に努めたるや疑ふ處にあらずと雖も他に主要なる原因なかるべからず、余の採集せし標本は其儘に紙に包みあれば未だ顯微鏡的研究を爲さゞる故に每く其種名を知る能はずと雖も肉眼を以て試視したるまゝに附名すれば左の七種なり

1. Aspidiotus aurantii　2. Aspidiotus, sp.　3. Pulvinaria aurantii
4. Mytilaspis sp.　5. Chionaspis sp.　6. Lecanium, sp.
7. Icerya sp.　8. Ceroplastes sp.

勿論余が短少の時日を以て僅かに一地方の柑橘を試視して以て紀州全体のことを想像するが如き愚を語るにはあらざれども今 Marlatt 氏の所説を信じ余が視察せし地方の狀態を考ふる時は地理上よりするも地質上よりするも其氣候至つて旱燥して夏期の暑熱甚しく爲めに介殼蟲の播殖に好適ならざるもの丶如し即ち余が視たる有田郡の柑橘栽培地は多く南面せる山腹を開墾せし小區の畑にして

半面の畦畔は數尺に達する石垣なれば自然旱燥にして暑勢猛烈なり是即ち介殼蟲の多く發生せざる一大原因なる可し、紀州は古來好良の柑橘を作り出すを以て其名海外に普し殊に有田郡の如きは其栽培地千三百町余ありと云ふ蓋し當業者も多年の經驗ありと雖も天候の助力又尠なからざると云ふも敢て不過ならざる可し、余は他日深く研究せば大に得る處あらんと信ず聊か茲に卑見を綴つて后學者の參考に供すと云爾

◎食蟲動物（上）《一名天然の害蟲驅除者》

千葉縣特別通信委員　林　壽祐

吾人の棲める此地球上に於て、吾人の身外を圍繞するものは、翠綠に色どれる草木なり、草木の間には、自在に飛び翔け、自在に馳せ廻はり、自在に跳ね躍るものあり、これを動物と稱す、此自在に行動し得る動物中にて、最も多く、吾人の眼に觸るゝを昆蟲類（Insecta）とす。抑も昆蟲類は此地球上に於て、果して幾何あるものなるが、其數量に於ては、到底吾人の推測し能はざる所なり、唯其種類に至つては、近代學者の調査によるに、獸類、鳥類、爬蟲類、兩棲類、魚類等、總ての有背動物を合して二萬五千餘種とし、昆蟲類を以て三十萬種に達すとなせり、驚くべし全動物を擧ぞるも、節足動物（全類にて三十九萬四百種の）一目たる昆蟲類の半ばだにも及ばざるを、況んや個々たる頭數に於てをや

昆蟲類は、大は蟷螂飛生蟲の如きあり、小は姬蜂浮塵子の如きあれども、槪して小形にして寸餘に及ぶもの多からざるなり。此類は食肉するものあれども、そは唯十中の一に過ぎず、他は悉く植物性にして、生活を營むものなり、就中吾人の培養する、穀草、蔬菜、果實は、最も彼等の口に適

し、農業發達とともなひ、昆蟲も又增加するものとす、稻（浮塵子、螟蟲、蝗、椿象、泥蟲、螟蛉、ハマクリ蟲、蚜蟲）麥（夜盜蟲、粟蠶、キリウジ、ケラ）豆（金龜子、飛蝗、椿象、地蠶）藍（螟蛉、蚜蟲）桑（枝尺蠖、天牛（鉄砲蟲）葉捲蟲、姫象鼻蟲、金蛅蟖、果蠧蟲、羽衣、ハムシ、イトヒキハムキムシ）茶（蛅蟖、尺蠖、避債蟲、介殼蟲）菓樹（綿蟲、蚜蟲、介殼蟲、イラムシ、避債蟲、葉捲蟲）等、吾人の有用作物は、時々刻々、數多の害蟲に荒されつゝあるなり。而して此類を害する惡蟲は、性貪食にして生長速なり、氣候適順なれば、其繁殖頗夥し、或る學者の試驗に、一匹の浮塵子の雌は、殖産する事一回に四十五匹、五回即ち一年に、二千三百九十餘萬匹に及びしといふ、又一雌の螟蟲が産付けし卵子は、一年にして二十餘萬に增殖する度合なりとす、然らば地球の表面は、數年ならずして、昆蟲を以て充塞せらるゝならん、吾人は食するに米麥なく、築くに木材なく、着くるに綿麻なく、竟には生活を斷絶するの、危難に陥るならん、さても心細き次第ならずや

天道人を殺さずと、佳い哉言や、爰に又自ら生を營まん爲め、日夜無數の昆蟲を捕食し、以て其法外の增殖を防ぎ、間接吾人の利益となるものあり、之を食蟲動物と稱す、動物多しと雖も、過半は草葉木皮果實穀粒により、殘半は肉類によりて生活す。食肉類（Carnivora）にも、或は温血動物を食し、或は魚介の類を食らひ、昆蟲を食ふものは、僅に其一部に過ぎざるなり、然れども此一部の食蟲類（Insectivora）は、能く生存競爭場裡に處し、宇宙の平均を取り、敢て頑强なる昆蟲をして、其欲望を逞ふせしめず、以て人生をして安堵せしむるものなれば、吾人は宜しくこれを愛護し、兼て其功能を賞揚せざるべからず

昆蟲を食するもの、必ず有益と稱するに非らず或は却て益蟲を損ひ或は果穀を害し或は他の微弱なる食蟲類を滅すなどの類あれども其は極めて小數なるのみ、而して益蟲の如きは性活潑にして攻守に巧みなるものなれば、猥りに强食せらるゝの患なし。昆蟲を食する動物中、最も多數なるは、鳥類よして、殆んど其全類は蟲食すといふべし、隨て其蟲害を除却するの効最も著しとす、我政府よては、保護鳥規則を設け、擅よ狩獵する事を禁せり、鳥類よ次ぎては昆蟲の同門たる蜘蛛類、哺乳類中の食蟲類及び両棲類、爬蟲類とし、蟲食種屬よ乏しきものを、多足類、魚類とす、而して軟体動物(章魚蛤)蠕形動物(蚯蚓、條蟲)棘皮動物(海膽、沙噀)腔腸動物(珊瑚、水母)海綿動物、原生動物よ至つては、未だ昆蟲を捕食するものあるを聞かず、今爰よ食蟲動物を蒐出し其功益の一般を示さんとす

(未完)

◎稻の害蟲黑ムクゲムシに對する豫防驅除の意見

静岡縣特別通信委員　岡田忠男

稻の害蟲黑ムクゲムシは我が縣下到る所に多少發生したるものゝ如く大に稻苗の葉先を卷曲して枯稿せしめ遂に苗燒と稱する一種の病害をも誘發し甚しきは全く本田に移植すること能はざるのみならず若し移植せば黄色を呈して葉部は枯稿す又開花の候に至るも自然の驅除なけば大に繁殖して花の内部に進入して蝕害し遂に粃を生ぜしむるに至る所の一大害蟲なり

此害蟲が如何に本年非常に發生したるやは明かならざれとも多くは昨年來枯草朽木中に潜伏したる成蟲籾種播種後天氣打續き苗生長せしに依り自然苗代田に移轉せしものならんと信ず農家に就て能く調査したるに五月中旬頃より下旬に掛け成蟲稻葉よ飛翔し來れりと云ふ故に茲に其當時產卵せし

ものゝ如く五月下旬に至り大に幼蟲を認め得らるゝの有様にして以後六月上旬より中旬に至る迄葉內に潜伏して養液を吸收し昨今に至りては大概成蟲のみを認む此後の經過に付ては未だ知るべからずと雖ども尙開花の候被害するを以て見れば引續き棲息し居ること明かなる事實にして其後は枯草朽木內潜伏越冬ゆるものなることは冬間調査の結果に依りて明に知り得べし

右の如く越冬するものなるを以て被害の甚しき個所に限り是非とも冬期枯草を苅除し又は燒却するは豫防上肝要ならん施肥の過不足も大に被害を來し又厚播に限りて非常ょ害を被りたるものゝ如く見ゆ故に苗代田の施肥及び播種の多少ょ注意するも豫防の方法ならんと信ず

此害蟲を驅除せんと欲せば先づ其体軀の構造及び棲息の如何を考へざるべからず而して此蟲たるや全身脂肪分を以て滿され且つ幼蟲は葉內に潜伏するが故に普通の方法を以てするも到底其目的を達すること能はず斯るが故に藥劑的驅除の方法を以てせざるべからず而して通常販賣する所の石腦油を用ゆるも尙は能く驅除し得らるゝも稚嫩なる苗葉を損傷せしめ却て被害を著しくせしむるの恐れあるにより及ぶべき丈け稻葉を損傷せしめずして害蟲を殺すことを得るの藥劑を得んが爲めょ左の數種の試驗を施行せしを以て聊か有志諸彥の參考ょ供せんとす

第一清水驅除試驗

	藥劑品名	合劑の分量	天氣の摸樣 寒暖時刻	室の內外に於ける浸水の時間	結果
明治三十三年六月十四日	清水	或る器內に滿水せしめて其內に葉內に潜伏せる成虫幼虫を入れ置きしなり	曇天冷氣あり 午前十二時	室の內外に施行なる壹時間半	成虫幼蟲とも少しも弱り或るは死したる有樣なし

右の次第により到底清水を滿して動搖するも少しも効なし又農家に付て尋ねたるに大雨の際捕蟲器

或は竹竿を以て拂ひ落したるに少しも落ずして効なし室内に於けるものは二時間以上も浸水したるも効なきものと認めたり

第二曹多水驅除試驗

年月日	藥劑品名	合劑の分量	寒暖天氣の摸樣、時刻	室の内外に於ける浸水の時間	結果
同年同月同日	曹多水	水一合に洗濯曹多廿匁を溶解したる物の溶液五勺を水一合に溶解せしめたる液	同前	同上の液チ入れたるものに室の内外にて一時間浸水す	多少効あるものゝ如く見ゆ

右の試驗は洗濯曹多を用ひたるものにして三十頭に對し二三頭は死せるものあるを見る故に余り効なきも若し非常に割合を強くすれば効あるかと思はる而して多く水に散布すれば如何なる結果を呈するやは一小器内なるを以て判然せず

第三石腦油驅除試驗

年月日	藥劑品名	合劑の分量	寒暖天氣の摸樣、時刻	室の内外に於ける浸水の時間	結果
同年同月同日	石腦油	其儘にして水二合に二滴を入れたるものなり	同前午後二時	室の内外にて行ふ壹時間	外出し居るものは死するも内部にあるものは死せず

右の結果に依りて見れば外出したるものは死するも卷曲したるものは内に逃け込みて外出せずして健全に生活するの有様なるを以て水二合に對して二滴の石油にては効力なし若し石油五六滴を二合の水に落したるものに三十分間放置せば必らず幼蟲成蟲を殺すも稻葉は全く害を被りて枯るゝに至るものなり故に多量の石油は到底注射すること能はざるものなり

第四石鹼合劑驅除試驗

年月日	藥劑品名	合劑の分量	寒暖、天氣の摸樣、時刻	室の内外に於ける浸水の時間	結果
明治三十三年六月十五日	石鹼合劑	普通石鹼十五匁除蟲菊粉八匁溫湯七勺に石油三勺を入れて一合の量とす	前日より暑く晴天なり午後三時	室の内外とも三十分間	水二合に五滴落して皆死す二滴落せば死せず

右の溶液を清水ょ注下し其內に浸したるに少しは効あるものゝ如くなれども稀薄液にては効なし又濃厚にして多量なるものを注げば害蟲を殺し得るも大に稻葉を害す

第五煙草溶液驅除試驗

	藥劑品名	合劑の分量	寒暖天氣の模樣、時刻	室の內外に於ける浸水の時間	結果
明治三十三年六月十六日	煙草煎汁液	水一合に煙草二匁を入れ五勺に煎じ十倍の水に溶したるもの	冷氣少しくありて晴天なり午前十二時	以上の溶液を葉より掛けたるものなるを以て時間を示さず	葉の卷曲したる內部に浸透せざるを以て効なし

右の液汁を葉より掛けしも葉內に潜伏するを以て幼蟲成蟲とも少しも動く有樣なく到底此液汁を以て驅除し能はざるものなりと認む

第六酒精合劑驅除試驗

	藥劑品名	合劑の分量	寒暖天氣の模樣、時刻	室の內外に於ける浸水の時間	結果
明治三十三年六月十六日	酒精合劑	此合劑一合の量は酒精五勺水四勺石油一合の混合液に除蟲菊粉を混合せしものなり	同前	室の內外に二時間浸水そ	器內にて行ひしものは効ありと認む

右は室內試驗に於て水二合に三滴を落したるものに卷曲したる葉を浸して大に効ありしを以て室外にて或る器を用ゐ同上の試驗なしたるに結果相同じきを以て苗代田に於て滿水せし後一坪に二勺の割合ょて溶液を注下せしょ除蟲菊粉は次第に沈みて酒精は多くの水に油と共に溶解せしを以て全く殺蟲の効なし若し多量の割合にて用ゆれば効あるものゝ如く見ゆれども割合に多量の費用を要するを以て不可なるものなりと考ふる所以なり

第七石油乳劑驅除試驗

	薬剤品名	合剤の分量	寒暖天氣の摸樣、時刻	室の内外に於ける浸水の時間	結果
同年六月十六日	石油乳剤	石鹸五匁を水七勺と石油三勺とを混したるものを水二合に二滴注下したるものなり	同前	同前	効ありと認む

右の乳剤に對して室内に於ては試驗の効あり又室外にて一層効ありて幼蟲成蟲とも皆死し葉少しも損傷せざるを以て苗代田に施用せしに果して結果良好なり而して苗代田一反歩の用量は概算せしに二升の乳剤を以て足れりとす

右各種の試驗の上第七の試驗は苗代田に施用して効あるものと認む然れども第三の試驗に於ける石油は其儘々用ゆるも必らず効あることは明かなれども大に危險の恐れあり若し過て少しく多量に用ゆるときは害蟲を殺すのみならず併せて苗を枯すに至る第七の試驗は少しく分量多しと雖も余り苗を變色せしむるが如きことを認めず若し又被害前初めて苗代に此害蟲の飛び來りたるの時に於て普通捕蟲器を潤ほして拂ひ採るも効を奏するものなり故に苗代に此害蟲の棲息如何を伺ひ若し僅にして生活するものあれば潤ほしたる捕蟲器を以て拂ひ採るを要す若し其時期を經過し加ふるに天候順を得たらんには被害著しく且つ萎縮病をも誘發して救ふべからざるに至るものなり被害後に至りて驅除の方法即ち注油法の如きは余り當を得たるの所置にあらざるものと雖も若し萬一、被害あるを認めば注油法と濡したる捕蟲器を以てするの外到底驅除の方法なし倘本田に移植するに於ては一層驅除に困難を感ずるの次第なるを以て是非とも苗代田に於て驅除すると冬間潜伏地を燒却して豫防するとの外なきものなり

◎洋燈使用は害蟲保護するものゝ如し

第二回岐阜縣害蟲驅除修業生　森嶋勘次郎

近年害蟲の繁殖甚しきは各地に於て保護鳥類を捕獲したるよ因ることは既に世人の知る所なるが尙ほ害蟲繁殖に一大關係を有するは行燈の癈物となりて洋燈使用の世に行はるゝ即ち之れなり何となれば洋燈の未た世に行はれざる以前行燈を使用したる之れ即ち最も有効なる害蟲驅除を爲しつゝありたるなり春夏秋の三季に於て行燈の火光を慕ひ飛び來り油皿中に溺死する害蟲幾何なる算數の及ふ處に非るなり余は試みに去日家内に洋燈に代へ古き行燈を三夜試用したるに左の結果を得たり

月日	螟蟲蛾	螟蛉蛾	横這	雜蟲	月日	螟蟲蛾	螟蛉蛾	横這	雜蟲
六月十七日	雄十七頭 雌十四頭	十頭	九頭	十頭	仝十九日	雄十一頭 雌六頭	十九頭	四頭	十三頭
仝十八日	雄廿一頭 雌十五頭	二十頭	十一頭	八頭					

備考　右表は毎日午后八時より十一時迄三時間使用したるものなり

右表中他蟲は暫く措て螟蟲のみよ就て論せん三日の平均雌蛾三十五頭一日に付十七頭七分弱に當る昔時は然も此勞をせずして有益なる害蟲驅除法を農家は勿論商工業家の何れを問はす苟も帝國內に一家を搆ふもの此大々共同的驅除を採らざるはなかりしなり然るに近頃洋燈の使用盛んに行はれて其火邊に飛ひ來るも溺死するもの殆んと稀なり寧ろ皆無と云ふて可ならん乎然るに昆蟲學者名和靖君は螟蟲驅除に誘蛾燈を用ゆるは殆んと無効なり誘蛾燈に集る螟蛾は十中の八九皆雄蛾にして其一は既に産卵したる老雌蛾なり之れ雌は腹中に卵を有するを以て躰肥大にして飛翔よ便ならざるに依るなりと余は又私作の早植田に於て誘蛾燈を三日間試用したるに左の結果を得たり

月日	螟蟲蛾	螟蛉蛾	横這	雜蟲	月日	螟蟲蛾	螟蛉蛾	横這	雜蟲
六月廿五日	雄十九頭 雌三頭	十一頭	十五頭	二十頭	廿六日	雄二十頭 雌二頭	九頭	十八頭	十六頭

廿八日　雄廿三頭 雌四頭　六頭　十一頭　十九頭

右表に依て見れば名和先生の御説の如く殆んど無効なるを知るべし同じ點火にて斯る差異を見るは如何の理由の存ずるか要するに前者に在ては家内に點火する故に農家の二階に堆積しある藁中に蟄伏する螟蟲の羽化したる儘未た交尾せざるもの又交尾したるも体内に卵の完備せざるもの丶集り溺死するものならん之れに因て見れは洋燈を使用するは恰も害蟲を保護し害蟲繁殖の便を與ふるもの丶如し諸君以て如何となす

◎岐阜縣害蟲驅除講習生に對する昆蟲講話（承前）

憲政黨總務員　江原素六

最前も申す樣な事で誠に日本の物産は尠いのである夫れに反して海外から日本へ來るものは砂糖です夫れから鐵とか石油とか其他種々あるがそう云ふものは日本では少しも出來ないのみならず又無くては詰り困るのであるそうすると貿易を以て日本の富を斗ると云ふ事は誠に六ケ敷い事で其上に重要作物たる桑とか米とかに害を爲すものが御座りましたならば誠に情けない話である故に農事の試驗場がどう云ふ風にやつて居るか又一方で收穫の增す樣にすると一方では追々と歐米各國と同じ樣に勞銀の高くなる時が來るから其期に及んで狼狽せない樣に今より人力を省く樣にすると今一つ

は農作を害する處の黴とか総ての虫類とかも除かなければならない殊に段々國が進むと農作物の外に一つの恐るべき勢力を持つて居る所のものがある夫れは即ち菓物である亞米利加の桑港の南部地方ではオレンジを非常に澤山作つて居るが其品質も誠によいのでワシントンのオレンジはコンナ大きさで（此時雨手を以て大さを示す）其甘き事は甘露の如きものである之れは實に非常なものである其オレンジを運ぶ爲めに特に鉄道が敷ひてある私は北海道へ參りました時に此苹果を作つて之れを運搬する爲めには一艘や二艘の船を送らねばならぬ樣にせなければいかぬと云ふ事の北海道の人々に向つて演説を致した事があるが此苹菓や蜜柑や桃抔を追々栽培せなくてはならぬ其れ等を作るに就て尤も恐るべきものは蟲害である現に秋田青森等の苹菓は蟲の爲めゝ枯る事は驚くべき程であるそうするとどうしても之等の害を除くと云ふ事は農事上に於る誠に必要である夫れ故に東京を出る時に己に當所の參觀を願ひ滋賀縣へ行つては試驗塲を見ようと思ふたのである殊ゝ名和君の事に就きましては私は曾てより尊敬をして居つたのである夫れは一昨年亞米利加のビルと云ふ人が日本へ參りましたが其人は電話器の發明者である文明の利器たる立派な機械を發明されて誠に世界に貢献する處のものを發明された處の恐れ入つた人物である其人の親も矢張同じくビルと云ふ名であつたが其人は啞の教育と云ふ事に進歩を與へたいと云ふので非常に盡力したそうであるが啞を教育するには啞の性質を知らなければならぬと云ふて名譽も有り財産も有つて何一つ不足の無い人が啞を妻にしたのである其人の子が有名なる電話を發明された此ビルであるそう云ふ人であるから學者や紳士や財産家や方々から結婚を申込みましたけれども第二のビルは親の意志を襲ひて親の遣つたよりも啞の教育上更に一層の進歩を與へ度いと云ふので立派の身分でありながら親と同じく啞の女を

女房に仕ましてそうして日本に來たのである實にコー云ふ人は世の爲を思ふて自分の身を犧牲にするのである私共がビルと云ふ人を饗んで飯を共に致しました節に日本の學者等がビルを冷評して申すゝは元來妻と云ふものは生涯の愛を買ふものであるゝ啞を貰ふ樣では愛と云ふものを捨てたのである、と、其所へ來合せて居た澁澤君が云はれるにはビルは社界の爲めに已を犧牲に供したものであるとコー云ふて反駁されましたが學者の評が適當である乎澁澤君の說が不當である乎私は澁澤君の云はれる方が余程高尙で有ると思ふコンナ話をして居ると其席に列つて居た私の友人が云はれるゝは恰度ビルと同じ樣な話がある夫れは岐阜縣の名和と云ふ人であるが彼の人は自分は勿論總て外の仕事は抛つて專心昆蟲學の研究に力を入れて居るのみならず家族も殘らず昆蟲の研究に力を盡されて居るが誠に嘆賞せなければならない、コー云ふ話がビルと云ふ人の話に運れて出たのであるで、私は是非共昆蟲所を見又先生にも面會致し度ひと思ふたであるし前申述べました如く日本の國は決して學者の云ふ樣な物產の多い國ではありませんから今の時に於て之れが注意を忘ては成りません農產物の如きも少し斗りの收穫を增すと云ふ位ひの事に安んせず歐米各國と同じ樣に勞銀が騰貴ても其期に及んで支障のない樣に可成勞力を省くと云ふ事ゝ意を用ひると同時に他の一方では害虫とか黴菌とか總ての害敵を打亡すと云ふ事か誠に農業者の急務で世界の大勢に置きましても要々な事であるとコー云ふ事を思ふて東京を出る時分ゝ當所へ參り皆サンに御目に掛ると云ふ事を期して來たのであるそうして今日特に名和君に御目にかゝつて長い間名和君が苦辛經營せられて今日あるを致されたは誠に我々の感謝する處である又諸君は其必要なる事を篤ゝ御承知に成つて下は以て自身の富を致し上は以て國家を隆昌ならしむる尤も國家に大なる關係の爲めゝ斯學を御研究に成る

のは邦の爲め皆サンの爲め大に禧ぶ處でありますどうか實地に御研究なすつて一面には利益を得ると同時に害敵を除く事に盡力せられん事を切に希望するのでありまする一寸一言感した處を申上げましたが之れで御免を――（完り）

◎第五回全國害蟲驅除講習員の五分間演說

編者曰く本年七月二十六日より八月八日迄二週間當昆蟲研究所に於て第五回全國害蟲驅除講習會開會の際七月三十日午後第一時より各講習員の五分間演說會を開かれたるが實に有益なる說多々ありし今玆に數氏の大要を揭載せんとす讀者諸君請ふ之を諒せよ

（一）蘿蔔の害蟲驅除に就て　　福井縣　吉川傳兵衛

私は福井縣の者にて吉川傳兵衛と申す者で有升只今先生より五分間演說をせよとの御命令がありましたが別に珍奇のお話もござりませぬが只の蘿蔔の害蟲驅除に就き聊か實驗談を致しまして其責を免れんと思ひます私の地方は足羽川に沿ひたる土地にして十五六町の畑地を有して居ります而して夏作は大麻にして其跡地へは悉く蘿蔔蕪等を栽培し福井市へ販賣する土地で有ますが十數年前よりサンシヨウ蟲（方言イガラと云ふ）發生し葉莖を喰ひ一見枯野の如くならしめしことあり是れが驅除に就きては種々工風すと雖も一も其効を奏せざりしが五六年以前より收穫後直ちに三步每に一個の割合を以て經一尺二三寸深五六寸の穴を穿ち其中へ塵芥其他雜草藁等を置く時は該蟲の成蟲は冬期積雪中悉く其內へ集り來るものなり之を春季三月下旬融雪を俟ち右の塵芥雜草等と共に之を掬ひ取り一定の塲所に於て燒棄つるなり斯の如く連年繼續せしに昨年の如きは時候の摸樣にもよるべけれども殆んど害を見ざりし

（二）浮塵子の成蟲捕蟲器に就て

長野縣　伊原長三郎

私は信州の南方飯田在に住居せる狂農なるが今を去る凡そ十年前に農學を少々修め其後郡衙及び農事試驗場等に奉職し勸業に將た農事試驗に從事せしを以て普通農事に就ては多少の經驗なきにしもあらざるが昆蟲の事に至つては實驗研究少なきを以て只た害蟲驅除豫防につき經驗せし一端を述べて責を塞がんとす

偖去る三十年は稻の浮塵子各府縣とも大に發生して其被害非常なりしが予が地方も亦大に發生したるを以て其當時之れが驅除法を或は書籍に雜誌に就き取調べ又學士博士に質問するも石油の如きは其分量一反步に付五合位と記述しあるのみ幼蟲成長の度合或は成蟲により又は稻の成育の度合により其分量を異にすべきを記述せるもの蓋し見聞せざりしなり

如斯去る三十年以前は昆蟲の研究どころか驅除豫防法を試驗するもの實に稀有なりしが漸く三十年以后始めて一般に目を覺め昆蟲研究を始むるもの續々出づるに至りたる次第なり予も三十年以來浮塵子驅除に就て多少の試驗と經驗とを經たり即ち彼の捕蟲網の如き圓形のものと橢圓形のものと不正三角形のものとの得失如何又石油の如き苗代本田共ゝ幼蟲成育の度合及び成蟲とにより適度の分量如何除蟲菊粉撒布の効能如何船形捕蟲器の一艘のものと二艘のものとの得失如何其他種々試驗を經て後ち農家をして廣く〱實驗せしめし効果如何を談話せんと欲するも時間少なき爲め他日時期を見て述ぶるか若しくは昆蟲世界雜誌上に於て卑見を述ぶることゝし只今は單に本田に於て浮塵子の大ゝ發生し成蟲非常に蔓延したるとき石油など多量を使用するにあらざれば捕殺すること能はざる場合に使用する所の大袋捕蟲器の製造法及び使用法の概要を述べて參考に供せんとす

此製造法は寒冷紗一反を三つに切り之を三布に縫ひ合せ二つに折り曲げ口は横巾長く底深き大なる袋を作り其口の両端には丸竹を縫ひ付け其竹の両端を一尺許り出し其れを二人にて持ち風上よ向て、稲葉の上を急に前進するときは袋は膨らみ浮塵子は之れに入るを以て他の一人畦畔に於て莚又は戸板の如きものを建て居る所へ當て袋を締め後ち一隅へ傾け振るときは袋に入りたる蟲は一隅に集るを以て之を少々石油を入れたる適宜の器よ打落すときは直ちよ殺すことを得此袋は五戸若くは十戸位共同して製造し使用するときは費用も少なくして多量を捕殺することを得るの方法なり今後若し浮塵子の成蟲發生し本田に蔓延せし時は宜しく試用あらんことを右は經驗の一端を述べたるのみ餘は時間もなきゆへ畧して述べず

（三）　三化生螟蟲に就き　　山口縣　田中要藏

稲の二化生螟蟲の全國各地よ蔓延して其被害も夥多なることは昨日名和先生のお話にて明了のことゝ存じ升が又玆に尙一層恐るべきものは彼の三化生螟蟲であります我山口縣下の如きは西馬關より東岩國まで沿海一般猖獗なることと意外にて乍併山間部は殆んど稀れなるにも拘はらず近年漸々浸入の徵があります二化生螟蟲は諸君御承知の通り一の卵塊が孵化しますと幼蟲は葉面より漸々葉柄の方向に進み一の幼蟲が幹に浸入しますと他の幼蟲は前進の穴より入ることは余の屢々目撃することにて枯穗拔取の際一本の幹より二三頭乃至多きは二十頭以上の幼蟲を視ることを得るは甚だ容易でありますが三化生螟蟲は大に之に反し卵塊は桑のキンケムシの如き卵黄色の鱗毛にて充分保護されて居る故幼蟲の孵化するは甚だ奇態にて葉の裏面より蝕ひ入り三々伍々其方向を異にし蝕害を旺盛ならしむることは寔とに意外であります今一の卵塊あれば必ず其周圍は二三坪の面積に播がり一

時に數十本の枯穗を見ることを得る之れ二化生に比し三化生の繁殖の速かなると被害の恐るべきことを知るに足る之れが驅除法として今日迄で行ふ所は短册苗代に於て採卵法捕蟲網使用法移植後枯穗拔取法及び稻株を堀取り充分乾燥せしめ后ち燒却する等にして稻株堀取等の如きは多く手數を要すれ共効驗の著しきは稍々安全なる驅除なるが如し聊か一言を述べ以て五分間の責を終る

（四）　加賀の土産と知人の失敗談　　石川縣　由田辰二

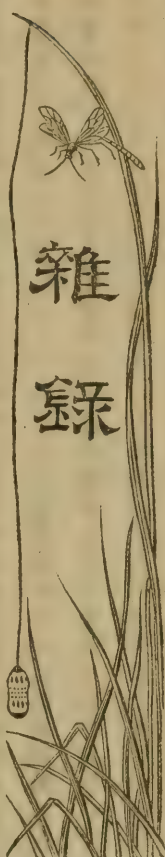
私は只今名和先生より御紹介下さへました加賀の一寒生で御座へ升故に未だ社會の事實や農事上否昆蟲學の思想などは一寸も有ません其上私は鐵瓶の儀弟で最も口が吶辨（土瓶）で御座へ升から前以て御斷りを致ひて置き升偖て只今話を致そうと思ひ升は即ち北國加賀の御土産を進呈否お話致し升其前に當り一應加賀國の人志を申上ねばなりません其れは他の事ではなく諸君も御承知の如く北國地方は非常に佛法の盛なる處で其内にても加賀は一番盛んで有り升何でもかんでも僧侶の申す事なれば火の中水の中でも入る樣な有樣で又僧侶の人望のある者が一度何處かのお寺へ出る事を農民等が聞きますれば老若男女小兒猫も杓子もヱー其樣な者は兎も角一家族は皆參詣に出ます先づ是迄は北國加賀のお土産として置きまして之より私の知人の失敗談を切賣り致します依て高價にお聞求を願ます偖去明治三十年浮塵子が私の村にも非常に發生をなし大損害を被りました爲めに翌年即ち三十一年に於ては非常に村農會長等が心配をなして色々と害蟲驅除豫防法を進め盡力しましたけれ共一として其効用が見へません何となれば加賀の農民は古來迷信者が多へ方で御座へ升其爲め當局者も殆んど困却して居りました處が村農會長某より私の知人一僧侶に其事を色々と依頼をなしました處僧侶先生得意に其事即ち害蟲驅除等に付お寺等に於て直接間接的に驅除法を勸めたそうです

すると參詣して居りました農民等の申升には僧侶の身分として全体生者を驅除し又は滅亡を計るなぞとは實に職柄にあるまじき事である彼の樣な僧侶の云ふ事を聞て居るなれば我々死亡の後は極樂へ詣る事出來なくなると斯くの如きことを申して其よりは彼僧侶先生何處のお寺にて說法なしても參詣者が一人も有り升せなんだそうで僧侶先生非常に失望し嘆じて申ますには愚なる者程憐なるものなし死後の要心をなしながら今の世の要心をせぬとは實に嘆ず可し南無阿彌陀佛々々々々々ぞーで御座い升如斯迷信者に向て右申上ました最后手段を盡しても其効用なく實に之等の如き者は捨て置き目下の急務は小學又は中學生徒に害蟲驅除且つ農事上の觀念を持たしむるより他は御座いませんと不肖は思ひます聊か愚談を以て當五分間演說の穴を塞ぎます

（五）將來の任務

兵庫縣　平野房太郎

種々諸君の御經驗談を拜聽しまして大に利益を得ました私も何か御話をせねばなりませぬが經驗は無いから聊か希望を述べんと存じます今我兵庫縣に於ける三十年の害蟲被害は平年百六十五万石の收納ある處に二十四万石の減收であつた之を一石拾圓とすれば貳百四拾萬圓の損失でありますす其后大發生をせないとするも恐らくは十分一位の被害は年々あると堅く信じます左すれば年々貳拾四萬圓の損失である吾々は此損害を償ひ國庫の財源を負擔増加せねばならぬ今我縣の人にして此名和昆蟲研究所に入り修業した者が凡そ八人あると聞て居る左すれば此貳拾四萬圓は此八人の者で償ふと云ふ考へ無くてはならぬ即ち吾々は參萬圓と云ふ責任を両肩に荷ふて居る恐らくは諸君も又數萬圓の責任を荷ふて居らるゝならん併し明治三十年の害蟲發生は實に農事改良の導火線となり一般の國民大に農業と云ふことに着目する傾向が出來たから此際諸君地方に御歸りの後は小學の理科及中學

程度の學校の博物科に於て徒らに昆蟲形体生理等の學理は寧ろ後にして勉めて益蟲害蟲の驅除保護等を先にする樣御注意あり一方には地方害蟲驅除益蟲保護の燈明臺となり此全國害蟲驅除講習會の効果を輝かし名和先生の厚恩に報し両肩に荷ふ所の數萬圓の責任を輕くせられんことを聊か諸君に希望する所である

◎害蟲可恐

滋賀縣　西澤大吉

總て農作物は天候に從ひ地の利に依て以て生産せらるゝものなれば他の生業に比し氣候風土の掣肘を被り易く凶豊意の如くならざるものあり近くは本縣の事情に徴するも去る廿九年の如きは大水害に蒙り又三十年の如きは浮塵子の爲めに五萬六千九百四十余石の減收を視るに至れり如斯減收を至したるの實例各縣各地に少なからさる可しと雖ども要するに天災と害虫とに基因するものなりと云ふも過言に非らざるべし然るに學藝は到底氣候を左右すること能はずと雖ども蠢々たる微細の害虫の如きは吾人平素の注意と多少の盡力とに依て容易に燼滅し能ふや必せり、農に衣食し農を以て國家の命脈を繫ける國民は須らく驅除の策を講せざる可からず聞く歐洲諸國の農家は害虫の性質を究め驅除に電氣を利用し寄生及び敵虫の蕃殖を計り適切なる良劑を利用する等實に到れり盡せりと言ふ飜て吾農家の狀態を觀察するに害蟲の如きは其何物たるを知らず或は氣候より生ずると言ひ又

は水より湧出する等の妄説を信し害蟲被害の如きも尚は天災と一般人力の得て及ばざるものとなし全く自然に放任して顧みざるが如きは實に可憐の至りならずや若し一朝慘害を蒙むるに及んては周章狼狽徒に神佛に祈り或は巫祝に託し或は蟲送りと稱し老幼擧けて金鼓を敲き田圃に狂奔するが如き愚を演ずること敢て珍しと爲さず試に思へ我國は世界の文明國と比肩せんと欲する今日なれば昔日の如き暗黑時代の日本にあらず殊に日清戰勝以來世界列國の視線は偏に我邦に蒐集し來り競爭の熱は日一日より其度を高めて罷まざるの場合に國民の思想は依然として舊態を改めず國家の消長に一大關係を有する害蟲驅除の如き忽諸に付しなば經濟の變動を來し忽ち彼ヽ壓倒せられ戰勝國の体面を保持する能はずして或は輕蔑奴隷視せらるヽの悲境ヽ沈淪するの不得巳に至るや論を俟たず深く猛省せざるべけんや更に語を轉じて一般農家が疑惑とする處の害虫は陽氣より發生するが如き漠然たるものにあらざるべく假に陽氣より發生するものとせば陽氣の變化に伴ひ害虫の形態著しき變動を來すべく昨年の浮塵子と今年の浮塵子とは其形狀性質等必ずしも同一なるの理由なかる可し然るに實際に於て浮塵子は浮塵子、螟蟲は螟虫と各特著の形狀性質を保つこと恰も牛と犬との別あると一般決して斯く不規律なるものにあらさるなり之れ即ち害虫に於ては尚は系統的の蕃殖を營む者たるに識由せずんばあらず今浮塵子、螟虫の二種に就き系統的蕃殖の度合を計算すれば左の如し

第一年

浮塵子

第一年	頭		頭
第一化期	八〇内♀♂	♂	三二
		♀	四八
第二化期	三八四〇内♀♂	♂	一五三六
		♀	二三〇四
第三化期	一八、四三二〇内♀♂	♂	七、三七二八
		♀	一一、〇五九二
第四化期	八八四、七三六〇内♀♂	♂	三五三、八九四四
		♀	五三〇、八四一六
第五化期	四、二四六七、三二八〇内♀♂	♂	一、六九一六、九三一二
		♀	二、五四八〇、三九六八

浮塵子

第二年

	頭	頭
第一化期	二〇三、八四三一、七四四〇内♀♂	八一、五三七二、六九七六 一二二、三〇五九、〇四六四
第二化期	九七八四、四七三三、七一三〇内♀♂	三九一三、七八八九、四八四八 五八七〇、六八三四、二二七二
第三化期	四六、九六五四、六七三八、一七六〇内♀♂	一八、七八六一、八六九五、二七〇四 二八、一七九二、八〇四二、九〇五六
第四化期	二三五四、三四二四、三四三二、四三八〇内♀♂	九〇一、七三六九、七三七二、九七五二 一三五二、六〇三四、六〇五九、四六八八
第五化期	一〇、八二〇八、二七六八、四七五七、五〇四〇	

螟虫

第一年	頭	頭	第二年	頭	頭
第一化期	一三〇内♀♂	五二 七八	第一化期	七九、〇九二〇内♀♂	三一、六三六八 四七、四五五二
第二化期	一〇、一三〇内♀♂	四〇五六 六〇八四	第二化期	六二六九、一七六〇	

若し右表に示すが如き蕃殖を呈せば世界は忽ち害虫を以て充滿せられ作物の如きは其痕跡だも認むる能はざるに至りて人畜は全滅を來すや知る可からず幸に今日の如く多少權衡を失せず稍々社會の安寧を保持し得る所以のものは只氣候と敵鳥、虫とに由て其の蕃殖を抑制せらるゝが爲めなり若し吾人をして氣候の昇降を自在ならしめ得ば人爲的驅除の要なかる可しと雖ども寧ろ農家の現況に徵して豈に天候に依賴し繁殖蔓延を自然に放任するを得んや必ずしも共同一致驅除の勞を取り害蟲を全滅して益々生產の增殖を計らざる可からず聊か記して害蟲驅除を促す焉

◎長野縣南安曇郡有明村野蠶の利益

長野縣小縣郡丸子村　柴崎虎五郎

貴所世界を閱讀するに多くは害蟲の方面に傾き益蟲の記事少し依て縣下有明村天蠶及柞蠶の概況と該村收利を記して貴所ヿ投ず餘白に登載を乞ふ

野蠶にして織物に用ゆるものは天蠶及び柞蠶なり天蠶は飼育困難なれども柞蠶は强壯にして尤も易し故に有明に於ては近來柞蠶を多く飼養するに至りたり該村に於ては普通の農業を營み傍ら野蠶を飼養するにより其收利は他町村の及ぶ所にあらず又野蠶飼養林を所持したるものは自分之を飼養せざるも他人に貸し一町歩にて一年天蠶場は三十五六圓柞蠶場は二十圓前後なり薪材は少くも十余年を要して若干圓を收むるに比すれば殆んど天淵の別あり又之を養ふには蠶室を要せず一町歩にて種一升を要す產卵一桝十万粒ありて害蟲及害鳥の爲め斃死し四分の一即ち二万五千粒以上の成繭を得れば上作なりと稱せり一粒三厘（昨年は一粒三厘五毛）として七十五圓の收利あり之に種代七圓人夫料八圓借地料貳拾圓を支出するも參拾圓の純益を得一人にて驅除に從事するも三四町は受持つことを得べしと云ふ有明村は西に高き有明山ありて其麓の平原は南北五里に涉りて東西一里余其中央は該村なり其他烏川三田村西穗高等悉く飼育するに至れり今有明村役場員につき該村の統計を聞き得たるにより之を世上に紹介し櫟楢槲等を切り二三年目の林を所有せらるゝ諸君は高く成長せしめず伐採して横に成長せしめて之を飼育すること如何柞蠶は年二回にして秋蠶は八月中旬より發生せり該織物は輕くして强く日清戰爭以來極めて需用者を增加し蝙蝠傘、三尺、ハンカチーフに製し外國にも輸出するに至れり

有明村

戶數七百十二戶、內飼育戶數 春蠶二百四十戶 秋蠶百三十戶、天蠶種代二千四百五十圓同糸三十四梱一万七千圓、柞蠶種代千〇五十圓同糸四十一梱一万五千圓、種一升代天蠶十圓乃至十五圓、今春は寒氣强く蛾の發生少く廿圓なりき、柞蠶六圓乃至八圓同十五圓なりし

仲買人　二三十人　製糸釜數　二百四十余
糸輸出地　越後、福井、足利、近江、廣島、岐阜、
作蠶種は茶褐色にして光澤あり故に絹の代用として絹綿織に用ふ
附記　該村役塲員の談によれば役塲に届出は前記の如くなるも實際銀行にて爲換取組は七万圓以上に至ると云ふ普通の農作並に夏蠶飼育（該地方は春蠶を飼育せず）の外の收益としては其利益の大なる思ふべきなり

◎福岡縣稻螟蟲驅除狀況報告

福岡縣　特別通信委員　嶺要一郎

福岡縣にては四月廿日左の如き縣令を發したり

縣令第三四號　福岡市を除く

稻螟蟲發生の虞あるに依り明治二十九年法律第十七號害蟲驅除豫防法第三條に基き本年四月廿日より同七月二十日まで第一回發生螟蟲に對し明治三十一年縣令第二十號害蟲驅除豫防規則第一條螟蟲に係る驅除豫防法第一第二第三及第七項を實施すべし但苗代田に於ける点火燈數は左の程度に依る

三畝歩以內、一燈　七畝歩以內、二燈　一反歩以內、三燈、　一反五畝歩以內、四燈
以上五畝歩を増す每ょ一燈を加ふ

明治三十三年四月二十日　　福岡縣知事　深野一三

參照　一、害蟲驅除豫防法第三條

害蟲田畑に發生したるとき又は發生の虞あるときは府縣知事は豫め期限を定め該田畑の作りをして驅除豫防を行はしむべし

前項の場合に於て作人驅除豫防を行はざるときは府縣知事は市町村費以て之を行ひ市町村をして該作人より其費用を徴收せしむることを得其費用の徴收に關しては市制第百二條又町村制第百二條を適用す

參照　二、福岡縣害蟲驅除豫防規則第一條の内

螟蟲に係る燈除豫防法

第一、殺蟲燈を点じ螟蛾を誘殺すべし
第二、捕蟲網を以て螟蛾を捕殺すべし
第三、螟卵を採集して之を殺すべし
第七、前年の被害地及其近接地に於ては苗代田は凡て巾四尺の短冊形に整地すべし

各種の協議會　縣令の發布と相前後して被害又は民情の相同しき地方は概ね聯絡して郡主任書記協議會を各方面に開き防除の方針を一定せり八女外六郡の協議會の如き加名賀三郡の協議會の如き之れなり

五月八日各郡主任書記協議會を縣廳に開く同會に於ては左の如き決議を爲せり

螟蟲驅除施行順序の件

本年第一期の螟蟲驅除豫防施行の件は先般已に縣令を以て發せられたり然るに之れが實施の時期及程度は尚各郡市に於て區々の歩調を求るの憂なきにあらざるを以て此際左の如く其標準を一にせんとす

一、点火播種後十日より移植を終る迄の間苗代田に於て毎夜薄暮より六時間宛とし其日割は郡市長に於て之を定むること

一、採卵は三潴、山門、八女、三池及三井の一部にありては苗代田にて五回以上移植田にて二回以上其他の各郡市にありては苗代田にて三回以上移植田にて一回以上之を行ひ其日割は郡市にて定むること

一、捕蛾は捌取袋を用ひ前項採卵と同時に之を行ふ事
各郡共此等の協議會と相前后して同會決議の結果又は其他により螟虫驅除豫防に關する郡令を發し右に關する方針と日割とを公表せり
右縣令及郡令により本縣に於ける同虫驅除の方針を摘記せば二化性三化性共に第一回の發生期換言せば苗代田に於て充分の力を注ぎ可成全滅せしめ本田に於ては防除の必要を感せず樣飽く迄勵行の方針を取れり
右勵行に付き監督として縣廳よりは第四課總員及農事試驗場々員全部を螟虫驅除豫防監督委員とし右監督の爲各郡へ出張せしめ各郡亦貳課總係りと云ふも可なり町村には凡て三名以上の常設委員を設け常に充分の監督をなし縣郡町村農會亦大に努力しつゝあり實に現時の該虫驅除奬勵は福岡縣に於ける公務の大半を占め居れりと云ふべし
現今施行しつゝある驅除豫防の方法を詳記せば各郡多少の相違ありと雖ども大畧左の各法による
第一捕蛾法、捕蛾法は点火誘殺法と捌袋捕殺法の二法あり各郡兼行すと雖ども主として点火誘殺法に重きを置くもの丶如し
点火法に人夫点火法と作人点火法とあり人夫点火法は一定の人夫を使役して点火せしむるものに付監督容易にして成蹟極めて良好なり作人点火は作人の熱心如何により成蹟上少なからぬ差等を生ず作人点火にも數法あり第一共同点火法とも云ふべき一方正五六の作人共同して交代に点火に從事す作人点火法の中にては成蹟最も可見第二賦課点火法なるあり之れは作人現作の多寡に應して点火せしむ第三寄附点火法なるあり作付の多少に不關各作人一ケ又は二ケ宛点火するの方法なり右二法共に完全の成蹟を得ること難し
第二採卵法、採卵に關しては各郡種々の方法を採れり之れを大目せば一齊採卵と自由採卵の二法に分る一齊採卵は期日を定め同日は各作人不殘採卵に從事せしめ採卵を終わる迄は他の勞働に從事せしめざるにあり自由採卵は一齊採卵の外何時にても採卵するものなり一齊採卵法は極めて好成蹟に付各郡施行せざるの地なし
又人夫採卵と作人採卵とあり人夫採卵法亦種々あり一定の賃金を定め雇入れたる人夫をして採卵せしむるあり又は定額の賃金を定めす其採集せる卵塊を買收して以て賃金となすあり又は二者折衷し

一定の賃錢の外增賃法を設け採卵の多寡により奬勵金を交付するものあり前者より良好の成蹟を得現時に於ける良法と稱せらる
採集せる卵塊は概ね買収法亦種々あり一般買收法は採收者の誰なるを問はず其町村内に於て採收せる者は悉く買收するものなり人夫買收法は人夫採卵の條に記せるが如し賦課買收法は當業者其所有苗代田移植田に限り採卵したる者を買收するものにして此等の諸法たる各一得一失あり各郡概ね數法を併行せるが如し買收價格は概要一箇一厘を普通とす間には二毛乃至五毛にて買收せる所もあり或る一部にては買收せざる地方有りと雖とも特殊の良習ある町村の外は其成蹟の不良なるを免れず之れを要するに方法の如何よりは監督の寛嚴は大に其成蹟に關係を有す目下採收せる卵塊一箇村少なきも壹萬塊より多きは拾萬塊以上に上れるあり
小學校生徒をして採卵に從事せしむるは去る卅九年頃より各郡に施行せられたるも從來は單に其町村の要求或は校長の篤志に出でたりしが同法の極めて有利なるを悟り本縣知事は遂に左の如き訓令を發したり

福岡縣訓令第六七號

郡役所、市役所、町村役場、小學校、

害蟲の農作に大損耗を與ふるは玆に多言を要せず本縣其害を被ること特に甚しく之を驅除するは殖產上の一大急務に屬するを以て多年當業者を督勵して其實行を期せしも未だ之を盡滅する能はざるは實に遺憾とする所なり自今農業地方の小學校は便宜の時間に於て蟲害の慘毒及其驅除法につき敎示を怠らさるへきは勿論管理者と協議して適宜の方法を設け生徒をして之を實行せしめ一は以て蟲害驅除の必要を感得せしめ一は以て敎育と實業と聯絡を密ならしめんことを努むべし

明治三十三年五月十二日　　福岡縣知事　深野一三

從來施行し來りしものは勿論未だ曾て聞知せざりし者も此訓令の發布と共に各小學校は擧て害虫の驅除に從事するの方針を採り目下の急務として苗代田の採卵を爲せり其方法多くば敎員監督の下に全生徒を引率し全村苗代田殘り無く採卵し作人及町村の採卵と相俟て大功を奏しつゝあり此等生徒の採集せる卵塊に對しては各地概ね奬勵の方法を設或は買收或は賞與なしつゝあり
該虫は多年大被害を與へたるを以て頑迷怪る無しと評せられたる農民も少なからぬ刺擊を蒙り該虫

驅除豫防に關しては種々の器具器械を創作發明し其使用を試みつゝあり今其二三を記さんに殺虫燈の如き甚だ不完全にして微風尚消火せるも漸次改良せられ今哉大半完全なる物を得るに至れり投卵器の如き廿九年頃余輩の創作使用せる頃は不完全にして當業者亦其使用の必要を知らざりしが今や器具も大に改良せられ當業者亦大に賞用するに至り各郡概子製作使用しつゝあり捕蛾用の掬袋の如き兩三年前迄は殆んど兒戯の如く感したりしもの今や其必要を感し次第に其製作使用を增加しつゝあり本年の如き捕蛾用として專賣特許品たる苗代田殺虫器を使用したる所あり此他捕蛾上種々の器具を製出したり本年殊に新製に係り目下試驗中に屬する採卵器なるもあり右は縣下遠賀郡香月村田中龜吉なる老農の創作に係るものにして前面は櫛齒狀をなし后部に袋を附し之に柄を付せるものにて櫛齒狀の部分にて苗葉に附着せる卵塊を梳り落せは自然に袋内に入るの奬置なり現今尚不完全たるを免れすと雖ども漸次改良の功を積まは三化螟蟲の卵塊を採集するには或は有利なる器械となるならん同氏は熱心に此が改良に盡力しつゝあり此他枯莖刈鎌の如き刈株伐鍬の如き益應用せられんとするの傾あり

之を要するに多年の大被害に困し今や官民一團全力を集注しつゝあるを以て本年の該蟲驅除豫防は大なる奏功を見るならん殊に本年は其發生昨年に比し大に減少せる傾あるに於てを哉唯憾らくば三化螟蟲蝕害の區域益擴張せられつゝあるが如し防除法施行の結果の如き追て報告すべし

◎小學兒童の螟蟲驅除

播磨國加西郡北條町　渡邊　清

兵庫縣加西郡加西第一高等小學校に於ては隨意科として農業科の併置ありしが本年該科併習兒童等各自の苗代及植田に於て螟蟲の驅除を行ひ其採收せし蛾卵は實驗錄に記載し現蟲と共に毎日講師の撿査を受け正確に調査せしに採收せし蛾は苗代に於て五千九拾八頭本田に於て百五拾頭合計五千二百四拾八頭にして卵塊は苗代に於て三千八百拾五本田に於て千五百六拾五合計四千九百八拾にして蛾卵を通計すれば其數一万二百二拾八個なりと云ふ其成蹟頗る佳良なるを以て効蹟最も顯著なる者

を撰び七月三十一日褒賞を授與せり其受賞者は一等二人、二等六人、三等の甲九人乙十四人合計卅一人にして賞品は兒童の貯蓄心を養成せんが爲め郵便切手貯金臺紙に賞額相當の郵便切手を貼附し授與せり其受賞者の姓名は左の如し

一等賞　古之利市、日中悦治、二等賞　荒木榮治、神田利右衛門、粟津仙太郎、藤本兼治、山端重治、松本源治、甲三等賞　中尾源之助、岡田圓治、河原喜八郎、吉田初太郎、小野寺郁治、西村秀松、大西宗太郎、若宮利一郎、是常慶治　乙三等賞　大西周治、鎌谷國次郎、池澤庸一三船幾太郎、高見菊松、吉田三次郎、西村吉藏、西浦重吉、田中長三郎、管野治兵衛、宮永貞二、藤原彌八、中尾恒治、田居寅市、

◎昆蟲に關する葉書通信　（五）

（二十九）昆蟲採集、靜岡縣岡田忠男、七月十七日午后一時より閑暇を得たれば當地（靜岡）公園賤機山に昆蟲採集の爲め炎天を侵して出發す同山は余の寓居の西北十余町にして達す大門を通りて園內所々を逍遙し此木を探り彼の古木を尋ねたれども之と思ふべきものなければ坂を攀ぢて一段高きに登れば今や朽んとするの櫻樹に遇ふ是なん名和先生が先年稻葉山の麓にて老木を問はれしことを思ひ出で老櫻樹を探りたるに豈に計らんや靜岡人士が正雪蜻蛉と呼ばるゝカトンボの蛹化せしものゝ殼其數算ふること能はざる程櫻樹の上下に滿ちて附着せり之れカトンボが此所にて成蟲となりたらんとは思の外なり此他ツヾミミノムシ七頭ナヽフシ一頭ガヽンボモドキ？二頭是れ麓の獲物にして登りつゝ獲へつゝ此邊には笹の葉を喰害せしもの多くあるを以て熟視すればタケケムシの幼蟲多く又ハナセセリの幼蟲も多く採集せりジユジガメムシ？一頭頂上まではヤンマ一頭ムギワラトンボ三頭キトンボ一頭のみ少し下りて大なる杉の倒れたる所に何か飛翔せしものあるにより採り視れば之

れ即ち寄生蜂の一種朽れたる杉の内部に居る木蠹蟲を小なる穴より尾部を差し入れて刺さんとするものなりければ二三頭を捕へ尚寄生蜂二種を得たり蝶類にてはクロアゲハ、スジグロテフのみ又甲翅類にてはコフキコガネの一頭を採集するのみ右二時間の採集よして三時天暗く大雨急に來りしを以て採集は中止となりたり燈下之を記す

（三十）松モムシ飼育の失敗、靜岡縣神村直三郎、三十三年四月十三日林中の小池に於てマツモムシの成虫五頭を捕へこれを玻璃の大罎に入れ藻草を入れて飼育せり飼育中は數々換水してやりしに大に機嫌よく運動し中には雌雄の交尾するものさへあるを見る同月十九日に至り突然二頭の斃死せるものあり怪しみて仔細に罎中を窺ふに藻草の莖に産附せし卵粒の夥多なるを發見す卵は長七厘位の長形にして兩端少しく細まり藻の莖に倣ひて一個づゝ産附せられたり其色は淡黃色透明なり其後成虫は追々に斃れたるも五月十三日に至り藻の莖なる卵は孵化して幼虫二頭は活潑に運動すること成虫に異ならず同十七日又數多の幼虫發生して罎中奇觀を呈せり五月廿五日より幼虫の斃るゝものあり然れども其原因を知らず幼虫發生後は換水を見合居りしが若しやそれがため斃れたるにはあらずやと思ひ試に換水したるも尚幼虫の斃るゝこと前日に異ならず五月卅日には僅々二頭を餘すのみとなれり依てこれを標本となし此の幼虫斃死の失敗何に基くを知らず記して實驗家の教を乞ふてさ然り」

（卅一）苗田の害虫と驅除法、同上、本年中遠の苗代田に發生せる害虫はイナゴ、アヲムシ、螟虫、浮塵子（ツマグロヨコバイ、イナヅマヨコバイ、）を重なるものとす其割合はところにより多少の差はあれども先づ予の實査するところによればイナゴ六分、螟虫二分アヲムシとウンカは各一分の割合

として可ならむ此中イナゴは如何よも其數夥しく苗代よより一區の內完全なるの葉は殆んど見るを得ざるの有樣試に圓形捕虫器を以て之を掬へば一掬數十頭の多きを得螟虫はこれに比して其卵塊十分の一なりこれが孵化したる曉には由々しき大事に至るべしと雖も現在の被害少なきを以て仮にイナゴの三分の一と見積りたり螟蛉、浮塵子は何れもこれより少ければまづは各一分づゝ位とせりこれが驅除法は前號葉書通信欄に大庭君の揭げられし鄰達にもとづき何れも其實行を怠らず其方法は第一圓形捕蟲器掬取り第二螟卵買上法（一塊五毛位）第三誘蛾燈を重なるものとす』

（三十二）一害一利、三河昆蟲風神生、余が學窓前の山桃に灰綠色とも稱すべき金龜子多數發生し樹葉爲めに網狀を呈し見るに忍びさる所此頃每夜々々何物たるを知らざれ共此樹上に於てガサ〳〵するものあり余は訝りて窺ふに何の異狀なし依りて歸り昆蟲世界熟讀にかゝりしに又物音初めの如し余は一躍して一枝を動搖せしかば何物か目前を掠め去るものあり倘一動搖せしに一疋の大鼠出で去りしを認めたり世人は鼠を惡んで害のみと思ふならんに又害蟲驅除の一利あるは實驗に明なり

問答

◎シオヤアブの卵塊に付質問

三重縣第二回全國害蟲驅除修業生　大矢圓三郎

本年七月十九日別封卵塊を稻葉上にて發見採收し皈りて孚化の狀態を視察せしに同月廿八日仔蟲にあらて數多の小蜂の發生を見たり右は小蜂の繭なりや將た他の卵塊に小蜂の寄生せしものなりや御

誌第三卷第廿四號雜報欄に一寸記載せしてとあれば參照あるべし
現品を見るに全くシオヤアブの卵塊にして小蜂は該卵よ寄生せしものなり而して該卵塊に就ては本

答　名和昆蟲研究所助手　名和梅吉

敎示被下度奉願候也

◎キクスヒ外二種に付質問

千葉縣長生郡永吉　林　豊

一キクスヒムシならんか培養の菊園に來り中央を切斷す之を見出さんとすれば目に觸れず何時頃來つて嚙み付くものにや又其驅除法

二方言ヤエナリムシと稱する小蟲、豆類の莖に簇集し之が驅除に苦めり該蟲の名稱及其驅除法

三蟷螂の腹中に寄生する銅線狀の動物は當地方にてハリガチムシ又はアシガラシと呼べり該蟲は幼蟲なるや成蟲なるや及び何れの部類に屬するものなるや

右昆蟲世界誌上に於て御敎示願上候也

答　寄蟲生

一、菊の莖を害するものはキクスヒと稱し夜間來りて菊の莖内に產卵す然る時は其上部翌日に至り必す下垂するを常とす又晝間と雖も菊莖に棲息するとあり是を驅除せんには被害莖は取り去り早朝に成蟲即ちキクスヒを捕殺するにあり、二、ヤエナリムシは如何なる種なるや現蟲を見ざれば確答し難し、三、の蟷螂の腹中よ寄生するものは幼蟲時代のものなり而して該蟲は蠕形動物門圓蟲類中線蟲類に屬する一種にして昆蟲類よりは下等の動物なり

雜報

◎第八圖の說明　第八版の寫眞銅版中(1)は滋賀縣農事試驗場に於て各種の浮塵子を飼育さるゝ實況なり(2)は奈良縣農事試驗場の養蟲室外部の有樣(3)は三重縣農事試驗場の養蟲室外部の有樣(4)は米國オハイオ州農事試驗場の養蟲室內部の有樣を示したるものなり常に害蟲を飼育し充分に發生經過を究めんには必ず養蟲室の完全なるもの必要なれば玆に比較の爲め其二三を示したるなり

◎諸氏の來所　七月七日岐阜縣不破郡府中村長小竹述次郎稻葉郡鷲山尋常小學校准訓導川島佐吾二氏、十日滋賀縣神崎郡西部敎育會員山脇正順氏、同長濱與所五郎氏、十一日大坂府農會幹事乾倉次氏、十四日岐阜高等女學校助敎諭星谷菊太郎氏、十五日高知縣第四課長淸水源井氏、福岡縣嘉穗郡書記吉次隆三氏、廿日滋賀縣蒲生郡安土尋常高等小學校訓導植村與之吉氏、愛知縣中島郡書記宇佐美梅太郎氏、廿一日岐阜縣加茂郡書記山田藤太郎氏、廿二日東京高等師範學校敎授條田利英氏、同後藤牧太氏、東京工科大學敎授武田五一氏、廿三日東京農科大學卒業生渡邊周太郎氏、福岡縣福岡市小學校訓導藤田寅吉氏、廿五日長崎縣北高來郡小栗村馬場儀兵衛氏、廿六日佐賀縣農學校生徒小林瀧太郎氏、外五名　廿七日福岡縣小倉市京町喜久田彥次氏、京都第二中學校敎諭石上孫三氏、廿八日德島縣那賀郡今津浦村敷地吉川綾吉氏、廿九日岐阜市徹明小學校訓導關谷友二氏、第四高等學校生武田榮太郎氏、山口縣玖珂郡新庄村小田勢助氏、滋賀縣伊香郡古保村森要助氏、大坂商業學校生三村正次郎氏、滋賀縣大津市尋常高等小學校八代市次氏、三十日長野縣北安曇郡視學務臺彥市氏、同縣北城尋常高等小學校長市川多十氏、同縣常盤尋常高等小學校長田中鴻七氏、山口縣豐浦郡書記津秋常太郎氏、大坂府立農學校生栗田政市氏、外七名　三十一日臺灣總督府醫學校助敎授堀內次雄氏、八月一日兵庫縣蠶業學校生大橋直光氏、外二名　二日大學院學生農學士可兒民五郎氏、三日滋賀縣大津市大津西尋常小學校長三輪勇次郎氏、六日京都府農學校敎諭細田多次郎氏、岐阜徹明小學校訓導堀總次郎氏、名古屋市主稅町陸軍步兵大尉永田克之氏、永田鎭子、大田正富氏、內海純

雄氏、岐阜縣加茂郡書記小原鶴次郎氏、東京蠶業講習所卒業生千藤一策氏、七日京都上京區烏丸通貞廣俊雄氏、貞廣安盛氏、第四高等學校桐山誠一氏、八日嶋根縣能義郡農事試驗塲長村尾伊勢松氏大坂府泉北郡試驗塲長岸田利三郎氏、同府中河內郡農事試驗塲長辻田英太郎氏、靜岡縣濱名郡中野村堀井彥三郎氏、其他縣下の學生有志者百余名來所の上昆蟲標本を縱覽せられたり

◎第廿回岐阜昆蟲學會　同會第廿回月次會は八月四日（第一土曜日）午后第一時より例の如く當市縣農會樓上に於て開會し第一席名和昆蟲研究所長名和靖氏開會の辞、第二席揖斐郡昆蟲研究會代表者原篤三氏は揖斐郡に於ける昆蟲の景況ょ就て、第三席第五回全國害蟲驅除講習生仲喜代一氏害蟲驅除に對する大勢に就て、第四席第二回岐阜縣害蟲驅除講習修業生多和田茂次氏キンケムシの寄生蜂に就て、第五席大坂新農報社員由比昌太郎氏害蟲驅除と信仰に就て、第六席本巢郡昆蟲研究會代表者田中郁郎氏昆蟲學實地研究の必要を述べ、第七席第五回全國害蟲驅除講習生赤岩治平氏螟虫の冬期浸水驅除と誘蛾燈に就て、第八席名和昆蟲研究所長名和靖氏宮城縣下害虫視察の狀況を述べ午后五時散會せしが同日は由比昌太郎氏、坪內貞家の二氏は大聲蓄音機を携帶し名和昆虫研究所へ來られ序に同會に於て該器を使用し餘興に供したるが十數番の內妙處に到る每に拍手起り快樂の中に本會を終りたり

◎堀內氏の來所並講話　臺灣總督府醫學校助教授堀內次雄氏は蚊と麻剌里亞の關係に付調査の爲め七月三十一日名和昆蟲研究所へ來り蚊の一種 Anopheles claviger. が該病に源因し Culex 屬のものは然らさる等の學說を述べ第五回全國害蟲驅除講習員に對し將來昆蟲學を研究するにも其方面に注意せば學術上有益なる關係を發見するならんと詳細なる講話ありしが右筆記は何れ後日本誌上に掲載することゝなしぬ

◎第五回全國害蟲驅除講習會の景況　三十三年七月二十六日同會開會式を岐阜縣農會樓上に於て擧行す來賓には本縣第四課長代理及縣農會理事等なりき爾后引續き前回の如く一般昆蟲學より害蟲驅除法、益蟲保護法及其他昆蟲に關する學科を敎授し居りしが七月三十日先例に依り講習員各自五分間宛昆蟲に關する演說をなしたるが皆熱心に講演せられたり又八月一日講習員一同名和昆蟲研究所助手名和梅吉氏に從ひ縣下養老山地方に遠足採集をなしたるが夥多の獲物あり八月

七日午后七時より講習員一同兼て實地傳習を受け製作したる幻燈種板を以て昆蟲幻燈會を催せしが各自得意の辨を振ひて說明をなせしが當研究所近隣の人士等も傍聽して中々の盛會なりき亦た八月八日を以て全科修了せしかば同日午前第十時より修業證書授與式を擧行せしが修業生は一府十六縣三十八名（願書差出欠員二名）にして來賓には笠井岐阜縣書記官茂泉同參事官同縣參事會員古井由之、田中善次郎、山田省三郎の三氏同縣農會理事桑原貫之助氏横山德次郎氏其他數名にして名和講師は開會の辭を述べ證書を授與し續ひて訓辭を述べ夫れより笠井書記官及び古井參事會員の演說修業生總代の答辭ありて式畢り別室に於て修業生の成績品從覽の設あり終に臨んで茶菓の饗應ありて退散せしは午前十二時なりき且又午后二時より當市今小町德文樓に於て修業生一同の懇親會兼送別會を催せしが講師助手始め午前の來賓諸氏も臨席し修業生の意匠に係る昆蟲名席籤並に福引等の餘興あり醉盃の裡に各自胸襟を開きて懇談し各々充分の歡を盡して散分せしは午后五時頃なり其他詳細の摸樣は前回に異なるなし

◎第五回全國害蟲驅除修業生姓名

同修業生の住所姓名略歷等は左の如し

組別	府縣名	郡市名	町村名	族籍	舍長又ハ組長	姓名	生年月	履歷摘要
第一組	千葉縣	安房郡	東條村	平民	組長	腰越由松	明治十年二月	小學高等科卒業農事講習所修業
	和歌山縣	日高郡	南部町	平民		裏川寅藏	明治十一年三月	尋常師範學校卒業小學校本科正教員
	靜岡縣	引佐郡	西濱名村	平民		森田長次郎	明治二年二月	小學校本科正教員
	石川縣	河北郡	森本村	平民		由田辰二	明治十四年十月	小學高等科卒業石川縣農學校生徒
第二組	石川縣	鹿島郡	鳥屋村	平民	組長	稻葉久左衛門	明治十三年五月	小學高等科卒業石川縣農學校生徒
	靜岡縣	富士郡	抽野村	平民		城內儀市	明治十二年四月	小學高等科卒業尋常中學校四學年修業
	長野縣	下伊那郡	上鄉村	平民		伊原長三郎	明治二年十一月	新潟縣農學校卒業農事試驗場兼測候所技手
	靜岡縣	小笠郡	土方村	平民		青野彌三郎	明治七年九月	農事講習所修業實業從事

組	府縣	郡	町村	族籍	役	氏名	生年月	履歷
第二組	長野縣	更級郡	塩崎村	平民		風間平一郎	明治十六年一月	蠶業講習所修業實業從事
	京都縣	紀伊郡	納所村	士族		深井甲吉郎	明治十一年二月	大阪府立農學校卒業陸軍步兵小尉
	山口縣	佐波郡	島地村	平民	組長	田中要藏	明治七年二月	小學高等科卒業實業從事
	三重縣	飯南郡	漕代村	平民		宮下秋藏	明治十六年四月	石川縣立農學校二年級修業實業從事
第四組	静岡縣	磐田郡	岩田村	平民	組長	青島平三郎	明治六年五月	郡會議員勤務
	愛知縣	西加茂郡	擧母町	平民		加藤種治	明治八年七月	郡書記勤務
	愛知縣	西加茂郡	擧母町	平民		岡田善七	明治十五年一月	小學高等科卒業郡役所雇吏
	愛知縣	西加茂郡	擧母町	平民		黒川賢治	明治十五年十二月	農事講習所修業實業從事
第五組	鳥取縣	八頭郡	河原村	平民	組長	荻原惇造	明治十年四月	農事講習所修業實業從事
	京都縣	天田郡	雀部村	平民	欠席	植村政之助	明治十五年三月	蠶業講習所生徒
	岐阜縣	土岐郡	明世村	平民		山内慥爾	明治三年十二月	郡書記勤務
	岐阜縣	土岐郡	明世村	平民		山内德松	明治二年三月	尋常師範學校卒業小學校本科正教員
第六組	福井縣	足羽郡	本田村	平民	舍長	吉川傳兵衛	文久三年十二月	石川縣立農學校卒業郡書記勤務
	福井縣	大野郡	上庄村	平民	組長	松田魂一	明治十三年一月	大日本實業農會修業實業從事
	福井縣	大野郡	上庄村	平民		森永貫一	明治十六年一月	石川縣立農學校別科卒業實業從事
	福井縣	大野郡	上庄村	平民		明石助太郎	明治十四年七月	石川縣立農學校別科前期修業實業從事
第七組	静岡縣	小笠郡	上内田村	平民		佐々木卯太郎	明治十年十月	農事講習所修業實業從事
	愛知縣	西加茂郡	根川村	平民		成田善次	明治十八年一月	農事講習所修業實業從事
	奈良縣	宇陀郡	宇太村	平民		米谷仙次	明治十六年二月	大阪府立農學校生徒
	德島縣	勝浦郡	小松島村	平民	組長	三木金作	明治七年一月	農事講習所修業實業從事

組	縣	郡	町村	族籍	備考	氏名	生年月	經歴
第八組	富山縣	東礪波郡	高瀬村	平民	欠席	森川市太郎	明治十四年二月	富山縣農學校卒業實業從事
	兵庫縣	有馬郡	三田町	平民	組長	仲　喜代一	明治九年二月	農事補習學校訓導
	愛知縣	知多郡	緒川村	平民		森井　政治	明治十五年十二月	大阪府立農學校生徒
	福井縣	福井郡	豐島上町	士族		中村卯兵衛	慶應三年十二月	宮城縣農學校卒業農事試驗場技手
第九組	徳嶋縣	那賀郡	立江村	平民		赤岩　治平	明治八年一月	小學高等科卒業實業從事
	靜岡縣	富士郡	傳法村	平民		栢森　省巳	明治十年九月	小學高等科卒業實業從事
	岐阜縣	加茂郡	太田町	平民	組長	山田藤太郎	明治六年六月	郡書記勤務
	兵庫縣	出石郡	小阪村	平民		平野房太郎	明治五年五月	農業敎員養生所卒業範師學校助敎諭心得
第十組	徳嶋縣	板野郡	板東村	平民	組長	北藤　新平	文久三年八月	農事講習所修業實業從事
	徳嶋縣	板野郡	川内村	平民		中瀬　涓一	明治十六年三月	農事講習所修業實業從事
	千葉縣	千葉郡	千葉通り町	士族		田中　益雄	明治四年三月	千葉縣技手
	島根縣	那賀郡	川波村	平民		横田　保朗	明治十三年一月	大阪府立農學校生徒

◎宮城縣下の巡回昆蟲講話　前號の本誌にも一寸記したるが如く當所長名和氏は宮城縣の依囑によりて同縣下の害蟲調査をなさんが爲七月十三日より廿二日迄十日間縣下各所に於て昆蟲講話會を開かれたるが何れも聽集場に滿ち多きは五六百名少きも二三百名に下らずと云ふ所長の言に依れば今回の調査は極めて得る所多しと云へり

◎宮城縣の昆蟲研究會　第三回全國害蟲驅除講習修業生永澤小兵衛氏は宮城縣亘理郡並に志田郡有志者の請求に應じ何れも五日間の短期害蟲驅除講習會を開設せられしが講習員は郡視學を始め小學校敎員並に郡内の勸業熱心家にして特に志田郡の如きは警察官並に女敎員も加りて熱心に講習せられしを以て非常に好成蹟を得られしと云ふ然るに當所長名和氏の同縣下巡回の際亘理郡は七月十五日志田郡は同十七日に於て各昆蟲研究會の發會式を擧行し何れも名和所長を同會の名譽會

員に推撰せりと云ふ

◎黒鳳子蝶と百合　當所に於ては美術工藝品等に用ひらるゝ所の昆蟲模樣の如何にも奇異にして往々誤謬に屬するのもあれば出來得る限り是等を改良せんとを希望せり又繪畫の如きも春季開花の草木に秋季發生の蝶を畫く等も往々見る所なり是等を以て滿足せば恰も雪の景色に夏衣の人物を畫きたるを喜ぶが如し玆に示す寫眞銅版は當所の畫師伊藤氏の筆に成りたるものにて黒鳳子蝶の百合の花に來りて將に花蜜を吸收せんとするものは雌蟲にして他の二頭は雄蟲なり該圖は未だ完全無欠とは云ふべからざるも今玆に示して讀者諸君の高評を請ふ

◎濠州產蝶蛾　曾て昆蟲標本交換の爲め本所より井上甚太郎氏の手を經て濠州へ本邦產の蝶蛾類を送附し置きしに今回濠州博物館より同地方產の蝶蛾類六十余種を井上氏携帶せりとて同氏より送附し來れり之を見るに皆美麗なるものゝみにて本邦產のものとは全く異なり居れり

◎桑名氏の介殼蟲調査　在米國スタンホルド大學米國理學士桑名伊之吉氏は本邦產介殼蟲調査の爲め客月上旬歸朝せられ西は九州より東北は青森、北海道地方に迄參らるゝ由なるが客月十七日には當所へ來られ助手名和梅吉氏と共に岐阜縣下安八郡南、北抗瀨村地方へ出張梨園に就き調査ありしが意外に面白き事實ありたりと然るに今回青森縣弘前市より左の如き報知ありたり

(前略)本月七日ヨ當市ヨ着し菊地楯衛氏とて縣下有力の勸業家に面談し種々有益の事實を聞き得たり其要領は同氏の縣下にて恐るゝは介殻蟲(當市にてはキジラミと云ふ)第二綿蟲、第三クリムシ(葉卷蟲の一種)なりと、同氏は直經一尺七寸斗りの苹果を多く切斷せしと之れ介殻蟲被害の甚しきにより樹を枯死せしめたると氏は屢々介殻蟲の果樹に最も有害なるを說け共衆人は未だ迷夢を破らずと、今回余が當地に視察の爲め態々來りしを機として介殻蟲につき大ひに實業家に說諭する處ある可しと云々

◎小學生徒の昆蟲採集　本年七月一日より五日間加茂郡小學校教員昆蟲講習を修業されたる同郡八百津小學校長德山安太郎氏は歸校後熱心に昆蟲採集を小學兒童に奬勵されたる結果良効にして先づ最初學校にて捕蟲器を調製し生徒に貸與し充分に採集の心得を訓諭解得せしめ各兒童退校後に於て採集せしめ或は敎師引率して採集をなす等現今完全なる標本二十五箱餘となりしと因ヨ本月四日該校終業式の節右標本を陳列して父兄の從覽ヨ供し一々害、益蟲の說明を與へたりと實に之等の事は何れに於ても斯くありたきものにこそ

◎昆蟲標本の出品　前號の誌上に掲載せし通り本月十日東三聯合共進會の開會式を擧行されたりしが該所へ昆蟲標本の出品あり右に付當所長名和靖氏は其審査員に招聘され去る九日出張されたり出品点數は五種七十余箱にして中々盛會なりと褒賞授與式は本月十五日擧行さるゝ由何れ詳細なる記事は次號に讓る

◎新刊雜誌の昆蟲記事　新刊雜誌中に掲載せられたる昆蟲ヨ關する重なる記事は左の如し

(一) 大日本農會報(第二百廿五號)稻の根喰葉蟲と題し谷口龍三氏は經過、習性、發生の場所驅除豫防法等を載せらる

(二) 今世少年(第一卷第三號)甘藷の話と題し名和靖氏は蚜蟲と蟻との共同捿息より蚜蟲の性質等を圖入にて尤も面白く記述せらる

(三) 山形縣農會報(三十四號)螟蟲全滅法と題し湯野川忠世氏は短册形の共同苗代を奬勵して採卵法を實行すべしと說けり

(四) 農學會々報(第四十三號)稻螟蟲の卵蜂と題し向坂幾三郎氏は該蜂の形態を略述し次に被寄生螟卵の識別法を圖入にて詳記せり

（五）中央農事報（第三號）宮城縣短册苗代勵行と題し同縣々令及訓令を載せ短册形苗代に於ける捕蟲方法、捕蟲器具、捕蟲者、苗代田の害蟲の種類及共同驅除害蟲豫報等に就て詳記せり

（六）植物學雜誌（第百六十號）東京植物學會例會に於て理學博士伊藤篤太郎氏が蜜槽と蟻との關係に就て述べられたる概要を載せたり

◎講習助手の依囑　昨年第一回全國害蟲驅除講習を修了されたる福井縣の松原朔朗幷に京都府の野間貞三郎の兩氏は本年七月廿六日より二週間開設せし第五回全國害蟲驅除講習中助手を依囑せられ各熱心に執務されたりと云ふ

◎浮塵子の發生と氣候　浮塵子の發生と氣候との關係に付香川縣多度津測候所前田直吉氏より報告ありたれば左に掲載することとなしぬ

晝夜平均溫度の攝氏二五度以上に達する季節（七月及八月頃）にありて十日以上も降雨せざることあるに際し偶氣中の濕度は之に反して著しく增加し數日間每日平均八十％以上を續現するが如き場合には稻田浮塵子の發生を促すことあり斯は畢竟生か年來測候に從事しつゝある傍の實驗に過されとも本年土用後の經過を見るに較前記の氣候と相似たる地方もなしとせず多少は參考ともならば幸不過之候

◎ムクゲムシに就て　本年は各府縣下の苗代田にムクゲムシと稱する害蟲發生して稻苗の葉端を黃變せしめ非常なる大害を加へたることは既に讀者の確知せらるゝ所なり然るに斯く澤山發生せしものはクロムクゲムシとのみ思ひ居りしに取調べ見ればクロムクゲムシは非常に少なく多くは單にムクゲムシと稱するものにてありし故に考ふるにクロムクゲムシとして報告されたる地方に於ても或は大害を加へたるはムクゲムシにあらざるなきか（名和梅吉記す）

◎昆蟲展覽會義捐金募集　第二回岐阜縣害蟲驅除講習修業生桑原濱次郎氏（養老郡撰出）は當所主催となりて明年四月開設の第一回全國昆蟲展覽會義捐金募集の爲め非常に盡力されたるが該會の美擧なるとに感じ夫々應分の義捐をされたり其詳細は廣告欄にあり願くば同氏の熱心に習ひ何れも斯くありたし

○害蟲圖解出版廣告

●第一桑樹害蟲エダシヤクトリ（枝尺蠖）（再版）
●第二桑樹害蟲トゲシヤクトリ（刺尺蠖）（再版）
●第三稻の害蟲イ子ノズイムシ（二化生螟蟲）
●第四煙草害蟲タバコノアチムシ（煙草螟蛉）
●第五稻の害蟲イチモジセヽリ（苞蟲）
●第六桑樹害蟲ヒメゾウムシ（姫象鼻蟲）
●第七桑樹害蟲シンムシ（心蟲）（新版）
●第八稻の害蟲イ子ノアチムシ（螟蛉）（新版）
●第九茶の害蟲ミノムシ（避債蟲）
●第十豌豆害蟲エンドノキリムシ（夜盜蟲）
○稻の害蟲ツマグロヨコバイ（浮塵子）
○桑樹害蟲クワカミキリ（天牛）
○桑樹害蟲イトヒキハマキムシ
○茶の害蟲チヤケムシ（茶蛅蟖）
○桑樹害蟲キンケムシ（金蛅蟖）
○稻の害蟲イナゴ（螽蟲）
○稻の害蟲フタホシズイムシ（三化生螟蟲）
○桑樹害蟲アオハマキムシ（青葉卷蟲）
○桑樹害蟲クワハマキ（桑葉卷蟲）
○蔬菜害蟲モンシロテフ（菜の螟蛉）
○松樹害蟲マツケムシ（松蛅蟖）
○梅樹害蟲ウメケムシ（梅蛅蟖）
○梨の害蟲ナシゾウムシ（梨象鼻蟲）
○大豆害蟲ヒメコガ子（金龜子）

●印は既版の分
○印下は逐次出版の分

●豫約代價

●圖解の紙幅　縱一尺三寸横九寸
●壹枚の代價　拾五錢郵稅貳錢
●百枚以上一纏代價　壹枚拾錢郵稅百枚に付き貳拾錢

圖解代金　壹枚拾錢郵稅貳錢
　但申込の際前金添附の事
凡て前金にあらざれば回送せす但郵劵代用一割增の事

右害蟲圖解第一より第八迄は既に發行を成し江湖の高評を博したりと雖も未だ當業者全般に普及せざるの憾なしとせず抑本圖解は鮮明なる着色石版圖にして被害植物の實際より害蟲の性質經過等一目瞭然に描寫し加ふるに平易なる解說を附したるを以て普通農家に於ても尤も理解し易く尤も必需のものたり故を以て岐阜縣に於ては既に之れを採用し各町村農會及小學校は勿論町村役場警察署等へも頒布せしに一般よ害蟲の經過習性等を解得し害蟲驅除上著大の効を奏したりと云ふ依而當所は此際慣勵一番更に重要作物の重なる害蟲を撰擇し逐次出版せんとす而して該出版物に對しては特よ豫約と爲し前掲の如く價を低減し大に當業者に普及し實用に適應せしめんとす豫約希望者は速に御申込みあれ又既に出版濟みの分は各町村役場又は町村農會小學校其他の團体に於て御取纏め一手購求せらるゝ時は大に便利なり乞ふ幸に愛顧を垂れ陸續御注文あらん事を

發行所　岐阜縣岐阜市京町　**名和昆蟲研究所**

●昆蟲展覽會寄附金受領公告

明年四月を期し當所主催と成りて開設すゞ第一回全國昆蟲展覽會へ第二回岐阜縣害蟲驅除講習修業生桑原濱次郎氏（養老郡撰出）の盡力によりて寄附されたる金額並に芳名左の如し

養老郡一ノ瀬村
一金壹圓　桑原權之助君
一金五拾錢　桑原雄吉郎君
一金貳拾錢　桑原太平君
一金五拾錢　三宅捨次郎君
一金參拾錢　後藤治左衛門君

養老郡多良村
一金五拾錢　高木貞正君
一金五拾錢　森貞之助君
一金參拾錢　渡邊辰彌君
一金貳拾錢　三輪研二君
一金參拾錢　三輪寛君
一金參拾錢　喜田穩君
一金廿五錢　川地正久君
一金參拾錢　西脇遜君
一金參拾錢　西脇友輔君
一金參拾錢　日比喜之助君
一金參拾錢　日比泰三君
一金參拾錢　松井幸三郎君
一金參拾錢　三輪省吾君
一金貳拾錢　三輪倉太君
一金貳拾錢　井口林右衛門君
一金參拾錢　西脇佳美君
一金貳拾錢　川添六兵衛君
一金貳拾錢　三輪菊五郎君
一金參拾錢　立木喜又君
一金貳拾錢　小寺弓之助君
一金貳拾錢　伊藤彦太郎君
一金參拾錢　日比俊造君
一金貳拾錢　三輪正造君
一金貳拾錢　三宅儀右衛門君

養老郡時村
一金四拾錢　三輪貴一君
一金貳拾錢　阿藤省巳君
一金貳拾錢　服部德太郎君
一金貳拾錢　生田成雄君
一金貳拾錢　金森保丸君
一金貳拾錢　三輪惣彌君
一金貳拾錢　三輪小市君
一金貳拾錢　阿藤甚助君
一金貳拾錢　伊藤修造君
一金貳拾錢　三輪又雄君
一金貳拾錢　中西範介君

養老郡牧田村
一金五拾錢　水野權十郎君
一金貳拾錢　桐山龜太郎君
一金貳拾錢　吉田重太郎君
一金貳拾錢　高橋重兵衛君
一金參拾錢　井上靜圓君
一金參拾錢　五井恒三郎君
一金貳拾錢　古山延太郎君
一金七拾錢　水野九兵衛君
一金貳拾錢　佐藤勝之助君
一金貳拾錢　中山伊三郎君
一金參拾錢　中山秭吉君
一金貳拾錢　氏家久之君
一金貳拾錢　佐藤與三郎君
一金參拾錢　桐山惣右衛門君
一金參拾錢　杉田昌太郎君
一金參拾錢　桑原齊圓君

養老郡養老村
一金參拾錢　日比二三九君
一金貳拾錢　日比文雄君
一金貳拾錢　日比玉七君
一金參拾錢　日比文藏君
一金貳拾錢　日比廣助君
一金參拾錢　日比俊七君

合計金拾七圓六拾五錢也

明治三十三年八月

名和昆蟲研究所

◎質問者に告ぐ

○質問は事實の正確記事の精細なるは勿論贅言を省き簡明なるを要す尤も現品を添ふる事○質問は一紙に一件を限り必ず每紙記名あるべし○紙上には故ありて匿名を用ふるも本所へは住所氏名を明に通知あるべし○右に違ふ者は棄却すべし○本所は成るべく質問者に滿足を與ふることを勉むべしと雖も質問に答ふると否又其遲速等は總て本所の適宜とす

（注意）此頃中質問書に他の要件を併記せらるゝ方あり右は甚だ紛わしく整理上不便よ付爾今右樣の事なき樣充分御注意ありたし

明治卅三年八月 岐阜縣岐阜市京町 名和昆蟲研究所

第一回全國昆蟲展覽會

右は當昆蟲研究所主催となりて來る三十四年四月十六日より三十日間當所に於て第一回全國昆蟲展覽會を開設する筈なれば廣く出品あらんと希望す但詳細なる規則書は昆蟲世界第卅一號の雜報欄内に掲載しあるを以て附て見らるべし

三十三年七月

名和昆蟲研究所

●購讀者募集

本誌は發行以來漸次改良せしが尙一層改良を加へて愛讀諸君の厚意に酬ひんとす願くば斯學普及の爲め此際廣く購讀者を募集せられんことを希望す尤も紹介者の芳名を本誌に掲ぐるのみならず聊かながら當所調製の紀念品を贈與せんとす請ふ購讀者募集の勞を取られんことを

名和昆蟲研究所

●昆蟲世界購讀者紹介諸君芳名

宮城縣永澤小兵衛君(四名)和歌山縣池本德太郎君(一名)岐阜縣加藤彥郎君(一名)山形縣吉田馨君(一名)愛知縣櫻井庫之助君(一名)

●昆蟲標本發賣廣告

農作物害蟲標本 壹組(桐箱入解説付金四圓五拾錢)

同　益蟲標本 壹組(桐箱入解説付金參圓五拾錢)

教育用昆蟲標本 壹組(桐箱入解説付金四圓五拾錢)

自然淘汰標本 壹組(桐箱入解説付金五圓五拾錢)

雌雄淘汰標本 壹組(桐箱入解説付金五圓五拾錢)

氣候變形標本 壹組(桐箱入解説付金四圓)

壹組の荷造費二拾錢郵税百里迄廿錢百里外四拾錢

當昆蟲研究所は專ら昆蟲の研究標本の調製に從事せんが爲め豫て諸般の設備に汲々たりしが今や準備も畧ぼ其緒に就き廣く江湖に向て本所を紹介するの運に至りたるを以て更に規摸を擴張し前記の標本並に學術的裝飾的に屬する昆蟲標本の調製を應諾せんとす特に害蟲驅除豫防法に依り各府縣に於て定められたる害蟲類を始め各種學校に適當なる昆蟲標本は本研究所が多年獨得の技倆に依りて之が調製を爲し多少に拘らず貴需に應するのみか其調製の如きも掛額柱懸等御希望に依り種々美術的に調製を爲し以て昆蟲思想の發達を圖り公益に資する所あらんとす本所長名和靖は曾て第三回內國勸業博覽會に於て其出陳の昆蟲標本に對し有功一等賞を得其第四回に於ては進歩一等賞を得たり標本の精美と調製の緻密なるは世自ら定論あり今復茲に之を謂ふの要なし幸に愛顧を垂れ陸續御注文の榮を賜へ

岐阜市京町

發賣所　**名和昆蟲研究所**

（明治三十年九月十日內務省許可
明治三十年九月十四日遞信省認可）

昆蟲世界第三十五號目次

●名和昆蟲研究所案內

…	市街界
‖	案內道
｜	町道
イ	研究所
ロ	縣廳
ハ	病院
ニ	中學校
ホ	監獄
ヘ	郵便局
ト	西別院
チ	公園
リ	長良川
ヌ	金華山
ル	停車場

當研究所の位置は上圖の如くにして停車場よりは僅十餘町なり當所には常設の昆蟲標本陳列室あり新設の養蟲室もあれば有志の諸君續々來訪あれ

岐阜縣岐阜市京町
名和昆蟲研究所

●本誌定價並廣告料

壹部郵稅共金拾錢　（見本は五厘郵券
十部郵稅共金九拾錢　貳拾枚にて呈す）
（注意）本誌は總て前金に非れば發送せず●郵券代用は五厘切手にて壹割增とす●爲替拂渡局は岐阜郵便電信局
廣告料五號活字廿一字詰一行に付き金十錢三十一行以上一行に付き金八錢とす

明治三十三年八月十五日印刷並發行

岐阜縣岐阜市今泉九百三番戶ノ二
（岐阜縣岐阜市京町）

發行所　名和昆蟲研究所
岐阜縣岐阜市今泉九百三番戶ノ二
發行者　名和靖
同縣山縣郡岩野田村大字粟野百廿三番戶
編輯者　桑原貫之助
岐阜市益土居町四十四番戶
印刷者　安田豊八

（岐阜市安田印刷工場印刷）

PRINTED BY YASUDA TYPE PRINTING WORKSHOP, 19, Higashi-tsukasa-machi, Gifu, Japan.

Vol. IV. SEPTEMBER 15TH, 1900. No. 9.

（九月十五日發行）

（毎月一回定時刊行）

昆蟲世界

第參拾七號　（第四卷第九册）

目次　（禁轉載）

PUBLISHED BY THE NAWA'S ENTOMOLOGICAL LABORATORY IN GIFU, JAPAN.

◎寄附物品受領公告

一金五圓也　愛知縣渥美郡第二回教員昆蟲講習員一同外一名
一金參圓也　愛知縣碧海郡刈谷村　山田達丸君
一害蟲試驗成績報告第二報　一冊　滋賀縣農事試驗場
一臺灣總督府醫學校一覽　一冊　臺灣總督府醫學校
一天氣豫報論　一冊　東京府　裳華房
一道義哲學圖解　上中下　三冊　東京府　池田謙藏君
一昆蟲類一覽（玩弄具）　三枚　千葉縣　林壽祐君
一害蟲調査報告　第一號一冊　廣島縣　農事試驗場
一金鍍金錫菓子器（昆蟲摸様付）　岐阜縣　篠田五郎君
一蟬形附陶器柱掛　一個　大阪府　由比昌太郎君
一竹細工蟬の柱掛　一個　京都府　野間貞三郎君
一蝶形寫眞挾
一東京二合織登錄商標（昆蟲摸様附）　一個　山口縣　小田勢助君
一蓑入金具（蜂）　一個　和歌山縣　藤枝碩三君
一浮塵子驅除器圖解　二葉　島根縣　田中房太郎君
一歐文昆蟲記事切拔　七葉
一昆蟲摸様附杯　一個　岐阜縣　鈴木昌治君
一蝶摸様附ハンカチーフ　一枚
一蝶かんざし　一本　京都府　山本竹造君
一ズイムシ切出し鎌　一挺
一小手形捕蟲器　一個
一輕便きりふき　一個　愛知縣　島田駒太郎君
一巴理博覽會地圖　一部
一パリス新意匠端書（昆蟲摸様附）　一葉
一絹團扇（室内裝飾品昆蟲摸様附）　二本
一室内裝飾品の一（昆蟲摸様附）　一個　岐阜市　山田留次郎君
一日本（新聞昆蟲記事掲載）　六葉　靜岡縣　多喜六次郎君
一巖手日報（昆蟲記事掲載）　一葉　巖手縣　小山孝右衛門君
一蟲除御札　一枚　宮城縣　永澤小兵衛君
一蟲除御札　一枚　福岡縣　矢野宗幹君
一昆蟲擬物玩弄具　八種八個　東京府　吉田裕太郎君

右當研究所へ寄附相成候に付芳名を掲げ其御厚意を謝す

明治卅三年九月

岐阜市京町
名和昆蟲研究所

廣告

第六回全國害蟲驅除講習員募集

開期　自十一月廿一日至十二月四日　**一週間**　定員四十名

第六回講習會期日今回右之如く相定め開會することとなしたれば希望者は至急申込あれ

但規則は本誌第三十四號雜報欄にあり

明治卅三年九月

名和昆蟲研究所

◎懸賞昆蟲寫生圖募集

懸賞課題　蝶

募集期限　十月三十一日迄延期

賞品

一等　二名　昆蟲世界　一ヶ年分
二等　三名　同　半ヶ年分
三等　五名　害蟲圖解　三枚

目下初等敎育に於て圖畫科を課するも多くは手本を與へて臨寫せしめ殆んど實物寫生の練習なきを患ひ玆に獎勵の爲め懸賞を以て應用廣く是等の寫生圖を募集せんとす

募集規定

鉛筆畫又は毛筆畫、輪廓一線又は光線又は着色適宜、小形の蟲も大を貴ぶと雖も宜し、一枚一圖に限る、可成實物大を添ふるも宜しく、大なるものは放大圖にすると植物を明記すると同時に學校名並に姓名を記入すること、寫生したるものに限る、圖は一切返附せざると優等圖は木版或は寫眞銅版に製して昆蟲世界の誌上に於て發表すべし

明治卅三年七月

名和昆蟲研究所

Cimbex nomurae, Marlatt. ナシノコギリバチ

論説

◎蚊とマラリアの關係

東京帝國大學醫科大學教授　醫學博士　三宅秀

編者曰く左の一編は嘗て當所長名和靖氏が三河國へ出張の途中東海線にて偶然三宅醫學博士と同乘し其際同氏に蚊とマラリアの關係調査を依賴せしに同氏は快く承諾せられ今回當所へ送り越されしものなり尚同博士は名和氏への手紙に附記して曰く、「マラリア」毒を運搬する蚊族の種類は未だ一定致さゞるにや種々の Culex 族に嫌疑掛れり今以國人 B.Grassi 及び A.Bignami 兩氏の實驗せし處を抄譯して君に送る以上兩氏の說にては必しも Anopheles claviger の一ッに決定は致さすと思意す果してラルブの水面上に横はるもの已而兇行者の張本にして他のキユレックスは皆な從犯者と見做すべきものか是等は兄等の經驗に依て決判するの日あるを俟つ從來傳染病豫防の事務は一の疑獄事件にして許多の探偵費を費し辛ふして從犯者を發見し之れを嚴罰に處し其後大安心を爲すの譏りは往々にして見る處なり何卒此處迄探り當てたる以上は主犯者を逮捕せざる可らず君幸に努力せよ云々

抑々グラスシ氏が蚊と「マラリア」との關係を詳査せんことを發企せしは蚊の在る地方に「マラリア」の現在せざることあるも「マラリア」在る地方には必ず蚊在らざることなきの事實より起案せしなり

今一、二の例を擧ぐればロウェルテス、カ地方よは「マラリア」患者入り來るといへども之が蔓延を見ず但其地に蚊の存在せざるに非ず又シュウェッチングンハ蚊軍最も優勢なる處なれども「マラリア」は甚だ稀れよ發現するを見る、

尋て「マラリア」を見る地方と之を見ざる地方に於て蚊の類を異よすることを發見せり「マラリア」なき地方に於ては通常見る處の Culex pipiens を最多とし「マラリア」に侵されたる土地よては此蚊を見ること少なし又 Culex elegans, Ficalbi. も亦前者同樣「マラリア」の媒介を致さゞるが如し之に反して「マラリア」在る地方よは Anopheles claviger Fabr. なる大形の蚊甚だ多し以語には Zanzarone 又 Moschino と稱す此蚊の羽上には丁字形に排列せる四個の斑点あり Culex penicillaris, Bondani. 及びグラスシ氏の所謂 Culex malariae なる蚊は特に此病を媒介する者ならん而して其蚊は白條を呈する蹠根に帶褐黑色の環を繞らし胸に暗黄金色の輪ありて雄の觸角よは白輪を有するを以て特徴とす Anopheles claviger は屋內に竄入し夜間に人を刺すを常とす然れども日沒前半時日沒後一時間には最も夥く人を腦ませり此一時間半に人を刺す事百回以上なるも他の時間には僅かに五回に超へず Culex penicillaris も亦薄暮に人を襲ひ屋內に侵入すれども沼邊水田藪叢に在るを好み九月に至れば前者は已よ人を刺さゞるも後者は尙は人を苦むるなり此等の實驗に由れば舊來「マラリヤ」ニ感染するは多く薄暮宵間にあることと又二三階の高厦に起臥すれば之を免がるゝの理を了解するに足らん其他此理由を實地に應用して果して「マラリア」を豫防し得たる實例あれども畧す

ビグナシ氏曰くグラスシ氏の從僕某は「マラリア」研究に隨從し Anoph. clav., Culex penic., Culex mal の爲めに月余の時間襲はれたるに由り遂よ本病に侵されたるを見き又同氏は曾て「マラリア」病

を見ざる地に於て「マラリア」に罹りしことなき健康者に就き Culex pipiens 及 Culex hortensis をして刺さしめ試みたるに本病を發せざりき爾後グラスシ氏と共に三人の入院患者（曾て「マラリア」を患ひざる他の病者）に就き Culex penic., Culex mal., Anopheles clav. を以て刺さしめしに著しき發病を見たり其中一人には規尼を用ひて解熱を要する程の壯熱を發したりき勿論病者の血中にプラスモヂユームの著しく增殖せるを見たり

Culex pipiens は殆んど無害なり Culex penic 及 C. mal. は確に本病を人より人に媒介する者にして此の蚊の發生には淺くして覆蓋せられざる瀦溜水潦水最も適するなり但腐敗水は却て發生を妨ぐるが如し

◎ナシノコギリバチに就て（第九版圖參看）

巖手縣特別通信委員　鳥羽源藏

夫れ、昆蟲類の生物界に、介在して、生長を計るや、其天壽を全うする事の難くして、多くは、氣候食物等の狀況に依り、其營養に、障碍を來たし、或は、殺蟲菌に、苦められ、或は、鳥獸の餌となり、蟲魚の食となり、時に、同類に打たれ、或は、寄生蟲の攻擊に惱みて、常に、其外患の絕ゆるなし。されば、昆蟲類も此生物界に於ける、生存競爭塲裡に立ちて、此等の害患に反抗防禦の術ありて、自體の安全、及び其子孫の蕃殖を計る、又妙ならずや其防禦策中、形態彩色を他物に摸倣し、以て敵の目を避け或は、直接害敵に對して、臭液を放射するあり。或は、彩色判然として、却て敵の注目を惹き、彼をして、警戒せしむるものあるは、普通のこととす。今記述せんとする、ナシノコギリバチは、以上の防禦策を兼備せる奇性のものなり、

ナシノコギリバチは、膜翅目中、鋸蜂科Tenthredinidae. に屬す。學名は、Cimbex nomurae, Marlatt. と稱するものにして、梨の葉を食する一害蟲たり。

○成蟲　●體長　♀は七分五厘♂は六分三厘

●頭部　横長形をなし、胸部より少しく幅狭し。複眼は、楕圓形黑色にして、光輝あり。其間の單眼三個は、低き三角狀に排列す。顱頂部のみ黑褐にして、他は黄褐なり總て密毛を生ぜり。

●觸角　五節より成り、（五節の外に密着して、判然せざる部あり）棍棒狀を呈せり。♂にありては、本末、褐色にして、中部黑色なれども、♀は柄節のみ褐色にして、餘は黑色なり

●胸部　幅は腹部と畧、同じ。前胸の脊板（脊片）全體は見えずして、其兩側のみ前翅の基部に達して三角片となり、黄褐なれども、胸片（胸部）肥太して漆黑なり。中胸は、大部分を占め、黑褐を呈し前縁は、突出して、殆んど、頭部に接せんとす。後縁には、黄褐なる小板あり。密毛を有れども、餘り長からず。

●翅　前縁脈、並に副前縁脈は、太くして、接着し、前翅は、殆んど後翅の二倍大あり。其前縁胞は褐色を呈し、副前縁胞、並に第一中胞は、暗黑色にして、外縁には黑暈あり。後翅は、外縁に細く黑暈を存するのみ。翅の開張♀は、一寸六分五厘♂は、一寸四分あり。

●肢　褐色にして、基節、轉節、腿節の下面及び、腿節の半は、黑色なり肢は、前、中、後肢と順次に發達して、大さを異にす。特に、後肢の基節は、甚だ延長し、其腿節又非常に膨大せり。（♂は各節共細し）脛節の内側には、密毛を有し、末端には二棘あり。跗節は、五個ありて、第一節には、密毛を存すれども、他節には疎なり而して、末端には、爪及び膜辨を具ふ。腹部七環節より成り、外に

尾節の一環節あり。形大角豆を割りたる如くして、下面、稍、平らなり第一腹節は、胸部に密着し脊片に半月形の凹所を顯し、地色は四節まで黒褐にして、以下三環節、及ひ尾節は、黄褐を呈し、其背上の中央、及ひ、側片に黒褐帶あり。

（注意）以上は雄に就き記述せり

卵。楕圓形にして少しく平たし、長さ一分一、二厘、幅五厘淡黄にして、卵殻薄く、幼蟲發生の狀態を透見するを得て、面白し五月初旬、乃至中旬に梨葉（猶、嫩く十分開展せざるの候）の表面、即ち葉柄及ひ中肋に近き部分（葉身の基部の邊）より一個（稀に左右に一個宛）を產卵し、之れに粘液を廣く塗附し、乾燥せば、薄膜の如し。蓋し、卵の落下を豫防せるものならん。

○○幼蟲　五月下旬孵化し、體長二分一二厘、頭部漆黑にして、体黑色を呈すれども、日を經過するに從、白粉を粧ひ、灰白となり、五日目には、体長、五分五厘に至り六日にして一回の脫皮をなし、二齡となるや、初めは地色淡色にして、小点より成れる背線と、これより疎なる氣門上線あれども判然せず然れども日を經るに隨ひ、体色、灰白となり、線條明瞭となる。又六日にして、二回の脫皮をなし、初め濕潤して、淡紫黑色を呈すれども、次第にまた灰白となり、從來の点線判然たり。只、背線と氣門上線との間に、樺色にして、斷續せる亞背線始めて、幽かに認むべし。頭部は藍黑なれども、白粉を被れり。更に、第三回の脫皮をして、成長するや、体軀の側片、扁たくして廣く、背面は狹し。地色は、始め淡青を呈すれども、漸次赤みを帶ぶ。背線帶、淡黑よりして、之れに前齡の如き背線（軀節に二点宛但し第一節と尾節上には一点）と、別に樺色の美なる亞背線を現し、氣門上線の点は太くなりて、一層、判明す。氣門の周圍黑く、其下方に上下より縱皺凸起して、（此

皺に白色の顆粒を散点す）交互ゝ鉤連する如くに見ゆ（尙各齡共体軀に橫皺多けれども毛を有せず）八日を經て、五齡となり、從來の彩色條線等消失して、別蟲の觀あり。頭部は、割合に大きく、幅は、体と同し。色光澤ある橙黃色にして、單眼は、左右に二個宛あり、上の一個は黑く、鮮かなり。体の地色は、樺色或は稀に黃色にして太き黑色の背線あり其中央に、細き淡黑さ、且つ橫皺多きを以て、眞田紐狀に見ゆ。充分成長すれば、一寸七分内外に至り、十六日間を經て老熟し、土中に下りて、褐色の繭を營む。

幼蟲線條摸型圖

イ　ロ　ハ　ニ　ホ

備考頭色は四齡まで白粉を粧ふ

符號	齡	体長	齡中日數	地色	頭色
イ	第一齡	五分五厘	六日	灰白	黑
ロ	第二齡	七分	六日	灰白	藍黑
ハ	第三齡	九分五厘	六日	灰白	藍黑
ニ	第四齡	一寸四分	八日	白	藍黑
ホ	第五齡	一寸七分	十六日	樺	橙黃

經過習性　一年一回の發生ゝして、繭内に於て、幼蟲の有樣にて、越年す。翌年四月頃蛹化し、五月上旬、乃至中旬に羽化す雌は卷包せる葉身に、一個宛の卵を產み幼蟲は十二節にして、十一双の脚を有す。其胸脚、三双は發達して、銳爪を具有し、尾脚一双は、後方に於て癒着するを以て步行に際し、常に此尾端を卷縮し居る故、蟲体は實際よりも短く見ゆ。葉を嚙むは、朝夕（曇天には稀に晝間）二回にして、日中及び夜間には重ゝ、葉裏に体軀を螺線狀に卷きて、靜息す。三齡までは鳥糞の葉に附着せる如くなるも、四五齡に至れば頗る、華麗にして、却て害敵の目を惹くべし。然れども、之れに近つき觸るれば各氣門上の微孔よ

ナシノコギリバチの發育式

年＼月	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二
第一年				●十	●十 ●十 ●	●一 一 一	⊖⊖⊖	⊖⊖⊖	⊖⊖⊖	⊖⊖⊖	⊖⊖⊖	⊖⊖⊖
第二年	⊖⊖⊖	⊖⊖⊖	⊖⊖◎	◎◎◎								

●卵 十成蟲 一幼蟲 ◎繭内の蛹 ⊖繭内の幼蟲 一區に三個あるは上中下旬を意味す

り惡臭ある液汁を發射す。特に五齡の時は、一尺の距離尙よく放射の汁液を達せしむるの奇性を有す又五齡のものゝ体を卷きて、葉上に附着せるものは、小なる蝸牛の殼にも似たり。

抑も、昆蟲類には、少數の產卵、尙よく子孫の連綿として、盡滅せざるものと、多數の卵子を產附するも、僅かに其小部分のみ天壽を全うするものと、あり此のナシノコギリバチの產卵の少數なるに係らす、外敵の難を免れ、年々發育を遂くるもの豈故なからんや。

(第九版圖解)　(イ)は卵(ロ)は一齡の幼蟲(ハ)は二齡の幼蟲(ニ)は三齡の幼蟲(ホ)は四齡の幼蟲(ヘ)は五齡の幼蟲(ト)は繭(チ)は成蟲即ちナシノコギリバチの雌

◎食蟲動物　《一名天然の害蟲驅除者》(承前)

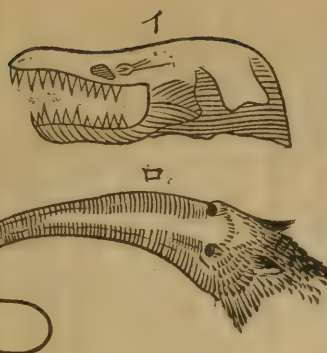
千葉縣特別通信委員　林　壽祐

第一　哺乳類

肉食獸類中に、食蟲蹶行族といふ一科あり『猬、鼩鼱、麝香鼠、水鼠、鼹鼠』等の小獸これに屬す此族は專ら昆蟲、蠕蟲、小獸を以て常食とす、故に其齒は悉く銳利にして、臼齒の如きは數個の突起あり、最も蟲食ゝ適す、冬期は多く蟄居し、其間餌食を搜索せざれども、獸類中にありては、害

蟲驅除の効最も大なり、『猬』は歐羅巴に產し、大さ八寸餘、全身刺毛を以て被はれ、敵に會すれば身を縮め刺毛を逆つ、其狀恰も栗毬の如し、故に猛烈なる强敵といへども、又如何ともする能ざるなり、常に昆蟲、蛙の類及び小禽を捕へ食とす、就中好んでコックローチ蟲を捕食するを以て、英國人は之を益とし、目擊するも敢て徒殺するものなしといふ、『鼹鼠』は通常田畑を荒らし、農家の爲め嫌惡せらるれども、螻蛄等地中の蟲類を食し、且つ空氣及水をして、普く地中に侵入せしむるの効あり、他の肉食類は多く、獸鳥の肉を食とすれども『狐、狢、猫、貂、熊』の如きは、又昆蟲を雜食す。蝙蝠類に二種あり、一は形大にして果實を食し、一は形小にして好んで昆蟲を捕食す、後者を食蟲蝙蝠類と稱し、『蝙蝠、赤蝙蝠、山蝙蝠、キクガシラ、ヴアンピール』等之に屬す、『蝙蝠』は黃昏空中を飛翔し、蚊等を追攫するを以て蚊喰鳥の名あり、ヴアンピールは南米に產し、大さ栗鼠に等しく、山林に捿みて小蟲を食とす『猫猴(Galeopithecidae)は又蝙蝠猴と稱す、長さ一尺七寸許りあり、東印度諸島の產にして、飛膜を具有し能く樹間を飛翔し、蟲類を以て食とす。獮猴類は概ね植物性を食とすれども、また昆蟲を嗜むものあり、狐猴(Lemur)は亞弗利加の東馬達加斯爾島に產し、多く植物及び蟲類を食とす、ガラゴスは西亞弗利加セ子グハル河の近邊に產し數多の蟲類を食す。鼠類は植物性の外、昆蟲を雜食す

イ　ロ

（イ）食蟲類の齒（ロ）食蟻獸の舌

『鮫鯉』は東印度及び亞弗利加に產す、我邦にては穿山甲と稱し、往々市上に見ゆるものなり、常に昆蟲を餌食とせり、『大食蟻獸』は南米に產し、其舌糸の如く細長にして

粘液あり、好んで蟻の類を食す。有袋類啖肉、食草、食菓、食蟲の數種あり啖肉、食菓の二類は兼て蟲類を追獲す、食蟲類中のエチアス、袋鼠は亞米利加及亞弗利加に產し、昆蟲及果實を食とす。『刺鼴鼠』(Echidna)は又食蟻蝟と稱し、濠太利亞洲の森林中に穴居す大さ一尺四寸許り蟻及他の小蟲を好めり『鴨嘴獸』は濠洲の特產にして大さ一尺五六寸、搆造性質や、鳥類に近く、卵生せり、刺鼴鼠と共に最も下等の獸類にして常に河邊に捿み、蟲類を以て食とす
食蟲獸類は概して上述の如し、今是を分類すれば

哺乳類
- 四手類……獮猴、絹毛猴、狐猴
- 翼手類……蝙蝠、山蝙蝠、ヴアンピール
- 食肉類
  - 趾行類……猫、狐、貂、狢
  - 蹠行類……猬、鼩鼱、鼴鼠、山鼴鼠、麝香鼠、熊
- 嚙齒類……鼠、鼷鼠、地鼠、田鼠
- 食齒類……大食蟻獸、龍鯉、犰狳
- 有袋類……袋鼠
- 一穴類……鴨嘴獸、刺鼴鼠

而して、長鼻類(象)有蹄類(牛、馬、鹿、犀、駱駝)鰭脚類(海豹、海象、海驢)遊水類(海豚、海牛、鯨)の如きは、昆蟲を食するものなし。(未完)

◎中遠の螢に就て

靜岡縣第三回全國害蟲驅除修業生　神村直三郎

伊勢物語に「晴るゝ夜の星か川べの螢かも我がすむかたのあまのたく火か」と見へ又源氏物語にも螢

の卷などありて螢は早くより人の賞揚したること明けし加ふるに螢狩は何れの地を問はず貴賤ともこれを夏の夜の一興となし文人墨客は詩歌に詠じ畫に寫し以て樂しむもの皆其光りの愛すべきものあるに基因せざるはなし其名物として世に知られたるもの「濱のまさご」「秋のねざめ」なんどの書を繙かば蓋し枚擧に遑あらざるべけれど就中名高きものは宇治石山なるべし宇治は戲曲に著はれ石山は「石山の闇や螢の金砂子」と某氏の詠ある程なり閑話休題として予は本年の夏中央遠江の螢を調査したれば聊これを報じて貴重なる紙面を汚すべし

中遠に用水路あり延長八里餘支流數十派に分れ灌漑面積數百町天龍川の分流にして北は二俣より南流東海道を橫斷して遠江灘に注ぐ四時水のたゆることなく水生昆蟲の種類に富む中に就て螢は古來万能螢と稱して大形のもの多く人爭てこれを捕る蓋し万能は東海道附近の一村名なれば呼び來るなるべし此大形種の現出する概ね五月下旬に係り用水に添ひて上下す其光り炬火の如く爛々として一の美觀なり然れども少しく期節を後るれば消へ去て影なくたゞ小形のもの丶群飛するを見るのみ

本年三月發行の動物學雜誌及同五月六月の昆蟲世界紙上に於て渡瀨博士の論文を掲載せらる愛讀數次其期節によりて異種の現はる丶ことを悟り直ちにこれが實驗に取かゝれり

（注意）予の實驗は一に大小を比較せしにすぎず學理的に發光器の差異等に及したるにあらず又下に記す期節は螢の初發より二週間毎にこれを分ちたるものにて一に博士の指示に隨へり

（第一期）五月十六日より同廿九日まで二週間

本年は五月十六日に初めて現れたり本期にはなべて大形のもの多くして稀に小形のもの交れり雄はよく飛揚するも雌は靜止するもの多し又雄は多くして雌は少なし其割合百七十三頭に對する六十三

頭なれば三分の一强に當る雌の發生が雄よりも遲きは何れの昆蟲も槪して然るゝや予の實驗によればジヤノメテフ、ヒヨウモンテフなどは雌の方著しく遲きを覺ふジヤノメテフの如きは雄は七月一日の採集に多數を得しも雌は一頭も得ず同月十五日の採集には雌二頭を得たり又養蠶家の談を聞くに雄蛾の發生は雌蛾より少しく早しとの事なり其雄雌の比較第一表の如し

第一表

雄雌別＼体長	雄蟲	雌蟲
二五	二	―
二六	五	―
二七	一	―
三〇	一	一
三四	一	―
三五	一〇	―
三六	一五	―
三七	一	―
三八	一〇	―
三九	一	―
四〇	三〇	一
四二	二〇	一
四三	一〇	二
四四	二〇	四
四五	一九	七
四六	一二	一
四七	四	四
四八	六	五
四九	一	―
五〇	三	一〇
五一	―	二
五二	一	五
五三	―	二
五四	―	四
五五	―	七
五六	―	一
五七	―	二
五八	―	一
六〇	―	三
合計	一七三	六三

（注意）表中上欄の体長は普通曲尺を以て記す假令は二五、は二分五厘、にして六〇、は六分なり又中下欄の數字は其頭數を示す　（以下準之）

此表によりて見れば第一期の雄は最大五分二厘最小二分五厘にして雌は最大六分最小三分なり又最も多數に採集し得たるものは雄にありては四分にして雌にありては五分なり

（第二期）五月三十日より六月十二日まで二週間

本期にあつては雄雌殆んど同數にして最も多く現出し且雌の靜止すること第一期の如くならす雄蟲と同じく飛揚す本期に殊に注意を要することは雄蟲の小形なるもの新に加はりたるの事實なり雌蟲の大形種多きことと第一期と大差なきを見ても亦其發生の遲きを窺知するの材料となすに足る其詳細第二表に示すが如し

第二表

体長＼雌雄別	雄蟲	雌蟲
二四	一	｜
二五	三	一
二六	二九	｜
二七	六	四
二八	四	一
三〇	五	二
三二	一	一
三四	二	二
三五	二	一
三六	二	｜
三七	九	｜
三八	二	｜
四〇	一八	七
四二	一〇	一
四三	五	一
四四	一三	五
四五	一七	二
四六	一	二
四七	二	八
四八	三	三
四九	｜	一
五〇	四	九
五一	｜	二
五二	｜	三
五三	一	七
五四	｜	四
五五	｜	三
五七	｜	四
五八	｜	一
六〇	｜	七
六五	｜	二
合計	一六八	一五二

右の表によりて見れは雄は最大五分三厘最小二分四厘にして雌は最大六分五厘最小二分五厘なり最多數に採集したるもの雄にありては二分五厘雌にありては五分五厘なり

（第三期）六月十三日より同廿六日まで二週間

本期に至りては大に數の減少を見る且小形の種類のみ殘りて大形種は至て稀なり第一期より本期に亘りては重に前記用水路の両岸より發生するものゝ如し雌雄の比較第三表の如し

第三表

体長＼雌雄別	雄蟲	雌蟲
二四	一二	｜
二五	三四	九
二六	二一	一
二七	一一	二
二八	一	一
三〇	四	五
四〇	一	｜
四四	一	｜
四八	｜	三
合計	八五	二一

此表によりて見れば雄は最大四分四厘最小二分四厘にして雌は最大四分八厘最小二分五厘なり又雌雄とも最多きは二分五厘のものなり

（第四期）六月廿七日より七月十日まで二週間

本期は雄雌とも至て少し注意せざれば發見し能はざる程なり今辛ふじて得たるものを表になせば第四表の如し

本表を見るに雄は二分四厘二分五厘同數にして雌は二分六厘のもの二分七厘のもの各一頭あるのみ

（第五期）七月十一日より同廿四日まで二週間

本期は又頗る多數に現出するの時期にして其發生地は用水路にはあらずして植付を終りて數日を經

第四表

体長＼雌雄別	雄蟲	雌蟲
二四	九	|
二五	九	|
二六	|	一
二七	三	一
合計	二一	二

たる田面よりするもの丶如し黄昏田面を見渡せば点々稲苗ゟ發光を認む
雌雄の比較第五表の如し
本表を見るに雄蟲は最大二分八厘最小二分にして雌蟲は最大三分最小二分なり最多きもの雄に在ては二分八厘雌は二分六厘なり
（第六期）七月廿五日より八月七日まで二週間
本期も第五期に連續して頗る多し然しながら本期の末に至りては大に減少せるを見る五期と同じく雄蟲多くして雌蟲の少なきは飛揚せるものを多く採りたるの結果が然らざるか判然せざれども雌の少なきことは事實なり第六表に精し

第五表

体長＼雌雄別	雄蟲	雌蟲
二〇	四	一
二二	|	一
二四	三六	八
二六	二〇	一三
二八	四六	四
三〇	|	四
合計	一一六	三一

本表を見るに雄は最大二分六厘最小二分にして雌は最大二分七厘最小二分なり又多數ゟ採集し得たるもの雄は二分三厘のものゟて雌は二分五厘のものなり
第七期に至りては稀に一二を認むる程にて大に困難なるを以て採集せず因て右六期につき其多少を比較すれば左表の如し
以上の調査より仮に結論をなせば左の如く云ふを得べし
一、中遠の地に於て螢の多數發生するは二回なり
二、五月下旬より六月上旬を最多の時となす
三、七月中旬に至り再度異種の現出あり

第六表

体長＼雌雄別	雄蟲	雌蟲
二一	一五	二
二二	|	二
二三	一一	五
二四	四三	一
二五	二五	|
二六	二一	一八
二七	一	六
二〇	|	四
合計	一一六	三八

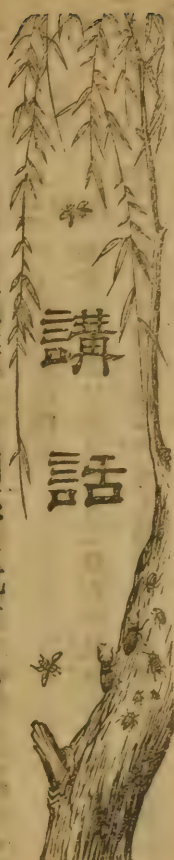
期節	雄蟲	雌蟲	合計
第一期	一七三	六三	二三六
第二期	一六八	一五二	三二〇
第三期	八五	二一	一〇六
第四期	二一	二	二三
第五期	一一六	三一	一四七
第六期	一一六	三八	一五四
總計	六七九	三〇七	九八六

四、雌蟲は概して雄蟲に比して大形なり

五、雌蟲は雄蟲より少しく後れて發生す

六、夏末に現出するものは田面より發生するが如し

右は一地方につきて一個人が每夜二時間位一ヶ年間採集したる現品に基き調査したるに過ぎず尙年を重ね各地に涉りて洽ねく調査したらんには確實にして種々の面白き現象を見るを得るや必せり四方の諸彥これが調査を試みられ以て世に公にせられんことを希望す

講話

◎昆蟲と傳染病との關係に就て

臺灣總督府醫學校助敎諭　堀内次雄

編者曰く左の一編は堀内次雄氏が蚊と麻剌里亞の關係調査の爲め七月三十一日當所へ來られし節偶當所に於て開設中の第五回全國害蟲驅除講習員に對し講話せられたる概要を筆記せしものなり

私は唯今名和先生より紹介されました如く蚊に就て調査否な承りたいと思ふて當所へ參りましたのでムりますが、私しは全体昆蟲と云ふ事に付ては智識も無く又經驗もありませんが爰に少しく昆蟲と傳染病との關係に就ての希望を述様と思ひます、今日にては種々の學科が進みまして傳染病の如きも追々調査が行屆きて稍々正確に之を說明する事が出來る樣に成りました、其内原生動物として

麻刺里亞、赤痢の病源も一のアミーバと云ふ事が分りました彼の秋田縣或は越後信濃川の近傍に於ける恙病も一のアミーバならんとは今日の學說であります其病源は如何にして人の身体よ浸入するやと云ふに至りましては種々の方便が有る樣でありまする、けれどもどうも昆蟲が媒介するものゝ樣でありまする而して一つは機械的に依り一つは化學的の作用よ依りて媒介さるゝので、其機械的とは蚊、蠅の如きものが赤痢患者の糞尿を舐めて後ち吾人の食物に來て止つて其毒を食物に移します處が吾々人間は夫を知らずして喰ひますから遂に体内に其病毒が浸入するのである、化學的とは或る動物の体に是等の病毒が攝取せられて非常なる毒に化するのである茲に其一例を申上げますればペストの病毒を動物に食せしむる時は其動物は一日にして斃れて仕舞ふ唯今申上ぐる如く蚊は患者より病毒を吸收し之れを他の健康体に植へ付くるのである尤も此病毒は一旦蚊の体内を借らざれば感染せないと云ふ說があります先年我が國で流行しました彼の回歸熱は多くは蚤。虱の体内を借りて之れが媒介をなしたので有ます、昆蟲は種々の方面に分布するを以て今日は單に機械的と化學的の生物、蚊と麻刺里亞は余程密接の關係を有して居る麻刺里亞の病源は古昔より瘴氣熱と申します又隔日に發熱するを以て間歇熱と稱します併し二種以上の病源同時に發する時は隨而其發熱も每日殆ど平均するが爲め學說上間歇熱と申すは穩當の命名にあらずと信じます、此瘴熱氣を沼氣熱とも書きます是は沼より出ると云ふ處からである、沼より出で、一旦乾燥したる一種の毒を發する即ちMalaria-Mal-aria 是なり其后漸次經驗を積に從ひ或は消化器よりも起るならんと云ひ又水よりも直接起るとも云ふ說が現れました併し其后……今より凡二十年前此病源を發見し一種の麻刺里亞バラスピーと稱す或る學者が蚊の居る處には麻刺里亞患者が在から其處で蚊張を釣らずして蚊に吸

は麻刺里亞に傳染しました其后種々の試驗を爲し蚊の赤血球の中のマラリア、プラスマチを他の健康体の血液に植へるとマラリアに感染するとMan-son氏は稱せり併し其試驗は何時も甘く行かなかつたそうです Bignami氏は血液を吸ひたるものは水中に落ち同時に其水を呑む時は麻刺里亞を起し或は乾きたるものは塵芥に入り傳染すると云ふて居りますが今日の處では Man-son氏の說が勢力ある樣でムります而しどの種の蚊でも皆な媒介する譯では無く蚊の內或る種が媒介を爲すので即はち Anopheles claviger なり Culex は然らざるなり又或る人は蚊の唾液腺中の化學的作用のCelliはマラリアのXの成分を多量集め之を他の動物の体に注射し其血液を變化せしめ夫を取りて血精を人体に注射する時は能く効を奏すると云ます Anopheles claviger は外面より爲すと其特性は如何なるやと云ふに是の子孑は水面に平たに浮ぶものにし名和先生も左樣の試驗を爲されて居るそうです Anopheles claviger が居らざれば必ず此說を打消す事を得て甚だ面白ひ事でありますＡる人は Anopheles Claviger は他の子孑と異なり水面に平たよ成り居る事を知る故に或は井を埋め麻刺里亞を撲滅する事を得ると申します昆蟲の方面より申しまするると傳染病を媒介するものは種々あります恙病の如きも一種の昆蟲より其原を惹き起すと云ふ事です再起熱は殊に總ての昆蟲に關係をして居りまする蚤もペストに關係の著しきものでありますペストに最も感し易いものは鼠で鼠は御案內の通り緒方醫學博士が研究をせられて居られますが病鼠の蚤を取り之を撚り潰して他の動物に植へましたら遂に斃死しました蚤や虱の如きは寄生主が冷却する時は冷たき体に居ることを得ずして人体に移轉して來ます其他吾々は鼷鼠の天井抔に在る事を往々にして見受ます又其鼷鼠に蟻が群集して其毒を板の間抔に運搬して來ます之を踏む時は其病毒が直に人体に移轉するのである昆蟲は研究すれば隨分學術上

有益なる關係を發見する事が出來ます醫師の方では病毒が昆蟲の体にて如何なる變化を爲すかは研究をせなければならぬ即ち病毒と昆蟲の關係は醫師の方で研究すべきもので單に昆蟲學と申す方は專攻家に讓つた方が余程裨益が有るだろうと信じます諸君も左樣の方面より研究になりまして其進歩の上に益せられん事を希望致します

◎第二回愛知縣渥美郡小學校敎員昆蟲講習員五分間演說

編者曰く本年八月十三日より九月二日迄三周間當昆蟲研究所に於て渥美郡小學校敎員昆蟲講習會開設中八月二十日午后一時より各講習員の五分間演說會を開かれたるが其內有益と信ずる演說の大要數番を左に掲載する事となしぬ

（一）昆蟲學研究に對する敎育者の覺悟　杉山尋常高等小學校　鈴　川　英

私は敎育者として昆蟲學を研究するには如何なる方針に據る可きかと云ふ事に付て一言を費さふと思ひます此方針を定むるに就ては如何か是れ完全なる敎育者と云ふ疑問を先づ決定せねばなりませぬ私は此疑問に對して次の如く解釋する事が最も現今の狀態に向て適切と信じます即ち完全なる敎育者とは常識に富み興味の方面の多樣なるものなり、と、何樣に信じまする茲に於て私は次の如く結論を致します即ち敎育者として昆蟲學を研究するには常識を富まし興味の方面を多樣ならしむるの方針に據らざるべからず、と、處で昆蟲學は余輩の此目的に向つて適切なりや否やと考へて見るに尤も適切であると思ひます何となれば昆蟲學は自然理學として能き題目であると同時に社界學上の富膽なる材料を吾人に與へつゝ居りまするからでござります、
以上二つの事實は私しが前申述べた處の目的に向つて最も適切なる事を示すことですが尙私は特に

昆蟲學を好き題目と考ふるのは其材料が容易に手に入る事と美術的である事と使用に便利なる事との三点でござります偖て話が少し横道へ這入ましたが兎に角此好材料の上に吾人は吾人の常識と與味の方面を擴張すべき事が吾人の當然の覺悟と信じます

（二）昆蟲講習生今后の責任

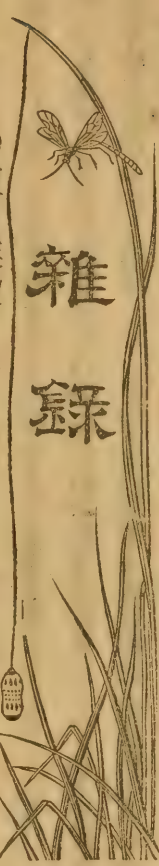
豐岡尋常高等小學校　宮林菊次

私は無學短才且つ經驗もありませんから御話する事は出來ません而し已を得ませぬから少し自分の希望を述べ樣と思ひますから御推察有りて御聞きを願ひます私の申す事は吾人昆蟲講習生今后の責任とでも云ひませう夫れに就て是迄色々先生の御懇切なる教授を受け昆蟲學の何たるを略ぼ知りました先日授けられし處に依れば明治三十年の我が國の損害は實に七千五百万圓でありましたそうです何物がなしたかと云へば昆蟲の內なる浮塵子の仕業であります一寸申しますれば昆蟲は六足のものだと云ふのみですがなか〱ヌカの樣なものでも實に恐しいものであります先日井上甚太郎氏の言にも今の日本は實に危急存亡の時だと曰はれました私も誠にそうだと思ひますされど世よは二十七、八年の役には大勝利を得て今では世界一の強國抔と思ふものがありますが私はそうで無いと思ひます察するに此時に於て若し一方針を誤れば國亡の時だと思ひます而し是れが豫防を爲すは即ち國を富ますより外はありません其國を富ますのは何が基だと云ふに日本では農を本としますから農を盛にしなければなりませぬ農の內第一は米作にあり此米をよくせなければならぬ之れを害せられた爲め明治三十年には七千五百萬圓の損害を來したのである此損害は即ち昆蟲の爲めである故に三十年の如き大損害を再びなからしめ合せて國家の富强を計るは吾て講習中なる昆蟲を研究して以て此講習會の効果を擧げ一は名和先生の厚志に報じ吾人は千万金の財にまさる事の出來る所の責任

を全ふせられん事を聊か諸君に希望する所でありますー寸一言を述べ以て五分間の責を塞さまする

（三）害蟲驅除は人生の務なるべき事を感す　豊橋高等小學校　伊東　安次郎

私は嘗而某軍人から戰爭の目的とする處は敵たる人を殺して土地を奪ふにある夫れだから優勝劣敗の社會ょ戰爭は到底絶る事が無いと云ふ事を聞きました今又名和先生から昆蟲の生存上弱肉强食の行はれつゝある有樣を伺ひまして彼是考へますれば凡そ世上に捿息します動物は又皆然らざるはなしと思ひましたそこで私は吾人生存の上に於て聊かなりとも防害を與るものあれば仮令死力を盡しても夫れを除去する法を講じそして安全にせねばならぬ事だと存じますされば面のあたり吾人に損害を與るものは何でありますか申す迄も無い害蟲でありませう若しも此害蟲が夥しく蕃殖して吾人の需用する食物を食ひ盡す樣な事がありましたなら吾人は生存競爭塲裡に打負けて遂に滅亡するょ至るかも知れませぬそうして見れば是れ等の害蟲を驅除して生存競爭塲裡に安全の策を建るは確ょ吾人の一の務であろうと考へまして聊か鄙見を述べた次第であります

（四）小學校教育に於ける實物教授と昆蟲標本製作　和地尋常高等小學校　太田　清右衛門

小學校生徒を教授するに其法或は種々ありまするが先つ生徒の觀察力を修養し與味を喚起せしむる法即ち實物教授は缺くべからざるものです又一番効あるものと思ひます彼等總ての能力の幼稚なる生徒に就き毎日其行爲を細かょ觀察して見なさい學校内と云はず家庭中と云はず彼等は動物殊に昆蟲を採集して弄ぶのを嗜ぶものです其動物を好む兒童の天性にも依りますが昆蟲を好むは其種類が多くて得易く且つ美麗なるものが多いからでせう、此幼稚なるもゝの喜で玩弄する昆蟲に就きて

彼等は夫を研究すると云ふ精神は又誠に少ないですが此志想を養成して彼是に博物觀念を與ると云ふは實に能き方法で又必要な事と思ひます此事は單に博物の觀念を養ふ斗で無く他の方面と大に連鎖的の關係を有するものですから時々刻々生徒引卒して野外採集を行ふ時は体育上にも利ある事は勿論採集したる標本に就きて敎授する時は他の店にて買入れし標本よて敎授するよりも生徒は一層興味を覺ゆるもので是等卽ち野外にある時標本敎授に就きての敎授よ於て彼等は審美的、推究的、經驗的、等の興味を與うると共に動植物界自然の理を知らしめ生存競爭は吾々人類よのみ限らず動植物の自然界よも又行はるゝ事を知らしむる事を得るに好都合と思ひます諸君も歸鄕の後は精々盡力して此事を實行せられ實地敎授の効を益々高くし又害蟲驅除に付きては家庭と連絡をとる能き方便と思ひます故此事をも行われて其職を盡し併せて名和先生の鴻恩にも酬ひ吾か當路者の意にも添はれん事を勉めらるゝ樣願ひ度いのです

(五)　ダマシと云ふ害蟲に就ての感　和地尋常高等小學校　鈴木要吉

私は先般來日々熱心なる先生の昆蟲學よ就ての御話を承りました其內で尤も深く感じましたのは彼のダマシと云ふ惡むべき害蟲が多くの植物に非常の害毒を與ると云ふ一事であります昆蟲社界に於てすら兎角ダマシと云ふものは害毒を及ぽしつゝあると云ふを始めて知りまして吾々人類界にはどうであるか人間界のダマシは吾々社界に害毒を及ぼしはせぬかどうか大に此ダマシよ就ては吾々敎育者は將來深く注意をしなければならぬ事と思ひます、と、申しますのは敎育者が被敎育者を敎育して行くにはどうしても社界文明の粹を拔て世の流潮に遲れぬ樣敎育する事が必要であると云ふ事は誰も喧しく云ふ事で御座ひますが併し粹を拔くにも宜しく取て以て用ふべきものなるや否の點に就

ては深く研究して居るや否やと云事に就ては余の疑ふ處でござゐます、と、云ふ事は時勢の變遷の然らしむる事とは云へ多くの氣取り家に就て深く研究する時は「にせ學者深く問はれてあたまかく山」を演ずるものが誠に多い即ち政治家ダマシ敎育家ダマシ農業家に養蠶に工業に美術に殆どそうであるにもかゝわらず世の人々は未だ何れがダマシであるか何が眞であるかと云ふ事を見分ける力則ち有益蟲と害蟲とを識別する昆蟲學者の力が乏しいから大方はダマシの害毒にかゝつて居ると云ふ憐むべき狀態に陷つては居るまいか種々昆蟲學の原理より益蟲害蟲の識別は素より宇宙自然の微妙に至る迄の萬端の形勢にまで應用觀察する時は吾々は深く詳細に研究すべき必要があるのであると考へますから先生より授かつた昆蟲捕獲の方法を應用して捕蟲器毒瓶、採集箱は素より大なる撿蟲鏡否覺悟を以て小は顯微鏡にて識別すべき害蟲ダマシより大は人間界のダマシをも採集驅除して以て宜しく自然界より淘汰し第二の國民を誤らざらん事を希望します聊か昆蟲學の原理より推究を喚び起しましたから將來吾々の責任覺悟を述べて五分間演說の責め塞きといたします

雜錄

◎蚊は撲殺すべきものなるや將た保護すべきものなるや

靜岡縣　生熊與一郎

夏頃大火も早や西に流れ燈火正に親むべく書讀むべきの時一大敵の襲ひ來るあり蚊軍則ち是れなり蚊は既に諸君の知らるゝが如く昆蟲の一種双翅目亞目蚊類蚊科に屬する一小蟲なれども吾人が夏夕

一目的一方針の下に勉强せんと寄机するや吾人を苦むる事甚少なからざるのみならず吾人が目的に向て之れが成功を遅緩ならしむる一大害蟲たるや普く讀者の知る處ならん故に余は之れが完全なる驅除法を發見して帝國議會へ議案を提出して之れが驅除法を實施し以て全國に一頭の蚊も生存せざる樣になさんと企て先つ性質狀態を詳細に調査し以て驅除劑を求め三四の驅除劑を使用して之れが殺蟲試驗を行へり而して途中熟々考るに其幼蟲即ち孑孑は常に惡水中にあつて有機物を貪食して人畜に有害なる瓦斯の發散を防ぎ偉大の効益を間接に吾人に與へつゝあり又成蟲則ち蚊は素と人間に免疫血精療法を敎授したる恩師たる（免疫血精療法とは各特殊の病原菌の毒素を一定量に稀薄にして之れを動物体中に注射し以て身體をして各其毒素に堪へしむる性質を與へ以て免疫せしむるよ外ならず例ば吾人の種痘の如し）のみならず現よ血精療法を行ひつゝあり即ち或る免疫性を有する甲の人の血液を吸收せんと口吻を体中に挿入し后ち去りて乙の人を刺し以て血液を吸收せんとする際甲人より乙人に免疫性を移し乙人も同しく免疫性を帶ばしめ特殊病毒の抵抗力を强むゝ、嗚呼吾人が不知不識の間に偉大の効益を受くる事斯くの如し然れども右血精療法と同理を以て諸種傳染病の媒介者たる事あり其甚だしきよ至ては傳染性を有せざるマラリア熱の媒介者となり該病を傳染病と同一視するに至らしめ又ペスト病其他諸種の流行病傳染の媒介者たるは現今一般醫學社界に稱へらるゝ處なり然れとも總て疾病に罹るものは多く蚊帳を張り蚊の襲來を防くも免疫性を有するもの即ち健康者は多く蚊帳外に在るを以て免疫性を傳播する方亦尠なからざるべし如斯蚊は或る場合には有益蟲ともなり又有害蟲となるなり果して然らば彼れ蚊軍は全く驅除すべからざるものなりや將た亦驅除すべきものなるや之れ余が讀者に向て切よ欵を請はんとする所なり若し夫れ之れを驅除す

るも差支なしとせば余は該蟲の驅除法を知れり希くば讀者諸君幸に意見を本誌に述べられよ

◎モンキテフの幼蟲は紫雲英を害す

島根縣特別通信委員　田中房太郎

此蟲は昆蟲學上鱗翅目粉蝶科に屬するものにして越年蝶とも云ふ其幼蟲は好んで荳科植物を食す本年春縣下能義郡の一部及縣立農事試驗場に於て栽培せる紫雲英に夥しく發生して大害を爲せり

成蟲　雄の體長五分五厘乃至六分翅の開展一寸五分乃至一寸六分雌は體長六分乃至六分五厘翅の開展一寸七八分あり翅は皆な黃色なれども雌は帶黃白色にして所謂雌雄淘汰の結果に外ならざるなり前翅の后緣は帶褐黑色にして內に黃色又は黃白色の紋を有す中室先端に黑褐色の點あり后翅は暗色を帶び外緣黑し中央に橙黃色の紋あり裏面は黃褐色の環に圍まれたる銀白色の紋を爲す故にモンキテフの名あり

幼蟲、充分成長するときは一寸三四分に達す地色は暗綠色にして背に二條兩側に一條の白線あり

經過習性　年二回の發生を爲すものにして成蟲の狀にて越年す故にオツチンテフの名あり而して春生のものは小にして夏出するものは大なり本年春紫雲英に發生したるは五月中旬より下旬にして六月上旬に至り成蟲となりて飛翔す雄は活潑にして其圃上を飛翔するも雌は動作甚だ鈍く其數も又雄より少なかるべし

附記　此頃モンキテフ發生順序の標本を製作せり某農學士之れを評して曰く思考は成程感じたるも此蟲は紫雲英を食するものにあらずモンシロテフと等しく十字科植物を害するものなりと之れ誤評も甚だし實に學士として如斯くんば他は推して知るべく昆蟲界の爲め慨歎の至りに堪へず

◎昆蟲雜語（第一）

千葉縣　長生山人

（一）文學と昆蟲

余は文學の書類を詳しく調べざれども手にしたるものにては、彼の和學を以て有名なる紫式部の源氏物語には「空蟬、螢、胡蝶、鈴蟲、蜻蛉」の如き卷あり。藤井高尙の松屋文集に「蝴蝶辭」あり。明治の世に至つては小永井小舟の「記蟋蟀盆」及び玉乃世履の「養金鐘兒記」あり。又彼の希臘より出でし伊蘇普物語は悉く動物を假り來つて德敎と爲したるものなるが殊に昆蟲を引譬せしは「螽蟖、蟻、蝗、蠅、蜜蜂、聒々兒、虻、蜂、蚤、蚊等とす。

小野篁歌字盡といふ小册に左の如き句あり

蟷螂はカマキリムシよ蛄はフルシ亡は虻なり文は蚊と知れテン蚕解くるは蟹よサウは蚤冬は螽よ
キリギリス恐タクム虹ヒガシ蝀キミ蚣ホウは蜂なりチシユは蜘蛛なり蜻蛉はトンボウなるぞ單は
蟬圭は蛙に引くは蚓よ

（二）蟲と昆蟲

昔は動物をさして一概に禽獸蟲魚介の五種となせり故に鳥獸と魚介あらざるものは總て蟲類の綱に屬したり彼の蜘蛛類は勿論甲殼類蠕形類珊瑚類より有脊動物なる兩棲類爬蟲類まで昆蟲といふ一稱の下に抱括せられ其範圍極めて廣大なりき。今日にても單に蟲といへば蜘蛛も蜈蚣或は蚯蚓をも含有すれども昆蟲(Insecta)即ち六足蟲の語を以てすれば蜘蛛、蛭、鰕とは區別判然たり殊に蛇蠑螈蛙とは類緣甚だ遠きものとす。往古はまた五蟲なる一種の分類法ありたり曰く鱗蟲（龍爲長）羽蟲（鳳

爲長）介蟲（龜爲長）毛蟲（麟爲長）裸蟲（人爲長）是れなり此分類法を見るに凡そ天地間に呼吸する動物は總て蟲と稱られしならん

（三）　害蟲驅除舊法

往時は害蟲驅除につき隨分面白き方法ありたり能不能は暫く措き諸書に散見するものを蒐出すれば次の如し○端午の日に當たり菖蒲を刈取り簞笥或は箱類の中に入れ置くときは衣服等害蟲に侵かさるゝことなし。同日浮草を乾し之を粉細とし樟腦と混合し丸となし燻す時は蚊は水液に變化す。同日數個の棗を取り熨斗に入れ燃すときは能く蚊を除くべし。同日明礬を太陽に曝らし蓄へ置き毒蟲よ刺されしとき創口に塗れば速に治するを得べし。同日朱砂にて茶といふ文字を書し之を倒よし柱に張附くときは能く百蟲を防禦すべし○三月三日センダンの花或は葉を摘み床下に散布すれば、蚤虱の害を受けず○鰻の骨を燒くときは蚊を去るを得べし○片假名にて「イシフレエンリキリフクエンフクリ」と書し行燈に張り付くるときは夜蟲飛來たり燈火を消すの憂なし○麝香或は樟腦を本箱に入れ置くときは蠹蟲生せず○米櫃に蟹の甲を入れ置くときは米象發生する事なし、

（四）　氣　象

古き書に下の如き妙説あり○立春の日四方に靑き氣あらはるゝは蝗蟲蕃殖するの兆なり或は曰く卯の日暴風あり黄色の塵芥煙々として天空よ上騰する時は必ず蝗蟲湧出すと○魚水上よ躍り飛蟻空中に飛翔するは共に風雨の豫報なり○甲子、丙子、丙寅、丁巳、丁卯、庚辰、辛未、戊午の歴は蠶業佳良にして庚午の歳は蠶業半吉なり。」

◎蚊の産卵に就て

名和昆蟲研究所助手　福井克雄

蚊は人畜の血液を吸收して生活す(但し大部分を曰ふ)故に夙に世人の最も惡むべき昆蟲たり輓近醫術の進歩と共此一小蟲をも恐るべきものと爲し大に研究するに至れり然れども之れ醫學上の研究にして余等昆蟲學を修る者は斯學上深く研究せざる可からず爰に於て余は師の教に從ひ本年五月を以て之れか調査に着手し爾來數回の試驗を重ね聊か研究し得たる處あるも其詳細に至りては他日を期し今は只産卵數をのみ記載すべし

月日	天候	卵塊數
五月十八日	晴	一三
同 十九日	曇	—
同 二十日	曇	六三
同 廿一日	曇	—
同 廿二日	曇	四五四
同 廿三日	晴	一七八
同 廿四日	曇	二七
同 廿五日	晴	四四
同 廿六日	晴	四八
同 廿七日	曇	—
同 廿八日	曇	—
同 廿九日	曇	一三二
同 三十日	曇	二三
同 卅一日	晴	二四六
六月 一日	晴	—
同月 二日	晴	二四六
合計十一夜		一、四七四

(備考)表中卵塊數を記せざるものは種々の支障を來したるが爲め特に爰に記載せず

上表中の卵塊數は方三尺八寸の器中に腐敗水を滿たし中に放卵せし塊數を毎朝調査したるものにして其卵數に大差あるは種々の原因ありと雖第一當時の氣候は頗る不順にして寒暖の高低一樣ならざると一は晝間曇天にして夜に至り細雨ありし等に關係あるが如く而して一塊の卵數少なきは百五十多きは三百二十粒之れを平均二百卅五粒とすれば十一夜間の卵數實に三十四万六千三百九十粒の多きに及び之れを一夜に改算すれば三万一千四百九十粒となる是に依て之を觀れば一年間只に此器中のみに産する卵子にても其數の莫大なる事到低余等の想像の及ふ可きに非ず殊に茲に記載したるは蚊群未だ多からざる五月の事なれ共是より暑氣次第に加はり産卵數の増加し殆と數ふる可かざるに至りたるは實驗の証する所なり而して凡ての昆蟲類には種々の敵蟲ありて或は卵の孵化を妨げ或は

幼蟲を斃す等の事實は尠なからずと雖該蚊に至りては殆んど寄生蟲無きが如し然れとも只余一已の推測よして未だ充分の試驗を經ざれば爰よ之を斷言するを得ざるも兎に角其蕃殖や實に多く黄昏蚊群の翅音喧しきは敢て怪しむに足らさるなり

◎昆蟲採集と調查

島根縣　特別通信委員　田中房太郎

七月九日島根縣農事講習所生徒拾六名を引卒し生徒は各自よ捕蟲網、採集箱、毒瓶、等を携帶し途を松江市の東南に執り古志原村よ至る當地は高臺にして十中の八九は畑地なり其栽培の主なるものは特用作物としては古來人參を栽培し近時は桑樹を栽培せり普通作物は主に玉蜀黍、粟、陸稻、大小豆、等にして當時之れ等を害する昆蟲を調查したる二三を擧ぐれば

一、人參を害する所の象蟲は鞘翅目中象鼻蟲科に屬する五加象蟲ウコギゾウムシにして方言カチグリムシと云ふ四月下旬の頃より成蟲發顯して人參の葉を食害し接尾の后土中に入り根に產卵す其卵孵化して根を害する者なり又此蟲は單に人參のみならず獨活、五加木ヤツデ等を害するものゝ如し

一、桑のヒメゾウムシ此蟲は岐阜地方の高刈仕立ての桑樹に發生するものと同種にして當地に於ては未だ此害と見認むるものなく單よ桑の立枯と稱へて注意するものなし然るに漸次其被害を增し彼の萎縮病よりも甚だしき處あり

一、桑の天牛、桑の虎蟲等成蟲發顯せり就中虎蟲を最も多く採集せり
一、大豆の葉を害するメダカガメムシ、ヒメコガ子、マメコガ子、等或る圃場ヨ夥しく發生せる處あり作人に就き之れが驅除法を實地指導せり
倘ほ古志原村を過ぎ大庭村に至り茶臼山に登る此山は宍道湖南に連れる丘陵の秀峰にして其高さ百六十三メートル全山玄武岩より成れる土地肥沃にして草木繁茂し從而種々の昆蟲多く捿息し其山腹の松林に於てマツカワカゲロウを多く採集せり此蟲は松皮ヨ似て靜止する時は容易に認むる事難し又櫟、柞、等の茂生する處にありてはキノカワテフ、オホハヤバ、ヒヨウモンテフ、オホマダラキシタバ又絕頂に於てはアカタテハ、イブキキリキリス等を採集せり

◎東三聯合物產共進會昆蟲の景況

三河國渥美郡豐橋町　宮林桂次郎

東三聯合物產共進會は三河國の東部に位する寶飯、南設樂、八名、渥美、の四郡聯合して去月四日より十八日迄十五日間我豐橋町豐橋高等小學校內に開設せり其種類は第一區農產物第二區水產物第三區工產物第四區參考品の四區に分ち中に昆蟲標本を加へたり
出品の數は寶飯郡昆蟲硏究會より拾箱南設樂郡新城町松崎種次郎五箱八名郡富岡村淺井定吉より七箱渥美郡昆蟲硏究會より五箱ヨして皆一定の飾箱を用ひ益蟲標本あり害蟲標本あり或は幼蟲に或は裝飾に各意匠をこらしたるもの丶如く就中淺井定吉氏の一般益蟲の裝飾は五穀を以て家屋を作り之れに益蟲の集ふ狀を裝ひ渥美郡昆蟲硏究會の日月を書したるもの及國旗（カミキリムシ）は參觀人をして眠を索かしめたり

今回は突然の催なるを以て準備も少なく殊に未だ昆蟲標本製作に至りては其方法の拙なる爲め標本としての價値は如何の感なきにしも非ずと雖も南設樂郡松崎種次郎氏は多年の經驗あるを以て其巧妙なるを得たり又渥美郡、寶飯郡に於ける昆蟲研究會より成る出品は其數幾千の多きも皆小學校生徒の採集に係るものたり

參觀人の老幼男女を問はず必す標本陳列場に眼を注かさるなきは信に出品者をして喜ばしめたると同時に昆蟲學普及上頗る裨益ありと認めたり

八月十日岐阜市名和昆蟲研究所長名和靖先生を招し審査を乞ひ同十五日褒賞授與式を行ひたるに其結果南設樂郡松崎種次郎は三等賞渥美郡昆蟲研究會、八名郡淺井定吉は四等賞寶飯郡昆蟲研究會は褒状を各愛知縣知事より授與せられたり抑も本會は四區廿七類の多きに渡り出品人員一千四百余人出品点數貳千七百余点にして昆蟲標本は僅かに一隅に埋沒せられんかと思ひしに案外に此衆人の好評を得且つ恩賞に預りしは他の出品に比し其類を見さる處にして我昆蟲界の爲め賀す可き事なりとす然れども只ゞ一場の陳列に止まり深く應用の途を計らされば其効なきは元より論を俟たざるなり爾來は一層之か研究に從事し足らさるを補ひ以て永遠の希望を達せんと要するものなり

◎小學兒童と昆蟲

第一回全國害蟲驅除修業生　三河昆蟲風神生

二化生螟蟲の食害年々巨多なるにも拘らず村民毫も顧みるなし余等切歯扼腕ゞ堪へさる所本年も第一回の産卵の時期に際し村農會長に計り賞與出品を乞ひ生徒に螟蟲實物を示し惡むべき所以より採卵法に至るまで懇々と說明し採卵を奬勵し賞品を與ふべきを談せしかば生徒等は大ひに感動せし

樣子にて手ょ唾せしものさへありき而して翌日より欣然として卵塊を手にし來る狀頗る愉快氣なり

斯くして其數は日一日增加し遂に去る七月四日四百余人の兒童を一塲內に集め之が褒賞授與式を擧行せり其順序左の如し

一、一同敬禮、一唱歌君か代、一螟蟲採卵の報告、一賞品授與、一村農會長演說、一唱歌害蟲驅除の歌、

而して第二回の採卵期を生徒等は待ち居れり

又益蟲の何物たるを知らしめ害蟲驅除と共に益蟲保護觀念を養成せんとて左の歌を作り害蟲驅除の歌と相對して生徒に敎へしに大に熱心に歌ひつゝあるなり

（仕方）別に益蟲數歌附標本を製作し「一つとやーひらたき体の」と歌ひ出せは敎師はヒラタアブを出し見せしむ斯くの如く折々なす

害蟲驅除の歌　（本郡長作）

瑞穗國の皇民等は、我にあだなすものあらば　力に叶ふ手業もて、攘ひつくして大君の　大御心を安むるが　本分なるぞやよ皇民　田畑を害する蟲あらば、露けき朝もとく起きて　砂礫をとかす夏の日も、鬢丸うんか打殺し　螟蟲靑蟲用捨なく、あつめて流し取りて燒き　豊けき秋のみのりをば、祈れや祈れやよ皇民　祖先に受けたる特性を、皇國のために顯せよ

益蟲數歌

一ツトヤー　ひらたき体のひらたあぶ〳〵　にくき蚜蟲をとり食ふ〳〵
二ツトヤー　ふいに飛び來て蟲をとる〳〵　蟲ひき虻の可愛さよ〳〵
三ツトヤー　道を敎ふる道敎へ〳〵　毒はあれども益もある〳〵
四ツトヤー　世にもうどんげとめでられし〳〵　花もかげらふの卵なり〳〵
五ツトヤー　いじのわるさふなかまきりも〳〵　害蟲驅除のやさしさよ〳〵
六ツトヤー　蟲の体ょ卵產み〳〵　其蟲殺すやどりばち〳〵

七ツトヤー　七ツ星あるてんとむし〳〵　体赤くて圓形〳〵
八ツトヤー　山野を飛びこうとんぼ見よ〳〵　害蟲逐ひかけ捕ふなり〳〵
九ツトヤー　粉糖の様よ小くとも〳〵　害蟲を殺すこぬかばち〳〵
十ヲトヤー　とらわれまじと体より〳〵　臭氣を放つ屁こきむし〳〵
小供等よ―　是等の蟲は益蟲ぞ〳〵　助けて御國を富すべし〳〵
其他作文科に於て例へば浮塵子を生徒に示し之が記事文を作らしめ又簡單に驅除法を敎へ置き私用文に於て浮塵子の驅除法を問合する文及び同返事等可成的時節によりて敎授しつゝあるに頗る好成蹟かと愚考す諸尊氏御批評御實驗を乞ひたし

◎昆蟲に關する葉書通信（六）

(三十三)出水と螟蟲、千葉縣大竹義道、本年余が所在地方の農家にして未だ苗代作法の改良せざる伸長軟弱の苗にして早期に植へ付けたるものは螟蟲の被害点々或る稻田に目撃せしが此分にては其稻田は次第に螟害の多きに至るを見るならんと豫想せし程なりしに去月七日の夜半頃より翌八日午前十時頃までに四十二粍(一坪の雨量七斗三升八合)の雨量ありたるに亦十三日には近年に稀なる强風雨ありしが即ち此日の雨量は七十三粍(一坪の降雨量一石三斗三升五合九勺)の猛雨ありて一時は甚だしく出水し爲めに稻葉の半ば以上若くは悉皆浸水せるものありしが引水の后直に螟害に罹りたる稻莖を拔き取りて檢するに大概は死し居たり故へに昨今の處は前日と異りて被害の增加を見るに至らず是れ即ち天與の驅除なり僥倖と云ふべし然るに無識の農民は斯る自然の驅除なるに心附かず陽氣に依りて蟲の湧き出づると然らざると云ひ張りて害蟲驅除豫防に從事せざる者あるが其等の愚民には現場に就き出水の爲め死せる現蟲を示して其蒙を啓くときは斯る愚民も大に悟る處ありて驅除に注意するに至るべし

(三十四)螟蟲寄生蜂の多少、靜岡縣神村直三郎　予は本務を果せし後村内の兒童を督勵して螟蟲卵を採らしむ其法は買上法にあらず賞與法にあらず直接利害を說てこれをなさしむるなり因て其採卵の數は割合に多からず六月十五日より廿一日まで一週間僅々一千余塊にすぎず余はこれを一の硝子

瓶中に收め其發生を試みしに廿六日に至つて全く止みぬ其仔蟲の發生に伴ひて寄生蜂の發生せるものあり、しかも其數非常に多く發生螟蟲の三分の一位はたしかなり其蜂に大小二樣あり蓋し雌雄なるべし大の方三厘小の方二厘位なり』

(三十五)飛生蟲の使用千葉縣　長生山人、飛生蟲は昆蟲類中最も大にして强齒毒毛なく力强し殊に釣針の如き爪ありて能く物をつかむの習性あり故に某商家に雇はるゝ僕婢等小使錢に苦む時此無邪氣なる動物を捕へ來たり絲にて縛ばり錢箱の孔よりつるし下ぐ斯くするときは飛生蟲は箱底にある銀銅の上を匍匐すやがて絲を引上ぐるとき飛生蟲必ず錢をつかみ來る平均一錢とするも二十回にして二十錢猶之に銀貨の如きものを雜ゆるを以て菓子代位は容易に取得たりといへり其手段惡むべきも奇法亦妙ならずや。

(三十六)夜盜蟲の發生　島根縣田中房太郎　本年は縣下各地に發生し殊に山間の村落に多く、豌豆、煙草、大麻、等を咬害する事甚だしく岩見地方に在りては皆無に歸したる所少なからず目下は土中に在りて蛹期の時代なり而して八束郡津田村に於て夥しく發生して其慘害を逞ふせし處ありし后ち其畑地を耕せしに蛹五六頭見當りたり最初に大害をなじたる數万の幼蟲にして如此少數の蛹は甚だ不審なりしを以て近傍の垣根を發堀せしに豈計らんや數万の蛹を發見せり察するに人常に耕さゞる所に至りて蛹となりしは護身の爲めなるべし

(三十八)草棉の花とキテウ同人　本年八月廿四日害蟲視察の爲め大原郡巡廻中或る棉圃の上を夥た飛翔せる蝶あり之れ何種の蝶なるやと圃内に飛込み其靜止するものを捡せんとするも認むる事難かりしを以て捕蟲器を以て之を捕へ能く見るにキテフなり蓋し棉花の黃色なるに依り之れに集りしは自然的護身の爲めなるべし

◎稲の螟蟲及螟蛉の寄生蜂に付質問

豊後國北海部郡小佐井村　藤澤節太郎

別封第一號は曩日端書通信の時記せし二化生螟蟲卵に寄生せしものなるも又何種の昆蟲なるや不分明に付御教示を乞ふ又第二號第三號は稲の螟蛉寄生蜂の繭數個を試驗管內に入れ置きしに第三號のものは數多出でしが中に第二號の如きもの三頭出でたり何れが眞の稲螟蛉の寄生蜂なりや或は兩種とも寄生有益蟲なりや御教示を乞ふ

答

名和昆蟲研究所助手　名和梅吉

第一號の寄生蜂はズイムシアカタマゴバチと稱するものにて小蜂科(Chalcididae)に屬するものなり而して第二號の全躰黑色のものは眞の稲螟蛉の寄生蜂にして第三號の青藍色を呈するものは該寄生蜂の幼蟲即ち蛆に寄生せしものにて之を第二の寄生蜂と稱す故に第三號のものは有益蟲に寄生するを以て有害蟲なりとす

雑報

◎諸氏の來所　七月十日大坂市南區順慶町大田庄七、同市難波新川町淺岡荒二郎の兩氏、十一日東京市牛込區矢來町貴船重吉、同市下谷區安井匡雄、愛知縣農事試驗場技手向井卯三郎、兵庫縣三原郡山東學校宮下京平、同谷實夫の五氏、十二日東京興農園長渡瀨虎次郎氏、十三日宮城縣農學校教諭金森安之助、農事試驗場東海支場長小幡健吉の二氏、十四日京都府何鹿郡西八日村梅原隆國氏三河國碧海郡刈谷尋常小學校山田達丸氏は同日より九月一日迄、十五日愛知縣技師三瀦謹平、

女子高等師範校學教授岩川支太郎、農商工高等會議々員井上甚太郎宮城縣農學校教諭守屋孝靜同縣名取郡增田町佐藤忠治の五氏、十六日縣下土岐郡土岐尋常高等小學校長鈴木喬長野縣小縣郡昆蟲研究會員石井岩雄大坂硫曹株式會社員山內清二郎名古屋市鐵砲町小田切彥吉の五氏、十七日滋賀縣犬上郡多賀小學校訓導新樂万二郎東京日本橋區濱町岩永端の二氏、十八日橫濱太田町小林友三東京三十間堀橋本良介滋賀縣大津市立小學校八代市次の三氏、廿一日新潟縣佐渡郡河原田町北原多作氏、二十三日滋賀縣技師高橋久四郎氏、廿四日大坂府農會技師菅野鑛次郎富山縣八尾町林周作、靜岡縣濱名郡和田村金原明善同鈴木信一縣下本巢郡長嶺村村瀨清直稻葉郡佐波村山田省三郎岐阜縣屬大野勇京都蠶業講習所山內熊司山梨縣師範學校教諭角田爲若の九氏、廿六日滋賀縣農學校高橋敬吉吉田孫次郎の二氏、廿八日富山縣富山商業學校長神山和雄東京高等師範學校生牧野良平駒場農科大學內農業敎員養生所助手矢田鶴之助滋賀縣第二中學校清水律示の四氏、廿九日山口縣農學校二階重樓、福井縣師範學校中山米藏岐阜縣技手鈴木憲三の三氏、三十日和歌山縣第二中學校敎諭松田宇助氏大垣高等女學校長宗宮信行氏東京王子株式會社長沼氏同上吉田裕太郎氏、九月二日長野縣西筑間郡農事巡回敎師浮田吉太郎氏、其他縣下の學生有志者百余名來所の上昆蟲標本を縱覽せられたり

◎岐阜昆蟲學會　同會第二十一回月次會は九月一日(第一土曜日)午后一時より例の如く名和昆蟲研究所內に於て開かれたり此日天氣晴朗にして來會者事の外多く九十余名に上り殊に第二回三河國渥美郡小學校敎員昆蟲講習會開會中なれば之等の人々來會せられ席上大に狹隘を來したり先づ定時に至り一同着席するや名和所長は起て開會の挨拶として斯會創設以來既に會を重ぬると二十一に及び其間一度も開會日を違へしことなく會は一回と盛大に至ると述べ、次に岐阜縣第一回害蟲驅除修業生小野鉄次氏は素と雄辨家にはあらさるもハリガネムシに就ての演說は實驗談として至極有益なりし次に登壇されたるは渥美郡小學校敎員昆蟲講習員豐田小兵衞氏にして氏は敎員界の觀念より從來の敎育は實物敎校にあらさるが爲め趣味無く隨て奏効あらずと痛嘆し、亞で東京王子製紙株式會社員吉田裕太郎氏は保米袋に就て我國古來米麥其他の農產物は改良を加へて多額の收穫を得るも貯藏法不完全なるを以て害蟲に侵蝕せられ莫大の損害を蒙れりと其統計を示し保米袋の効能を說明し且壹枚宛來會者に配付したるは奇特と謂ふべし、次に岐阜中學校敎諭長野菊次郎氏は前會の續き植物と昆蟲との關係と云ふ題にて先づ其序論たる花の構造より受精の方法として自花、異花両受

精の得失雌雄蕊位置の有樣花粉の形態媒介者の類別等精密なる着色圖を示し講演せられ大に聽象者に感動を與へたり(此に於て一先休憩此時澳國產蝶の標本を縱覽せしむ)次に日本新聞記者寒川氏は鳴聲を發する昆蟲の研究に就て、最后に渥美郡小學校敎員昆蟲講習員井上泰一郎氏は昆蟲學上の所感に就て熱心に演說ありて散會せしは午后五時なりき

◎第一回渥美郡小學校敎員昆蟲講習會の景況　愛知縣三河國渥美郡小學校敎員昆蟲講習會は去る七月十三日名和昆蟲研究所内に於て其開會式を擧行せり同日の來賓には重松岐阜縣農學校長渡瀨東京興農園長小幡農商務省農事試驗塲東海支塲長等にして滯り無式を終り同日午后より引續き規定の科目に就き敎授を開始し居たりしが同月二十日午后一時より講習生各自に各五分間宛昆蟲に關する演說を爲さしめ越て同廿三日午前七時三十分發西行列車にて各員一同助手名和梅吉氏に從ひ伊吹山及養老地方へ採集旅行を試み二十五日夥多の昆蟲を採集して歸所したり又同月三十一日には講習中に於て傳習を受けて自から製作せし幻燈種板に依り昆蟲幻燈會を午后七時より催會し非常の盛況を極め本月二日に至り恰も滿三周間に達したるに依り同日午前十時証書授與式を擧行せしが當日の來賓には愛知縣參事官深町錬太郎同縣第四課長三國貞五郎同縣老農河合爲次郎の三氏岐阜縣よりは茂泉參事官林技手及桑原縣農會理事等にして席定まるや岡田監督開會の辭を述べ松井渥美郡長修業生三十三名へ証書を授與し終て一塲の式辭を述べらる次に名和講師の訓誡、茂泉、深町両縣參事官の祝辭に代る演說生徒惣代の答辭等ありて式全く終りしは正午十二時なりき

◎講習中諸氏の昆蟲講話　第二回渥美郡小學校敎員昆蟲講習會開設中八月十五日農工商高等會議々員井上甚太郎東京女子高等師範學校敎授岩川友太郎の兩氏及び同二十一日午后一時宮城縣農學校敎諭金森要之助氏は蠶蛆に就て同二十九日靜岡縣林業家金原明善、鈴木信一の兩氏同三十日大垣高等女學校長宗宮信行氏等は何れも講習員に對し熱心なる講話をせられたり

◎島根昆蟲研究會趣旨書並に會則　島根縣に於ては昆蟲學の發達普及を斗らん爲め本年一月島根昆蟲研究會なるものを組織せし趣きにて當所の特別通信員田中房太郎氏より其趣旨書及會則を送り越されたるを以て左に揭く

島根昆蟲研究會趣旨書

農作物を害する所の昆蟲其種類極めて多く又此等害蟲の捕食し若くは之に寄生し死に致す所の益蟲亦其種類に乏しからす而して總ての昆蟲類は形体小に變態巧妙に其發生年により消長するものなれば世人單に見て以て天候の所爲となし或は腐植によりて來ると爲し其性行狀態を研究せしもの未た多からさるなり

故を以て害蟲の發生するや啻に之か驅除に力めさるのみならす其滋殖に委し一朝害毒の瀰漫するに至り周章狼狽し或は鬼神に祈るあり或は空しく喧騒して驅除をなすも其方法を誤る爲め徒勞徒費に終るあり或は種類の如何を問はす益蟲を殺滅して禍害を助長するあり古來之か爲めに被る所の損耗實に幾何そや思て此に至れは寒心に堪へさるなり

害蟲の懼るへきは世人既に之を知る故に平素之か殺滅に注意すると同時益蟲の養護も亦等閑に附すへからす何となれは蟲類の社會にも亦生存競爭の天則其間に存在し自ら多少の抑制をなすあり即ち乾濕冷熱の劇變其他氣候の關係により之か暴殖を妨くるものあると共に有益蟲鳥の之を喙食し或は之に寄生して以て殺滅を助くるもの亦少からさるによる

然るに世人の昆蟲界に對する觀念は往々誤想の甚しきあり試に看よ彼の蔬菜を貪喰する大害蟲は其變態の一時期に於て形容の可憐なる爲め蝶哉々々の愛賞を擅にし却て滋殖を喜るゝものゝ如く又蜻蛉、蟷螂、の如き諸害蟲を餌食とする所の益蟲は時々縲絏の辱めを蒙り或は斷腸の苦みを受く蝦蟇蜘蛛、の如き亦よく害蟲を捕食すと雖とも其形体の醜なるか爲め輙もすれは頑童の虐待に接するにあらすや驅除と養護と其分別なき斯の如し況や其方法に於てをや

總て昆蟲類は氣候の變異によりて消長し又寄生する植種によりて形狀、色澤、性行、習慣を異にし加ふるに一蟲一代生育の順序に於ても其形態を變すること家蠶に於ける卵子、幼蟲、蛹、成蟲、の如きあり千態萬狀殆と限りなきものなれは須らく之に關する諸般の事實を研究し以て害を除き益を求むるの途を講すへし豈急務と言はさるを得んや是れ昆蟲研究會を組織する所以なり

明治三十三年一月　　島根昆蟲研究會

島根昆蟲研究會規則

第一條　本會は島根昆蟲研究會と稱す

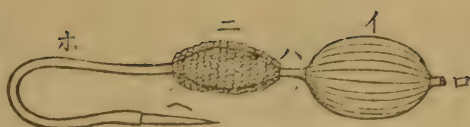
第二條　本會事務所は當分松江市雜賀八百二十三番地に設置す

第三條　本會は昆蟲の性質經過形狀等を研究し益蟲の保護蕃殖及害蟲驅除豫防の普及を目的とす
第四條　本會は名和昆蟲研究所及其他昆蟲に關する諸會へ聯絡を通すること
第五條　本會の會員は左の二種に區別す　特別會員　通常會員
第六條　本會特別會員は每一年金壹圓貳拾錢を通常會員は每一年金拾錢を納むるものとす
第七條　入會せんと欲するものは申込書に一年分以上の會費を添へ本會へ送付すへし又退會せんと欲するものは其事由を具し本會の承認を受くへし
第八條　退會したるものゝ既納の會費は返付せさるものとす
第九條　本會は左の役員を置く　會長一名　幹事長一名　幹事十名　書記一名
第十條　會長は一切の會務を管理し會長事故あるときは幹事長代辨す其他幹事は本會樞要の諸事を評決し書記は庶務會計に從事す
第十一條　本會役員は總て名譽職とす
第十二條　本會會員は昆蟲に關する論説及地方の出來事は巨細を問はす本會に通信するものとす
第十三條　本會に於て研究調査したる事實及會員より昆蟲に關する通信等を撰擇して名和昆蟲研究所へ報し昆蟲世界に登載を請ふものとす
第十四條　本會特別會員へは名和昆蟲研究所に於て月刊の昆蟲世界を頒布す尙特に研究調査したる成績或は緊急注意を要する事件は本會に於て印刷し會員一般へ頒付することあるへし
第十五條　本會は昆蟲上に就き會員の質疑に答へ或は昆蟲標本昆蟲試育器昆蟲標本製作器具及圖書等の需に應することあるへし
第十六條　本會の定期總集會は每年春秋の二回に開設す但害蟲發生の虞あるとき其他急要の事件臨時會を開くことあるへし

◎武儀郡害蟲驅除修業生の團体採集　同郡撰出の岐阜縣害蟲驅除修業生及全國害蟲驅除修業生一同は本月一日同郡役所に會合し種々協議を遂げ採集器具等を準備し各旅裝を整へ全員二團に分れ一周間の豫定にて昆蟲採集の爲め出發したり今其人名及部署を開くに武儀郡東部即ち金山上ノ保、神淵、方面へは、森庄次郎足立喜市、足立宇七の三氏(以上岐阜縣害蟲驅除修了生)後藤村次郎氏(第二回全國害蟲驅除修了生)及び同郡西部、洞戶、板取、地方へは天野秋二、中島鐵吉、古

田恒彥、の三氏(以上岐阜縣害蟲驅除修了生)森嘉六氏(第一回全國害蟲驅除修了生)等なりと云ふ

◎昆蟲の幼蟲吹乾器新考案　幼蟲吹乾器は種々あれども全く完全にして輕便なるものを見ず夫れ故多く斯道の研究者も困難する處なり余は此頃不圖此器に就き考を起し實行せしに良好の成蹟を得たれば茲に之れを報道せんとす該器は醫師の使用しつゝある所のスプレーなる器に附屬するゴム球なり此護謨球を以て吹乾器となし其先端ニ玻璃管を挿入したる者なり此護謨球は上圖の如く(イ)なる球を壓すれば(ロ)なる口より空氣は入りて又歸る事能はざるを以て(ハ)なる管を經て(ニ)なる球に入り尙(イ)なる球を壓すれば空氣は自然に(ニ)なる球ニ入り(ホ)なる護謨管を通りて(ヘ)なる玻璃管を通り玻璃管の失端に幼蟲の臟腑を出せしものを約し少しく空氣を送れば吾人が口を以て吹くより非常に簡便にして成蹟良好なり又此スプレーは噴散器なるを以て能く盆栽の蚜蟲なども之れに依りて藥品を注射して驅除する事を得るなり(T. O. 報)

イ ロ ハ ニ ホ ヘ

◎巖手縣昆蟲學會の組織　岩手縣の下飯坂武次郎氏及び鳥羽源藏氏が主唱となり昆蟲採集旅行隊を組織して去る八月十五日より一週間採集旅行を試みしが此採集隊に加れる本縣下の昆蟲研究者十五名發企者となり今回岩手縣昆蟲學會を組織したる由なるが其規則役員及び決議項目は左の如しと云ふ

岩手縣昆蟲學會規則

第一條　本會を巖手縣昆蟲學會と稱す

第二條　本會は昆蟲を研究するを以て目的とす

第三條　本會の目的を達する爲め左の事項を行ふものとす

(一) 每年一回集會の上採集旅行をなすこと　但し採集の箇所は前集會の節決定し置くものとす

(二) 會員は相互に昆蟲學に關する質疑應答並ニ標本の交換を爲すこと　(三) 會員の研究調査の結果は昆蟲世界若くは縣下の新聞雜誌ニ揭載を依賴するものとす

第四條　本會には幹事一名及ひ各郡に委員一名を置くこと

第五條　幹事は本會萬般の處理をなし委員は幹事を扶けて事務を行ふものとす

右規則に依り左の諸氏役員に推薦せられたり幹事には鳥羽源藏氏委員には盛岡市岩淵俊六氏東磐井郡小山幸衛門氏、西磐井郡江刺家德太郎氏、膽澤郡佐藤忠三郎氏等ょして明年は江刺、膽澤氣仙の三郡内を十日間の豫定にて採集するとこし集合点は膽澤郡前澤町なり因に云ふ今回の旅行にて採集せる昆蟲標本其他を本會より第一回全國昆蟲展覽會へ出品する事を可決せり

◎昆蟲研究會　岐阜縣海津郡撰出の害蟲驅除修業生一同發起となり今回海津郡昆蟲研究會なるものを組織せし由なるが差當り同會の事業として每日曜日ょは郡內數里に涉り團体採集を試み或は昆蟲幻燈會を催し熱心に斯學研究ょ從事すると同時ょ一般に昆蟲思想の養生を斗りつゝありと云ふ

◎新刊雜誌の昆蟲記事　新刊雜誌中に掲載せられたる昆蟲ょ關する重なる記事は左の如し

（一）東洋學藝雜誌（第二百二十六號）益蟲の說と題し佐々木忠次郎氏は蚜蟲、殼蟲介、及び松毛蟲、螟蛉等の性質を畧舒し是等害蟲には瓢蟲寄生蜂其他種々の敵蟲ありて常ょ之を攻撃するを以て吾人の爲めには益蟲なり故ょ昆蟲學者にあらざるものと雖も一般に注目せざる可らずこ論ぜらる

（二）動物學雜誌（第百四十二號）桑天牛の卵に就てこ題し中川久知氏は圖入にて先づ卵の形狀着色等を論し次ょ詳細なる表を掲げて桑天牛の產卵場所は枝の大小に關係し卵の孵化は重に翌年にある事等を細說し岩川支太郎氏は日本產天牛科こ題し着色圖入にて天牛の種類を說明せらる

（三）大日本農會報（第二百廿七號）二化性螟蟲に就てと題し田中虎治氏は誘蛾燈の試驗成蹟を掲け螟蟲驅除には點火誘殺法は有力なる驅除法なりこ斷せらる

（四）農事雜報（第廿五號）有益昆蟲說と題し林壽祐氏は有益蟲類數十種を網羅し簡簡なる說明を附す

（五）新農報（第十九號）昆蟲寄生菌の話と題し黑澤良平氏は寄生菌の性質を畧述し正當に此菌を飼養し害蟲驅除に應用するを得ば利益大なるべしと圖を掲げて論し、小林傳四郎氏も稻の害蟲クロムクゲムシの經過習性驅除豫防法を詳記せり

（十六）農業世界（第二卷第十五號）日南田林次郎氏はキリウジカヾンボに就てと題し該蟲の形態及經過習性より驅除法ょ論及し、能島正夫氏は瓢蟲を愛護せよてう題目の許にテントウムシの繁殖力の偉大なる蚜蟲驅除に大効あるを述べらる、又本紙第二卷第十六號にはカーニオラン蜜蜂と題し表紙に其蜜蜂の圖を顯し青柳浩次郎氏は同種の他種に比して長所多きを賞贊し之れが飼育順序は次を逐ふて記載すべきを約す

（七）岐阜縣農會雜誌（第九十一號）はシンムシ驅除調査表を掲ぐ
（八）京都府農會報（第九十六號）田中庄太郎氏は小學校に於ける農業教育の實驗と題し教師の生徒に對して試問して得たる農業と昆蟲との關係及び花と昆蟲の關係に就き生徒の作文を掲ぐ
（九）愛媛縣農會報（第十六號）二三の簡便なる驅蟲劑の製法と題しせんごく某は驅蟲劑の調製法を說く
（十）大和講農雜誌（第五十一號）安永牛之助氏は浮塵子發生に就き農家諸氏に警告すとて該蟲の發生及驅除法を論ず
（十一）青年農會報（第四十二號）名和梅吉氏の昆蟲雜記には梨の介殼蟲、蚜蟲と黴菌及ムクゲムシ等に就て圖を挿入して記述せらる
（十二）何鹿實業月報（第十五號）豌豆の害蟲調査及名和氏の講話等を載す

◎稻葉郡昆蟲研究會組織　岐阜縣稻葉郡に於ては本月五日稻葉郡昆蟲研究會なるものを組織し春秋二回之れが大會を開く事とし猶郡內を四區に分ち各區には昆蟲研究部落會を起し互に氣脈を通して大に斯學の發達を圖る筈なりと云ふ

◎水曜會の組織　名和昆蟲研究所に於ては本誌初刊以來旣に三年に達したるを以て本月五日所員一堂に會し祝意を表し之れが紀念として水曜曾なるものを組織し每水曜日午後より所員の研究會を開く事とせりと

◎各地に於ける昆蟲講習會　新瀉縣に於ては八月一日より六日間同縣農事試驗塲內に於て田中同縣技師講師となり昆蟲講習會を開設せし由又宮城縣仙臺市にては永澤小兵衛氏（第五回全國害蟲驅除修業生）講師となり八月十五日より五日間敎員昆蟲講習會を開かれ靜岡縣引佐郡にては八月十五日より二十九日迄十五日間岡田忠男氏（當所特別通信委員）を講師として是又昆蟲講習會を開會せし由なるが何れも意想外の盛況なりしとふ

◎桑名氏の歸米　米國理學士桑名伊之吉氏は本邦產介殼蟲調査の爲め去る七月歸朝以來各地を巡回して八月下旬全く調査を遂け同月廿八日橫濱解纜の日本丸に便乘し歸米の途に就かれたり右に就き當研究所助手名和梅吉氏は同地迄見送りたりと云ふ

◎名和氏の出張　當研究所長名和靖氏は長野縣北安曇郡に於て本月十四日より五日間開設の小學校敎員及び其他有志者に對する昆蟲講習會の講師に招聘せられ去七日同地へ向け出發せられたり

○害蟲圖解出版廣告

●第一桑樹害蟲エダシヤクトリ(枝尺蠖)(再版)
●第二桑樹害蟲トゲシヤクトリ(刺尺蠖)(再版)
●第三稻の害蟲イ子ノズイムシ(二化生螟蟲)
●第四煙草害蟲タバコノアヲムシ(煙草螟蛉)
●第五稻の害蟲イチモンジセヽリ(苞蟲)
●第六桑樹害蟲ヒメゾウムシ(姫象鼻蟲)(新版)
●第七桑樹害蟲シンムシ(心蟲)(新版)
●第八稻の害蟲イ子ノアヲムシ(螟蛉)(新版)
●印は既版の分

●第九茶の害蟲ミノムシ(避債蟲)
●第十豌豆害蟲エンドウノキリムシ(夜盜蟲)
○稻の害蟲ツマグロヨコバイ(浮塵子)
○桑樹害蟲クワカミキリ(天牛)
○桑樹害蟲イトヒキハマキムシ
○茶の害蟲チヤケムシ(茶蛄蟖)
○桑樹害蟲キンケムシ(金蛄蟖)
○稻の害蟲イナゴ(蝗蟲)
○稻の害蟲フタホシズイムシ(三化生螟蟲)
○桑樹害蟲アヲハマキムシ(青葉卷蟲)
○桑樹害蟲クワハマキ(桑葉卷蟲)
○蔬菜害蟲モンシロテフ(菜の螟蛉)
○松樹害蟲マツケムシ(松蛄蟖)
○梅樹害蟲ウメケムシ(梅蛄蟖)
○梨の害蟲ナシゾウムシ(梨象鼻蟲)
○大豆害蟲ヒメコガ子(金龜子)
○印下は逐次出版の分

●圖解の紙幅　縱一尺三寸橫九寸
●壹枚の代價　拾五錢郵稅貳錢
●百枚以上一纏代價　壹枚拾錢郵稅百枚に付き貳拾錢

●豫約代價

壹枚拾錢郵稅貳錢
但申込の際前金添附の事

圖解代金凡て前金にあらざれば回送せず但郵券代用一割增の事

右害蟲圖解第一より第八迄は既に發行を成し江湖の高評を博したりと雖も未だ當業者全般に普及せざるの憾なしとせず抑本圖解は鮮明なる着色石版圖にして被害植物の實際より害蟲の性質經過等を一目瞭然に描寫し加ふるに平易なる解說を附したるを以て普通農家に於ても尤も理解し易く尤も必需のものたり故を以て岐阜縣に於ては既に之れを採用し各町村農會及小學校は勿論町村役塲警察署等へも頒布せしに一般より害蟲の經過習性等を解得し害蟲驅除上著大の効を奏したりと云ふ依而當所は此際憤勵一番更に重要作物の重なる害蟲を撰擇し逐次出版せんとす而して該出版物に對しては特に豫約と爲し前揭の如く價を低減し大に當業者に普及し實用に適應せしめんとす豫約希望者は速に御申込みあれ又既に出版濟みの分は各町村役塲又は町村農會小學校其他の團体に於て御取纏め一手購求せらるゝ時は大に便利なり乞ふ幸に愛顧を垂れ陸續御注文あらん事を

發行所　岐阜縣岐阜市京町　名和昆蟲研究所

札幌農學校學藝會藏版農書既刊廣告

農學博士新渡戸稻造先生著
訂正再版 **農業本論**
洋裝全一冊 正價壹圓廿錢 郵稅金拾貳錢

農學士 松村松年先生著
增訂三版 **日本昆蟲學**
洋裝全一冊 正價壹圓五十錢 郵稅金拾貳錢

獨逸留學松村松年先生著
訂正再版 **日本害蟲篇**
洋裝全二冊 正價金參圓也 郵稅金貳拾錢

農學士理學士堀正太郎先生著
訂正再版 **作物生理學**
洋裝全一冊 正價金七拾錢 郵稅金八錢

中央象氣臺中川源三郎先生著
農業氣象學
洋裝全一冊 正價金九拾錢 郵稅金拾錢

農學士 大脇正諄先生著
最近米穀論
洋裝全一冊 正價壹圓廿錢 郵稅金拾貳錢

農學士 角田啓司先生著
日本土地經濟論
洋裝全一冊 正價金參拾錢 郵稅金四錢

中央氣象臺中川源三郎先生著
天氣豫報論
洋裝全一冊 正價壹圓五十錢 郵稅金拾貳錢

農學士 高岡熊雄先生著
北海道農論
洋裝全一冊 正價金參拾錢 郵稅金四錢

札幌農學校學藝會編纂
札幌農學校
洋裝全一冊 正價金參拾錢 郵稅金四錢

●發行元 東京日本橋區本石町三丁目 書肆裳華房
●賣捌所 岐阜縣岐阜市京町 名和昆蟲研究所

昆蟲世界第三十六號目次

●本誌定價並廣告料

壹部郵稅共金拾錢（見本は五厘郵券貳拾枚にて呈す）

十部郵稅共金九拾錢

（注意）本誌は總て前金に非れば發送せず●爲替拂渡局は岐阜郵便電信局●郵券代用は五厘切手にて壹割增とす

廣告料五號活字廿一字詰一行に付き金十錢三十一行以上一行に付き金八錢とす

明治三十三年九月十五日印刷並發行

岐阜縣岐阜市今泉九百三番戸ノ二
（岐阜縣岐阜市京町）

發行所　名和昆蟲研究所

岐阜縣岐阜市今泉九百三番戸ノ二　發行者　名和靖

同縣山縣郡岩野田村大字粟野百廿二番戸　編輯者　桑原貫之助

岐阜市笹土居町四十四番戸　印刷者　安田豐八

（明治三十年九月十日內務省許可　明治三十年九月十四日遞信省認可）

（岐阜市安田印刷工場印刷）

明治三十三年十月十五日發行
毎月一回十五日發行
明治三十三年九月十四日第三種郵便物認可
Vol.IV. OCTOBER 15TH, 1900. No. 10.

THE INSECT WORLD:

A MONTHLY MAGAZINE.

EDITED BY Y. NAWA.

GIFU, JAPAN.

(十月十五日發行)
(毎月一回定時刊行)

昆蟲世界

(第四卷第拾册) 第參拾八號

目次 (禁轉載)

PUBLISHED BY THE NAWA'S ENTOMOLOGICAL LABORATORY IN GIFU, JAPAN.

◎寄附物品受領公告

一金壹圓也　山梨縣　林文雄君
一Insect Their structure and Life 米國加里福尼亞產介殼蟲廿種　米國理學士　桑名伊之吉君
一半身肖像(寫眞一葉)　長野縣　清水三男熊君
一消毒兼驅蟲紙帳一張　愛知縣　野尻仙太郎君
一輕便きりふき一個　愛知縣　見山粂平君
一小手形捕蟲器一個
一Bushido The Soul of Japan. 一冊　東京市裳華房
一神戶又新日報(昆蟲記事揭載)(一葉)　兵庫縣　三枝角太郎君
一靜岡新報(昆蟲記事揭載)(一葉)　靜岡縣　神村直三郎君
一淡路新聞(昆蟲記事揭載)(一葉)　兵庫縣　廣田孫參君
一岡山縣農會報(昆蟲記事揭載)(一冊)　岡山縣　岡本整四郎君
一トコジラミ外七種昆蟲標本七十八頭　在鯖江第三十六聯隊　森宗太郎君
一岩手縣昆蟲採集旅行隊寫眞(一葉)
一半身肖像(寫眞一葉)　岩手縣　鳥羽源藏君
一谷文晁先生遺墨展覽會特別優待券(蝶摸樣附)　東京市　寒川陽光君
一山形新聞(昆蟲記事揭載)(三葉)　山形縣　吉田馨君
一岩手日報(昆蟲記事揭載)(一葉)　岩手縣　小山幸右門君
一防長新聞(昆蟲記事揭載)(一葉)　山口縣　小田勢助君
一昆蟲摸樣附小皿一枚　山梨縣　岡田隆治郎君
一昆蟲摸樣附ナフキン三枚　岐阜縣　中島吉三郎君

右當研究所へ寄附相成候に付芳名を掲げ其御厚意を謝す

明治卅三年十月　名和昆蟲研究所

Mycalesis gotama, Moore. メノヤジコロイスウ

論說

（明治三十三年十月）

◎鳥類と農業との關係

大平洋中ニテ　米國理學士　桑名伊之吉

余は客月（八月）廿八日横濱出帆の日本丸にて皈米の途に就けり航路數日間は風波荒ければ船床に半死半生の体にてありしが二百十日を後とし日本近海を遠く隔たるに隨ひ波濤もやゝ穩かなるに至ればDr. Ds. Jordan を甲板上に訪問す談偶々我等か去る三ヶ月間本邦巡視の事に及べり余も氣づき居しがジョルダン博士謂ふ日本は實に小鳥類の少なき國なり之れ多く婦人の帽子飾となればなりと余微笑答へて曰く日本婦人は博士も見し如く帽子を載かずと（勿論余は外國夫人を云ふことを知りつゝ）博士完爾として余を熟視しつゝ云ふ佛夫人の帽子に梟せられありと余は室に皈りても尚其事を置く能はず其如何に國家經濟上嘆ずべきかを想ひ來つて航海中採筆意に任せざるにも係らず遂に此文を綴ることゝなしぬ

夫れ鳥類の農業經濟上保護すべき價値あることは余の今茲に更まつて喋々するまでもなく世俗の既に已に熟知する處なり鳥類の多數は有害蟲と有害雜草を食餌とするを以て自然稼穡を輔く實業家たる者は宜しく之を保護しま〱播殖を圖らずんばあらず鳥類の經濟的研究は十年前頃迄は餘り精密ならざりしが輓近北米合衆國農務局にては經濟的鳥類研究所を設け大ひに斯學の發達を圖り合せて

農民に之が智識を普及せんとを努めつゝあり

千三百余種の鳥類は科學家に知られたるが其内一千種は亞米利加に生存せり其一千種の內三百六十種は陸性にして昆蟲を食餌とし六百三十種は多少昆蟲を食餌とす而して百種は植物の種子及び穀類を食す

我等は常に見る鳥類の害蟲及び雜草の種子を食ふを殊に雛を養育するときに於て最も多しこれ單に晝間のみに留まらずして夜間尙梟類の働くあり燕類は空中を飛揚する小蟲を捕食し Flycatcher の各種は藪樹中を忙はしく探索し啄木鳥類は樹木の幹梢枝朶を歩行し雀類は地上を歩行し絶へず有害蟲及び植物を食殺す

鳥類の消化は他の動物より比較的早きを以て一日の食料を圖ると難しと雖も Forbush 氏の調査に依れば四羽の（Chickadus の胃中に一千〇二十八個の Cankerworm（尺蠖の一種）卵ありて他の四羽には六百個の卵と百〇五個の雌蟲ありと云ふ之によつて計算し來れば二十五日間此鳥一羽の食料は實に十三万八千七百五十個の有害蟲の卵を要すべし此一例のみよても鳥類の農業に如何なる關係あるかを知るに足れり

鳥類の艸（雜草）を撲殺する又預つて力ありとす其無量幾百万斤なるを知らす一種の種子食鳥（Junco科は毎日1/4ヲンスの種子を食ふと云ふ縱令ば一方里に十羽ありとして二百日中に八百七十五噸の雜草の種子を食ふ割合なり鴿（Dove）一羽の胃中に七千八百ヶの種子ありと以て如何除草に功あるかを知るに足れり

社會の文明と共に農事日に增し改進し開拓の業月に盛なるに隨ひ鳥類保護の必用愈々切なるの當時

本邦鳥類種族の減少を來す豈に實業界の爲に長息に堪へんや世の有識家は須からく保護と注意とを以て之が播殖を圖らずんばある可からず

◎昆蟲と植物との關係

岐阜中學校敎諭　長野菊次郎

動物は直接に關接に植物を食として生活せるものなるが故に動物の消長は植物の生育ゝ大關係を有するや勿論なり彼群蝗一たび過ぐる所地に寸靑を止めずして爲に路頭に餓莩を漂はしめたる實例は各國の歴史に散見する所にして實に聞くものをして寒心せしむるに余あり又浮塵子一たび暴威を逞ふして稻作を害し以て天保の飢饉を來たし近くは明治三十年に於て我國產六百万石の收穫を減じ以て七千五百万圓の價格を奪ひたる如きことを思はゞ其影響の大なること更に言を俟たざるなり

是の如く植物は動物の爲に害を蒙ること多きを以て已の躰を安全に保たんゝは必ず是に對する相當の防禦術なかる可からずスタール(stahl)氏は大ゝ植物につき研究したるに如何なる植物と雖も皆之を食する動物なきものあらざる事を發見し從て又植物は却て幾分か動物より受くる害を防禦する便を具有することを確めたり彼の禾本科植物例へば稻、麥、稷等の其躰内に硅酸質を含める又酸模、酢漿草、秋海棠等の「オリザリック」酸を含める又櫧、柯等の「タンニン」酸を含める公孫樹の靑酸?を含める或はせんぶりの苦味を含める或は蓼、蕃椒等の辛酸辣性植物性壚基を含める如き又蓴の沾液質を有せる蒟蒻、葡萄等の針晶体を有するが如き皆動物の餌食となることを免れんが爲に裝置したる防禦の目的に外ならざるなり然れども動物の種々雜多なる各其性質を異にするを以て一の手段を以て甲動物の妨害を防ぐも乙動物の侵害には無効なるが如きこと少からず然れば到底植物をして無

難の位置に立たしむるとは甚だ困難なる次第なり俗に蓼喰ふ蟲も好き〻好き云へるは實に此關係を穿ちたる者と云べし彼除虫菊の如き蚤に對し蚊に對し其他田圃の害蟲に對して大なる驅除の効を奏するは畢竟其中に諸蟲の毒害となるべき成分あるを以てなるべし然れども亦之を喰ふ昆蟲あるを如何せん牽午子も又蟲類に對して有害の成分を含めども蚜蟲の某種及び一種の天蛾の幼蟲の如きは容赦なく之を害せり其他針晶体を含める植物は蝸牛又螽蝗類の蠶食を防ぐべけれども之亦一種の天蛾類の幼蟲に對しては殆んど無効なり是を以て之を觀れば植物にして絕對的動物の害を免れん事は殆んど望むべきにあらずして又一方より云へば植物にして皆適當の防禦術備はりて少しも動物の餌食たることを許さずとせば動物は悉く絕乏に歸せざる可からず然り而して動物悉く絕亡したらん曉には植物果して完全に生育すべきか彼の同化作用に必用なる炭酸瓦斯の大量は何所より給せらるべき此一事を以ても動植物の相俟て生存することを知るべし況んや彼昆蟲の多數が花の交接を媒介する如きことを知らば動植物の關係の甚だ親密にして又大に研究すべき必要あるを知るに足らん

以上動物と植物との關係の一斑を述べたるものにして之を詳論せんには千言萬語を費さゞる可からざるのみならず淺學なる余輩の能くすべき所にあらず故に今や其區域を縮小して唯昆蟲と植物との關係につきて其一部分を述ぶべし

昆蟲と植物との關係は實に廣大なる問題にして到底余輩の一斑だも知り得べきにあらず然れども其關係を概括すれば左の四項に漏るゝ所なかるべし

（一）昆蟲が植物を害すること

例へば浮塵子、蝗等が穀類を害するが如し

（二）昆蟲が植物を利すること

例へば蜂、蝶等が花の受精を媒介するが如し

（三）植物が昆蟲を利すること

例へば昆蟲に食物を給するが如し

（四）植物が昆蟲を害すること

例へば「モウセンゴケ」「イシモチサウ」等の食蟲植物が昆蟲を捕ふるが如し

尙少しく論據を轉じ各種の昆蟲が植物に及ぼす利害を概括すれば左の如し

（甲）植物を害する昆蟲　浮塵子、蚜蟲

（乙）植物を害し又利する昆蟲　蟻、蝶

（丙）植物を利する昆蟲　蜜蜂

此他殆んど植物に關係なき昆蟲もあり

右の中（甲）に屬するものは害ありて利なきものなれば純粹の害蟲にして十分驅除すべき價値を有し（丙）に屬するものは利ありて害なきものなれば純粹の益蟲にして十分繁殖保護の道を計らざる可からず（乙）に屬するものは幾分は利益を與へ幾分は害を與ふるものなれば半益半害の有様にあるものなり然れども此類に屬するものゝ多數は利を與ふる點よりも害を及ぼす点多きを以て害蟲と目せられて今日驅除の必要を認められたるもの甚た多し蝶蛾等の多數蓋し是なるべし蟻の如きも亦多分此中に隷せらるゝものならん然れども蟻は全然驅除すべきものなるか或は多少利用すべきものなるかの点に至りては未だ俄に決するべき問題にあらざるべし依て余は蟻と植物との關係につき其大略

を左に述ぶべし

蟻は昆蟲類中の膜翅類に屬するものにして蜜蜂と同しく一社會中雌雄の外ニ職蟻ある事等は既に普通の教科書等にも見ゆたることなれば爰に記述する必要なし然れば直に蟻は如何にして植物を害するか如何にして植物を利するか又植物は蟻に對して如何なる防禦をなすか如何なる利用をなすか以下逐次之を略述すべし

蟻の害を與ふる所一にして足らず然れども之を大別すれば直接と間接とに歸し直接に屬するものゝ中一は食餌とするによりて害を與へ一は營巣の爲めに害を及ぼすなり元來蟻は甘味を好むものなるが故に糖分を含有せる植物の部分は特別の裝置なき以上は殆んど彼の蹂躙を被らざるはなし花中の蜜を荒らし果實の美味を啜り果樹の根に其巣穴を營み或は其幹中に隧道を穿ち爲めに樹木に枯死を招かしむることあり又間接には植物の害蟲たる蚜蟲及びカヒガラムシ等を養育保護することあり特に又蟲媒花中に蟻の來ることあらば其受精作用を妨ることと大なり何となれば今試に一個の細針若くば細毛を以て徐に蟻ニ觸るゝときは蟻は其顋を以て之を挾むこと必常なり而して蜜蜂及び其他の昆蟲が花に來りて蜜を吸はんとするときに當り蟻の爲めに其觸鬚を挾まるゝことあらば彼等は再び其花を訪ふことを敢てせざるや必せり

此の如く蟻は植物に對して害を與ふること多きが故に其害を被むることを欲せざる植物は是に對する相當の用意なかる可らず今其防禦術の一二を擧ぐれば左の如し

但水中の植物は水の爲に蟻の害を受くることなきは勿論なり然れば他に防禦の器械なくとも可なり

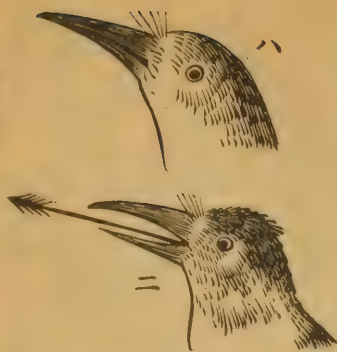
第一、葉盤を具ふること　植物の或る種には莖の各節に葉を輪生して數階の葉盤を形ることあり或

は其根に近き處に數葉を簇生して一重の葉盤を形づくり而して其内に雨滴を存する事あり Dipsacus sylvestris（山蘿蔔科ナベナの種）の葉盤はフランシス、ダルウキン Francis Darwin 氏の説の如く其内に貯藏せる液躰に昆蟲を捕獲して之を溶解し以て已の養料に供するものならしめば亦以て蟻を防禦する事を得るや必せり（未完）

◎食蟲動物 《一名天然の害蟲驅除者》（承前）

千葉縣特別通信委員 林 壽祐

第二 鳥類

鳥類は蟲類を食せざるもの殆んど稀にして、全動物界中最も食蟲種に富めり、就中燕雀類の如き諸鳥は、專ら昆蟲により、生を營むもの多し、其日々啄食する所の蟲數は、實に莫大なりと云ふべし、嘗て燕に就き試みしに、彼は体形大なるに非らざるも、猶一時間十頭の小蟲を捕食したり、一羽の燕は一日百頭内外の蟲類を食除すといふべく、他の鳥類に於ても、推して其啄食する所の蟲數を知るべし。夫れ植物を侵蝕する害蟲は、其蕃殖頗る迅速にして性質强健なり、無數の蟲族は日夜間斷なく增殖し、益々其害を逞ふするものなり若し一朝此地球上に、食蟲鳥類無らんか、農業、山林業は忽ち一大變化を來たし、竟に人をして煩惱せしむるや必せり

ハ　ニ

（ハ）蟲喰嘴
（ニ）啄木鳥の舌

嘗て北米合衆國にて、雀を以て穀類に害ありとなし、大にこれを驅逐せしに、何んぞ圖らん、翌年より害蟲頗る多く繁殖し、農作物は爲に慘荒せられ、樹木は爲に枯損し、却て大害を蒙りしと云ふ

抑も自然的驅除は、速時に其効をみる能はざるも、間絶なく行はれつゝあるを以て、結果にいたり人爲的の驅除に勝るものとす。南米パラグエー國には野生の牛馬なし、是れパラグエー國には牛馬を害する、一種の蠅あるに因るといふ、或る學者は説けり、若し此蠅を啄食する鳥類增加せんか、隣國の如く能く牛馬の野生をみるを得べしと。我邦にては明治二十八年三月、狩獵法施行細則を定め、有益なる鳥類を保護し、其繁殖を圖れり、該規則には絶對的捕獲するを得ざるものと、期節を定め捕ふるを得るものとあり『鶴、燕（岩燕を除く）小雀、日雀、四十雀、五十雀、柄長、鷦鷯、杜鵑、郭公、三光鳥』の如きは其前者にして『雉、鸐雉、鶺鴒、椋鳥、鶲、雲雀、鵯、鷸、小啄木、雷鳥、松鶏、鳩（鴿を除く）』の如きは其後者なり

猛禽類は主に、獸鳥魚の肉を食とすれども『梟、鴟鵂、鵂鶹、アヲハヅク、アイサ』等の如き夜禽は小形なる有脊動物の外、好んで昆蟲を食す、燕雀類は悉く蟲類を食とす、故に其嘴は細長にして鋭く、最も食蟲に利あり、これを蟲喰嘴と稱す。此類は其種類多ければ、一々擧ぐるの暇なし、彼の『伯勞、雀、山雀、四十雀、鶯、鶺鴒、菊戴、天鷚』の如きは、普通田野に來往する鳴禽なり『雀』は各地の田畑に群飛し　穀類を害すれども、兼て害蟲を除去す、米國雀は日本の雀より、遙に五穀を損すれども猶其害を償ふて餘りありといふ『文鳥』は東印度に産し熟したる穀類果物を啄めども、又大に有益なるものなり『知更雀』は菜畑花園に於て、小蟲を食とせり、蚊母鳥は黄昏にいたれば、空中を飛廻はりながら蚊虻及び各種の蛾、甲蟲等の羽蟲を捕獲す、フヰシロストレ又これに類する習性あり『捉蠅鳥』は好んで蒼蠅を追躡す、『伯勞』は留鳥にして、餌食に飽くる時と雖、蟲類蛙等を捕へ梅、梨、柿の如き刺枝に貫き、數多の害蟲を殺除す、ピー、エートルは亞弗利加の各地に産する小

禽にして最も地中海沿岸に多し、常に小蟲を追捕す、『慈鳥』は園畑の肥料を損し果實を荒らすとて人に逐はるれども、また飛蝗、螟蟲等を食し、稻田に益あり、『蟲喰鳥』に大蟲喰、鶯、蟲喰、島蟲喰タカムシクヒ、メバチムシクヒ』等の數種あり『大蟲食』は形鶲より少しく大にして、他は概ね鶯の大さに等し、樫鳥の屬ノット、クラウケルは果實、昆蟲を食とす「風鳥」も半ば昆蟲を食とせり、蜂鳥(Humming 又錦雀)は最も小なる鳥にして花汁及小蟲を食とせり、「樹走」は習性攀木類に近く、鋏蟲の如き小蟲及樹實を食とす。杜鵑及郭公鳥は、一般鳥類の嫌ふ所の、蛅蟖のみを嗜食するを以て山林上有益なり、タウカンスは亞米利加の固有鳥にして暖地に棲み、大さ杜鵑に等しく、果物、昆蟲、鳥卵を食とす、「啄木鳥、山啄木、熊啄木、赤啄木」は專ら木蠹蟲を捕食し、樹林に有効なり、「三光鳥」は春我邦に來り、秋南洋に歸る候鳥にして、蟲類を食とす、「鷄、雉、鷭雉」等は穀類の外、好んで昆蟲を食す、余嘗て庭園の花卉草卉に、昆蟲(蛅蟖を除く)蠕蟲の類乏しきを探りしに、全く飼養せし鷄が、始終捕食するに因るを知りたり、「珠鷄」は亞弗利加の山林に捿息し、諸蟲を食とせり渉水類は水邊に徘徊し、魚介、小爬蟲の外、また昆蟲を餌食とす「鸛」は亞弗利加及び歐洲に往來し穀物を害する蒼蠅、蛆及び其他の蟲類を食除す、其一種サクレット、イツヒスは害蟲驅除の効を以て、頗る埃及人に貴重せらる「鷸」は種類多く水田、河邊に捿み、專ら昆蟲を食とす、山鷸の如きは所により大に群族をなせり、アマサギは蝗等の害虫を食し、稻田に功ありといふ、「火鶴、ガレウ、ブスタルト」は裸蟲、蟹、小魚の類を以て食とす、遊水類は多く植物性を食とすれども、また多少蟲類を食す、「鴨、鵞」の如きは、稻の害蟲を除食す。「食火雞」は爪哇、新幾內亞に產し、果實昆蟲を食とせり、亞弗利加に產する「駝鳥」及新西蘭に產する「鴫鵃」は植物性及び昆蟲を雜食す

鳥類

- 猛禽類……梟、鴟鵂、アオハヅク、シポケラス、アイサ
- 鳴禽類
  - 圓錐嘴族……天鸙、雀、文鳥、黄雀、黄道眉、蒿雀、黑雀、ノジコ
  - 烈嘴族……燕、怪鴟
  - 細嘴族……戴勝、ユリブリ、キバシリ、繡眼兒
  - 齒嘴族……伯勞、小燕、知更雀、烏鴉、慈烏、山雀、日雀、鵠、白鵯鳥、エナガ、五十雀、田鸛、鶺鴒、チヤジナイ、鶫、チヤマ、赤腹鳥、赤鬚、鶯、鷦鷯
- 攀木類……杜鵑、郭公、啄木鳥、鵐鵼
- 搔撥類……鷄、雉、鸐鷄、錦鷄、野鷄、珠鷄
- 渉水類……鸛、鷸、鷺、蒼鷺
- 游水類……鴨、家鴨、鵠
- 走禽類……駝鳥、食火鳥、キヴイ

◎北米合衆國に於ける應用昆蟲學の進歩

東京西ケ原農事試驗場　財前鉚太郎

現今世界に於て應用昆蟲學の最も進歩發達せるは北米合衆國となす而て全國が如何に斯學に就きて進歩發達せるかを知得するは現時の我斯學研究上興味ある事なるべしと信じ淺學無識を顧みず左に北米合衆國昆蟲學大家ホワード氏（Howard）の千八百九十九年農務省年報（Year-Book）に掲載せられたる「北米合衆國に於ける應用昆蟲學の進歩」と題する論文を抄譯して同好諸君の參考に供せんとす

一、緒論　今世紀の初期當合衆國の人口は僅々五百万有余從つて農作地も多大ならず且外國との交通も繁多ならざりしが故に蟲害の如きも至つて少く唯二三の害蟲發生せし報告（千八百年及千八百四年棉の害蟲發生せり同蟲は既に千七百九十三年ジヨルジア地方に發生せし事あり）あるのみにして別に此等に就きて記錄せられたるものあるを見ず然れども新共和政体の發達進歩すると共に土地の面積は擴大し人口は日に月に增殖するの情況を呈するに從ひ農業も著しく改進の域に達し殖産の道開け外國との交通は年を逐ふて頻繁を極むるに至りたり於此乎在來の害蟲漸く勢力を得加ふるに歐州其他諸邦との通商繁昌に赴き國内の交通貫徹するに及び新種の害蟲は續々諸方より輸送せらるゝ事日一日と增加し來り遂に新害蟲は北米土着の蟲類を凌駕して各地方に蔓延し擅に慘毒を流布するに至りたり凡そ蟲類の如きものは一度新なる土地に輸送せられたる時は反て其原産地よりは繁殖の力强大に趣き遂には大害を釀すに至るものなり殊に害蟲の如きは其繁殖に適切なる機に投する時は非常に其度を昂進し侵害力を逞ふするに至るものなり實に北米の如きも初めは大西洋沿岸地方のみ害蟲の進擊を受けつゝありしが遂に彼等は發生の機を得て西部に來襲し次で數年ならずして我が開拓地をも襲擊するに至りたり且つ大平洋沿岸地方に於ける農業の進歩發達につれ他邦國との通商關係の深厚に及ぶと共に害蟲は西部より當合衆國に蔓延するに及びたり

此の如き情勢を以て當合衆國に害蟲蔓延し農作物に加害するの度增大するに及び國人一般に此等害蟲を撲滅して以て殖産の實を擧げざるべからずとなし政府當局者は害蟲驅除豫防に對し或は法規を制し或は莫大の經費を支出して種々の設備をなし且學者等をして此等に關し研究に從事せしめ以て斯業の發達を企圖し學者は專心是等に關し研究を力め或は書を著し或は報告成蹟類を公にし以て斯

業の發達に助勢し國人は擧つて此等に關するの法規を遵守し學者の示道を仰ぎ以て斯業の發達を期せり於爰乎北米合衆國の應用昆蟲學は日を逐ふて發達進歩し遂に現今斯學上世界に於ける最上位を占有するに至りたり

以下當國の斯學進歩發達の情況を逐次陳述すべし

一、應用昆蟲學者の事蹟　斯學が今日發達進歩せるに至りたるは學者の熱心なる研究と精勵斯學の爲め盡瘁したるの功蹟に原由せずんばあらず請ふ是等昆蟲學者が如何に斯學の爲め功蹟ありしかを逐次說明せん

William Dandridge Peck氏　氏は米國に於て應用昆蟲學の門戶を開きたる最初の學者とす氏は千七百九十五年 massachusetts Magazine 誌上に(Canker worm.(蛾の一種)に就きて論述せり之れ當國に於て初めて應用昆蟲學上の論文を公にしたる嚆矢とす其后も氏は屢々該蟲に就きて重要なる論說を出だされたり其他種々の害蟲に關する論文をマサチユセッツ農業雜誌に掲載し大に斯學の爲め力を致されたり

Dr. Thaddens William Harris氏　氏は實に官より報酬を得て應用昆蟲學上に貢獻せる最初の學者とす、氏は千八百二十三年初め Upon the Natural History of the salt-marsh caterpillar (沿海牧草の害蟲に就きて)と題する著述をなせり同書は每頁鮮麗の彩色畵を挿入せられたる有要の昆蟲書たり今同書の緒論を見るに左の如き言句あり

現農界を觀察するに最も重要農產物は枯草とす故に各地に於て之を培養する事に力むると共に自から其培養地の價を騰貴せしめ遂には沿海の salt meadows (沿海牧草地)を耕作せしむるに至ら

しむ然るに此牧草地に加害する蛞蝓あり若之を驅除せざるに於ては農家に損失を與へ延いて國家經濟に消長を及ぼすに至らん

又氏は此害蟲に就きて發生經過を實驗し且其驅除法として同蟲は水に浸すも生活力を失わざるを以て先づ牧草は六月上旬刈取り次に牧草地は三月中に燒棄すべしと陳せり之れ當時唯一最良の驅除策なりと稱贊せられたり（未完）

◎ウスイロコジヤノメに就て　（第十版圖參看）

名和昆蟲研究所助手　名和梅吉

ウスイロコジヤノメは鱗翅類蝶類中ジヤノメテフ科（Satyridae）に屬する者にて其學名は Mycalesis gotama, Moore. と稱す此蝶の和名はコジヤノメテフと稱するものに似て少しく色澤が薄いから斯く名づけたものであるが宮島幹之助氏は動物學雜誌第百三十四號（三十二年十二月十五日發行）にヒメジヤノメとして記載された處が長野縣小縣郡和村の小山海太郎氏は稻の害蟲一覽圖なるものを去る卅一年に著はされ其内にはコジヤノメモドキとして記載された是等は皆異名同物である而して小山氏は左の如く記載されてある

此蝶は六月中旬頃より稻田に來り葉に卵を產付け日ならず蚴となる其形は葉まくり蟲に似たれども葉を卷かず頭に角の如きもの二本あり七、八月の頃稻葉に倒垂して蛹となり蝶となる見當り次第幼蟲を捕り又捕蟲網にて蝶を捕殺すべし未だ此蟲に就ては大害をなす程に發生したることあるを聞かず云々

又宮島氏は左の如く記載されぬ

前種（コジヤノメテフを指す）に酷肖し翅表面は淡黑褐色を呈し、前翅に大小二ケの蛇目紋あり、又后翅にも二紋あれども甚だ不明瞭なり、裏面の色は表面よりも淡く、前翅の紋は表面に等しく

后翅には六紋ありて二群をなす、前后翅の中央には帶黄白色の帶あり、本島及九州には普通なり（仔蟲食草等未詳）云々

右の外此蝶に就ては故プライヤー氏が日本蝶譜に僅に記載されたものがあるのみで未だ他には見當らない元來此蝶は山間平地共に產るとはいへ就中平地の樹木繁茂せる所に多き樣である余は常に五月より九月迄の內何時にても採集せり其色澤紋樣等は前に掲げたる宮島氏の記載された通りであるから茲に再び記さねど只此處に記載して置きたいのは大さである實に此蝶の大さは種々不同になつて居る卽ち最も小形なる者は躰長が五分で翅の開張が一寸三分餘である然るに大形なるものは躰長が六分で翅の開張が一寸七分なり之は最も雄蝶の方で雌蝶の方は尙一躰に大形なのが普通である此蝶の稻に產卵するのは最も稀で普通は禾本科植物の竹或は他の禾本草である幼蟲は淡黃綠色にして充分成長すると一寸一分餘りで小山氏の謂われし如く實に能くイチモジセセリの幼蟲たるハマクリムシに似て居る、けれども其相違する處は第一形が小さいのと頭の形が違ふのみならず腹端の一節が異樣に突出して居る尙此幼蟲には橫腹の或る關節に白色部がないのと全躰がざら〳〵して居る事等が重なる相違の點なり蛹化の時は細糸にて腹端を物躰に附着せしめて下垂するのが普通である大さは四分八厘ばかりあつて淡き綠色を呈て居之が羽化の前になるに從ひ淡黑色に變じ羽化すれば全く白色の殼となるのである稻葉が此蝶の害にかゝるのは最も少ないから恐るゝ程の害蟲ではないけれども往々發生することがあるから參考までに此處に記載したるなり之を驅除せんには勉めて捕蟲器にて蝶を捕獲すればよいのである

第十版圖解　（イ）は幼蟲（ロ）は將に蛹化せんとする有樣（ハ）は蛹（ニ）は雄蝶捿止の狀（ホ）は雌蝶

◎再び第一回全國昆蟲展覽會に就て

名和昆蟲研究所長　名和　靖

當昆蟲研究所が主催となりて開設する第一回全國昆蟲展覽會の件に就ては特に注意すべき事を一通り御話致して置きましたが期日追々間近かになり今や餘す處僅かに數月となりました、處で特に當所が此事を發表しまして以來各府縣の有樣はどうであるかと云ふことを考へて見まするに中には冷淡な處も無いでは無いが概して申しますれば中々熱心な方で殊に先月愛知縣三河國渥美郡豊橋町に於て開會せられた東三聯合物產共進會でも其出品の中に特に昆蟲標本を加へられました或は岡山縣の如き山口縣の如き其他各府縣共をさ〳〵準備に怠りなき摸樣であるから何れ標本も隨分澤山出來た事であろうと私は心潛に嘻んで居りまする、が併し決して之に滿足は致しません

此際諸君に一大御奮發を願はなければならない事がございます夫は外では無い冬季の採集と云ふ事である最早之よりは日一日と寒くなりますから昆蟲の採集は餘り出來ないもの丶樣に御考になる御方もありませうが決して左樣では御座いません是から以後明春に掛けて採集をすれば中々澤山珍種の昆蟲を採集する事が出來ます之は私が年來の經驗の然らしむる處である、それで私は今より冬季に向ふて採集し得べき昆蟲類の重なるもの及び最も簡單なる昆蟲標本の製作法等を諸君の御參考ま

でに少しく御話致して置きます

偖て今の處で最も多く採集し得べき蟲類は重に秋季に發生するもので諸種の蜂類とか直翅類に屬する所のバッタとかカマキリとかイナゴとかマツムシとか申すものであります、夫れから冬の採集と云ふのは既に諸君が御承知でもありませうが木の皮の間とか石の下とか或は草の根とか云ふ總ての蟲類の潛伏するのに都合の能い場所を撰みて採集致しますので、そうすると隨分澤山に集まるもので時には意外に珍らしきものをも見出す事が出來ますのみならず此冬の採集をしますると春、夏、秋の三季の間には迚も採集する事の出來ない種類が採れます實に此季の採集は最も愉快であるそうして斯の如くして捕獲の出來る重なるものを申しますれば先づ木の皮の間抔には重にヤドリバチの類とかゴミムシ類とかタマムシ類とかコメツキムシ類とか云ふ様なものが居りますそうして石の下とか倒木の下抔にはゴミムシの類が澤山に居ります又草の根を掻き分けて見ますればヤドリバチの類とか小さいコメツキムシの類とかヒメクサガメとかイチガメムシとかハムシの類とか其他種々の昆蟲が澤山に潛伏して居ますか

第一圖

ら此の如き所を注意して採集がして藏たい——今如斯にして集たるものを標本ヶ造ますには足を伸したり翅を開張たり當たり前の造方では大變に手數がかゝりまして中々容易な業でないから私が今申上げ樣と思ひまする所謂簡單なる製作法とはソンな七面倒なものではありません大に手數が省けて併かも都合の能い作り方である之れはどんな人でも譯無しに出來且又時間も僅かの間に澤山出來るのである其方法は第一圖に示しました如く普通の名刺紙にて差支ないから其名刺紙を不等三角形に切るのである此紙を切る前に圖にもありまする通り線を書いて置いて夫れから鋏を以て切りますると大變に

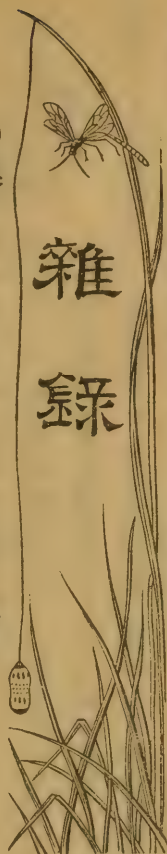
第二圖

都合能く切斷する事が出來まする、切りましたならば第二圖に示すが如く其紙の一端に蟲針を刺します勿論之れを刺すにも無茶苦茶にやつては高い低いが出來て甚だ不体裁であるから小さい板の上に高さ五分計のキルクを動かない樣に押糊か何んかでヒッ付け上面の凸凹を定める爲め錻力板を敷くのですそうして前に切つて置いた三角形の紙を乘せて針を刺しまするとキルクの高さか五分ならば其紙の高さも五分と極まりまして何十枚でもチャンと揃ひまする右の如くにして針を刺しましたならば第三圖ヶ揭げました樣ヶ其紙の先端に蟲を附けるのでありますそうして其蟲を附けるには可成的觸角や脚を伸ばしてダラカントゴムと云ふ糊を以て附けるのである殊に甲蟲

第三圖

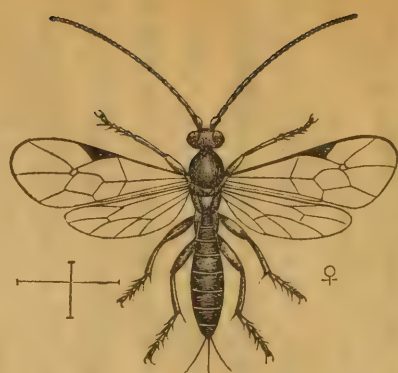
類如のきは採集して標本に製する前ヶ湯の中へ入れて脚や觸角を柔くして夫れから調製をするので

ある斯様にして造りましたものは標本としては少しは見苦しひ様ではありますけれども取調上には少しも差支はありませんから至極く都合が宜かろうと存じまする此製作法の事は申し上ければ幾らも方法はありますが余り長くなりますから此位ひの處で止めて置きます

終りに望みまして猶一言申上げて置き度い事があります夫れは最前より申上けた様な矩合よして採集なされたものは体裁の好悪しは兎も角も此簡単なる製作法に依りまして分類標本等を御作りに成つてそうして展覧會に御出品が願い度い左様致しますれば何れの地方にはどう云ふ昆蟲が居るとか何れの地方に居るものか何處の地方にも捿つて居るとか云ふ様よ一般昆蟲の分布の有様も分り研究上大に裨益ある事と信じますからどうか此際一層の御奮發を以て此冬季の採集をなされて精々澤山の標本を御出品に成る様御注意が願ひ度いのであります

◎桑のアオメムシの寄生蜂に就て

岩手縣東磐井郡農事試驗場　小山幸右衛門

桑のアオメムシは方言ハマクリ或はハマクレ又ハツヽミ等と稱し鱗翅目亞目小蛾螟蟲科の一種にして學名を Exatema mori, Mats と云ふ桑樹の害蟲にして本縣の如は至る處發生せざるなく年々之れが爲めに桑葉の收穫を減すること多し特に本年吾東磐井郡地方は被害夥しく桑葉は平均百貫目廿五圓余の未曾有の高價を來したるは元より雪害早春他の病蟲害並に掃立蠶種の超過等種々なる原因の

存するならんも亦此アオメムシの加害蓋し與りて力ある者なりし余は此害蟲の習性經過に就て研究中本年七月五日に至り其蛹を破りて出でたる一種の有益蟲寄生蜂を發見せり其后尚野外の桑樹に就

てアオメムシの蛹を撿するに寄生蜂に破られたるものあり又其梢間を窺ふに該寄生蜂の飛翔或は匍行するものあるを見たり之れに依て見れば該寄生蜂を愛護し其蕃殖を圖つてアオメムシ驅除の一策に利用したらんには栽桑家の幸福蓋し大なるものあるを信せり左に寄生蜂の形態に就て略記せん

寄生蜂は雄の体長二分五厘翅の擴張四分貳厘あり全体光輝ある黒色なれども只腹部の各節は其后節に接する部分に於て少く灰白色を呈す翅は翅脈明かに前翅の前縁脈並に縁紋は黄褐色を呈し其他の翅脈は黒色なり而て翅面には前後翅共細毛を生せり複眼は頭部の左右に在り光輝を放てる黒色にして大なり單眼は后頭部に小なるもの三個を有し複眼と同しく光輝ある黒色なり觸角は糸狀にして長く殆ど其体長の半に達し廿四節より成り第一節は膨大し第二節は細くして長く第三節よりは漸次短かし而して各節共赤褐色にして短かき毛を生す脚は第一双より第三双に至るに從ひ漸次長く且つ太し三双共帶黄褐色なれども只後脚中の脛節跗節は共に黄色にして各節の接合部に黒斑あり又脛節の末端には二本の刺を出し最終の跗節よりは二個の爪を生し尚全脚短毛を有せり

雌は雄より稍大にして長さ七厘許の大き産卵管一本を有す右寄生蜂はアオメムシ蛹に一頭宛寄生す

附記　名和昆蟲研究所より害蟲圖解第七として桑のシンムシの部發行せられたるが此シンムシとアオメムシとは其習性狀態能く相似たるものなれば讀者諸君該圖解を一見せば大に被害の實況を知るを得べし

◎昆蟲屑話（其六）

岡山縣邑久郡邑久村　赤枝小太郎

（十五）トゲアリの食餌

トゲアリにつきては動物學雜誌第十一卷第百二十八號に村上萬太郎氏が金蜂山に採集せられたるものにつき詳細に記述せられ且日本昆蟲學記載の點との異同をも述られしが余は本年五月廿九日本郡昆蟲學修業生秋山靜太氏が採集せられたるものゝ中より一種異りたる蟻一頭を見出しよく〳〵之を調べしに村上氏の採集せられたるものと同じく八箇の刺を有するトゲアリなりき、よりて此蟻の余が地方にも生するを知り得たり其後六月十日郡內本庄村の山中路傍にて又同十四日には豐原村林中にて共に櫟の新梢に此蟻の群集せるを認め其何の爲めに新梢に集まるかを知らんと欲し近寄り視るに此は新梢に群生せる一種の蚜蟲の分泌する甘液を嘗め居るものにて其枝梢を步むこと熊蟻よりも緩やかにして之を捕ふるに一種の香ありてアラック酒精の香に似たり

（十六）ルリタテハに愚弄せらる、

明治三十一年六月の始め郡內なる某山麓を度々通行したることあり其路上に黑き蝶の靜止しつゝあるを認め初はクロアゲハか或はオナガアゲハならんと思ひしも猶能く注意して其翅を徐々にたみゝたり開きたりするを見に其色澤紋樣全くルリタテハなるを示せり。當時余未だ此蝶の標本を有せざ

りしを以て採集者の七つ道具たる捕蟲網も毒瓶も携帯せざるにも係らずよき獲物にこそいで生擒となし呉れんと携へし所の蝙蝠傘をたゝみて徐に近寄りたゞ一打と狙ひを定めて其飛び揚らんとする所を打ち落し覺ねず一聲占めたと叫びたる一刹那彼は巧に体を翻して飛び去ること數間にして忽ち舞ひ戻り余か頭上をぐる〳〵と廻り恰も余の失敗を嘲るものゝ如しおのれよくも亦ござんなれ今度は逃がさじと前後左右にぐるり〳〵と廻りつゝ之を打つこと両三度見事打ち損じ彼は更に亦十數歩前方の路上に至り靜止せり今度こそはと先つ携帯物を路上に置き十分戰闘準備をなし敵に覺られぬ樣一層の注意を加へ抜足差足進み寄り亦も打おろしゝに又前の如く一旦遠く飛び去り又余の身邊に戻り來りて戰を挑むものゝ如し亦々前後左右に奮戰突擊せしも彼は巧に身を翻し後方の路上に止まりし故亦も追擊せしに彼は遂に林中に退却したり余も武器を有せざる故兎ても捷を得がたきを知り彼の行方を打眺めつゝ行くこと一町計り又他のルリタテハの路上に出づるに會ひ又も懲りずまに之を攻擊せしも矢張り失敗に終れり其後も彼に出會ひしときは何時も戰闘を開きしも殆んど彼に愚弄せらるゝに過ぎざりき然れども昆蟲軍に出會へば武器の有無に關せず開戰するは余等の常にして其勝敗の如きは敢て顧みる所にあらざるなり（ルリタテハは前述の如く之を捕へんとして誤て之を逃すも直に遠く飛び去ざるを以て捕蟲網だにあらは至て捕へ易し）

◎昆蟲見聞錄（六）

東京西ヶ原農事試驗場　小山海太郎

下らぬ事を書並べて貴重の紙面を穢すのも最も勿体なく存する儘一年余の星霜とんと御無沙汰仕りました扨て一年余麥飯をぱくついたから嘸ぞ成長したろう少しは口がきけるかと申されては實

以て困蟲仕次第なれ下手の物好きは相替らず誤多句多を並べて見たく山海の珍味に飽きた頃には麥飯も糠味噌漬の香の物も亦如何かと存するまゝ一ツ二ツ

(二十一)　昆蟲の名稱　其一

昆蟲標本は縱覽遊ばす御方々の内に此蟲の名は違つては居ませぬかなどゝ御尋ねになる方もあります夫れは何故かと聞て見ると何某の著書には何と何氏の標本には彼とか申さるゝが先づ日本にて現今行はれて居る所の著書にて隨分異名同物のものが數ある夫れは今日我が國に於て斯學の進歩が未だ淺いからの事であつて決して怪むには足らぬ元來昆蟲に限らず凡世の中の物事が新羅萬象一として初めから其名稱を表はして生れたるものはあるまじ古の聖人君子の内には生れながらにして其名を云ふ等物の本などに見ゆるもの少なからねど多くは后人が其人と篤りを信ずる余り附加して記せるものが多いものかと思わる又全く自から其名を云ふたとするも其は例外のみ異數のみ之より日を同しくして論するの價無き者なり故に其親が權助と名づくれば權助三助と命すれば三助たる事は吾人の熟知する所にして一点の疑あるべからず今學者數人一時に起り各其感ずる處に依りて命名す何ぞ同じきを得べき寧ろかゝる相違の有ることそ常態なるべけれ既に然りとせば容易に蟲名の違ふ違わぬは云われぬ筈にして何れの名も皆實にして又皆虚なり只に此儘にして打捨置かんか昆蟲界に於て最も勢力ある人のものこそ世に尤も有力なるものとして稱せらるゝに至るべし中原の鹿果して誰の手に落つるか

(二十二)　其二

動物の名稱などに付ては何氏の何々と其命名者の名を記して以て其物と他物と混同せざる様になり

居るは一般學術界の通則の如しと雖も我日本國内のみにて同物に異名多き等は如何にも不都合の極みにして此爲めには隨分誤謬を來す事多く爲めに此學の進歩を害するのみにあらず直接昆蟲と關係深き所の農業界に於ける影響甚少からず例へは一文字せゝりの如き蟲をツトムシとも云ひハマクリムシとも呼び又豐年蟲とさへ呼ぶ所あり是に依りて見る時は農家は豐年蟲と稱せば反て保護にてもなさんかと思はるゝなりヨシ保護はなさゞるも省みざる所少なからず是等の点よりしてか農商務省は今春全國農事試驗場長及農事巡回教師を召集して農業上に關する會議ありたる節昆蟲の名稱一定の件と云ふ箇條が表れたそうだ處が存外六ケ敷なり早速に實行する事が出來ざる樣な次第となり居るとは遺憾千萬なりそれ何故であるかと申せば本邦に於ける知名の動物學者相會し評議の結果にて定めんと云ふ事にて元より結搆至極斯くありたきものなれど繁忙なる學者先生にしては各專門として調査する所あるが爲めに斯の如き機が少ないと云ふ事です勿論發題者も夫れ程の心ではなかつたとの事兎に角現今三四の著書及名和昆蟲研究所の標本中央農事試驗場其他重なる所の標本等に於て異名同物のものあらば互に打合せの上何れか一方を主なる名稱として其他の名稱は副次的にするこそ良策にして且つ行ひ易きとなるべしと思わるゝが大方の諸君子は如何に思召さるゝか聞かまほし

（二十三）　其　三

愈昆蟲の名稱一定することゝ成りたらんには之れが昆蟲を着色圖版として一般に少くとも此道の人々に丈けは是非通知するの道を開きたし是彩色圖版は今日の状況にては政府の事業として行わざるべからず如何となれば今日民間にて之を實行するとも到底損を招かざるを得ず且又其一定の本源と特に連絡を要す此二事に於て成立すべからず寧ろ農商務省にて執行するの易きに如かず如何か仕樣

のなきものにや

(二十四) 其 四

今仮りに農商務省にて昆蟲の名稱を一定せん爲に着色印刷物を發行することゝなりたらんには未だ調査の屆かぬ物ばかりで不都合だろうと云ふ問題が起りそうなり是は至極御尤もで僕は決して最初より完全無缺と云ふ事は望まぬ又世人も定めて同感なるべし元來世の進歩と云ものは昨是今非と云位ひのもので何事も一時に完全と云ふ事はあるべきはづが無い去ば出來得る限り調査を遂けられ即ち今日我が日本の學問の程度丈けのものにて充分なり誤謬の事が跡で知れたら何時でも訂正して差支なしと思ふ世の進歩なるものは皆こんな物なるべし豈昆蟲のみならんや

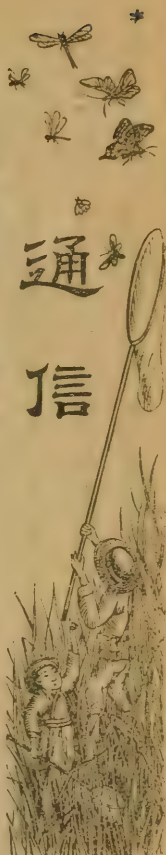
(二十五) 其 五

昆蟲の名稱に就き一々方言等まで取調べたらんには隨分八ケ間敷程のものなるべけれども其名稱の依て來るや又種々の原因のあるものなれば是又ゆるかせにすべからざるものなり例へば蟷螂をカマキリと云ふは其前肢の形狀より來りたるものなるべくハラタチムシと稱するは習性に因りたるものなるべく萊菔を害するハムシの一種をサルハムシと稱するは幼蟲の形より名付けたるものにして成蟲をサルハムシと云ふは成蟲の形より云ふたるものにして稻の椿象或は浮塵子の類を地方に依りてクニクヅシ(國崩し)と稱するなどは其地方にて多く作物を害せられたる爲め飢饉の原因をなしたるを紀念として名付けたる等即ち歷史的のものあれば其名稱を知るは同時に其形狀習性歷史等を知るの便あるものなれば主なる名稱の下に可成的多くの名稱を附記するは頗る必要なる事なり

◎隨 感 筆

千葉縣　長生山人

今茲明治三十三年の盛夏田野を逍遥せしに下に記する如きものに會したり道路に於てサナエトンボの雌が頭部を地に附け腹部を仰け直立せるに雄來り屢接せんと欲し接する能はず雌は幾度か横たはされしも忽ち倒となり恰も達磨の如し是れ雌は交尾せらるゝを避けんが爲めか或は强食の難を免るゝの防禦策なるべし〇空中に三個の羽蟲相連り飛翔したりやがて墮下り草葉に止まりしを以て近き見るに雌雄の虻は相反して交尾せり而して雌は猶一頭の金龜子をつかみ其胸部に深く螫口器を挿入れ頻に養液を吸取し居れり余の動きしに驚き三個又相連り勢よく飛去りたり虻の体力想ふべきなり〇群蟬妍々として高木に噪ぐを以て竹を曲げ輪となし之に蜘蛛の網を張り忽ち一個の捕蟲器を作り蟬を捕へんと徐に追ひ廻はりたり蟬警戒に深き故多く飛去らる一蟬あり周章飛立ち巧に捕蟲器を免れしも偶枝間に張り擴げる蜘蛛網に罹はりたり蘆芥の如くに潜蟄し居りし蜘蛛が佳き餌てそござんなれと雀躍し來たるを追ひ拂らひ蟬を捕獲し得たり歸宅の後針にて留め置きたるに何時の間にか鷄に啄み去られたり意外に容易く獲たるものを意外に速く失ひたり〇蟬が又蜘蛛網に罹り之を破り出でんとせしに蜘蛛鼓爪し來り一刺せり蟬は体形大なるにも拘らず五体忽ち痲痺し敢なく最期を遂げたり。亦大蜂の之に罹りたるを見しに憐れや網は片々に打切られんと思の外蜘蛛は神速に蜂の周を回旋し糸を噴出だし遠くより捲きつけやがて蜂の力衰ふるに乘じ疾走し來たり胸部に嚙み付きたり流石强剛なる大蜂も何堪るべき直に六足を張り伸ばしたり〇水中を窺ひしに三匹の水蟷螂が死したる小蛙を爭ひたり其動作頗る遲緩にして各前脚を伸ばし三方に分れ互に引寄せんとせしにより蛙は一所に止まり何れへも引去られざりき〇田龜が木片の如き狀態を爲し水中の杭木に靜止せしに偶一

匹の螇近きたり田鼈は急に鎌狀の前脚を揮ひ射るが如くに螇の腹部を貫き得々として貪ぼり食ひたり○稻田の傍に蜻蜓來たり卵子を產み置かん爲め頻りよ尾端を地上につきまはりたり時に人あり蜻蜓尻を以て土を喰らふと◎」

◎浮塵子驅除談報告

佐賀縣藤津郡北鹿島村　松　尾　鶴　治

左の一編は農商務大臣の命令に據り害蟲驅除監察の爲め本縣下巡回の農商務省農事試驗場九州支場長技師大塚由成氏の當郡役所に於て演說せられし要領の筆記なり時節柄農家に對して有益の者と信し貴誌に寄す掲載の榮を賜はらは幸甚

浮塵子の種類　浮塵子の種類は多々ありと雖も最も慘害を逞ふするものは褐色浮塵子にして此種は通常夏季よ於て大蕃殖をなすことなし秋季に至り陰晴序を失し乾濕常ならざる不順の氣候に遭遇するときは忽ちにして蕃殖蔓延し固有の慘害を逞ふす殊に秋季に於ては稻は既よ發育の極に達し其成長力微々たるを以て被害の傷痍は之を回復する事能はず且つ稻株は相密接し仮令田面に水を湛ふるも之を驅除することの困難にして落水後に至りては殆と完全なる驅除を行ふこと能はざるに依り被害をして一層悲慘ならしむるに至る本年發生の浮塵子は實に此浮塵子なり故に全力を注き驅除よ努むへし

注油、　浮塵子を驅除するに油類を用ゆる最も簡便にして最も有效なるは一般農家の知る所なりと

雖も實際其行ふ所は形式的に止まり極めて不完全なりとす抑も浮塵子は農家の熟知する如く自然に湧出するものに非ず其幾分は常に生存し發育に適當なる氣候（陰晴序を失し乾濕常ならさる時）に遇ふときは忽にして大に蕃殖するものなり故に其發生を認むれば速に一齊注油を行ひ完全なる驅除をなさば第一回の驅除にて容易に之を撲滅し得へし最も注意を要するは注油の分量之れなり其分量は一段步に付一舛五合乃至二舛を用ゆるを良とす各地に於て施用するは三四合より五六合に過ぎざるを以て幼蟲老蟲は驅除し得るも此蟲の生存するありて完全に驅除し能はず其生存したるものは第二回注油以前に於て產卵し仮令第二回の注油を行ふも其以後に於て卵子孵化し逐次蕃殖す幾度注油を行ふも撲滅の期なし農家此理を察せす幾度注油を行ふも勞して効なきものと云ふ誤認も亦た甚だし第一回注油後孵化するときは四五日を隔てゝ第二回の注油を行ひ尚ほ孵化するときは再び四五日の後第三回の注油を行ふべし

油の種類、驅除に用ゆへき油類は鯨油、除蟲油、種油其他種々ありと雖も其効用に至りては殆と同一なりとす然も是等は一局部に於ける發生に際し用ふべきのみ各府縣一時に發生したる場合には其需用も亦た非常に多量にして到底純粹なるものを以て其需用に應ずる事能はず爲めに仲買商人に於て不正のものを販賣するものあるは常に聞く所なり去る三十年浮塵子發生の時に當り北陸地方に於ける某縣の如きは不正油の爲め意外の損失を蒙りたるものあり故に浮塵子蔓延したる場合には石油を安全なりとす之れ石油は其供給無限にして購求容易なればなり

灌水の加減、浮塵子の發生を認めば夏季屢々用水を排出し田面を乾燥し稻莖をして强硬ならしむるを必要とす然るときは大に卵子の孵化力を減殺し且つ產卵する事あたはざらしむ田面を乾燥すれば

獨り卵子をして死滅せしむるのみならず稻の生育を助長せしむるの効益あり之に反し用水を停滯せしむるときは稻莖從て軟弱なるを以て浮塵子をして產卵し易からしむるの不利あり殊に最も注意を要するは秋季の落水なり落水後發生するときは注油驅除を行ふこと能はざるを以て之を驅除すること頗る困難なり本年の如き恐れある年柄にありては落水の際精細に發生の有無を点撿し若し少しにても發生の情あるを認めば落水を見合せ速に注油驅除を行ふを肝要なりとす

監督の必要、浮塵子の恐るべきは農家の既に知る所にして其發生に際しては勸誘を俟たず進で之れが驅除をなすと云ふあるも農家の知得したるものは只浮塵子を驅除するには油を用ふるの適法なるを知得したる迄にして其之を用ゆるの方法に至りては極めて不完全たるを免かれず且つ農家の自ら浮塵子の發生を知るは概ね蕃殖蔓延したる後にあり特に最も恐るへきは秋季に於て然りとす是れ最後の除草を終るや田圃を巡視すること稀なるを以て其發生を氣付かず被害の顯たるを認めて其發生を知るを普通とす故に秋季常に注意を怠らず若し其發生を認めば指揮監督し完全に且つ一齊に驅除せしむるを第一とす」

◎淡路に於ける三化螟蟲の發見

兵庫縣第一回全國害蟲驅除講習修業生　飯田儀太郎

一、三化螟蟲と淡島の地位　我淡島の位置たる西よは昨年大被害を蒙りたる德島縣と僅かに鳴門海峽を隔てゝ相隣し東には亦由良海峽を挾んで數年來蠶食しつゝある和歌山縣と鷄犬相聞く而して近來彼我の文通頻繁よして特に德島縣とは滊船の便ありて往來最も盛なり實に東西二面攻擊重圍中にある落日孤城とも云ふべきか嗚呼危ひかな

一、害蟲視察　兼て德島縣に於ける三化螟蟲の視察もかなと思ひし折柄神戸又新日報は英文欄に於て同縣富岡附近の村落に於て二百五十町步の害蟲被害地ありとの一報を載せたり余は直に郡役所吏

員に談じ匆々同地ょ向て出張しぬ

二、德島縣に於て被害地　九月二十一日同縣名東郡加茂名村なる四國支場に至り富岡附近の狀況を問ふ山中支場長の云はれたるやう「否余の視察によれば勝浦郡小松島村之內田野、芝生、日開野、附近最も多く昨年大被害を受けし那賀郡の立江羽之浦附近は大に少し猶海部實郡宍喰其他三好郡の某地にも蔓延せり只發生未だ多からざるを以て知らさる耳と」而して二化と三化との割合七三と三との如く小松島村附近の被害も約二割減位なりと語られたり

三、小松島村附近の實況(同窓生の奇遇)　余は此處に止り彼處に息ひ三化螟蟲を搜索しつゝ歩みしか道傍に枯穗の拔取せる者うつ高く堆積せるあり是れ幸ひと携へたるアルコール瓶取り出し仔蟲の採集をなせりしばらくにして十匹余の仔蟲を得たり、ふと後を見れは害蟲驅除豫防出張所の表札掛れり就て實況を問ふ所甚懇切にして遂に余は成蟲標本の保持者なきやを問ふ田野村にあり三木氏とて岐阜に參られ過日歸郷せられたりと余は欣喜雀躍ょ堪へず共生村の出張所を辭し去て田村に至る同しく出張所あり三木氏を問ふ折よし時機よし三木金作氏あり(第五回全國害蟲驅除講習會修業生)焉んぞ知らん猶野田英次郎氏(同三回修業生)あらんとは余の昆蟲世界雜誌を見るの粗なる両氏と此の地ょ會見する眞個に偶然とや云ふべきか

両氏の言によれば同地方は元來二化螟蟲の發生甚しく之か驅除として枯穗拔取法を奬勵しつゝ來りしがふと二化螟蟲の仔蟲に異なる者あるを發見し終ょ立江村に至り之れが調査をなし始めて三化螟蟲なることを知り爾來枯穗拔取法を嚴重に奬勵し今日に至るまで既に五六回の採集を終り漸く昨今安堵するを得たり村民一同實に全力を盡して驅除に盡力し田野村一大字に數万〆(數を忘る)の枯穗を燒却し了れりと其他發生の步合被害の程度等四國支場長の言の如し

四、宛然阿淡昆蟲會　両氏は余を小亭の樓上に導けり余は近宿して是非共一夜両氏の高談を拜聽せんことを求めしなり忽ち出る昆蟲談さては研究所講習中の珍談異聞善惡批評阿淡両國の農況等縷々快談實に舊知の如し両氏は採集の標本を持參され余は一々不明の名稱を聞くを得て稗益甚し茲に謹んて両氏に謝す

五、淡島の三化螟蟲　余は德島縣に於る三化螟蟲の實況を見て必す同縣に近接せる淡路三原郡福良町附近に該蟲の傳播せるを信したりき果して然り九月二十三日福良町東端稻田ょ於て發見せり是れ

實ニ我兵庫縣に於て三化螟蟲發生の發端とも見るべきか「否播州地方山陽線の通過する沿道亦既ニ到着せるならん
幸ひに福良町の被害地は極僅少にして中山なる一小峠を以て三原の平野と分界するを以て驅除宜しきを得は決して蔓延せざるべし否蔓延させざるならん
六、如何して便乘せる　福良町と相對向せる撫養町より德島市に至るの間未た三化螟蟲の發生を聞かさるなり然らは日々數回同地と往來する滊船和船ありと雖三化螟蟲の便乘者なかりしか然らは德島市以南勝浦那賀両郡の海岸を經て德島市より福良港に往來せる船ニて便乘せるや必せり然り諏訪丸なる一小滊船は那賀郡の椿泊より小松島を經て德島より福良町間を往來せることあり嗚呼好しからさる御客を便乘せしめたるは此の諏訪丸か將又和船か過去はとかめす今後はキット船燈の代りに誘蛾燈を用ゐんよ
七、二化生と三化生之區別　一見して區別し得べし何となれば二化生は群居の性あるを以て一莖中に數匹の仔蟲浸入蠶食せるを以て被害稻は枯色を呈し一莖を喰ひ盡せは他莖に移轉するを以て一ヶ所に少きも數本多きは數十本の被害莖を存せり之れに反して三化生は一莖中に一匹宛浸入（稀には二匹の者あり）し最初に上部穗軸の第一節を蠶食し次第に稻株に向て下向する者の如し而して三化生の浸入せる者は只穗の白色せる耳にて全莖葉異狀なし是れ一莖一匹なるを以て螟蟲は只隨の中心を食害して外皮に及さゞるの故か
以上は唯九月二十一日より二十三日に至る三日間德島縣勝浦郡小松島村附近及ひ兵庫縣三原郡福良町に於て視察せし一般なり茲に再ひ誌上を借りて三木野田両氏の厚意を謝す　九月二十四日
追記　本日福良町の東南阿萬村海岸を調査せしに同しく三化螟蟲を發見せり推察するニ淡島に到着せるは三四年前のことならん　九月二十六日

◎昆蟲に關する葉書通信　（七）

（三十八）浮塵子發生報告、山口縣小田勢助、縣下一般大に發生し八月廿一日より三日間畦畔雜草を刈り取り驅除を命令せり第二回は九月六日より三日間驅除を命令せり種類はツマグロヨコバイ、ダンゴヨコバイ等多數を占むるが如し明治三十年はトビイロヨコバイなりしが本年は各種發生し從而

被害は多きも官民共非常の盡力にて今日ょては大害を見ず

(三十九)モヽスゞメの產卵時間、靜岡縣神村直三郎、予は卅一、三十二兩年烏蠋類を捕へ來りて之を飼育したり然るに桐の烏蠋も、胡麻の烏蠋も、桃のも、くちなしのも、皆一本に一頭或は二頭づヽにして同所に數頭居りしを見ることなし況んや數十頭をやこれ烏蠋類は貪食ょして一頭ょく一枝を食盡して尙足らざるの勇あるを以て親蟲の注意周到なるよりかくは少數を產附するなるべしとの想像を懷き居たり卅三年六月廿三日薄暮適園中を散步す桃樹の下に至る頃恰も雀か燕かの翅をバラ〳〵と鳴して時にても尋ぬる如き音あるを聞く四顧するに隻影なし只桃實の累々たる傍二三の葉の風なきに動くなるのみ眼をとめてこれを見れば一頭のモヽスズメ今將に止らんとして止らず去らんとして去らず忽ち去て又他の枝に止り斯くの如くして或は高く或は低く櫻に行き桃に歸り數分時にして去る翌日薄暮來ること昨夕の如く擧動亦昨夕に異ならず即ち知るこれモモスゞメの產卵法にして又其時期は黃昏數分時の間なることを」

(四十)コスカシバの擬態、同上、六月廿六日採集を林中に試む二三の櫧の木あり蠹蟲之を蝕し樹皮爲めに剝落す只見る長八分斗りの蜂色褐色にして黃條あり角を動かして將に戰を挑まんとす予知らず〳〵一步を退く蜂亦起つ即ち其止まる處を追跡して之を捕へ毒瓶に投入して見れば豈圖らんやコスカシバの一種ならんとは擬態も亦妙ならずや

(四十一)蜻蛉保護法、京都府野間貞三郎、蚊は惡疫を傳播するの害あり現に先頃も黑死病毒の蔓延に對し其筋にて之れが驅除を謀りたる次第なるが米國にては篤くより此害蟲を驅除するに苦心する所あり蜻蛉は無言にして最も嗜んで蚊を食すれば此蟲を利用して蚊を驅除する事然るべけんとて曾而二疋の蜻蛉を捕へ之を籠に投し試驗したるょ六時四十分間にして能く八百疋の蚊を食ひ盡したりと云ふ此蟲は翅甚だ強くして且つ食慾甚だ大なれば此蟲に保護を加へ成べく其繁殖を助くるに於ては蚊を驅除するの効を收むる事殆疑あるべからず今は米國其保護法に就き專ら調查中なり我國にても小兒が蜻蛉を苦しむるなどは大に之を制する事肝要なるべしと右は京都日出新聞に揭載あるものを拔萃せり

◎蝶と蛾との區別に就き質問

六脚不知生

蝶と蛾の外形上異なる箇所（最も見易き所）御敎示を乞ふ

答

名和昆蟲研究所助手 名和梅吉

外形上蝶と蛾との區別を知るには種々なる点あり例へば翅の廣狹或は厚薄或は翅の外縁の形狀其他躰の廣狹及び躰毛の多少等仔細に觀察するときは千差萬別なりと雖も先づ大躰に就ては普通敎科書等にもある如く捿止の狀及び觸角の形狀との二点が重なる相違の点とす即ち前者にありては蝶ならば多く翅を背上に合せて直立せしむるを普通とすれども蛾にありては大低背上に屋背狀に納むるなり（尺蛾、小蛾の內には然らざるもの多し）而して觸角にありては蝶は大低棍棒狀をなせども蛾は全く然らずして絲狀、羽狀、等なるを常とす

◎桑虱の件に付質問

山形縣 東巖生

本縣にては害蟲驅除豫防法施行細則を改正せられ介殼蟲外二種を加へられ郡衙よりは介殼蟲方言桑虱云々取調方命令相成候處松村學士著日本昆蟲學には介殼蟲と桑虱は全く別物の如く記載せられあり又大日本蠶絲會報（第九十八號）桑樹の害蟲に關する問答に據れは桑樹の綿蟲と有之其名稱も判然

不致に付之れが名稱及習性經過等詳細御敎示被下度候也

答　　　　　　　　　　蟲廼家山人

余は未た改正されたる害蟲驅除豫防法施行細則なるものを見ざれども介殼蟲方言桑虱とあるを以て見れば全く介殼蟲を指したるものにて此處にては桑虱なるものは貴縣にて介殼蟲の事を方言として桑虱と稱するより斯く記載されたるものならん然ながら介殼蟲と桑虱なるものとは別物にて大ひに其性質を異にし居れば方言となければ該種に付き詳細答ふれども斯くあるを以て間違の生ずるを恐れ其細則を見た上確答することゝなしぬされば東巖生に其細則を送附あれ

雜報

◎諸氏の來所　九月九日高等師範學校生徒飯島正氏、十三日愛知縣海西郡八輪村横井時彌、同佐藤宗尾、同縣海東郡津島町山内つね子、同縣海西郡早尾村伊藤晴弘、名古屋土木監督署詰樋口正夫同婦人むら子の六氏、十五日岐阜縣警部保安課長上田環太郎、岐阜縣警部森野石之助の兩氏、二十二日主獵官子爵伊集院兼知、同藪篤麿の兩氏、廿三日愛知縣葉栗郡葉栗高等小學校野垣鶴三郎、岐阜中學校助敎諭立家正發の兩氏、廿六日愛知縣海東郡敎員一部組佐藤孫信、同森壯次郎の二氏廿七日香川縣仲多度郡農事試驗塲住田史郎氏、廿八日三河國加茂郡生駒尋常高等小學校長岩野鯛藏、同郡小度尋常小學校長田中豐治、同郡榊野尋常高等小學校訓導清水初次郎の三氏、十月三日香川縣綾歌郡農事試驗塲長樽木龜次郎、岐阜縣土岐郡書記山内惴爾加茂郡麻生尋常高等小學校長安田久之助の三氏、四日加茂郡佐見高等小學校訓導河合廣同郡上佐見尋常小學校訓導熊崎信太郎大坂新農報社員石井重任の三氏五日揖斐郡池田村農會員川村志津平外九氏及山梨縣中巨广郡三生村塚原直次郎

氏、六日富山縣氷見郡藪田尋常高等小學校長松波賢二氏、七日香川縣仲多度郡琴平高等小學校長道久研三愛知縣名古屋市本重町小坂井仙之助同住田幸四郎滋賀縣甲賀郡油日村高根研農社員荒川萬次郎の四氏、八日富山縣上新川郡書記渡野安太郎金澤市佐々木直同吉田爲次郎岐阜縣揖斐郡農事巡回敎師長瀬菊太郎高知縣香美郡視學垣内繁直同縣吾川郡視學中山正巳同縣幡多郡視學桑原茂治同縣安藝郡視學船木楠吉岐阜縣稻葉郡視學岡田茂實群馬縣農會技手久保貞次郎宮城縣栗原郡大岡村岩淵寅之助同縣同郡金成町川股松太郎陸前國登米郡石越村小野寺延平の十三氏其他縣下の有志者各學校生徒諸氏等百數十名來所の上何れも昆蟲標本を縱覽し又は數日滯在の上研究を遂げられた

◎マンレー氏の來所　在横濱のE. H. R. Manley氏は十數年以來本邦にありて職務の傍ら專ら蝶。蛾類を蒐集され目下非常に多數の種類を所藏し居らるゝ由なるが本月五日米國桑港のG. T. Marsh氏と共に來所して當所所藏の蝶、蛾の標本を親しく縱覽せられたり

◎第廿二回岐阜昆蟲學會　同會第廿二回月並會は例に依り本月六日(第一土曜日)午后一時より名和昆蟲研究所内に於て開會せられたり此日朝來降雨止まず爲めに道路泥濘にして通行甚だ困難なるにもかゝはらず熱心なる會員諸氏は西より東より續々として參會せられ開會の際には既に七十余名に及びたり一同着席するや名和靖氏は徐に起つて開會の挨拶を爲し次に岐阜縣第一回害蟲驅除修業生室幾太郎氏は落雷と浮塵子に就て談して曰く先年浮塵子の發生せる苗代田近傍へ落雷ありしが三日后に至り該苗代田を調査せしに一頭の浮塵子をも見當らざりしは或は電氣に觸れて悉く斃死せしにはあらずや若し果して然りとせば后來害蟲驅除に電氣を應用するを得るに至らん云々と述べ次に大垣興文高等小學校長近藤乙吉氏は小學生徒と害蟲驅除と題し小學生徒には其土地の狀况に從ひ土地相應の實業敎育を課するの必要を論し本縣の如き農を主とする處に於ては農業に關する敎育を施すと共に農家の利害に直接の關係を有する害蟲及益蟲の習性經過をも知得せしむるを要す而して之れを知らしむる一便法として圖畫科に於て昆蟲を寫生せしむるは尤も興味ある事にして且尤も有益なり何となれば生徒は美麗なる蝶蛾を畫かんとして精密に實物を調査するを以て知らず識らずの間に觀察力を養成し亦自然に其蟲の經過をも知得するに至るとて自校生徒が寫生せし昆蟲の繪畫數葉を示して談話せらる次に岐阜中學校敎諭長野菊次郎氏は前回の續き昆蟲と植物との關係に就

蟲て媒植物の花辨の色、昆蟲の眼等に就き尤も面白く説明し猶參考として天南星科植物を蠅の媒助せしむる方法等を精密なる着色圖を示して講演せらる次に安八郡昆蟲學講習生野村竹五郎氏は今回の講習會に於て名和氏の講話を聞き大に感ずる處ありしを以て爾后害蟲驅除豫防法を熱心ぇ普及すべしと説く富山縣氷見郡藪田高等小學校長松波賢二氏は富山縣民が博物思想に乏しきを嘆し且つ自分は海岸ぇ住するを以て海產動物の標本を得るの便を有す願くは廣く標本の交換を望むと述べらる最後に名和靖氏は本會第二十三回月並會は來月三日にして恰も天長の佳節に相當するを以て聊か祝意を表する爲め昆蟲に關する幾多の圖畫及標本美術品等を陳列して廣く有志の縱覽に供せんと約し爰に於て閉會を告ぐ時に午后五時なりき

◎各地ょ於ける昆蟲講習會景況

長野縣北安曇郡に於ては九月十四日より五日間當所長名和靖氏を招聘して講師となし昆蟲學講習會を催會せしが講習生總員は實に三百六十二名の多きに達し內他府縣人卅余名を除き他は悉く同郡內の人々にて小學校敎員百三十名他の百六十名は實業家及篤志者等ょして同地未曾有の盛況を極めたりと云ふ、又山口縣玖珂郡にても當所長名和氏を講師に聘し九月廿六日より五日間害蟲驅除講習會を開會せしが講習生には同郡內の各町村長農會技手勸業主任及篤志者等九十名にて是又非常の盛況を呈したり、次に岐阜縣安八郡敎育會及郡農會主催となり當所長名和靖氏を聘し本月四日より五日間同郡役所內に於て昆蟲學講習會を開かれたるが講習生は郡內各小學校敎員及篤志者等六十四名ょして內に女子も一名加はりたりと、因に當所長が講師として是迄講習を爲せし數は既に三十餘回に及びたるが女子にして講習を受けしは實に今回を以て嚆失と爲す編者は今後續々婦人の講習を受けられん事を切望して已まざるなり

◎水曜會の昆蟲談話

名和昆蟲研究所ょ於ては斯學研究上の資ょ供せんとて曩に水曜會なるものを組織し每週水曜日每に所員一堂に會し學術上の談話を爲す旨前號の紙上ょ記載し置きたるが其後同會は每會一人の缺席も無く最も熱心に研究談を爲さるゝ由なるが今同會第二回(九月十二日)より第五回(十月三日)迄に於ける摸樣の一端を記さんに名和梅吉氏は昆蟲の眼に就て單眼複眼所在の位地着色形狀効用及其數等を詳細に説明し猶其他昆蟲の仕事、蠅に就て昆蟲の觸角等に就て福井克雄氏は豫て研究中なる蚊に就て數回に涉り詳説し名和正也氏は昆蟲採集と衛生との關係ょ就ての

談話等あり其他所員皆夫々實驗上の談話ありたるも一々之を擧示せば頗る冗長に涉るを以て悉く之を省略する事となしぬ

◎「シンムシ」驅除の調査　桑樹の害蟲「シンムシ」は縣下武儀、郡上の二郡の一部を中心とし年々發生し漸次其附近に蕃殖瀰蔓して桑樹の新芽を蝕害し甚しきは春蠶の飼育を中止せしむるに至り其被害頗る劇甚なるを以て本縣に於ては夙に之が驅除豫防に努むる所あり昨年の如き既に大々的共同驅除を實行し頗る其結果を收めたるが本年も亦た引續き之が驅除を爲し頃日調査の完結を告けたり今其調査表を得たれば左に抄記すへし

心蟲驅除調査表

郡	町村名	發生月日	終熄月日	桑園総反別	被害見積反別	驅除せし桑葉量	同上生葉見積量	驅除人夫數	驅除監督の方法
武儀郡	金山	五月二日	六月五日	三〇、〇〇〇〇	三〇、〇〇〇〇	四〇〇、〇〇〇	四〇〇〇、〇〇〇	九〇〇	驅除委員十四名を撰み受持を定め巡回せり
	菅田	五月二日	六月四日	六〇、〇〇〇〇	三、〇〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇	一八〇〇〇	町内を十區に分ち各區長をして區内を監督し役場吏員各區を巡回す
	神淵	五月二日	六月十日	五〇、〇〇〇〇	五〇、〇〇〇〇	四〇〇、〇〇〇	一五〇〇、〇〇〇	七六〇	人夫十八人を一組とし十一組に分ち區長を世話掛とし別に監督者一人を置けり
	坂ノ東	五月一日	五月十五日	二二、〇〇〇〇	二二、〇〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	二、二〇〇〇、〇〇〇	二〇〇〇	桑園の作人をし驅除せしめ役場吏員之を監督す
	上麻生	五月廿五日	六月六日	一〇、一〇〇〇	一〇、〇〇〇〇	六三一、〇〇〇	六三一二、五〇〇	九〇五	個人共同驅除をなし組長並に區長之を監督す
	富之保	五月十五日	六月四日	五〇、五〇〇〇	一四、〇〇〇〇	六三〇、〇〇〇	二一〇〇、〇〇〇	三一〇	各區長をして其區内を監督し役場吏員時々巡回監督す
	上之保	五月一日	五月廿八日	一三、〇〇〇〇	一〇、〇〇〇〇	三〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	一五〇	村内を十二區に分畫して一區に一名宛の監督委員を置けり
	中之保	五月二日	五月二十日	六、〇〇〇〇	六、〇〇〇〇	九〇、〇〇〇	四五〇、〇〇〇	四五〇	村内を十一區に分ち各區長之を監督す
	計			三四八、六〇〇〇	一七二、一〇〇〇	二八八一、〇〇〇	三、七五六二、五〇〇	七二七五	
郡	和良	五月十一日	五月廿五日	九〇、二〇〇〇	三三、〇〇〇〇	三一〇、〇〇〇	九八五〇、〇〇〇	一七〇〇	個人驅除を勵行し日々三名の委員をして巡視せしむ
	東	四月二十日	六月二十日	二五〇、〇〇〇〇	二〇〇、〇〇〇〇	一五〇、〇〇〇	四五〇〇、〇〇〇	五八六〇	共同驅除を爲し區毎に區長一名委員四名をして監督す

郡	町村								
上郡	西和良	五月上旬	六月上旬	三、〇〇〇〇	三、〇〇〇	一八五、〇〇〇	二二二、〇〇〇	九〇〇	個人驅除を勵行し區長委員之を監督す
	八幡	四月七、八日	六月五日	六、六〇〇〇	六、三〇〇〇	一〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	二五	個人驅除を勵行し町役場吏員之を監督す
	川合	五月十一日	六月十日	一三、五〇〇〇	一三、五〇〇〇	五〇、〇〇〇	六六〇、〇〇〇	四三〇	個人驅除を勵行し區長委員之を監督す
	計			四八三、三〇〇〇	三七五、八〇〇〇	七〇五、〇〇〇	一七四三、〇〇〇	八九一五	
加茂郡	西白川	五月十六日	六月十日	七〇、三〇〇〇	七〇、三〇〇〇	四、七五〇	三二、八〇〇	一九四六	共同驅除を勵行し委員之を監督す
	東白川	五月十七日	五月三十日	二六、〇三一五	一六、〇三一五	三八、〇〇〇	二五〇〇、〇〇〇	八九五	各作人をして驅除せしめ委員を置き之を監督す
	佐見	五月六日	六月十三日	四五、一六二二	四三、一六二二	二九五、四〇〇	一四七七〇、〇〇〇	一七八九	十戸を一組とし驅除委員長一名を置き指揮し村農會役員監督す
	黒川	五月二十日	六月三日	三五、二〇〇〇	三五、二〇〇〇	二五、〇〇〇	三五、〇〇〇	七五〇	村吏員一同被害地に出張し指揮をなし驅除を勵行監督せり
	蘇原	五月二日	六月十九日	四四、〇〇〇〇	一四、六〇〇〇	三五、四〇〇	三一八、六〇〇	九一五	驅除人夫十人に付一人の監督者を置き一組に檢査委員一名を置き之と監督す
	久田見	四月廿五日	六月十日	三九、〇四〇〇	一一、七三一九	一六九、七四〇	二〇〇〇、〇〇〇	一〇〇三	驅除の際役場吏員被害地に出張し指揮監督せり
	下麻生	五月十日	五月廿五日	九、八〇〇〇	三〇〇〇	一〇、三〇〇	一〇〇、〇〇〇	一三〇	役場吏員部署を定め被害地に出張し監督す
	八百津	四月廿八日	五月十日	一三、〇〇〇〇	一一、五〇〇〇	四、五〇〇	一二五、〇〇〇	五八	部內を廿五組に別ち組長を置き各自に驅除せしめ組長之を監督す
	潮南	五月十日	五月廿二日	一七、五〇〇〇	〇六二〇	一五、六〇〇	三九、〇〇〇	二五	小字一組を一區域となし一區共同驅除をなし其組長之を監督す
	飯地			五六、一〇〇〇	一六、八三〇〇	一七、〇〇〇	五四、六〇〇	一六八	村農會の役員を以て各地へ出張指揮し役場之を監督す
	計			四八四、一四〇七	二九、七三一六	六一五、六九〇	二〇二七五、〇〇〇	七六六九	
惠那郡	加子母	五月十五日	六月十三日	七五、〇〇〇〇	五五、〇〇〇〇	一三二、〇〇〇	六六〇〇、〇〇〇	三五〇〇	共同驅除を爲し村內を十區に分ち區每に委員二名を置き區長と共に監督す
	付知	五月十日	六月十一日	五〇、〇〇〇〇	二五、〇〇〇〇	三五、〇〇〇	一七五〇、〇〇〇	二五〇	町內を十一區に分ち各一名の豫防委員を選定し桑園主を監督す
	福岡	五月十一日	六月十一日	二二、二〇〇〇	五、四五〇〇	四〇一、一二〇	四六〇〇、〇〇〇	二一八	村內を各四區に分ち委員を設け日々巡視し各區長之を監督す
	笠置	四月廿九日	六月十日	二九、三六〇〇	一四、六八〇〇	一二、五〇〇	一一五〇、〇〇〇	二九四	個人驅除を勵行し各大字三名宛の監督委員を置き指揮す
	仲野方	五月十五日	六月十日	一三、五〇〇〇	五、〇〇〇〇	一二〇〇、〇〇〇	一二〇〇、〇〇〇	二五〇	惠那郡農事巡回教師及び役場吏員出張指揮せり
	計			一九〇、〇六〇〇	一〇六、一三〇〇	一七八〇、六二〇	一三四八五、〇〇〇	四五一二	

益田郡

村名	期間						驅除方法
下原	五月四日 五月卅一日	四五、〇〇〇〇	一八、〇〇〇〇	一八〇〇、〇〇〇	一四四〇〇、〇〇〇〇	二〇〇〇	驅除委員長一名委員六名を置き日々桑園を巡視監督す
中原	五月一日 六月四日	五〇、〇〇〇〇	三五、〇〇〇〇	一五〇、〇〇〇	一五六、〇〇〇〇	四〇〇	園主各自驅除を爲し役場吏員及び郡吏員出張監督す
上原	五月十七日 六月十日	六〇、六九〇〇	二〇、〇〇〇〇	一〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇〇	六五〇	各大字三名宛の驅除委員を設け隔日巡視監督せしむ
竹原	五月十日 六月十日	一二三、七三一八	一二三、七三一八	三三五、四〇〇	六七〇〇、〇〇〇〇	一六七五	村内に十六名の監督者を置き巡回驅除を勵行せり
下呂	五月四日 六月十日	一二九、五六〇〇	一二九、五六〇〇	三五七、〇〇〇	一七八五、〇〇〇〇	八三五	一戸一名の人夫を出し各大字にて區長及委員之を監督す
計		三八八、九八一八	三六〇、二九一八	二六五二、四〇〇	二三三三五、〇〇〇〇	五五六〇	
通計		一八九五、〇八[illegible]	一一七九、〇六〇四	八六三四、七一〇三	一〇八、六〇五、五〇〇	三三、九三一	

◎名和所長の成佛如何　明治卅三年七月一日發行の新佛敎第壹號斬虹斷霓欄に左の一項あり

或る人問うて曰く、今の世に死んだら佛になりさうな人ありや。吾答て曰く、三人あり又問うて曰く、其人誰。答へて曰く、一には『日本』の俳人正岡子規氏、二には富士觀象會の發企者野中至氏、三には岐阜の昆蟲學者名和靖氏。其の人聞いて呆れて去る。

本年八月四日の岐阜日日新聞端書集に左の一項あり

頃日閑に乘じて雜書を抽讀す或る雜誌の中に「今の世に死んだら佛になりそうな人ありや……曰く三人あり(三氏の姓名は前文と同じければ畧す)とあり僕未だ正岡野中の二氏を知らずと雖も其名和氏に至ては成程未來は屹度佛に成りそうな人だよ(呆然子)

然るに八月十一日の同新聞端書集に左の一項を載す

昆蟲學者の名和氏が死んで佛に成ると云つて投書した人があつたが一体何うい ふ次第であるか悉しく話して呉りやれ(戀如)

尙八月十七日の同新聞端書集に左の一項を載す

名和昆蟲學者は成佛すべし國家と社會に偉大の利益を與ふるが故に之れ猶は菩薩の利他行の如く因明論により成佛得道は疑ひなし(成佛道人)

右の記事に依れば慥に成佛の出來得る樣なれども餘り澤山の昆蟲を殺さるゝを以て名和所長には恐

く成佛覺束なければせめて罪はろぼしに國家を利せんと晝夜寢食を忘れて盡力され居るも未だ萬分一の望みをも達せずと所長は苦心し居れりと呵々

◎新案の莖切鎌

丸山方作氏發明の鎌

櫟田藤助氏發明の鎌　金の部四寸　柄の部七寸

螟蟲被害稻切出し鎌は曩に愛知縣南設樂郡新城町丸山方作氏が發明せられたるものにして該器に就ては昆蟲世界第二十二號に圖入にて詳記し置きたるが茲に又愛知縣寶飯郡本茂町櫂田藤助氏が三河國東三聯合物產共進會へ出品せられし切出し鎌は該器に一層の改良を加へたるものにして前者に比し稍便利なるものゝ如し今茲に兩器の圖を掲げて讀者の參考に供す

◎新刊雜誌の昆蟲記事

新刊雜誌中に掲載せられたる昆蟲に關する重なる記事は左の如し

(一)動物學雜誌(第百四十三號)宮嶋幹之助氏の日本產蝶類圖說は蛺蝶科の蝶類二十四種に就き其屬形態及び產地等を講記せらる岩川友太郞氏の日本產天牛科は前號に續き美麗なる着色石版圖を挿入し九種の天牛に就て記載せらる又本號雜報欄には從來北海道及東北地方に限り棲息すると稱せらるゝエゾセミが九州地方よりも產ずる事猶他に同地蟬の一新種ある事及びジャコウアゲハの幼蟲が肉食することの奇說等を記せり

(二)大日本農會報(第二百廿八號)滋賀縣農事試驗塲の試驗に係る褄黑橫這外七種の年中經過及經過試驗未濟の浮塵子六種に就き詳細に記載し、又浮塵子驅除法簡要と題し注油驅除法石油乳劑の灌注捕蟲器捕獲法等を掲げ其他該蟲と氣候との關係該蟲共同驅除等の記事數件あり

(三)美德(第五十四號)佐々木博士の蠶蛆豫防法新案と題し蛆蠅は比較的立木に多く產卵するを以て根刈中刈等の桑畑には處々より立木を仕立て蛆蠅を誘ひ產卵せしむべしと記載せらる

(四)帝國農事報(四十一號)湯野川忠世氏は螟蟲全滅法と題し點火誘殺、苗代田採卵、枯穗拔取等の數法を述べて、西岡直三郞氏の害蟲講義には二化性及三化性螟蟲の經過驅除法を畧記す又本誌(第四十二號)には害蟲講義前號の續きよりハムクリムシの形態及寄生蜂・蠅等が寄生の法方驅除法等を概說せらる尙安達害仙氏は簡便なる浮塵子驅除法と題し前項の記載の大日本農會報所載の浮塵子

驅除法簡要と殆と同一の記事を載す
(五)岡山縣農會報(第十五號)堀正太郎氏の作物病蟲害豫防に關する講話には吾人の衛生に注意するが如く作物衛生にも注意するの必要より害蟲の年に依りて盛衰あるは氣候の關係及敵蟲黴菌の多少に依る旨を細說せらる又上道郡昆蟲講習會規定同會の景況等を揭ぐ
(六)山形縣農會報(第卅五號)同縣東田川郡螟蟲驅除豫防の景況及び改正害蟲驅除豫防法施行規則等を載す
(七)宮崎縣農會報(第四號)には螟蟲及浮塵子の發生歷史及現況被害の反別驅除豫防の景況等數項を揭ぐ
(八)山梨縣農會報(第十三號)害蟲驅除豫防の一般と題し貴農生は本邦の地勢上昆蟲の種類多き所以より人文の進步と共に拓植の事業益開發し隨て害蟲の增殖日を逐ふて甚だし害蟲の驅除決して忽せにすべからず是より進んで之れが驅除豫防法を述べんと其緖論を揭げらる
(九)愛媛縣農會報(第十七號)同縣農會長の害蟲驅除豫防に關する警告書及各郡農會よりの害蟲發生の報告等數件を載す
(十)青年農會報(第四十三號)昆蟲雜記と題し名和梅吉氏は蚊は傳染病の媒介者として非常に恐るべきのみならず且つ尤も普通のものなれば廣く之れが研究を望む事及び世人の迷信多きを慨し觀察力を密にすべしと說く猶クハケムシの發生大きを認むるを以て幼蟲の未だ四方に散亂せざる際に驅除するを要すと述べらる

◎第廿三回岐阜昆蟲學會豫告　同會第廿三回月並會は來月三日にして恰も當日は天長節の佳晨に相當するを以て聊か祝意を表せんため名和昆蟲研究所秘藏の特別昆蟲標本、昆蟲の模樣入美術工藝品及び這般新來の濠州產蝶蛾類其他昆蟲の寫生圖等數百品を陳列して午前中より特に一般有志者の縱覽に供する筈なりと

◎長野縣小縣郡昆蟲研究會秋期總會　同會は九月九日長野市に於て開會せしが恰も好し名和昆蟲研究所長名和靖氏は同縣北安曇郡昆蟲講習會講師として出張の途次なりしかば同會の請に依りて臨席せられたる由なるが熱心家の集りにて非常の盛會なりし由

○害蟲圖解出版廣告

●第一桑樹害蟲エダシヤクトリ(枝尺蠖)(再版)
●第二桑樹害蟲トゲシヤクトリ(刺尺蠖)(再版)
●第三稻の害蟲イ子ノズイムシ(二化生螟蟲)
●第四煙草害蟲タバコノアチムシ(煙草螟蛉)
●第五稻の害蟲イチモジセヽリ(苞蟲)
●第六桑樹害蟲ヒメゾウムシ(姫象鼻蟲)(新版)
●第七桑樹害蟲シンムシ(心蟲)(新版)
●第八稻の害蟲イ子ノアチムシ(螟蛉)(新版)
●第九茶の害蟲ミノムシ(避債蟲)
●第十䠀豆害蟲エンドノキリムシ(夜盜蟲)
●第十一桑樹害蟲イソカミキリ(天牛)
●印は既版の分

○稻の害蟲ツマグロヨコバイ(浮塵子)
○桑樹害蟲イトヒキハマキムシ
○茶の害蟲チヤケムシ(茶蛅蟖)
○桑樹害蟲キンケムシ(金蛅蟖)
○稻の害蟲イナゴ(蝗螽)
○稻の害蟲フタホシズイムシ(三化生螟蟲)
○桑樹害蟲アオハマキムシ(青葉卷蟲)
○桑樹害蟲クワハマキ(桑葉卷蟲)
○蔬菜害蟲モンシロテフ(菜の螟蛉)
○松樹害蟲マツケムシ(松蛅蟖)
○梅樹害蟲ウメケムシ(梅蛅蟖)
○梨の害蟲ナシゾウムシ(梨象鼻蟲)
○大豆害蟲ヒメコガ子(金龜子)
○印下は逐次出版の分

●豫約代價

●圖解の紙幅　縱一尺三寸橫九寸
●壹枚の代價　拾五錢郵稅貳錢
●百枚以上一纒代價　壹枚拾錢郵稅百枚に付き貳拾錢
　壹枚拾錢郵稅貳錢
圖解代金　凡て前金にあらざれば回送せず但郵劵代用一割增の事
　但申込の際前金添附の事

右害蟲圖解第一より第十迄は既に發行を成し江湖の高評を博したりと雖も未だ當業者全般に普及せざるの憾なしとせず抑本圖解は鮮明なる着色石版圖にして被害植物の實際より害蟲の性質經過等一目瞭然に描寫し加ふるに平易なる解說を附したるを以て普通農家に於ても尤も理解し易く尤も必需のものたり故を以て岐阜縣に於ては既に之れを採用し各町村農會及小學校は勿論村町役塲警察署等へも頒布せしに一般より害蟲の經過習性等を解得し害蟲驅除上著大の効を奏したりと云ふ依而當所は此際憤勵一番更に重要作物の重なる害蟲を撰擇し逐次出版せんとす而して該出版物に對しては特に豫約と爲し前掲の如く價を低減し大に當業者に普及し實用に適應せしめんとす豫約希望者は速に御申込みあれ又既に出版濟みの分は各町村役塲又は町村農會小學校其他の團体に於て御取纏め一手購求せらるゝ時は大に便利なり乞ふ幸に愛顧を垂れ陸續御注文あらん事を

岐阜縣岐阜市京町

發行所　名和昆蟲研究所

貴縣下へ客遊中は種々御欵待を蒙り萬謝の外無之一々御挨拶可申上筈の處皈縣後極めて多忙よ御座候間乍略儀以誌上御禮申上候

明治三十三年十月　名和靖

長野縣北安曇郡辱交諸君
山口縣玖珂郡辱交諸君

札幌農學校學藝會藏版農書既刊廣告

農學博士新渡戸稲造先生著
訂正再版 農業本論
洋裝全一冊 正價壹圓廿錢 郵稅金拾貳錢

農學士 松村松年先生著
増訂三版 日本昆蟲學
洋裝全一冊 正價壹圓五十錢 郵稅金拾貳錢

獨逸留學松村松年先生著
訂正再版 日本害蟲篇
洋裝全二冊 正價金參圓也 郵稅金貳拾錢

農學士理學士堀正太郎先生著
訂正再版 作物生理學
洋裝全一冊 正價金七拾錢 郵稅金八錢

中央氣象臺中川源三郎先生著
農業氣象學
洋裝全一冊 正價金九拾錢 郵稅金拾錢

農學士 大脇正諄先生著
最近米穀論
洋裝全一冊 正價壹圓廿錢 郵稅金拾貳錢

農學士 角田啓司先生著
日本土地經濟論
洋裝全一冊 正價金參拾錢 郵稅金四錢

中央氣象臺中川源三郎先生著
天氣豫報論
洋裝全一冊 正價壹圓五十錢 郵稅金拾貳錢

農學士 高岡熊雄先生著
北海道農論
洋裝全一冊 正價金參拾錢 郵稅金四錢

札幌農學校學藝會編纂
札幌農學校
洋裝全一冊 正價金參拾錢 郵稅金四錢

●發行元 東京日本橋區本石町三丁目 書肆 裳華房

●賣捌所 岐阜縣岐阜市京町 名和昆蟲研究所

昆蟲世界（明治三十三年十月十五日發行）（毎月一回十五日發行）

第四卷第參拾八號

昆蟲世界第三十七號目次

●岐阜昆蟲學會月次會廣告

岐阜昆蟲學會月次會は毎月第一土曜日午後一時より岐阜市京町岐阜縣農會樓上に於て開會そる筈なれば萬障御繰合の上毎回御出席御演說に預り度候尤も第一土曜日は名和昆蟲研究所員一同午前より研究を中止し居れば精々早く御出席に相成候得ば斯學研究上出來得る限り御便利御與可申上候以上

但し該會へは縣の內外を問はず有志者諸君は廣く御出席を請ふ

名和昆蟲研究所內

岐阜昆蟲學會

明治三十三年一月

岐阜昆蟲學會月次會本年中の日並は左の如し

第廿三回月次會（十一月三日）　第廿四回月次會（十二月一日）

一金壹圓也　岐阜中學校敎諭　長野菊次郡君

右本會へ寄附相成候に付芳名を掲げ其厚意を謝す

明治卅三年十月

岐阜昆蟲學會

●名和昆蟲研究所案內

市街界　イ　監獄
町案內道　ロ　郵便局
研究所　ハ　西別院
縣廳　ニ　公園
病院　ホ　長良川
中學校　ヘ　金華山
ト　停車場
チ
リ
ヌ
ル

當研究所の位置は上圖の如くにして停車場よりは僅十餘町なり當所には常設の昆蟲標本陳列室あり新設の養蟲室もあれば有志の諸君續々來訪あれ

岐阜縣岐阜市京町

名和昆蟲研究所

●本誌定價並廣告料

壹部郵稅共金拾錢
十部郵稅共金九拾錢（見本は五厘郵券貳拾枚にて呈す）

（注意）本誌は總て前金に非れば發送せず
●爲替拂渡局は岐阜郵便電信局●郵券代用は五厘切手にて壹割增とす

廣告料五號活字廿一字詰一行に付き金十錢三十一行以上一行に付き金八錢とす

明治三十三年十月十五日印刷並發行

岐阜縣岐阜市今泉九百三番戶ノ二（岐阜縣岐阜市京町）

發行所　名和昆蟲研究所

岐阜縣岐阜市今泉九百三番戶ノ二
發行者　名和靖

同縣山縣郡岩野田村大字粟野百廿三番戶
編輯者　桑原貫之助

岐阜市笹土居町四十四番戶
印刷者　安田豊八

（明治三十年九月十日內務省許可）
[illegible]

（岐阜市安田印刷工場印刷）

PRINTED BY YASUDA TYPE PRINTING WORKSHOP, 19, Higashi-tsukasa-machi, Gifu, Japan.

（明治三十三年十一月十五日發行）（毎月一回十五日發行）（明治三十年九月十四日第三種郵便物認可）

Vol. IV. NOVEMBER 15TH, 1900. No. 11.

（十一月十五日發行）（毎月一回定時刊行）

THE INSECT WORLD:

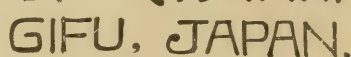
A MONTHLY MAGAZINE.

EDITED BY Y. NAWA.

GIFU, JAPAN.

昆蟲世界

第四卷第拾壹册　第參拾九號

目次（禁轉載）

PUBLISHED BY THE NAWA'S ENTOMOLOGICAL LABORATORY IN GIFU, JAPAN.

◎寄附物品受領公告

一金五拾圓也 貴族院議員 岐阜縣(岐阜縣山縣郡) 早川周藏君
一金參圓也 岐阜縣山縣郡 小學校教員昆蟲講習員一同
一金八拾錢也 岐阜中學校文學士岡野義三郎君
一柱掛時計壹個 岐阜縣山縣郡 小學校教員昆蟲講習員一同
一昆蟲針(五種十六箱) 愛知縣醫學士奈良坂源一郎君
一東磐井郡農事試驗場成蹟一冊 岩手縣 小山幸右衛門君
一近世博物學教科書
一全身肖像(寫眞一葉) 第五回全國害蟲驅除修業生 明石助太郎君
一私製端書(貳拾種四拾七枚) 東京市 裳華房
一湯冷シ(昆蟲摸樣附)一個
一手塩皿(昆蟲摸樣附)一個
一ビスケット入空罐
一繪の具入(昆蟲摸樣附)一個
一手帳(昆蟲摸樣附)一冊 岐阜中學校 長野菊次郎君
一日傘(昆蟲摸樣附)一本
一ナフキン(昆蟲摸樣附) 岐阜市 勅使河原直次郎君
一伊勢新聞(昆蟲記事揭載)(一葉) 第一回全國害蟲驅除修業生 鈴木龍郎君
一昆蟲記事揭載新聞紙(五種五葉) 第三回全國害蟲驅除修業生 永澤小兵衛君
一中津新聞(昆蟲記事揭載)(貳葉) 大分縣 伊東藤平君
一和歌山新報(昆蟲記事揭載)(貳葉) 第五回全國害蟲驅除修業生 裏川寅藏君
一岩手縣昆蟲採集旅行隊寫眞(一葉) 岩手縣 鳥羽源藏君

右當研究所へ寄附相成候に付芳名を揭げ其御厚意を謝す

明治卅三年十一月 名和昆蟲研究所

◎第一回懸賞昆蟲寫生圖募集

懸賞課題 蝶、蛾 募集期限(卅四年一月三十一日限)

賞品

一等 二名 昆蟲世界一ケ年分
二等 三名 同 半ケ年分
三等 五名 害蟲圖解 三枚

目下初等教育に於て圖畫科を課するも多くは手本を與へて臨寫せしめ殆んど實物寫生の應用的練習なきを患ひ茲に奬勵の爲め懸賞をして廣く是等の寫生圖を募集せんとす

募集規定

鉛筆畫又は毛筆畫、輪廓線又は光線又は着色適宜、一枚一圖に限る、可成實物大を貴ぶと雖も小形のものは放大圖にすると植物を添ふるも宜し、蟲名を記入すると、學校名並に姓名を明記すると、實物を手本として寫生したるものに限る、圖は一切返附せざると、優等圖は木版或は寫眞銅版に製して昆蟲世界の誌上に於て發表すべし

明治卅三年十一月 名和昆蟲研究所

◎昆蟲展覽會寄附金受領公告

明年四月を期し當所主催と成りて開設する第一回全國昆蟲展覽會へ寄附金額並に芳名左の如し

一金貳圓也 第三回岐阜縣害蟲驅除修業生 土屋哲君

明治三十三年十一月 岐阜市京町 名和昆蟲研究所

圖解
(一)はヒメトビの雌
(二)は雄の頭部
(三)は上翅の翅脈
(四)は下翅の翅脈
(五)は同上のコバネ
(六)は上翅を削りて退却せる下翅を示す
(七)は上翅の翅脈(長翅のものと符合するを知る可し)

ヒメトビイロウンカ

論說

◎コバネウンカの同物異形に就て（第十一版圖參看）

東京西ヶ原農事試驗場技師　小貫信太郎

コバネウンカ或はダンゴウンカは從來別種として見做され或は本種は雄を缺けりと云ひ又輓近向坂學士は本種の雄蟲に就て云々の論あり此蟲に就て從來の實驗に依るに大低時期を限りて多く殊に秋期發生し又雌雄の數に附ても雌常に多くして稀に雄を見るのみ且つ此蟲は蕃殖力旺盛にして是れに類する長翅のものよりも卵の數非常に多く又此蟲の形狀は頗る長翅のものに類似し特に短翅なるの外其區別を見る事能はざる等は或る種類の變形にあらざるかの疑を挿むを得ざるに至れり

予は各府縣地方より許多の標本を蒐集し所謂褐色浮塵子なるものを檢するに實に數種を含有するを見る而して其尤も主に稻田に發生して大害を加ふるものは四種あり其一はトビイロウンカにして主に九州山陰諸州に發生し全体褐色を帶び尤も大形にして肥大せる種類なり（滋賀縣にてオホヒゲマルの稱あり）其二はセシロウンカにして前種より小さく狹長にして前胸の背部の中央に判然たる黃白色の斑點を有し九州及び北陸の諸州に尤も多く蕃殖す（滋賀縣にてナガヒゲマルと稱し又佐々木博士は是にトビイロの名稱を附せられたり又龜甲浮塵子の名あり）其三はヒメトビイロと稱するものにして少しく前種より小形にして形狀は第一の浮塵子に類似し濃褐色を帶び殊に雄は小形にして

前胸背は黑色を呈す此蟲は諸國に廣く播布し東京附近にも多く存在す（滋賀縣にてはヒゲマルと稱し佐々木博士はコクロの名稱を附せられたり）第四はウストビイロウンカと稱するものにしてセジロに類似すれども全体極めて薄き淡褐色を帶び本年越後の北部及び山形縣に於て得たり甚だしく同地方に蕃殖す此四種の蟲を諸所より集め得たるに常に同種に關するコバネウンカの存在するを見る又發生地に就て觀察するにコバネウンカと之れに關する長翅のものは常に存在するを見たり之れによりてコバネウンカと之れに關する長翅のものが果して同物なるや否やを試驗するが爲めに昨卅二年八月七日西ケ原に於て田面を搜索しヒメトビに屬するコバネウンカ一双を得之を飼養せしに十八個の卵子を得たり右卵子は八月三十日に至り五回の脫皮を經て成蟲となりき然るに此仔蟲は盡く長翅のヒメトビに變化せり猶本年六月十七日ヒメトビの多數を飼育して產卵せしめ無數の仔蟲を得たり右の仔蟲は多く七月十七日前后に至りて成蟲となりしか其內に一頭のコバネウンカを生じたり以上の事實に依り果してコバネは長翅のもの丶同物異形なるを知り又右の事實に依りて他の三種のコバネも亦長翅のものと同物異形なるを推知するに難からず（余は猶此外一二種の同物異形のコバネウンカを有せり）故に浮塵子科に屬する或るGenusは斯の如き變形を生ずるものなる可しと信ず余思ふに長翅のものが最も彼等に適當なる狀態に達する時は翅は退化し蕃殖力は增進し最も盛なる蕃殖を爲すにあらん九州地方に於て殊に秋期非常なる發生を爲す時は常にコバネウンカの許多を認む又此變形は種類に依り（氣候等にも依るべけれども）其度に强弱あるが如し假令ばトビイロ、ウストビの如きは變形し易きものにしてセジロ、ヒメトビの如きは較々難きものならんか

以上の事實に徵するに雄少く雌多きも亦當然の事にして又雌雄共に存在するも又當然の事實なり何

となれば蕃殖に適する爲めには寧ろ多數の雌を必要となす可く又同一の長翅の雌より産卵せられたるものなれば雄蟲の存在するは必ずしもあるべきの事なるべしと信ず

◎昆蟲と植物との關係（承前）

岐阜中學校教諭　長野菊次郎

第二、滑面を有すること　蟻は直立する莖幹を上下すること自在にして平滑ならざれば葉の裏面を倒歩することを得れども圓滑にして外轉せる葉縁を有するものは如何に攀縁の術に妙を得たる蟻も之を通過すること能はず而して滑澤にして葉縁の外轉せるものは狹小なる葉と雖も十分此目的を達し得べしとなり石蒜科に屬するマツユキサウ櫻草科に屬するブタノマンヂウ（共に洋種）の如き此例なりケルチル kerner氏は此事實に就き種々の試驗を行ひたり

第三、花の諸機關互に密着して通路を閉塞し若しくは狹小なる間隙を有する事　ギンリヨウサウ（石南科）の花の如きは密閉の力ありて蟻の力より遙かに強きものにあらざれば之を開放することを得べからず而して此秘密箱を開くべき鍵を有するものは蜂なりと云へり又柳穿魚キンギヨサウ（共に玄參科）等の如く仮面狀花冠を有する植物に於ても此例を見るべし又梔子の如きは膨大せる柱頭によりて殆ど花冠の管口を閉塞せられたる有樣なり

第四、刺針若しくば毛茸を生ずる事　植物は或は其莖に茸毛を生じ或は其葉に刺針を生じ或は萼に鋸歯を有する等ありて蟻（其他匍行する蟲類）の襲來を防ぐものあり而して是等の刺毛を多少下方に向ひて叢生するに依り根部より攀上する蟻類を防ぐには實に適當の裝置と云はざるべからず彼の薊の針ヤグルマサウの萼の鋸歯櫻草の花軸虞美人草の花梗に細毛密布せるが如きは微々たる蟻に向ひ

て荊棘の困難を與ふるものなるべし

第五、粘液を分泌すること　ムシトリナデシコの莖四五分の間に黐狀の粘液を分泌せる又ミツタマサウの莖に生せる徽毛より粘液を分泌せる其他モチツヽヽチ　リウキウツヽヽチ　ニホヒタデ　子バリタデ等の粘液を分泌せる如き皆匍行蟲の來襲を防ぐものなれば蟻をも防禦すべき事勿論なり

以上蟻の害と之を防ぐ植物の準備との概略を擧げたれば今や進みて蟻か植物に如何なる利を與ふるか又植物が如何なる方便を以て蟻を利用するかを陳述すべし

抑も蟻は其体小なりと雖も彼か鋭利なる咬器と尾端の毒劍と團結力に富めるとは大に他の蟲類を避役せしむる所なり然れば彼は他の昆蟲の如く特更保護色を具ふる必要なく却て關東一の剛の者此に在りと名乘りて諸蟲の目を引き他蟲をして震懾せしむることの彼の爲めに利益なることと猶北極地方の鳥獸か大抵白衣を以て掩われたるに關せず烏のみは何所迄も黑色の團体を以て示威運動をなせると同一なるべし此如き理由あるを以て植物は蟻を利用して蟻より一層有害なる蟲類を驅除せしめたらんには花中の蜜を失ふよりも一培の利益を得ることなきにしもあらざるべし然れば前述の蟻が花の蜜槽を荒すことは有害なるに相違なきも又一方より多少の利なきを保せず併し花中の密槽は元來生殖の必要より準備したるものなれば之を生殖作用以外に浪費することと植物の爲めに萬全の策と云ふ可からざるや必せり是に於て他ょ蜜腺を發育せしめて大に蟻を饗應し以て蟻以上の害蟲を驅除せしむる方便こそ顯われ出でたれ蓋し花中以外に生する蜜腺是なり

余は一二の植物に就きて觀察したるょ植物が花以外に蜜腺を生する目的は略ニ樣あるが如し

（一）蜜を分泌して蟻を招き以て他の害蟲を驅除せしむること

(二)途中にて蜜を與へ花中に闖入することを防ぐこと

右によれば第一類に屬するものゝみ蟻を利用するものにして第二に屬するものは寧ろ防禦の方便なるべしと雖も蜜腺と云へる題目の下に之を對比する必要あるを以て爰に出せり況んや又多少第一の目的も達するなしと斷言すること能はざるに於てをや

櫻の葉に生ずる蜜腺の如きは第一の目的を達するものとして誤なかるべし何となれば其葉の漸く萌發して未だ柔軟の際には其托葉及び鋸齒緣端等殆ど蜜腺を備ふれども次第に生長して葉質多少堅剛となるや漸次其腺數を減じて後には僅かに葉柄に一二を止むるに至るを以てなり

又小豆の花軸に生

小豆の蜜腺を示す

ヘチマの蜜腺を示す

せる蜜腺の如きは第二の目的の爲めなるべし何となれば小豆の莖枝には害蟲防禦の一手段たる毛茸を生せるを以て更に蟻を招きて驅除の勞を取らしむる特別の必要なかるべし然るに圖にて示すが如く花軸の一部兩花梗の支出せる間に蜜腺を生するは害蟲中最も敏捷なる蟻の花中への闖入を妨がん爲に途中に蜜を與へて之を止むる手段なりと解すること尤も適當なるを知るべし右の目的に從ひ蜜腺を有する植物を配當すれば

ホウセンクワの蜜腺を示す

第一　護葉的蜜腺を有する植物（利用的）

		蜜腺の所在			蜜腺の所在
(1)	さくら	葉緣　葉柄　托葉	(2)	とうごま	葉脚の裏面
(3)	まるばやなぎ	葉緣　葉柄の附屬物　托葉	(4)	あかめがしは	葉脚の裏面左右
(5)	はうせんくわ	葉緣　葉柄	(6)	いゝぎり	葉柄
(7)	ばくちのき	葉柄	(8)	いたどり	葉柄根

第二　護花的蜜腺を有する植物（防禦的）

(1)	そらまめ	托葉の裏面	(2)	へちま	葉腋に生ずる附屬物
(3)	あづき	花軸	(4)	さゝげ	花軸
(5)	はぶさう	花軸	(6)	やはずゑんどう	托葉の裏面

此他ベルト Bert氏が記載せる南米產の一種のアカシア Acacia 樹の如きは葉根に空洞なる刺を有し

又葉脚と葉先上に蜜腺を具へ蜜を分泌せりさて此樹に生活せる一種の微蟻數萬ありて空洞窩内を住家とし彼の美味を常食とし常に此樹の恩惠を被れり然れば一朝他の截葉蟻來りて此植物に防害を加へんとする時は微蟻は窩内より奔出して之れが驅除に全力を注ぐと云へり而して此微蟻は獨り截葉蟻を逐斥するのみならず又他の有害動物をも避易せしむるものなりと云ふカルステン Karsten 氏が述べたりとセクロピア Cecropia (桑科植物)も又莖幹の空洞と根葉より分泌する蜜を蟻に與へて他の害蟲を驅除せしむと云へり此等の例に依れば蟻が他動物に對して如何に有力なるかを知る事を得べし此他蟻は例令植物が已に蜜を供すると供せざるとに關せず已の食に充んが爲め植物を害する昆蟲を殺す事は實に少なからざるべし瑞士の有名なる蟻學士フォレル氏は嘗而一の大なる蟻巣中に一分時間二十八頭の死蟲の運送せらるゝを觀察したり此割合を以て之を推せば僅か一巣中の蟻にても一日間に殺害する蟲數の莫大なるを知るべし

右に陳ぶる處に依りて是を見れば蟻は害蟲とも云ふべく又益蟲とも云ふべし而して其利害孰れが大なるかの点につきては今日俄に之を決すること能はざるべし然れば猶蟻につきて詳細の研究をなさば意外の關係を發見すること少なからざるべし余は今日世人の多數が蟻の害蟲たるを知りて其益を及ほす点を知らざること多きを思ひ聊か余の見聞せる大畧を述べたる所以なり(未完)

◎北米合衆國に於ける應用昆蟲學の進步 (承前)

東京西ヶ原農事試驗場 財前卿太郎

氏の著述は多く New England Farmur 誌上に掲載せられ皆刻下有要なる害蟲に就き應用的に論述せられたるものなり又氏は千八百三十一年ハッチコック氏マサチユセッツ地質報告の附錄として昆蟲目

錄を著作せられたり

氏はマサチユセッツ州に於て動植物調査會の委員として任命せられ同會の爲めに植物害蟲編を著述せられたり其后數々同書を出版せられ大に應用昆蟲學上に裨益を與へられたり、氏の沒后マサチユセッツ州は氏の功績の紀念として此植物害蟲編を州費にて美麗なる木版彩色を施して出版せり同書は其時より五十年を距る今日に於ても斯學界に珍重せられ斯學を研究するもの其一本を坐右に備付せざる者無きが如し以て如何に同書が斯學界に貢獻したるかを窺知するを得べし實に氏は斯學の新戶を開放せる先鞭者たり然れども恨むらくば氏が斯學を研究する上に於て重きを昆蟲のLiFe History（發生經過）に置き驅防の法を農業の側より案出せざりしを然し此事たる獨り氏を責むるに及ばす實に近年迄の斯學者は比々此弊に陷りつゝありしなり若し氏にして農學者なるか又は少なくとも農業上の知識わらしめなば必ずや斯學に赫々たる光輝を發せしむる名論卓說を吐露せしむるならんを惜哉氏は一理學者なりしを

Dr, AsaFitch　氏　氏は千八百九年に生れ千八百七十九年に沒せり氏は害蟲に就きて屢々農業雜誌に論文を揭載せり氏はハリス氏沒后即千八百五十四年紐育州議院が千弗を出して害蟲調査委員を撰定せし時此撰に當りたる人にして氏同委員の命を拜するや銳意其職に黽勉し紐育州農會の成蹟を出版するに至りたり就中其第十四報に於ては紐育州に於ける害蟲を報告せり而して該報に依て畧ぼ同州の害蟲を窺知するを得たり且つ是等害蟲の驅防に關し大に新案を考出せしと雖も未だ當時の通弊たるlitfe historyに偏說する所多かりき

Townand glovlr 氏　紐育州に於て應用昆蟲學の調査に對して年々經費を增加して之れが發達に注意

するに至るや時の政府も漸く此方面に注目し來り千八百五十四年六月十四日特許局農務課に於て合衆國の種子果實及昆蟲に關する統計及報告を調査する爲めに氏を該調査委員に擧けたり氏は同委員として千八百五十四年特許局委員年報として小麥外二種の害蟲一二の果實害蟲及び重なる益蟲に就て概説せる報告を出せり而し此報告には殊に六葉の石版畫を挿入し大に解説の便に供せり此報告を第一報として第二報(千八百五十五年刊)には棉の害蟲の續き及橙の害蟲に就きて記述せり后退職せられしが千八百六十三年再び就職し農務省設立后も引續き該職を奉せられたり

當時昆蟲學に對し種々の論文を農業雜誌に掲載せし學者中有名なるものを擧ぐればマアグクレットエチ、モリス、ドクトル、ウヰリアム、レ、バロン　ジヤチス、キルク、バトリツク、ドクトル、エス、エス、ラスヴレス、ドクトル　エス、エス、ホルドマン　サイラス、トウマス　トウマス、アフェリツク等とす

以上列記したる學者と重に科學的方面より斯學を研究したるものにして應用の側に於ては大なる功績はなかりき

一 Benjamin D. walsh 氏　氏は當時の通弊たる科學に偏するの論説を爲す事無く能く豐富なる科學的知識を以て斯學を熱心に研究せられ報告成蹟類も多數世に示されたり其研究の結果論文として公にせられたるもの三百八十余件に及びたり、氏はイリノイス州に於て斯學上の論文を著述せられたる鼻祖とす此等の論文はフヒラデルフヒヤー昆蟲學協會に於てプラクテカル、エントモロジストと題する雜誌に掲載せられたり、千八百六十六、七年の冬イリノイス州園藝協會の請願に基き二ケ年間一ケ年二千弗の俸給を以て州昆蟲の技師を置く事に決し氏を同技師に推薦せり氏は同技師となりて

唯一の公報ステートエントモロジーを刊行せり

氏は性剛毅にして行端正の君子にして文を善くし辯に長し公共の情に深厚なる學者たりき氏嘗而イリノイス州園藝協會の囑を受けて講演をなすや二時間有余草稿なくして開講し毫も聽者に倦怠を起さしめずして其講を筆記さしめたりと云ふ以て氏の如何に雄辯家たりしを証するに足らん然ども氏雄辯の余り驅防に付き誇大なる言を弄したる事あるは聊か遺憾とする所なり氏は千八百六年次に陳述する昆蟲學大家チャレス、ヴキ、ライレイ氏と共にアメリカエントモロヂー誌上に執筆せり

(Charles V・Riley 氏　氏は當合衆國に於ける應用昆蟲學の泰斗と謂つべき人にして氏出て后斯學は一大革新し遂に今日の如き盛況を呈するに至りたるなり實に斯學は氏に依て大に發達進歩するに及びたるものにして當時當國の斯學は遙に歐州の下にありて甚だ其進歩遲々たりしが漸次學者の研究は進み政府も之を奬勵し經費を支出して學者の研究に關する報告類を出版するに至り遂に當局者等百折不撓萬難を排して斯學の發達進歩に奮勵せり於此乎當國の斯學駸々として隆起し普通田園山林の害蟲に關しては農學校に於て敎授するに至りたり之一は氣運の然らしむる所とは謂へ氏等昆蟲學者が與つて効ある所以なり今や進みて氏の事蹟を畧説せん氏は千八百六十八年四月一日ミソリー州の昆蟲技師に任用せられ翌十二月第一回年報を刊行し爾后同報告は年八九回宛發刊せられたり

ミソリー年報の發刊せられんとするやラ氏は當時の昆蟲學大家たるワルシュー氏と共に同一武歩を以て該調査をなし斯學に一大新機を與へたり氏の報告は悉く數年間刻苦黽勉して研究したる結果より成りたるものにして害蟲ライフヒスリは確實にして之れに對する驅防の如きも適切にして實効あるものゝみなりき故に實用上に稗益を與へたる事大なり且氏の報告は在來の通弊たる科學に偏せず

して應用の主旨に適合し大に應用昆蟲學の眞價を現はさしめ以て世界の斯學に一大進化を與へたり

ミソリー州報刊行の當時ドクトル、ウキリアム、レ、バロン氏はイリノイス州昆蟲技師に任命せられ又當時有名なるA. S. Packerd氏はマサチュセッツ農務局技師とし千八百七十一年以后二年間昆蟲に關する報告を刊行せり

千八百七十七年合衆國昆蟲調査會設置せらるゝや同委員にはチャレス、ヴヰ、ライレー、エ、エス、パクカード及サイラス、トーマスの三氏任命せられたり同委員はロキー山蝗蟲に就き千八百七十四年より七十六年迄に七回報告を刊行せり

千八百七十八年トウチンド、グロゥヴー氏の病氣となるやラ氏はミソリーに於ける彼の事業を經續し新に昆蟲學委員の許に昆蟲報告第一册を刊行せりラ氏はグ氏に繼きて農務省昆蟲技師に任命せられたれど他の技師等と議合はずして退職しコーチル大學敎授J. H. Comstock氏之に任命せられ二年間就職后ラ氏再任千八百九十四年六月迄奉職せられたり

ライレー、カムストックの二昆蟲大家同技師として就職し孜々斯學の研究に盡瘁せらるゝや大に斯學の面目を改め一大革新の氣運を開きたり(未項)

◎食蟲動物 (一名天然の害蟲驅除者) (承前)

千葉縣特別通信委員 林 壽祐

第三 爬蟲類

此類は多く熱帶に產し、種類甚だ少し、然れども鰐蟒蛇、蠵龜の如き大形なるもの丶外は、概ね蟲類を食とす龜類は植物性の外、魚介及昆蟲を食とす「希臘龜」は歐洲の南部に產し、害蟲驅除を以て

有名なり。「守宮」は廣く暖熱國に捿息し、自在に縱壁天井を匍行す、夜間能く昆蟲を捕食するを以て夜中蜥蜴の稱あり、「石龍子、蛇舅母」等は草間樹下に捿み、巧に昆蟲を捕獲し、庭園には有益なり

ホ　ヘ

（ホ）カメレオンの舌
（ヘ）ラセルタの口

「グァナ蜥蜴」は亞米利加熱帶産にして、小蟲果實を食とす、ラセルタ類(Lacerta)は歐羅巴に産し、害蟲驅除の効あるを以て、人之を馴養す、「紐子蟲」は歐洲産にして、害蟲を除けり。蛇類中無毒なる黃頷蛇、赤棟蛇」等は蛙及び昆蟲を食とす「コロベルス蛇」は歐洲に産し、小蟲、鼷鼠、蛙を食とす。避役（chameleon）は十二時蟲とも稱し、時々變色するを以て有名なり此動物は埃及及び西班牙に產し、能く樹枝に攀登す、体形醜惡にして性遲鈍なれども、粘液ある長舌を以て、巧に昆蟲を、捕獲す、其敏速なる恰も電光の如し、故に此蟲を產する國人は、馴養して蠅虻等を捕へしむ

爬蟲類	蜥蜴類	守宮、石龍子、避役、蛇舅母、ラセルタ　紐子蟲
	蛇類	赤棟蛇、黃頷蛇、熇尾蛇
	龜鼈類	希臘龜　水龜

第四　兩捿類

此類は爬蟲類と同じく、種類至て少し、然れども蛙類は其數頗る多く、到る所の水田河沼に跳躍し昆蟲蠕蟲を食とせり、就中「金線蛙」の如き、稻の害蟲を除却するの効大なり、其他樹に「雨蛤、金襖子」あり、山に赤蛤あり、水陸に「蟾蜍、蝦蟇（疣蛙）あり、皆有益無毒なりとす、蟾蜍は形大にして甲蟲、蚊、地蠶、蛾、ゴミムシ等多くの惡蟲を食除す。「蠑螈」は水中或は濕地に捿息し、多く蠕蟲及

昆蟲を捕食す

兩棲類｛無尾類……金線蛙、疣蛙、山蛙、雨蛙、蟾蜍
　　　　有尾類……蠑螈

第五　魚類

此類は悉く水生なるを以て、昆蟲を食するものといへども、捕へ得るの所なし、唯「鯉、鮒、鰻」等は水蟲及び陸蟲の水上に陷落したるものを食せり、鰻はまた大水の時など、夜間水邊の芝草中を匍匐し、昆蟲を索め之を捕食すといふ、亞米利加にプロトプテラス(Protopterus)といふ奇魚あり、鰓の外肺を有し、常に泥深き淡水に棲めり、若し水なき時は肺により呼吸す、蛙、小魚、昆蟲を以て食とす、トキソーテス(Txootes射魚)は印度に產し、鼻頭長し、空中に小蟲飛遊するを見るときは、忽ち口より數滴の水を噴出し、之を水面に射落し食とす、夫れ水中より中空を見るや光線の屈曲甚しく、直射するときは、實際的中するものにあらず、然るに此魚之を察するものか、常に射線より稍下方を狙へり、且つ三四尺の距離にあるものをも、能く一擊の下に打落すといふ、故に他國にて金魚を愛する如く、硝子瓶に飼養し、小蟲を射落さしめ、以て賞翫すといふ

講話

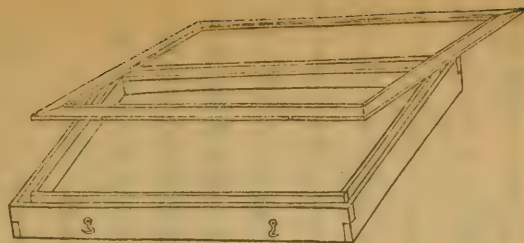
◎三度第一回全國昆蟲展覽會に就て

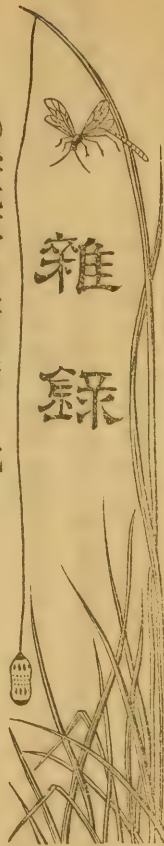
名和昆蟲研究所長　名和靖

前號の誌上に置きまして冬期昆蟲採集の利益から簡單標本製作法等に就て述べ明年開設の昆蟲展覽會へ御出品になります樣お願ひ致し置きました、然るよ玆に北海道空知郡岩見澤村(空知支廳)松實武治氏より標本製作法に就き當研究所宛よて左の質問がありました、

前畧貴所に於て明年四月十六日より三十日間御開催の第一回全國昆蟲展覽會へ昆蟲標本出品方の義に付其筋より來意の次第も有之右は有益のものにて殊に所長閣下の御說明の如く何れの地方に如何なる昆蟲の棲息せるや否も判明し實に愉快此上もなき事に候に付ては不肖儀も多少共出品致度考に候處何分遠隔の地にも有之運送中破損の虞も有之候殊に名刺形厚紙を三角形に鋏み切り其三角形の紙の上に蟲を張り付け針を以て一の器物(運送すべき樣製作したる箱)に刺し付候ては必ず運送中震動の爲破損し御研究の材料に相立兼候哉と被存候右は昆蟲の背部若くは胸部に直樣針を刺し込み候ては不都合に候哉又外よ御工夫も有之候はゞ御指揮被下度候云々

縱一尺三寸　橫九寸五分
深一寸五分

御尋ねになりました通り運送中破損の恐れもござります故出來得るなれば針よて刺すとに致しとう存じます、私の申三角紙に糊着(ダラカントゴムにて)するのは全く針にて刺すとの出來ぬ小形の昆蟲に限りて致すのであります、一体冬期の採集は小形の昆蟲が澤山でござります故此の法を用ひざれば到低始末が付きませぬ、又有名の害蟲は割合に小形なれば標本調製に困難なるを以て自然保存の出來ぬ勝にて往々差支を來すことがござります、此簡單なる昆蟲標本の製作法を知

れば極めて便利のことが澤山あると信じます、玆ゝ序に申して置きますが仮令標本が堅硬に出來なしても是を容るゝ箱の不充分なる時は破損するの恐れがござります、故に普通當研究所にて用ひて居ります箱は圖の如きものにして底には疊表を二重に合したるのを敷き糊着し置き夫に刺して運送せば破損の恐れは大抵ござりませぬ

雜錄

◎浮塵子の寄生菌に就て

島根縣特別通信委員　田中房太郎

黴菌は人類に利害を及ぼす事至大なり就中農業界を利するもの亦以て少しとせず近來歐米各國に於ては黴菌を利用して農作物の害蟲驅除ゝ應用せらる本邦に於ても現今漸く一問題とはなれり本年春農商務省農事試驗場は茨城縣結城郡玉村附近に於て野鼠窒扶斯を應用して夥多の野鼠を驅除したるを以て嚆失とす然れとも害蟲驅除に黴菌を利用したることは未だ嘗て聞かざる處なり是れ相當の寄生菌を發見せざるに依ればなり予は本年發生の浮塵子に就き調査する處ありて九月十五日縣下飯石郡に到り幾萬の浮塵子(褐色種)稻莖に附着のまゝ死せしものを發見せり故に如何なる源因にて死せしものなる哉を調査せんとて之を熟視するに全体乳白色にして膨起せり頭部は淡紫色を呈し複眼は顯然にして存せり又羽翅は開展して稻莖に能く附着せり是れ所謂 Empusa jassi, Cohn. と稱する黴菌ならん過日夥多採集して西ヶ原農事試驗場技師農學士堀正太郎氏へ送附し研究を請ひたるに氏は本

邦に於て始めて發見したるものとて目下純粹培養し以て浮塵子に傳播せしむる方法を研究中なり尚名和昆蟲研究所へも研究を請ひたるを以て遠からず大家の研究の成績は應用するに至るべし

◎蟲談片々（九）

岩手縣特別通信委員　鳥羽源藏

（二十二）蟷螂蛹を喰ふ

蟷螂は生きたる諸昆蟲及び他の小動物を捕食するは誰も知る所ならん余は本年蟷螂の飼育を試みしに其飼育箱の上部即ち天井とも云ふべき所には豫て飼育し蛹化せしめたるミノムシの巣の三四個下垂せるものありき然るに余は蟷螂に食餌を與ふる事を怠りしに下垂せるミノムシの巣に取つき下端より嚙み破りて內部の蛹を食ふを見出し其烱眼と貪食とに驚けり數月間飼育せしミノムシを食はれて子を失へしたる心地しけるも又彼の性質を明かにするを得たるは甚た愉快なり

（二十三）標本の驅黴劑

昆蟲標本の害蟲と黴害とを防ぐため彼の樟腦を廢して近年大にナフタリンを賞用するに至れり然るに實驗家の知れる如くナフタリンは劇臭堪へ難く昆蟲研究者は其臭氣に慣れて何とも思はざる所なるに研究者の家人はこの藥品の爲めに研究中止を迫まらるゝあり或は採集旅行の際などは宿屋の下女共に逃げ出され或は初めて研究を思ひ立ちたる者などが此等劇臭のため頭痛を起して研究の念を斷たんとする者もありとは往々聞く所なりこれ漸く普及し來れる昆蟲學のため誠にゆゝしき大事といふべし余はこのナフタリンに換ゆべき一の藥劑を報し以てかの劇臭の爲めに種々の故障に苦慮せらるゝ諸君の實驗を乞はんとす。劇臭なく而かも黴の發生を防止するにナフタリンに優ると思はる

丶は安息香酸なりとすこの藥品は白色の粉末として發賣せらる全く臭氣なきにあらざれどもナフタリンに比すれば其匂ひは何人も厭はざるならん只、永く嗅ぎ込めば嚔を催す事あるのみ、使用法はナフタリンの如く展翅板上の標本に散布するなり然れどもナフタリンの如く揮發せずして其儘粉末の存在するものあれば後に軟毛の筆にて拂ひ去るを要す

(二十四) シルフアのため一時明を失す

一學生昆蟲採集に出てゝ路にシルフアの一種 Silpha Venatoria, Har. を捕へ採集箱を開き留針にて貫刺せんとするに當り謀らず指先にて壓するや腹端より液汁を發射し學生の右眼に入り大に痛みを感して見るを得ず其治法に困せり漸くにして傍の流水にて洗滌し爲めに事なきを得たりと余に咄せり採集者は常に注意すべきなり

(二十五) ゲンゴロウ イナゴを嚙む

龍蝨は淡水中に棲みて鯉鮒等を食害するもの故水產業上より見れば害蟲の一たるは人の知る所なり然るに水田よありてイナゴの交尾して稻葉に攀ち水面に浮べる時は龍蝨よ不意に捕獲せらるゝことあり頃日昆蟲採集に出でし友のかゝる擧動を目擊せしとて咄されたり何種昆蟲と雖も害益あるを以て彼等の性質を究め災を轉して福となすの道を啓くは最も趣味あることにして吾人の勉めて講究すべき事ならずや

◎昆蟲短報

第三回全國害蟲驅除講習修業生　靜岡縣　神村直三郎

史家文人は、斷簡零墨をも、よく珍襲すときく、これ他日大に其考證の村料となるあればなり、予

が短報三文の値なしと雖も、所謂我佛尊しとやらで、また捨るに忍びず、僻見誤聞定めて多かるべけれど、世の昆蟲界の良匠ゝ遇はゞ、また何ぞの笑ぐさになることもあるべしと、敢てこれを世ゝ公にす、あはれ大方の諸士、誤まれるを正し、足らざるを補ひ賜はらば幸甚

一、樗蠶の寄生蠅

樗蠶は鱗翅目中蠶蛾類に屬するものにて、幼蟲は樗クサギ、等の葉を食す、老熟すれば、繭を作る、其色褐色にして、絲に光澤あり、明治卅一年七月下旬、其幼蟲を捕獲し養育したるゝ、八月上旬に至り繭となり、昨明治卅二年六月三日より十月までに悉く羽化せり、又本年は一月下旬に其繭を採り、これが羽化を試みしに、五月十八日より六月廿日までに、十數頭羽化せり、尚當地にて八月二日三十個の同繭を採り、調査せしに、其中にて八個は中空のものなり、因て其余を貯へ置きたるに、同月七日より十一日までに、二十二個のもの、不殘寄生蠅のために斃され、蠅の蛆、夥しく出でゝ、一も全きものなし、其蛆たる、一の繭より、多きは十頭余、少きは數頭なり、多數の寄生蠅ありとすれば、本年は、該樗蠶の種族、滅盡の姿なれど、去るにても、優勝劣敗の結果、今に其生を全ふせるものありや否、冬期落葉後の採集を試みんとす

二、柿のイラムシ

イラムシ、は普通柿樹の害蟲なれど、當地方にては柳、朴樹、櫻、梅、ハンノキ、柘榴、などにも大に害を與ふ、本年春季に採集したる繭、六月三日より同月十五日までゝ、悉く羽化せり、其出繭の時間は、午後四時より、同六時までの間にして、五時頃を最も多しとなす、夜に入れば、擧動活潑となり、放棄すれば一夜にて去て跡を止めず、

三、ギシ〳〵の鋸蜂

八月六日ギシ〳〵の葉の大に蝕害せられたるを見る、因てこれを撿するに、多數の黄褐色なる鋸蜂の幼蟲、今や日中なるを以て、皆葉裏に日光を避け、食に飽きて靜止せり、其靜止の狀たる、昆蟲世界第三十七號口繪なる、梨鋸蜂の靜止せるに似て、体の一端を中心よりわげて、恰も蛇の頭を揚げたるが如し、体側には左右各九個宛の黑点を有す、直ちにこれが養育を試みしに、同月九日に至り養育瓶口なるコルクに喰入り、以て繭を作る、同月廿一日に至りて羽化せり、蕪菁の鋸蜂より体長少しく長くして、全体黑色なり、

四、子負蟲

予は元來子負蟲の雌雄を知らず、况んや其卵を負ふたるものは雄か將雌かの議論に至ては、到底嘴の出さんやうなし、昆蟲世界誌上にて、諸君の高説を拜見して、初めて其一斑を窺知したるまでなり、然るに本年七月、不計も多數の同蟲を得たれば、これを解剖して左記の結果を得たり、

七月十七日より同廿九日までに三十四頭を得たり、試みに其一を殺したるに、腹中に卵子を藏せり玆に初めて其雌蟲なることを確かめ得たり、因て其尾部を撿してこれを圖し、他蟲の尾部を各別に撿せるに、皆同一樣なり、是に於て、其三十四頭中、一の雄蟲なきに驚けり、否一の疑を生せり、雌雄の鑒別は他に在りて、雄雌とも其尾端は同じきやも計られずとの疑を存して、片端より悉皆の解剖をなせり、三十四頭中卵粒を負ふたるもの七にして、負ばざるもの二十七なり、負ばざるものにして腹中に卵を藏するもの二十二にして、藏せざるもの僅々五のみ、又負ふたるものにして、腹中に卵子を藏するものは、一もこれなきなり、七頭ながら皆無卵なりし、斯の如くそれ著しき結果

を見る、世に負ふたるものは雄蟲なりとの誤りは、これ等の實驗より傳へらるゝやも知らず、然れども予は前々昆蟲世界誌上の記事により、又有卵のものと同形の尾部を有するとの二点によりて、負ふたるものも雌蟲なることを信ず、斯く雌蟲と信ずれば、同時に又前述の雄蟲なきを疑はざるを得ず、或は疑ふ、該試驗をなしたる時期即七月の頃は、雄蟲は已に交尾の義務を了して、斃れたるの後なるやも知れず、敢て識者の是正を請ふ、

五、「ヘビノボラズ」の芋蟲

六月八日偶林中を採集す「ヘビノボラズ」に於て一の芋蟲を發見す、長一寸許、全体桃灰色にして、一條の亞背線褐色を呈し、尾角に連る、同月十二日老熟す、枯葉片を集めて粗繭を營む、蛹は全体淡褐色にして、背線少しく濃色なり、眼部は著しく凸起して淡黑色なり、側面には七個づゝの黑点あり、即ち腹部に五個胸部に二個なり、七月六日に至りて羽化す、其色黑くして「ホウジヤクテフ」に似たり、

六、『ヤブキリ』寄生蠅

七月二十日ヤブキリの雌蟲を捕へ、腹部を切開して、内臓を去り、綿を滿して、乾燥箱中に藏む、同月三十日に至り、体内より白色の小蛆數多出づ、長さ一分許あり、これを捕へて、小瓶中に入る翌日化して胡麻大の蛹となる、一方丸みありて一方尖れり、其色褐色亦胡麻の如し、八月六日羽化す、体長一分の蠅にして脚比較的長大なり、

千葉縣印旛郡遠山村 齊藤啓二

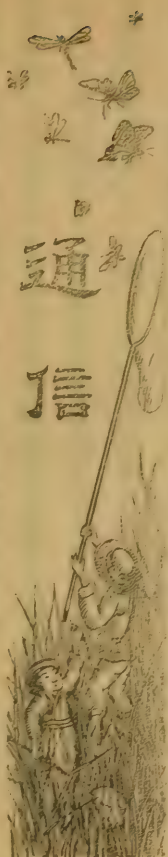
◎蟲界雜記 （一）

一、昆蟲世界に對する蜘蛛の陳情書

昆蟲以外なる蜘蛛の一族再拜稽首謹んで書を昆蟲世界記者閣下に呈す閣下は夙に昆蟲學を以て天下に鳴り各蟲類の性情經過を知ること太だ詳委せり彼等の農業上に有益なるものと有害なるものとの區別を說き益蟲の保護すべき所以害蟲の驅除せさる可らさる所以を說示する甚だ明かに害蟲驅除に盡瘁すること多年其勞や決して容易にあらざらん今や天下有爲の青年は閣下の薰陶を受け昆蟲學を修め害蟲驅除事業に從ふもの頗る多し爾來頑固なりし農家も大に悟る所あり地方官吏も亦しきりに獎勵しつゝあり害蟲驅除の事業漸く緒に就かんとす是れ一に閣下の力によるもの閣下の農界に於ける功や決して淺少にあらさるを知るなり然り而して吾曹一族が敢て閣下に一言を呈せんとするものは他なし吾曹の害蟲驅除に於ける功を發揮せられんこと是なり由來蜘蛛類は昆蟲類にあらざるを以て從て昆蟲世界に記載せらるゝを許されず是元より當然のことならんと雖も害蟲を捕食して農家に益する蟲類をは昆蟲界にのみ求め而して吾曹の如何に害蟲驅除上功勞あるやを忘るゝに至りては是れ決して穩當の所置と云ふべからす害蟲驅除上より見れは昆蟲以外のものと雖其功を說き其名を記するも不可なる所あらざらん吾曹敢て自から說くは頗る誇るに似たりと雖も乞ふ少しく述るを得せしめよ吾曹の或るものは空中に網を張り以て種々の害蟲を捕ふ閣下は吾曹の網上に蝶蛾の翅片や甲蟲の遺体あるを見しことなきか是皆吾曹の捕食したるもの其功決して「トンボ」や「カマキリ」の比にあらず又或るものは稻葉上或は蔬菜葉上にありて作物を害する小害蟲類を捕ふること決して「テントウムシ」や「ヒラタアブ」の企圖すべき所にあらず又或るものは穀倉内に居住して常に穀物を害する蟲類を捕ふ殊に穀蛾や麥蛾の羽化期等にありては如何に吾曹の効力偉大なるよ是れ決して「セウ

ゼウバイ」や「コヌカバチ」の夢にだも能はざる所穀倉よして吾曹の棲息することなかりせは其害や決して計るへからざるものあらん然るに彼等の多くは這般の理を解せす乍ゝ吾曹を以て無益有害のものとなし甚だしきは箒を以て吾曹の網を掃ひ落し剩さへ打ち殺すなど殘逆至らざる所なし乞ふ閣下少しく愛憐を垂れよ吾曹多年穀倉内に占居すと雖未だ曾て一粒の雜穀だに害したることなし然るに彼等の殘暴如斯是實に吾曹の痛苦に堪へさる所とす其他吾曹の種類は頗る多く從て種々の方面に於て害蟲驅除に從事しつゝあり必ずしも此に呶々するを要せざるなり願くば閣下閣下の主管する昆蟲世界紙上よ於て吾曹の効を説き天下幾万の農民に向つて吾曹の保護すべきを知らしめよ是れ蓋し害蟲驅除に於ける刻下の急務よして而して又其効偉大なるを知るなり嗚呼世には幾千の小昆蟲學者あり害益蟲の區別を説くこと至れり然りと雖吾曹の功を知るもの果して幾何かあるや是豈徒に吾曹一族の不幸のみにあらず害蟲驅除に於ける一大欠点よあらざるなからんや閣下幸に吾曹の微衷を察せは幸何ぞ之れに過ぐるものあらん頓首再拜

明治三十三年九月十日　昆蟲と同門にして網を異にせる眞正蜘蛛類

◎岡山縣に於ける螟蟲驅除豫防の成蹟

岡山縣技師　岸　歌　治

我か岡山縣に於ては昨年四千五百四拾余圓の螟蟲驅除費を支出して大に採卵法を勵行し越て本年度

に至り更に七千五百圓を支出して驅除豫防費に充て一般に採卵法の奬勵を爲したるが採卵し得たる塊數は僅かに五百万塊有余にして之れを昨年の採卵數三千万塊に比すれば殆ど六分一に過ぎず毎年螟蟲の被害は實に甚だしく既往兩三年間試驗を經たる結果より推算すれば縣下を通して殆ど一割の被害にして比年七月上中旬の頃に至ればムシザシの害を認むる事頗る多きも本年は少しも之有るを見ず又縣下美作國の如きは苗代中に發生產卵を総るを以て昨年苗代にて一万塊採集したるものも本年は漸く三四百塊の卵を採り得たるのみ要するに本年は縣下を通して螟蟲の被害は更に認めずと云ふも敢て過言にあらず之れに依て之れを觀れば本縣に於ては全く螟蟲の被害を豫防し得たりと信ず今螟蟲驅除豫防の爲め得たる利益を一割とすれば米十一万石にして一石拾圓とすれば百拾萬圓となる而して昨年來驅除豫防に要したる費用は

一三十二年　四千五百圓　三十三年度　七千五百圓　合計壹万貳千四拾圓
一点燈凡百万個十日分（一日一個壹錢）　計金拾萬圓
一採卵人夫延百万人（一人拾五錢）　計金拾五万圓
合計金貳拾六萬貳千四拾圓

即ち昨三十三年度に於ては少しも利益なかりしものとするも猶差引八拾參萬七千九百六拾圓の利益となる爰に螟蟲卵塊採取調査表を掲げて讀者の參考に供す

◎螟蟲卵塊採取調査表　岡山縣

郡市名	苗代地採卵數	本田採卵數	合計	郡市名	苗代地採卵數	本田採卵數	合計
岡山市	一七〇	二〇三	三七三	御津郡	二三六、九六七	六六、七七〇	三〇三、七三七
赤磐郡	五三一、八七六	八〇三、三一二	一三三五、一八八	和氣郡	一八四、二〇七	二二九、三〇八	四一三、五一五
邑久郡	一七三、五二四	二〇二、二九六	三七五、八二〇	上道郡	一四二、五七八	一二五、七六二	二六八、三四〇

兒島郡	二八五、二五七	一二四、八二〇	四〇〇、〇七七
淺口郡	六一、四一三	四八、八一三	一一〇、二三五
後月郡	一五二、七六〇	三三、四九八	一八五、二六一
上房郡	一三二、〇三〇	二六、九一八	一四八、九四八
阿哲郡	一七、五四二	六、九四五	二四、四八七
苫田郡	一〇一、一〇六	三、二一〇	一〇四、三一六
英田郡	四八、三六〇	二、二九三	五〇、六五三
都窪郡	二八、三一〇	一三、五七七	四一、八八七
小田郡	一七四、八八六	二六七、二〇二	四四二、〇八八
吉備郡	四五二、〇九五	一〇六、八七一	五五八、九六六
川上郡	九五、四四七	二三、七一〇	一一九、一五七
眞庭郡	一一六、八七二	〇	一一六、八七二
勝田郡	二二四、七六五	八〇、五四八	三〇五、三一三
久米郡	一六三、九〇五	〇	一六三、九〇五
計	三三〇四、〇七二	二一五五、〇五六	五四五九、一二八

◎山口縣玖珂郡害蟲驅除講習會景況

玖珂郡昆蟲學會

同會は本年一月本郡勸業諮問會に際し小田勢助氏が發議せるに依るものなるが其后種々事情ありて本日とはなれり然るに本年は或はムクゲムシの發生あり或は浮塵子の大發生加ふるに三化螟蟲は確かに本郡内に侵入せる今日益其必要は感せられたり偖て講師は名和昆蟲研究所長名和靖氏にして助手は小田勢助氏なり殊に氏は標本器具等の用意を爲し講習生に便利を與へたり講習生には各町村長勸業委員及篤志者にして講師の熱心にして熟練なる講話と本春來驅除の實戰を爲したる講習生の事とて其効果頗る宜しく講習は五日間にして九月廿六日に始まり同卅日に證書授與式を擧行せり爰に其概況を記さんに式場は郡會議事堂ゝして正面には薔薇を挿み之にアケハテフをとまらせたるなど蟲ゝ因みて興味ありき席定るや長山課長の挨拶ゝ亞き大和田郡長は修業生八十名に證書を授與し終て一場の式詞を述べ次ゝ講師の誨誠助手の挨拶講習生の答辭等ありて式を終り夫より一同懇親會を催し席上五分間演說或は各自得意の演技等あり各十二分の歡を罄し終りに名和講師の万歲を唱へた

る杯當地稀有の盛會なりき
因ょ同講習生にて玖珂郡昆蟲學會なるものを組織せしが其會則は左の如し

玖珂郡昆蟲學會規則

第一條　本會は玖珂郡昆蟲學會と稱し玖珂郡役所内に置く、第二條　本會は昆蟲學を研究し害蟲驅除益蟲保護法を完全ならしむるを目的とす　第三條、前條の目的を以て左の事業を爲す　(一)郡内を四部に分ち毎年一回以上順番にて集會する事　(二)常に昆蟲を採集し集會に持參し研究交換する事　(三)官廳の諮問ょ應答し又は請に依り實地驅防法を示し時に官廳に意見を開陳する事　(四)害蟲驅除講習會或は講話幻燈會を催する事　(五)名和昆蟲研究所と氣脈を通し可成各町村に一名以上昆蟲世界を講讀する事　(六)其他昆蟲に關する一般の件、第四條、會員を分つて左の三種とす　名譽會員、特別會員、通常會員、第五條、名譽會員は特に名望ある士を推薦し特別會員は本會に功勞あるもの或は金壹圓以上寄附するもの通常會員は入會金拾錢以上を出すもの、第六條、本會に左の役員を置く但會長副會長、幹事長は全會員中より推薦し幹事は一部に一名委員は各町村に一名とし各部内にて互撰し任期は各三ヶ年とす　會長一名　副會長一名　幹事長一名　幹事四名　委員各町村に一名　第七條、會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し或は代理を爲し幹事長は會長の命に依り庶務會計を主り幹事及委員は各部内を整理す　第八條、本會に技藝委員を置き第三條の事務に當らしむ但場合に依り手當を給する事あるべし　第九條、本會維持の爲め郡費或は町村費の補助を乞ふものとす　役員氏名、會長大多和可也(郡長)　副會長小田勢助　幹事長中村又治(主任郡書記)　幹事引士篤次郎、沖原九郎、西村吉繼、村田愛太郎

◎長野縣昆蟲研究會秋季大會の摸樣

長野縣小縣郡殿城村　柳澤平作

小縣昆蟲研究會秋季大會を十月九日午前より小縣甲種蠶業學校内に開會し正午昆蟲演説會を開く會長柴崎虎五郎氏開會の主意を述べ第一席小縣甲種蠶業學校敎諭星野仙之丞氏害蟲目下の驅除と云ふ題にて桑の黑毛蟲の幼蟲は當時群生桑葉を網目状に害しつゝあり目下に於て驅除すれば最も簡便に

して有効なりと説き尚此蟲と同性質の一昨年以來郡内東西内村山林へ發生し漸次蔓延農作物を害せし最も恐るべき小縣毛蟲につきても黑毛蟲と同樣驅除の好時機なることを説きたり、第二席名和昆蟲研究所長名和靖氏昆蟲雜話と題し昆蟲研究會組織の目的より驅除は勿論研究は共同驅除の利なるを説き一時休憩、再び淸水三男熊氏發明の蠶蛆驅除の有効よして各地蠶種家よ歡迎せられ漸次各地に實行せらるゝの今日蠶種の最も本塲たる當地の景況如何を問ひ餘り實行し居らざるを歎き斯かる有樣にては一方よ蠶蛆の種子を製造し置くなれば年々歩なきを歎くも自業自得なれば是非とも之を實行し害を防ぐの手段を取らざるべからずとて名地の例を引き演じ又螟害驅除につき三河國渥美郡岡田虎次郎氏は螟卵採集の發明あり之れ目下の二大發明なりと説きたり、第三席柴崎會長輕井澤より北佐岸野村木内宗藏氏の天日蠶飼育の景況、桑畑萎縮病に關する視察を遂げたる視察談をなし午后五時閉會、名和氏に研究會所藏の昆蟲標本につき一觀を乞ひたり、本日傍聽人は小嶋小縣郡長を始め學校職員村役塲員、害蟲視察員、會員等無慮二百餘名、盛會なり午后六時より講師慰勞會を開く參するもの四十余名よて名和氏の經歷談其他種々の談話ありて盛大なりき

◎昆蟲に關する葉書通信　(八)

(四十二)ヒラタアブ蛹の寄生蜂、(靜岡縣、神村直三郎)櫻樹の蚜蟲群を進擊して鏖殺したるヒラタアブ悉く蛹となりしを以て六月七日十五個を採りて其成蟲の羽化を見んと思ひこれを飼育す然るに其内の一個六月六日に至り少しく透明に白色となるを見るや間も無く數頭の寄生蜂出づ又十四日より十七日の間に最も多く出で同月廿日迄に悉く斃れたり而して目的となしたる成蟲は一も出ずる事無く蛹は皆から空蟬のもぬけとなりたりなんと寄生蜂の蕃殖力には驚くではありませんか

(四十三)本年の浮塵子の種類、(三重縣、鈴木仔蟲生)本年吾縣下に發生したる浮塵子は重にダンゴヨコバイ、ヒゲマルヨコバイ、等にして山間或は樹蔭、等濕潤の地より最も多く加害せり甚しきは半減の收穫だも見る能はざる地ありき然れども當路者の注意良かりし爲め早速驅除の効を奏したり

(四十四)昆蟲世界卅八號昆蟲屑話(十六)を看る(福岡縣、蟲の先生) 赤枝氏はルリタテハと開戰し敗軍の將として自から物語れり亦名將の常か余又此種に遭遇せしものなり然りと雖も余は源平時代に於けるが如き得物即ち一本の打物を用ひず文明的戰具即ち彈丸特に散彈たる土砂を投すれば其昆蟲の体を損する事少なくして存外的中す余は山徑を徘徊しミチシルベを捕獲し其他蝶類を得たる例多し諸氏之を試みよ誇大之を說くものは不知實戰に敗れて口能く戰勝を語るものなるやを呵々

(四十五)夜間農事講習會、山口縣(小田勢助)我が玖珂郡新庄村に於ては夜間農事講習會なるものを設け專ら夜間を以て農家子弟へ農學を敎授する事となり其內昆蟲課には敎科書を昆蟲世界薔薇の一株と定め講師には不肖勢助其任に當る筈

問答

◎サルハムシ並にカブラバチに付質問

和歌山縣有田郡御靈　川口爲吉

別包の如き害蟲我地方に從來發生し大根又は種菜等に蕃殖し蝕害すること甚しく夫々相當驅除を行ふときは其當時稍減少するを見受くると雖翌年に至り少しも其効を奏せず困却致候に付該甲乙二種

の害蟲に就き仔蟲より成蟲となり産付發生する迄の經過詳細御敎示被成下度此段願上候也

答　　　名和昆蟲研究所助手　福井克雄

現蟲を見るに甲號は甲翅類葉蟲科に屬するサルハムシと稱するものなり該蟲は毎年八月頃より十一月頃迄最も被害を逞ふし卵子は多く莖内或は葉脈内に産下し凡十日を經て孵化し四週間にて土中に入り蛹化す八九日にして成蟲となる以上を經過の大畧とす驅除法は常に農家の苦む所なるか爲め随而本誌にも記載せしことあれば詳細は本誌第七號通信欄佐藤耕一氏及び第卅六號講話欄吉川傳兵衛氏の説を參照せらるべし尚愛知縣農事試驗場に於ては除蟲菊粉末一匁に石灰十五匁の割合にて混和し朝露の未た乾かざるの時葉上に散布せば有効なりと謂へり次に乙號の害蟲は質問者は一種と爲したるも其實二種あり一は各節に疣狀突起ありて之より一、二本の粗毛を生ず之れ甲號の幼蟲なり一は圓筒形を呈し前種よりも大にして光澤あり此れをカブラ蜂の幼蟲とす該蟲は膜翅類鋸蜂科に屬し卵子は莖内に産下し二週間位にて孚化し大凡四週間にて土中に入り造繭し五六日を經て蛹化し七八日にて成蟲となる然し當時發生せるものは老熟し土中に入り其儘越年し翌春羽化して成蟲となる驅除法は心臟形の網羅を以て捕獲可なり單獨驅除は其効少なく宜しく共同驅除を行ふべし

◎ナ、ホシテントウムシの幼蟲に就き質問

美作國勝田郡廣戸村　竹内睦男

ナヽホシテントウムシの幼蟲に就き詳細昆蟲世界誌上にて御敎示願上候

答　　　名和昆蟲研究所助手　宮脇繼松

充分成長すれば凡四五分に達す孵化の際は全体黒色なれども成長すれば灰黒色となり第四、七の二

環節の兩側に各二個の樺色の點を生じ第一環節の前後即ち頭部に接する處と第二環節に接する處にも又樺色の部分あり猶を各環節には六個宛の疣狀突起を具ふ而して該蟲は稚弱の際には常に腹端より樺色の粘液を分泌し居りて巧に物体に附着するの性あり

雜報

◎諸氏の來所　十月十日岐阜縣吉城郡山田尋常小學校訓導梶兵太郎、同郡三日町小學校訓導平塚武一郎の二氏、(十三日)福井縣農會農事視察員中條善兵衛、柴田利太郎、岐阜縣蠶種撿査員本莊默平、中山啓一、小倉一三、伊藤藤二、長谷川儀一、宮崎甚一、山梨縣陜中日報主幹乙黑直方、山梨縣農工銀行頭取加賀美嘉兵衛、山梨縣內藤文二郎、山梨盛業會社員野田儀一、山梨縣農會副會頭淺尾長慶、愛知縣岡田虎二郎の十四氏、(十五日)岐阜縣惠那郡村知町小學校教員梶田鉄三郎氏、(十六日)信濃國小縣郡浦野村鳥羽三千之助氏、(十八日)丹波篠山私立中學鳳鳴義塾教員松野重太郎氏始め同校職員三名生徒八名及岐阜縣土岐郡陶器學校長熊澤治郎吉氏等、(廿一日)德島縣農事試驗場技手黑木和吉氏、(廿三日)長野縣下高井郡農事巡回教師村岡義敎、岐阜縣農學校敎諭山口篤藏、揖斐郡書記長屋四郎兵衛の三氏、(二十五日)大垣便郵電信局長始め美濃國各三等郵便電信局長四十五名、(廿六日)石川縣河北郡參事會員村儀太郎、同郡能瀨尋常小學校長中西讃藏、信濃國教育會下伊那郡會派遣員藤枝利市の三氏、(廿七日)京都府與謝郡上宮津高等小學校岩見勇藏氏、(廿八日)岐阜測候所員牧野賢二、同青木成一、安八郡小野高等小學校訓導清水直一郎、陸軍輜重兵曹長堀內薫男の四氏、(三十日)山縣郡蠶絲同業組合長高井助左衛門、大野吉城郡蠶絲業組合長役田貢、美濃命華社後藤吉兵衛の三氏、(十一月四日)加茂郡山の上小學校訓導所和丸、稲葉郡芥見小學校訓導西川長二郎の二氏、(六日)大分縣農會書記豐田敏夫、富山縣上新川郡農事試驗塲丸山精治、栃木縣書記官樺山喜平治、同縣屬青木浦治郎、同縣產業調査員關田嘉七郎、同縣下都賀郡小野寺村池田謙太郎、

京都第二高等小學校浦辻千吉、同辻嚴、の八氏（八日）山縣郡北山南小學校長市岡鋋三氏、（十日）惠那郡加子母第二尋常小學校長內木貫一氏、其他縣下の有志者百數名は來所の上昆蟲標本を參觀せられたり

◎學校生徒の來所　十月十三日滋賀縣伊香郡伊香第一高等小學校川崎泰英氏始め職員十一名生徒三百一名及同縣同郡伊香農業補習學校小久保金藏氏、生徒二十四名、（十六日）愛知縣西春日井郡西部高等小學校職員宮崎鉀一郎外二名、同校生徒六十五名、（十九日）愛知縣第一師範學校生徒宮田瀧氏外八名、（二十一日）岐阜縣土岐郡多治見尋常高等小學校訓導所貞吉氏始め職員生徒五十二名、（二十三日）岐阜縣不破郡垂井尋常高等小學校訓導宇津宮繼雄氏及職名生徒百四名、（二十五日）兵庫縣第一師範學校敎諭西川順三氏始め外生徒十五名（廿六日）岐阜縣安八郡小野尋常高等小學校長垣見岩太郎氏及同校訓導二名生徒八十六名、（九日）尾張國羽栗郡西部高等小學校職員松田信之外七名生徒百五十二名は何れも來所の上夫々縱覽せらる

縱覽之證

明治三十三年十一月三日

名和昆蟲研究所

◎第廿三回岐阜昆蟲學會の景況　同會第貳拾參回月並會は例に依り本月三日（第一土曜日）に開會せしが當日は恰も天長の佳節に相當せしを以て聊か祝意を表せん爲め豫てより諸種の準備に怠りなかりしが愈々當日となりたれば會場正面の屋上より揭出せし祝天長節の大額面は其文字を蝶、蜂、甲蟲等の尤も美麗なる昆蟲を撰擇して造りたれば美觀云はん方無くギフテフ及其幼蟲食餌なる巨大のウスバサイシン等は形態着色共に眞に迫り轉た觀者をして感嘆措かざらしめたり偖而場內には新來の濠洲產及米國產の昆蟲標本、昆蟲を模擬し又は昆蟲の摸樣の入りたる美術工藝品五百

有餘点、岐阜中學校敎諭長野菊次郎氏及名和昆蟲研究所畫工伊藤七郎氏名和たか子孃等か雄健の筆に成れる昆蟲類有益鳥類及各種の花卉等の寫生圖數百點を整然配列し其他害蟲驅除講習生昆蟲講習生等の寫眞あり簡單製作の昆蟲標本あり今回募集の懸賞昆蟲寫生圖あり水產昆蟲の活ける儘水中に游泳せるありてさしもに廣き會場も狹隘なる迄に陳列せらる廳て午前八時頃より參觀の學生有志者等門前立錐の餘地無き迄に集合せしを以て午前九時より縱覽を許す筈なりしも特に八時半より入場せしめたり此日縱覽者の人數を知らん爲め二つには紀念として長く保存に適する樣意匠を凝したる縱覽劵を調製して交附せんとせしも時日逼迫して間に合はざりしを以て上圖の如き簡單なる縱覽劵に番號を附して交附せしが觀者陸續として引も切らず正午過る頃迄に千二百餘人に及びたり午后二時頃より會員一同は階上休憩室に於て茶話會を開き席上名和氏の挨拶岐阜中學校敎諭長野氏が自己出品に係る寫生圖に就ての談話等あり猶當日長野氏よりは菓子を名和氏よりは自製のイナゴの儀助賓を來會者に饗せられ各々胸襟を開て研究上の談話を爲し午后四時頃より思ひ〳〵に退散せり以上記するが如く縱覽者意想外に多かりしを以て中途縱覽劵に不足を生したるを以て直に職工を招きて隨而印刷すれば隨而交附する等來觀には些の不便をも與へざりしも來賓の應接會場の監督等頗る多忙を極め所長始め所員一同殆と忙殺されんず有樣なりかくて午后五時全く會場を閉鎖せしが縱覽者總數は千八百餘名にして非常に盛會なりしと云ふ

◎昆蟲水曜會の景況　同回第六回(十月十日)より第十回(十一月七日)に至る迄相不變每水曜日每に開會し來りしが其概況を簡單に記載せんに棚橋昇氏はヂバチに寄生せしスチロプスに就て名和正氏はアカコカモドキに就て其他名和梅吉氏は上京中の研究談、福井克蕤氏愛知縣農事試驗場參觀談、宮脇繁松氏の蛹蟲と寄生蜂の關係に就ての談話を始め所員一同每回種々の實驗談ありたり

◎岐阜縣山縣郡小學校敎員昆蟲講習會の景況　同會は十月廿三日午前十時岐阜市京町名和昆蟲研究所に於て其開會式を擧行し午后より引續き授業を開始し爾后五日間に於て規定の講習科目を終り四月廿七日午后二時證書授與式を擧げられたるが其摸樣を記さんに主催郡よりは後藤郡長渡邊郡視學平田郡書記臨席し來賓には縣知事代理峯視學官龜井師範學校敎諭小川農學校敎諭村井第三課屬田中縣農會理事等にして席定まるや渡邊視學は開會中の經過を報告し次に後藤郡長は修

業生三十六名に證書を授與し終て式辞を朗讀せられ次に名和講師の訓誨峯視學官小川農學士田中農會理事等の祝辞演說生徒惣代の答辞等を以て式を終り直ょ同所に於て茶話會を開き四時頃より思ひ〳〵に退散せりと云ふ

◎宮城縣に於ける害蟲圖解と昆蟲世界　宮城縣に於ては小學校生徒に害益蟲の性質を知得せしめ兼て理科思想の養成を斗らん目的にて當所發行の害蟲圖解を各學校に備へ付くる事となし又同縣志田郡古川警察署長岩淵俊夫氏は部下の各警官をして害蟲驅除益蟲保護奬勵を爲さしめんとて當所發行の昆蟲世界を一般に講談せしむる事となしたりと永澤小兵衛氏よりの近信に見へたり

◎宮城縣に於ける昆蟲講習會　曩に同縣仙臺市始め亘理、志田、の各郡に於ては永澤小兵衛氏（第二回全國害蟲驅除講習修了生）を聘して講師となし昆蟲講習會を開設せし事は嘗而本紙にも掲載せし處なるが今又聞く處に依れば同縣名取郡々農會教育會聯合の上同郡役所内にて十一月二十四日より同二十九日迄六日間水澤氏を講師となし昆蟲講習會を開設せし由而して講習生は小學校教員、農事巡回教師及篤志者等卅八名にして頗る盛會なりしと云ふ

◎懸賞昆蟲寫生圖　嘗て當所が初等教育圖書科に於ける實物寫生の奬勵ょ資せん爲め懸賞にて蝶の寫生圖を募集せしょ第一回〆切期日（十月三十一日）迄に當所へ達したる寫生圖は百四十点に及びたるを以て夫々審査の上一等賞二名二等賞四名三等賞六名を撰拔し夫々賞品を授與する事と爲せしが其受賞者の氏名及詳細の記事は次號に讓り茲には應募者の府縣別及點數を載せて讀者の參考に供す北海道一、福島縣二、東京府三、靜岡縣一、愛知縣二五、三重縣七、岐阜縣三三、大坂府一、和歌山縣六三、廣島縣一、山口縣三、計百四十點、内小學校生徒、五十四點、

因に第二回懸賞募集は本號廣告欄に詳記しあるを以て參照の上續々應募寄送あらん事を望む

◎害蟲驅除に就き視學官の通知　和歌山縣視學官小杉恒太郎氏は縣下各小學校へ左の如き通知を爲したりと云ふ

稻田に發生する害蟲其類少なからずと雖も就中尤も恐るべきものを螟蟲となす蓋し螟蟲の害たるや浮塵子の如く其襲擊急激ならずと雖も恰も人体に於ける痼疾の如く其害年々に亘りて漸く劇甚を加へ遂に復救ふべからざるょ至り其驅除の如きも亦頗る困難にして發生甚だしきに當りては非

常の勞力と費用とを以てするも充分の効果を見る能はざる趣に候處近來當縣に於ても年々螟蟲の發生著しく益蔓延を來すの狀況にして積日鋤耘の辛苦も秋收に至りて一粒の結果を見る能はざる悲境に陥るもの其例少しとせず就中本年日高西牟婁兩郡内に發生せる螟蟲は實に非常の蔓延にして全村の稻毛擧げて白毛に歸せんとするの慘狀なるを以て既に左記各町村に對し明治二十九年三月法律第十七號害蟲驅除豫防法並に同三十年二月當縣令第二十二號豫防法施行規則に基き害蟲に罹りたる稻株の處理及點火誘殺等に對し本年中幷に三十四年中に處理すべき要項を記し知事より訓令相成候然るに右驅除に對する勞力と費用の如きは直接農民の負擔に歸すべきものにして小學校職員兒童等の別に干與すべきものにあらざるの觀なきにあらずと雖も是等は兒童敎育の任にあるもの丶又恬として袖手傍觀すべき秋にあらず努めて兒童を奬勵し家庭勞力の補助を爲さしめ協同を尙ふの習慣を養ひ傍ら父兄を持導して驅除に全力を注がしめ害毒を蔓延せしめざる樣間接に尽力相成度命に依り小官より此段及通牒候也明治三十三年十月二十九日內務部第三課長視學官
小杉恒太郎縣下小學校長訓導御中　（下畧）

◎三十三年度の害蟲驅除豫防費　農商務省の調査に據れる明治三十三年度地方税勸業費豫算決定額中害蟲驅除豫防等に關する費額は左の如し

府縣	費目	金額	府縣	費目	金額
京都府	害蟲驅除豫防補助	五〇〇、〇〇〇	大坂府	種苗及驅蟲	四五一、七一〇
茨城縣	害蟲驅除豫防	二〇、〇〇〇	栃木縣	害蟲驅除	一〇、〇〇〇
三重縣	害蟲驅除	三〇三、〇五〇	滋賀縣	害蟲驅除豫防	一〇〇、〇〇〇
岐阜縣	（害蟲調査及驅除講習	一、五三九、〇〇〇	福島縣	害蟲驅除豫防	三〇〇、〇〇〇
	（害蟲驅除豫防法補助	五〇〇、〇〇〇	石川縣	害蟲驅除豫防補助	一〇〇、〇〇〇
岡山縣	害蟲驅除豫防奬勵	七、〇〇〇、〇〇〇	廣島縣	害蟲驅除豫防	一〇〇、〇〇〇
和歌山縣	害蟲驅除豫防講習生手當	一六〇、〇〇〇	香川縣	害蟲驅除豫防補助	一、〇〇〇
熊本縣	害蟲驅除補助	二、四〇〇、〇〇〇	宮崎縣	害蟲驅除豫防補助	一、〇〇〇、〇〇〇

◎第六回東海農區農事大會席上に於ける昆蟲講話　同會は十月十日より三日間名古屋市に於て開會せられしが該會の講話中昆蟲に關する問題はスリップスの驅除に就て美濃部鑛太

郎氏貯藏米穀蟲害豫防、岡村左右松第一回全國昆蟲展覽會に就て名和靖の三問題なりしと而して名和氏の演説は其筆記を得たれば他日の本紙に掲載することゝ爲すべし

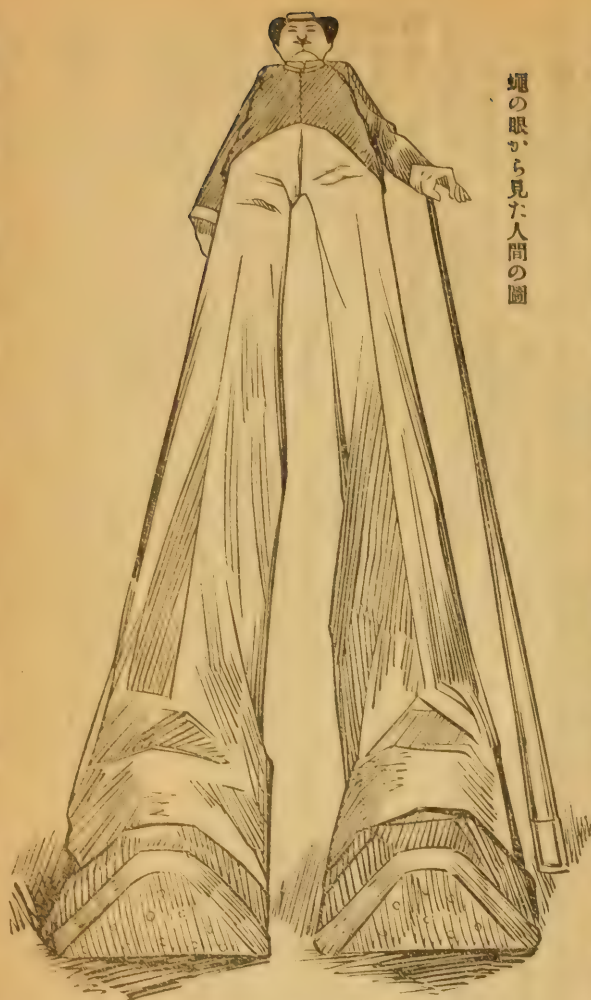
◎農事大會決議案中昆蟲に關する件　前項記載の東海農區農事大會の決議案中昆蟲に關する案件にして討議の末可決せし問題を聞くに名和昆蟲研究所國庫補助請願の件、螟蛆驅除豫防取締規則を發布せられん事を各縣知事へ建議の件等なりと云ふ

◎日本新聞の昆蟲記事　日本新聞記者寒川陽光氏は曩に鳴聲を發する昆蟲調査の爲め來所せられ數日間滯在の上種々研究する處ありしが十月二日より同十九日に亘り同新聞紙上に西郊風露と題し蟬を始めマツムシ、スヾムシ、コホロギ等總て鳴聲を發する昆蟲の種類棲所發音等に就き最も面白く綴りて掲載せられたり

◎合衆國の蚊族　合衆國農務省昆蟲局のBulletin No. 25-Newseries誌上に於て米國の昆蟲學者ハワード氏は合衆國の蚊と題し蚊族の性質發生經過より麻刺里亞との關係及び驅除豫防法に就き詳論し其内に蚊の種類二十三種を擧げられたり本邦に於ても麻刺里亞の關係等ありて種類調査の必要あれば今參考の爲め左に掲載することゝなしぬ

1. Culex taeniorhynchus, Wied.
2. Culex fasciatus, Fabr.
3. Culex taeniatus, Wied.
4. Culex stimulans, Walk.
5. Culex posticatus, Wied.
6. Culex impiger, Walk.
7. Culex triseriatus, say.
8. Culex perturbans, Walk.
9. Culex tarsalis, Coq.
10. Culex signifer, Coq.
11. Culex excrucians, Walk.
12. Culex excitans, Walk.
13. Culex pungens, Wied.
14. Culex consobrinus, Desv.
15. Anopheles punctipennis, Say.
16. Anopheles quadrimaculatus, Say.
17. Anophlees crucians, Wied.
18. Psorophora ciliatus, Fabr
19. Megarhinus rutilus, Coq.
20. Megarhinus portoricensis, Roeder.
21. Megarhinus haemorrhoidalis, Fabr.
22. Aedes sapphirinus, Osten Sacken.

23. *Aëdes fuscus*, Osten Sacken.

◎巴里萬國博覽會出品の昆蟲標本受賞　名和昆蟲研究所が佛國巴里萬國博覽會へ出品せし廿四箱の昆蟲標本は審査の結果優等と認められ銀牌を受くる事となりたるが聞く處に依れば各府縣より出品せし數最と多きが中にも獨り昆蟲標本は極めて尠なく殊に我が國よりは西ヶ原農事試驗場より出品せしものと當所出品のものと僅か二三種に過ぎずして本邦出品中眼立ちて見へたり然れども外國の出品物に比し規模狹小に失し何となく物足らぬ觀ありしは誠に遺憾とする處今若少しく之れに裝飾を加へ大袈裟ま仕掛けたらんには金牌を授與せらるゝは必定なりしならんと或る評者は云へり何れにしても今回の出品に對しては銀牌を受くる事は確かなりと云ふ

蠅の眼から見た人間の圖

◎蠅の目から見た人間　と題し十月廿四日の時事新報に圖入りにて左の如き記事あり一寸

面白ければ茲に轉載する事となしぬ
或る博物學者の說に據ると蠅の目から人間を見ると丁度地上に立つて居る人間の高さが人間の二千尺に相當するとの事である漸く歩るか歩かないかの孩兒でさへも蠅からは二千幾倍とある亞米利加の大建物に疋敵する透視畫法の規則が蠅の目にも適用されるのは固よりの道理であるから地上で人間を見上げると肩の邊りなどは遙に細くなつて頭は殆ど點の如く消へて行つて了ふ其處でそれを想像して畫に示すと即ちこの通り

◎清水三男熊氏の逝去　同氏は熱心なる昆蟲學者にして過る明治二十三年當所長名和氏が稻の早植と害蟲の關係に就ての懸賞論文を募集するに當り氏は精細緻密なる應答文を草して優等賞を得られ又久しく職を長野縣第四課に奉し同縣に螟蛆の多きを憂へ夙に之れが性質經過等の研究に盡粹し遂に螟蛆驅除の新法を發明し或は雜誌等に筆を執りて幾多の實驗を公にし斯學界に貢献する所尠からざりしが不幸十月十二日長野病院に於て遂に逝去せられしと噫哀哉氏は猶春秋に富み前途頗る有望の士なり今や溘焉逝て歸らず哀悼の情焉ぞ禁せん吾人は氏の履歴調査中なれば他日本紙に掲載して聊か其効勞を表彰せんとす

◎新刊雜誌の昆蟲記事　新刊雜誌中に掲載せられたる昆蟲に關する重なる記事は左の如し

（一）大日本農會報（第二百廿九號）向坂幾三郎氏はコバチウンカ（ダンゴヨコバイ）蟲の雄と題しコバチウンカの雌は常に採集し得らるゝも之れが雄は頗る小數にして容易に發見する事難く從て未だ雄蟲に關する研究あるを聞かず余は常に如斯小數の雄が多數の雌に能く配合し得らるゝものなるや否やを疑ひ本年卵塊を孵化せしめ養育せりとて其試驗成蹟及成蟲の形態等を詳記し且つ一母体より生するものと雖も雌は概して短翅にして雄は專ら長翅を有する事實確め得たりと說けり
（二）動物學雜誌（第百四十四號）岩川友太郎氏日本產天牛科は前號に續き着色石版圖を挿入して天牛類十二種に就て記載せらる、宮島幹之助氏は日本產蝶類圖說並に其總目錄を載す
（三）岩手學事彙報（第五百六十四號）岩手縣產の蝶類と題し鳥羽源藏氏は同縣產の蝶類を掲ぐ
（四）大和講農雜誌（第五十三號）には害蟲と鳥類の關係と題し益鳥類二十種に就き其習性を簡單に說明せらる

(五)愛媛縣農會報(第十八號)今治藩に於ける享保十七年害蟲發生飢饉の慘狀と題し全城狂生は近年害蟲至る處に發生し上下驅除に汲々たり今や享保年間に於ける害蟲の爲め受けたる飢饉の狀況を世ェ紹介する無用の事にあらざるなしとて當時今治藩舊記の一章を抄出せり

(六)青年農會報(第四十四號)名和梅吉氏、の昆蟲雜記には圖入にてキスヂバチの働き、夜中採集と夜盜蟲、ホタルハムシ蘿蔔を害す、蚊モンシロテフの蛹を刺す等の題目の許に之等昆蟲に就ての實驗說を揭ぐ

(七)中央農會報(第七號)宮崎縣浮塵子發生臨時報告書を載す

(八)農業世界(第十九號)青柳浩次郎氏はカーニオラン蜜蜂と題し前號に續きて其飼育の概況を揭げ且働蜂が頻りに食卵するを認めたるを以て其源因と信ずべきもの三つを撰みて夫々試驗せしも當らざるを以て全く其源因不明に屬すと說く

(九)農業世界(二十號)木食蟲の說と題して青苦園主人は苹果のカミキリムシ習性經過及驅除豫防法を揭げ又弘田潔巳氏は蜜蜂に就てと題し分封と產卵との關係に就て詳細に記述せらる是に對して同紙記者の詳論を揭ぐ

(十)京都府農會報(第九十九號)は熊野郡害蟲驅除實況報告を載せたり

(十一)臺灣醫學雜誌(第八號)蚊の生涯の榮枯盛衰に就てと題し蚊は若し各種の水棲肉食性昆蟲の棲む場所に產卵せば遂に捕食を免れず故に之れ等のもの〻存在せざる處に產卵せられたるもの〻み蕃殖すと說く又上海及ジャワより送附したる蚊中アノフエーレス發見の事をも記せり

◎志田郡昆蟲學硏究會規則　宮城縣志田郡に於ては去る七月昆蟲硏究會なるものを組織せし由なるが今其會則を得たれば左に揭ぐ

志田郡昆蟲學硏究會々則

第一條、本會は志田郡昆蟲學硏究會と稱す
第二條、本會の事務所は假りェ志田郡役所內に置く
第三條、本會は昆蟲學に關する事項を硏究し農業上の稗益を計るを以て目的とす
第四條、本會々員は左の二種とす
一、名譽會員　二、正會員

第五條　名譽會員は本會に功勞あるもの又は斯業に關し學術經驗あるものを推薦し正會員は應用昆蟲學講習員並に本會の目的を賛し入會せしものより成る
第六條　本會に左の役員を置く
　會長一名、副會長一名　幹事若干名　理事若干名
第七條、會長は會務を總理し本會を代表し會議の長となる副會長は會長の事務を補佐し會長事故ある時は之を代理す
第八條、役員の任期は二ヶ年とす滿期再撰することを得　但缺員を生じたる時は評議員會に於て補缺撰擧を行ひ其任期は前任者の殘任期間とす
第九條、會長副會長は會員中より之を撰擧す
　但名譽會員中より推薦する事を得
第十條、幹事は會長之を任命し理事は町村毎に二名宛互撰するものとす
第十一條、幹事は會長の指揮を受け會務を整理す
第十二條、理事は該町村を統一し本會事業の普及を圖るものとす
第十三條、本會は本會の目的を達せん爲め左の事項を行ふものとす
一、標本若しくば圖書の製作　二、害蟲の驅除豫防を講する事　三、益蟲の保護及繁殖を圖る事　四、標本圖書及器械等の陳列場を設け衆庶の縱覽に供する事　五、講話會を設くる事　六、農事に關する法令の實行を期する事　七、目的を同する他の會と氣脈を通する事　八、斯業に關する統計調査を爲す事　九、行政廳又は其他の諮問に對し答申を爲す事　十、斯業研究の爲め視察員を派遣する事　十一、前各項の外斯業發達に關し必要と認むる事項
第十四條、本會の會議は左の二種とす　總會　評議員會
第十五條、總會は每年二回（春秋季皇靈祭日）各町村輪番に之を開き左の事項を擧行すべし
一、會務會計の報告　二、役員の撰擧　三、會則更正　四、演説談話討議等　五、其他重要と認むる事項
第十六條、臨時總會は會長に於て必要と認めたる事項あるか又は會員三分の一以上の請求ある時之を開くものとす

第十七條、評議員會は役員を以て組織す會長に於て必要と認めたる時又は理事員三分の一以上の請求ありたる時之を開くものとす

第十八條、評議員は左の事項を議定するものとす

一、總會に提出すべき議案、二、經費の豫算及收入方法の調査、三、會長諮詢する事項、四、其他總會に於て委任せられたる事項

第十九條、會議の議案は會長之を發す建議案は會員三分の一以上の同意を以て提出する事を得

第二十條、會長、副會長事故ありて出席せざる時は會員中より議長を撰擧す

第廿一條、會議は會員三分の一以上出席するにあらざれば議事を開く事を得ず

但時宜に依り定員數に滿たざるも開く事あるべし

第廿二條、本會の經費は會員の負擔とす但有志者の寄附金又は公費の補助金を以て之れに充る事を得

第廿三條、本會の經費は總會に於て其分布收入の方法を議定す

第廿四條、會員は當分の中一ヶ年に金貳拾錢を醵出し會費に充つべし

第廿五條、本會に基本財產を設け之を維持するものとす

第廿六條、經費の不足又は豫算外に生したる必要なる經費の爲め會費の追徵を要する場合には總會の決議を經るものとす

第廿七條、本會に入會せんとするものは會員の紹介を經て會長に申出べし

第廿八條、本會に入會したるものは凡て本會規定の事項を遵守するの義務を有す

第廿九條、退會したるものは會費の返戻又は財產に對し要求を爲す事を得ず

第三十條、本會を退會したるものは退會以前に係る會費負擔の義務を免るゝ事を得ず

◎浮塵子の撲滅菌　山口縣農事試驗場に於ては先頃偶然褐色浮塵子が深紅色を呈して斃死せるを認め或は黴菌の寄生せるものならん乎との疑を起し顯微鏡的調査を爲せしに果して無數の細菌蕃殖せるを認め其后種々試驗を經たる結果愈此病菌は浮塵子を撲滅するに足る最も猛烈なる傳染性を有する事を確め得たる由なるか何分發見の時季本年の稻作の終末にありしを以て尙ほ充分なる試驗を行ふ事能はざりしは聊か遺憾とする處なれども此黴菌にして果して實地驅除に應用するを得る

よ至らば其稗益は蓋し莫大ならん

◎螟蟲被害實地調査(可驚被害)　福岡縣三潴山門兩郡の被害劇甚なる事は屢々聞く處なるが當業者又役場員の唱ふる被害高は角兎茫漠として明確ならざれば同縣農事試驗場よては實地調査の爲客月片田場長、黑木技師等出張し役場員當業者立合の上被害最大の個所と最少の個所を選み精確の調査を遂けしに三潴郡田口村の如き實に驚くべき被害にして試驗前當業者の評定四割位ひの被害なるべしと爲したるもの實際は八割一分三厘にして而かも調査の被害莖は最初の出穗よて大莖なれども健全莖は孰れも遲穗に屬し短細莖の事なれば愈々實際取上けの場合に至らば被害の割合は一層多大となり八割何と云ふもの九割以上となるべしと云ふ其郡調査結果は左の如し

三潴郡田口村

一被害最少の分
稻種白選穗 十坪に付 總穗數 八、四三二……(健全莖 六、六四三 被害莖 六、七八九) 被害歩合 二割、一一二

同上

二被害最大の分
稻種不明 十坪に付 總穗數 七、〇七七……(健全莖 一、三一七 被害莖 五、七六〇) 被害歩合 八割、一三

同郡大溝村

一被害最少の分
稻種不明 十坪に付 總穗數 一〇、四〇四……(健全莖 九、六二六 被害莖 七七八) 被害歩合 〇割、七四

同上

二被害最大の分
稻穗白選穗 十坪に付 總穗數 九、二三六……(健全莖 三、三二九 被害莖 五、九〇七) 被害歩合 六割、三九

山門郡清水村

一被害最大の分
稻穗御開山 十坪に付 總穗數 七、四一四……(健全莖 二、九九六 被害莖 四、四一八) 被害歩合 五割、九五

平均被害歩合被害最大六割八二、被害最少一割四三　(福岡日々新聞)

◎助手の研究旅行　當昆蟲研究所助手名和梅吉氏は十月十五日昆蟲學研究の爲め上京し農事試驗場及諸大學等の大家を歷問して同三十日歸所したり又本月五日助手福井克雄氏は愛知縣農事試驗場へ同日助手宮脇繼松氏は滋賀縣農事試驗場へ何れも昆蟲學見聞の爲め出張したり

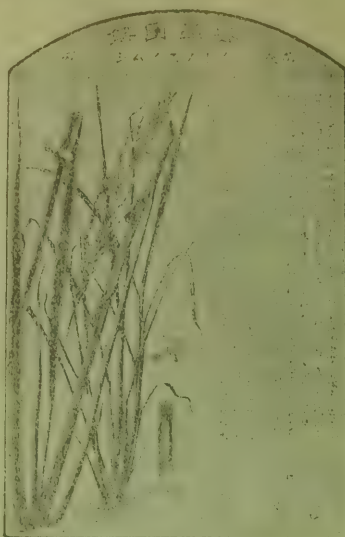
○害蟲圖解出版廣告

●第一桑樹害蟲エダシヤクトリ(枝尺蠖)(參版)
●第二桑樹害蟲トゲシヤクトリ(刺尺蠖)(再版)
●第三稻の害蟲イ子ノズイムシ(二化生螟蟲)
●第四煙草害蟲タバコノアチムシ(煙草螟蛉)
●第五稻の害蟲イチモジセヽリ(苞蟲)
●第六桑樹害蟲ヒメゾウムシ(姬象鼻蟲)
●第七桑樹害蟲シンムシ(心蟲)
●第八稻の害蟲イ子ノアチムシ(螟蛉)
●第九茶の害蟲ミノムシ(避債蟲)
●第十豌豆害蟲エンドノキリムシ(夜盜蟲)
●第十一桑樹害蟲クワカミキリ(天牛)

●印は既版の分

○稻の害蟲ツマグロヨコバイ(浮塵子)
○桑樹害蟲イトヒキハマキムシ
○茶の害蟲チヤケムシ(茶蛅蟖)
○桑樹害蟲キンケムシ(金蛅蟖)
○稻の害蟲イナゴ(蝗蟲)
○稻の害蟲フタホシズイムシ(三化生螟蟲)
○桑樹害蟲アオハマキムシ(青葉卷蟲)
○桑樹害蟲クワハマキ(桑葉卷蟲)
○蔬菜害蟲モンシロテフ(菜の螟蛉)
○松樹害蟲マツケムシ(松蛅蟖)
○梅樹害蟲ウメケムシ(梅蛅蟖)
○梨の害蟲ナシゾウムシ(梨象鼻蟲)
○大豆害蟲ヒメコガ子(金龜子)

○印下は逐次出版の分

●圖解の紙幅　縱一尺三寸橫九寸
●壹枚の代價　拾五錢郵稅貳錢
●百枚以上一纒代價　壹枚拾錢郵稅百枚に付き貳拾錢

●豫約代價

圖解代金　壹枚拾錢郵稅貳錢
但申込の際前金添附の事
凡て前金にあらざれば回送せす但郵劵代用一割增の事

右害蟲圖解第一か第十一迄は既に發行を成し江湖の高評を博したりと雖も未だ當業者全般に普及せざるの憾なしとせす抑本圖解は鮮明なる着色石版圖にして被害植物の實際より害蟲の性質經過等一目瞭然に描寫し加ふるに平易なる解說を附したるを以て普通農家に於ても尤も理解し易く尤も必需のものたり故を以て岐阜縣に於ては既に之れを採用し各町村農會及小學校は勿論村町役塲警察署等へも頒布せしに一般ょ害蟲の經過習性等を解得し害蟲驅除上著大の効を奏したりと云ふ依而當所は此際憤勵一番更に重要作物の重なる害蟲を撰擇し逐次出版せんとす而して該出版物に對しては特ょ豫約と爲し前掲の如く價を低減し大に當業者に普及し實用に適應せしめんとす豫約希望者は速に御申込みあれ又既に出版濟みの分は各町村役塲又は町村農會小學校其他の團体に於て御取纒め一手購求せらるゝ時は大に便利なり乞ふ幸に愛顧を垂れ陸續御注文あらん事を

岐阜縣岐阜市京町

發行所　名和昆蟲研究所

「裳華房」移轉に付祝意割引廣告

肅啓時下秋冷の砌各位益々御健康の段奉賀壽候陳者平房儀 兼而大方諸彥の御愛顧ニ依り今般肩書の處に移轉致候間御報告代用私製端書五十萬枚を石刻仕候に付二十枚一組として讀者諸賢に限り呈上候間御使用被成度候尙ほ不相變御引立の程伏而奉希上候敬具

東京日本橋區大傳馬塩町十一番地

裳華房 芳野兵作

明治三十三年十一月三日

追伸移轉開業の祝意を表する爲め今般殊更に版を重ね紙質印刷は勿論製本總クロース製に相改め非常の大割引を以て發賣（正價の二割引（十一月三日より同月卅日まで）御申込の方へ特別割引す（其後は一切御斷の事））致候間多少に不拘御用向被仰付度奉願候

（一）御注文は總て前金の事　（二）郵便爲替向所は本石町郵便受取所宛　（三）郵券代用一割増の事　（四）總て御注文の書籍は十一月三十日より着金順序を以て發送可致候事

（五）購讀者の便宜を計り名和昆蟲硏究所內に於て弊房同樣に取扱可申候事

書名	著者	版	價	郵稅
農業本論	農學博士 新渡戸稻造先生著	訂正第三版 洋裝全壹冊	正價金壹圓五拾錢	郵稅金拾六錢
農業金融論	博士佐藤先生校閱 農學士伊藤先生著	新版洋裝 全壹冊	正價金壹圓八拾錢	郵稅金拾八錢
日本昆蟲學	農學士獨逸留學 松村松年先生著	增補第四版 洋裝全壹冊	正價金壹圓七拾錢	郵稅金拾貳錢
日本害蟲篇	農學士獨逸留學 松村松年先生著	訂正第三版 洋裝全壹冊	定價金參圓參拾錢	郵稅金貳拾錢
最近米穀論	農學士 大脇正諄先生著	訂正第二版 洋裝全壹冊	正價金壹圓參拾錢	郵稅金拾四錢
農業氣象學	中央氣象臺 中川源三郎先生著	增補第二版 洋裝全壹冊	正價金壹圓貳拾錢	郵稅金拾貳錢

（明治三十三年十一月十五日發行）　昆蟲世界　（每月一回十五日發行）

第四卷第參拾九號

昆蟲世界第三十八號目次

明治三十三年十一月十五日印刷並發行

岐阜縣岐阜市今泉九百三番戶ノ二

（岐阜縣岐阜市京町）

發行所　名和昆蟲研究所

岐阜縣岐阜市今泉九百三番戶ノ二

發行者　名和靖

同縣山縣郡岩野田村大字粟野百廿三番戶

編輯者　桑原貫之助

岐阜市笹土居町四十四番戶

印刷者　安田豐八

（明治三十年九月十日內務省許可 明治三十年九月十四日第三種郵便物認可）

（岐阜市安田印刷工場印刷）

PRINTED BY YASUDA TYPE PRINTING WORKSHOP, 19, Higashi-tsukasa-machi, Gifu, Japan.

(明治三十三年十二月十五日發行)　(毎月一回十五日發行)　(明治三十年九月十四日第三種郵便物認可)

Vol.IV.　DECEMBER　15TH,　1900.　No.12.

THE INSECT WORLD:

A MONTHLY MAGAZINE.

EDITED BY Y. NAWA.

GIFU, JAPAN.

(毎月一回定時刊行)

昆蟲世界

第四拾號　(第四卷第十二冊)

目次　(禁轉載)

PUBLISHED BY THE NAWA'S ENTOMOLOGICAL LABORATORY IN GIFU, JAPAN.

◎寄附物品受領公告

一金拾五圓也　第六回全國害蟲驅除講習員一同
一金壹圓也　第六回全國害蟲驅除修業生　園原彰君
一金壹圓也　同上　三代作次郎君
一金壹圓也　同上　細川幸重君
一金五拾錢也　同上　小野覺太郎君
一金參圓也　同上　辻信吉君　出口安太郎君　作田久米之丞君　野村耕治君　上村杢太郎君　和田善六郎君　豐島左次右エ門君　島岡英夫君　中村平吉君　山下和六君
一金參拾錢也　同上　武本豐治君
一金六拾錢也　同上　今村藤三郎君　藤田儔君　佐藤逸郎君
一全身肖像(寫眞)一葉
一蝶のかんざし三本　同上　猪野範欣君
一石鹸箱(昆蟲摸樣附)一個　同上　金原左右作君
一祝儀袋(蝶摸樣附)十枚　同上　金原左右作君
一ナフキン(蝶摸樣附)一枚
一昆蟲摸樣附商標二葉　廣島縣　小山彰君
一蓋物菓敷(蝶摸樣附)一個　岐阜市　伊藤七郎君
一對馬産ゴミムシ一種一頭　長崎縣　平田駒太郎君
一新種のトンボ拾頭　長野縣　百瀬茂君

右當研究所へ寄附相成候ニ付芳名を掲げ其御厚意を謝す

三十三年十二月　名和昆蟲研究所

◎第二回懸賞昆蟲寫生圖募集

懸賞課題　蝶、蛾　募集期限(卅四年一月三十一日限)

賞品
一等　二名　昆蟲世界一ケ年分
二等　三名　同　半ケ年分
三等　五名　害蟲圖解　三枚

目下初等教育ニ於て圖書科を課するも多くは手本を與へて臨寫せしめ殆んど實物寫生の應用的練習なきを患ひ茲ニ獎勵の爲め懸賞をして廣く是等の寫生圖を募集せんとす

募集規定　鉛筆畫又は毛筆畫、輪廓線又は光線又は着色適宜、一枚一圖ニ限る、可成實物大を貴ぶと雖も小形のものは放大圖にすること植物を添ふるも宜し、蟲名を記入すること、學校名並ニ姓名を明記すること、一實物を手本として寫生したるものニ限る、圖は一切返附せざること、優等圖は木版或は寫眞銅版ニ製して昆蟲世界の誌上ニ於て發表すべし

明治三十三年十一月　名和昆蟲研究所

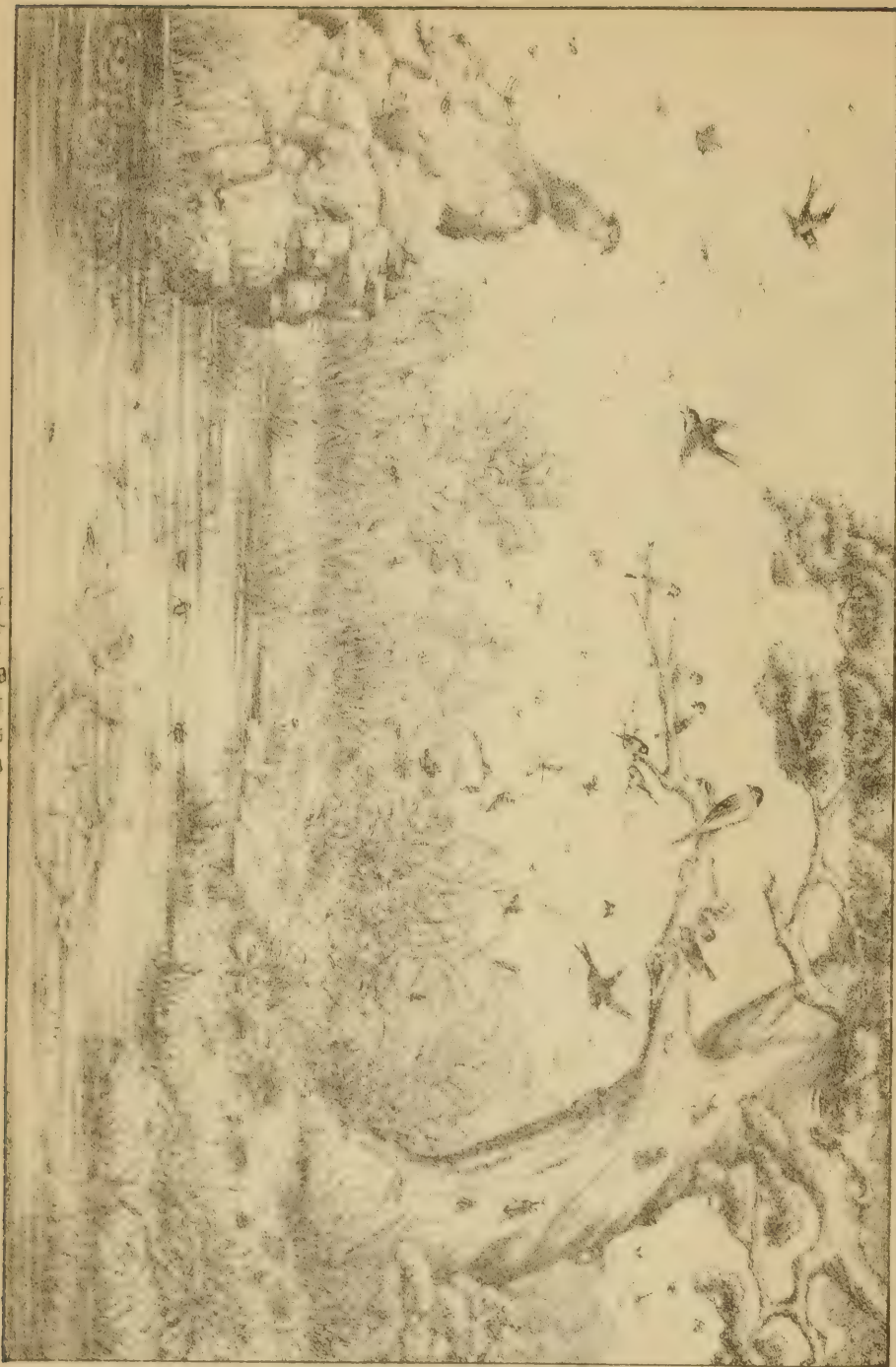
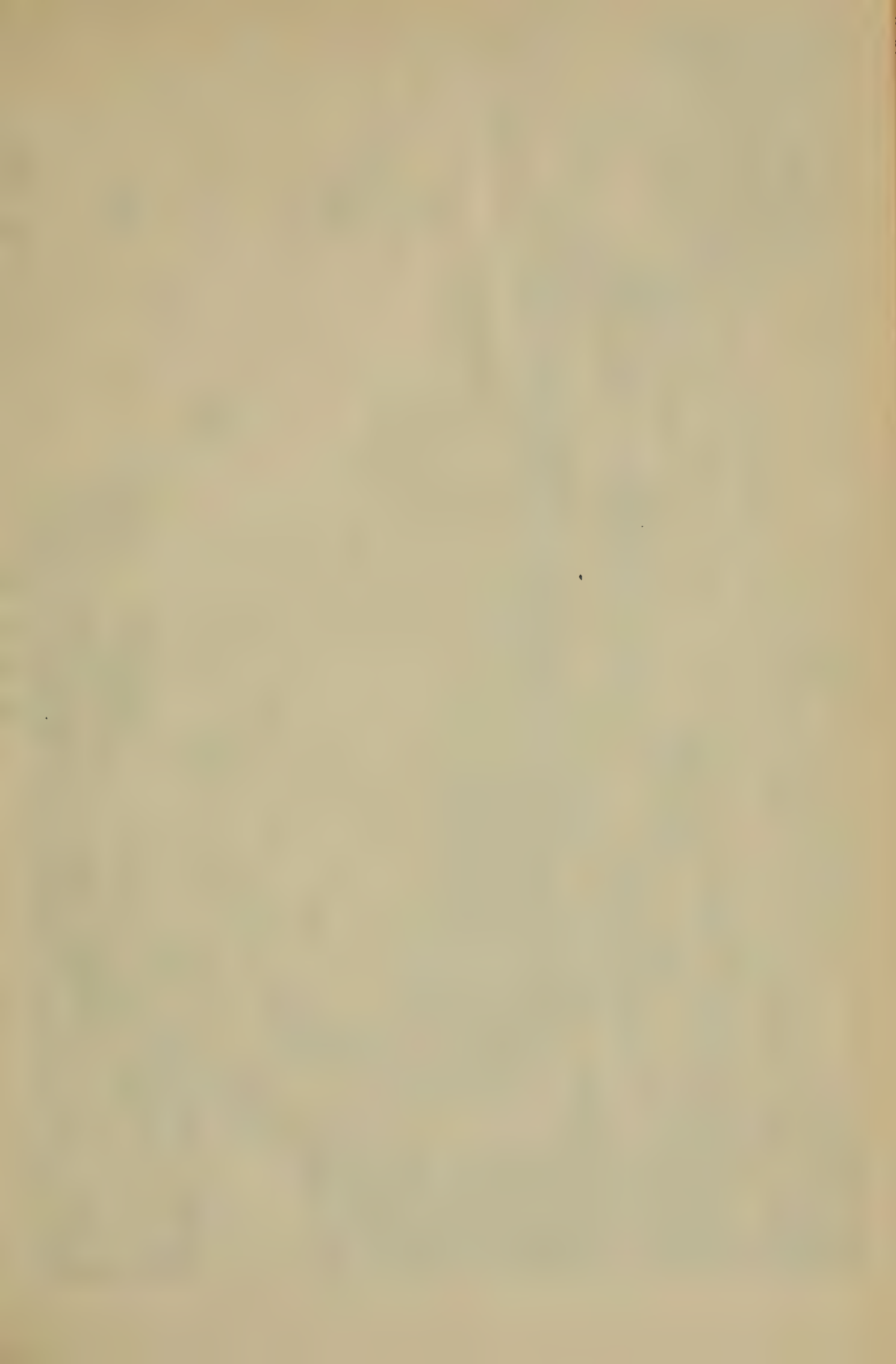
◎昆蟲展覽會寄附金受領公告

明年四月を期し當所主催と成り開設する第一回全國昆蟲展覽會へ寄附金額並に芳名左の如し

一金貳圓也　第二回全國害蟲驅除修業生　谷好之君
一金壹圓也　第二回岐阜縣害蟲驅除修業生　篠田兼次郎君

明治三十三年十二月　岐阜市京町　名和昆蟲研究所

昆蟲世界ノ有樣

論説

◎昆蟲と植物との關係（承前）

岐阜中學校敎諭　長野菊次郎

前回に於ては重に蟻と植物との關係を述べたるが此回よりは一般の植物と昆蟲との關係につきて略述すべし

昆蟲の大部分は植物を食餌として生活し顯花植物の大部分は昆蟲の媒介によりて生殖作用を全ふするものなれば昆蟲と植物との關係の非常に親密なることは固より余の喋々を俟たざるなり

今日に於ては小學校の生徒だも蜜蜂が花粉を甲花より乙花に運びて其生殖作用を助くることを知れども明治の初年に於ては昆蟲と植物との關係につき唯昆蟲が植物に害を與ふることのみを知りて昆蟲が植物に益を與ふることは殆んど知られざる有樣なりき特に明治十一、二年の頃にか農業に經驗ある某氏が蜜蜂は花中に闖入して花蜜を吸ひ大に植物の結實を妨ぐるものなれば宜しく蜜蜂を全滅せしむべしと唱へたることさへありき今日より之を思へば實に寒心すべき至りなれども其理の知られざる時代に於て斯る事の主唱せらるゝは寧ろ當然にして決して異むに足らざるなり然るに多少敎育の普及せる今日に於ても猶迷信頑固の輩は古來の舊慣を墨守して少しも改善の道を計らざるのみか強もすれば改善の方法に向ひて不服を唱へ或は妨害を試みる者さへあるなり古語に一利を興すは一害を除くに加かずといへ

るが如く害物を除くは今日の急務なれども其利害を判別するとは容易の業にあらざるを以て十分沈着の度を取らざる可からざるや必せり唯皮相の觀を以て倉卒に之が利害を斷定せば彼の蜜蜂驅除の如き

イチゲイチヤクサウの自家受精（ケルチル氏より畧寫）

Pirola uniflora,

無智の事實を演ずるに至るべし亞米利加に雀を輸入して大害を釀したるが如きは實に鑑むべきことなりとす

凡そ利害は關係によりて生ずるものなれば昆蟲が植物に對する利害を判定せんと欲せば昆蟲を研究すると同時に植物を研究する必要あり故に余は昆蟲の利害（便宜爰には利のみを説）を述ぶるに先ち植物の花の大要を述ぶる必要あるを信ずるなり

花には通常花被と花蕋とありて花被は重に萼と花冠とよりなり花蕋は重に雌蕋と雄蕋とよりなれり而して花の緊要機關と稱すべきは雌雄兩蕋にして此兩者を欠けば植物は生殖作用を營むこと能はず之に反して萼花冠の兩者は其任重に保護にあるを以て之を保護機關と稱し或は之を欠ける植物なきにしも

あらず(例へば裸花と稱するハンゲシヤウ、ドクダミ等の如し)然れども花被亦決して保護の用のみにあらず生殖上にも非常の關係あることは後章に於て詳論すべし

今植物が受精作用を完ふして果實を結び種子を生ずるには如何なる作用によるかと問はんに之を簡單に答ふれば雌蕋の胚珠が雄蕋の花粉の實質を受くるにありと云はんのみ然らば植物にして古人が信じたりしが如く自家受精を行ふものたらんには雌蕋と雄蕋との關係は略次の條項を備へざる可からず

(一)一花中必ず雌蕋、雄蕋を備ふること

(二)雌雄蕋の成熟期同一なるべきこと

(三)雌蕋の柱頭の位置は花の自然の位置に於て雄蕋の葯より多少下にあるべきこと

然るに此三件を具備して自家受精を行ふ植物例へばイチゲイチヤクサウ Pirola uniflora, L. の如き一、二の例なきにあらずと雖も通常此の如きは甚だ稀にして實際は次の條項に適合するもの多し

(甲)雌花と雄花とを有する植物

(イ)雌雄同株　雌花と雄花とを一株に有するもの

例　カボチヤ　ヘチマ　キウリ　ニガウリ等　(以上胡蘆科)　クリ　カシハ　シヒ　クヌギ等　(以上殼斗科)　マツ　スギ　ヒノキ　サハラ等　(以上松柏科)

(ロ)雌雄異株　雌花を有する雌本と雄花を有する雄本とは別株なるもの

例　ヤナギ　イテウ　カウゾ　アサ等

此他雜性とて一株に雌花雄花兩全花の三種或は二種を備ふるものあり

此類の植物にては到底自家受精をなす能はざるや必せり

(乙)雌蕊雄蕋の成熟期を異にせる植物

(イ)雄花先熟花

例　菊科の多數　繖形科の多數　セキチク　ゲンノシヤウコ　キヽヤウ　ホタルブクロ等

（ロ）雌蕋先熟花

例　ヒナノウスツボ　ゴマノハグサ　モクレン　ウマノスヾクサ　オホバコ　禾本科の多數
燈心草科の多數　ヒルムシロ屬　テンナンゼウ屬

雌雄蕋を同花に備ふるも成熟期を異にすることあるを始めて觀察したるはコンラッド、スプレンゲル(Conrad Sprengel)氏にして此等も亦自家受精をなすに不適當なること明なり

(丙)雌雄蕊に長短ある植物

(イ)長雌蘂と短雄蕊とを有せる花

例　ムクゲ　クチナシ　アヤメ　ハナシヤウブ

(ロ)二形花　甲花は短雄蕊と長雌蕊とを有し乙花は長雄蕊と短雌蕊とを有するもの

例　サクラサウ

(ハ)三形花　甲花は長雌蕊と短雄蕊と中雄蕊とを有し乙花は長雄蘂と短雄蘂と中雌蘂とを有し丙花は長雄蘂と中雄蘂と短雌蕊とを有せるもの

例　エゾミソハギ

此等に於て(イ)の類並に(ロ)(ハ)の甲花は自家受精に最も不適當なること固より論を俟たず然り而して(ロ)及(ハ)に於ける乙花及び丙花は例令自家受精に不都合なしとするも元來一種の植物にして此の如く種々の花形を呈するは抑も如何なる必要あるかは必ず一の疑問に屬すべし

以上陳述せる處は顯花植物の全躰にあらずと雖も此等の植物は到底自家受精を營むに不都合なるや必せり苟も自家受精をなす能はずとせば如何必ず之が花粉傳達の方法を他に仰がざる可からざるなり是に於てか植物受精の方法として他物の媒介を仰ぐ必要を生ずるなり然り而して此他の植物は兩全花にして雌雄蕊も同時に成熟するもの多けれども其花粉は同花の雌蕊に對して殆んど塵埃ほどの効能なきのみか甚しきに至りては毒物と一般の關係を及ぼし若し强て之を附着せしむるときは其花忽ち凋

落することはフリッツ、ミユーレル（Fritz Müller）氏の實驗せる所なり而して自家受精をなし得べき植物も異株受精をなして生じたる結果と比較するときは實に次の相違あることは數多の學者によりて確められたり而して始めて之に注意せしは實はコンラッド、スプレンゲル氏なり

（一）自家受精にて生ずる實は異株受精によりて生ずる實より其數少し

（二）自家受精によりて生ずる實は異株受精によりて生ずる實より概して小にして重量輕し

（三）自家受精の實より生ずる植物は異株受精の實より生じたる植物に比すれば概じて小にして且弱し加之前者は後者に比すれば實を結ぶこと少し

又彼のサクラサウの如きも有名なる生物學者チャーレス、ダルウイン（Charles Darwin）氏の實驗によれば長雌蕊を有する甲花は長雄蕊の花粉により短雌蕊を有する乙花は短雄蕊の花粉によりて受精せらるゝは正合にして之によりて生ずる種子は肥大にして其數も多けれども之に反して生ぜたる種子は瘠小にして其數も亦少く或は全く生ぜざることありヱゾミソハギの如きも亦長雌蕊は長雄蕊より中雌蕊は中雄蕊より短雌蕊は短雄蕊の花粉によりて受精したるものを正合の交接となすなり

是に依て之を觀れば植物は自家受精の最も不利益にして他花受精の最も有益なることを知るべく花の構造も亦之に應ぜんが爲めに種々の形式を呈することを知るべし今花を受精の方法によりて分類すれば大略次の如し

(1)水媒花　水の力によりて花粉を傳播するもの

例　セキシヤウモ　トリゲモ　イバラモ　キンギヨモ　アジモ

(2)風媒花　風の力によりて花粉を送るもの

例　松柏科　禾本科　莎草科　殼斗科の多數　アサ　カラハナサウ　等

(3)動物媒花　動物の媒介によりて花粉を送るもの

(イ)蝙蝠媒花

例 瓜哇島に産するFreycinetiaは二種の蝙蝠が媒介によりて受精することをクヌート氏によりて發見せらる

(ロ)鳥媒花

例 Brownea(荳科)

媒介をなす鳥類は亞米利加熱帶地方にては蜂雀(Humming birds)亞非利加の南部にてはSun-birds濠州にてはBrack tongued-parrakeets(鸚鵡の類)等なりと云ふ

(ハ)蝸牛媒花

例 ザゼンサウ

(ニ)昆蟲媒花又單に蟲媒花

昆蟲媒花に付きては以下陳述せんと欲する處の主眼なれば今爰よ例を擧げぞ (未完)

正誤 三十九號四〇六頁十一行『あかめがしは』の下の裏面は表面の誤

◎昆蟲世界 (第十二版圖參看)

千葉縣 特別通信委員 林 [illegible]壽祐

太陽や、地球に近けば、溫光は直射し來たり、氣候炎々として熱し、河海の水は蒸氣となり、間斷なく發散し、暖風に伴ひ上際に上れり、忽ち轟く霹靂一聲、蒸氣は冷水に變じ、天上より有勢の速力を以て、漉し墮さる、地上の萬物此廣大無量の天惠に浴すれば、空に一點の曇を殘さぞ、風爽かに遠近の山岳蒼翠として明に、無數の草木は葉となく花となく、瑠璃光を放ち、鳥飛び獸走り魚躍る、天然の光景又美ならずや。猶精細に觀視すれば、花わらひ鳥舞ふの所、或は跳躍し蠢蠕し、或は翻舞し啣吟し、或は飛翔し、其他一上一下一去一來、一動一休、混々雜々、紛々擾々たる一社會あり、其ものは概ね六本の胸脚を有す、これなん言はでも知る、六脚蟲即ち昆蟲類(Insecta)なるを。』

夫れ植物は、温と水とにより生育す、熱帯に高大なる草木あるに、寒帯に近くに随ひ、漸々倭小となるは、是が故なり、動物は亦温と食とにより蕃殖す、彼の氣候温暖に草木繁茂せる熱國には動物多く寒風に曝され草木倭小なる北國には動物少し、殊に昆蟲には身に氷雪を凌ぎ得べき、暖羽温毛なければ、暖温なる間は幾億幾兆となく、活動すれども、冷風凉々として吹き來れば、忽然として息滅し、亦曩日混雜の狀態を殘さず、吾人は如何に苦心するも、到底快濶なる昆蟲を、見る能はざるなり。今や氣候炎熱、生物繁盛の候、馥郁たる花園、翠緑たる草野、鬱蒼たる樹林に出で、複雜なる蟲族社會を觀察し、併せて微妙なる自然(Nature)の法則を、頌せざるを得んや。

宇宙を我ものと、雄飛する蜂、蜻蛉あれば、分厘の穀粒に蟄伏する姑蠰あり、地中を巡ぐる螻姑あれば、水中に泳ぐ田鼈、龍蝨あり、花間に戯れ蜜汁を吸ふの蝶、蛾あれば、樹幹に附着し養液を横取する蟬、蚜虫あり、黄昏出でゝ喧しき蚊、金龜子あり、早朝起きて働勞する蜜蜂あり、飛生蟲、田鼈の如く大なるものあり、姬蜂、蚜虫の如く小なるものあり、蜂、蟻の如く一妻多夫なるものあり、蛾の如く一夫多妻なるものあり、蚜虫の如く胎生するものあり、テルマルの如く他動物に寄生するものあり、木蠹蟲の如く樹幹に寄生するものあり、飛蝗、蟻の如く大群をなすもの、吉丁蟲の如く獨棲するものあり、蟬、蟋蟀の如く好聲美音のもの、蝶、蜻蛉の如くしめ殺さるゝも、一聲を發する能はざるものあり、草芥を食ふもの。果實を食ふものあり、筋肉を食ふもの血液を吸ふものあり、蟻、蜂の如く長生するもの、蜉蝣の如く數時間の生命のものあり、スチロプスの如く終生他類の腹中に生活するものあり、蠶、蜜蜂の如く有益なるもの、浮塵子、螟虫の如く有害なるものあり、ミヅスマシの如

く水面を回旋するもの、蝶の如く美花に戯るゝものあり、糞蠅、馬糞金龜子の如く、臭惡なる糞中に匍匐するものあり、蛅蟖の如く人に嫌はるゝもの、金鐘兒の如く愛賞せらるゝものあり、螽蟖、跳蟲蚤の如く跳躍するもの、蜻蛉、蜉蝣、蟬、虻、蚊の如く飛行するもの、烏蠋、螟蛉、蛆、尺蠖の如く蠢蠕するものあり、其他千態萬様、一々擧ぐるに暇あらず。而して是等多數の蟲族は、穩和にして親睦なるや、安全にして他に害せられざるや、將又孜々汲々として相攻め相鬪ふものなるや。

蟬娟々として唱歌に樂めば、蟷螂無法にも之をつかみ殺し、蝶飄々として艶花に戯れ餘念なければ、蜻蛉不意に之を捕へ去り、烏蠋、尺蠖、蛅蟖、螟虫、浮塵子、强性貪食にして、草木を慘害すれば、黄蜂、胡蜂、地蜂、足長蜂は、之を刺して已れの腹を肥やし、蚜虫非常の速力を以て、繁殖すれば、瓢蟲片隅より之を征討し、木蠹蟲樹幹に巣くひ安全を誇れば、馬尾蜂長き產卵器を挿入れ、之を刺して無理に卵子を預からしめ、尺蠖巧に强敵の眼を瞞着すれば、更に之に寄生するものあり、烏蠋地上に匍匐すれば、蟻大膽にも之に噛付き、蟻小虫を捕へ巣に運ばんとすれば、沙浮子落穴を設け、蟻を陷落し、蜻蛉强顎をひらき、蚊、蚋、蠅、蛾を追蹤すれば、虻側より蜻蛉に組付き之を倒し、虻、蜻蛉を打倒せば、蜻蜓亦虻を捕へ去り、蜂、蟷螂鋭利なる武器を揮ひ、擅に蟲族を蹂躙すれば、各種の鳥類獸類ハ用捨なく、是等の强蟲を啄食せり、浮塵子、椿象、稻の養液を吸ひ取り、之を衰弱せしむれば、蝗蟲、螟蛉は稻の葉を食する能はず、蛅蟖桑葉を侵蝕すれば、蠶は忽ち飢餓に困まん。而して蟲族は唯に同族間の爭鬪に止まらず、鳥類獸類よりは、間斷なく侵畧せられつゝあるなり、然らば多數の蟲類は、同族に於て親睦なる能はず、他族に對して安全なる能はず、何を以て此世界に生息

し、自在に蠢動し、跳躍し、翻舞するを得るや。若し強敵に會せんか、蜂、蟻は利劒を揮ひ、縱横無盡に之を刺し、椿象、紅娘は惡臭を放ち、蜻蛉、蟬、蠅は高く飛行し、飛蝗、蚤は巨脚を以て跳ね去り衣魚、跳蟲は長毛を以て彈き廻はり、水黽ミヅスマシは水中深く潜伏し、蛅蟖は來れかしと毒毛を逆だて、蚟蚭は尻を曲げ、鍬形蟲は鋏を開き、其に敵の首を刎んとし、蟷螂は鎌を擧げ、寄らば敵の強弱を論せず、一擊の下に打殺さんとせり。而して金龜子、叩頭蟲、飛生蟲、菊虎、天牛、吉丁蟲、ガムシ、龍蝨の如きれ、全身に角質の硬皮を被ひ、容易に傷害を受くる事なければ、敵に迫まらるゝも敢て恐怖の觀なし。又是等の甲蟲及び蛅蟖、螟蛉、蠐螬の多くは、敵に遇ふや、忽ち翅足を縮め死狀を呈し、起伏敵の意に任かし、隙をうかゞひ遁逃するものなり之を本性(Instinct)と稱す。

數多の蟲類中には、鋭器なく利具なく、又甲鎧もなきものあり、是等は如何にして、生存競爭場裡に處しつゝあるか、其全く滅亡せざるを、否繁盛なるを見れば、必ず巧妙なる處世の方便あるならん、吾人若し注意して、彼等の習性を觀考すれば、容易に之を見出し得べし、尺蠖ミヅカマキリれ樹の枝の如き體形をなし、竹節蟲は竹切れの狀態を呈し、カリマ蝶れ木の葉に類し、斑虎及數種の蛾は、勇猛なる蜂に紛れる形色を有し、以て强食の難を発れつゝあれり、動物學上之を擬態(Mimicry)と稱す、簑避蟲の如きは塵芥にて巢を造り、常に蟄伏するを以て、一見動物とは思はしめず、爰に又其形体は、他物に類似せざるゝも、體色の四圍の色に擬はすを以て、能く敵の眼をくゞるものあり、彼の蟬は樹皮と同色なるを以て、鳴かざる時は其所在を知る事難し、蝶類は通例美艶なる翅を有すれども、裏面は往々褐色若くは灰色をなすものあり、蝶の性たる、靜止すれば必ず翅を直立するを以て、恰も枯葉の如き觀を呈す(又翅面の一体は微細の鱗を被り離脱し易き故粘液あるものに觸るゝも能く逃れ去る

を得）蝗、螽蟖は草色にして、金琵琶、蟋蟀、蠼螋は土色なり、皆其棲所によるを以てなり、就中蚜蟲、尺蠖、烏蠋、竹節蟲の如きは、甲所に居れば甲の色をなし、乙所に棲めば乙の色を呈し、體色は必ず棲所の色と伴ふを以て頗る便益あり、斯の如く敵の侵害を防禦し、已れの身を安全に護衛する爲め、木皮、塵芥、草莖、枯枝、緑葉に髣髴たる色を有するを、動物學上保護色（Colouration）と稱す。噫美なる哉、佳なる哉、吾人は複雜なる昆蟲社會を觀察し、靈妙なる自然界の秘密を悟了したり、豈亦愉快ならずや。

◎浮塵子に於ける敵蟲の發見

靜岡縣　特別通信委員　岡田忠男

明治三十年以來農家が浮塵子に對する實に囂々たり然るに其自然界に於ける少しも注目せざるは何ぞ余は去る三十一年浮塵子卵の寄生蜂發見に付て已に諸君に報導せり爾來尚は敵蟲に付て調査しつゝありしが昨年農商務省農事試驗場東海支場在勤の伊東技師が敵蟲を發見せしとて報ありしが如何なる昆蟲なるかは未だ實見するの暇あらざれども過般同場在勤の直井技師の來縣を機として曩に伊東技師が發見せし所の益蟲に付て質問せしに全く風船蟲即ちコミヅムシなることを了解するに至れり而して余は此以外に於て尚は敵蟲のあるものならんと始終是れが研究を遂げんとの念一日も止むときなきも如何せん公務多端にして意を果たさゞりしも本年九月二十一日害蟲調査の際縣下磐田郡井通村の稻田に於て浮塵子を食しつゝある處の益蟲を發見せり是に於て余は欣喜措く能はず五、六分間熟視するに此小蟲水上を疾走して實に巧みに浮塵子の幼蟲を捕へ口嘴に挿して血液を吸收し是を殺すと幾頭なるを知らず余は此小蟲も初めて浮塵子の敵蟲なることを知り數頭を採集して持歸れり一度此敵蟲を發見した

る後は通過する所の各地の稲田を探り見れば到る所に棲息し居れりと雖も未だ世人其益害の何たるを知らざるは遺憾の至りなり松村學士嘗て云へり蟲にして益なきものはなく蟲にして害なきものはなしとは實に至當の言なりと云はざる可からず故に此敵蟲も終始浮塵子を害するを以て見れば農家に對する益蟲の一として數ふべきものなり今左に該蟲の形狀及び各部分に付き簡短に列記して同志諸君に報じて參考に供せんとす

此蟲は食蟲椿象科に屬する一小蟲にして（學名は不詳）色黑く腹部の兩側は淡褐色にして全躰に白色の光澤ある毛を密生す雄にありては身長五厘弱雌は五厘五毛强なり觸角は四節よりなり末端の一節は割合に長し口具は管狀にして二節よりなりて前脚を以て幼蟲を捕へ口嘴を挿入して遂に死に至らしむ死したる後は直に他蟲を捕へて又血液を吸收すること固の如し兩複眼は紅色にして二個の黑色の單眼を添ふ胸部は三節よりありて胸背には只僅に三線を有するのみ腹部は九節より成り色黑色にして八、九の二節は淡褐色を呈すれども最後の一節即ち九節は八節の內部に隱れて判然せず前脚ハ他脚に比すれば少しく短く跗節は二節なれども退化したるもの丶如く僅に一節の先端に痕跡を止め其下に二本の爪を有す他の四脚は同大にして跗節は二節轉節ハ二節なり翅は透明にして少しく褐色を帶ぶ一見無翅にして幼蟲の如く見ゆれども解剖すれば透明の翅を見ることを得べし雌の產卵器は褐色にして其先端には粗毛を生じ少しく体外に突出し居れり

◎麥作に被害ある大橫這の一種

三重縣農事試驗場　村田藤七

大橫這の麥作に被害せる事は本縣下に於て余り耳にせざる所なるが本年五月に至り志摩郡布施田村の

麥圃に發生し被害甚しき旨同郡より報告ありしを以て五月十四日同地に出張し其實況を調査したり

一、害蟲の種類名稱及形狀　昆蟲綱、有吻目、浮塵子科に屬する大横這の一種にして成蟲の形狀は普通稱ふる所の大横這に酷似すれども詳かに之を撿するときは多少其形を異にす即雌は体長二分四、五厘にして前翅の開展五分五厘內外あり頭部は殆んど三角形にして頭頂に四個の黑紋を菱形に羅列す複眼は黑褐色にして不正楕圓形をなす單眼は赤褐色にして複眼の內側に位し觸鬚は數多の關節より成り基部二節は大にして第三節以下は末端に向ひて漸次細まり鞭狀をなす前翅は極めて淡き黃色を帶び稍透明なれども後翅は淡白色にして透明なり雄は体長二分二三厘前翅の開展五分內外あり前翅は淡き黃綠色にして其他は雌と大同小異なり

一、被害地　志摩郡布施田村及國府村を最とし其他各村に亘りて多少の發生被害あり而して其被害地たるや凡て山林附近にありて日光空氣の透通不良なる麥圃にして殊に松林附近は其被害最も甚しく麥穗悉く白色に變じ收穫皆無の箇所少からず

一、害蟲の習性經過　未だ飼育を經ざるを以て其習性經過を詳かにせざれども今實地耕作人に就きて調査したる所に依れば每年三月下旬頃より山邊の麥圃に現れ麥の心葉の灣捲せる內面に附着し其養液を吸收して成長し五月上旬頃に至りて成蟲に化し近傍の山林に飛散するものにして從來麥作收穫の後作物に被害ある事を知らずとて甚だ其要領を得ず玆に於て其產卵蟄伏の狀態を探撿し漸く害蟲の多くは松の樹皮中に產卵するものなる事を發見せり卵は楕圓形にして長五厘餘あり淡黃色にして樹皮中に散在せり而して其他の樹皮中に產卵せるものは未だ一塊も之を認めず殊に或箇所の如きは桑園を隔てたる松林に產卵して中間の桑樹に產卵する事なし是れ他の大横這と異なる特点にして松林附近に發生

被害甚しき原因ならんか

一、驅除豫防法　本年にありては既に成蟲期に達し四方に飛散したるの後なりしを以て充分なる驅除方法を施す事能はざりしも今後に於ては害蟲の發生經過に注意し其虚に乘じて共同的大驅除を施行するの見込なり今其方法を記して參考に供せん

(イ)産卵せる松樹は卵の孵化前に於て伐採し若しくは表皮を削りて燒棄する事

(ロ)初發に於て石油乳劑の稀薄液を注射する事

(ハ)豫め山林の周圍及畦畔に麥を播種し置き害蟲を茲に集めて適宜殺滅する事

(ニ)船形受蟲器及類似の代用器に石油を浮べ拂ひ落して殺す事

因に記す志摩郡布施田村に於ては本年被害甚しき箇所に本月(十一月)十日より三日間共同一致して周圍の松樹を悉く伐採し併せて(ハ)法を施す爲伐採跡の山林及畦畔に麥種を播下せり是が成蹟は他日調査して報ずる所あるべし

附記　以上記す所のものは僅々一、二回の調査に依るものなれば松樹以外の樹木に産卵するものたるや否やは今猶疑問に屬すと雖も若し松樹のみに産卵する者とすれば或は一種特別の種類ならんか將又かゝる種類は各地に發生して被害するものなるや暫く記して大方に問ふ

◎第六回全國害蟲驅除講習員の五分間演說

編者曰く本年十一月廿一日より十二月四日迄二週間當研究所に於て第六回全國害蟲驅除講習會開會

の際十一月廿七日午后一時より講習員の五分間演說會を開かれたるに實に有益なる說多々ありしが今玆に數氏の大要を掲載せんとす讀者諸君請ふ之を諒せよ

（一）蟲の休に就て　　京都府　菅沼岩藏

私は丹波の者で世に所謂霧の海とも稱へられる山間の狹き所より當講習會へ參り此席に諸君の前に立て御話をするのは誠に幸榮であり升所で何もお話申す事がない故に一寸思付て蟲の休に就てお話を申さうと思ふ之は農家の年中行事則ち一月一日より十二月三十一日迄の間には慣例として儀式又は祝ひ休と云樣の事が重要の仕事には付てある則ち作り初め木椎初め繩ない初め又は二日灸或は籾種を浸す前には御事始めとて餅を搗て御供へ物をして樂む挿秧初めの祝もあり挿秧を終れば小休大休とて二度迄の休をやる秋の取入れを終れば亥の子と云ふ休がある然るに蟲に就ては如何である夏季に一回氏神に祈禱をして其燈明の火を松明に移し農民打連れて鐘太鼓を以て村外れへ送る位の事をやつて居るのである此休こそ大に改良をして害蟲の習性經過に適する時季を調査し何日は螟蟲休何日は浮塵子休又は天牛休み尺蠖休みと云ふ如く驅除を終て休日を設くる事とし一村擧て害蟲驅除に從事する慣例を拵へたいものと思ふのでございます休を勸めるのは農家を怠惰に誘ふ如き觀があるけれども又休日は利用の方法を設け驅除採取したる蟲や卵の調査又は驅除豫防の談話會又は幻燈會等を行はゞ又有益の事と存じます此事は京都府農事硏究會天田郡部會總會に於て是認してから實行方法の考案中にござります故諸君に於てお氣付の所は御敎示あらん事を希望致します

（二）三化生螟蟲に就て　　高知縣　西山精一

余は今五分間に於て彼の最も恐るべき三化生螟蟲に就て御話致します該蟲は古來福岡縣其他九州地方

を除くの外他の府縣に發生を見ることなかりしも近年交通の便利なる結果として漸次中國四國の一部に傳播せりとの警報は續々耳にしたることあるも吾高知縣の如き交通不便の地方に於て既に該蟲發生の事實を認むるとは眞に夢想せざる處なりし然るに昨年秋季に至り安藝郡より頻々被害の報告ありしを以て實地調査を遂げたるに其被害區域は六ケ村にして實に三千四百二十七石の損耗を受け非常の慘狀を極めたり仍て此旨復命に及び縣知事より直に左の方法を指示して驅除の勵行を命せり

一、乾田の稻株は盡く削採り堆肥となすか或は燒棄すべし

二、水田は五寸以上の深さに各株を蹈込むべし

三、被害の藁は一度堆肥となしたる后に非らざれば田面に撒布すべからず

以上の方法に依り郡役所及郡農會等之が監督を爲し努めて勵行を促したり去れども一般農民にありては全く昆蟲思想の欽如せる爲め種々の迷信を抱き稻の白穗は氣候風波の關係に依るものにて人力の得て防止すべきものに非とし容易に驅除に着手するものなし仍て主任郡書記農會長等と共に日割を定め順次講話會を開き且實地に就き該蟲の株間に蟄伏せる事等説明したりしが事實の證明は到底爭ふこと能はざれば農民始めて迷夢を醒し之より着々實行の運に至りしが縣廳に於ては何一回の驅除に滿足せず更に本年苗代田の時代に於て左の命令を發し普く實行せしめたり

一、苗代田は巾四尺長適宜の長方形と爲すべし

二、晝間は捕蛾、採卵を行ひ夜間は誘蛾燈を点じ蛾を誘殺すべし

以上の如く前后二回の命令に依り非常の効果を奏し本年豊作を見るを得たり

(三)　昆蟲思想を女子に注入するは方今急務なると　三重縣　和田善六郎

總て僻土なる習慣として女子の古法を強守して新事業を冷視し少しも之を遵守せざる男子の意氣柔き

樣思はるゝも實際然らざ自然的習慣を以て然る所以なり本年本郡非常ょ浮塵子の發生甚しく十分驅除方法を强行せしも或る事情即ち婦女子の餘り冷かなるょ驚かされたり之れ即ち吾々は勿論婦女子の害蟲益蟲の何物たるを解せざるょ因るなりと雖も餘り亂雜なるょ驚かざるを得んや即ち農家の主腦なる否原動力なる婦女子ょ昆蟲思想を聊かなりとも注入するは方今の急務ならんと信ぞ一寸所感を述べ五分間の責を塞ぎます

(四) 昆蟲思想普及の早道

兵庫縣 牛尾・丑吉

私は兵庫縣のもので今回御當所ょ參りまして懇篤なる先生の御敎授ょ預り且又諸君よりは各地方の狀況を巨細に承り大ょ利益を得爰に深謝致します

扨私の演題は昆蟲思想普及の早道と云ふとょ付て諸君に希望否私の卑見を吐露し以て諸君の參考に供せんとするのである抑々昆蟲思想普及の法たるや其方法ょ於ては種々ある即ち昆蟲講習會を開設ぞるか或は之を修業せし者を以て昆蟲硏究會を組織するとか或は美術品に昆蟲の經過を入れるとか或は小學校の敎科書に昆蟲の事を入るゝとか或は昆蟲幻燈會を開くとか或は各地方を巡視し講話會を開くとか或は雜誌を發行するとか或は何或は何と一々其方法手段及其利害得失を申しまぞれば五分間位ょては到底云ひ盡すとは出來ないからぞ從來私が考にて最も早道と思て居るもの一二を述べて五分間の責任を発れたいで御坐り升

昆蟲講習會を開くと即ち多數の靑年を集め短期ょして其要領のみを講習せしめ他日我々の手傳をなさしむる樣なすと又私の地方は迷信と云ふとか相も變らず盛なもので有るからぞ先第一に之を打破する法を講せねばならぬ其原因を調ぶるょ主ょ宗敎上より來たつたので有る之れと同時ょ兒童を感化せしむ

る教育者の講習も大に肝要で有ると考ふ

昆蟲幻燈會を開くこと　之れは私は本年實行し見ましたに其結果が甚だ面白ひ即ち我地方に於ては幻燈會をかげゐと稱し老若男女の區別なく面白半分にて來集し何れも熱心に見聞して居ました其結果本年度に於きましては蚜蟲とテントウムシの關係を知得し實行した樣でした故に私はこう考へたのです眼に一丁字のなき農夫及婦女子等に諸種のことを說かんとせば矢張實物教示が最も其効を奏すると慥に認めましたまづ其外に講習會或は幻燈會等に就き申度き事が多々でございますけれども何分時間が來ましたから後日幻燈會に於て話すことに致します

（五）新潟縣害蟲驅除景況を述べ標本交換を望む　新潟縣　茅原治六

「來ひと云ふたとて行かりやうか佐渡へ佐渡は四十五里波の上」と云ふ俗謠がありますが私は新潟縣中其佐渡島に住む所の誠に經驗に乏しき一農夫でありまして何も申上る樣なことも御座りませぬが聊か吾縣下の害蟲驅除の景況を述べて諸君の參考に供せんと思ひます

偖て新潟縣の害蟲驅除豫防規則に定めたる害蟲の種類は螟蟲、浮塵子、蝗蟲、苞蟲、葉捲蟲、（稻）泥負蟲、金龜子、蚜蟲、天牛、桑尺蠖の十種でありまして前六種は稻の害蟲にして後四種は蔬菜果樹等の害虫でありまして是等の害虫の驅除法は色々やりますのですが先づ昆蟲の思想を養成するは必要なることと認めて尤も是等は去三十年大蟲害に大に刺擊せられ結果縣立農事試驗場始め十五郡悉く試驗場に於ては本年害蟲驅除の講習會を開きましたから百五十餘名の講習生を得ましたから今後着實なる驅除が行はるゝことと今から喜で居る次第であります且つ御承知の通り吾が縣は隨分長き國にて各郡とも其の害蟲を異にする樣の觀もありまして害蟲驅除豫防規則外害虫チクヒハムシの如きは北蒲原郡

の一部と佐渡郡の或る所に本年發生しました特に我が佐渡の國は氣候も潮流なぞの工合によりまして各郡と違つて居りまして泥負蟲は年々大ひに發生して特産地と稱しても宜しき程であります植物學者の說を聞きまするに隨分植物の數も多く中には未だ命名せられざるものもある樣子でありまして斯く多數の植物ありますれば隨て昆蟲の數も多いことと考へますから今後は大に調査して置きまするは各府縣とも其土地の異なる所の昆蟲があるのみならず同じ蟲にても形狀大小等比較したらば隨分面白き事實を見出すことが在りますからお互に聯絡を通じ昆蟲の標本を交換し研究の材料を可成餘計に集めたきもので在ります何卒御賛成を願ひます「北と南と交換なして昆蟲標本作りたい」

(六八)　我鳥取縣下に於ける農家昆蟲思想

鳥取縣　福田松太郎

諸君私は鳥取縣の福田松太郎と申す者で御座ります本晩此の席上で五分間演說を爲すことになりましたけれども性來吶辨で御ざいます加ふるに經驗の無きことで有り升から有益なる御話を爲すことは到底難きことと思ひ升が爰に我鳥取縣下農民の昆蟲思想に就きて鳥渡御話致し度き積であります

偖て我が縣下の農民には非常に迷信が深く數年前迄では神官とか僧侶とかに囑托して鐘太鼓を以て俗に曰ふ虫送りを行ふて居りました又祈禱札を受けて蟲害の甚だしき田畑に立つるとか周章狼狽して無益のことにのみ力を盡して毫も豫防とか驅除とか云ふ方面には向はず只ゞ神官或は僧侶の方法を以て無上の良法となし夫れにて得たり然として居りましたが去る明治三十年浮塵子の大害を受けてより鐘太鼓の驅除は殆んど無くなりましたが此の大害が非常に農家に刺擊を與へたる爲め確かに多少の迷夢を打破したに相違ないことと信じて居ります然るに未だ御札の豫防法が處々に行はれて居るのみならず害蟲は天候に依りて左右せらるゝもの故を以て昆蟲發生經過など云ふことに至りては殆んど全く研究する

人はないと云ふても敢て過言に非ざるを信じます豈に慨嘆の至りでは御座いませぬか斯の如き有樣で縣郡の當局者が如何に盡力しても到底完全に驅除法を勵行することは出來ないと思ふのであります依て之を實際に其効力を顯はさんには先づ第一に昆蟲の發生經過を普く農民に知らしむるの必要を感じます就ては予等歸鄕後實地に之れを應用し研究すると同時に廣く輿論を喚起して以て此の方面へ農民を誘導すべき責任義務が有るので御座いますから及ばずながら此方面に盡力致す考へで御座ります申し度とは御座りますけれども餘り長く成り升と制限時間を超過することに成りますから本夕は此れ丈で止めておきます

（七）害蟲驅除に就て

大坂府　今村藤三郎

私は皆さんに利益を與ふる程の話の材料は持ちません尙且つ時間もありませんが吾府下の害蟲驅除の有樣を一寸申上げます事に致します蓋し府下の害虫驅除と云ふ事は誠に幼稚でありて殆んど無頓着でありましたが去る三十年に彼の浮塵子の發生の爲め當時府立農學校内に御當所から名和先生を聘しまして府の大農談會を開きましてから俄かに官民共に大騷ぎを演じましたであります御蔭樣で多少の害は免れた樣でありましたけれ共到頭少なからぬ米をやられました其后は三十年の如く甚しくはありませぬが年々多少の損害を受けて居ります殊に本年の如きは彼の團子橫這等が發生しましたから多少の損害は免れぬとであらうと思ふ所が之れが豫防驅除と云ふ一段になつては種々獎勵をしましてもどうも甘く行れませぬ假令やりましても御祭的若くは言ひ譯けにするに過ぎませぬ是れでどうも其利する所は少しもない樣であります是れは種々の入りくんだ事もありませうが當府下の如きは常に蟲の發生することを「ワク」と云ひて自然の結果致し方ないものと迷信して居りまするのが驅除豫防の充分出來な

い一の原因になつて居る樣に思ひます繰返して申しますと蟲は天から降るとか又は地底からでも「ワク」樣に思ふて人力でどうすることも出來ないと云ふ考へを持つて居るか神佛に依賴すると云ふ傾きがありますこれは先生の御話の通り其習性經過を知らんからしての迷信であらふ今一つは地主と小作人との關係からして一般小作人は是れが豫防驅除に勉ずして其損を地主に「子ダラウ」と云ふ傾向が有ります又地主は「子ダラレ」ては困りますから餘裕のない小作人に注意を致しませぬこれは段々事情もわりませうが恰かも双方睨み合ひと云ふ風である其結果年々少なからぬ損を受けて居りますこれも其習性經過を知らんからであらうと思ひ升依て後來は種々なる方面からして昆蟲思想を吹込み蟲の湧くと云ふ樣なとは出るとかふゑるとか云ふとに改め其害に罹らぬ樣に致したいと思ひます

◎昆蟲短報　（其二）

第三回全國害蟲驅除講習修業生　靜岡縣　神村直三郎

（七）　イボタ蟲

幼蟲は、頭部に四本尾部に三本の肉角あり、故に七本角の稱あり、四眠後に至れば此の角を脫す、全体綠色に黑斑を有す、漸々体色黃を帶ぶるに至れば、食を斷ち、土中に入りて化蛹の安所を求む、七日にして化蛹す、蛹のまゝ越年し、翌年三四月に至りて羽化す、蛹は短大にして紺色を帶ぶ、該幼蟲の葉を食するや、先づ其葉柄を咀嚼し、曲げて然る後に、其半面を食ひ盡し、次に他の半面を食ふ

を常とす、又一枝梢に一蟲先づ在れば、他蟲攀ぢ來るも、決して之れが同居を許さず、頭を左右にふりて、之を打撃し、以て退去せしむ、又其脱皮するや、豫め糸を以て、其脚を樹枝に纏絡し、以て前進して之を脱す、然る後少しく休息して、遂に其舊皮を食ひ盡す、これ蓋し其自己の形跡を暗ますの天性によるものか、烏蠋類には此の類を多く見る、

（八）蔦の尺蠖

三十三年五月六日松樹に纏絡せる、蔦に於て尺蠖の幼蟲數頭を採集す、紫褐色のものあり、緑色のものあり、何れも環節部灰白を呈す、体長一寸二分許あり五月八日より同十三日までに悉く成繭、四、五日にして化蛹し、五月廿七日より同卅一日までに悉く羽化す、蛾は、日本昆虫學揷圖の『メラニッペ』に似たり

（九）桐の葉捲蟲

七月十四日、桐の葉の卷煙草の形に捲かれて、落ちたるもの三個を拾ひ、これを濕土の上に轉がして飼育を試む、七月十八日に至り一は化蛹す、即其葉の中心より、大部分を食し、殘餘は、僅々一周り位となし、其中に自己の糞を以て圍繞したる、繭を營み、此中に於て、化蛹するなり、蛹は普通の葉捲蟲の蛹と同じ、幼蟲は桃シンクヒ蟲の形狀と同じく、色は淡緑にて背線あり、長五分位を普通とす七月下旬に至りて羽化す、柿の葉捲蟲、全くこれと同じきものあり、

◎昆蟲雜語（第二）

千葉縣　長生山人

（五）源氏物語の歌

空蟬『空蟬の身をかへてける、木のもとに、猶人からはなつかしき哉

螢『聲はせで身をのみ焦す螢こそ、いふよりまさる思ひなるらめ

胡蝶『花園の胡蝶をさへや下草に、秋まつ虫はうとく見るらん

鈴虫『心もて草の宿りをいとへども、猶鈴蟲の聲ぞふりさぬ

蜻蛉『ありと見て手にはとられず、見れば又、行くゑは知らず消ゑし蜻蛉

(六) 諺語

一寸の蟲にも五分の魂＝馬鹿と蜂の巣にはかまふものが馬鹿＝蓼喰ふ蟲も己がすき＝自ら火に入る夏の蟲＝飯の上の蠅＝椿象己が身の臭いのを知らず＝千丈の堤も蟻の穴より崩る＝虻蜂とらず。

(七) 蟋蟀の爭鬪

支那にては蟋蟀を鬪はし以て遊び慰むるの風習あり恰も我邦に流行しゐる軍鷄の蹴合に等しきものなり鬪はすには油胡盧(又エンマコホロギといふ)を最も善とす而して篩大の盆中に二頭の雄虫を放す時は忽にして相擊ち相嚙み以て勝敗を決す老幼喜んで觀る而して賭するに數百千圓を以てす故に往々家產を失ふに至るものありといふ賭人は兎に角蟋蟀こそ大なる迷惑なり。

(八) 蟲を捕ふる時の歌

我地方にて兒女等が螢を捕ふる時には『螢の蟲は親孝行蟲だ親をたづねて、來……い來い來い』或は『螢來いこい〱簑笠着て、こ……いこいこい』と謠ひ廻はれり。又蜻蛉を捕ふるときは大きなる聲にて『蜻蛉々々止まれ、己あ。おせあ(捕へるの方言)しなゑぞ』と怒鳴りながら、つかまへるの習あり。

（九）　蟲を捕ふる鳥の習性

燕、捉蠅鳥、「フイシロストリー」等の嘴は廣くして深し常に中空を縱横無盡に翔け廻はれり、かゝる時は絶へず嘴を開き、羽蟲を認るや誤たず之を啄み、嚥服しつゝまた回旋せり、蚊母鳥も亦黄昏飛出で翔けながら微蟲を追躡す、「ヲキスペツケル」は敢て恐怖するなく好んで畜養動物の背に止まり之に寄生する虻蠅等をかき探り以て啄食すといふ、啄木鳥は木蠹蟲の寄生する所を索め嘴にて烈しく打叩き蟲の驚き出づるを待ち刺ある長き舌を以てさし出すものとす。

◎害蟲短片（其八）

昆虫生

（十四）　マルガメムシ桑葉を害す

マルガメムシは荳科植物を害する所の害虫なることは誰も知る所なり而して余此頃縣下を旅行して最も驚くべきは此蟲の桑樹に寄生せしことなり其狀は桑葉の裏面に群集して盛かんに養液を吸するを以て遂に桑葉を萎縮せしめて落葉の期未だ至らざるに早くも落葉するに至る若し此虫にして桑葉正に開綻せんとするの候寄生したらんには遂に育蠶の用に供すること能はざるに至るものなれば余は耕作人を訪ひ目下の驅除法を敎へて立ち去れり思ふに其桑葉に寄生したるは桑園の周圍に荳科植物を栽培しありしも既に收穫を了りたるを以て其植物は枯死せしに依り桑葉に移轉したるものならんと實に昆蟲も飢渴の爲めには如何なる植物にも移轉するものなることは明瞭なる事實なり

（十五）　ヒゲナガサヽキリ稻穗を喰害す

右の事實に依り考ふれば敢て不信を抱くにはあらざるも余の從來の實見によれば此虫は多く山野に生

ずるスヽキ、チガヤ等の植物を害する者也と思ひしに豈に計らんや山野を開墾したる結果余が旅行中某郡に於て此害蟲非常に稻田に侵入して初めは稻葉に長楕圓形の穴を穿ち出穗の際には嫩かなる穗を嚙みて白穗と成るを發見せり是れが爲め農家は大に困難し居れり余は圓形捕虫器の簡便にして使用し易きを敎へ是れを以て驅除せしめしに一回として此捕蟲器に入るもの殆んど一合内外の多きに達せり是れ前章を證明せんが爲め聊か茲に掲ぐる所以なり

(十六) オホツマグロヨコバヘ桑葉に被害す

去る九月二十一日害蟲調査の命を負び縣下引佐郡奥山村風越峠(西にある峠なり)を過ぐ時に細雨蕭々として暮色蒼然たり水害後にして途惡しく歩一歩に急なり有志と勇を鼓して上る老杉古松の森林間桑園ありて能く繁茂する桑葉の裏面に白色異樣のあるを發見し取りて是れを見れば是れ即ちオホツマグロヨコバヘ脱皮なり依て近傍の桑葉を見れば表上に黄色を帶びて正に枯れんとするの斑点あり其裏面を伺へば是れなん此浮塵子の被害にて裏面に數頭の附着するを發見して採集せり余は從來唯一頭の標本を所有せしに今數頭を得て喜び措く能はざ知らず〳〵嶮坂を越ゆ同郡三ケ日と謂へる所に宿泊す此行オホツマグロヨコバヘの桑葉を害せしを實驗せり故に此ヨコバヘも桑葉の害蟲として數ふべきなり

◎隨感隨記 (五)

山口縣　特別通信委員　小田勢助

(十四) 命令

近來害蟲驅除の命令々々と頻りに强制的驅除法流行せらるれども命令は皮下注射の如し一歩を過れば

其の害再び救ふ可らず

（十五） 三化螟蟲

怖るべき三化螟蟲は彌々玖珂郡に浸入せり隣縣幸に警戒せられよ

（十六） 浮塵子の黴菌

山口縣農事試驗場にては此頃浮塵子の黴菌を發見せられたりとやらにて防長新聞にて世に發表せられたり凡て害蟲を斃す黴菌も多くして特に稻青蟲の如きも此れが爲に斃れたるは常に見る所なれども此れを一般驅除法に用ひらるゝは事甚だ容易ならざるべし

（十七） 有益鳥か有害鳥か

今頃より冬期に懸け桑園等を見回せば其の枝端に種々の昆蟲の旱物を見るべし此れ彼の鵙の冬期積雪中の料食なり然れども能く是れを調査せば有益蟲有害蟲相半するを見る將して有益鳥か有害鳥か

（十八） 鶺鴒の嘴

燕の口大なるは飛翔の時昆蟲捕食の爲なりとは昆蟲翁の御說なれども鶺鴒の嘴長きは稻株中の害蟲を捕食するに適す

（十九） 大日本昆蟲學會

近來昆蟲名稱一定の說漸く嵩まれり余は望む全國害虫驅除講習生諸氏よ大日本昆虫學會を組織し大に奮勵一番しては如何

◎捕蟲餘記（一）

豐前國企救郡城野村 矢野宗幹

其一 企救郡採集蝶類目錄

予が今迄採集せし蝶類僅々四十七種此予學暇居村の近傍のみにて採集し得たる種なり尚他に數多の種あるや必せり其は採集の際後記せんとす、名稱皆宮島氏の日本產蝶類圖說に依れり、

鳳蝶科 アゲハ、キアゲハ、クロアゲハ、ヤマジヨウロフ、モンキアゲハ、カラスアゲハ、クロタイマイ、

粉蝶科 モンシロテフ、ツマキテフ、キテフ、ツマグロキテフ、オツチンテフ、

蛺蝶科 ルリタテハ、ヒメアカタテハ、アカタテハ、ヒオドシテフ、ツマグロヒヨウモン、メスグロヒヨウモン、ウラギンスヂヒヨウモン、クモガタヒヨウモン、ウラギンヒヨウモン、オホウラギンヒヨウモン、コムラサキ、イチモンヂ、コミスヂテフ、ゴマダラ、

蛇目蝶科 キマダラテフ、ジヤノメテフ、ヒメウラナミジヤノメテフ、コジヤノメテフ、ヒカゲテフ

小灰蝶科 シモフリシヾミ、ウラギンシヾミ、ウラナミシヾミ、ツバメシヾミ、ヤマトシヾミ、ベニシヾミ、ムラサキシヾミ、コツバメ、ルリシヾミ、

挵蝶科 ダイメヤウセヽリ、ミヤマチヤバ子セヽリ、ホソバ子セヽリ、コチヤバ子セヽリ、キマダラセヽリ、オホチヤバ子セヽリ、名稱不明一種、

其二 ハナセヽリ

讀者は知らるゝなるべし理學士宮島幹之助氏昨年一月よりの動物學雜誌に日本產蝶類圖說を連載せられ大に吾人昆蟲採集者を便せられしを、然るに余は其名稱に就きて一言せざるを得ざるなり挵蝶科にParnara pellucida（異名、Pamphila pellucida）なる種あり宮島氏は此にオホチヤバ子セヽリなる和名を命せられたり然るに此種は吾人が普通にハナセヽリと稱するの種なり、ハナセヽリなる名稱の何時何

人によりて命ぜられたるかは予無學之を知らずと云へども最も普通に用られ居るものなり試みに座右の書籍を引き出し見しに實に左記の數書にハナセヽリなる名稱あり

發行年月	著者	書名	頁數
十四年四月	練木喜三	第二回内國勸業博覽會害蟲圖解說	二十一
十八年四月	農商務省	莅虫圖解	
二十四年十一月	小野孫三郎	害蟲要說	四〇
三十一年十月	松村松年	日本昆蟲學	一三七
三十二年八月	佐々木忠次郎	日本農作物害蟲篇	
三十二年八月	松村松年	日本害蟲篇	二〇一

其他の雜誌にも又此名稱のみなり斯くも廣く普通に用ひらるゝ名稱を捨てゝ新名稱を命ず宮島氏は如何なる理由の存するが爲めに斯くなされたるか、尙イチモジセヽリにイチモンヂチャバチセヽリの名あり、予れは切に宮島氏に望む、ハナセヽリの名を存してオホチャバチセヽリの名を捨てられん事を

其三　ゴマダラ

ゴマダラとは如何なる昆蟲か、蛺蝶科のHestina Japonicaなり（動物學雜誌第十一卷二四四ページ宮島氏蝶類圖說）ゴマダラテフとは如何燈蛾科のSpilarctia Imparilisなり（松村氏日本害蟲篇二十九ページ）何れもゴマダラなり只テフなる名詞の附きて區別せらる、然るに其テフの附きだるは蛾の方にて蝶の方は何もなし間違易き和名あるかな、如何にかしたきものあり、

其四　褐色浮塵子とは如何なる浮塵子ぞ

褐色浮塵子とは如何ある種か、佐々木博士のトビイロウンカ或はトビウンカ松村學士のカバイロヨコバイなり白蠟蟲科に屬す故に普通浮塵子を浮塵子科白蠟蟲科と云はずして綠色浮塵子類褐色浮塵子類

と云ふなり、然るに予は此頃滋賀縣農事試驗場發行の害蟲試驗成蹟報告第二報を見たり、(第一報は見たる事なければ云はず) 圖の第三圖ょ褐色横這あり圖ょより見れば浮塵子科の種なり、決して白蠟蟲科とは思はれぞ同名異種も又甚しきものなり斯くては甚だしき間違を生せん異科のものなれば例ひ浮塵子と云へ其習性を異にすれば甚だ不便なる事も多からん如何ょかなし得ざるものにや、

◎安八郡昆蟲研究會臨時總會概況報告

岐阜縣安八郡　昆蟲研究會

十一月廿三日新嘗祭日をトし安八郡昆蟲研究會臨時總會を大垣町緣覺寺に開く來會者無慮百餘名頗る盛會なりし午前九時半一同席定まるや小幡郡長會頭席に附き開會の挨拶をなし續いて左の議事を了す

一、本會々員募集の方法　安八郡内部落敎育及村農會と聯絡を通じ從て同會員を本會に勸誘し入會せしむること

一、本會維持の方法　有志者の寄附金及會費を以て充つること

一、部落會を設くる方法　安八郡内を五部落とし部落敎育會主動者となり組織すること

一、來年度第一回全國昆蟲展覽會(岐阜市名和昆蟲研究所開催に係る)出品につき郡費補助を請ふの議右は滿堂一致を以て可決し建議をなすこと

右よて時已に正午過ぎたれば會員一同午餐を饗し午後一時半再び開會左の演說ありたり

第一席　昆蟲寫生圖につきて　大垣興文高等小學校長　近藤乙吉君

第二席　昆蟲採集に付き教育者の注意　　大垣町久瀨川尋常小學校長　加藤二三君

第三席　昆蟲雜話　　名和　靖君

第四席　農業談より昆蟲談に及ぶ　　大垣中學校教諭　農學士　井倉辛喜知君

因に本會は本郡教育會及郡農會と聯絡を通じ小學兒童をして實地採集をなさしめ或は各部落を巡回し昆蟲講話及昆蟲幻燈會を開き或は採集せし害蟲標本、益蟲標本、分類標本、教育用標本、有効蟲標本等を本會事務所に陳列し衆人の縱覽に供し以て一般理科思想を富ましめ害蟲の驅除すべき所以益蟲の保護すべき所以を知らしめ直接間接に本郡教育及農業の改良發達を圖るに努力すと云ふ

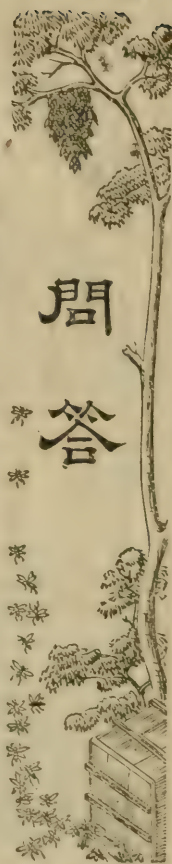
◎昆蟲に關する葉書通信（九）

（四十六）稻の浮塵子に就て、（靜岡縣、鈴木伊平）當地には本年非常に浮塵子發生して再三之を驅除したれども大に損害を被り本濱名郡内には三、四ヶ町村の各區に去る三十年に讓らざる大害を被りたるものあり其浮塵子の種類は大略ツマグロヨコバイ、イナヅマヨコバイ、ヒゲマルヨコバイ、トビイロヨコバイ等多し、又本年は稻刈採期例年に比して非常に早し其原因は近隣の田にて稻刈取れば浮塵子群をなし又隣田に移りて害をなす事甚し刈取后二、三日を經過せば殆んど霜害を被りたる如く枯稿するに至る故に之の刈取の際稻田に水あれば石油を注ぎて刈取れば驅除し得べけれども此節は水少なく又水ありと雖も之を實行するもの甚だ少し依て農家は本年の如きは早く刈り取るに利ありと云ひて平年より十餘日も早刈をなしたり（十一月四日）

（四十七）稻作減收、（靜岡縣神村直三郎）中遠本年の蟲害はさして甚だしからざる樣思ひ居りしに實に油斷は大敵にして九月頃より例のツマグロ横這及褐色横這ヒメトビ等まで勢を逞しくして田面を食荒し大に稻作の減收を見るに至ることは獨り中遠のみならず濱松附近の如きは一層甚しく大略三割の減收ならんと云ふ

（四十八）鋸蜂蕓薹の苗を害す、（靜岡縣神村直三郎）二毛作地の唯一の作物たる蕓薹は其作付頗る多く春色正に濃かなるの候に至れば黄金世界を現出して富國の基をなせるものあり隨て其苗をそゞつる

ことゝ各自一畝以上ゝ至る去る十一月初旬より鋸蜂の幼蟲クロナムシこれに生じ其苗塲の苗は悉く網狀ゝ害せらるされど當地方ゝは煙草の「クヅ」數多あるを以て銘々これを煎じ其冷ゐたるを如露にて毎朝苗畑に注ぐかくすること數回ためゝ害蟲跡を絶ち其苗の生育大によろし

問答

◎蟬の卵塊幷にテマリバイに付質問

長野縣下伊那郡市田村　本島太藏

余は此頃森林保護として所有林を巡回せしゝ偶躑躅の新梢を見るや別途甲袋中の如き恰も鋸の齒にて打ち附けたる如き跡連鎖狀をなし少なきは十多きは十五、六の鋸齒狀ありたれば之を直に開き見るゝ此一齒中に蛆五、六乃至十頭以上宛潜伏し居れり之が該蟲の學名及習性經過幷に驅除豫防法等詳細御敎示を請ふ

又余一日秋期休日を得偶天龍河の沿岸なる新田ゝ土地の整理として愛友吉川清市郎君と巡回せしに一畦畔あり之に柳一株繁茂せり頃は秋期なれば柳は既に散し乙袋の如き球形のものゝみ數十個恰も果物の成りたる如く所々ゝ散在せり裂きて其心中を見るゝ丁度米粒の如き白色或は茶褐色の蛆潜伏するを見たり之が蛆の習性經過幷に驅除豫防法等併せて詳細御敎示被下度此段奉願候也

答　　　蟲の家山人

甲袋中のものを見るに全く蟬の産卵せし跡にして白色蛆狀のものとあれど右は蛆ゝあらずして卵子な

りとす長さ六厘幅一厘許あり之れ何種の蟬の卵塊なるや明かならざれども蟬類の卵子よれ相違なし又乙袋中のものはテマリバイと稱するもの丶爲めに斯く球形狀を爲すものなり之は四、五月頃に至り羽化して出で柳の新梢に產卵し孵化して刺擊を與ふるに依り斯く萎縮して球狀とはなれり目下は蛆なるも早きは蛹化し居るものあり之を驅除するには冬季其球狀物を取り去れば易々たるべし

◎蚜蟲驅除に付質問

美濃國土岐郡泉村　山村亮平

前略各種の樹木に發生して大害を加ふる所の俗にコゴメと稱するものに付種々研究せしも未た良法を見ず實に困却し居候依て甚だ御手數ながら其驅除法御敎授に預り度奉願上候也

答　名和昆蟲研究所助手　名和梅吉

總て蚜蟲の發生する時は直に繁殖して樹木の全面を覆ふは常に目擊する所なり實に該蟲の驅除は隨分至難なりと云ふべし是迄の驅除豫防法としては木灰、石灰を散布し或ハ石鹼水其他一、二の藥液等を注射せしを以て一時は多少其効を奏するとあるも全く驅除し能はざるなり然るに目下有効と見止むるものは石油乳劑なりとす其製法は洗濯石鹼百八拾匁を細末となし二升五合の湯にて溶解せしめ后未だ湯の冷却せざる内に五升の石油を入れて能く攪拌するあり然る時は一種の糊狀をなす此者を施用する際に四、五拾倍の水を加へて用ゆるなり尚又鯨油乳劑も有効なり

雜報

◎田中芳男先生の會長承諾　明年四月十六日より一ヶ月間當所主催となりて岐阜市に開設せる第一回全國昆蟲展覧會の會長は未だ定り居らざりしょ今回貴族院議員田中芳男先生は同會の名譽會長を承諾ありしは斯學の爲め大に慶賀の至りなりとす

◎諸氏の來所　（十一月十日）富山縣中新川郡西加積村藤井文三郎、藤井宗平兩氏、（十三日）岐阜縣八幡高等小學校長花村弘氏、（十四日）愛知縣海東郡白高村吉川清七、同郡勝幡村太田清右衛門、同津島町平野開五郎、同野田豐次郎の四氏、（十五日）岐阜縣本巣郡文殊村長戸田水豚三郎氏、（十八日）同縣吉城郡金桶尋常小學校六木梅之助氏、（廿日）愛媛縣農會副會長重見番五郎氏、（廿五日）岐阜縣山縣郡高富尋常小學校信田辨助氏、同郡掛尋常小學校松久他造氏外二名、同郡大桑尋常小學校山下隆喜致氏、本巣郡合渡小學校水谷房氏、同縣本巣郡文殊尋常小學校高橋繼治郎氏、（廿八日）佐賀縣屬小寺丕志氏、（廿九日）岐阜縣山縣北山南小學校長市岡鋌三氏、同縣師範學校生梅田倉藏氏、（卅日）岐阜中學校長高木亥三郎氏案内にて石川縣第一中學校長久田督氏、同日岩手縣和賀郡農事巡回教師星良造氏は四日迄（十二月五日）愛媛縣北宇和郡愛治村高田岩太郎氏其他縣下の有志者八十餘名何れも來所の上昆蟲標本を參觀せられたり

◎學校生徒の來所　十一月十二日千葉縣農學校教諭宮崎義香氏同校生徒三十四名、十九日岐阜縣惠那郡加子母第三尋常高等小學校長曾我三吾氏同校生徒十五名、廿五日同縣農學校生徒松浦良爾氏外十一名は來所の上昆蟲標本養蟲室等參觀したり中にも千葉縣農學校生徒よは當所助手名和梅吉氏特よ昆蟲學上の談話を岐阜縣農會樓上よ於てせられたりと云ふ

◎第廿四回岐阜昆蟲學會　同會第廿四回月並會は例の如く十二月一日（第一土曜日）午后第一時開會せられ會する者無慮八拾餘名殊に今回は第六回全國害蟲驅除講習會開設中なれば講習員何れ

も出席せられたり今其概畧を記せば第一席名和昆蟲研究所長開會の挨拶を爲し、第二席谷好之氏は昆蟲と幻燈會に就て、第三席講習員高知縣西山精一氏は害蟲驅除と講習會に就て、第四席東松源市氏は昆蟲學思想普及に就て、第五席講習員和歌山縣巽正良氏は昆蟲と統計に就て縷述せらる、第六席講習員新潟縣茅原治六氏は昆蟲と政治と題し害蟲驅除と地方行政の關係を論じ、第七席岐阜中學校教諭長野菊次郎氏は前會の續きを演説さる可き筈の處都合上今回は偶發説と題し歐米諸國に於て學術の未開の時代盛に此説行はれし際ニードハム、ブラッホン兩氏の説より説き起し反對者スパランツアニ氏其他パストール氏アッペル氏等の間に於ける議論沿革を述べ引て我國今日の情態を陳述せらる（此にて休憩）第八席講習員大分縣藤澤節太郎氏は害蟲驅除に就て、同奈良縣海老瀬周一氏は優美と柔弱粗剛と健康に就て、第九席同岩手縣猫塚四郎氏は講習員の覺悟を説き、第十席岩手縣和賀郡農事巡回教師星良藏氏は同縣下の害蟲驅除を演説せらる其他數氏の演題提出されたるも時間なかりし爲閉會せしは遺憾に思われたり時に暮鐘五時を報じ一同退散せりと云ふ

◎昆蟲水曜會　同會第十一回（十一月十四日）より第十四回（十二月五日）に至る四水曜日は例の如く所員一同昆蟲の談話會ありたりしが其概况を記せば吉田悦三氏は犬糞を食するチヂミマルクソムシに就て、名和愛吉氏は蟷螂の貪食に就て、長屋六二氏は蟲蝨の寄生蟲に就て名和正氏はヨムギの根に寄生する蚜蟲に就て、棚橋昇氏は黑ヒラタアブの蛹に寄生する寄生蜂新種に就て、福井克雄氏はヒメアカタテハの產卵に就て、名和梅吉氏は分類學に就て彈尾類の區別及蚜虫の翅脉の名稱其他種々有益なる談話ありたりと云ふ

◎第六會全國害蟲驅除講習會の景况　同講習會は閉會式を去る十一月廿一日午前九時名和昆蟲研究所に於て擧行す來賓には岐阜縣農學校長重松達一郎氏岐阜縣屬大野勇氏にして名和講師は開會の辭を述べ、終て大野縣屬は祝詞として一場の演説次に講習員總代として武内護文氏答辭を述べて式を畢り爾後引き續き昆蟲學大意、害蟲驅除法、益蟲保護法、標本製作法其他昆蟲全般の教授ありしが同月廿七日先例に依り講習員五分間演説を爲せしに各自熱心に害蟲驅除の失敗談或は害蟲の經過等思ひ〳〵に演説せられ越て十二月三日は自ら製作せし幻燈種板を以て昆蟲幻燈會を其教室に於て開催せり何れも害蟲驅除及昆蟲學普及策に關する好適の映畵を描出し中には抱腹すべき物ありしも其説明に至りては流暢として眞に地方の農民に感動警醒せしむるに足る可き談話なりき續て四日は規定の

會期結了したれば同日午前九時修業證書授與式を岐阜縣農會樓上に擧行したり來賓は川路岐阜縣知事柿元第四課長三好官房書記春日、大野兩縣會議員大野縣屬桑原縣農會理事等の諸氏にして一同着席するや名和所長は開會の挨拶を爲し次で三府廿二縣五十一名の修業者に一々證書を授與し夫より名和講師は訓誨的演説川路知事の祝詞としての演説あり又山形縣農事試驗場技手吉田簝氏及講習員にして中途歸省せられし宮城縣和賀平市郎氏の祝電を名和氏代讀終て講習員總代辻信吉氏答辭を朗讀す閉會せしは同十一時なりき夫より來賓幷に修業生諸氏は名和昆蟲研究所より立食の饗應ありて何れも歡を歇して散會せしと云ふ

◎講習中諸氏の昆蟲講話　第六回全國害蟲驅除講習會開設中十一月廿七日山梨縣の蠶業專門家八田達也氏は蠶業に就て即ち蠶も往古は一の害蟲にして植物に害を蒙らしめたるに相違なきも一朝之に人工を加へ飼育せし結果今日に至りては國家の消長に關する一大有益蟲と化せし事を述べ昔時と今日の人智發達如何を鑑み孜々研究すれば現今害蟲と認めつゝあるも今后此の蠶に優る昆蟲を發明するやも知る可からずされば諸氏益々研究せらるべしと説き又近時蠶業上一大發明たる人工越冬及び富士風穴と蠶種貯藏法とを説明せらる又三河國老農岡田虎二郎氏は意志の鍛錬に付人世諸般の事業を説き昆蟲學に及ぼされたり又同日午后七時岐阜中學校教諭長野菊次郎氏はアセチリン瓦斯洋燈に就ての説明幷に點火を試み他日昆蟲學上に應用すれば有益ならんとて一場の講話ありたり

◎第六回全國害蟲驅除修業生姓名　同修業生住所姓名略歷等は左の如し

組別	府縣名	郡市名	町村名	族籍	舍長又ハ組長	姓名	生年月	歷履摘要
第一組	岐阜縣	惠那郡	付知町	平民		熊谷伊八	明治十四年七月	高等小學卒業
	岐阜縣	惠那郡	串原村	平民		三宅幸三	明治十四年六月	高等小學卒業農事講習所修業害蟲驅除員
	愛媛縣	溫泉郡	興居島村	平民	組長	田村晴太郎	明治九年三月	農事講習會修業
	兵庫縣	神崎郡	田原村	平民		牛尾丑吉	明治十年一月	神崎郡農事試驗場技手

第二組	三重縣	志摩郡	磯部村	平民		作田条之丞	明治八年二月	高等小學卒業、陸軍步兵二等軍曹短期農事講習修得
	三重縣	志摩郡	加茂村	平民		野村耕治	明治八年十二月	高等小學卒業、農事講習所卒業
	三重縣	志摩郡	加茂村	平民		上村李太郎	明治十一年五月	高等小學卒業、三重縣高等養蠶傳習所第一期修得
	三重縣	志摩郡	濱島村	平民	組長	和田善六郎	明治七年七月	高等小學卒業
第三組	三重縣	一志郡	中原村	平民		豊島佐次右衛門	明治十一年十二月	高等小學卒業、農事講習會卒業
	三重縣	一志郡	中原村	平民		島岡英夫	明治十三年三月	高等小學卒業、農事講習所卒業
	新潟縣	佐渡郡	金澤村	平民		茅原治六	明治三年七月	新潟縣農學校卒業、札幌農學校農藝傳習科卒業、佐渡郡農事試驗場技手
	愛知縣	西加茂郡	本城村	平民	組長	福井花重	明治五年九月	小學中等科第三級卒業 農事講習會修得
第四組	和歌山縣	海草郡	宮前村	士族	組長	巽正良	明治七年三月	東京顯微鏡學講習所卒業 和歌山縣海草郡書記
	鳥取縣	岩美郡	登儀村	平民		福田松太郎	明治十三年四月	鳥取縣簡易農學校卒業
	大分縣	大分郡	竹中村	平民		小野覺太郎	明治八年二月	小學校中等科修業、農事講習會修了
	大分縣	直入郡	城原村	平民		森末太郎	明治八年九月	高等小學卒業、農事講習會修業
第五組	三重縣	志摩郡	長岡村	平民	組長	中村平吉	明治五年十月	農事講習會卒業
	長野縣	諏訪郡	富士見村	平民		細川幸重	明治五年五月	高等小學卒業 高等小學專任學務委員
	山口縣	玖珂郡	横山村	平民		白木平吉	明治十六年八月	山口縣農學校修業、錦見數學學校在學中、村試驗田技手
	高知縣	土佐郡	小高坂村	士族	副舍長	武内護文	明治元年二月	高知縣中學初等科二年後期修業
第六組	福井縣	大野郡	平泉寺村	平民	組長	武内鉄也	明治八年十二月	東京日本中學三學年修業、福井縣農學校別科修了、平泉寺村農會長
	福井縣	大野郡	平泉寺村	平民		山内九兵衛	明治十一年五月	高等小學卒業、福井縣農學校別科修了、平泉寺村農會副會長
	和歌山縣	那賀郡	上名手村	平民		西岡直三郎	明治十二年七月	和歌山縣中學校三年級修業、全縣蠶業講習會甲種課程卒業
	宮城縣	志田郡	敷玉村	平民		和賀平市郎	明治五年四月	東京振農會修業、蠶糸業組合頭取稚蠶飼育場擔任教師

組	府縣	郡市	町村區	族籍	役	氏名	生年月	經歷
第七組	靜岡縣	濱名郡	白脇村	平民		金原左右作	明治九年五月	高等小學校卒業、帝國嬌農俱樂部事務員勤務
	三重縣	度會郡	西二見村	平民	舍長	辻信吉	慶應二年四月	農事講習會修得
	三重縣	度會郡	西二見村	平民	組長	出口安太郎	明治五年九月	養栽學校中等小學科第二級修了 西二見村農會代表者
	大分縣	大分郡	大分町	士族		猪野範欣	明治二年四月	高知縣農學校及西ケ原蠶業試驗場卒業、大分縣大分郡農會巡回教師
第八組	兵庫縣	津名郡	生穗村	平民		平林紋次	明治九年五月	村役場書記村農會幹事
	和歌山縣	伊都郡	花園村	平民	組長	中上直吉	明治七年二月	公立新子小學校初等科卒業 花園村長
	岡山縣	御津郡	加茂村	平民		片山文太	明治九年十一月	岡山縣師範學校卒業 高等小學校勤務
	長野縣	西筑摩郡	山口村	平民		園原彰	慶應三年八月	小學高等科卒業 村役場書記 農業に從事
第九組	福井縣	坂井郡	本莊村	平民		藤田儁	明治八年十二月	高等小學卒業、福井縣簡易農學校卒業、高山養蠶傳習所第二第三期卒業
	大坂府	豐能郡	萱野村	平民		今村藤三郎	明治四年二月	大坂府立農學校卒業、大坂府農會三島郡農事巡回教師
	東京府	東京市	深川區	平民		佐藤逸郎	明治六年四月	高等小學卒業
	高知縣	高知郡	北奉公人町	平民	組長	西山精一	明治元年十一月	高知縣臨時實業科講習所卒業 高知縣屬
第拾組	京都府	天田郡	曾我井村	平民	組長	菅沼岩藏	明治七年十二月	農事講習所第一第二期修得 天田郡書記
	大分縣	北海部郡	小佐井村	平民		藤澤節太郎	明治五年十一月	大坂府立農學校卒業 高等小學校教員勤務
	三重縣	多氣郡	五ケ谷村	平民		山下和六	明治九年七月	三重縣農事講習所第二期修業
	神奈川縣	中郡	岡崎村	平民		井上福松	明治二年四月	小學中等科卒業稻作傳習所卒業
第拾壹組	島根縣	八束郡	持田村	平民	組長	三代作次郎	明治三年十一月	島根縣農事講習所卒業
	京都府	與謝郡	府中村	平民		小松寅藏	明治十一年二月	與謝郡立中等養蠶傳習所卒業
	山梨縣	甲府市	稻門村	平民		中澤樂平	明治十一年一月	京都府蠶業講習所卒業 山梨縣技手兼屬
	鳥取縣	八頭郡	曳田村	平民		田村虎藏	明治六年二月	村役場書記 鳥取縣農學校分教場傍聽生
	[illegible]	[illegible]	[illegible]	平民		海…周一	明治十…年一月	京都府農學校卒業

第拾貳組

鳥取縣	東伯郡	福米村	平民		武本豐治	明治十四年四月	鳥取縣農業學校卒業 同校助手勤務
岩手縣	和賀郡	小山田村	平民		菊地明八	明治八年十二月	高等小學校卒業 村役場書記
岩手縣	和賀郡	笹間村	士族		猫塚四郎	明治六年七月	農事講習所卒業 郡農會幹事
岩手縣	和賀郡	澤內村	平民		佐々木寬五郎	明治十二年十月	農事講習所修業 農友會農事試驗委員
德島縣	那賀郡	立江村	平民	組長	增崎龍吉	明治元年八月	農事講習所修了
岩手縣	西磐井郡	日形村	平民		小野寺正	明治四年二月	農事講習所卒業

因に記す定員は四拾名の所補欠員として拾數名を採りしに八名の欠員ありしを以て今回は四拾五名を以て定とせり然るに種々間違等にて遠路來られし方六名ありたれば都合五拾壹名となれり

◎中央醫學會の昆蟲談　十一月十一日名古屋市醫學校內に於て中央醫學會を開設せらる同會長の請求によりて當所長名和靖氏は出席の上昆蟲と衛生との關係と云ふ題にて特に蚊とマラリアの關係のことを實物標本幷に寫生圖を示して講話せられ尚參考の爲め左の如き印刷物を來會者に頒布されたりと云ふ

◎蚊に就て

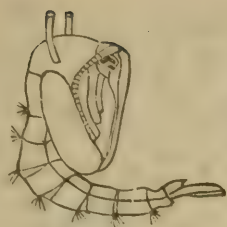
近來醫學社會に於て麻剌里亞病を發せしむる媒介者は一種の蚊なりと呼唱せらるゝに至れり是迄醫學社會にては病理的の硏究は充分に行き屆きたる樣なれども昆蟲即ち蚊の性質、發生の摸樣等は比較的其研究不充分なるが如し斯の如き有樣なるを以て麻剌里亞を媒介せしむるものは Anopheles 屬の蚊のみの樣なれども之を研究調査したらんには或は他の Culex 屬の蚊も又關係を有するやも計り難し故に先づ第一に蚊の種類を調査し其分布、性質、發生の摸樣等を研究するは目下の急務なるを信ず米國の昆蟲學者ハワード氏は北米合衆國に於て是迄でに知られたるもの二十餘種あることを報告されたり我邦に於ては未だ充分なる調査は出來居らざれども本所に於て蒐集したる種類は十有餘種あり是等は全く岐阜市近傍にて採集せしものなり之を以て見れば本邦に產する蚊屬は隨分尠なからざるの觀あり右蒐集せし內には Anopheles 屬のものありて餘程研究上趣味あるものなり玆に奇なるは本邦に於て最も普通なる蚊の學名は外國に產する所の Culex pipiens, Linn. と同一種となし來りしに全く然らずして先

年米國に於てコクイレット氏は新種なりとて Culex pallens, n. sp. なる新稱を附せられたるなり抑も凡ての昆蟲が種を異にすれば從つて性質を異にする如く蚊なるものも其種を異にすれば又性質を異にするや明かなる所なり故に各種に就き一々調査せざる可からず本所にては是まで多少其性質、發生の摸様等に付き調査せしものありと雖も未だ充分ならず去れば今左に最も普通にして衛生上大關係を有する蚊に就て發生の概畧を記して參考に供す

第一圖　蚊の卵塊

第二圖　幼蟲即ちボウフリ

第三圖　蛹

第四圖　蚊の口器
（イ）は上顎
（ロ）は下顎
（ハ）は舌
（ニ）は下唇
（ホ）は下顎鬚

蚊は冬季成蟲の儘押入或は屋根裏等の暗所の温暖なる場所を撰び捿息し居りて四、五月頃の暖氣を得て潜伏所を出で溜水或は溝水等に來りて産卵を卵子は一塊を爲し凡そ二、三百粒あり水面に浮ぶ狀恰も筏の如くして第一圖に示すが如き有様を爲す此者氣候の寒暖に依り孚化に遲速はあれど大抵三十時間乃至五、六十時間内には孚化して第二圖の如く俗に謂ふ孑孑とはなるなり而して孑孑となりたるものは水中に生ずる不潔物を食して生活し凡そ二、三週間を經て充分成熟して遂には第三圖に示すが如き蛹に變ぜるなり此者又四、五日或は一週間を經て全く成蟲即ち蚊とは成るなり故に蚊の一生代に費す時日は凡そ三、四週間なりとす

蚊は斯の如くして年に幾回となく變化し來りて其數を增し夜間吾人を襲ふて血液を吸收して苦痛を與ふるものなり然るに茲に最も面白き事ありそは他にあらず一般に蚊なるものは皆吾人を刺すものと思ひの外只吾人を刺擊するものゝ雌蟲のみにして雄蟲は決して刺さゞるなり故に普通室內にて捕獲するものは皆雌蟲なりとす雄蟲は常に戸外にありて植物の液汁或は他の粘液物を吸收して生活し居り夕景

に至り戸外に於て喧聲囂々として上下左右に飛揚する際に接尾するものとす然し雌蟲と雖も只吾人或は家畜の血液のみにて生活するにあらずして又植物の液汁等を吸收して能く生活するものなり蚊の口器は第四圖に示すが如き有樣にて雌雄其構造を異にせり茲に示すものは即ち雌蟲の口器なり而して雌雄に依り觸角非常に相違し雌蟲の方は糸狀なるも雄蟲の方は非常に長き毛を叢生し總狀を爲せり故に一見能く雌雄を區別し得べし今此蚊を驅除するには衛生上至大の關係あるを以て後日を俟て記載することゝなす、

賞狀の寫

> 賞狀
>
> 岐阜縣安八郡大垣興文高等小學校
> 第四學年　日比半彌氏
>
> 割印
>
> 課題　蝶　きあげは　著色毛筆畫
>
> 一等賞
>
> 右第一回懸賞昆蟲寫生畫優等ニ依リ別紙目錄ノ通リ之ヲ贈與ス
>
> 明治卅三年十一月三日
>
> 名和昆蟲研究所長名和靖　印

◎懸賞昆蟲寫生圖の結果　前號の本誌に一寸記したる第一回懸賞昆蟲寫生圖審查の結果を茲に詳記せんとす

一等賞

岐阜縣安八郡大垣興文高等小學校第四學年　日比半彌
（キアゲハ著色毛筆畫）

和歌山縣有田郡八幡村　廣田重郎
（アゲハノテフ著色毛筆畫）

二等賞

岐阜縣安八郡大垣興文高等小學校第三學年　北島庄九郎
（アゲハノテフ著色毛筆畫）

岐阜縣本巣郡北方高等小學校第四學年　吉田順一
（アゲハノテフ著色毛筆畫）

三重縣第四中學校第三學年　北川傳右衛門
（イチモジテフ著色毛筆畫）

和歌山縣第一中學校　久保田修吉
（アゲハノテフ著色毛筆畫）

三等賞

岐阜縣本巣郡北方高等小學校第四學年
（アゲハノテフ著色毛筆畫）吉田秀
愛知縣渥美郡杉山高等小學校第四學年
（アサギマダラ鉛筆畫）阪口伊一郎
愛知縣寶飯郡形原高等小學校第四學年
（アサギマダラ鉛筆畫）市川德市

和歌山縣第一中學校
（アゲハノテフ著色毛筆畫）辻野龜太郎
福島縣師範學校
（キアゲハ著色毛筆畫）梠原起
愛知縣渥美郡豊岡尋常小學校
（アゲハノテフ鉛筆畫）宮林菊次

◎鱗蟲に就き桑名氏の來信　本邦産介殼蟲を採集して去る九月渡米されたる桑名伊之吉氏は其研究の結果サンノゼー鱗蟲の發生地を本邦の略圖を製して一目瞭然たらしめたる者を送附され今回サンノゼー鱗蟲に就き名和氏の元へ來信ありたれば左に其全文を掲ぐることとなしぬ

（前略）去る夏採集せし介殼蟲研究の處段々珍らしき種（Species）有之候新種も餘程ある樣に樂み居候尚サンノゼー鱗蟲の報告はよふ〳〵數日前出來上り申候につき校長の處へ差出置き候何れ近々の内出版可致と存候標本中九州にて得し分も貴縣下杭瀨村にて採集せし分も東京にて得し分も横濱植木屋の或る植物に附着せしのも悉皆サンノゼー鱗（San Jose scale）に相違無之候尚又東北地方にては仙臺、盛岡、青森、弘前及び北海道にて擒にせし分も同斷にて候右御報知申上候然し本邦が原産地なるやの問題に就ては余は一言も申さず候せめて一年位の研究を遂げざれば之を確めむる能はずと存候云々

◎第八回全國農事會決議案中の昆蟲　十一月十日より五日間東京赤阪區溜池町大日本農會々堂に於て第八回全國農事會を開き其際昆蟲に關するの決議は左の如し

一　農作物有害蟲及有益蟲調査會設置の儀を農商務省に請願の件（可決）（次の二件を合併して）
　一國費を以て昆蟲試驗場を四國に設置せられんことを政府へ建議の件
　一害蟲驅除豫防に關する試驗場增置の儀を其筋へ建議の件
二　害蟲驅除殺虫液販賣取締を其筋へ建議すること（可決）
三　名和昆蟲研究所に來年度より相當國庫補助金を支給せられたき件を中央農事會の問題として提出すること（可決）

○害蟲圖解出版廣告

●第一桑樹害蟲エダシヤクトリ（枝尺蠖）（三版）
●第二桑樹害蟲トゲシヤクトリ（刺尺蠖）（再版）
●第三稻の害蟲イネノズイムシ（二化生螟蟲）
●第四煙草害蟲タバコノアオムシ（煙草螟蛉）
●第五稻の害蟲イチモンジセヽリ（苞蟲）
●第六桑樹害蟲ヒメゾウムシ（姫象鼻蟲）
●第七桑樹害蟲シンムシ（心蟲）
●第八稻の害蟲イネノアオムシ（螟蛉）
●印は既版の分

●第九茶の害蟲ミノムシ（避債蟲）
●第十蔬菜害蟲エンドノキリムシ（夜盗蟲）
●第十一桑樹害蟲クハカミキリ（天牛）
●第十二稻の害蟲ツマグロヨコバイ（浮塵子）
（）桑樹害蟲イトヒキハマキムシ
（）茶の害蟲チヤケムシ（茶毛蟲）
（）桑樹害蟲キンケムシ（金毛蟲）
（）稻の害蟲イナゴ（螽蟖）
（）稻の害蟲フタホシズイムシ（三化生螟蟲）
（）桑樹害蟲アカハマキムシ（青葉卷蟲）
（）桑樹害蟲クハノハマキ（桑葉卷蟲）
（）蔬菜害蟲モンシロテフ（菜の螟蛉）
（）松樹害蟲マツケムシ（松毛蟲）
（）梅樹害蟲ウメケムシ（梅毛蟲）
（）梨の害蟲ナシゾウムシ（梨象鼻蟲）
（）大豆害蟲ヒメコガ子（金龜子）
○印下は逐次出版の分

◉圖解の紙幅　縦一尺三寸横九寸
◉壹枚の代價　拾五錢郵稅貳錢
◉百枚以上一纏代價　壹枚拾錢郵稅百枚に付き貳拾錢

●豫約代價

壹枚拾錢郵稅貳錢
但申込の際前金添附の事
凡て前金にあらざれば回送せず但郵券代用
圖解代金　一割增の事

右害蟲圖解第一より第十二迄は既に發行を成し江湖の高評を博したりと雖も未だ當業者全般に普及せざるの憾なしとせず抑本圖解は鮮明なる着色石版圖にして被害植物の實際より害蟲の性質經過等一目瞭然に描寫し加ふるに平易なる解說を附したるを以て普通農家に於ても尤も理解し易く尤も必需のものたり故を以て岐阜縣に於ては既に之れを採用し各町村農會及小學校は勿論町村役場警察署等へも頒布せしに一般に害蟲の經過習性等を解得し害蟲驅除上著大の効を奏したりと云ふ依而當所は此際奮勵一番更に重要作物の重なる害蟲を撰擇し逐次出版せんとす而して該出版物に對しては特に豫約と爲し前掲の如く價を低減し大に當業者に普及し實用に適應せしめんとす豫約希望者は速に御申込みあれ又既に出版濟みの分は各町村役場又は町村農會小學校其他の團体に於て御取纒め一手購求せらるゝ時は大に便利なりと云ふ幸に愛顧を垂れ陸續御注文あらん事を

發行所

岐阜縣岐阜市京町

名和昆蟲研究所

◎質問者に告ぐ

○質問は事實の正確記事の精細なるは勿論贅言を省き簡明なるを要す尤も現品を添ふる事○質問は一紙に一件を限り必ず每紙記名あるべし○紙上には故ありて匿名を用ふるも本所へは住所氏名を明に通知あるべし○右に違ふ者は棄却すべし○本所は成るべく質問者に滿足を與ふることを勉むべしと雖も質問に答ふると否又其遲速等は總て本所の適宜とす

(注意)此頃中質問書に他の要件を併記せらるゝ方あり右は甚だ紛わしく整理上不便に付爾今右樣の事なき樣充分御注意ありたし

明治三十三年十二月　岐阜市京町　名和昆蟲研究所

風穴秋蠶種廣告

風穴秋蠶の飼育易く繭質善良にして春蠶に異ならざるは江湖當業家諸君の夙に首肯せらるゝ處なり本縣該蠶種の特産地にして殊に本館之れが精撰に力め既に全國に顧客を有せり今回大ひに規摸を擴張し精撰蠶種を製造せり本館幸ひ富士山麓にある精進天然風穴を有すれば貯藏の完全なる蓋し其比なからん希は多少共御注文あらん事を

山梨縣東八代郡石和村

明治三十三年　**八達館**

一本館製造蠶種ノ種類ハ青熟中巣トス

一代價ハ框製壹蛾貳錢五厘普通製壹枚金壹圓五拾錢多數ハ割引ヲナス
御注文ノ節ハ豫約金ノ拂込ヲ乞
蠶種ハ代金全額到達ノ上發送ス

一風穴秋蠶ノ話(冊子)要望ニ任セ送呈ス

關西唯一農事機關 新農報 定時刊行 毎月一回

○新農報は不偏不黨の旨義を遵守し漸次我邦農家の改良進歩を企圖し專ら農家の福利幸運を增進せしめんことを期す論說は趣意明晰にして行文流暢恰も盤上玉を轉ずるが如し一讀能く其意を解し易し○寄書は內外農業家諸氏の最も嶄新にして精確なる卓說を網羅す殊に歐米最近の農況を紹介するは本欄の獨得とする所也右の他雜錄、雜報、紀行、問答、樂園等皆有益なる記事を登載す○定價一部郵稅共五錢六冊半ヶ年分廿五錢

發行所 大坂西區川北西野 大坂硫曹會社 **新農報社**

日本唯一 警醒雜誌

◉每月一回發行◉一冊郵稅共前金八錢五厘半年分前金四拾九錢◉一年分前金九拾六錢◉全國無遞送料第四十六號明治三十三年十一月十五日發行

▲警醒雜誌の本領、及主義。道德の眞想を發し政治の蘊奥を開き實業の振興を圖り風俗の改良を論じ衞生の普及を說き。敎育の精神を講じ。宗敎の玄旨を明にし學藝の實義を談ず而して公明不偏、取る所、唯正義あり、之に從ふ者は、友として俱に携ふべく之に反する者は、敵として直に打つべし、故に、何人の內閣も何人の政黨も、何等の學派も何等の宗敎も、我が眼中に於ては、差等あるなし、其地位は、飽迄獨立にして、其議論は些の拘束なし。故に各地方に在る、愛國の志士、又、有爲の青年者等は、請ふ須く余事を節儉して本誌を讀むべし。

發行所 大分縣日出町 **警醒雜誌社**

◎蚊の標本蒐集に付廣告

近來醫學社會に於て麻刺里亞病は一種の蚊が媒介して發病せしむるものなりとて一般に認唱するに至れり其重なる關係種はAnopheles屬（ハマダラカの類）のものゝ如くなれども未だ一定せざるが如し元來蚊なるものは只麻刺里亞病と關係あるのみならず衛生上至大の關係を有するものなれば之が研究調査を爲すことは最も必要なりとす本所此處に見るあり廣く蚊の種類と分布とを第一に調査せんとす右に付讀者諸君に希望をるは當時蚊は減少せりと雖も尙ほ能く採集し得らるゝを以て此際採集の上酒精漬或は單に紙に包みたる儘にても宜敷故可成的多くの種類を採集して御郵送の勞を取られんことを斯學の爲め切望する所なり何れ調査の結果は昆蟲世界誌上に掲載すべければ讀者諸君請ふ本所の微衷を入れらるれば幸甚

明治三十三年十一月　岐阜市京町

名和昆蟲研究所

第一回全國昆蟲展覽會

右は當昆蟲研究所主催となりて來る三十四年四月十六日より三十日間當所に於て第一回全國昆蟲展覽會を開設する筈なれば廣く出品あらんことを希望す但詳細なる規則書は昆蟲世界第卅一號の雜報欄内に掲載しあるを以て附て見らるべし

明治三十三年七月

名和昆蟲研究所

◎昆蟲標本發賣廣告

農作物害蟲標本　壹組（桐箱入解說付金四圓五拾錢）
同　益虫標本　壹組（桐箱入解說付金參圓五拾錢）
教育用昆蟲標本　壹組（桐箱入解說付金四圓五拾錢）
自然陶汰標本　壹組（桐箱入解說付金五圓五拾錢）
雌雄陶汰標本　壹組（桐箱入解說付金五圓五拾錢）
氣候變形標本　壹組（桐箱入解說付金四圓）

壹組の荷造費貳拾錢郵稅百里迄廿錢百里外四拾錢

當昆蟲研究所は專ら昆蟲の研究標本の調製に從事せんが爲め豫て諸般の設備に汲々たりしが今や準備も畧ぼ其緒に就き廣く江湖に向て本所を紹介するの運に至りたるを以て更に規摸を擴張し前記の標本並に學術的裝飾的に屬する昆蟲標本の調製を應諾せんとす特に害蟲驅除豫防法に依り各府縣に於て定められたる害蟲類を始め各種學校に適當なる昆蟲標本は本研究所が多年獨得の技倆に依りて之が調製を爲し多少に拘らず貴需に應ずるのみか其調製の如きも掛額柱懸等御希望に依り種々美術的に調製を爲し以て昆蟲思想の發達を圖り公益に資する所あらんとす本所長名和靖は曾て第三回内國勸業博覽會に於て出陳の昆蟲標本に對し有効一等賞を得其第四回に於ては進歩一等賞を得たり標本の精美と調製の緻密なるは世自ら定論あり今復茲に之を謂ふの要なし幸に愛顧を垂れ陸續御注文の榮を賜へ

發賣所　岐阜市京町

名和昆蟲研究所

明治三十三年十二月十五日發行

昆蟲世界

每月一回十五日發行

第四卷第四十號

◎昆蟲世界第參拾九號目次

●第廿五回 岐阜昆蟲學會豫告

第二十五回岐阜昆蟲學會月次會は明年一月五日（第一土曜日）午后第一時より例の如く岐阜市京町岐阜縣農會樓上に於て開設する筈なれば萬障御繰合の上御出席を請ふ最も當月は學會組織の滿二ヶ年にして且つ重要の件をも御相談申上度候也

明治三十三年十二月　名和昆蟲研究所內

岐阜昆蟲學會

（明治三十年九月十日內務省許可）
（明治三十[illegible]年[illegible]月[illegible]日第三種郵便物認可）

イ　ロ　ハ　ニ　ホ　ヘ　ト　チ　リ　ヌ　ル

市街界　案內道　研究所　縣廳　病院　中學校　監獄　郵便局　西別院　公園　長良川　金華山　停車場

●名和昆蟲研究所案內

當研究所の位置は上圖の如くにして停車場より僅十餘町なり當所には常設の昆蟲標本陳列室あり新設の養蟲室もあれば有志の諸君續々來訪あれ

岐阜縣岐阜市京町

名和昆蟲研究所

●本誌定價並廣告料

壹部郵稅共金拾錢（見本は五厘郵券貳拾枚にて呈す）

十部郵稅共金九拾錢

（注意）本誌は總て前金に非れば發送せず◉爲替拂渡局は岐阜郵便電信局◉郵券代用は五厘切手にて壹割增とす

廣告料五號活字廿一字詰一行に付き金拾錢三十一行以上一行に付き金八錢とす

明治三十三年十二月十五日印刷並發行

岐阜縣岐阜市今泉九百三番戶ノ二（岐阜縣岐阜市京町）

發行所　名和昆蟲研究所

岐阜縣岐阜市今泉九百三番戶ノ二
發行者　名和靖

同縣山縣郡岩野田村大字粟野百廿二番戶
編輯者　桑原貫之助

岐阜縣安八郡大垣町大字郭百五十三番戶
印刷者　河田貞城

（大垣西濃印刷株式會社印刷）